東は保安面および上西面、北は下西面に各相隣接し、西は海上一五粁の全羅南道甕光郡蝟島面中の蝟島を望み、南は茫浦の江灣を隔てて高敞郡に各相對す。東境には倚上峠（五〇九米）及び鷹峠（三五四米）聳え、中央には登仙峠（四四六米）屹立し域内山地を成し、低地は南部及び西北部の海岸地帶に僅かに之を見る。農産物は米・大麥・大豆・雑穀・苧麻等にして水産物は石首魚を第一とし鯛・鰕・鳥賊・貝類等あり。交通はその位置中央より偏在し、加ふるに山地帶を成すため道路改修成らざるのみならず、途中坂路多く交通不便なり。海岸は遠淺且つ潮汐干満の差大なるを以て、船の出入に不便なり。面事務所を西北海岸の知止浦に置く。

【山内面】 朝鮮全羅北道井邑郡の東南端。北は山外面、西は七寶面、東は任實郡、南は淳昌郡に相隣接す。東北境に盤方山（三四二米）、西境に國師峰（六五五米）、東南境に同文山（七七五米）聳え、周圍は東の一方を除くほか山を繞らし、眞に山内の地形を成す。東境に蟾津江流れ面の東北境に於て堰止められ、此處に東洋第一の稱ある東津水利組合貯水池をつくり、また秋嶺川域内を灌漑してのち蟾津江に合流す。産物には米・大麥・大豆・煙草・緒等あり其他菜草・麻布等を産す。位置僻在せるを以て道路改修行はれず車を通ずるもの少なく交通運輸不便なり。聚落は多く秋嶺川に沿ひて發達し其主なるものに、菱橋里・梅竹里・長錦里・宗聖里等ありて、面事務所を菱橋里に置く。

【山内面】 朝鮮全羅北道南原郡の東南隅。北は東面、西は雲峰面及び朱川面、東は慶尙南道咸陽郡の馬川面、南は全羅南道求禮郡山洞面・慶尙南道山清郡花岡面に相隣接す。小白山脈中に位置する爲に甍る高峻なる山岳地帶を成し、北境には三峰山（一一八七米）・德頭山（一一五九米）聳立し、西境には環峰（一三〇四米）・萬福臺（一四三七米）・南境には般若峰（一七五一米）等聳立し、域内山岳重疊す。而して中央部を南江の支流瀧川北流し其渓谷に僅かに耕地の發達を見る。産物は麥を第一とし大豆・煙草・木炭等あり。土地僻遠に位置し加ふるに山岳重疊する爲に道路の改修未だ行はれず車を通ずるものなく交通不便なり。聚落は渓谷に沿ひて發達し、上流より德洞里・伴仙里・立石里・大井里・中黃里・白日里等ありて面事務所を白日里に置く。

サンナミ　三波村

石川縣能登國鳳至郡の東南部。能登半島の東岸。東北は字出津町に、西北は神野村に、西は鵜川村に界し、東南は日本海に面す。風至山地の東端部を占め、高度百米豪の臺地にして山林原野廣きも、所々に低地ありて田畑また拓け米・粟の農産あり。沿海漁業行はれ水産多し。臨道海岸に沿ひて通じ東北に字出津町、西南は鵜川方面にバスの便あり。古くは史實の徵すべきものなし。近世は鳳至郡諸橋郷に屬す。

サンナン　三南

【三南面】 朝鮮咸鏡南道三水郡の東南端。北は樟水面に、西は館興面に、東は甲山郡山南面、南は同郡會麟面及び豐山郡熊耳面に各相隣接す。四面山地を以て圍繞し餘勢域内に及び南半部は高岳峻嶺重疊し北方に向つて低夷するも、尚北部の中央に華蓋峯（一五九四米）屹立し域内殆ど僅に耕地を見ず、ただ伸坪川の流域に僅に耕地ありて聚落の發達を見る。而して伸坪川の面外に出づる附近には、稍廣き平地を形成し此處に伸坪場の發達を見る。此地は往時僅かに馬房二戸あるに過ぎざりしが位置上の優秀性は北青・洪原・平壌地方よりの移民を招來し、商業を營むもの漸次殖加し、明治四十五年三月郡廳を此地に移し、現在郡内第一の繁華の地となる。ここに警察署・地方法院支廳・郵便局・普林署・金融組合・種苗園・小學校等あり。

【三南面】 朝鮮慶尙南道蔚山郡の西南端。東は青良面及び凡西面、北は彦陽面、西は北は上北面、西南は梁山郡下北面、東南は熊村面に各相隣接す。小白山脈の東斜面に位置し、東境に文珠山（六〇〇米）、西境に神佛山（一二〇九米）等屹立し西部及び東部は山地帶を成せども、中央部は太和江北流し稍廣大なる低地開け、地味肥沃にて種殖の便よく重要な農業地區を形成す。産物には米・大麥・大豆・粟・煙草・茶・麻等あり、また蜂蜜・明鈴を産す。南方梁山より來る二等道路は面の西部、舊中南面の略中央を縱貫して北方の彦陽に達す。東部は道路劣比較的害なるも等外路線にして改修遑まず、車を通ずるものなく交通便ならず。聚落は多く盆地周縁に分布し面事務所を新華里に置く。本面はもと三同及び中南の兩面なりしを、最近合併して置きしもの。

サンナン　山南面

朝鮮咸鏡南道甲山郡の西南端。東は長平面及び豐山郡里仁面、北は會麟面及び三水郡三南面、西及び南は豐山郡熊耳面に各相隣接す。南境には大德山（一三六八米）・喜色峯（一七〇二米）等聳立し、域内千米内外の高峻なる山岳重疊し、鴨綠江の支流虛川江は西南方より來りて域内に入り、面の東部を東北流し南部の熊耳江その他の何れも東流し來る幾多の支谷を併せて、のち長平面に入り北流す。之等河岸に僅かに耕地及び聚落の發達を見る。住民は質朴にて、農に從事し傍ら狩獵を爲す者あり。産物には燕麥・粟・蕎麥・玉蜀黍・馬鈴薯等の寒地性農産物に著しき特色を見る。南方豐山より來る二等道路は域内を横斷して甲山に達し更に惠山鎭に及び、甲山との間に乘合自動車の便あり。また三等道路は途中輸坂多きのみならず、面境に峠の横たはるを以て交通便ならず。

サンニ　山二面

朝鮮全羅南道海南郡の北部。北西方に突出せる宇島及び屬島の錦湖島・東金嶼島・獐島・竹島等より成り、東は馬山面に連なり、北は水道を距てて靈巖郡三湖面に、西は花源面に、南は門内面及び黃山面に各相對す。東方に聳ゆる金剛山（四八一米）・英梅山（三〇五米）等の山麓の西北方に展け、土地沈降の結果半島狀を成せるものにして一般に丘陵性半島を成し沿岸に至るも平地を見ず。海岸は一般に遠淺にして良泊に乏し。農産物は大麥・甘藷・棉花・大豆等にして、海産物は海苔・鰮等なり、道路は未だ改修を見ず、半島輪に沿ひて等外路線の僅に通ずるに過ぎず。面邑草松里は面の略中央に在り。

サンネン　三年

【三年坂】 東京芝高輪にある坂。ここにて轉倒すれば三年以内に死ぬと傳へしよりかくいふ。

【三年坂】 京都東山區の清水坂中程より北に降りて祇園方面に向ふ坂路。今は産寧坂ともいふ。産寧は清水寺の境内にある子安觀音に因むか。

【三年橋】 和歌山市新町江西寺門前の橋をいふ。俚傳にこの橋の上にて轉倒すれば三年間に頓死すと。

サンノー　山王

【山王村】 茨城縣常陸國北相馬郡の北部。取手町の北約三粁、北は小貝川を距てて筑波郡三島村に相對す。全村土地低平、神社屋よりなり田畑よく發達し米・麥・小麥）を主産す。なほ製材工場ありて木材を出す。取手町に至る街道は西部を南北に通じバスの便あり。大字岡の延命寺に古代の副葬品たる土偶三・土馬一あり、寺昔の山中より掘出せしものなりと。大字配松は驛津の轉訛にて、延喜式於賦驛のありし處ならんと云ふも詳ならず。村名は村社山王神社より出づ。（金仙寺）邪士宗。佛鳥山花豪院と號し、結城郡豊岡弘經寺末なり。創建年代不詳。開山は高蓮社尊譽貫光上人なり。

【山王村】 富山縣越中國西礪波郡の北部。福岡町の南に隣り、東は立野・小勢・醍醐の三村に境す。本村は礪波平野の西北部に當り土地平坦、小矢部川の支流また東部・西部を北流し、灌漑の便よく地味豊沃にて水田よく發達し、米作を主とす。國道北陸道は北境に近くほぼ東西に走りまた北陸本線の福岡驛（福岡町）に近く、この福岡町に至る街道、中部を南北に通じバスの便あり。此地古くは和名抄、礪波郡三野郷の内に屬せしも、其後の沿革は今詳かならず。

【山王峠】 鹽原温泉の北西方約一四粁、帝釋山脈中にある峠。栃木縣鹽谷郡三依村と福島縣南會津郡荒海村とが結ぶ境界上に跨る。最高點九〇六米。栃木縣今市町方面より福島縣田島町方面に至る日光街道に當る。峠の南方路に當る三依村字上三依より鹽原温泉に至る道路分岐す。峠上に山王神社鎭座す、故にこの名あり。慶長年間上杉景勝この地に要害を極へ、溪流を堰止め高所に石塁を設くと云ふ。

【山王峠】 日光火山彙の一峯山王帽子山（二〇七三米）の西方鞍部にある峠。海抜一七三〇米、栃木縣上都賀郡日光町に屬す。南降すれば戰場ヶ原を經て中禪寺湖畔に通じ、北降すれば鬼怒川畔の川俣温泉附近に至る。

サンノーボーシ　山王帽子山

日光火山彙の一峯。栃木縣上都賀郡日光町と鹽谷郡栗山村との境界に屹つ。標高二〇七三米。南西方三岳（一九四五米）との中間鞍部を山王峠（一七三〇米）と云ふ。登山は南方なる戰場ヶ原より登高するか、東方に峠つ太郎山より縱走するものあり。

サンノサワ　三ノ澤・三澤

【三ノ澤】 樺太大泊郡千歳村の大字。樺太廳鐵道東海岸線の三ノ澤驛（明治四十年設置）を置く。

【三ノ澤岳・三澤岳】 木曾駒ヶ岳山彙の一峯。實劍岳の南西方に延びし一支脈の最高點を指す。長野縣西筑摩郡大桑村と上松町の境界に位し、標高二八四七米。山容豪壯怪異なり。西方斜面は小川駒ヶ岳御料林をなし、これより一水發源し西流して木曾川に合し、また南方斜面は須原伊奈川御料林をなし、これより木曾川支流伊那川源流して南西流す。

サンノヘ　三戸

【三戸郡】 青森縣八郡の一。縣の東部、所謂南部地方の南部に位し、北に上北郡西に秋田縣鹿角郡に接し、南は岩手縣九戸郡・二戸郡に連り、東に太平洋に面す。北部は上北郡より連る一帶の臺地にて、その間に五戸川・淺水川東流す。東部は奥羽山脈の山岳地にして一〇〇—五〇〇米の山地をなし、東南部には北上山脈の北端現はれ、一帶の高原狀をなし、その間を新井田川侵蝕し、馬淵川は北上山地・奥羽山脈及び三本木原野の接觸地を流れて太平洋に注ぐ。馬淵川以北の海岸は砂濱海岸にして平坦なれども、鮫崎以南は岩礁多し。馬淵川沿岸には第三紀層所々に現はれ、八戸市附近には珍岩あり。八戸市南部には石灰岩を産す。縣境附近は第三紀層を火成岩が貫くのみなら ず珍岩等の發達もあり。東北本線は郡の中央南北に縱貫し尻内驛以南は馬淵川に沿ふ。陸羽街道も南北に縱貫し臺地間は鐵道と離るも三戸町附近にて鐵道と接近し岩手縣に入る。尻内驛より東部海岸久慈に到る八戸線を分つ。一般に臺地及び河川沿岸は交通便なれど山地間は不便なり。馬淵川流域は水田より畑作にすぐれ、馬淵川流域の蔬菜・果樹を植め、三本木原・北上山脈北部の臺地邊には麥・粟・稗・馬鈴薯の栽培盛なり。なほ養蠶も行はれ、本縣の核心地域をなす。臺地一帶の牧草地に牧場廣く分布し、上北郡より引續く牧場

地帶をなし紀牛また行はる。北上山地及び奥羽山脈の麓は本邦の產地として名高く、東京方面に送らるる類頗る大なり。また沿岸一帶は農漁帶にして鰹・鮪・柔魚・アワビ・カニ・ホッキ貝等の產多く、八戸港は漁港として名高し。工業は八戸市を中心として行はれ、セメントを初め鑛滓・鰯〆粕・乾魚等の水產製造物を主とす。本郡設置の期は詳ならず。延喜式・和名抄共に之を載せず寛知集に始めて郡名見ゆ。古の糠部郡の一部にして盛岡南部氏發祥の地。鎌倉時代文治五年源頼朝が奥州の藤原泰衡を征するや、南部光行從つて功あり。頼朝賞するに糠部の地を以てす。建久二年光行下りて平良崎に柔き子孫相承けこの地方を治む。吉野時代光行の六男を政本井六郎實長と云ひ、その四代の孫師行北畠顯家に從ひ陸奥に下り、其國代として糠部・閉伊の政道を委ぜられしを以て本村に根城を築きて此地方を治め後世八戸を以て氏とし江戸時代に及ぶ。その盛なりし時は其範有する所は本國・中州五郡・奥羽甘美郡・鹿角郡・津軽郡・糠部郡等に及べり。明治二年版籍奉還あり所に藩知事を任命さるるや八戸藩主となり明治四年九月弘前縣に合併、次いで縣廳の東津軽郡の青森に移さるや青森縣の管轄となる。

【三戸町】 青森縣陸奥國三戸郡の南部。北は向村に、東南は留崎村に、西は斗川村に各隣接す。山野相半するも四周山を繞らし狹隘の地をなす。熊野川の清流町の南部を貫き東部にて馬淵川に分流す。熊野・馬淵の兩河川に沿うて僅かに水田開け他は畑・原野・山林等なり。陸羽街道は北に南北に通じ、南は盛岡市方面より北は五戸町に通じ、市街はこの道路に沿うて延ぶ。主生業は商業・農業にして、養蠶行はれ繭・生糸の產多く、また漆液の產出も少からず。馬・豚・兎等も主產物にて、南部煎餅・苹果を特產す。毎月三回八の日を以て開かるる市日の如きは人出多くして商勢盛んなり。從つて市内各種の商業者軒を並べ、また警察署・專賣支局・養蠶取締所等各種の機關ばり舊に地方部落の中心地なり。三戸町は今より略ど四百年前に創開せられたる古き歴史を有し、往昔南部藩祖先の光行が鎌倉將軍源頼朝に從つて東征の功あり、糠部五郡に封ぜられ、始めて糠部に移りたるは七百有餘年前、即ち建久三年十二月なるを以て、三戸町創開以前には古町の篤ヶ崎に居城し、のち正法寺館に移り、次いで今の三戸に移る。三戸城は天然の要害頗る固く藩礎益々強く爾來百有餘年間三戸町は南部藩の城下として庶般整備し市街また甚だ賑かなりき。尚してのち藩を盛岡に移して以來、維新に到るまで代官所を置き、同方面の各村落を統轄せしより、明治維新以後一時三戸縣を置きしが同三年舊會津藩士移住し更に斗南藩支廳を置き同四年青森縣管轄となる。麻來戸口が年を逐うて增加し殖產及び教育ともに發達し、同二十二年町村制施行に際し、町制を布きて三戸町と稱するに至る。町名はアイヌ語の川の落合の意より起り、或はアイヌを防ぐために置かれし三の木戸より起るともいふ。古來名馬の產にて著はれ、宇治川に先陣を爭ひし佐々木高綱の生嘶、熊谷直實の大天黑、其子小次郎の西欅等の駿馬ここより出す。大宇梅内に鎭座する郷社三戸大神宮は天照皇大神を祀り、例祭十月一日。〔關根の松〕 大宇川守田宇關根にあり。その高さ丈餘、長さ九間に跨り四方に擴がる枝の形は恰も臥せし龍を見るが如し。數百年の年代を經たるも、其の梨色を變へることなし。

【三戸岳】 名久井岳(青森縣)の別名。

【三戸】 東北本線の一驛(明治二十四年設置)。青森縣三戸郡向村大向にあり。

サンノミヤ　三ノ宮

【三ノ宮村】 京都府丹波國船井郡の西北部。東南方園部町と西北方福知山市との略中間にあり、兩地へは各約一七粁を隔つ。北は下和知村、東は質美村、南は檜山村及び梅田村に續き、西は天田郡川合村に昇す。丹波高原の中部に位し東北端にある三峠山(六六八米)を最高とし、四周の山地は緩く中央に傾斜し、由良川支流高屋川中部の低所を東南方へ流る。山地多きも川に沿へる地は田畑拓け米・麥を產し又養蠶も行はれ、山地よりは薪炭を出す。中央谷に沿ひて西北方綾部町方面より來る縣道は東南へ通じ東南隣檜田村にて山陰道と連絡す。東方約六粁に省線山陰本線下山驛、西北約一二粁にて同線綾部驛へ達するも交通不便なり。村名は大宇質志の酒治志神を三ノ宮と云ふに起る。質志はまた鐘乳洞を以て名高し。洞は四洞に分れ延長一二〇米。鐘乳石及石筍多く、黃金柱と稱さるゝもの最大周二米、高さ五米に及ぶ。〔酒治志神社〕 大宇質志に鎭座。郷社。祭神、伊邪那岐尊・伊邪那美尊。創建年代詳かならざれども延喜の制に式内小社に列し、のち當國三ノ宮と稱す。例祭、九月三日。

【三ノ宮】 東海道本線の一驛(明治七年設置)。神戸市葺合區布引町にあり。神戸驛と共に神戸市の主要なる驛なり。

サンバ　三番　↓上小竹紫野

サンバ　山波村　廣島縣備後國沼隈郡の西部。西は尾道市に接續し、北は高須村に隣り、南は尾道瀬戸を隔てゝ向島東部の御調郡向島東村に對し、東は松永灣に臨む。面積二・九九方粁の小村。尾道市との境に續く高距約二〇〇米の山地東端と、其麓層海岸の急崖下にある平坦地よりなる。平坦地には田畑拓け米・蘭草を出し、花蘆・桑表を產す。省線山陽本線と國道(山陽道)は共に海岸に沿ふ平坦面に通ず。尾道市・松永町に近く交通便なり。古く雉略紀に麥婆水門と云ふは此地なりと。和名抄の沼隈郡春部郷に本村を出す。中央谷に沿ひて西北方綾部町方面より來る縣道は東南へ通じ東南隣檜田村にて山陰道と連絡す。東方約六粁に省線山陰本線下山驛、西北約一二粁にて同線綾部驛へ達するも交通不便なり。村名は大宇質志の酒治志神を三ノ宮と云ふに起る。質志はまた鐘乳洞を以て名高し。洞は四洞に分れ延長一二〇米。鐘乳石及石筍多く、黃金柱と稱さるゝもの最大周二米、高さ五米に及ぶ。〔酒治志神社〕 大宇質志に鎭座。郷社。祭神、伊邪那岐尊・伊邪那美尊。創建年代詳かならざれども延喜の制に式内小社に列し、のち當國三ノ宮と稱す。例祭、九月三日。

【三ノ宮】 東海道本線の一驛(明治七年設置)。神戸市葺合區布引町にあり。神戸驛と共に神戸市の主要なる驛なり。

サンバ　三番　↓上小竹紫野

サンバ　山波村　廣島縣備後國沼隈郡の西部。西は尾道市に接續し、北は高須村に隣り、南は尾道瀬戸を隔てゝ向島東部の御調郡向島東村に對し、東は松永灣に臨む。面積二・九九方粁の小村。尾道市との境に續く高距約二〇〇米の山地東端と、其麓層海岸の急崖下にある平坦地よりなる。平坦地には田畑拓け米・蘭草を出し、花蘆・桑表を產す。省線山陽本線と國道(山陽道)は共に海岸に沿ふ平坦面に通ず。尾道市・松永町に近く交通便なり。古く雉略紀に麥婆水門と云ふは此地なりと。和名抄の沼隈郡春部郷に本村の遺名を留めるものの如し。中世は福田庄と稱し地頭を置きたり。藩制の頃は福山藩の封内とす。もと高須村と組合村なせしが、大正四年分離獨立す。

サンバ　殘波岬　沖縄縣中頭郡讀谷山村の西北端。村の西北部に突出する小半島の西北岬にて、高度約三〇〇米、急崖をなして海に臨む。

サンパガワ　三波川

【三波川】 群馬縣多野郡にある川。御荷鉾山の東に發ゆる東御荷鉾山(一二四六米)の東北麓に發源し三波川村内を東流し鬼石町の南に於て利根川の一支神流川に合す。全長約一〇粁。流域に三波川層及び主として輝石・角閃石より成る御荷鉾層標式的に發達せるを以て著はれ、沿岸にその露出あり。〔三波川層〕 三波川沿岸、主として三波川村に標式的發達をなせる地層。結晶片岩類より成る一聯の地層にて千枚岩質のものより高度に絹雲母・緑泥石・緑簾石・藍閃石・紅簾石・方解石等の特有鑛物を含む片狀の岩石に及び、蛇紋岩・斑糲岩・石榴角閃岩等の知き鹽基性の火成岩を伴ふ。黑雲母は稀にて概ね花崗岩を伴はず。その分布は關東山地・天龍川地方・阿武隈山地・紀伊半島・四國・九州・中國・琉球・臺灣・北海道等に亙り、從來片麻岩系と共に太古界と稱せられしが、近來本層はより若き時代のもの、少くとも古生界にて石炭紀以前のものと考へらるゝ樣になりしも化石を全く產出せざる點未だ正確な時代判別せず。最近に至り秩父系と同一なるが變質の度或は相を異にせるものならんと思はるゝに至る。標式的の地層は上・中・下の三部より成り、下部は石墨絹雲母片岩・絹雲母片岩(紅簾片岩が最上部にあり)、中部は紋點緑簾角閃片岩・石墨絹雲母片岩の互層(黑雲母片岩・赤鐵鑛片岩・晶質石灰岩等を介在す)、上部は絹雲母石墨千枚岩・紅簾絹雲母千枚岩なり。

【三波川村】 群馬縣上野國多野郡の東部。東は鬼石町、北より西は美九里村・日野村、南は万場町・美原村と隣す。面積二四・四平方粁。秩父山地の北部に當り、謂ゆる三波川層・御荷鉾層發達し、南境に雨降山、西境に近く御荷鉾山の千米以上の山地あり。北境にも七百米臺の山嶽東西に連り、略ど山地をなし、中部東西の褶合谷を神流川の支流三波川東流す。全村森林多く、麥の產あり。道路は川に沿ひて東隣鬼石町に通じ、また西南境の石神峠によりて万場町に、西北界の温石峠を越え日野村に通ずるも交通なほ便利ならず。此の地古くは和名抄、緑野郡尾張郷の内に屬せしものか。〔三波川ノ櫻〕 指定名勝・天然記念物。櫻山の頂上にあり。麓まで自動車の便あり、それより登路急峻約四粁。樹種は多櫻及び染井吉野にて約千株、冬期に開花す。日露戰役記念のため明治四十一年栽植せしものといふ。從來染井吉野の返咲と考へられしが、花及び葉の特徴により多櫻と確定せらる。多櫻は珍稀なる種類にして、この山上に於けるが如く密生し、殊に冬期に開花する光景は櫻の名所として比類無きのみか、その中花部の變異を呈するものもあり、學術上貴重視せらる。

サンバン　三蟠村　岡山縣備前國上道郡の南部。旭川下流の左岸に沿ひ、西北より西は岡山市に接し、東は沖田村に、北は操陽村に界し、南は兒島灣口を隔てて兒島郡甲浦村に對す。面積四・五八方粁の小村。此附近はもと海灣なりしを備前侯池田光政の堤立せしめし處にて、全村平低肥沃なる耕地をなし備前米を主とし蘭の產多く、麥・蒲鉾等も出す。灣の入口に當り旭川々口の左岸なる大宇江並はもと三蟠港と稱し、以前は岡山市の外港として重きをなせしが今は衰へたり。又對岸、甲浦村の石切宮浦とは渡船の往來あり。本村は往古一帶の海面たりしが藩主池田氏堤築開墾せし地なり。即ち上道新田の一つなり。上道新田は延寶年中より文祿年中に亙り兒島灣に臨める斥鹵の地二萬八千石を干拓したるものにして一番より九番まで九ヶ村を作る。三番は今の三蟠村、九番は今の九蟠にて、其他に沖田・光政・津田・金田の諸村あり。この工事に當りたるものは藩の家老津田左源太永忠にして、熊澤蕃山また與りて力多し。

サンピャクニンマチ　三百人町　東北本線の一驛(昭和八年設置)。宮城縣仙臺市成田町にあり。

サンプ　山武郡　千葉縣四市十二郡の一。上總國の東北部にて縣の中部の東邊を占め、西南は長生郡、西は市原郡・千葉郡、西北は印旛郡、東北は香取郡・匝瑳郡に隣接し、東南一帶は太平洋に面す。面積四二二平方粁、縣の全面積の八・三%餘に當る。西北半部は洪積層より成る高度三〇—四〇米の臺地にて最高處も八〇米内外に過ぎず、所々西北より東南に延びる幅狹き低地によりて隔たる。東南半部は謂ゆる九十九里濱に沿ふ海成沖積地の一部にて概れ低平、海岸に沿ひて砂丘よく發達し、臺地と平地との中間に沼澤地帶を挾む。それ等はいま多く排水開拓せられて水田をなすも東北部にはなほ鳥喰沼を殘す。農業主として行はれ、米・麥を初め大豆・落花生・甘藷等を出し、また養蠶・養鶏も行はれて繭の產多く、鶏及び鶏卵も供給す。沿岸は即ち九十九里濱の一部を占め、鰯・背黑鰯・鰺等の漁獲あり、また水產加工業あり。銚子街道は臺地と平地の界に沿ひて東北に通じ、その沿道の大網・東金・成東・松尾等よりはそれぞれ九十九里海岸に縣道分岐し、多くはバスの往來あり。また鐵道には省線總武本線に東京御茶ノ水に起り兩國・千葉・佐倉等を經て成東に出で銚子街道と並行して銚子に向ひ、房總東線は千葉より分岐して土氣本郷を經て大網

町に出でて南方長生郡に入り、東金線は大網に起りて成東に達し、房總東線と總武本線を繫ぎ、郡內の交通は便利なり。本郡は明治三十年、もとの山邊・武射の二郡を合併して置きしものにして、いま東金・土氣本鄉・大網・白里・片貝・成東・松尾・橫芝の八町及び二十四ヶ村を含む。

サンブク 三伏峠 日本南アルプスを橫斷する峠。鹽見岳（三〇四七米）の南西方なる本谷山（二六五八米）と小河內岳（二八〇二米）との中間鞍部に位し、最高點二五八〇米。北アルプス針ノ木峠（二五四一米）より三九米高く、日本內地に於ける最高の峠なり。この峠路は明治八年頃開かれたるものにして、東側は靜岡縣安倍郡井川村、西側は長野縣下伊那郡大鹿村に屬す。南側は斷層露出し、奇觀を呈す。峠上の東北方約五〇〇米に冬期も使用可能の三伏峠小屋あり。

サンブクジ 三福寺 →大八賀村（岐阜縣）

サンベ 三瓶山 別稱形見山。また出雲風土記には佐比賣山と見ゆ。白山火山帶に屬するトロイデ型消火山。出雲・石見の國境、島根縣簸川郡山口村、飯石郡志々村と安濃郡佐比賣村との境界に位す。山の基底は花崗岩質にして、山體は含石英角閃石黑雲母安山岩より成る。主峰を男三瓶（一一二六米）と稱し、これと並び女三瓶（九五七米）・子三瓶（九六一米）・孫三瓶（九〇七米）・日影山・大平山等の諸山が環狀に聳立し室ノ內と稱する火口址（直徑約八百米）を圍む。この火口址の南部に溪水あり、室ノ內池と云ひ火口湖をなす。又火口址の南隅、孫三瓶附近に炭酸噴氣孔あり、鳥の地獄と稱し、そのあたりには草木も色を變じ、小禽類も窒息すと云ふ。男三瓶の山頂には金毘羅の小祠あり、附近より日本海の波濤並びに隱岐の島影を望見し、眺望佳なり。東西の裾野一帶は噴出せる岩屑にて生ぜる廣漠たる原野にして、面積一三二〇〇アールに達し、牛の放牧、陸軍の演習地となり、又スキーに好適す。西麓には白鳳年間の噴火に際し、岩屑・灰礫が堆積し、溪流を堰き止めて生じたる浮布池あり。この池、歌枕には浮沼と見ゆ。又西麓に小屋原溫泉あり、南麓には志學溫泉湧く。此地は日本海に近く雲霧の去來繁く「霧の海」と稱され、三瓶名物の一をなす。「宮木引く袖さへさむく麻衾かたみの山に嵐ふくなり 讀人不知」 登山路は西麓佐比賣村小屋原より直接男三瓶に登るものと、南麓の志學溫泉より濱原を經て室內峠の外壁の鞍部に出で、一旦舊火口の室ノ內に下り、子三瓶と男三瓶との鞍部に出で、頂上を極むものとあり。外輪諸山の一周も可能なれど、冬期はアイゼン・ピッケル・ロープを用意するを可とす。山陰本線石見大田驛より山麓まで自動車の便あり。

サンペー 三平

【三平峠】 →尾瀬峠

【三平面】 朝鮮咸鏡南道咸州郡の西南部。咸興府及び州西面の南に隣り、東は雲南面及び興南邑、西は州西面及び朱地面、南は連浦面に各隣接し、東南は日本海に面す。城川江及び東城川江下流一帶の地域を占め謂はゆる咸興平野の一部を成し土地極めて低平、地味肥沃にして農業に適す。生業は農を本業とし果樹の栽培亦盛なり。農產物には米・大豆・小豆・大麥・黍・稗等にて米は需要を充たしなほ餘裕あり。果物の咸興梨・咸興桃は古來此地方の名產となす。總督府鐵道咸鏡線は面の東境を並走し、道路は北方咸興府より來る三等道路は面の西部を南北に縱貫し乘合自動車の便あり。聚落密度頗る大にして面事務所を新興里に置く。

サンポ 山浦面 朝鮮全羅南道羅州郡の東北部。東は南平面、北は光山郡大村面、西は金川面、南は鳳凰面及び茶道面に相隣接す。東南隅に食山（一八六米）の聳立する外山地なく、謂はゆる羅州平野の一部を成し土地頗る低平地味肥沃にして、榮山江に屬する幾多の支流域內を灌漑し、氣候溫和降水量亦適度にして重要なる農業地域を成す。產物は米・大麥を主とし、其他豆類・棉花等あり。近時果樹の栽培行はれ、羅州梨は市場聲價高く、良質なる葡萄も產す。また紬布・竹細工等の特產あり。北方光州より來る京城・木浦間一等道路は南平面を經て、面の北部を東西に橫斷し、西方羅州邑に達る。羅州には總督府鐵道湖南線羅州驛ありて之より乘合自動車を連絡し、また慶全西部線光州驛よりも乘合自動車の便ありて交通頗る便なり。聚落には儲亭里・德禮里・內基里・梅城里・等樹里・松林里・花池里・新道里・山齊里等ありて、面事務所を內基里に置く。

サンホー 三豐面 朝鮮平安北道慈城郡の西南端。東は梨坪面、北は慈城面・慈下面、西は江界郡文玉面、南は同東西面及び從西面と各相隣接し、西北は鴨綠江を隔てて滿洲國と相對す。南境に日起峰、西境に月起峰（一二三八米）聳え、北境には紅桃兒穗山（一〇八九米）聳え、此等の餘勢域內に及び山岳重疊し喬木鬱蒼として繁茂し半島著名の森林地帶を成す。而して此等周緣山地に發源せる諸水は中央に集りて三豐川と成りて北流し、水豐洞附近にて流路を西に轉じ鴨綠江に合流す。河岸に段丘の發達を見、當地方に於ける重要地帶を成す。產物には粟・玉蜀黍・大豆・生牛・蜂蜜・山蔘等あり。西南方高山嶺地方より來る二等道路は南境の麻田嶺を越えて面內に入り三豐川の溪谷に沿ひて北走し、自作嶺（七一〇米）を越え慈城嶺を經て北方中江鎭地方に走り、自動車通ずるも輪坂多く交通容易ならず。聚落は溪谷に沿ひて分布し、其主なるものに上流より新興洞・新

疊洞・東谷場・水豐洞・仁豐洞等ある外は火田民の散村式聚落あり。面事務所を水豐洞に置く。

サンボー 三方

【山方岳】 石川縣石川郡河內村と尾川村との境界に跨る山。一に池の三峰・口三方岳と稱す。標高一二六九米。山體は石英粗面岩より成る。この山稜は南東方に延び奧三方岳（奧三方山とも云ひ、一六〇三米）聳立す。北西方の河內村大字三宮に國幣中社白山比咩神社里宮あり（奧宮は白山頂上に鎭座す）。

【三方ヶ峰】 淺間火山群に屬する一峰。主峰淺間山（二五四二米）の西方約一八粁に當り、長野縣小縣郡滋野村・禰津村との境界に峙つ。標高二〇四〇米。古き火山にして山上中央部に火口址を認め、今は高山植物茂る。北方に籠ノ登山（二二二六米）續く。山麓は茅原にて掩はれ、中腹以上は見事なる樺・樅等の森林帶をなす。

【三方ヶ森】 愛媛縣溫泉郡越智郡の境界をなす山稜に聳ゆる山。北方なる峰を北三方ヶ森と稱し、南東方なる峰を東三方ヶ森と云ふ。前者は越智郡龍岡村と溫泉郡立岩村・河野村・五門村に跨り、標高九七八米、後者は越智郡鈍川村と溫泉郡北吉井村と周桑郡田村・中川村とに跨り、標高一二三三米。兩峰の中間鞍部を水ヶ峠または露ヶ峠（最高點七〇五米）と呼ぶ。

【三方山】 九州山脈に屬する一峰。熊本縣阿蘇郡小峰村・上益城郡白糸村と宮崎縣西臼杵郡椎葉村との三郡三村境界に跨り、標高一五七八米。南西稜は高山、東北稜は向坂山に連る。

サンボー 三防 京元線の一驛（大正三年設置）。朝鮮咸鏡南道安邊郡衛益面の南部にあり、江原道境に近し。附近は連峯恰も波濤の如く重疊し、往々にして熊・猪・豹等の出現することあり、狩獵地として知らる。驛の西北約四粁、麻桑山中に三防瀑あり、直下四〇餘米、半島稀に見る巨瀑にして盛夏の笻杖を曳く者多し。瀑上なほ一瀑あれど登攀は困難なり。

サンボー 三寶

【三寶山】 關東山脈秩父山塊の一峯。甲武信ヶ岳（二四七五米）の北方約一粁に位し、長野縣南佐久郡川上村と埼玉縣秩父郡大瀧村との境界に峙つ。秋色の美景を以て名高し。標高二四八三米。山頂部は針葉樹の密林を以て覆はるれども、富士山を中心として箱根山・南北アルプス・八ヶ岳等の諸峰を展望し得られ頗る壯觀なり。なほ頂上部に花崗閃綠岩より成る三寶岩と稱する大岩塊橫はる。甲武信ヶ岳より縱走一時間にして達す。

【三寶山】 高知縣香美郡にある山。金剛山ともいふ。富家村と佐古村との交界に聳立し、西に續く高知平野に臨む。標高二六二米。此山を中心として高知平野より東北方礫山村に亘る地層を山名に因み三寶山層といふ。層は主として砂岩・頁岩・チャアト・石灰岩及び輝綠凝灰岩より成り、層厚一千乃至二千米以上に及ぶ所あり。隣接の白堊系及び安藝川層群とは斷層を以て境す。時代は本層の石灰岩を挾める部分中の一部は二疊石炭系に、又その一部は三疊系に屬すべく、チャアトを挾む部分はその上部にて鳥ノ巢層とは斷層にて境するものと認めらる。

サンボー 三峰 →南山面（朝鮮咸鏡北道鏡城郡）

サンボーキョー 三防峽 京元線の一驛（昭和六年設置）。朝鮮咸鏡南道安邊郡衛益面にあり。

サンボークズレ 三方崩山 白山火山の東方に位する一支峯。岐阜縣大野郡白川村に屬し、標高二〇五八米。ジュラ紀層の岩石より成るため崩壞甚しく、因りて山名あり。天正十三年の地震には大崩壞ありしと云ふ。

サンボーシ 三傍示山 四國山脈の一峯。愛媛縣宇摩郡新立村と德島縣三好郡山城谷村と高知縣長岡郡大杉村との境界に峙つ。標高一一五六米。伊豫・阿波・土佐の三國に亘る故に山名出づ。山體は結晶片岩より成る。

サンボージ 三寶寺池 →東京市

サンホク 山北面 朝鮮慶尙北道聞慶郡の中央より稍東に位置す。東は醴泉郡勝川面及び東魯面、西は聞慶・麻城・虎溪の各面に、南は戶西南面・山陽面と醴泉郡龍宮・開浦の兩面に相隣接す。小白山脈中に位置せるを以て一般に土地高峻にして、東境には功德山（九一三米）聳立し、西境には雲達山（一〇九七米）・壇山（九五六米）などあり、漸次南方に向つて高度を減じ、南部には稍低地を見る。產物には米・大麥・大豆・粟・煙草等あり。鑛物には金・鉛・黑鉛等の埋藏あるも稼行中のもの少なし。この地僻遠に位置せるを以て未だ道路改修行はれず坂路多く車を通ずるものなく、交通運輸頗る不便なり。聚落は南半部に多く分布し、大下里・磨石里・加谷里・岡龍里・月川里等その著しきものとす。大下里は道路網の核心に位置し面事務所あり。北方約一〇粁の雲達山山腹に巨刹金龍寺あり。五百年前の創建にて、現に多數の僧侶居住し春秋の候來山する者多し。

サンボンギ 三本木

【三本木原】 青森縣上北郡にある原野。三本木町を中心とし、奧羽山脈の東部に廣がる東西三二粁餘、南北約一四粁、火山灰・火山礫を主とする洪積波狀臺地。海拔百米以下の廣漠たる原野にして、十和田湖より發する奧入瀨川その中を東流し、太平洋に注ぐ、附近一帶は水利惡しく、ただ奧入瀨川沿岸の低地に水田を見るのみ。往時の陸羽街道、卽ち現在の國道は南方五戶町より北上し、三本木町を

經て七戸町・野邊地町を通過し青森市に至る。この路線はバス・トラック等の通る主要幹線にて、この外に東北本線の古間木驛より三本木町を經て十和田湖畔に通ずるもの、及び古間木より三本木町に入る路線あり。古間木驛より三本木町に至る十和田鐵道は十和田觀光路線の使命を帶び、三本木町にて自動車に乘換へ十和田街道をすゝめば國立公園十和田湖に達することを得。奥入瀬川沿岸の低地には水田分布すれども、附近一帶は水利惡しき原野をなし、主として畑と牧場に利用せらる。畑作は豆類・馬鈴薯を初め果樹・蕎麥等の栽培多し、新渡戸稻造博士の顯父傳翁は粒々辛苦の結果、稻生川を灌漑用水となし、田地數百町歩の開墾に成功し、三本木町の建設をなす。三本木町にある太素塚は同翁を祀れるものなり。また附近の原野は古くより名馬の產もつて名高く、舊藩時代また馬政に努力したる結果、謂はゆる南部馬の聲價を高からしむ。三本木町・五戸町・七戸町は三本木原牧馬の中心にして、毎年の馬市には諸國の伯樂參集して殷賑を極む。三本木町には軍馬補充部支部あり。なほ七戸町附近には奥羽種馬牧場あり。建久の初め、南部光行この地に封ぜらるゝに及び牧馬の經營に盡力し、のち九牧を開きて外國より良馬を購入して馬種の改良をはかりたる結果、南部馬の聲價を一層高からしめたり。

【三本木町】 青森縣陸奥國上北郡の中部。三本木原の中央に位し、東は六戸・藤坂の兩村、西は十和田村、南は四和村、北は大深内村に接す。火山灰・火山礫を主とする洪積波狀臺地なる三本木原の一部を占め、百米以内の緩慢なる起伏をなし原野多く、町の南端を奥入瀬川東流する所あり。奥入瀬川の河岸に第三紀層の露出する所あり。所々貝化石を產す。其の他は洪積層に覆はる。國道陸羽街道通ずれども、東北本線は約一六粁の東方を通過せるため古間木驛(六戸村)間に私設せられたる十和田鐵道により貨客の輸送をなし、盛澤農場前驛(昭和七年設置)・三本木驛(大正十一年設置)を置く。自動車交通はよく發達し、定期バスは古間木驛或は七戸町或は五戸町・八戸市および十和田湖畔休屋間を運轉す。產物は馬・繭・酒・農產物(馬鈴薯・米・豆類)が主なるものなり。特に此の地の馬鑑市は有名にして、三本木和合の市場たるのみならず、中央市場ともなり、日本一の馬鑑市として有名なり。其間各種の臨時商賣も盛んに行はれ、附近の農民は皆これに出で一年中の商賣は此時に行はると云ふ盛況を示す。この地一帶は往時三本木野と稱し、廣漠たる原野にして、人體を浪せんとする義は徒に狐狸の橫行を恣にしまるものなるも、安政二年に至り、舊南部藩士新渡戸傳翁この地に着目して開墾に志し、稻生川を灌漑用溝として開墾し、粒々辛苦遂に數百町歩の開墾に成功し、又一方民家を建設し、商業を起す等大いに繁榮策に勝めたり。其後、舊斗南藩士(舊會津藩士)の移住及び軍馬補充部支部・畜產農場等の新設ありて今日の繁榮をなす。明治四十三年町制施行。〔稻荷神社〕大字三本木に鎭座。鄉社。祭神、倉稻魂命。社傳に依れば光格天皇寛政年間、當村字千歲森に一祠を創立して稻荷神を奉祀すと。されど其以前は何處に勸請せしものなるや詳ならず。例祭、九月十一日。〔明治天皇三本木行在所〕指定史蹟。明治十四年東北行幸の際の行在所にて舊規よく保存せらる。〔軍馬補充部三本木支部〕明治十八年の創設、面積約一四九方粁、主に乘用軍馬を育成す。〔稻生川運河〕大和田村の奥入瀬川より分岐して三本木町に達する灌漑用運河。安政二年九月新渡戸傳が開鑿に着手し、同六年五月竣工、長さ約八粁、二箇所に隧道あり。灌漑水面一千餘町歩。〔太素塚〕三本木の開祖なる太素新渡戸傳の墳墓及びその子新渡戸稻造の墓あり。附近は町民遺產の地にして、その域内に太素を偲ぶ開拓の遺品及び稻造に因む新渡戸文庫の設あり。

【三本木町】 宮城縣陸前國志田郡の東南部。北は古川町との間に數玉・志田の二村を距て、西北は高倉村に、東は下伊場野村に、南は黑川郡大松澤村・大衡村に、西は加美郡鳴瀬村に各隣接す。南部には一〇〇米以内の丘陵婚り、その北麓を鳴瀨川東に流れ、北境を東南流し來る多田川を東北部にて合す。北部は土地低平、鳴瀨川・多田川岸には堤防を築き其水害を防ぐ程なり、然し所謂鳴瀨川・荒雄川流域の沖積地なる大崎耕土の南緣に當り水田よく拓く。產物には米・麥を主とし養蠶も亦行はる。國道陸羽街道は鳴瀨川の右岸に沿ひ、中央部にて川上に架橋し北部の低地を南北に貫通して古川町に達し、省線陸羽東線の陸前古川驛(古川町)にはバスの便あり。街邑は陸羽街道に沿びまた鳴瀨川上の橋を挾みその右岸、左岸に發達す。此地古くは和名抄、志太郡信太郷の地。大宇桑折は郡にも作り郡家の置かれし所。また桑折城ありて黑川月舟これに據り、天正十六年伊達政宗に叛くと云ふ。

サンボンスギ 三本杉 鳥取縣東伯郡にありし村。明治三十三年、古布庄村と合併し新たに古布庄村を置く。

サンボンマツ 三本松 【三本松村】 奈良縣大和國宇陀郡の北部。奈良市の東南方約三〇粁、北は山邊郡東里村に、東は三重縣に接し、南は内牧村に、西は榛原町及び山邊郡郡介野村に隣る。此附近には室生火山群ありて、山地は戀れ安山岩や玄武岩より成る。宇陀川ここに谷を刻み東北に流れ、名張方面に至る。山間のため谷筋には、多少の耕地の他は見るべきものなし。交通としては

參宮急行電鐵標井・宇治山田間の電車あり、室生口大野・三本松(共に昭和五年設置)の兩驛を置く。本村は和名抄、宇陀郡多氣郷の地にして、近世には山邊郡に屬したる事あり。又曾ては萩原と名張間の間宿たり。大字瀧には三瀧あり、宇陀川に沿ひ古來文人墨客の題材となりし地たり。大字大野の西には堀越頓宮址あり、古より歌の名所として知られ、萬葉集にある宇陀乃大野はここなるべし。萬葉・二、毛衣を春冬片設けて幸しし宇陀の大野は思ほえむかも」(尚潤すずらん群落)指定天然記念物。大字向潤にあり。すずらん群落地は宇奥榮その他の四區に分れ、何れもくゝざ・こなら等の雜生せる林底に存し、粗密不同なるも概して密生し、山邊郡郡介野村吐山にあるものと共に、本邦に於ける分布の南限となる。〔三本松〕指定天然記念物。大字三本松にあり。目通幹圍六米、根本より約三米の高さに於て幹は三大枝に分れ東西北の三方に擴がる。故に三本松の名起り村名もまた之によると。黑松の巨樹としては有數のものなり。〔大野寺石佛〕大字大野にあり。大野寺は惡僧陀彌勒寺とも稱し、天長年間に弘法大師の開基にかゝり、後土御門天皇の御代寺の規模を壯大となし、永元元年天皇の御願により雅條大僧正由城笠置の石佛に模し、彌勒菩薩を岩面に刻す。供奉の際は後鳥羽上皇御寄し給ひ、御詠を書き給へる宸翰を體内に納め給ふ。天正年間の兵亂に寺寶悉燼せしものも再興す。石佛は寺の前面宇陀川の對岸、屏風浦の安山岩の大岩壁に刻まれ、總高五丈、流麗なる線彫にて形整ひ石佛中の雄作たり。近年、像の胸部及び腹部の邊にある圓き小孔内より朽敗せし小卷子を發見す。〔正定寺〕大字古向潤にあり。禪宗本願寺派。本願寺三世覺如の男存覺の開基に係るといふ。

【三本松町】 香川縣讃岐國大川郡の東部海濱に位す。面積僅に一・三一方粁、東は白鳥村に、南西は前山・古川等を以て擊水村に接し、北に一帶播磨灘に濱す。南部に丘陵起伏するのみにて、一般に平地をなし、海岸は白砂青松遠淺をなす。地味は一般に肥沃なれど、河川・溜池の大なるものなく、僅に細流古川が町の西部を流れ、芦尾・丸山の諸池あるのみなるを以て、旱魃に際しては用水の不足を免れず、幸にも地質上地下水の利用に適し、旱魃期には溜井・水堀を以て之を補ふ。然れども元來地域狹小なるを以て農耕の著しきものなく、僅に米二萬餘圓・麥一萬餘圓を出し、副業として繭・卵など各二千餘圓を產するのみなるを以て、町民は何れも北部に集合し、商工業に從事し、戶數中二六二は商業、一四一は工業、一一九は水產に從事するの狀態にして、町役場・銀行・中學校等を始め、會社工場も設立せられ、製藥・莫大小手袋・紡績・醬油・清酒等の製造盛んなり。海岸には漁業も行はれ、鯛・鰹・鰈等は九萬圓の產額を擧ぐ。三本松港は內務省指定港の一にして、大阪よりの小汽船の寄航あり、阪神方面との貨物の移出入を見、一ヶ年の出入船數漁船を含めて約六千艘、移出移入各約六百萬圓を有し、將來發展の望あり。交通は省線高徳線、町を貫通し、三本松驛(昭和三年の設置)あり、國道も町を東西に走り、引田・富田間の定期自動車の往來あり。また三本松・福榮間にも自動車の便を有し交通便利なり。早くより三本松村として獨立して居り、一時は擊水村宇川東一圓を合併管轄せしを、明治二十二年、市町村制實施と共に分離し、同三十一年町制を布く。

サンミ 三見村 山口縣長門國阿武郡の西南端を占む農漁村。萩市の西南、明木村の西北に位し、西は大津郡三隅村に隣し、北及び西北は日本海に臨む。村内三—五〇〇米の丘陵性山地起伏し、北部を圧ぜ東西に貫流する溪間に低地ありて水田拓く。產業は農漁を主とし、農產物には米・麥等のほか夏蜜柑その他の柑橘類を出し、枇杷を多少產出す。漁業は鰯・鰤などを主とし、外に各種の魚・貝・海藻類あり。漁夫は近海は勿論、遠く對馬・壹岐または朝鮮・臺灣までも出漁するもの少からず。村內には三見浦・三見市・石丸などに多少商店もあれどその他は主として農村部落とす。交通上は山陰本線本村を通過し、大正十四年以來、三見驛を設置し、本村は古くは和名抄、作美郷の地に當るものの如く、往時美禰郡に屬せしものゝ如し。地名も後代には延喜兵部省式に長門國參見と出で、また往々にして三見郷と書するものあり。即ち延喜式、參美驛馬三疋とあるはこの地とす。毛利藩時代には主として三見村と呼べり。一說に三位中將重平卿、安德天皇を守護し奉りて飯井の濱(今の三見村の一部落)に上陸し、この地に入りたるより、三位の郷と稱し、三位の二字轉じて三見となれりといふも、恐らくは俗說なるべし。明治維新の頃は尙ほ三見村と呼ばれ、明治五年二十大區第十三小區と改め、同十一年七月再び三見村と稱し、翌年に至りて途はることなし。〔八幡宮〕宇石丸に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・田心姫命・湍津姫命・市杵島姫命。慶長年中火災に罹りて舊記焼失し創建年代を詳かにせず。例祭、十月十五・十六日。

サンミヨー 三名村 徳島縣阿波國三好郡の西南隅。吉野川中流の左岸にあり。北は山城谷村に接し、東は川を隔てて三縄村と美馬郡西祖谷山村に對し、南は高知縣長岡郡西豐永村・大杉村と界す。石鎚山脈の山地にて南境上に野鹿池山(一二九五米)・黑滝山(一二一〇米)聳立し、西北境に子ダキ嶽(九五一米)の山地ありて東北方吉野川の谷に急傾斜

し、殆ど山林のみにて耕地は中部の谷底に少許りの畑・田あるに過ぎず。養蠶を主業とし、麥・米・粟・稗・茶等の產あるも產額少し。四國の主軸をなして東西に走る石鎚山脈を横斷北流する吉野川は村の東境に大步危・小步危の溪流美の絕景を以て知らるる峽谷を刻む。阿波と土佐との交通の要路に當り土佐街道と省線土讃線はこの峽谷西岸の崖上に通じ、前者にはバスの往來あり、後者には西宇驛(昭和十年設置)の設けありて交通不便ならず。古くは史實の徴すべきものなし。上名・下名・西宇の三大字より成り、上名に役場を置く。⇒大步危小步危

サンモンジ 三文字 省線古江東線の一驛(昭和十二年設置)。鹿兒島縣囎唹郡大崎町大字假宿にあり。

サンヤ 山谷 一に三谷・三野に作る。今の東京市淺草區吉野町・淺草町一帶の總稱。附近に淺茅ヶ原・鏡ヶ原・小塚原の三名所ありし故に三野といひ、のち三谷にも作り、更に山谷に轉ぜりといふ。明暦三年六月以後、江戶元吉原の娼家が、代地日本堤(吉原)の家作り普請の間、この地の百姓家を借りて臨時に營業せしことありといふ。隅田川より今戶の地に於て、山谷に入り込める掘割を山谷堀と云ひ、舟にて新吉原に通ふ水路。單に堀ともいふ。この山谷堀を上下する吉原通の遊船を山谷船といふ。享保年間、吉原通ひの土手馬禁止となり隅田川の船便開け、山谷船多く使用されしと。船體は狹小にて船底に簀緣を敷き客の席に煙草盆・火鑪箱を置き、客は一人を乘す。安定惡しきも速度早かりし故「其船はどうするのだと矢の如し」などいはる。船頭の鼻息も荒く、その乘用は嫖客の粹とさる。當時遊船界の寵兒にて、他の船は二挺艪にて之に對抗ぜしも二挺立禁止後は山谷船の全盛となり、寶永四年には七〇〇餘隻に達す。山谷船は猪牙船或は略してチョキともいふ。好色一代男・七「金龍山を目當に、淺草川の二挺立、駒形堂も跡になして、日本堤にさし懸り、あさぢが原、こつか原、名所の野三ツあるに付て、三野と申侍り、又三谷とも書り」

サンヨー 山陽

【山陽地方】 中國地方の主分水界より南の斜面をいひ、山陰に對す。岡山・廣島の兩縣及び山口縣の大部を含む。行政上兵庫縣のうち播磨國は近畿地方に屬するも、もとは山陽道の一部にして、風物は今も山陽式の點多く地理的には山陽に屬するものなるべし。便宜上以下行政的區分に從ふ。高地は準平原化されし隆起の一大高原にて、特に高峻なる山なし。主分水界が北に偏する東部には津山盆地あり、南に偏する西部には三次盆地あり。三次盆地は日本海に注ぐ江ノ川の上流の地なるが、江ノ川の中流は狹流をなし、三次盆地と廣島灣沿岸の間は斷層谷により容易に連絡す。山陽海岸地方は岡山平野が最大にて其他は小低地が海岸に散在するのみなり。所謂瀬戶內海地方の北半を占め、もと北四國とは地續きなりしものが陷落沈水し多島海を生じたるものにして、海岸線の方向、島の排列、海岸平野に於ける丘陵の排列及び本陸の水系等は、斷層のため略々東北より西南か、或はこれと直角の方向をなす。鞆より今治に至る諸島の排列と直線狀の海岸線、岡山・倉敷及び玉島間の谷と丘陵、三次・廣島及び岩國間の谷と海岸線、津和野・山口及び小郡間に於ける通谷の如きはその著しき例なり。瀬戶內海沿岸には兒島灣・廣島灣の彎入と兒島半島及び無數の群島あり。氣候は大阪平野と極めて類似し、比較的降水量の少なき瀬戶內海式氣候なり。夏冬兩季の季節風に對し山を隔てたる風下にあるがため、この現象を示す。農業地として最も廣く利用さるるは岡山平野にて、兒島灣の遠淺の地は順次乾拓され米作地となりつつあり。此地方の耕地の分布を一瞥すれば岡山縣にては兒島灣を中心として發達せる吉井・旭・高粱の三川の合成より成るデルタ平野及び吉井川上流の津山盆地、旭川上流の勝山盆地が耕地の大集團を提供し、廣島縣にては東部の蘆田川下流の福山低地及び廣島市を中心とする大田川のデルタ、三次盆地、山口縣にては東部の岩國川のデルタ、柳井町(玖珂郡)より西部の厚狹町(厚狹郡)に達る椋野・佐波・厚東・厚狹等の諸川下流に形成せる鋸齒狀に連續せる沿岸平野等の比較的大なる耕地の集團あり。然して耕地を締成する土壤は主に花崗岩の風化岩屑により生ぜし砂質壤土にて海岸に運ばれて白砂となる。この花崗岩は本地方には最もよく發達し至る所露出し荒地の地貌を呈して廣く分布す。かく砂質の耕地の多くは傾斜を有するため灌漑には便なるも、雨期には一時に土砂を押流し、灌漑期には河水涸渇して水無川となり水稻は枯死の慘狀を呈すること屢々なり。從つて灌漑治水に就ては苦心し、山間の自然の谷頭を堰き止めて溜池を作り天水を貯へ灌漑用に備ふるもの尠からず。殊に備中の玉島以西の溜池群は和泉平野・讃岐平野及び臺灣の桃園臺地の灌漑用溜池地方と共に有名にて特色ある灌漑形をなす。重要農產物中の米は本地方に於ける最も重要なる農產物にして水稻を主とし、嘗て相當の產ありし陸稻も灌漑事業の進步と共に畑地は水田化し、現今にては岡山縣の水利に惠まれざる地域に稍々多きのみ。米質また良好にて備前米・防長米の名は高く、特に防長米は伊勢米・肥後米等と共に我邦の最優等米と稱され灘の釀酒米として歡迎されまた地元にてもこれにて酒造し、灘以上の良酒を得ると。麥類の栽培は畑地は勿論、米收穫後の田の裏作として重要なる作物となる。特に岡山縣の如きは農家の食料となるのみならず、その麥稈は麥稈

眞田の原料となり、また醤油の原料として香川・兵庫の諸縣に移出し、小麥粉は本縣の名產たる素麵の原料となる。米麥以外の食用農產物は大小豆・粟・稗・黍・玉蜀黍・蕎麥・甘藷・馬鈴薯等の類にして、その栽培は大體に於て畑の分布と一致す。なほ工藝用農產物に藺・除蟲菊・薄荷・人參・楮・三椏等あり、藺・除蟲菊・薄荷は品質・產額共に他の地方に優越し本地方の特色ある生產景を呈す。藺の栽培は天文年間より備後表として著はれ、主產地は水利に富める所、岡山縣にては都窪・御津の二郡、廣島縣にては沼隈・御調・雙三・安佐の四郡とす。此等は副業によつて疊表・莫蓙等が製せられまた原料のまま他地方に出さる。除蟲菊は廣島・岡山二縣に多く、廣島縣にては深安・沼隈・御調・豐田の諸郡、岡山縣にては吉備・後月・小田・淺口等海岸に近き地域に產し、多くは原料のまま阪神地方に移出さる。薄荷の產は岡山縣は北海道に次ぎ、廣島縣も熊本縣に次いで第四位、山口縣の產も尠からず。產出地帶は三備の沿海地方にして、岡山縣にては後月・淺口・都窪の三郡を主とし、廣島縣にては深安・沼隈・御調・蘆品の四郡最も多し。製品は薄荷油・薄荷腦として國內は勿論、香港・英・獨・米の諸外國に輸出さる。果實は桃・柑橘類・柿・梅・葡萄等多く、桃は岡山縣の邑久・赤磐・都窪の三郡最も著しく、柑橘類は山口縣の萩を中心とし大島・熊毛・玖珂の三郡に產する夏蜜柑、蜜柑及びネーブル類は廣島縣に多く、柿は廣島縣の西條柿最も世に知らる。畜產としては蓋し牧牛地帶として本邦特有のもの、一般に團體有・個人有の小規模の牧場にて飼育され運搬用・肉食用に供するもの多く、搾乳牛は廣島縣・岡山縣等の各都市の近傍にその分布を見る。牧牛は高粱川の上流及び阿哲郡の山間に多く、千屋に於ける千屋牛は山中の雜草中に放牧され良質の肉牛として著る。毎年秋及び初冬に立つ千屋・高粱の牛市には兵庫・島根・香川の諸縣に移出さるるもの多し。謂ゆる中國準平原面の多く保存さるる高原丘陵に富む比婆・神石・雙三の諸郡に最も多きは、地形と氣候的恩惠に起因す。殊に神石牛は和牛の最良種として島根・九州の諸地方に移出さる。山口縣も產牛の歷史は古く神功皇后の御征韓當時すでに豐浦、瀬戶內海中の平群島に產せし文獻見え、奈良朝時代、東大寺の柱を曳くに長門牛を以てすといふ。有名なる牧場は笠山牧場にて萩市附近の休火山二百餘ヘクタールを有し、阿武郡の宇田郷牧場・蓋井島・角島、都濃郡の八蒲原及び平群等の諸牧場は何れも五十餘ヘクタールの放牧場を有し、特に平群牛は有名にて本土に役牛とし神戶に肉牛として移出さる。工業としては本地方は阪神・北九州兩工業地帶に介在し兩地帶の漸移地帶の觀を呈す。岡山・倉敷・福山附近は紡績織物等の纖維工業比較的よく發達し、廣島縣賀茂郡・廣島・吳の兩市等は清酒の釀造盛にて、三備地方は藺製品・眞田類を以て著はれ、廣島・吳地方は綿紡績を主とする纖維工業、これに附隨して染色業が興り、更に軍需品工場地帶となり、德山・下松地方は最近勃興せし地帶にて煉炭製造及び重油の精製、汽罐車車輛製作行はれ、宇部・小野田地方は石炭・セメントにて知られ、下關・彥島地方は北九州工業地帶の一部と見做され、下關はトロール漁業の中心たる關係上製氷業が發達し、彥島は壯年の工業地にて窒素工業・人造肥料・造船・製氷等が行はる。交通は地形の影響を受け東西の交通早く開く。山陽本線は中國の軸線に相並行して東西に走り海岸に斷續して發達する海岸平野を縫ひて走る。この線より派出する交通觸手たる支線も少からず。然し中國山地帶は鐵道縱貫線は勿論、横斷線の發達未だ充分ならず。本地方の陸上海上の兩交通は共に九州と近畿との兩地方の通過地域に當るを以て古代より夙に開け、四國・九州・滿鮮への連絡上重要なり。山陽本線は東海道本線と共に本邦の樞軸幹線をなし、瀬戶內海の航運は我國有數の近海航通量を示し東亞に於ける國際航路の一部を形成す。

【山陽道】 我國八道の一。畿內の西に續き、中國山脈の南、瀬戶內海に面せる地方をいふ。崇神天皇の朝、四道將軍吉備津彥命の向ひし西道とは蓋し山陽道を指したるものにて、吉備國の各所に命を祀れる大社尠からず。往昔は今日の神戶・大阪地方は津ノ國にして、其西に播磨・吉備・阿岐・周芳・穴門等の國々あり。天武天皇の御代、吉備國を分ちて三國とし、文武天皇の朝、全國を分ちて五十八國三島とせし時に、本道を播磨・備前・備中・備後・安藝・周防・長門の七國に分ちしが、元明天皇の和銅六年に至りて備前の北部を割きて美作國を置き、ここに於て今日の如く八箇國となる。而して今これ等諸國は行政上、兵庫・岡山・廣島・山口の四縣の管下となれり。本道の諸國は美作國を除きて何れも瀬戶內海に臨み、神武天皇の御東征を初めとし、古來、西陲と中央とを繋ぐ海上交通の要路に當るを以て、著名なる史蹟枚擧に遑なし。而して沿海に碁布せる大小の島々は時代によりて南海道の讃岐・伊豫との間にその所屬屢々變更され、今もなほ錯綜す。例へば瀬戶內海の最大島小豆島は、初め備前に屬せしが、今は讃岐に屬するが如きはその一例なり。維新の初め、本道にありし諸藩は姬路・明石・龍野・林田・赤穗・山崎・安志・三日月・三草・小野(以上播磨)、津山・鶴田・勝山(後、眞島)(以上美作)、岡山(備前)、鴨方・岡田・足守・庭瀬・新見・松山(後、高粱)・成羽・淺尾・生坂(以上備中)、福山(備後)、廣島(安藝)、山口・德山・岩國(以上周

防)、長府(後、豐浦)・清末(以上長門)等なりしも、明治二年徳山藩は版籍を奉還せしたもつて、これを山口藩に合併す。明治四年七月、廢藩置縣令の下りし時、以上の諸藩は何れも縣となり、同年十一月の府縣の大廢合の際、播磨の十縣は廢せられ姫路縣の管下となれり、次いで姫路縣は飾磨縣と改稱せしが、明治九年八月、兵庫縣に併合さる。美作國にありし津山以下の三縣は、四年十一月に廢せられ北條縣を津山に置きて美作國一國を管し、備前は岡山縣これを管せり。備中には江戸時代の間、倉敷に代官を置きて、附近の幕府の領地を支配せしめしも、明治維新の際に早くも倉敷縣置かれ、その他鴨方以下の九縣と共に十縣ありしが、明治四年十一月にこれ等を悉く廢し、なほ備後の福山縣を廢してその所領をあはせ、備後の深津に深津縣を置きて備中・備後兩國を管せり。然るに翌五年六月に至り、これを備中國笠岡に移し、小田縣と稱し、備中一國及び備後の東部の六郡を管せり。のち同八年十二月に至り、岡山縣は小田縣を併せ、更に九年四月に北條縣を併せて美作國をも併せ管するにおよび、備後の東部を廣島縣に移し今日の形勢となる。廣島縣は安藝國を管轄せしが、四年十一月には備後の西部八郡を管し、更に九年より備後東部の六郡を移管し備後・安藝二國を管し今日に至る。

明治三國に毛利氏に國体復さ四藩あり、此等は四年七月何れも縣となりしが、同年十一月これ等を廢し山口縣を山口に置き、防長二國を管し以て今日に至る。

【山陽線】國有鐵道の一。山陽本線・播但線・姫新線・宇野線・伯備線・芸備線・福塩南線・福塩北線・呉線・宇品線・可部線・櫛井線・山口線および美祢線の總稱。主として中國地方瀬戸内海沿面即ち山陽方面に通ず。(山陽本線)省線山陽線の幹線。主として中國地方山陽方面の瀬戸内海岸に沿ふ。東海道本線の神戸驛(神戸市)より發し西方の明石・姫路・岡山・倉敷・福山・三原・廣島・岩國・徳山・三田尻・宇部等の諸驛を經て下關市の下關驛に至る。全長五〇七・六粁及び兵庫驛(神戸市)より分れて兵庫區和田崎町の和田岬驛に至る二・七粁の線を分岐す。この線は東北本線・東海道本線と連絡する本州縱貫線の要部をなすものにして東京・下關間に直通特別急行列車を運轉し約十八時間半にして達し、神戸より下關まで約九時間二十分にて到着す。主要接續線をあぐれば神戸驛にて東海道本線、加古川驛にて社線播丹鐵道、姫路驛にて播但線・姫新線、和氣驛にて社線片上鐵道、岡山驛にて宇野線・社線中國鐵道、倉敷驛にて伯備線、笠岡驛にて社線井笠鐵道、福山驛にて福塩南線・社線備後鐵道、尾道驛にて社線尾道鐵道、三原驛・海田市驛にて呉線、廣島驛にて社線芸備鐵道、横川驛にて可部線、麻里布驛・櫛ヶ浜驛にて櫛井線、三田尻驛にて社線防石鐵道、小郡驛にて山口線、小郡驛・宇部驛にて社線宇部鐵道、宇部驛にて社線船本鐵道、厚狭驛にて美祢線、小月驛にて社線長門鐵道、幡生驛にて山陰本線、下關驛にて關門連絡船。

【山陽電氣鐵道】私設鐵道。兵庫縣南部瀬戸内海岸に沿ふ。明石市明石驛前驛より山陽本線に沿うてその南方を西に向ひ明石郡の諸村、加古郡の二見・別府・高砂等、印南郡の曽根・大塩等、飾磨郡の妻鹿・飾磨等の諸町村を經て姫路市の姫路驛前驛に通ず。全長三九・二粁。大正十二年に開通、軌間一・四三五米、省線と連帶運輸。

【山陽電氣軌道】私設鐵道。山口縣の西端にあり。山陽本線櫛生驛(下關市)より下關海峡の海岸に沿うて東北方の同市後田に通ず。全長二・三粁、軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸せず。

【山陽面】朝鮮慶尙北道慶州郡の東南端。北は山北面・皮溪面に接し、西南は蟾江を隔てて戸西南面に、南は永順面に、東は醴泉郡龍宮面に各相隣接す。域内は二七三米を最高とし他は概ね低く老年期の地貌を呈し波狀臺地連る。耕地は灌漑不便のため主に畑作行はる。產物は大麥・粟・大豆・煙草等にして、綿物には金・銀・銅・鉛等あるも稼行中のもの少なし。朝鮮鐵道慶北線は京釜本線全泉驛より分岐して尙州・成昌等を經て域内の南部を貫きて安東邑に至り、鐵道に沿うて二等道路を通じ乘合自動車の便あり。佛岩里に面事務所・警察官駐在所を置く。

【山陽面】朝鮮慶尙南道統營郡の西南端。牛島及び幾多の島嶼より成る。その最大の彌勒島を中心として、西に月明島・烏飛島・小碁軍島・昆里島・釜島等横たはり、南海には松島・楮島・鶴林島・晩地島・烟臺島・島谷島・内尖支島・外尖支島等あり。東は海を隔てて閑山面の閑山島・龍草島・比珍島等に相對し、北は統營邑に相對す。大白山脈の第一脈に當り、その末端部の沈降により前述の如き諸島嶼を形成せるものにて、海岸は岩石海岸を成し彎入に富むリヤス式海岸を成す。平地に乏しく耕地は傾斜面の利用が高度に發達し畑作を主とし沿岸住民は半農半漁なり。農產物は大麥・大豆を主とし其他甘藷・綿花等あり。水產物には鰯・鰊・鯛・石首魚・和布等あり。從つて陸路は概して海上交通良く開け、從つて陸路は概して發達せず。面事務所を彌勒島の西南端三德里に置く。

サンリギ 三里木 豐肥本線の一驛(大正三年設置)。熊本縣菊池郡津田村にあり。

サンリク 三陸 陝前・陝中・陝奥の三國を所謂三陝といふ。太平洋岸の此地方は古來屢々大津浪の來襲を受けしを以て知らる。最も大規模なる津浪は貞觀十一年五月二十六日(溺死者約一〇〇〇人)及び慶長十六年十月二十八日(溺死者伊達領約一七八三人、南部領溺死人馬三〇〇〇餘)にして、明治二十九年六月十五日及び明和八年三月三日の大津浪これに次ぐ。やや小規模なるものとしては延寶五年三月十二日、天保七年七月二十五日、安政三年七月二十三日、同二十七年三月二十二日の津浪あり。明治二十九年の津浪は明治以來我國沿岸に來襲せる最大のものなり。即ち六月十五日午後七時三十三分頃、三陸遙か沖合の海底に發生せる大地震に原因し、午後八時二十分頃津浪來襲、その爲めに蒙りし被害は家屋總計一〇三七〇、死者實に二一九五三人に上り、津浪の高さ陸前吉濱に於ける最高二五米に達すといはる。また昭和八年三月三日午前二時三十一分頃、三陸沖海底に發生せる地震は約三十分を經て沿岸各地に津浪の來襲を見、被害區域は北海道日高・十勝兩國の沿岸より南方福島縣にまで達し、その損害、死傷者四一一四人、家屋の流失・倒潰・焼失八九一三、船舶の流失・破損八一八〇、津浪の高さは岩手縣綾里灣に於て約二五米、廣田村にて二三米に達す。三陸太平洋沿岸の斯くも屢々津浪の來襲を受くるは、その沖合にスカロラ海溝を控へ陸地側傾斜面に於て大地震の頻發すること、沿岸に數多の小灣を抱へ、両も此等小灣の大部分外洋に面して口を開き最も津浪を受け入れ易き狀態にあることに基因す。昭和八年三月三日の大津浪以來、漁村の高地への移轉、防潮林或は避難道路の新設等津浪に對する災害防止策着々講ぜらるるに依り、爾來、津浪の來襲は免れ難きも災害甚しく輕減するものと思はる。

サンリズカ 三里塚 ↓遠山村(千葉縣印旛郡)

サンリバマ 三里濱 福井縣坂井郡、九頭龍川口の左岸、新保・濱四郷・東の諸村を經て廣里村に至る日本海岸の砂濱なり。

サンリン 三林港 ↓沙山庄(臺灣)

サンリン 杉林庄 臺灣高雄州旗山郡の中部。楠梓仙溪(下淡水溪上流)の中流域に跨りたる一帶の山獄地帶にて、楠梓仙溪は北隣甲仙庄より來りて、庄の中央部を蜿蜒として南下し、更に西隣旗山街との境界線の一部を爲して遂に旗山街の管内に入る。平地は僅かに同溪の流域に點在し、其他は山岳・丘陵重疊として起伏連續し、この僅かなる平地に向ひ東・西・北三方より迫れるがごとき地勢を爲す。南隣美濃庄との境には月光山(約六五〇米)聳ゆ。住民は福建・廣東・客籍の三種族より成り大部分農業を生業とす。地勢上耕地面積狹く、田一千四百餘甲、畑四百餘甲、合計一千九百餘甲なり。田の内、楠梓仙溪西側の一部は旗山水利組合の灌漑區域にして、約七百甲の二期作田を有するも、他は灌漑不能の爲め殆んど看天田なり。農產物は米・甘藷・甘蔗・苧麻・黄麻・黒物鎮なるも、何れも生產高微々たるものにして、爲に民力低く常に財政難を訴へる現狀なり。大字新庄・月眉方面には チーク の造林地多く、既に二十年を經過して、成功造林と稱せられ、殊に藷倉合名會社(所在地東京)の經營に係るものは、面積約七百甲、樹數六十萬本を超えて盛觀を呈す。庄荒本財產地にも チーク の植林を爲し成功す。交通は地勢上不便を免れず、加ふるに楠梓仙溪は庄を東西に縱斷せるも、之に對する橋梁の架設なく雨期は竹筏を以て辛じて交通し得る有樣にて、橋梁架設は當地方年來の大なる宿題となる。本庄を經由する旗山甲仙道路は、指定道路として兩三年前より多額の經費を投じ改修中にて、これが完成の曉は自動車の通行安全となり、地方交通に貢獻する所蓋し少からざるべし。本庄月眉及び旗山街同潭子の間の楠梓仙溪には、鐵筋コンクリート吊橋(月眉橋と稱す)架設せられしが、是は昭和九・十の兩年度州の體育事業にして、幅員五米、延長二百三十米、總工費十五萬圓に達し、地方の一大偉觀を爲す。本橋完成に依り、地方民の享受する利益莫大にして、實に奥地開發史上特筆すべきものなり。本庄は旗山街及び甲仙庄の中間に位し、旗楠自動車株式會社經營の旗山甲仙間乘合自動車は庄内を通過して、本庄交通の主動脈を爲す。庄の位置關係上、總ての生產力低く、住民は粟・黍・甘藷・苧麻・黄麻・黒物鎮なるも、何れも生產高微々たるものにして、爲に民力低く常に財政難を訴へる現狀なり。大字新庄・月眉方面には チーク の造林地多く、既に二十年を經過して、成功造林と稱せられ、殊に藷倉合名會社(所在地東京)の經營に係るものは、面積約七百甲、樹數六十萬本を超えて盛觀を呈す。庄荒本財產地にも チーク の植林を爲し成功す。交通は地勢上不便を免れず、加ふるに楠梓仙溪は庄を東西に縱斷せるも、之に對する橋梁の架設なく雨期は竹筏を以て辛じて交通し得る有樣にて、橋梁架設は當地方年來の大なる宿題となる。本庄を經由する旗山甲仙道路は、指定道路として兩三年前より多額の經費を投じ改修中にて、これが完成の曉は自動車の通行安全となり、地方交通に貢獻する所蓋し少からざるべし。本庄月眉及び旗山街同潭子の間の楠梓仙溪には、鐵筋コンクリート吊橋(月眉橋と稱す)架設せられしが、是は昭和九・十の兩年度州の體育事業にして、幅員五米、延長二百三十米、總工費十五萬圓に達し、地方の一大偉觀を爲す。本橋完成に依り、地方民の享受する利益莫大にして、實に奥地開發史上特筆すべきものなり。本庄は旗山街及び甲仙庄の中間に位し、旗楠自動車株式會社經營の旗山甲仙間乘合自動車は庄内を通過して、本庄交通の主動脈を爲す。庄の位置關係上、總ての生產力低く、住民は粟・黍・甘藷・苧麻・黄麻・黒物鎮なるも、何れも生產高微々たるものにして、爲に民力低く常に財政難を訴へる現狀なり。大字新庄・月眉方面には チーク の造林地多く、既に二十年を經過して、成功造林と稱せられ、殊に藷倉合名會社(所在地東京)の經營に係るものは、面積約七百甲、樹數六十萬本を超えて盛觀を呈す。庄荒本財產地にも チーク の植林を爲し成功す。交通は地勢上不便を免れず、加ふるに楠梓仙溪は庄を東西に縱斷せるも、之に對する橋梁の架設なく雨期は竹筏を以て辛じて交通し得る有樣にて、橋梁架設は當地方年來の大なる宿題となる。本庄を經由する旗山甲仙道路は、指定道路として兩三年前より多額の經費を投じ改修中にて、これが完成の曉は自動車の通行安全となり、地方交通に貢獻する所蓋し少からざるべし。本庄月眉及び旗山街同潭子の間の楠梓仙溪には、鐵筋コンクリート吊橋(月眉橋と稱す)架設せられしが、是は昭和九・十の兩年度州の體育事業にして、幅員五米、延長二百三十米、總工費十五萬圓に達し、地方の一大偉觀を爲す。本橋完成に依り、地方民の享受する利益莫大にして、實に奥地開發史上特筆すべきものなり。本庄は旗山街及び甲仙庄の中間に位し、旗楠自動車株式會社經營の旗山甲仙間乘合自動車は庄内を通過して、本庄交通の主動脈を爲す。庄の位置關係上、總ての生產力低

ば臺南府鳳山支廳に管轄せられ、他は總て臺南縣の直轄たり。同三十年地方制度改正に依り、月眉は鳳山縣阿里港拂務署（里港）に、他は總て臺南縣蕃薯寮拂務署（旗山）に管轄せらる。翌三十一年阿里港拂務署廢せられたるため、月眉は臺南縣鳳山拂務署の所轄に移りたるも、他の地方はその所屬に改變なし。同三十四年廢縣認廳の結果、蕃薯寮廳（旗山）を置かるゝや、その下に甲仙埔支廳（甲仙）を置かれ、本庄全部その所轄となり、同四十二年地方廳の廢合に依り、蕃薯寮廳は阿猴廳に合併せられたるため、本庄の所屬官廳たる甲仙埔支廳は阿猴廳の管下に移れり。大正九年地方制度の大變革に依り、里は撤廢せられ、本庄はもと港西上里に屬したる月眉庄及び補梓仙溪東里に屬したる山杉林（杉林と改稱）・茄苳湖・十張犁・新庄の四庄、計五庄を五大字に改め之を一括して杉林庄と稱し、高雄州旗山郡に編入せられて、庄役場を大字月眉に置く。（舊倉チーグ造林地）大字新庄にあり。東京藝倉合名會社の所有に屬す。專らチーグの新植を進め、保護管理に全力を注ぎたる結果、現在六十餘萬本目通六尺以上に達するものありて其だ楚來を驚嘆せらる。

サンレー　參禮面　朝鮮全羅北道完州郡の西北部。萬頃江の北。朝鮮一の平野たる全州平野の東北部を占め、沖積層より成る沃野にして古來朝鮮の寶庫と稱せられ萬頃江の灌漑と相俟つて農產頗る豐富なり。產物には米穀・煙草・蔬菜・炭・茯・胡麻油・牛皮・竹細工等あり。總督府鐵道全羅線は面の西部を橫斷し、中央に近く參禮驛（大正三年設置）ありて群山へ三七・八粁、全州へ一二粁の間にあり。また道路網よく發達し京城・木浦間の一等街道中央を南北に縱貫し之を軸に東に參高街道、西に裡里の各三等街道を分ち、其他等外路線放射狀に發達し交通運輸頗る便なり。聚落は域內散在し分布し東部に新金里・新草里・菊瓦里・別山里等、西部に石亭里・於田里・海田里等あり。

サンローシン　三浪津面　朝鮮慶尙南道密陽郡の東南端。洛東江と密陽江との會合點に當り、北端には金方山及び萬魚山（六七〇米）等の聳ゆるほか、著しきものなく、域內一般に丘陵性を成し、西南に漸次傾斜し密陽江・洛東江の各江岸には稍廣き平地橫たはる。產物には米・麥・煙草・果實・蔬菜等を產し、又水產物として洛東江の鮎・鯉・鰻等あり、殊に鮎は名產として廣く其名を知らる。總督府鐵道京釜本線は面內を縱貫し三浪津驛（明治三十八年設置）ありて之より更に慶全南部線を分ち、道路も京釜一等街道及び馬山街道何れも三浪津を中心として四通八達し各乘合自動車を通じ交通頗る便なり。三浪津は交通の要衝に位置し、附近は果樹の栽培に適し優良なる林檎・梨・桃及び桑苗等年產額三〇餘萬圓に達す。邑內に小學校・郵便所・興業會社出張所等あり。三浪津の東南二・五粁鵲院圃は洛東江に臨む要害の地にして、文祿役の際、小西行長の敵李珪等の兵を破りし古戰場にして、石を疊み穹窿狀の門を作り其上に層樓あり。

サンワ　三和面　朝鮮平安南道龍岡郡の略中央。妙香山脈の末梢部に位置し北端に近く鳥石山・神德山、西端に女兒峰・牛山等聳え、中央は南北に狹長なる盆地を成す。住民は勤勉にして主として農業に從事す。農產物には、米・粟・大小豆・大麥・棉花・煙草の他に綿布を產す。總督府鐵道平南線の終點驛飯南浦より約一〇粁、三等道路を通じ乘合自動車の便あり。其他の路線は何れも等外線にして車を通ぜず。面邑三和は盆地の略中央に位置し道路網の核心を成す。北端に近き黃龍城は鳥石山の南斜面を擁し、周圍約三・八粁高さ約四・五米の城壁を以て圍繞せる險要の山城にして、太古、箕子平壤に都せし時その孫を此地に封じ黃龍國と稱せしむ。本城に實に其居城なりと。

サンワン　三灣庄　臺灣新竹州竹南郡六庄中の一。本庄には純然たる山間の一小部落にして管內に丘陵多く、庄北には中港溪の本支西流するが故に、地勢は中央高くして南北に展け、若干の低地を見る。隨つて耕地僅少なれども、住民の生業とするところは農業にして米・茶・柑橘・甘藷・甘蔗等にその主たる產物なり。尙近年は內地より原蠶飼育のため來住する者あり、爲に發蠶頗に盛にして、本庄の地の高燥にして氣候溫和なれば斯業は今後益々發展の經路を辿るものと云ふべし。又山地よりの薪炭材・竹材の產出は庄下重要資源の一にして、農家に副業として行はるる牛・豚等の飼養と共に主なる產業をなす。炭頂寮には石炭鑛山あり、目下小規模の採掘をなす。三灣は庄下の要地にして庄役場の他に公學校等の教育機關も備はる。大河底は山間の一農村にして公學校あり。管內面積は三・三九〇七方里にして、行政上三灣・北埔・炭頂寮・銅鑼圈・內灣・下林坪・大河底・永和山・大坪林の九大字に分たれ、人口七千四百三十四人を有す。本庄の開拓は比較的その歷史淺く、中港溪に沿ふ內灣・三灣の地方まづ漢人により開かれしも、同地方と云へども嘉慶の初めまでは蕃地にて山蕃出沒ぜり。本庄の區域は清領當時、光緒元年の述懷に係る竹南一堡の一部なり。竹南一堡の名稱は其後我が領臺以後まで襲用せられ、領臺當初臺北縣に屬せし後、幾度か其管轄を變改せられ、大正九年十月の全面的地方制度改正により、本堡中の九庄（上記大字名）を割きて三灣庄と命名し、新竹州竹南郡の管下に屬せしめて現在に至る。

シ

シ　支川　朝鮮忠淸南道を流るる錦江の一支。靑陽郡斜陽面の聖住山東麓の北部に發源して東流し、次で流路を南に轉じ扶餘郡界を橫流し、九龍里に於いて東折し、赤谷面に發する支流を合せ靑場面の南端に於て錦江に合流す。流程約四四粁。流域に沃野拓け沖に中流以下は江景平野の北兼に當り米產頗る多し。

シ　志村（ジ　地）　↓志村（東京市）

【地ノ島】　↓友ヶ島（和歌山縣）

【地ノ島】　福岡縣宗像郡岬村に屬する島。岬村の餘ノ岬の西北約一・五粁、西は大島に相對す。島內は丘陵性山地をなし、島嶂は南北に二あり、南は約二〇〇米、北は約一七〇米、島の南東角より南々東五・四粁に亙る一長堤嘴あり。この嘴端と陸岸とに狹水道あり。島の南東角に偏西の風浪を防ぐ好錨地あり。享保年間、支那商船ここに來り密に貿易を行ふ、幕府屢々禁ずるも合背はれず、因て同五年福岡藩士、船を焚き乘組員を殺す。これ以後清國船の來ることなし。

ジー　祖父ヶ岳・爺ヶ岳（ジ　じ）　後立山山脈の一峯。長野縣北安曇郡平村と富山縣上新川郡立山國有林地域に跨る。針木岳より北方鹿島槍岳に續く山稜の屈折點に聳ゆ。標高二六七〇米、山容美しき三角形をなす。山名は春季側斜谷に消え殘る殘雪の種蒔蒼に似るに因ると云ふ。南東方大町より鹿島川谷に沿ひ、その支流大冷部より西麓へ進み、登高するが順路とす。最近種漁（祖父ヶ岳とその南西稜なる岩小屋澤岳との中間頂稜に位す）近くに番人居住の山小屋設けられ、附近諸峯への縱走は稍安易となる。西麓黑部川谷よりは登攀略ど不可能とせらる。

シーザキ　椎崎（しひ）　↓日向村（千葉縣山武郡）

シーシバ　椎柴村（しひ）　千葉縣下總國海上郡の北部。利根川下流の西南岸に位す。南は船木村・鵜巢村、西は瀧郷村、北は香取郡豐里村と隣す。村內の大部分は丘陵地にて森林多く、丘陵の間に畑地を交ふ。利根川沿岸には稍低地ありて畑地をなし一部には水田あり。銚子市に通ずる縣道は川沿ひに東南に走り省線成田線又これに沿ひ、村內東端に椎柴驛（昭和八年設置）を置く。また南部を總武本線東西に走り猿田驛（明治三十一年設置）を置く。此地は和名抄、海上郡船木郷の內にして、明治二十二年町村制施行の際小船木・野尻・塚本・忍・猿田を合し椎芝村と稱せしが、同二十四年椎柴村と改稱す。

シーダ　椎田町（しひ）　福岡縣豐前國築上郡の北部。周防灘に面す。北は八津田村に接し、西は築城村及び椎島城村に南は西角田村に界す。面積六・七四方粁。行橋平野神積原の一部を占め土地平坦なり。城井川は南方より流入する數條の支流を合せ北部を東流して周防灘に注ぐ。山地は僅に西南隅に國見山東北麓の約一〇〇米の臺地存在するのみ。地勢上水田多く古來豐前米の產地として名あり。また水產業も行はる。東部には日向街道通せ松並木の間を走る。之に沿ひ城井河口に主要落存在す。この西に省線日豐線通過し椎田驛（明治三十年設置）を置く。此地古くは和名抄、築城郡大野郷の內に屬せしものゝ如く、中世以降海驛にして湊町とも稱す。（綱敷神社）高塚に鎭座。縣社。祭神、天穗日命・菅原道眞・吉祥女。昌泰三年の創建と傳ふ。菅公太宰權帥に左遷せられ、此地蓑島を過るとき海上風波の難に遭へるを土俗救助するに艫綱を以てすと、或は此名これに因るか。菅公の靈を慕ひ此處に一祠を營む、蓋し公の芳躅を追慕せる土俗の創始に係るものならん。一に椎田天滿宮・綱敷天神・綱場天神・菖蒲之宮と稱せらる。天文・文祿の交、九州提醒に社頭一時類燒せり。拜殿は社僧を置き別當を紅梅山昌福寺と云ふ。此地は周防灘に臨み風光清く俗に湯松濱と稱す。例祭八月二十五日。（金富神社）大字湊に鎭座。郷社。祭神神哀天皇・應神天皇・神功皇后外二神。奈良時代神龜元年、大神某この地に宇佐八幡を勸請すと傳へ、また宇佐宮に祕藏の宮殿を當社に假泊永安せらるゝなど恒例としたりといふ。例祭三月十八日。

シーツ　椎津（しひ）　↓姉崎町（千葉縣）

シーナ　椎名村（しひ）　千葉縣下總國千葉郡の西南端。北は千葉市との間に生濱町を挾み、南は市原郡市東村・菊間村に隣接す。概ね低き洪積層臺地にして著き谷はこの臺地を開析し、東部に沖積地あり。氣候溫暖、風物豐沃農耕に適し各種の農產物に富み且つ千葉市・東京市に近接するを以て前途益々有望なり。農產物は米・麥を多產し蘭・瓦・清酒を出し、養鷄も盛なり。縣道は西南部を通じこれより中部を南北に走る街道を分ち千葉市にパスを通ず。古くは和名抄、市原郡菊間郷に屬せしものの如く、中世は千葉氏の所領に屬し當時椎名郷と呼べり。千葉氏の族この地に住み地名を負うて椎名氏を稱す。大宇古市場はもと市原郡菊間村の古市場と共に一村をなせり。

シーバ　椎葉村（しひ）　宮崎縣日向國西臼杵郡の南部。九州山脈の東斜面に位し、美々津川の上流を占め北は鞍岡村・三ヶ所村に、東北は諸塚村に、東は東臼杵郡に、南は兒湯郡に各々界し、西は熊本縣に隣す。面積五三七・一二方粁の大村。西端に九州山脈連りて西北端に向坂山（一六八四米）あり、其西に三方山（一五七八米）あり。更に高畑（一五六三米）・國見岳（一七三九米）・五勇山（一六四四米）・

鳥帽子嶽（一六九二米）・銚子笠（一四八九米）等南方へ連り、五勇山の少し東南には石堂屋（一三三六米）ありて、之等山地は九州山脈の一部をなし西北の向坂山より一山脚北或は南に曲りつゝ略東に延びて北及び東北境を繞らし向坂山の南の北境に白岩山（一六四六米）あり。南部には國見山脈連亙し西南隅に市房山（一七二二米）あり。其北に江代山（一名都野岳、一六〇七米）あり。一つは更に北へ小峰走りて九州山脈と續き一つは江代山より東東北へのびて高塚山（一二九〇米）・石仁田山（一三六一米）を起し、東境の清水岳（一名山神岳、一二〇五米）へ續く。この北・西・南の山地の間は壯年期の美々津川の谷をなし、西北境三方山より源流する美々津川は、三面より幾多の支流をあつめて曲折しつゝ東流す。北方より來るものに十根川あり。國見山脈の一峰石仁田山の東方より一山脚南へ延びて三方嶽（一四七六米）・樋口山（一四三五米）・石堂山（一五四七米）を起して南北の方向に南境中央を限り、國見山脈との間に谷を造りて一ツ瀬川こゝに發源して南方へ向ふ。三方嶽の東に九萢山（一三五七米）あり。全村山地深く八割は自作農を營み他は商工業其他の生業をなせども耕地狹く米・雜貨は移入す。移出するものは木炭・木材・椎茸・栗・楮皮等なり。美々津川の谷に沿ひて一路は東西に走り之より岐れて北・西・南の山地を越えて他町村に通ずるものあり。北方へ至るものには黒嶽の南にて横尾峠（一三四一米）を過ぐるもの、國見峠（一二四一米）を越えるもの、霧立越を過ぎて白岩山峰をこえるもの、雷坂をすぎ高嶽の尾根を傳ひ西北方へ延びるもの等あり。五勇山より其北方の國見嶽との間の尾根を走りて西方へ至るものもあり。南方へのびるものには國見山脈の高塚山を過ぎて一ツ瀬川上流の谷へ出で之より一は西南へ向ひ市房山西北の湯山峠（九四八米）を越え、一は川に沿ひて南方へ出で、一は略東へ走りて櫃鼻峠（一二八九米）を過ぎるもの等あり。又美々津川谷より國見山脈中山峰をすぎて東南方へ向ふもの、清水岳の西の接ノ峠を過ぎるもの等あれど交通微して不便とす。此地は肥後の五家庄に隣り、傳ふるところに據れば寿永四年壇ノ浦の戰に敗れたる平氏の殘黨この地に隱るといふ。炎て元久二年那須與市の弟大八郎宗久これが追討の命を受けて來りしも、平氏の殘黨はもはや刀槍を捨てて農耕に從事し居たるを以て宗久は小城郭を築き、平氏の祭祀する厳島神社を勸請し、また清盛の末族たる田鶴姫を娶りて以て部落民を懷柔す。平氏の殘黨また心を安んじてここに落着くに至ると。而して宗久はその住居の壁を椎の葉を以て葺きしを以て村名椎葉の名起るといふ。村内に六彌太の湯あり。高さ三六米、幅九米あり。また大宇松尾に鄉社椎葉神社あり。例祭十一月二十四日。（財木鑛山）美々津川上流地方、宮崎・熊本兩縣境に近き山中にあり、本邦重要鑛山の一。附近は主として古生層粘板岩より成りその北方に花崗岩を見る。鑛床はこの粘板岩中にレンズ狀に挾まれる含銅硫化鐵鑛床にして厚さ最大一〇米、東西に向つて一〇〇米以上の延長を有し、北方に向つて地下五〇米以上に達し、なほ下方に連續す。鑛石の品位は銅約一・五%、硫黄四〇%。その發見は遠く元禄年間に遡れど、銅の含量比較的少なく、明治以降も屢々開發を試みられしも、交通不便にして成功せざりき。然るに近年硫化鐵鑛の需要激增に伴なつて、新たに注目せらるるに至り、昭和三年日本窒素肥料會社の有に歸し、昭和八年よりいよいよ採掘に從事す。かくて同十年、その産出額七、七六二瓲、價格十一萬圓に達し、これを索道によりて馬見原街道に出し、更に三五粁の間を自動車に托して、熊延鐵道硫用鐵に出し、汽車にて日窒水俣工場に送る。（八村杉）指定天然記念物。目通幹周約一三・五米、樹高約五四・五米、枝下約二七米、直幹屹立樹勢旺盛にして杉の巨樹として代表的のものなり。

シーバル 椎原村 熊本縣肥後國八代郡の東南部。九州山中にありて球磨川支流川邊川の發源地に近く其左岸に沿ふ。西北は柿迫村に北は仁田尾村に東に椎木村に南は久連子村に界し、西南は球磨郡五木村に接す。東南隅に上福根山（一六四五米）あり。其西に茶臼山（一四四六米）峙ちて南境をなし北方へ傾斜して北境を東北より西南へ流れる川邊川の壯年期の谷に終る。全村山地深く耕地面積乏しきため農産額少けれど栗・甘藷等を出す。また山地より木材・薪炭を產す。道路は一路西部山地を縫ひつゝ南北に向ふものあれど交通不便なり。地は五家庄の内にして平家殘黨の居住地として名高し。いま柿迫村・椎木村・仁田尾村・久連子村・椎木村・樅木村と共に組合村を成し柿迫村に役場を置く。

シアク 鹽飽諸島 ジヨウタともいふ。香川縣にある島。丸亀・多度津の北。瀬戸内海に散在する群島の總稱。東は備讃海峡、西は三崎半島並に燧灘に、北は水島灘に連り、西北は岡山縣に屬する神ノ島の一群と相並び、東北は岡山縣兒島半島に對す。廣島・本島・櫃島の如き大島より コソロイ・チソロイの如き小岩礁に至るまで、大小三十餘島より成る。瀬戸内海の略中央に位し、東西兩潮の合流點に當り潮流高く鹽飽（ジホウタ）の現象を呈するを以て鹽飽と稱せりと云ふ。また諸島中を結ぶ鹽飽瀬戸は、瀬戸内海中に於ける最深所の一にて大船唯一の航路をなす。いま本島村・與島村・廣島村・佐柳島村・高見島村（以上仲多度郡）、櫃島村（三豐郡）の六村に分る。主に花崗岩質より成り、所々片麻岩より成る所あり

（牛島・志志島）。又之を置く安山岩に被覆せらるる所あり（高見島・佐柳島）。本諸島は瀬戸内海と成因は同じく、陷没により生ぜしものにて、島は構造線・斷層線に沿ひて並列す。本諸島は位置上・交通上重要地點に當るを以て古來重要視され、神武天皇御東遷の際此要地に倚らせ給ひしを始め、景行天皇の御西征には交通を妨ぐる惡神を征し給へりと傳へ、武家時代に入りては讃岐香川家は諸島に守兵を置き、室町時代には細川管領に屬し、また大内家に就き、大友氏瀬戸内海の勢力を領し交易をも營み、天文頃明國に入り武勇を誇かし、豐太閤九州征伐には島民案内者となり、高麗陣には運輸を勤め、江戸時代に入り河村瑞賢北海の運漕開始の際の如き、鹽飽の船隻は完璧精好他所に及ぶべからずとして重用せらる。斯く本諸島民は古來海事に從事し、時に海賊の名をとり捕たりと雖も、又我國海軍の根據地と稱せらるべく、諸島中の一なる粟島には海に臨みて航海學校の設あり。島民は今なほ海事に從事する事多く、殊に島陰には漁獲發達、好漁場をなすを以て漁撈に從事する者多く、瀬居島附近の如き、金山鯛の漁場ななる。本諸島は地勢山岳性なるを以て農産は少きも、地質上石材の富を有し、廣島の如き花崗岩の良材並に硅子原料砂を出す。なほ本諸島は瀬戸内海中、鳥嶼美を表はす中心地なるを以て、海の國立公園に指定せらる。

シアン——シイタ

シアン 思案橋 【思案橋】 東京市日本橋區小網町一丁目と二丁目の間に架せる橋。江戸時代に、元吉原の遊廓に行くか堺町の芝居に行くか、この橋の邊が決定地點にありしゆゑ其名出づといふ。柳樽「どの道に歸る思案の橋でなし」 樽菊・初「吉原が引けて思案は要らぬ橋」

【思案橋】 今の大阪市東區内にありし橋の名。東横堀に架し、大手町と瓦町とを通ず。いま大手橋といふ。今宮心中・上「善惡二つを喰み分けて、六義を氣す榮崎に、思案橋を思ひ出す」

シイ 四圍堡 臺灣臺北州宜蘭郡の古地名。その區劃はいま礁溪庄の内、大字白石腳を除きたる全部に、壯圍庄の内、土圍・新發・古亭笨・五間・抵美の五大字を合したる地域に相當す。清朝時代の同治十三年四圍（即ち今の礁溪庄四結）の地は堡の中心なるを以て、取りて堡名となす。我が領臺後に依然存續し、大正九年十月地方官々制の改正に依り廢止せられ、前記二庄に分割せらる。

シイダニ 志比谷村 福井縣越前國吉田郡の東南部。東は上志比村、西は吉野村、北東は下志比村、南は大野郡及び足羽郡に相接す。全村略ど山地にして北方に二本松山（二七三米）、南部に劍ケ岳（七九九米）・吉野岳（五四七米）、下志比村との境には城山（四七四米）、東方には大佛寺山（八〇七米）等聳ゆ。永平寺川は劍ケ岳に發し金山を下流に流れ村の中央を西行北進して下志比村に入り九頭龍川に合す。産業は農業を第一とし蠶業も行はれ、特に工業者（主に細工物）多く五六十戸を降らず、名匠も多し。物産としては米・麥・薪炭・木材・鹽の外、識訪間の杜父魚も長二〇糎あり、昔は相當名高かりしが今は多く棲息せずまた採捕を禁止せらる。名物に栃羊羹あり。永平寺街道は吉野村より越坂峠を經て本村に入り大字京善に出で永平寺川に沿うて永平寺に至る。近來社線永平寺鹿道開通して永平寺門前・荒谷・京善（前後者は大正十四年、中者は昭和五年設置）の三驛を置き下志比村の永平寺口にて越前電鐵と交叉し北進して坂井郡金津町に至る。大字志比は下志比・上志比の兩村と共に村名の起原地にて、有名なる曹洞宗の大本山永平寺ありて昔より其名を喧傳せらる。村内には猿猴甚だ多く、冬季には猿狩を行つて農作物の被害を防ぐ。本村の地は下志比・上志比の二村の地と共に中世は志比庄と稱せらる。永平寺の開基たる波多野出雲守義重は蓋し志比庄の下司地頭なるべく、鎌倉殿の家人たり。（永平寺） 大字志比にあり。曹洞宗。吉祥山と號し總持寺（横濱市）と共に當宗大本山の一。寛元元年、越前國司波多野出雲守義重の開創に係り、道元を請じて開山とす。初め道元、宋に渡りて居ること五年、安貞元年歸朝するや山城國深草に興聖寺を創して之に居す。時に義重は京にありて道元に歸依すること厚く所領なる此地の吉峯の古刹を改修して其來化を請ふ。道元曰く我師如淨禪師は越州の人なり、いま越前に赴くは恰も師に見ゆるが如しとて、興聖寺を出でてこれに赴く。時に寛元元年七月なり。初め吉峯に鍋を掛め火で禪師峯に移り、傘松の邊に一宇を經營す。初め傘松峯大佛寺と號せしが同四年永平寺と改稱す。蓋しこれ佛法初めて支那に入りし後漢明帝の年號に因むといふ。更に寛治二年吉祥山の號を冠む。時に朝野の尊崇漸く篤く殊に後嵯峨上皇禪師の德風を欽仰あらせられ、勅使を遣はして紫衣及び佛法禪寺の號を賜はりしも、禪師は拜辭して二度までこれを受けざりしも、三度目にこれを拜しその天恩を深く謝し奉れりといふ。かくて禪師山に在ること十年、建長五年孤雲懷奘に當寺を讓り京に入りて病を養はれしも、同年八月二十八日遂に示寂す。元亨元年三世徹通の弟子瑩山分立して能登に總持寺を開き、次でこれに因世道場の勅宣を賜りてより當寺を祖山とし彼寺を本山とするの形勢となり、從つてこれより兩寺の軋轢絶えず。慶安四年九世宗晉の時、後圓融院宣して因世道場と定められ日本曹洞第一道場の扁額を賜ふ。元和九年德川氏諸宗法度を發布するに方り、永平總持の兩寺をして宗事を協同管理せしむ。寛文元年福井藩主松

平光通寺領五十石を寄せ、延喜四年同昌親更に二十石を加ふ。天明六年一部を焼失し天保年間復旧成る。嘉永七年、孝明天皇より道元に佛性傳東國師の諡號を賜ふ。明治五年禅持寺と共に當宗の兼本山となり當寺はその上位たり。尚して曹洞宗務所を東京に設置し、兩山の貫主一年交代にて、管長職に就き以て一宗を統轄す。同十二年道元に永陽大師の勅諡號を賜ふ。同二十四年高祖六百五十回忌を修行す。同四十二年東宮行啓あり。昭和五年孤雲六百五十回忌に方り佛殿・大光明蔵・傘松園以下諸堂の大改修並びに附築を行ひ一山堂宇の景觀こゝになり宏壮更に其偉を加ふ。開創以來、法燈實に七百年現に地蔵院・嶺梅院・長壽院・陽昌院・永陽院等の塔頭と一萬五千餘の末寺を擁し一千餘萬檀信徒歸仰の的たり。寺域は兩峯間雄の靈域にして、堂宇凡そ七十有餘古色蒼然たる堂殿に明治以後の再建に係る近代建築を配す。寺寶中、紙本墨書後醍醐天皇宸筆一幅・同御宋人如詳筆高祖嗣書一幅・銅鐘（銘嘉暦二年八月二十四日造）一口は共に國寶なり。

シウンジ　紫雲寺村　新潟縣蒲原郡の北部。新發田町の北方約六粁。西北は松塚村・魚代村を隔てて日本海に臨む。東北は柴地村に、東は加治村に、西南は寺龍村に界す。西北に海岸丘陵を負ひ、東及び南は下蒲平野の一部をなし水田拓け、南部に柴岡あり、米・蔬の産多し。村の略ぼ中央を西南・東北に貫通せる縣道あり、聚落は続ね之に沿ひ街村をなす。其他、之に交錯して海岸・新發田町を結ぶ縣道及び急傾の道路分岐し附近町村に通ず。本村遊一帯に往時、紫雲寺湯・豊津湯と稱する方八粁ばかりの湯湖なりしが、のち埋没す。江戸時代新發田藩が本村の附近に工事を起し開墾せんとするや、近傍諸村民の利害相一致せず爭訟頻に起りしも、享保十五年遂に和約成り、現今この地附近に見る如き農業繁榮の基ここに定まるといふ。

シオ　之乎路（志雄町）　石川縣能登國羽咋郡の南部。西北は邑知村・富永村・粟ノ保村に、西南は北荘村・柏崎村に、東は富山縣に夫々境し、西は海に面す。東境は越能を分つ寶達山脈連り二三百米の高さなるも次第に西北に傾斜し、邑知湯地溝帯の南端を占め、更に海岸沙丘を距て海に臨む。村の東南隅に發源せる子浦川は略中央を西北に流れ、羽咋町に入り羽咋川となる。平地には水田多く、山地は森林をなす。地溝帯兩邊の山麓に沿ふ縣道、及びこれより國境を越え越中に通ずる二條の縣道あり。省線七尾線は村の西部を貫き飯波驛に近し。此地古くは志雄庄と稱せられしが、近世、志雄・南志雄・北志雄の三村に分れ、更に昭和八年に鶴川・志雄・南志雄・北志雄・南邑知の五村を合し新たに志雄村を立て、昭和十一年に至り町制を布く。萬葉・一七に「之乎路から直越え来れば羽咋の海朝なぎしたり鯨構もがも」とある之乎路は、此地より越中國氷見郡に通ずる路をいふものならん。また村の東北にある志雄山は木曽義仲が平家の軍を破りたる所として知られる。（新宮鐵泉）大字新宮にありて新宮川に臨む。泉質鹽類泉、豪臣時代、猛將佐々成政は馬の首を斬りて湯中に投げ入れてより、湯の温度降りて冷泉となるといふ傳説を傳ふ。（菅原神社）大字菅原に鎮座。縣社。祭神、菅原道眞。天慶四年菅家に因故ある國武行長なるもの京都北野より勧請して創祀す。新宮城主厚くこれを崇敬し社領百石を寄す。例祭四月二十五日。

シオ　紫尾村　茨城縣常陸國眞壁郡の東南部。筑波山の西北斜面を占む。東より北は眞壁町・西は長讃村・大村、南は筑波郡筑波町と隣す。東南隅は筑波山頂（八七六米）にて村の大部分はその西北斜面を占め森林地帯たり、北部より西部はその山麓の平地にして西境を櫻川南流し、水田多し。縣道はこの平地を南北に通じ南は筑波町、北は眞壁町に至る。社線筑波鐵道線またこれに沿ひて北走し、村内の北部に紫尾驛（大正七年設置）を置く。此地古くは和名抄、眞壁郡伊讃郷の内に屬せしものの如し。大字椎尾は中世の四保の遺稱なるべし。新富常陸國誌に據れば小山政村は富岡村田氏・四保氏・羽坂氏等の祖にして、政村の孫政盛は村田五郎左衛門と稱し、其子貞光以來子孫世世其職を襲ひて村田庄四保の地に居し四保氏を稱すと。（長願王寺）山田にあり。天台宗。筑波山大法原院と號し上野寛永寺に隷す。延暦十一年傳教大師の創建に係る古刹にして、號は勅願なりと傳ふ。寛文二年本孝和尚の中興に係る。慶安元年徳川氏より寺領二十三石を附せらる。境内に薬師堂ありて行基作と傳ふる薬師佛を祀る。（薬王院）椎尾にあり。天台宗。椎尾山椎尾寺と號し、本尊に椎尾薬師と稱す。坂東屈指の古霊場にして、上野寛永寺に屬す。延暦元年の創建に係り最仙和尚を開山とし桓武天皇の勅願所たり。天長二年慈覺大師再興して伽藍所となす。圓來法燈國師十四の寺坊を有し、慶長八年には徳川秀忠百石の朱印を寄す。正保三年災厄に遭ひて一山焦土と化し、延寶八年尊孝法印のとき再建成る。維新後、寺運大いに衰へしも、のち漸次修覆して往々復興す。境内頗る廣邃にして地方の名刹たり。

シオ　潮崎　兵庫縣淡路國三原郡の最南端、灘村と阿萬町の境にある崎。此地は和泉山脈と東西に連絡する南部山地（中世代白亜紀層より成る）が海に迫りて海渡に洗はるる所。いま要塞地帯内に包括せらる。此附近は有名なる潮流の早き所にて鳴門海峡の南方古む。對岸なる阿波國（徳島縣）里ノ浦町との間は船舶航行の難所たり。小舟ひく綱のうけ綱よりくめりうきしわざなる沙崎の前　西行」

シオ　鹽山（しほ）→鹽山町（山梨縣）

シオージ　四王子山（しおう）　大野山（福岡縣）の別名。

シオアナ　鹽穴（しほあな）　和泉國（大阪府）大鳥郡の古地名。和名抄に郷名見ゆ。之保乃阿奈と訓ずれども高山寺本には乃の字なし。姑くこれに從ふ。鹽穴は即ち鹽野にして鹽田の意なりといふ。此地、中世は鹽穴荘と稱せしこと延元元年の粉河文書等に見ゆ。いま堺市の南部に鹽穴（沙穴）の字あり、これ古地名の遺稱とす。

シオイ　鹽井（しほ）　【鹽井村】山形縣羽前國南置賜郡の中部。米澤市の西北部に隣り、東北は窪田村に接し、西は鬼面川を隔てて千歳村に相對す。米澤盆地の南部に位し土地低平、東南境を最上川の一支松川、また松川の支流鬼面川は西境を尖々北流す。寛政六年鹽井忠寄以來の水利事業により灌漑の利よく、全村殆ど水田化し僅に鬼面川岸に桑畑・砂地を見るに過ぎず。米作を主とする農村にして副業的に養蚕も行はる。南方米澤市に達する街道中部を南北に貫通しバスの便あり、米澤市に隣接するを以て交通便なり、比較的大なる聚落は大字鹽野のみにして他は散村型集落をなす、蓋し水利の關係と地形の支配によるものの如し。此地はもと鹽野・宮井の二村なりしもの、のち合併し各一字を合して現村名となす。鹽野・宮井はいま大字たり。

【鹽井川】静岡縣小笠郡掛川町の西部にある小流。勝薬毛・三中「それより鹽井川といふ所にいたりけるに、昨日の雨つよくして橋おちけるにや、行かふ人みづから股引をとり、すそをまくりあげて、愛をわたるに」

シオイリ　鹽入（しほ）　香川縣仲多度郡十郷村の大字。土讃線の鹽入驛（大正十二年設置）を置く。

シオオカ　鹽阜（しほ）　今の兵庫縣揖保郡の内にありし古丘名。古は林田郷の内にして、今の林田町の北方にありしといふ林田城は、この丘にありしものならん。播磨風土記・揖保郡「鹽阜、惟阜之南有二鹹水一、方三丈許。與レ海相通卅里許。以レ礫爲レ底、以レ草爲レ邊。與二海水一同二往来一。潮時深三寸許。牛馬竈等嗜尚飲レ之。故號二鹽阜一」

シオガシラ　鹽頭（しほがしら）　筑紫本線の貨物驛（明治三十六年設置）。福岡縣鞍手郡小竹町にあり。

シオガマ　鹽竈・鹽釜・塩釜（しほ）　【鹽竈】俗に鹽釜・塩釜とも書く。宮城縣陸前國宮城郡の東部。仙臺市の東北方約十粁、西北は利府村に、西南は多賀城村に隣接し、東は松島灣の一支灣鹽竈灣に臨む。西北南の三方は洪積層臺地を繞らし、海濱及び臺地を浸蝕する小流に沿うて低地あり。鹽竈灣の陷没により海岸は屈曲に富み、灣中には幾多の小島を浮べ、河口に鹽竈港ありて仙臺市の外港をなす。地質は一般に水成岩より成り砂岩・礫岩・凝灰岩等も多し。土性は粘土地にして砂土に乏しく、砂壌土及び壌土の箇所少く全面積の約一割にすぎず。恒風は全年を通じて北西、春は西北西、夏は南東、秋は北北西、冬は西北西風が卓越し、年平均雨量一一一九粍、雪は十一月下旬に始り四月上旬に終る、此間、降雪日數約五十六日を算するも積雪五〇糎を出でず。濃霧は四季を通じて發生するも夏季に多く冬期に尠し、特に六月より十月に至る間、朝四時頃より七時頃まで發生すること多し。職業別戸數は全戸數五三〇六（以下數字は總て昭和十一年現在）のうち商業一五二一戸、工業七二八戸、公務自由業五三四戸、交通業五三一戸、水産業一三五戸、農業一二二一戸とす。商業・交通業の多きは良港を持ち且つ仙臺市の外港なるによる。工産物は水産に關係する製氷（價額約二二萬圓）最も多く木竹製品（約一三萬圓）・菓子類（約三萬圓）・味噌醤油（約三萬圓）・石細工（約一・四萬圓）等の家内的工業これに次ぎ、金屬工業は極く少し。水産は好漁港及び魚市場あるを以て殷盛を極め、業主五二人・被傭者五七一人、製造業主一七三人・被傭者一一三三人、製蔵業主三七人・被傭者四三人。漁獲物は鰹・鰯・鮪・鰤・鮫・鱈・鮃・貝類・アマノリ等にして牡蠣・海苔の養殖も行はれ、水産製造物も少からず。農業方面は耕地面積僅に一八ヘクタール（田七・六ヘクタール、畑一〇・四ヘクタール）にすぎず、米（一七〇七石）・麦（一一七八石）の外、大豆・甘藷・馬鈴薯・大根等を僅に産す。なほこの地の凝灰岩は房州石と同質の軟石にして耐火性に富み廉價なるを以て採掘され、東京へも搬出せらる。古來仙臺市の門戸をなし東北本線岩切驛より分岐する省線鹽竈線通じ鹽竈驛（明治二十年設置）を置き更に多賀城村字一本松の鹽竈港驛（昭和八年設置）に線さ、社線宮城電氣鐵道海岸沿ひに走り西鹽釜驛（大正十四年設置）・本鹽竈驛（大正十五年設置）・東鹽釜驛（昭和二年設置）を置く。縣道としては仙臺鹽竈線・七北田鹽竈線・苅田鹽竈線・吉岡鹽竈線・松山鹽竈線・鹽竈停車場線等あり、仙臺市との間にはバスを通じ、海上交通また發達し松島遊覽の松島鹽竈間には定期遊覽船あり。此地は一名千賀ノ浦と稱し古來風光の美と奥州一宮鹽竈神社の鎮座するによりて夙にその名著はれ、往時は一漁村にすぎざりしも伊達領に屬したる藩政時代は藩下最重要の漁港として繁榮す。從つて臨時灣内を浚渫して碇泊の便を計り且つ此地に限り商税賦役を免じ、鮫院を置き、魚市かを開く等特殊の保護の下に專らその繁榮を企圖せらる。明治初年に物資の集散地として目され、築港の氣運既に擡頭し割策する所あ

り、明治十五年より岩壁を築き市街地擴張の工事を起す。次いで同二十年鹽竈線開通し、同三十三年に至り三陸沿岸諸港との運航開始により初めて海陸連絡の端を發し、同四十一年現三陸汽船等創設せられ三陸沿岸諸港との定期航路を開始したるため、この地方の物資の移出入は主として本港を經由、爾來漸次發展して今日の殷盛を見るに至る。此地古來風光の美に富み、文人墨客の訪ねるもの多く、霞・雪・春月・螢・鴨・松・舟等の名所として知らる。古今・二〇「我がせこを都にやりてしほがまのまがきの鳴のまつそ戀しき」千載集「しほがまの浦ふく風に霧はれて八十島かけてすめる月かげ」清輔。新古今集「ふけゆかば今日にもあらししほがまのうらみなはてそ秋のよの月」慈圓。奥の細道「名取川を渡て仙臺に入あやめふく日也、旅宿をもとめて四五日逗留す、爰に畫工加右衛門と云ものあり、聊心ある者と聞て知る人になる、この者年比さたからぬ名ところを考置侍れはとて一日案内す。宮城野の萩茂りあひて秋の氣色思ひやらるる玉田・よこ野・つつじが岡はあせび咲ころ也。日影もちらぬ松の林に入て愛る木の下と云とぞ、昔もかく露ふかければこそみさふらひ三かきとはよみたれ藥師堂天神の御社など拜て、其日はくれぬ、猶松嶋鹽がまの所畫に書きて捨る。〔鹽竈港〕本邦第二種重要港灣。鹽竈港の西北支湾にあり。風向は夏月を除けば西北風最も强く且つ多きもこの期間は比較的波靜なり、温度は一——三月を除けば結氷點下に降下する事稀なり。潮流は干潮のために水位の差を生ずる結果起る潮流にして方向は大體航路の方向に流る。元來仙臺の咽喉を扼したるは石巻港なり。石巻港は本港との距離大ならず、水運の便多き北上川口に位し、農産物殊に米の産出多き上流地方との交通も至便なりしにより船舶の出入多く繁華を極む。之に反し、鹽竈港は一漁港に過ぎざりき。明治に入り物資漸く大量的に輸送せらるるに至り、大型船舶の必要を生ず。然るに石巻港は土砂の流出堆積により大船舶の出入、碇泊に適せず、玆に於て鹽竈港は漁港の外に石巻港に代りて物資の集散港となるに至る。かくて大改修の必要に迫られ大正四年に起工し昭和六年を以て漸く多年の宿望たる築港の第一期工事の竣工を見る。然るに海運界の趨勢は遂次大型汽船の建造に向ひ本港また航路水深の浚渫を請願し昭和七年度より三箇年の繼續事業として增補工事を施行す。昭和二年六千噸級汽船の内港入港を見たるより漸次大型汽船の入港增加し政府は昭和七年砂糖輸入指定港とし同八年稅關を設置し、また開港場と指定す。〔鹽竈神社〕國幣中社。祭神、健甕槌神・經津主神・鹽土老翁神。古名六所宮。社傳によれば上古健甕槌・經津主の二神、當原中國に天降りて荒振神を平げ給ふ時に鹽土老翁を嚮導として諸國を平定し此地に至りて其功を終ふ。國人この三柱の神を奉祀し總稱して鹽竈大明神と號すと云ふ。當社は延喜の神名帳に載せざれど、主殺式にその祭料一萬束を載す。中世に至り源頼朝その他武門の崇敬篤く、慶長十二年夏伊達政宗は千家山頭に社殿を經營、貴船・只洲の二社を配合せしも、元禄六年に只洲宮を古内邑に遷して別社とし、更に此地に造營し右三祭神を左宮・右宮・別宮(鹽土老翁)とし、三座を併せて陸奥國一ノ宮たり。寶永元年祭田百七十石の地を寄附し、社家二十九人に五百五十二石餘の地を賜ふ。明治七年國幣中社に列し岩切村志波彦神社を當社別宮に遷して併せ祀る。境内に文治三年七月十日和泉三郎忠衡の寄進なる南蛮鐵の燈籠あり、高さ約二米、日月の形を鑄る。社前に鹽竈櫻とてその名聞ゆる古櫻樹あり。堀河天皇の御製に「明けくれにさそ眺め見む鹽かまの櫻がもとの海士のかくれ家」と見ゆ。社殿は千古の樣を湛ふる老杉に繞らされ二百有餘の石磴上に建ち、遠く太平洋の煙波を望む。當社は航海業者間に信仰厚し。社寶中、銘來國光の絲巻太刀一口・銘雲生の黑漆太刀一口は國寶に指定さる。例祭、七月十日。當日、潮干の時を以て神輿に供へ、また潮水を汲みて神釜の舊水に易ふ。神釜は市街の後方なる神竈神社にあり。鹽土老翁の鹽を焼きて民に教へしと傳ふるものなり。〔志波彦神社〕國幣中社。祭神、志波彦神。當祭神は土地開發の神にして、鹽竈神社の祭神の一なる鹽土老翁神と同神なりと傳へらる。社記に、當社祭神を藻鹽焼彦・藻鹽焼姫となし、鹽竈の義にて或は鹽を造る所を家る神ならんとあり。延喜の制に名神大社に列し、明治初年國幣中社に列す。此社はもと冠川の左岸岩切村にありしを、同七年鹽竈神社に遷座、同社別宮に鎮座し給ふ。例祭、三月二十九日。〔東國寺〕臨濟宗妙心寺派。松嶺山と號す。享保二年伊達青山の開基に係る。慶應四年火災に遭ひ、いま僅かに開基の雲牌を殘す。

【鹽竈港】松島灣の支灣にて、その西南に位し、鹽竈浦または千貫浦ともいふ。灣岸は宮城縣宮城郡鹽竈町・利府村・多賀城村・七ヶ濱村に亘る。灣口近くには大小島嶼多の島嶼散點しまた灣内には幾多の支灣あり、その西北に鹽竈港發達す。此灣は陷没により生ぜしを以てかく屈曲・島嶼多く松島灣と共に景勝を以て古來人口に膾炙す。なほ灣内は淺海にして牡蠣等の愛殖行はれ、また灣岸所々に好海水浴場あり。

【鹽竈線】東北線の一部。東北本線岩切駅(宮城縣宮城郡岩切村)より起り、東方の鹽竈駅に至る。六・九粁。更に鹽竈駅より多賀城村にある鹽竈港駅に至る一・九粁の貨物線を含む。

【鹽竈】←鹽原町(栃木縣)

シオガマミナト　鹽竈港　鹽竈線の貨物駅(昭和八年設置)。宮城縣宮城郡多賀城村にあり。

シオカリ　鹽狩　宗谷本線の一駅(大正十三年設置)。北海道天鹽國上川郡和寒村にあり。

シオカワ　鹽川

【鹽川町】　福島縣岩代國耶麻郡の南部。若松市の西北約一〇粁。東は駒形村、北は建堂村、西は堂島村、南は河沼郡笈川村に接す。面積一・三九方粁に過ぎず。會津盆地の略々中央にありて、東方に磐梯山を望み、その南麓猪苗代湖より出づる日橋川は町の南境を西流し、大鹽川その他の諸川北部より日橋川に合し當町はその合流點たり。西部には水田開く。省線磐越西線は町の中央を南北に通じ、鹽川駅(明治三十七年設置)あり。道路は四方に通じ、北方喜多方町に至るもの、南方福島市に至るもの、東南方猪苗代町に至るもの等あり。町内の鹽川館址は長祿頃、七宮勘解由左衛門盛種の居りし所、天正十七年六月、その孫栗村彈正左衛門尉憲俊の時伊達政宗と磐上原に戰ひ討死す。古文書に慶長六年、鹽川領の名あるもその範圍いま詳ならず。明治四十二年町制を布く。〔駒形神社〕郷社。祭神、宇氣母智神。社傳によれば、源義家が清原武衡征討のため當國に下向の節、河沼郡熊野堂村(今の堂島村)鎮座の熊野神社を請じて當郡新宮村(今の慶德村)に來遊せんとするに當り、途中神輿を當地に駐めし時義家の獻ぜし名馬嘶きて上天し去るも空中尚ほ其麗姿ゆ、義家奇異に感じ陸奥國會津郡駒ヶ嶽に鎮座る駒形神社の分靈を勸請して此の靈跡を留む、本社即ち是なりといふ。例祭九月三十日。

【鹽川村】　長野縣信濃國小縣郡の東部。千曲川の左岸。上田市の東南方約七粁。北は千曲川を隔てて縣村に、東南は北佐久郡に、西は長瀬村に隣る。本村附近の地質は特異なるものあり、即ちその下部には洪積層に屬する鹽川層發達す。鹽川層は主として水成岩の砂及び泥土を含む淡水成地層にして、著しき褶曲を受け居らず、上位は集塊岩に被はる。本村はその東南部に平原性の丘陵あり、北部の千曲川流域には平地ありて田拓け、東部の丘陵には桑園多し。村の略中央を南北に通ずる縣道ありて省線信越本線の大屋・田中兩駅へバスの便あり。この地は和名抄、小縣郡海部郷の内なるべく、明治に至り鹽川及び石井・鳳塚・坂井・郷土川原・南方・藤原田の諸村を合し鹽川村を建つ。〔向陽院〕大字鹽川にあり。曹洞宗。青龍山と號す。永正七年藤原政平創区の開基、大徹悟道禪師を開山となす。初め臨濟宗なりしが、元和二年現宗に改む。〔圓融寺〕大字鹽川にあり。天台宗。智光山常樂院と號し、嘉祥元年慈覺大師諸國靈場巡拜の砌、當地にありし日本武尊の胴盤石の傍に自刻の觀音像を安置して一宇を創す。これ當寺の濫觴とす。十六世宥海の時衰亡、のち再建成らざりしも、建久五年望月重藏名馬を求めんとて白鳥明神に祈り、其靈夢に依りて當山に參詣せしに枕に繋がれたる駿馬を見出し大に喜び深く觀音を信仰し、翌六年堂宇を再建し寺領百五十町餘を寄す。之より觀音を俗に馬枕觀音と稱するといふ。寺運頗る繁昌を極めしが、天文十五年兵火に罹り永應二年神海法印の時領主酒井忠勝之を再建す。

【鹽川】　←吉井町(群馬縣)

シオクビ　汐首岬　←戸井村(北海道)

シオコシ　鹽越　←象潟町

シオザキ　鹽崎

【鹽崎村】　長野縣信濃國更級郡の東部。千曲川の左岸。篠ノ井町の南方約四粁。北は川柳村、南は稻荷山町、西は信田村、東は千曲川を隔てて埴科郡屋代町と相對す。面積七・九九方粁。西部に五百米前後の山地ある外は千曲川沖積平野にして中部には多少の水田あるも平地は戯れ桑園なり、繭・米・麥を主産物とし、外に土木用に供せらるる湯ノ崎石を出す。省線篠ノ井線ほ任中央を貫通し、稻荷山駅(明治三十三年設置)を本村内に置く。稻荷山町より篠ノ井町に至る縣道及び鳥坂峠を越えて西方山地に至る縣道ありて交通便なり。この地は和名抄、更級郡小谷郷の地にして、近世は小谷庄に屬す。もと郡役所のありし所。村内に鹽崎城址あり、甲陽軍鑑に鹽崎二十騎とあり、鹽崎氏此地に居城したるなるべし。村内の長谷寺山は一に小長谷山と稱し綿捻山は小長谷山の訛れるものにして、綿捻山を更級村・上山田兩村の境上の冠着山に擬するは非なりとなす說あり。村の西北の四宮の地は東鑑・文治二年三月の條に「四宮庄南北、御室御領」とある四宮庄の遺稱にていま此地に古墳を存す。〔康樂寺〕眞宗本願寺派。白鳥山報恩院と號す。親鸞の弟子西佛の開創に係る。第二世淨寶繪に巧みにして西佛の筆錄せる親鸞行狀記に依り繪緣起を作らんとして本願寺覺如と共に經廻し、覺如其同を書し淨寶繪を認めて繪卷二卷を作る。世に傳ふる親鸞繪傳これなり。〔長谷寺〕古義眞言宗高野末。金峯山龍福院と號す。當國三十三所中第十八番札所。允恭天皇の皇子八釣白彦皇子逸福のため其五世の孫自助初め一庵を創し、承知五年現地に移轉すといふ。靈和元年木曾義仲の兵火に罹り、正應三年に至り久明親王、眞海をして再興せしめらる。德川家康・領主松平忠德各々寺領若干を附す。〔天用寺〕淨土宗。地則山和合院と號す。往昔長谷郷内にありしが、天正年中火災に罹る。のち領主赤澤修理大夫信重現地に再建し、秉故和尚を開山とし寺領若干を附して香華院となす。弘化年中震災に罹りて堂宇破壞せ

しが、のち漸次復若するといふ。

【鹽崎村】 山梨縣甲斐國北巨摩郡の東南部。釜無川の左岸。甲府市の西約七粁。北は穂坂村、東は韮崎町、西南は釜無川を境に龍岡村、南は中巨摩郡、東は登美村に隣る。北部は茅ヶ岳山脈の西南麓を占め、南部は釜無川、及び西北より流れ來り之に合する鹽川の沖積平野をなす。平地には水田多く、東南部には桑園多し。農業・養蠶を主生業とし米・麥・繭を産す。南部の山麓に沿ひ省線中央本線及び信州に至る縣道通ず。この地は近世、逸見筋三庄の一なる多摩庄に屬せり。村名は明治八年下今井・志田・岩森・宇津谷の四村を合せし際、鹽川に沿へることゝ、及び茅ヶ岳山脈の盡頭にあることゝ等に因むといふ。〔金剛寺〕曹洞宗。穀若山と號す。武田陸奥守信春の開創に係る。本尊は三尊の阿彌陀如來とす。當國第十三番の札所として知らる。

シオザワ　鹽澤

【鹽澤村】 福島縣岩代國安達郡の東北部。二本松町の西北に隣り、西北は信夫郡に界す。安達太良山（一七〇〇米）の東斜面に位しその一峰なる鉄山（一七一〇米）西北端に聳立し山麓は東南に降り、阿武隈川の一支湯川は鐵山の東斜面に發して中部を東南に流れ、東部淡谷沿ひに横枝狀に水田開く。主産物は米・繭にして繭は二本松町に出荷し外に木炭の産あり。尚村民は二本松町の製糸工場に勞働力を供給す。街道は湯川に沿うて通ずるも交通便ならず。回國雜記の捷香山より逢隈川なる過ぎて、鹽ノ山に至り、衣ノ關に向ふとある鹽ノ山は恐らく鹽澤の一名なるべく、村内に岡ノ館といふ處あり、國司ヶ館とも稱し、往時國司の居住せる所、のち國司北畠顯家も居住せりといふ。〔鹽澤神社〕大字鹽澤に鎮座。郷社。祭神、饒綴華命。江戸時代には二本松藩主丹羽家の崇敬を受け、また諸川の總社として近村の崇敬篤し。

【鹽澤町】 新潟縣越後國南魚沼郡の西部。魚野川上流の左岸に沿ふ。六日町の南隣をなし、西は中魚沼郡に、南は石打村・中之島村に、東は上田村に界す。西半は信濃川・魚野川の谷を分かつ山脈の東斜面をなし、東半は魚野川の沖積平野に屬す。山地は概ね樹林にして平地は水田多し。また運搬の特産あると共に鎚布・紺絣・越後上布の本場にしてこれ等は多く附近農村の副業として行はる。省線上越線は町の東部を横切り鹽澤驛（大正十二年設置）を置く。三國街道に通ずる縣道また之に並行す。中世上田郷に屬し、三國街道の驛路に當り會津領のとき鹽澤組を置きて近郷を統べたり。大字竹俣は上杉謙信の誕生地として知らる。大字樺野澤に樺湯城址あり。治承年間、鞠子城と稱へ城氏の居城とす。天正六年、上杉景勝の景虎と封を爭ふに當り、時の城主業林門前守、志水城主長尾伊賀守等と力を協せ、北條氏の討手をここに防ぎしも、遂にこれを棄てて新巻城に移る。北條氏は毛利安藝守を置きて守らしむ。當町は明治三十九年、鹽澤町及び中目來田村・富貴村・新宮村・吉里村・上島村・大富村の一町六村を合併して置きしもの。鹽澤の諸傳說、或は江戸時代の旧來事、人人の有樣などは北越雪譜の諸所に見ゆるが、鎚の市は鹽澤にとりて最も著しきもの、その模樣を左に掲ぐ。北越雪譜・中「初市を里言にすだれあきといふ。雪がこひの簾の明かいふなり、四月のはじめに有。塊の内よりはじむ、次に小千谷、次に十日町、次に鹽澤、いづれも三日づつ間を置てあり。市日には遠近の村々より男女ないはず、所持のちぢみに名所を記したる紙旗をつけて市場に持より、その品を買人に見せて實買の直段定れば鑑符をわたし、その日市はてゝ金に換ふ。およそ半年あまり鎚の事に辛苦したるは此初市の爲なれば鎚賣はさらなり、ここに群るもの、人の濤をうたせ、是々を語れ、肩々を磨る。……香具師の看物藥賣の踏舌人の足をとゞめて兼な立べき所もあらねやうなり。……ちゞみは手間賃を論ぜざるものゆゑ、誰がおりたるちゞみは初市に何程に賣たり、よほど手があがりたりなどいはゝを譽とし、或はその伎によりて愛にもらはんといはゝ銀もあれば利を次にして名を爭ふ。このゆゑに市にちゞみを持ゆくは兵士の戰場にむかふがごとし」（鈴木牧之）北越雪譜の著者として世に知らる。明和七年鹽澤に生れ、家業なる質屋を營み鎚の仲買もなし居たるが文雅の士にて馬琴・蜀山人・京傳・京山その他當時一流の文士と風交あり、文晁・北齋などの畫家とも懇意にて、牧之自身文も畫も能くしたりき。天保六年北越雪譜の初編を刊行す。外に庚申帳・秋山紀行・秋月庵發句集・廣大寺節・夜職草等を著述す。天保十三年歿、享年七十三。〔長恩寺〕浄土宗。信受山果報院と號す。安元元年光明房の開創にして、もと當郡竹俣村にありしが、享祿四年笈佛現地に移して中興す。本尊は惣量大師作の阿彌陀如來とす。鈴木牧之の墓は本寺の境内にあり。〔他澤庵〕大字樺野澤にあり。臨濟宗圓覺寺派。應永二十七年不藏和尚の創建に係る。本尊の文殊菩薩は毘首羯摩の作にして永祿十年上杉景勝の母が寄進せるものといふ。

【鹽澤】 ↓鳳來村（山梨縣北巨摩郡）

【鹽澤峠】 群馬縣多野郡万場町と日野村との境界上に位し、標高一〇七三米。南降すれば神流川の流域に、北降すれば鏑川の上支雄川の上源地に達す。

シオジ　鹽道濱

田雲風土記島根郡の條に見ゆる濱。風土記に「宇由比濱、廣八十歩、鹽道濱、廣八十歩……美保濱、廣六十歩」とあり、今の島根縣八東郡森山村大字宇井は風土記の宇由比濱の遺稿なるべく、さすれば鹽道濱も森山村の海濱の邊に之を求むべきか。

シオ・ジマ　雌雄島村

香川縣讃岐國香川郡の北部。女木・男木の二島より成り、女木島は周約八粁、男木島は約五粁。面積三・九三方粁。高松市の前面瀬戸内海中に横ばり、兩島は北北東より南南西に相並び、高松よりの距離、女木島は約七粁、男木島一二粁あり。基盤は花崗岩にして、その上に凝灰岩、最上部に輝石安山岩露はる。安山岩は立派なる横臥柱狀節理を呈し、凝灰岩は早く採掘利用され其跡は大洞窟をなし、女木島の方は峰に雄大、近時桃太郎の傳說に附會され鳥名をも鬼ヶ島と呼ぶに至る。兩島の間を加茂ヶ瀬戸（鴨峽）と呼び、幅〇・八五粁、深六〇米あり、櫓ノ戸瀬戸と共に潮流は鳥間を縫うて東西し、急潮を呈す。兩島共に山岳性にして、男木島は南北に二山頂を有し、北は二一三米、南は一八〇米、女木島は北部高一八八米、南部二〇〇米の高さを保つ。平地に乏しく斜面地を啥んと山頂近くまで階段式に開墾、畑作に利用す。甘藷・豆類・麥・南瓜等の蔬菜を始め梅・柿等の果樹、除蟲菊なも栽培し、南瓜は特に優品を出す。男木島には東北斜面に放牧場あり牛の放牧行はる。農牧は重に婦女子によりて營まれ、男子は漁撈に從事す。女木島の東近くにマスノモあり、深一米乃至六米、長約四粁、同島の南西端より大崎鼻に至る處をカマ瀬と呼び、深一米乃至九米、長約一〇粁、男木島の西方に中ノ瀬あり深〇・二米乃至一〇米、長約七粁、赫瀬鬼綱池場なり。本島は内海の島嶼として早く住民ありしが如く、先史時代の遺跡を發見（男木島西南端、石鏃發見、女木島洞穴の上、貝塚）、古墳時代の遺跡は完全なるものを發見し得ざれど、現今戸數三四九、人口一、五九九に達し、男木島にてはその西側に部落發達、豐玉姫社を中心として密集生活を營み、女木島にはその東北海岸に東浦、西側に西浦の部落あり。男木島の北端、大豐島との間（四・五粁）は内海航路の幹線をなし此處に男木島燈臺の設置（明治廿八年）あり。この燈臺は閃白光、光達距離一二・五浬。五二度より七三度迄は緑光を以てあつさ岩及び中ノ瀬を、また八一度より九二度迄は紅光を以ておぞの瀬を示す。女木島と高松市間には發動汽船の定期往來あり、交通頗便なるも、男木島との交通は未だ充分ならず。

シオジリ　鹽尻

【鹽尻村】 長野縣信濃國小縣郡の西部。千曲川の右岸。上田市の西に接す。北は塩谷郡南條村に、南は千曲川を隔てて泉田村・川邊村に界す。面積八・二八平方粁。北部は虚空藏山（一〇七七米）の南斜面を占め、南には千曲川の沖積地ありて水田拓く。主として米・繭を産す。上田市より北に至る北國街道及び省線信越本線は千曲川に沿ひて村の南部を貫通し、北鹽尻驛（大正九年設置）を置く。この地は和名抄、小縣郡韋女郷の内にして、明治時代に上鹽尻・下鹽尻・秋和の三箇村を合し鹽尻村を建つ。鹽尻の名義は往昔東海地方より輸入する食鹽の終點の意ならん。〔正福寺〕大字秋和にあり。新義眞言宗智山派。神魚年中、行基の開創と傳ふ。のち荒廢せしを文明七年隨光法印堂宇を再建す。本尊大日如來を安んず。

【鹽尻町】 長野縣信濃國東筑摩郡の町。東筑摩郡と諏訪郡との境をなす鹽尻峠の西麓にありて松本平の東南隅に位す。北は片丘・廣丘の二村、西は宗賀村、南は善知鳥峠を以て筑摩地村に境し、東は鹽尻峠一帶の山地を以て岡谷市に接す。舊中山道諏訪郡より來りて驛次を此處に置き、南に折れて木曾谷に入り、三州街道は南に伊那谷に入り、松本街道・舊五千石街道は共に松本市に通ず。省線中央本線は伊那谷より來りて町の西端に鹽尻驛（明治三十八年設置）を置き、塩ノ井線ここより分岐し、松本市を經て信越本線の篠ノ井驛に至り、省營バスは岡谷市に通じ、別に乗合自動車は松本市に至り交通の便多し。本町は松本平南部の一中心地にして、物資の集散活潑。縣立東筑摩農學校・町立鹽尻高等女學校あり。石灰・カーバイトを產す。町名は越後糸魚川より大町を經て松本市に入る北海鹽の到れる終點の意より起る。此の地は天文二十二年小笠原長時の武田信玄と戰ひて敗れたる桔梗原古戰場の一部に屬す。桔梗原は今漸次開墾されて畑地となる。昭和二年町制を施行。明治十三年、明治天皇、山梨・三重及び京都行幸の際此地に御小休あらせられ、明治天皇鹽尻峠御野立所として指定史蹟たり。〔阿禮神社〕大字鹽尻に鎮座。郷社。祭神、素戔嗚尊・譽田別尊・大己貴命。創建年代不詳なるも式内の古社たり。信濃記に、素戔嗚尊は出雲簸ノ川上の大蛇を退治し更に信濃國鹽川上荒倉山の惡鬼をもその寶劍にて平げ給ひし旅由にて祀ると云ふ。其後木曾義仲の新願所となり累代領主の崇敬厚し。天文・天正と兵燹に罹り、正德四年に怪火を發し社殿三度焚上の厄に遭ひしも信州府領の百三十八箇村の淨財に依りて再築す。例祭、七月十日。〔永福寺〕大字鹽尻にあり。新義眞言宗智山派。盛眼山と號す。開創は不詳なるが應永年中木曾義仲の後裔信濃守豐方堂宇を再建し、のち木曾有馬頭義方、入道して大曾都義方と稱し、寺に入りて大に堂宇を興す。仍て之を中興開山となす。のち天正の兵火に罹りて衰微したるを、天保年中俊盛法印之を重興す。（常光寺）大字上西條にあり。新義眞言宗智山派。飯綱山と號す。開創は不詳なれど永德二年惠覺法印之を再興し、文政二年焚上せしを憲榮法印再建す。天保三年に至り鑑泉法印更に本堂を再建す、現存するもの之なり。寺域櫻

樹多く風致よし。〔西福寺〕西條にあり。曹洞宗寶松山と號す。明應年中の創建にして珠白禪師を開山とす。初め草庵たりしも永禄八年武田氏の寄進に依り諸堂宇の建立を見る。天正四年更に武田勝頼より寺田若干を附せらる。本尊釋迦如來。

【鹽尻峠】 松本平と諏訪盆地との境にある峠。海拔約一〇六〇米。東南麓の諏訪郡下諏訪町より岡谷市の北部を經て西北麓の東筑摩郡鹽尻町に中山道通ず。峠越しの通路にはいま新舊二道あり、新道にはバス通ず。舊道上の鞍部より東南に諏訪盆地を下瞰すれば正面遙に富士の嶺峰を望みて眼下に諏訪湖の水を湛へ、左に立科・八岳の諸峰、右に守屋山聳え、眺望佳絶なり。轉じて西を望めば、日本中央アルプス・北アルプスの峻峰雲際に聳え、景觀雄大なり。舊道はわざとこの峠を避け、上伊那郡の辰野を過ぎ善知鳥隧道を經て鹽尻郡に至る。この峠は本州の中央高地に於ける表裏日本の分水界をなす峠にして、松本平と木曾谷との限界をなす鳥居峠と共に海岸より最も遠き所に位す。本朝二十四孝・四「火急の御上意用捨はならねど、鹽尻峠に桂へ居る、諸大名へ申し渡す仔細あれば、我は彼盧へ立ち越えん、有無の返事は鹽尻まで、隨とらば直にこの城取り圍まん」

シオズカ　鹽塚山　四國山脈の一峰。徳島縣三好郡山城谷村と愛媛縣宇摩郡上山村・新立村の境界に跨り、標高一〇四四米。山體結晶片岩より成る。東方を吉野川北流し、沿岸は小歩危の奇勝をなす。北麓は東流する吉野川支流伊豫川に限らる。

シオセ　鹽瀬　愛知縣南設樂郡にありし村。明治三十九年本村ほか五箇村を廢し鳳來寺村を設く。

【鹽瀬村】 兵庫縣揖津國有馬郡の東南端。西宮市の北方約一〇粁。北は道場村・川邊郡西谷村に、東は長尾村・小濱村に、南は武庫郡良元村及び有馬郡山口村に接す。六甲山塊の北斜面にあたり、太多和川の谷より有馬街道を經て有馬に至る線は六甲山塊の北の斷層線なり。その北部は丹波高原の南部にして流紋岩及び石英斑岩より成る。北部には國見山（四〇七米）・秀ヶ辻山（四〇三米）、中部には高座山（三四六米）、南部には琴鳴山（三一四米）あり。武庫川は北より東にかけ横入曲流、峡谷をなす。太多和川は六甲の斷層線を流れ武庫川に合す。武庫川（生瀬川）廣名野より有馬山へ入る隘口にて生瀬より西若場山を越え渦山に至る間に四十八ヶ瀬の溪流あり。また尻突ノ瀧（高さ一八米、幅五米）・下瀧（高さ一八米・幅一五米）の二瀧あり。此地には斷層線に湧出する名鹽・武田尾・生瀬等の諸鑛泉あり、何れも微温泉なり。交通路は武庫川の谷が利用せられ、福知山線はこの谷を走り、本村内に生瀬驛（明治三十一年設置）及び貨物專用の惣川驛（大正二年設置）を置く。太多和川には有馬街道通じ七曲をなし有馬町に至る。本村は山地多く產業薪はず、名鹽附近の高原面には溜池による灌漑ありて米・麥を產す。また名鹽には名鹽祇の名產ありて多く大阪方面に移出せられ、世に大阪半切と云ふ。本村の地は武庫川の中流を占め、和名抄、武庫郡賀美郷の地たり。有馬山中に蹠接するを以て後世、有馬郡に屬せるものならん。康正二年造白裏段鏡記には「三貫文八緒大乘院、播州有馬郡内鹽莊」とあり、この内鹽は名鹽にして、また長鹽とも書す。〔淨橋寺〕大字生瀬にあり。淨土宗西山派。仁治元年證空の開創に係り、現に當派准檀林に列す。本尊木造阿彌陀如來及び兩脇侍像三軀は何れも渗箔にして鎌倉前期造有なる舊原式を遺存し製作優れ現に國寶たり。寺寶中、銅鐘一口は袈裟形の内に寛文二年の銘を存し、古鐘中の逸作にして、これまた國寶に指定せらる。

シオタ　鹽田

【鹽田村】 茨城縣常陸國那珂郡の西北部。東は山方村、南は玉川村、西は小瀬村、北は檜澤村と各相接す。八溝山脈中の一部を占め山方村を隔てて那珂川に近し。西境附近に高館山（二二九米）あり。東境は約百米餘の山地をなし村内も亦これに接く山地にて森林あり。山間の低地には畑地ありて煙草を產し、東部には水田あり。縣道は東部を南北に走るものと、西南部を通るものの二條あり。聚落はこれに沿ふ。省線水郡線は村の東南部を掠めて北走するも、村内に驛なく、南隣玉川村に玉川村驛ありて縣道を通ず。この地古くは和名抄、久慈郡八郡郷に屬せしものの如し。大宇照田は天保年中まで寺田に作り、佐竹義篤課狀及び鹿島久壽日錄に久慈西郡鹽子、寺田などと見ゆ。鹽子はいまし大字北鹽子・西鹽子となる。村名鹽田の名義は恐らく鹽子と照田の一字づつを取りて作れるものなるべし。

【鹽田】 相模國（神奈川縣）の古地名。和名抄高座郡に鹽田郷あり之保多と訓す。新編相模風土記によれば田名村の小字に鹽田と呼ぶ處ありと、さすればかの鹽田郷の地は今の高座郡田名村・相原村の邊に當るか。

【鹽田】 信濃國長野縣小縣郡の舊莊名。上田市の西南。一に鹽田原。天文十七年村上義清、武田信玄と此處に戰ひ、武田勢敗走すといふ。地は今東鹽田・中鹽田・西鹽田村等の邊に當る。

【鹽田】 ↓淀鹽村（兵庫縣飾磨郡）

【鹽田村】 兵庫縣淡路國津名郡の中部。洲本町の北方約一〇粁。東は大阪灣に臨み、北は志筑町に、南より西にかけては安乎村・中田村に接す。淡路島の東岸地帶の東側を占め、山地は第三紀層及び中世代白堊紀層より成る。高度は二〇〇米内外の立後性にして海岸には細長き低地

あり、漁業盛なり。低地には僅かに農耕營まる。四國街道は此地より西南に方向を轉じ、鐵道は淡路鐵道の洲本驛に至るを便とす。此地は和名抄津名郡安乎郷の地、中世は鹽田莊に屬す。莊は勧修寺領の一にて、貞應中、田四十町、高若干、浦一所あり。幕末の勤王家田村平一郎は此地の出身にして明治四年殁、のち從五位を贈位さる。大字下司には古刹盛王寺あり。〔春日神社〕大字鹽田浦に鎮座。郷社。祭神、健御賀豆知命・伊波比主命・天之子八根命・比賣神。創建年代詳ならざるも古來鹽田里・鹽尾等六十箇村の產土神たり。一に櫻田ノ宮とも稱す。例祭三月十五日・九月二十八日。

【鹽田村】 山口縣周防國熊毛郡の東部にある農村。田布施町の北西、城南村の東北東、荷・岩田・三輪三村の東に當り、東及び東北は玖珂郡に接す。地勢は周圍に山地を繞し、中央は盆地狀を成し、東南部には神籠石の存するを以て有名なる石城山（三五二米）聳え附近丘陵の上に瓢角を顯はせり。產業は米・麥等の普通農作を主とし、多少の手工業及び林業も行ぼる。〔石城山神籠石〕指定史蹟。石城山の頂上近くにあり。列石は山の周圍を繞りて配列され、延長約二・五粁に及び溪間には石垣を築き中央に水門を存せり。山は防禦に適するを以て維新前奇兵隊の根據地となる。〔石城神社〕石城山に鎮座。縣社。祭神、大山祇神・菅神・高龗神。創建年代は敏達天皇三年と傳ふ。式内の古社にて神階正三位。建治三年九月九日始めて神幸あり。大化・白雉の頃は四百餘石の神田ありきと云ふも文治年中には十貫の地となり、慶長時代には三十石に減ぜられしと云ふ。社殿中、本殿は春日造にて、文明元年大内政弘の再建に係り、いま特別保護建造物たり。例祭、十月十七日。

【鹽田村】 佐賀縣鳥前國藤津郡の北部。大部分鹽田川に沿ひ、鹿島町の西方約三粁。北は久間村に西及び南は五町田村に接し、西南郡が南方へ突出して五町田村が東西に分ち東は祚島郡能王村に界し有明海に近し。西南境に唐泉山（四一〇米）ありて北へ傾き西南隅の山地をなし西北部に二百米程度の山地ありて其間を鹽田川東に流れ中部及び東部に於ては之が南境をなして流れ東方約六粁にして有明海に注ぐ。其北は鹽田川流域の沖積原の一部を占め平坦なり。低地に米の產地をなし其他、麥・粟等も產す。一道川に沿ひて中央を横切り東方鹿島町に通じ東部にて之より分れ北方へ向ふものあり、東方有明海岸に省線長崎本線南北に走り東南四粁餘に鳥前鹿島驛（鹿島町）あり。和名抄に藤津郡鹽田郷とあるは蓋し當町及びその附近の地なるべく町名は其遺稱とす。また延喜兵部省式に鹽田驛馬五疋とあるも當町邊に擬すべし。大字大草野を中心とする鹽田河畔一帶の地は餐の名所として佐賀縣第一位の稱あり。殊に其邊の大なるを以て知られ、悉く源氏螢にして身長一丈半以上に及び光芒もまた大なり。また大字馬場下には郷社丹生神社あり國象女神を祀る。例祭十一月四日。〔常在寺〕眞言宗御室派。和銅元年行基菩薩の開創にして有名なる大黒天像を安置す。この像はもと唐の青龍寺慧果阿闍梨の彫刻にして數代宮中に安置しありしが、元暦元年、後鳥羽院の病に悩ませ給ひしとき、七世高成紹法印勅命に依りて昇殿祈禱せしに、蹠に効驗ありしにより褒賞として賜ひしものといふ。

シオタ　鹽田

【鹽田】 兵庫縣有馬郡道場村の大字。有馬線の鹽田驛（大正四年設置）あり。

【鹽田】 岡山縣備前國和氣郡の西北部。南は山田村、北は英田郡福本村、東は同河會村、西は吉井川を隔てて赤磐郡佐伯本・佐伯北の二村、西北は同じく川を隔てて同郡周原村に界す。東南隅に聳ゆる燒見山（五一九米）を始めとして東境には數百米の山岳連亙し、南部中央には五〇〇米の山地があり、北部には三〇〇米の山地があり、何れも村内に廣く蟠まり、西及び北西に向つて傾斜す。南北兩山地の間に東西に横ぼる狹長なる低地あり、北西より流下する吉井川と東北より流下する吉野川は村の北隅に合し西境を圍みて南下し、流域に僅少の低地あり。餅地ここに拓け米及び裸麥の產あり、北部山地は牧場地にして其生を產す。山陽方面と山間の盆地とを連絡する道路に當るため交通よく發達す。村の西北隅にて吉井川を渡り西境を河に沿うて屈曲しつつ南下する縣道は西北方の津山市と南方の和氣町を經て片上町に於て山陽道に連絡す。社線片上鐵道は縣道に並行し本村内に備前鹽田・村谷・苦木の諸驛（何れも昭和六年設置）あり。撰日本紀天平神護二年五月の條に「美作國守從五位上五勢朝臣淨成等解�té、勝田郡鹽田村百姓、遠國・沿郡・側・近他界八差役供承、採有二驛幸、奴請、隱所住處、便論備前國邑野郡一者、奏可」

シオタテ　鹽楯島　出雲風土記意宇郡の條に見ゆる島。今その所在詳ならざるも恐らく島根縣八東郡の内なるべし。一に朝酌瀬戸の邊なりといふ。

シオダレ　鹽垂山　岡山縣勝田郡湯郷村の北にある山。夫木・謙二「いつとなくしほたれ山のさされ水暮れゆくままに雁たてつなり　俊頼朝臣」

シオツ　鹽津・塩津

【鹽津村】 ↓志發島（北海道）

【鹽津村】 石川縣加賀國江沼郡の西部。北は篠原村、東より南へかけて作見村、西は橋立村に界し、西北の一部は海に臨む。西積五・九一方粁、五六十米の砂丘村内に横ぼり、北部と南部に狹き低地あり、東の一隅は柴山潟に面す。低地には田地、丘上には樹林あり。海岸には尼御前岬突出せり。道路は加賀平野の一部と

海岸とを結ぶ二條の縣道及びこれより出でて海岸に沿ふ道路の一部あり。本村の生業狀態は半農半漁とす。延喜兵部省式に潮津郡馬五疋と見ゆるは蓋し此地なるべく、和名抄にては江沼郡竹原郷に屬せしものか。

【鹽津村】愛知縣三河國寶飯郡の西部。蒲郡町の西に隣り、西北は額田郡幸田村に界し、南は渥美灣に臨む。西端に四百米内外の山地逆瓦し、都川・鹿島川はこれ等山地を開析して海に注ぎ沿岸に伸積地を作る。海上には磯岩浮び遠か東南に大島を望み景勝に富む。氣候溫暖にして地味豐沃、米・麥・蔬・織物を出し漁業も盛なり。縣道は東海道本線と共に南部海岸を東西に通じ、また形原村に至る縣道に沿うて社線三河鐵道通じ村内に三河鹿島・拾石の二驛(共に昭和十一年設置)を設き蒲郡町にて東海道本線に接續す。なほ蒲郡町へはバスの便もあり。村の地は鎌倉時代は竹谷(たけのや)莊と云ひ紀州熊野山の所領にて、莊名は東鑑元暦二年二月十九日の條に見ゆ(いま大字に竹谷あり)。戰國の頃松平信光の長子守家の子孫竹谷の地に居り竹谷松平氏を稱し、松平十八家の一たり。子孫交代寄合に列し四千五百石を食む。

【鹽津村】滋賀縣近江國伊香郡の西部。永原村の北東に接し、東は余吳村と片岡村、北は福井縣敦賀郡愛發村に境し、南は鹽津濱の彎入により琵琶湖に臨む。彎頭沿岸の平野を除く外は大部分山地にして北境の行市山(六五九米)・三方嶽(六〇〇米)・新道野山(三二〇米)より漸次南方に傾き約二〇〇米の高地に終るも、地質は主として古生層より成り處々花崗岩これを貫き、北北西より南南東に向ふ走向を取り、其の中間に同方向の大川河谷の斷層あり、此斷層谷の方向が彎入の長軸と一致す。大川は本村唯一の河川にして新道野山より發し南流して大字香掛の街村を貫流し北東より來る集福寺川を併せ大字余村・鹽津中を經て鹽津濱の西方にて湖に注ぐ、流程約七・五粁、沿岸に細長き平野あり河口附近に稍廣き低地開け桑落發達す。產業としては農・林・水產業の外、特記すべきものなし。縣道は海津・末之本線本村を通過し、大字鹽津中と余吳村大字中之郷とを連絡し、定期バスは末之本・鹽津濱間、鹽津濱・岩熊間を通ず。また鹽津濱は江北沿岸航路の寄港地たり。村内の七里半切夜は鹽津越の山路を開鑿して運河を通ぜんとせし舊跡なり。享保十一年江戸の人幸河彌伊豫等三人鹽津濱より敦賀まで新川を掘り之に高瀨舟を通じ物貨運送に便ぜんとし工事の設計を以て幕府へ請願したる爲幕府は奉行井澤彌兵衛等に命じ測量せしめしに水面と山地の高さの差大なるを以て却下せらる。近年日本海琵琶湖運河の唱へらるるも此の案に基く。此地古くは和名抄鹽津郷の地。鹽津の名稱の起源には二あり、一は昔塩津濱鹽津神社の東方鹽谷に鹽泉湧出し之より製鹽せしことありといふ說にして其の鹽泉は永平年間に地震の爲地形變化して影を潛め約一粁北の祝山に湧出始りしも延安・貞治の頃これ亦止れり、此の鹽泉により鹽を產する湖岸の港といふ意味にて地名を生ぜしなり。二は敦賀より鹽を運漕せしに基く、日本書紀の武烈紀及び延喜式の越前國海路の條に其の記事あり、此の地が敦賀と琵琶湖との最捷路に當りしか以て運漕の要津と定められしならん。中世の鹽津の莊の地にて北國への通路に當り鹽谷の名を以て諸書に記され、源平時代以後、南北朝、室町時代にかけて有名なる武將等之を通過せり。江戸時代には大字鹽津濱・祝山・香掛は郡山藩に、大字集福寺・余村・橫波・鹽津中・岩熊は豐橋藩に屬す。明治に至り十八年に鹽津濱村外三箇村と余村外四箇村の二つの戶長役場に分れしが二十二年市町村制實施と共に合併して現制となる。また此地古來和歌の名所として知らる。萬葉・三「塩津山うち越行けば我のれる馬そつまづく家こふらしも」笠朝臣金村」〔鹽津神社〕大字鹽津濱に鎭座。郷社。祭神、鹽筒老翁・產火々出見命・豐玉姬命。創建年代は神功皇后攝政の御時にして、應神天皇、淺津刀彌を助けその遺祖なる鹽筒老翁をその故地に祀らしめ給ふと傳ふ。一に海北の宮とも稱す。平安中期に至り小野道風、卜部宿禰等と相謀り右二祭神を配祀す。延喜の制小社に列す。例祭四月十八日。〔應昌寺〕大字鹽津中にあり。曹洞宗。感田山と號し、もと阜榮繁和尙の開居地にして、大德寺大機弘宗禪師の開創とす。豐臣・德川兩氏より寺領若干を附ぜらる。

【鹽津村】和歌山縣紀伊國海草郡の西海岸、黑江灣の南岸にあり。海南市の西南に隣り、西は大崎村、南は加茂村に界す。東部及び西部に五〇米内外の丘陵の末端迫るも中央に低地あり。國ノ鼻は村の中央にて北方に突出しその東に好漁港を抱く。縣道は海南市方面より來り、村の中央を西南に貫きて有田郡湯淺町方面に至る。本村の面積は〇・七七方粁の極めて小なる村なるが、昭和十年に於て本邦の一平方粁の平均密度一八一人に對し本村の密度は實に一五六二人、村には稀に見る稠密なるものとす。本邦は平均として年年人口の增加を見るに反し、本村は上表の如く漸減の傾向にあるは、人口の稠密さに應しき資源なく產業もなきためにして、都會其他へ移住する者多し。產業としては主に水產と工產にして外に柑橘類の產あり。

國勢調査人口

大正九年	一五九一人
大正十四年	一五一六人
昭和五年	一三七四人
昭和十年	一二〇三人

シオツ 四方津(しかた) 中央本線の一驛(明治四十三年設置)。山梨縣北巨摩郡鹿村にあり。

シオツカ 鹽塚(しおつか) 福岡縣山門郡にありし村。明治四十年他の二村と共に廢し大和村を設く。

シオテ 鹽手(しおて)

【鹽手】→愛島村(宮城縣名取郡)

【鹽手山】福島縣相馬郡山上村と八溝村との境界に跨る。標高二三二米。北麓を字多川東流して太平洋に注ぐ。山上に手長明神の祠あり。また附近に貝塚あり。里人傳へて云ふ、此山上に太古手長神住めり、此神いたく貝を好み、山頂より東海の貝を採りて食せしかば、山上に貝殼ありと。

シオドメ 汐止街(しおどめ) 臺灣臺北州七星郡二街三庄中の一。基隆・臺北兩市間の略々中央に位し、西北より東南に延びたる細長き地形をなす。東は基隆郡七堵庄に、西は大部分內湖庄、西北邊の一部士林街に、南は基隆郡平溪庄・文山郡石碇庄及び一部內湖庄に、北は基隆郡萬里庄に夫々隣接す。四方を大屯山彙及び中央山脈の山岳に依りて圍繞せられ東隣七堵庄より來れる基隆河は街の中央部を橫斷しつつ幾多の大小分流を合せ、蜿蜒曲折、西流して西隣內湖庄に入る。平地は同河の沿岸に僅かに開け、一小盆地をなす。雨量多く、一年の約三分の一は雨天なり。廣袤東西三里二町、南北三里二六町、面積四方里餘。住民は大部分泉州人にして漳州人之に遜ぐ。住民の生業は勞働者最も多數を占め、農業者・商業者、其他の順位なり。勞働者は多く附近の炭礦に就業し、一部は金瓜石・九分(基隆郡瑞芳庄)等の鑛山に出稼し、他は管內に於て雜役に從事す。故に炭礦其他鑛業の景況如何に依りて、管內の戶數人口は年に依り增減あるを常とし、近年炭礦・金山の好況に惠まれ、人口頓みに增加し、勞働者の生活概ね豐かなり。農業に就て見るに、本街は基隆・臺北間唯一の市街的聚落地として地理的に惠まれ、交通至便なる反面に雨量多きに過ぎず、平地また狹小にして且つ地質肥沃ならず。加ふるに炭礦業の發展等に依り、自然農業の發達を阻害するものあり。然れども山地は年々開墾せられ、耕地總面積二三五〇餘甲の內、水田一一九八甲餘、畑一二五二甲餘あり、米・蔬菜・茶・甘藷・甘蔗を主要農產物とし、米作に於ては新品種の栽培及び耕作法の合理的改善等により漸次增產の傾向を示しつつあり。大字茄苳腳には總督府殖產局の輸入甘蔗苗圃(大正八年設置)を有し、甘蔗特殊病害又は害蟲輸入傳播防止の爲め、新輸入の蔗苗を二箇年間當苗圃に栽培し、檢査に合格したる蔗苗は糖業試驗所・蔗苗發成所、其他各製糖會社へ配付す。茶は南部山地より產出し古來本街主要物產の一にして、現在茶園面積八百餘甲、農家戶數の三分の二は茶業從事者なり。從つて茶業の興亡は住民大多數の死活問題となる。茶の種類に包種茶最も多く、烏龍茶これに次ぎ、他に紅茶・毛茶茶あり。昭和六年度以來專任茶業技術員を置き、專ら茶園の管理・品種の改良・製法改善等、積極的に指導を爲す。茶業關係の團體として茶業改善研究會一、茶業公司九あり。畜產は主に畜牛・養豚・家禽等にして、畜牛は農耕及び荷物の運搬用に使役し、養豚及び家禽の飼育事業は農家唯一の副業なり。畜產組合・家畜市場の設置ありて、品種の改善、飼育方法の合理化、販賣の斡旋等を爲す。林業に就きて見るに、管內の山林原野は田畑の總面積二千餘甲に比し、實に二倍强の廣大なる地域を擁するにも拘らず、從來之を利用する者なく、寧ろ荒廢に委せたるを以て、之が對策として造林に關する智識を一般に普及せしむると共に、樹苗の無償配付をなし、緬力民營造林を奬勵す。されば成果は將來に期すべきなり。尙昭和九年有志の出資に依り汐止街造林組合を組織し、官有山林の拂下を受け、專ら造林事業を經營す。鑛業は石炭の採掘にして、主に北部山地に於て行はれ、古來重要物產の一として算へられ來りしが、數年前に於ける經濟界不況の際炭價の暴落により、斯業に一大頓挫を來したるも、近年炭價回復し、休礦又は廢礦せるものも一齊に事業を再開し、從つて出炭量も著しく增加し、相當活況を呈す。商業は往時基隆・臺北間唯一の取引河港にして且つ唯一の郡市なりしため相當に發達せるも、その後陸上交通至便となり、爲に河川による取引廣ぜられ、各地より集散する物貨なく、現時は僅かに日用品の販賣に止まり、腔販を締めたる昔日の俤を見る能はず。食料品小賣市場(明治四十四年設立)あり。工業は、僅に小規模の鑄鐵工場・製麵工場・製茶工場・精米所等あるに過ぎず。街財政は郡下他街庄に比し豐かならず、造林組合と共同にて造林に着手し、基本財產の造成に努めつゝあり。昭和十二年度豫算額七六、〇八三圓なり。金融機關に汐止信用購買利用組合(出資金五餘萬圓)・汐止郵便局あり、組合は利用者相當多く地方經濟上重要なる位置に立ち該方面に貢獻する所甚大なり。教育は明治三十一年基隆國語傳習所水返腳(汐止の舊稱)分教場を設置せられたるに始り、爾來漸次隆盛に趣き、現在小學校一、公學校二、同分教場一を有し、本島人兒童の就學步合は男女平均五二・四二%(昭和十一年三月末日現在)の高率を示す。尙ほ遠隔地たる社後・十三分の二大字には各々書房一(修業年限三年)あり、公學校の課程に準じて學齡兒童中の公學校に就學せざる兒童を教育し、大字汐止に公民中等學院(修業年限二年)を設立し、公學校を卒業して進んで中等學校に入學する希望を有するも家庭の事情にて目的を達し得ざる者を收容し、中等程度の教育を施す。共に教化聯合會の經營に屬す。社會教化方

面に於ては教化聯合會の他に青年團・青年教習所・隣保會・成人會・婦人會・國語講習所等を設置し社會教育の振興に努む。本街は地理的關係上、臺灣縱貫鐵道及び縱貫道路は併行して街の中央部を東西に貫き、前者は管内に沙止・五堵の二驛(共に明治三十二年設置)を置き、後者には局營バスを通じ、且つ基隆河を控へ水陸の交通共に便利なり。然れども山地方面には未だ部落道路完備せず、且つ基隆河には橋梁の架設未だ實現を見ざるため交通上多大の不便を感ず。大字沙止はもと水返脚街と稱し、街肆は基隆河の南岸に臨み、古來基隆・臺北間の中繼市場にして、且つ當地方の中心地となり、郵務署・支廳の所在地たりしことあり。此處ばもと平埔蕃族のパガダイ(蜂仔崎)社といへる部落の所在地なりしを以て、往時近音の譯字を宛てて蜂仔峰庄と呼び、乾隆二十九年に成りし臺灣府志(淡修)に既に同庄名見え、其の初めて街肆を形成せしは同三十年頃なり。水返脚といへる名稱の起因に就き、道光元年に成りし噶瑪蘭通判喬璧の臺北道里記に、「水返脚、小村市。水返脚者、臺嶠北路至此而盡、山海折轉而東出臺灣山後、故名」といひ、淡水廳志に「水返脚、謂潮漲至此也」といふ。蓋し後說を妥當なりとす。淡水河の逆漲の此地附近に及ぶが故なり。いま郡警察課分室を始め街役場・信用組合・小公學校・郵便局・諸等あり、なほ水道の設置あり。本街はもと總て石礎堡に包含せられ、乾隆初年頃淡水港より基隆河を溯りし廣東籍民は、今の沙止を根據として附近の開墾に從事し、着々成果を收めつつありしも、同末年に及び、次いで移住せる福建の漳州人と紛爭を釀し、敗れて中壢地方(新竹州)に退去せり。爾來福建人は私隘を設け、蕃害を防ぎつゝ山地に前進し、四方に拓殖を進めたり。我が領臺後數度の行政上の變遷を經て大正九年十月の自治制施行に至り、水返脚街をその字義(潮漲至此)に因みて沙止街と改稱す。(北白川宮水返脚御舍營所)大字沙止(沙止神社の隣)にあり。御舍營所に充てられたる建物は蘇樹森が新築せる煉瓦造瓦葺の別宅にして、當時同地方に於ける有數の家屋なりき。明治二十八年六月十日、能久親王は臺北御進入のため、午前六時基隆を御發、午後二時水返脚に御着、蘇樹森の宅に入り給ふ。翌十一日、親王には此地を御發、臺北に向はせらる。沙止街にては御遺跡の保存を期し、御舍營所の修繕をなすと共に、隣接地約五千坪を買收し、昭和十年壯麗なる沙止神社の創建を見る。(濟德宮(觀音宮))街の中央に位し天上聖母・保儀大夫を祀る。成豐九年現在の位に移轉す。住民の信仰の中心たり。舊曆四月十五日に盛大なる祭典を擧行す。

シオドメ　汐留　東京市芝區の地名。ここに東海道線の貨物課汐留課あり。もとの新橋課にして明治五年九月我國最初の鐵道の京濱間の起點にして、爾來東京課の出現まで四十四年間東京市の中央課として繁榮し、大震災後課名を現新橋課に讓りて貨物課となる。現に大東京の東海道口にある唯一の貨物專用課として、殊に都心地域に最も近接したるため年々二〇〇萬噸の貨物を呑吐し、大東京出入貨物の一五%を占めて隅田川貨物課に次で第二位たり。

シオドメ　潮止村　埼玉縣武藏國南埼玉郡の南隅。古利根川の西岸にあり。西は八幡村、北より東は北葛飾郡彦成村・戸ヶ崎村、南は東京市足立區と隣接。面積七・〇八平方粁。今村平地にて畑と水田をなし、東部の古利根川に沿ふ部分のみ湿地をなし、米・麥・蔬の産あり。川に沿ひて縣道あり、南方東京市に通ず。この地は近世、埼玉郡八條領の内にして、古より幕領・矢地の入り交りし地なり。なほ古へ綾瀬川は本村大字塚の地にて古利根川に注ぎしが、江戸時代これを西南に導きて隅田川に合せしむ。

シオナミ　潮南村　岐阜縣美濃國加茂郡の東南部。八百津町の東に隣りし、北は久田見村・福地村及び蘇原村に接し、東は飯地村及び惠那郡中野方村に、南は土岐郡日吉村・可兒郡上之郷村に界す。東濃山地を木曾川が侵入曲流して峡谷を成し、西部にて飯見川を合流す。川に沿うて奇景追り、數丈の瓶に激流を奮ひ、南流すれば神流川流域上野村白井まで、北は川東村並に木田郡東蘇田村に界す。村の北半は大整花崗岩質、南半部は和泉砂岩より成る。香東川の溪谷なるを以て沿岸に幾少の耕地を有するのみにて山林一九二町歩なるに對し、水田一一〇町歩、畑八一町歩。一戸當り田二反六畝畑一反九畝に過ぎず。土壤は南部は和泉砂岩質埴壤土、北部は花崗岩質埴壤土にして、氣溫は稍低きため米麥には好適に非ざるも、夏蔬菜の都到並に秋蔬菜の促成には便利なり。河畔は農業及び林業に從事し、溫泉附近は兩業發達す。本村は明治二十三年安原上村に安原上東村を併合して安原上東村を組織せしが、大正七年四月鹽江村と改稱す。山地多きも戸數の七〇%は農業に從事し、米(五萬圓、二千石)・麥(三萬圓)を始め、近時は果樹の栽培發達す。和泉砂岩を母岩とする土地にして、氣溫の稍低きことは柔・澁柿に好適なるが爲にして、丹波柔・西條柿・富有柿を多く見る。又斜面は煙草栽培に適し、安原上西村と共に讃岐山脈地方に於ける煙草栽培の核心地帶をなす。副業として發蚕・發鶏・林業・薬加工行はれ、鹽(二千五百圓)・煙(八千圓)・鶏(七百圓)・竹材(六百圓)・傘骨(約六百圓)・炭俵(三百圓)等を出す。縣道高松・勝町線が河に沿ひて村の中央を南北に走り、自動車の往來繁く南方佛生山町まで鹽江溫泉鐵道(ガソリンカー)の設置あり、學生電鐵と連絡し、高松との往來便利なるを以て、讃岐に於ける一遊覽地・避暑地として發達しつゝあり。安原上西村を流るる内場川の香東川に合流する處には部落發達しここを俗に鹽江と稱す、河畔に鐵泉の涌出あるを以て知られ、早く溫地として觀音堂を建つ、行基の發見、弘法大師も來り、浴湯の法を傳へたりと傳ふ。本泉は僅に鹽味を呈し、硫化水素臭を有す、反應アルカリ性、皮膚病・リウマチス・圓形禿に效あり、鹽江溫泉と稱し、近代的設備を施し、一遊園地として、春の櫻、秋の紅葉と大に面目を一新せり。附近には虹の橋あり、雌雄兩滝より成り、また下流の溪谷は讃岐耶馬溪と稱すべき山峡に岩部の奇勝あり、又行基の創立、北峰時報の撰鐘にて著を以て知らるる最明寺あり。

【鹽江溫泉鐵道】　社線。香川縣香川郡にあり。社線琴平電鐵の佛生山驛(佛生山町)より鹽江驛(鹽江村)に至る。全長一六・一粁。昭和四年十一月に全通し鹽江溫泉に浴するに便となる。軌間一・四三五米、省線と連帶なら今。

シオノサワ　鹽ノ澤峠　群馬縣北甘樂郡下仁田町の南西方一〇粁餘に當る峠。最高點は群馬縣多野郡上野村と北甘樂郡野戸村との境に跨り、標高一〇六二米。西方は烏帽子岳(一一八二米)に續き、東方は檜澤峠・八倉峠・枝折峠最高點に連る。北麓すれば南牧川河畔野戸へ、南麓すれば神流川流域上野村白井まで通ず。

シオノハ　入之波　↓川上村(奈良縣)

シオノマチ　鹽野町村　新潟縣越後國岩船郡の北部。村上町の北方約一三粁。北は黒川俣村に、南は猿澤村に、東は高根村に、西は下海府・上海府兩村に界す。面積六一・二二方粁。蒲鉾山系中にあり、西境には蒲鉾山(七九五米)・新保嶽(八五二米)等連亙し・東境は蝶山(七〇九米)・薬王山(二一九米)一帶の山脈をなし、中央の谷は更に南北に二分され、南へ須戸川、北へ蒲鉾川を流出す。山地は概ね森林をなし谷沿ひに多少の田地あり、また北部山地に蒲鉾鑛山あるも、村民の多くは林産業を主とす。北陸道は須戸川に沿ひて南北に通じ、北部蒲鉾峠を越えて黒俣川村に入る。他に蒲鉾川に沿ふ縣道及び東西に數條の山道を分岐す。和名抄に磐船郡佐伯郷あり、或は本村の後を總べしものか。中世以降、北陸道の小驛にして、義經記にストウとあるは今の大字大須戸・小須戸後を稱せしものか。近世米澤上杉氏の陣屋ありて公料一萬三千石の田邑を支配せり。(蒲鉾鑛山)　本邦重要鑛山の一。三面川の支流須戸川の谷を遡り、蒲鉾峠を越えたる部分に在り、蒲鉾川の谷に面し、羽越本線村上驛より國道に沿ひて約二十五粁、その間自動車を通ず。附近は主として花崗岩及びそれを被へる第三紀層と、それらが冒めく結狀安山岩及び白英閃岩とより成り、鑛床はその割目を充たせる鑛脈にして東西及び南北に貫ぬき、主なるものは十數條の東西鑛にして、厚さ最大二米、延長六〇〇米を越ゆ。その大部分は方鉛鑛及び閃亞鉛鑛の緻密なる集合より成り、鉛平均一三%、最大二五%、亞鉛平均二七%、最大四五%を含み、これに多少の銀を含む。鑛床の上部地表より約一〇〇米は酸化して褐鉄鑛・菱亞鉛鑛・硫酸鉛鑛等を含める土鑛となり、その下に一層高品位の部分あり。その發見は嵯峨天皇の御宇に屬し、德川時代村上藩の經營に歸し、上部の鑛石より銀及び鉛を產せるも、亞鉛鑛の利用不可能なるため、遂に廢山の運命に會せり。然るに明治四十年來長岡市の人長谷川久太の再び經營する所となり、大正八年蒲鉾鑛山株式會社の創立を見、鉛亞鉛鑛山として再興し、鉛は鑛石のまま純阜縣神岡鑛山、亞鉛は同じく福島縣大寺の日本曹達會津工場に送りて製錬せるが、近年自山製錬を開始せんとしつつあり。昭和十年度には鉛鑛一、二五九瓲、一四・七萬圓、亞鉛鑛四、四〇八瓲、二五・三萬圓、計四〇萬圓の產出を見る。

シオノマツ　鹽松　福島縣安達郡小濱町の舊稱。また四本松に作る。名稱の起源は相生集に室町幕府の頃、安

津郡譯渡戸といへる所に六株の松あり、その二株を畠山氏の城下に移して二本松と稱し、殘り四株の在る地はのち石橋氏の食邑となり、四本松と稱し、のち鹽松と稱するに至るといふ。若州小濱に居りし大内氏その主石橋氏に代るに及んで鹽松を小濱と改むといふ。

シオノミサキ　潮岬村　和歌山縣紀伊國西牟婁郡の東南端、串本町の砂洲によりて其南に連る陸繋島を占む。面積六・九九方粁。約八〇米の海蝕臺地にて四周の海岸は屈曲多き岩石海岸をなし其西南端を潮ノ岬と言ひこゝに燈臺・無線電信局・氣象觀測所等あり、其僅か南方海上に大倉島あり、東南部に出雲崎の突出あり、其南にシエリ島あり四周小島嶼多く散在す。串本町より西南端潮ノ岬へ縣道のび東海岸にも道路ありて字出雲に至る。潮岬は海蝕されし平坦な岩磐の上に礫に富む土壌を蔽き、そこに甘藷を栽培す。井戸の掘鑿に適せず天水を貯へて飲料とす。雨量は年總量一、五八六粍、八月が最も多く三二〇粍。風強く（最大風速度三三・六米、年平均四・三米）爲めに住居は防風的に構へらる。住民は耕地少なきため漁業に力を注ぎ、附近岩礁の間に鮑・榮螺を漁る。從つて潛水に巧にして遠くオーストラリヤの木曜島より眞珠貝の採集に聘せらる。これ紀州住民の海外出稼の最初なりといふ。この海外出稼者中、富を得、潮岬村の住居を改築または新築するもの多く、その風に倣ひ出稼するもの多くなりぬといふ。潮岬燈臺は北緯三三度二八分、東經一三五度五二分にて本州の最南端に位し、明治六年の初點とす。白色圓形石造、燈質は明暗白光明十秒暗五秒、光達距離一九・五浬。

シオノヤ　鹽谷里　和歌の名所。栃木縣鹽谷郡氏家町より喜連川町の邊をいへるものならん。回國雜記「宇都宮を立て行く道に鹽屋といへる所あり…旅衣うらぶれて行く鹽のやに煉さびしき夕霞かな」

シオノヤマ　鹽山　延喜式に見ゆる上野國の牧。いま群馬縣北甘樂郡西牧村及び小坂町の邊ならんか。

シオノユ　鹽ノ湯　→鹽原町（栃木縣）

シオハマ　鹽濱

【鹽濱】下總國にありし古地名。今の千葉縣東葛飾郡行德町及び南行德町邊の海濱。古へ製鹽地たるより起れる地名。里見八犬傳・四ノ二に「是に錫掛る麻衣を、手ばやく取て拊て見つ、鳥夜に爛して透し見つ、ひとり頷き、莞爾とうち笑み、衣推團めて懐へ夾めて手を組、頭を傾け、思案も路次も引かえて、鹽濱のかたへ走去ぬ」

【鹽濱】三重縣三重郡にありし村。昭和五年四日市市に編入す。

シオバラ　鹽原

【鹽原町】栃木縣下野國鹽谷郡の北部。箒川上流の溪谷を含む。北より西は三依村に、南は藤原町に、東は箒根村に接し一部那須郡高林村に境す。町内全部山地にして西南境に高原火山の釋迦ヶ嶽（一七九五米）あり、これに續きて鹽原火山の諸峰峙ち、前黑山（一六七八米）・富士山（一一八四米）等あり。これ等諸山の水は集まりて箒川となりて東流し、温泉は此溪谷に湧き從つて聚落はこの沿岸に發達す。全町森林に富み箒川の沿岸に多少の耕地を存するのみ。町の生業は農蠶に從事するもの多きは當然なるも、商業に從事するものこれに次ぐは温泉聚落として觀光客に依存するに因る。今各戸を職業別に見れば農業一三二、蠶業七六、商業一九三、工業一〇五、交通業三九、林業三二、水產業三四、公務自由業三四、其他有業者八八、無業一七（昭和十年國勢調査）なり。交通は箒川に沿ひて縣道會津東街道ありて那須郡西那須野方面に至り省營バスは鹽原本線西那須野驛に起りて温泉地の中心に通じ（約二二粁）また省線の矢板驛よりも省營バス通ず。町内には温泉の湧出するもの數十箇所、中に就きその名の著ばれたるもの凡そ十一湯あり。往時は此地は單に交通不便なる山中の湯治場に過ぎざりしが、一旦、東北線の鐵道が明治十七年に開通するや、時の栃木縣令三島通庸は此温泉を天下に紹介せんとして西那須野驛より一直線に關谷まで道路を開き且つ鹽原入口の棧道を改修し以て交通の便を圖りしため、終には鹽原御用邸の設置を見るに至り、漸次この地の風光を賞するもの增加し、昨今一年の觀光客四十萬を突破するに至れり。町名鹽原は蓋し鹽類泉湧出せしに起因するものならん。而してその開發の年代は詳かならざるも、その口碑の傳ふる所によれば千百餘年前の大同年間にありといふ。其より四十餘年ののち承和元年空海上人此地に錫を止め、初めて温泉に浴し奇効あるを世に示したりと傳ふ。夫より三百餘年ののち安德天皇の御宇、鹽原家忠といへる者、鹽原・三依・横川の諸村を領し、源三位賴政の遺族を扶け那須資隆と戰ひしことは書史に存す。壽永年間小松内府重盛の繼妙雲尼この地に逃れ來り庵を結ぶ。その歿後その名に因みて妙雲寺と稱しいま尙存し臨濟宗に屬す。足利時代には宇都宮家の支族君島信濃守この地を領すること久し。然るに宇都宮家の滅亡と共に君島氏また衰へ、慶長元年より宇都宮城主蒲生飛驒守秀行の領下となり、これより城主世々變遷ありしも依然宇都宮藩の治下となりて明治に至る。明治三年より日光縣所轄となり、のち宇都宮縣所轄となり同七年より栃木縣所轄となる。同十七年下・中・上鹽原及び湯本鹽原の外三依・横川の二村を合し戸長役場を設く。同二十二年町村制施行の際三依・横川の二村を分離し下・中・上鹽原及び湯本鹽原の四大字を含みて鹽原村と

稱し、大正八年に至り町制を布く。〔鹽原温泉〕箒川の本支流の溪谷に湧出す。俗に大網・福渡・鹽釜・畑下戸・門前・古町・鹽ノ湯を鹽原七湯と稱す。更にこれに須卷・新湯・古湯本及び近年新らしく展けし袖ヶ澤温泉を合ずれば、今や十一湯を算す。泉質は新湯の硫黄泉たる外は大體に於て鹽類泉に屬す。この地方一帶は溪谷美の外、初夏の嫩葉、秋の紅葉の美觀は他に比類なしと云ふも敢て過言にあらざるべし。いま順次にこれ等の温泉を列擧せん。先づ町の入口に當れるは卽ち大網温泉にして、道路より急坂を降ること約二〇〇米、箒川の左岸に湧く。大網より川を泝ること約三粁にして福渡温泉に至る。旅館軒を連ね、附近に御用邸あり、其の他、七ッ岩・紅葉山公園等あり。温泉は此地に湧出するも尙ほ鹽釜温泉より木樋を以て引湯す。福渡より約一粁にして鹽釜温泉に至る。湯は箒川の兩側に湧き、温度高く、湧出量も多し。附近には高尾塚等の名勝舊蹟あり。鹽釜より箒川を渡り、その一支流なる鹿股川の溪を泝ること約一粁にして、幽邃の境に鹽ノ湯あり。湯は河岸の洞窟中に湧き天然の浴槽をなす。旅館よりは百餘級の階段を設けて連絡す。鹿股川を泝れば到る處に飛瀑懸る。鹽釜より迂曲せる崖を南に降れば約五〇〇米にして畑下戸温泉に至る。箒川に臨む低地にあり。畑下戸より約一粁にして門前温泉に至る。この地は町内第一の聚落にして、温泉情調横溢し町役場・小學校等あり、附近には禪刹妙雲寺あり、門前の稱はこの寺の門前町なるより起る。門前より箒川に架せる蓬萊橋を渡れば古町温泉とす。附近には洗心瀑等の名勝あり。畑下戸の南、箒川の對岸の山中に須卷温泉・袖ヶ澤温泉あり、共に鹽ノ湯に至る山道に沿ふ。前者には湯瀧あり、後者には萬人風呂あるを以て著はる。以上の外に新湯温泉は富士山の中腹にある硫氣孔の中に溪水を導き熱湯とせる人工温泉として知られ、古湯本温泉は鹽原最奥の温泉にして翠巒を以て圍まれたる箒川の源流に臨める別天地にあり、もとは盛なる湯治場なりしが、萬治二年の大地震に埋沒して舊形を存せず。〔逆杉〕指定天然記念物。大字中鹽原なる御殿八幡宮境内にあり、杉二株東西に並び根元にて接着す。西なるは目通幹圍約一〇・五米、東は約六・八米あり、樹勢旺盛、杉の巨樹として代表的のものとす。枝葉皆地に向つて垂るゝを以てこの名あり。〔鹽原化石植物群〕當町附近に產する上部洪積世植物群にして、いま百種以上の植物化石知らる。卽ちカヘデ科・カバノキ科・イバラ科・シヤクナゲ科・シナノキ科・落葉殼斗科等を主要素とする温帶北部の山地性化石植物群にして、大部分本州北部乃至北海道に現生する種よりなる。俗に木葉石と稱せられ八幡宮より約五百米北方に產するもの著名なり。時に介殼・昆蟲類の化石も出す。殊に介殼類は鹽ノ湯より、木葉石は古町より產するをその最とす。〔鍾乳洞〕大字古町の西、螢ヶ谷の丘上にあり。乳石成生し深さ約六米、幅約九米なり。傳說に源三位賴政の孫伊豆冠者有綱、其臣某と共に此地に逃れ、鹽原家忠に據りて鎌倉勢と戰ひしが、終に敗れ此洞窟中に隱るといふ。よりて今源三穴とも稱す。〔妙雲寺〕大字中鹽原にあり。臨濟宗妙心寺派。廿露山と號し、壽永年間平氏敗軍の砌、筑後守貞能、小松内府重盛の繼母妙雲尼を伴ひて此地に落ち來り、山中に草庵を結び重盛歸依の釋迦像を安ず。永祿年中火災に罹り現堂宇は其後の再建に係る。境内に妙雲尼・小山判部等の墓あり。

【鹽原火山】栃木縣にある死火山。釋迦ヶ岳火山と共に高原火山帶を作る。東は那須野ヶ原、北は箒川上流、西及び南は鬼怒川上流の谿谷に限られ、東北の那須火山と西西南の日光火山彙との中間にあり。火口壁は榛ヶ澤・前黑山（一六七八米）・明神山・大入道・小入道等なり。南側の山腹は釋迦ヶ岳火山によりて被はる。火山活動はまづ集塊岩質泥流に始まり、これが山體の大部を形成せし上に鹽原火山の熔岩流出し更に釋迦ヶ岳熔岩流によりて今日の山體形成さる。熔岩は輝石安山岩・英閃輝安山岩より成り、新生代の第三期瑠璃統に屬する地層をその基底とす。

【鹽原】延喜左馬寮式に見ゆる牧。その地、今の長野縣諏訪郡豐平村字南大鹽の邊か。東鑑・文治二年三月「左馬寮領、鹽原」

シオマチ　鹽町

【鹽町】大阪町名の古稱。上鹽町の略。いま東區谷町一丁目東の筋の俗稱。江戶時代岡場所の所在地。浪花今八卦「近年繁昌するにしたがひ、しんの色里めかし、たいこみせ行燈かがやかし、女郎藝子のいせう隨分ばでに島の内にまけじと力む事也、馬場先、鹽町呼屋はなやかに數しらず、辰らん、ぜとしげ、龍人の耳にあり」

【鹽町】大阪南區内の町名。安堂寺町と末吉橋通との間にあり、東横堀より東西に通じ、四丁目まであり。今宮心中・下「又引寄せて泣く涙、袖にさし來る鹽町や、長からぬ世に長堀の樂な世界を心から、九之助橋もこれやこの」生玉心中・上「聞けば姉御さん、堺筋の鹽町邊に無付して御座んとすや」

【鹽町】藝備線の一驛（昭和五年設置）にして福鹽北線の分岐點。廣島縣雙三郡田幸村にあり。

シオミ　志保美　鳥取縣岩美郡にありし村。大正六年志保美村を廢し、それと元鹽見村の區域を以て鹽見村を設く。昭和三年鹽見村を福部村と改む。

シオミ　潮見村　愛媛縣伊豫國温泉郡の中部。松山市の北部にあり、東

は伊豆村、北は堀江村、西は和氣・久枝二村に界す。高郷山塊西麓とその下に廣がる松山平野の一部を占む。平野は肥沃なる耕地をなし農業盛んに行はれ米・麥・甘藷を産す。山地は階段狀の耕地となして伊豫蜜柑を栽培す。松山市より北上して北方北條町へゆく縣道は村の西部平地を南北に通ず。此地、古くは和氣郡大内郷の地、和名抄は於保宇知と訓じ、大宇大内はその遺稱とす。村名は蓋し潮見山より出でしものなるべし。〔阿沼美神社〕大宇大内に鎮座。郷社。祭神、大山祇神・月讀命外二神。創建年代は詳かならず。社傳に據れば、河野氏歴代の崇敬社にして、大内郷内三百二十一町六反の地を寄せ、鹽見山城主大内伊賀守信泰に命じて祭事を掌らしむ。延文年中まで阿沼美宮と稱へ文禄以降は阿沼新宮と稱號し、寛永年間更に三島新宮大明神と改稱す。天保四年に御幸橋丹垂に際し、「阿沼美宮、延文五子年三月、願主岡田氏」とある石額を發掘せしを以て、式内にある阿沼美神社にあらずやとも云はる。天保五年現社號に改む。例祭十月四日。

シオミ　鹽見（しおみ）

【鹽見】 ↓西卿村（千葉縣安房郡）

【鹽見岳】 赤石山脈に屬する一峯。北方なる白峯山と南方なる赤石山との中間の塊峯にして、東面は静岡縣安倍郡井川村に西は長野縣上伊那郡伊那里村に屬し。標高三〇四七米。南麓は本谷川（二六五八米）を經て三伏峠最高點に至り、北東麓は北荒川岳を經て白根山に連る。東方は大井川、北方は三峰川の水源地なり。山頂部は緻れ岩石地帶にして狭く、絶巓は二峯に分れ、東の峯は尖りて尖り、西の峯は丸味を帶びて鍋兜の如し。北側は物凄き斷崖の連續にして荒涼たる景觀を呈し、その間に高山植物繁茂し、特にイワウヰ・ゴロウマツバギ・ミヤコノオダマキ等咲き亂る。山名の由來は昔時、健御名方命が御通行の際、西方鹿鹽谷にて鹽を見給ひ、その鹿鹽谷の頭なる山の故に名附けられしと傳ふ。又一説には弘法大師この山に登り、海を望み法力にて鹿鹽谷に鹽を招來せし爲と云ふ。山頂よりは南アルプスの高峯眼界に入り、特に白根（峯）三山及び赤石岳の眺望良し。登山は西方伊那谷方面よりは小諸川より、南東方大井川方面よりは藤島より、又東方早川谷方面よりは奈良田より行はる。

【鹽見坂】 ↓白須賀町（静岡縣）

【鹽見峠】 一に潮見峠に作る。紀伊水道に臨む田邊町の北東方約十粁、和歌山縣西牟婁郡栗栖川村に屬す。熊野街道中邊路に當る。三十三所圓繪に依れば、東方なる新宮市より田邊町まで約二十里、その間山又山の中を通り來り、此峠に至れば道漸く緩かとなる。而して峠上よりは始めて渺々たる熊野灘を望み得らる、因りて峠名呂づと云ふ。

【鹽見】 鳥取縣岩美郡にありし村。大正六年、元鹽見村・志保美村を廢しその地域を以て鹽見村が置く。昭和三年鹽見村が廢し細郡村を置く。舊域内に山陰本線の鹽見驛（明治四十三年設置）を置く。

シオミ　鹽海（しおみ）　安房國（千葉縣）安房郡の古地名。和名抄に鹽海郷あり之保美と訓す。いま安房郡西岬村の大字に鹽見存す、これ郷名の遺稱にして、その地域は凡そ館山北條町の西部より西岬村の東部の邊の地に當る。

シオモノ　鹽物町（しおもの）　大阪の舊町名。いま西區靱中通二丁目に當る。今宮心中・上「抽鳥源治は新靱ちやとおつしやる。それなぜに。鹽物町のしたたるたる、然も藝には骨が有るといの」

シオヤ　鹽谷（しおや）

【鹽谷村】 北海道後志國忍路郡。忍路郡全部を含む。小樽市の西に接し北は日本海に臨み、西南は餘市郡餘市町に界す。西積五二・七平方粁。南部に毛無山（六五四米）・丸山（六二九米）等あり、地勢は概ね五六百米乃至二百米の高地とす。北方海岸に賴く。海岸線は屈曲に富み岩壁・島嶼を有し、風光よろしく海水浴場として名高し。小樽市より餘市町に通ずる國道及び省線函館本線北部海岸近くを東西に貫き、村内に鹽谷（明治三十六年設置）・蘭島（明治三十五年設置）二驛を置く。また小樽市及び餘市町へはバスの便あり。農・漁・工業盛んにて馬鈴薯・大豆・燕麥・米粟・麻・紙・水産食料品を産す。村名はアイヌ語のジューヤの轉訛せるものといふ。ジューヤは鍋岩の義にて、昔サバネクルといふ酋長が鍋を岩に掛けしといふ傳説によるともいひ、また鹽谷驛より四粁餘の海濱にある弦掛岩の形、鍋の弦に似たるより此稱ありともいふ。いま一説町村制を布く。大字忍路は龍ヶ崎の東南なる餘市灣に臨み、帆船時代はその避難港として、また魚分節を以て著れ、また北海道帝大實驗場を置く。近海は鰊の好魚場たり。追分節「忍路高島及びもないがせめて既棄磯谷まで」〔忍路神社〕郷社。祭神、大國主神。もと大國主神社と稱し、創立は明治維新以前とす。例祭八月十五日。

【鹽谷】 ↓上川村（北海道上川郡）

【鹽谷郡】 栃木縣八郡の一。東は那須郡に、南は芳賀郡に、西南は河内郡・上都賀郡に隣接し、北は福島縣及び群馬縣に界す。北端に男鹿嶽（一七七七米）・荒海山（太郎嶽、一五八〇米）・帝釋山（二〇六〇米）・黒岩山（二一六三米）・鬼怒沼山（二一四一米）・燕巣山（二二一二米）・温泉岳（二三三三米）等の諸峰連立し、南方に高原火山群が峙ちて日光の男體山に續き、鬼怒川及び籠川はこれ等の山地を開析し南部には鬼怒川の沖積地ありて關東平野に續き、東部は那須原の西邊に當り平坦地をなすも地味肥沃なちず。産物は米・麥の外に葉煙草・繭・木材等あり。省線東北本線は南東部を縦斷して那須野に向ひ、同鳥山線は宝積寺より分岐し南に延びて那須郡烏山町に至る。また矢板町より社線下野電氣鐵道は西部を縦斷す。國道陸羽街道は東南隅を掠め日光街道は矢板町より省線を經て上都賀郡に入り、會津街道は籠川の上流を經て福島縣に入る。なほ本郡には火山帶に伴ひ温泉の湧出多く、鹽原温泉郷は籠川の上流にあり、鬼怒川温泉は鬼怒川の溪谷に沿ふ。姓氏録に鹽屋連は武内宿禰の男葛城曾都比古命の後裔なりとあり。また孝德紀に鹽屋連鯽魚、齊明紀に鹽谷連小才等見ゆ。延喜式に鹽屋郡傳馬五疋と見え、和名抄は之保乃夜と訓じ山上・片岡・河曾・故佐・山田五郷及び餘戸一を置く。東鑑、文治四年の條に鹽谷莊と見ゆ。元禄以降鹽屋・鹽谷兩様に作りシオノヤまたはシオヤと訓す。郡の名義は鹽竈の出る谷の意なるべし。のち芳賀郡の氏家・新田の二郷を併せしもその間は詳かならず。明治以降鹽谷に作り、シオヤと訓み、以て今日に至る。

シオヤ　鹽屋・塩屋（しおや）

【鹽屋郷】 ↓豊間村（福島縣）

【鹽屋村】 石川縣加賀國江沼郡の西南隅。大聖寺川の河口に沿ふ。東は潮越村に、南は福井縣坂井郡北潟村に接し、西北は日本海に面す。本村は砂丘を背にしたる砂濱にして漁船の小舘地をなし、主生業は漁業とす。本村は面積〇・五九平方粁の極めて小なる村なるが、昭和十年に於て本郡一方粁の平均人口密度一八一人なるに對し本村の密度は二二六四人といふ村としては稀に見る稠密さを示す。また本邦は平均として毎年増加を見るに反し、本村が上記の表に示せる如く漸減の傾向を有するは、人口の稠密さに應しき資源もなく産業もなきに因るもの、更に遡れば人口の増加に反比例して、魚族の減少に因るもの、かくて漸次郡會其他へ移住するもの多きに至れり。此地古くは和名抄、江沼郡長江郷の内に屬す。

國勢調査人口	
大正九年	一八二三
大正十四年	一五四五
昭和五年	一四五五
昭和十年	一三三六

【鹽屋】 伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に奄藝郡鹽屋郷あり、之保也と訓す。地は凡そ河藝郡白子町・稲生村に當る。

【鹽屋】 兵庫縣明石郡垂水町の大字。山陽本線の鹽屋驛（明治二十九年設置）を置く。

【鹽屋】 兵庫縣赤穂郡にありし村。昭和十二年赤穂町に編入。

【塩屋村】 和歌山縣紀伊國日高郡の西部。紀伊水道に臨み、日高川河口の左岸を占め、御坊町の南に隣る。東北は野日村、東は稲原村、南は名田村に界す。北部及び南端に三〇〇米程の丘陵あり、中央に谷を作る。西部に日高川の分流南へ流れて海に入る。海岸は平直なり。山地多きも農業行はれ米・麥を産し、海岸は漁業行はる。西部低地に熊野街道北端御坊町より南方に走り中央より一道路東に分岐し稲原村より東方に通ず。東隣野口村及び其の南の稲原村には省線紀勢西線西北より東南に走り東北約四粁に和佐驛あり。古くは和名抄、日高郡岩淵郷に屬せるものの如し。道成寺縁起に鹽田の岡あり、詞に「此は鹽屋といふ所」と云へば、其頃には鹽をやきしを知る。鹽屋王子址は大字北鹽谷にあり、熊野九十九王子の一にして、白河法皇熊野へまゐらせ給ひて、御供の人鹽屋の王子にて歌よみ侍りける時、後二條大臣「思ふこと決みてかなふる神なれば鹽屋にあとなたるるなりけり」と詠めること千載集に見ゆ。また北鹽田に天田塚穴あり、明治四十年の發掘、玄室の間口五尺、奥行七尺、高五尺五寸。大字南鹽屋の尾ノ崎の邊は、藤原家隆が「漁火の光にかほる煙かな潮の鹽屋の夕暮の空」と詠める處なりと。

シオヤス　潮安（しおやす）　壹岐國（長崎縣）の古地名。和名抄、壹岐郡に潮安郷あり、高山寺本は潮鹽郷に作る。今何れが眞なるか詳かならず。その地今詳かならざるも諸郷の位置より推せば壹岐郡箱崎村の邊に當るか。

シオヤマ　鹽山（しおやま）　古へ上野國に置かれし牧の名。延喜式「上野國、鹽山牧」と見ゆ。上野國の今の北甘樂郡の西部が信濃國の南佐久・北佐久二郡に接する地に鹽山の東南麓に當り古來西牧・南牧と稱して牧場のありし處、南牧の磐戸村にに大鹽澤の大字あり、されば鹽山牧は其の所在なこの邊に求むべきか。

シオユ　鹽湯（しおゆ）　美作國（岡山縣）の古地名。和名抄に勝田郡鹽湯郷あり、高山寺本は之保山と訓す。地は勝田郡湯郷村・公文村に當る。

シオリ　枝折峠（しおり）　會津駒ヶ岳（二〇〇三米）の北東方約五粁に當る峠。最高點一二三六米。新潟縣北魚沼郡湯之谷村に屬す。北西方上越本線小出町驛方面より南東方只見川河畔の銀山平開拓地方面に至る山徑に當る。峠名は昔猟師山越の際樹枝を折りつゝ目標となせしに因ると云ふ。この峠、頂上部に明神を祀るに因り一に明神峠とも呼ぶ。

シオン　志恩

【志恩画】 朝鮮全羅南道務安郡の西。羅州群島中の略々中央に存する最大島志恩（面積四九・七方粁）及び屬島の斗里島・小斗里島・竹島・新池島等より成る。東南は最泰面最泰島、北東は鮑島水道を隔て智島面南智島及び後曾島に、西南は飛禽島に相對す。麓盤山脈末端部の沈降の結果成生せる諸島にして島内丘陵起伏すれども著しきものなく、東岸は概して岩石海岸を成せども西岸及び西南岸は砂濱相連なる。漁撈の使乏しく從つて主如作農業行はる。産物は粟・大豆・大麥・黍

麥・甘藷・棉花等にして水産物には石首魚・鯖・鰮・和布・食鹽等あり。道路朝は東部に密にして西部は疎なり。西端に聳立する鷹岩山(一二三米)は眺海上好目標たり。漁落の東部に多く集團せるは水に乏しき本島に於ては飲料水として島の中央に面積約三・五ヘクタール、水深五米内外の大池を設け之に飲料水を仰ぐとによる。面事務所は古場里に置く。

【慈恩島】 ↓慈恩島

ジオンジ 慈恩寺村 埼玉縣武藏國南埼玉郡の中部。南は岩槻町、西は河合村・黑濱村、北は日勝村、東は内牧村・豐春村と隣す。全村平地にて西南境を元荒川南流し川の附近及び東部には水田多く、他は畑地をなす。岩槻町より來る縣道は村の西部を北走し、また總武鐵道線は村の南部を東走するも村内に驛なく、岩槻町に岩槻町驛を置く。この地は近世、埼玉郡岩槻・百間の二領に屬せり。大字慈恩寺は太田庄に屬し箕輪郷の唱あり、此地に慈恩寺ありしにより慈恩寺村と呼ぶに至りしといふ。德川氏關東入國後は幕領・寺領・采地入り交れり。〔慈恩寺〕大字慈恩寺にあり。天台宗。華林山最上院と號す。坂東三十三所第十二番札所たり。天長元年慈覺大師本寺を開創し、當山の風景唐の大慈恩寺に似たりとて慈恩寺と號せりと傳ふ。のち諸堂傾きしが天文年間太田道灌之を再興す。當時本坊四十二、新坊二十四を存し、德川家旗寺領百石を寄す。御詠歌「慈恩寺へ參るわが身も觀もしや浮むげじまを見るにつけても」

シカ 四佳面 朝鮮平安南道成川郡の東北隅。北は雙龍面、西は三德面、南は成川面及び九龍面に、東は大邱面及び陽德郡に接す。西境には梅花山(六七七米)、南境には所組山(六四〇米)聳立し餘勢城内に及びて山岳重疊す。ただ溝流江沿岸に僅に低平地を見るに過ぎず。産物には大豆・粟・煙草・木炭・玉蜀黍・朝鮮紙・明鈾等あり。總督府鐵道平元西部線に西方より來り南部を東西に貫きて巨興・長林の兩驛(共に昭和六年設置)あり、道路は平壤・元山間一等道路、成川より來り長林里より鐵路に並行して東方陽德に通ずるを以て、北部山岳地方を除く外は交通運輸共に便なり。面邑長林里は面の略々中央溝流江の左岸にあり、市場ありて穀類・新炭・雜貨等の取引行はれまた警察官駐在等あり。本面は近年、北隣の天成面と合併しその面積倍加せり。

シカ 四箇 【四箇】 新潟縣古志郡にありし村。明治三十九年、川西村と合併して上川西村となる。

【四箇村】 香川縣讃岐國仲多度郡の西北部。多度津町の背後に當る。東は豐原村、西は白方村、南は吉原・筆岡兩村に接す。西部に山脈を有するのみにて、大部分沖積土より成り、西方高地に於て閃綠岩及びその南端に於て花崗岩、雨霧山に於て古銅輝石安山岩を見る。面積四・九五平方粁。土地概ね平坦にして、山林二九町八反九畝に對し、田三一三町九反、畑九町九反を有し、善通寺の東なる有岡大池に發する山階川の他、十七ヶ所の溜池を以て灌漑に便す。土質は粘土質にして保水力あり、旱魃の被害少く、農耕に好適、住民は殆ど全部農業に從事し、米麥の他、蔬菜(早稻胡瓜等)・果樹(梨・柿・葡萄・蜜柑・キーアル・夏橙・梅・桃・枇杷・無花果)を栽培、副業として蠶加工(臥)、養鶏・養兎に從事す、尚ほ餘力を以て岡山地方に鬱刈に出かく。本村は伸多度平野の西端にて、丸亀・多度津・善通寺・琴平を結ぶ交通線外に當り、省線讃岐線も村の北部を通過するも驛の設なく交通不便なりしが、琴平參宮電鐵の三井・青木の二驛(大正十三年設置)を置きまた新道路も設立され産業開發の機運に向ひつゝあり。本村はもと多度津町・白方村の地と共に和名抄、伸多度郡三井郷に屬し、三井の名は今なほ村内大字名に殘る、また早く開けし事は附近丘陵に古墳の存在するによりて知らる、社寺にも古きものあり。村社加茂神社は大字三井にあり、村の中央に位し、村社八幡社參宮に對し西の宮と稱すれど、八幡社勸請以前の古社と傳へられ、村社八幡社も同三井にあり、道隆寺温故記によれば延久五年同寺の補善が謂を來して勸請せし五ヶ所の八幡宮の一なりと云へど、又此社はもと三井郷の氏神たる三井神社にて、後世八幡宮を勸請せしものなりとも云ふ。大字山階には村社春日社あり、道隆寺温故記には稱光天皇御宇應永二十一甲午の勸請と稱す。寺院には蓮忍寺・圓光寺あり。蓮忍寺は大字山階にあり、高貴山常住坊と號し、雨霧城主香川信景の孫の開基と云ひ、又空海の弟子信海の開基とも傳ふ、眞言なりしが、天正後眞宗東本願寺派となる。圓光寺は大字三井にあり、香林山蓮花院と號し、興正寺末、應仁元年三井鑑物の創立と云ふ。

シカ 志珂 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に糟屋郡志珂郷あり、その地今の粕屋郡志賀島村に當る。古書に磯鹿・袁河・思可・志賀等に作る。四鹿濱・之可浦の名あり。萬葉・一五「志珂に漁する海人家人の待ちこふらむに明し釣る魚」

シカ 鹿 【鹿島】 廣島縣安藝郡にある島。倉橋島の南方にあり、倉橋島村に屬す。南北約三粁、東西約一粁。全島火崗岩より成る山地にして樹木繁茂す。漁業は西海岸の瀬戸・縄ノ元・宮ノ日に發達す。

【鹿島】 愛媛縣温泉郡にある島。北條町の西約四〇〇米に浮び北條町に屬す。島の周圍約一・五粁、高さ一一五米、花崗岩・安山岩等より成り、南北西の三面絶壁をなし東側のみ稍緩傾斜をなし、其麓に鹿島神社あり。全島樹木繁茂し海岸一帶には松多く中腹一帶には樟多く保安林となる。また島内には神鹿が棲み、東海岸には夏季海水浴が行はる。

シカ 四賀村 長野縣信濃國諏訪郡の中部。上諏訪町の東隣。北は小縣郡に、西南は中洲村に、東は米澤村に界す。東北境車山(一九二五米)の南斜面を占め、南北に細く平地は西南部山麓に少しあるのみなるも米・繭の産あり。中部の溝地より出づる上川は東流して村外に出で山麓を迂回して更に西南部に現はれ、西方諏訪湖に注ぐ。傾斜地一帶はなだらかなる草原をなし、近時篤ヶ峰はグライダー練習地として世に著はる。省線中央本線及び甲州街道は山麓に沿ひて西部を貫通し、更に神宮寺方面へも縣道分岐せり。上諏訪町へはバスの便あり。此の地は和名抄、諏訪郡柔原郷の内。

シカ 志賀 【志賀村】 長野縣信濃國北佐久郡の東南端。小諸町の東南方約一二粁。北は三井村に、南は南佐久郡内山村に、東は志賀慈により群馬縣北甘樂郡に隣す。東境物見山(一三七五米)の西山裾を占め、緩傾斜地をなし、西隅に僅かの平地あるのみ。村内に發源せる細流、西に流れて千曲川の一支流となる。傾斜地は大部分樹林又は草原をなし、西部には耕地開け米・麥を産す。西方岩村田町より縣道通じバスの便あり。東方に至る山道は志賀越を經て上州神津牧場に通ず。村内に志賀城址・高柳城址あり、志賀城は笠原氏の居城にして、甲陽軍鑑に天文十六年八月、信玄公、信州佐久郡志賀城を攻め、笠原新三郎を討取ると見え、天文年間武田の亡ぼす所となる。笠原氏は神家族、笠原親直の裔か。高柳城は志賀氏の居城にして、天正十年德川方の依田新六郎の攻めに陷らる。〔雲興寺〕曹洞宗。城源山と號し、明應八年の創建に係る。全高和尚を開山とす。大永三年本村領主笠原新三郎更に堂宇を再建し國明禪師を請じて中興の祖となす。のち衰微せしを元和元年第五世天外和尚これを重興す。〔法輝寺〕新義眞言宗智山派。熊野山と號す。開創年代不詳。天正年中兵火に罹り、寛永年中尊識法印之を再興す。

【志賀高原】 長野縣下高井郡南部の高原。平穏温泉郷の上林温泉より上州街道の東に逸みて渡坂を登り、東は上信國境の溝峠より北は岩菅山(二二九五米)の西に至る間にして、その中央なる志賀山(二〇三五米)の名によりて志賀高原と稱す。高原の中には東の大沼、西の琵琶沼等を初め數多の池沼あり、旭山附近の丸沼には丸沼ヒュッテある外、發哺・熊の湯の二泉ありて冬はスキー場、夏はキャンプサイトとして近年世に知らる。地は一六〇〇米以上なるを以て、冬季は積雪深く且つ雪質もまた良好にしてスキー場としては殆ど理想的なり。この地より日本北アルプスの諸峰、近くは信越國境附近の諸山の展望極めて雄大なり。

【志賀】 愛知縣東加茂郡にありし村。明治三十九年本村は小川村・松平村と共に廢せられ松平村を置く。

【志賀】 ↓滋賀郡

【志賀村】 和歌山縣紀伊國日高郡の西部。紀伊水道に面する由良灣口の南岸に位し御坊町の西北約五粁にあり。西南境に西山(三二九米)ありて北及び東に傾斜して南部山地をつくり、西境に東高坪山(二一八米)ありて北部から東北部に約二〇〇—二五〇米につゞき、東北部山地は西方及び西南方にゆるく傾きて其西麓に北境より發源する日高川支流は北方海岸へ出で寸して南へ流れ、更に南部山地の東側に出で東南流し約五粁先河口近くにて本流に合す、山地多きも低地には耕地拓けて米を産す。縣道西隣比井崎の海岸より來り南部山地の麓に沿ひて東方へ更に南方へ迂回して御坊町方面に通ず。村は志賀・小池の大字より成り、志賀・小池は共に中世の庄號とす。大字志賀の油尾に德本上人誕生遺跡あり、近世念佛行者として知らるる德本上人の宅址にして、記念碑建ち、誕生の家屋は今碑の背後に移さる。

シカ 指賀 陸奥國(宮城縣)名取郡の古地名。和名抄に指賀郷あり訓を缺くも志賀と呼びしものならん。地は明らかならざるも同郡千貫・愛島・館腰の諸村に亙る地とゝなし。いま千貫村の大字に志賀あり、これ郷名を傳ふるものならん。

シガ 滋賀 【滋賀縣】 (位置) 近畿地方の北東部に位し、北は福井縣、東は岐阜縣、南は三重縣、西は京都府に夫々隣接す。(地形) 本縣は大體本州中央部の地峡部に位し北と南は丘陵性の江若山塊と江賀高原を以て、夫々敦賀・若狭二灣沿岸と伊賀盆地に連る。東には伊吹・鈴鹿の二地塁山脈南北の方向に連亙し、西は比良の地塁ありて丹波高原に續き京都盆地に接す。その中央には稍々北と西に偏して北東より南西の方向に琵琶湖横はり、湖岸は近江盆地をなす。總面積四〇五〇・九三方粁、その中琵琶湖の面積七一六・三一方粁にして陸地面積は三三三四・六二方粁となる。近江盆地の周縁山地は概ね地塁山地にて東には伊吹山(一三七七米)を主峰とする伊吹山脈ありて江濃の境をなす。此山は石灰岩より成り、關ヶ原、天ノ川を隔てて對峙する鈴鹿山(一〇八四米)も石灰岩より成り、これより西南にかけてはカルスト地形發達し、ポリエ・ドリーネ所々に散在し、山麓には芹川の上流の石灰洞を始め多くの石灰洞存しこの中より近年鹿角の臼歯も發見せらる。鈴鹿山以南は鈴鹿地塁に屬し、藤原岳・御ヶ岳(一一〇〇米)・御在所山(一一二〇九米)・鎌尚山(一一一〇米)等屹立連亙して交通上障害をなし伊勢海と近江盆地に斷層崖を向

く。南西部の信樂山地は第三紀層の發達せる地域にて信樂燒の原料陶土を出し田上山(六〇〇米)は鎭物標本を多く出す。此の丘陵地を通じて山城・大和・伊賀・伊勢に至るに便なるを以て、往古聖武天皇の時、紫香樂宮を營められし事あり。西部比良山脈は暮雪にて有名なる比良山(一一七四米)を主峰として、琵琶湖に臨む屏風高原に接す。鈴ど花崗岩より成り北部西側に古生層並合して一山塊をなす。此地はまた近江アルプスと稱せられ南部には延曆寺にて有名なる比叡山(八四八米)あり。北部江若山塊は低丘陵性にて日本海側との分水嶺をなし交通上人文上の障害たり。白山火山脈も此地を通過し、饗庭野・泰山寺野は原野のまゝ殘り、夏は陸軍の演習地に、冬はスキー場として利用さる。近江盆地は大體斷層に依つて圍まれし構造盆地にて、琵琶湖の外形は盆地を構成せし構造線と其後河川の建設せしデルタとの結合に成るものとす。北部には余吾湖の斷層湖あり、東部には高時川・姉川のデルタ見られ、東南部には鈴鹿地塊よりの扇狀地が認められ、北より犬上川・愛知川・日野川・野洲川が夫々天井川をなし並行して琵琶湖に注ぎデルタを作る。殊に野洲川のデルタ最大にて今日も成長しつゝあり、次第に對岸の堅田に延び琵琶湖は將來二つの湖とならんとする狀態を示す。琵琶湖の水は宇治川によつて京都盆地に流出す。また湖東平野の中には小山塊の殘存ありて盆地の單調を破り、その湖岸にあるものは今なほ湖心に點在する竹生島・多景島・沖ノ島等の島嶼と共に湖國の風光に一段の美を添加す。〔氣候〕內部に大湖を擁し外側に山脈を繞らす爲に四圍の府縣に比して夏冷冬溫の傾向あり。湖畔は平均海拔一〇〇米內外にて夏の低溫は高度によるもの、冬の高溫は全く琵琶湖の氣溫調節作用によるもの。ただ江若國境を越えて來る裏日本式大雪は、湖北・湖西の地を埋め、特に北陸本線柳瀨トンネル附近と伊吹山麓が最も深く、冬季交通の難所となる。比良山は晩春迄雪を戴き近江八景の一として讃へらる。早春三月山上一帶の低き氣流と湖畔の高き氣流とが盛激に交替して所謂比良颪が湖上を襲ひ、沿岸漁民は之を比良八荒と呼びて恐る。〔產業〕農業は湖北・湖西の一部を除き、殆ど二毛作が行はれ、北部は麥、南部は菜種を主とす。米は近江米として古來良質を以て讃へられ、既に歷朝の御即位禮と共に行はせられる大嘗祭に當り、縣下各郡は常に悠紀の地方として齋田を勅定せられ、昭和の大嘗祭にも三上山麓に悠紀田が卜定せられし程なり。茶は東部及び南部の山間の傾斜地及び丘陵地を主產地とし、政所・土山・信樂を中心地とす。茶種は綠茶に限られ宇治茶として年產百萬圓以上を占む。養蠶は湖北長濱・湖東八日市を中心とする地域、殊に姉川・高時川・金吾川流域は縣下第一の養蠶地域にして稻作は副業とさる。產繭取引は長濱・木之本にて行はれ乾繭・貯蔵・製糸の工場完備し、長濱・米原附近の蠶具は副產物なり。琵琶湖は我國最大の面積を有する淡水湖で水深も九〇米を超え、冷水溫水兩性の各種を包含し、本邦淡水產魚族の殆ど全部を產す。年百五十萬圓內外の產額を有し、鯉・鮒・小鮎・鰕・鰻・鯰を主とす。特に小鮎は年々各府縣に配給さる。かく本邦最大の大湖を控ふるを以つて適度の濕度に惠まれ、多量の軟水を得るに便なるを以て古來纖維工業發達し、湖北には長濱を中心とする蒲縮緬、湖東に近江麻布・近江絞帳、湖西に高島縮の生產等名高く、近時は人造絹糸も盛に作らる。前者は傳統の精巧を主とせる家內工業にて、後者は大工業組織の近代工業として行はる。なほ湖北にはピロードを製し、瀨田川の川口には旭人絹工場・東洋レイヨン工場、及び堅田の昭和レイヨン工場等ありて二千萬圓內外の人絹生產を持ち、滋賀縣をして本邦第一の人絹生產地たらしむ。其他の工業としては信樂燒あり。信樂山地の第三紀層の陶土を原料とし、弘安・嘉曆の昔より行はれ、室町時代に入り紹鷗・宗旦等風流品の製出に努めしも、幕末以後は振はず。〔交通〕此地は古來京都に近きため諸道の通過地となり交通上要衝の地を占む。即ち東海道は逢坂山より草津宿を經て京洛に出で、土山宿は鈴鹿峠を挾み伊勢の國宿と對向聚落をなす。中山道は草津より彦根を經て柏原宿より今須宿に出で美濃に入る。北陸道は米原より北上し木之本より樫木峠を越え越前に入る。北國脇往還は美濃の國ヶ原宿より分れ玉宿を經て木之本に至る。かく上代より交通の要地をなし、今も鐵道交通の要地たり。東海道本線は東の岐阜縣より入り米原・彦根・草津・大津を經て逢坂山のトンネルを抜け京都に出で、北陸本線は米原にて分岐し嘗昔の街道に並行し敦賀に至る。其他草津線は草津にて分岐し、貴生川を經て國西本線柘植に連絡し、大津よりは湖西を社線江若鐵道が北上し今津に至る。また近江八幡より八日市に至る社線八日市鐵道、米原より貴生川に至る社線近江鐵道、貴生川信樂間の省線信樂線坂本と比叡山中堂を結ぶ社線比叡山鐵道あり。なほ盆地の交通路は地形と湖岸に制約され湖を繞る數列の環狀線と周圍山地の峠より湖岸に向ふ河谷を辿りて直角に交る多くの線より成り、外部に通ずるには西の逢坂の關(一一四米)、南東の鈴鹿の關(三七八米)、東の不破の關(一八四米)、北の愛發の關(二六〇米)を始め西塙の山中越・途中越・大杉越、南塙の於土岐峠・枠峠・櫻峠、東塙の湯山越・根平峠(千草峠)・八風峠・石榑峠・油田峠・鈴掛峠・五智峠・天神峠・國見峠・新穂峠・鳥越峠・八草峠、北塙の椿ノ木峠・樽ヶ瀨越・七里半越・栗柄峠を以てし、何れも斷層または構造線上の低部を通ずるものの多く、中には今日既に廢路となれるものあるも、之により盆地の外部に對する隔離性を緩和す。湖上交通は鐵道開通以前に湖南と湖北、湖東と湖西を連れ或は湖上と陸上兩湖通路の連絡に重要なる役割を演ず、いま太湖汽船會社は大津を中心として長命寺・彦根・長濱・雙津・海津・今津・大溝・小松の各港を通じ旅客貨物の輸送と湖上遊覽をなす。〔沿革〕明治維新直前、近江國の北部即ち江北には彦根(伊井氏二十五萬石)山上(稻垣氏一萬三千石)・宮川(堀田氏一萬三千石)の三藩あり、南部即ち江南には膳所(本多氏六萬石)・水口(加藤氏二萬五千石)・大溝(分部氏二萬石)・西大路(市橋氏一萬八千餘石)の四藩あり、また大津に代官所を置きて天領を支配す。明治元年四月大津代官所を大津裁別所と改め更に大津縣と改稱す。明治三年水野氏を刺前山形より淺井郡に移し朝日山藩と稱す。明治四年大溝藩を廢して大津縣に併合せし外は、前記諸藩を廢して何れも縣とし、ついで同年十一月、江北の彦根・山上・宮川および朝日山の四縣を廢して新たに長濱縣を長濱(坂田郡長濱町)に置き、江南の膳所・水口・西大路の三縣を大津縣に併し、近江は大津長濱の二縣となる。翌五年正月大津縣を滋賀縣と改稱し、二月には長濱縣を大上縣と改め、九月に至り犬上縣を滋賀縣に合併し以て今日の滋賀縣を建つ。※近江國

【滋賀郡】 滋賀縣二市十二郡の一。縣の南西部、大津市の北に接す。北は高島郡に、西は京都府愛宕郡と一部京都市と境し、東は琵琶湖に臨む。郡の西部に比叡山脈と比良山脈の地塊南北に連り、西方一帶の丹波、高原の準平原形成後近江盆地・山城盆地・安曇川河谷等の陷沒により斷層崖を生じたるもの。地質は主に古生層と之を貫く花崗岩より成り、古生層には砂岩・頁岩あり、花崗岩は黑雲母花崗岩にして古生層に接觸變質を與ふ。最高處は比叡の四明嶽(八四八米)・比良の打見山(一一一〇三米)・蓬萊山(一一七四米)・武奈ヶ嶽(一一二一四米)等なるも是等は殘丘の列と見るべく、山頂附近に比叡山脈に於ては七〇〇米內外、比良山脈に於ては一一〇〇米內外の部分に平坦なる準平原の遺物を存す。この山脈の東側約三〇〇米の高さより湖岸平野に至る間は丘陵地にて所謂滋賀丘陵と稱せられ、洪積世に屬する粘土層・砂礫層より成る。丘陵の成因は古琵琶湖の沈積物によるものと舊扇狀地の堆積物によるものとの二あり、地層は概して西方に傾斜するも其東端に於ては四〇度乃至七〇度急傾斜し、玆にも斷層崖を呈し堅田附近に代表的のものあるを以て堅田斷層の名あり。斷層線以東は低平なる湖岸の新期沖積地綱長く南北に帶狀をなし處々に和邇川・眞野川・天神川・雄琴川等に小規模の三角洲を突出せしむるのみ。本郡の產業としては農林水產業の外、湖岸の氣候と水を利用する纖維工業勃興し紡績・織布・人絹製造等の工場が各地に設立せらる。縣道西近江路が大津市より發し湖岸の諸都邑を連れて高島郡に向ひ本郡交通の幹線をなし、之と殆ど並行して西部山地の間なる安曇川上流の縱谷に沿へる途中越保坂線が郡內の伊香立・葛川二村を通過し、此兩者を連絡するものに途中和邇港線・途中堅田港線・大原堅田港線あり。外に大津滋賀里坂本線・下阪本仰木伊香立線・坂本橫川線等も主要交通路たり。社線江若鐵道が大體西近江路に沿ひ郡內に叡山・日吉・雄琴・堅田・眞野・和邇・比良口・近江木戸・比良・近江舞子、北小松・白鬚の諸驛を設け、別に京阪電鐵石山坂本線が其の西を走り大津市と坂本を連ね、坂本よりは比叡山鐵道の鋼索線が山上の叡山中堂前に至る。湖上航路に大津港を起點とし唐崎・下阪本・堅田・眞野・和邇・近江舞子・北小松を連ぬる線あり。古くは志賀・志我・穴太等に作り、和名抄は滋賀郡とし之を志加と訓じ四郷に分つ、即ち古市郷・眞野郷・大友郷・錦部郷なり。古市郷は今の大津市松本・馬場・膳所より南郷・平津邊までに當るも今は本郡に入らず。眞野郷は今の眞野・和邇・堅田邊に當る。大友郷は今の坂本村・下阪本村・雄琴村にて、錦部郷は大津市の北部錦織を中心とする地域なるも現在は郡外となる。景行天皇・成務天皇の志賀高穴穗宮(宮址は坂本村大宇穴太の西高島)、天智天皇の滋賀大津宮(宮址は南滋賀附近、今大津市に入る)も置かれ、平安朝以後は日吉神社の儀座、延曆寺の創立を始め式內社・瓦剪の建立せらるゝもの多く近江國內第一の靈地となり、從つて寺社領・莊園の發達も他郡に比し特に著しきものあり。本郡が帝都に最も接近せるため其の間の交通繁く近江に於ける文化の中心地區たり。源平時代以後吉野朝・室町時代・安土桃山時代に亙り。絕えず兵燹の巷となり神社佛閣其他殘禍を蒙りしこと尠からず。江戸時代に至りては坂本附近は依然として山門領、南部は膳所藩、北部は堅田藩、其他淀藩・代官領・旗本領に分轄せられ、明治に及び再び大化改新當時の滋賀郡の名稱に復し、十二年七月郡制布かれて大津町に郡役所を置き、三十一年大津町が市制を布きて分離し、次で昭和七年五月滋賀村が大津市に併せられ、更に昭和八年四月膳所町・石山町も郡より離れて大津市に編入せらる。

【滋賀山】 ↓大津市

【滋賀】 滋賀縣滋賀郡の一村なりしも、昭和七年五月大津市に入る。いま大津市の北部、天智天皇の滋賀大津宮のありし所。名刹崇福寺址あり、宮址もその邊と

いぶ。またこの地に官幣大社近江神宮あり、昭和十三年五月一日鎮座にして、天智天皇を奉祀す。

ジカ　時下島　慶尚全羅南道西南部の島。一に露島。羅州郡島東方の時牙海に横ばり、本陸半島部と相距る僅に一粁の小島にして、海南郡花源面に屬す。時牙海は南方より木浦港に通ずる常航路に當り船舶の往來も頗繁にして、島上に時下島燈臺(明治四十年設置)設けらる。第四等燈臺にして、燈質は連閃白光、四秒五を隔て一秒半間二閃光を發す、光達一八・五理。此島は右水營に近く、文祿の役に我水軍相戰ひし地にして、日露戰役には日本海軍の給水根據地たりき。

ジカ　慈下面　朝鮮平安北道慈城郡西北端鴨綠江岸にあり。東は長土面、東南は慈城面、西は三豐面、北西は鴨綠江を隔てて、滿洲國通化省三道溝地方に相對す。玄武岩より成る蓋馬高臺の西北緣を占むるを以て土地一般に高峻を極め山岳地帶を成し、僅かに鴨綠江岸及び其支流慈城江の流域に見事なる河成段丘の發達を見る。山岳地帶は喬木鬱蒼として繁茂し半島著名の森林帶を成す。產物は栗を第一とし馬鈴薯・蕎麥・玉蜀黍・大豆・蜂蜜・山蔘等あり。道路は北部を慈城江に沿つて南下し慈城邑に達する二等道路あり、更に北上して江岸に出で中江鎭に達しバスの便あれども、其他の里道は輸路にして交通便ならず。ただ鴨綠江には舟楫の便ありて貨物の運輸に資する事頗る大にして慈城江口はその河港を成す。棠落は主として散村式形態を成し鴨綠江に沿うて慈城江口・芦洞等あり、慈城江口に面事務所を置く。

シカイ　四海村　香川縣讃岐國小豆郡の西部。小豆島の西北端に位し、南は淵崎村、東は北浦村に界し、北及び西は海に臨む。南端に小豆島の脊梁をなす山嶺連り青門山あり、山麓は北に延びて西北部は瘦崎の半島狀突出となり、更に神ノ島・高島・千振島等の島となる。地質は花崗岩質にて安山岩質集塊岩これを覆ひ風化水蝕の作用により稍々奇形を呈す。地勢急峻にて氣候乾燥のため水田は僅に大字長濱の小流沿岸にあるのみなるも、畑作の栽培は意外に開け麥・甘藷を始め雜穀・大根・除蟲菊・泊芙蘭・虎幸等栽培され、殊に果樹の生育に適し柿・梅・杏・柑橘等多し。漁業は古くより行はれ鰮の產著しく、畜產に牛・豚・鷄あり。街道は海岸に沿うて走り土ノ庄町に自動車の便あり。なほ西北海岸にある大字小江よりは北方岡山縣邑久郡牛窓町に十粁餘にて達し高松市と共に汽船の便あり、また船舶の避難所ともなる。地地は古來中國よりの航路に當り應仁天皇の御遊幸の際、この地より御上陸遊ばさると傳へられ、また吉野朝時代の忠臣佐々木信胤は此地にて戰死すと。村名は大字伊喜末・小江・長濱・瀧宮の四部落より成り且つ海に臨めるにより起るといふ。大字小江宇野田ヶ原に小豆島地名標識あり。大字小江及び伊喜末は瀨戸內海國立公園に屬す。〔長勝寺〕大字長濱にあり。眞言宗大覺寺派。曹洞宗山持法院と號す。小豆島八十八ヶ所中第七十番の札所。草創年次未詳。元祿十五年大石內藏介良雄の舊宅を譽らし寺り再建せしものにして、良雄遺愛の銅燈及び茶釜を藏す。本尊阿彌陀如來像は行基作と傳ふ。

シカイ　四會　國鐵線の一驛(昭和四年設置)。朝鮮咸鏡北道慶興郡慶興面にあり。驛より半粁に赤池あり、李朝太祖の赤池記念碑存す。

シカイセキ　四塊厝　↓清水街(臺灣)

シガイリ　四街里　朝鮮總督府鐵道湖南本線の一驛(大正三年設置)。朝鮮全羅南道長城郡北一面にあり。

シカウラ　四箇浦村　福井縣越前國丹生郡の西端。越前岬一帶の地を占む。山岳極めて多く、僅に海岸一帶に平原あり。其間に梅浦・血ヶ平・新保・宿浦・大樟・小樟・玉川・梨子平・左右浦の九區あり。殊に梅浦を上梅浦・下梅浦に分ち宿浦・新保の四浦を四ヶ浦と名づけ、玉川・左右・血ヶ平・梨子平の四區は古は上岬村と稱し農業に從事せしも、明治四十年八月當村に併合す。而して舊來の四ヶ浦は漁商を業とし特に鯖・鰹の外に越前雲丹・蟹を以て有名なり。血ヶ平には竹細工も行はれ上岬一帶は水仙の產し多し。鯖浦バスは丹生郡織田村より本村に入り梅浦に至る。越前岬は航路危險の處として有名、また岩石は屏風の如く或は龍虎を刻するが如く、巨浪は高く拍つて水簾を垂れ、朝波の彼方に若狹・丹後の翠を遙望し風光雄大なり。この地一帶は氣溫極めて緩だやかにして、北國に似ず雪も僅少なり。大字大樟には古五樟多くために其の名生ずといふ。〔劍神社〕大字梅浦に鎭座。郷社。祭神、日本武尊・帶中彥尊・譽田別尊・天津兒屋根命。創建年次は詳かならず。天正の初め社家散亡して社殿退轉せしを、織田信長舊地に再建す。今の社殿は即ち之なり。〔願正寺〕大樟浦にあり。眞宗本願寺派。大寶年中、泰澄法師草報の古刹にして鬼縛山伏障寺と號す。延享四年の洪水に襲はれ棠宇流失、のち再建せらる。

シカウラ　志加浦村　石川縣能登國羽咋郡の西部。海に臨み、北は福浦村に、東は上熊野村・堀松村に南端は高濱町に界す。風至山地の西南端に當り、百米臺の丘陵海岸に向ひて傾斜し、狹き平野となつて海に臨む。傾斜地は概ね森林にして平地には多少の水田あり、海岸は磯濱をなす。高濱町より海沿ひに北に通ずる縣道あり、棠落は之に沿ふ。漁業を主生業とす。本邦は總體として年に人口の增加を見るに反し、本村は左記の人口表に見る如く漸次減少しつつあるは、本村の

國勢調査人口表

大正九年	二三七三
大正十四年	二三〇二
昭和五年	二二二二
昭和十年	二一二三

總面積が一八・一五平方粁なるにも拘らず有用面積僅かなると、主生業が漁業にして人口は漸增するに反比例し魚族は漸減するに因る。されば村民は資源少き本村より都會其他へ移住または出稼するもの多し。

シカオイ　鹿追村　北海道十勝國河東郡の西部。大雪山國立公園の內。十勝支廳管下に屬し、東北は士幌村、東南は音更村に隣り、南は川西郡芽室村・上川郡清水町に、西は同郡新得町に界す。土地南北に長く四〇粁を超え、面積三九五方粁餘を占む。北部はカベサンケ火山群の山塊にて、北塊のカベサンケ山(一八七〇米)西塊のピシカチナイ山(一三〇八米)、東塊の東ヌプカウシ山(一二五二米)、中央のペトウトル山(一三四〇米)等の山岳重疊し、ペトウトル山と東ヌプカウシ山との間に然別湖あり流ふ。其水西に溢れて然別川となり、北塊に發ゆるカベサンケ山の南谷に發し南流するユーヤンベツ川を併せ南流、後東南流して音更村に出で十勝川に合す。然別川の中流以下は兩岸に第三紀層より成る高度二〇〇—三〇〇米にて南方に緩傾斜をなす森林鬱く、下流には蜿蜒き沖積地ありて農耕行はる。農產の主なるものは菜豆・大豆・小豆等なり。省線根室本線新得驛・士幌線上士幌驛(上士幌村)を繫ぐ社線北海道拓殖鐵道中部を略東西に通じ、新幌內・鹿追・瓜幕・中瓜幕・東瓜幕の五驛(鹿追は昭和三年、瓜幕・東瓜幕は同四年、新幌內・中瓜幕は同七年開業)を設け、また根室本線十勝清水驛(清水町清水)に起る社線河西鐵道は南西部に入り、下幌內・上然別・鹿追及び上幌內の四驛(大正十四年開業)を設き交通便利なり。村名はアイヌ語の「クテクウシ」にて鹿ち「鹿を追ふ」の意にて、往昔、土人は漢谷に柵壁を設け深山より鹿群を追ひ來て此處に追ひ込みて容易に捕へたるより此の名起るといふ。本村の開拓は比較的新しく明治三十九年初めて和人の移住開拓に從ふものあり、大正元年東京市小川平吉氏、西部クテクウシに未開地約七百ヘクタールの賣拂を受け農場を創め、大正六年天理教團體百餘戶、東部クテクウシに入地するを初めとし、大正七年に山形團體二十餘戶、長野團體三十餘戶の移住あり。爾來移住民殖加し村勢漸に發展して大正七年に郵便局設置され、同十年音更村より分村して新たに二級町村制を施行せられて獨立の自治體となり、世帶數千三百二十七、人口七千八百四十一人を算するに至る。〔然別湖畔溫泉〕然別火山の中腹なる海拔八〇〇米の高所を占め、然別湖畔にあり。泉質はアルカリ性鹽類泉にして概して療養向。湖は周圍六粁、水深二〇〇米に及び實に北海道湖沼中最深のものと云ふべし。漫々たる水は原始林を倒映し劃支太古の趣あり。湖中よりは岩魚・ヤリガニ・山椒魚などを產す。湖畔一帶に棲く紫鷸鴨・石楠花の初夏もよく、雁鴨などの飛來する紅葉の頃も人出多し。湖上遊覽にはモーターボートの設備あり。ここへ來る途中の扇ヶ原は海拔九〇〇米、十勝平原を見晴し、石狩・日高の連峰を望み景觀雄大、狩勝峠の眺望にも勝るとの評あり。〔山田溫泉〕然別湖に注ぐヤンベタ川の畔にあり。泉質は阜純泉。附近は針葉樹の原始林にして幽邃閑寂の地なり。〔本郷溫泉〕然別湖の湖脚然別川の畔にあり。泉質類泉、靜寂なる溫泉場なり。

シカガキ　鹿垣池　書紀應神天皇の十一年紀に見ゆる池。鹿池・輕池・脛坂池と共に掘られし池にて、今その址を失ふ。鹿池は奈良縣高市郡畝傍町大字石川に現存し、輕・脛坂もまた畝傍町に地名を存するを以て、鹿垣池も畝傍町の內か或はその附近にありしものならん。

シガキ　志柿村　熊本縣肥後國天草郡天草上島の西端。島原海灣に臨み西は天草下島との間に約〇・五粁の狹き本渡瀨戸を隔て、南は下浦村に東南は栖本村に隣り東は鳥子村に界す。南塊に二四四米の山地ありて北・西及び西南方へ傾き、東塊は二〇〇米前後の一小肢北へのびて村塊を限り、兩山地間中央に西北方へ開けし谷あり高い肥沃なる低地をなす。海岸は低き臺地をなし海岸線の屈曲稍乏し。中央の谷に水田よく拓け全村の生業は農業三三九戶、商業一九戶、工業二九戶その他二二戶にして米は一七一三石を出し藺七八〇〇貫を產す。北部西部海岸に沿ひて一路走り、また西南隅近く隣村に上島・下島を結ぶ街道ありて其渡しあり。傳に依れば、天草の里民天草氏族は漢王の裔なりといふ。漢の高祖の末孫申帝玉なるもの戰に敗れ日本に渡り天草に漂着す。この玉、偶々村內瀨戸郷に住居して姓名も日本風に改め瀨戸十郎兵衛大藏氏種元と名乘り、その子孫次第に繁昌すと云ふ。本村の舊庄屋永野氏の祖は永野紀伊守輝貞といひ、もと菊池氏の家臣たりしが、菊池家衰亡ののち天草に來り志柿村庄屋に任ぜらるると。永野氏の家墓對岳樓は蘆し繼新前に於ける唯一の本村文化の淵叢たり。村內大松戸海岸縣道南側に內部の廣さ約一坪(約〇・〇三アール)にして、其四壁及び天井は驚くべき巨石を以て築かれたる塚あり。里人これを鬼塚といふ。里人の傳に、天草一揆の際ひどき虐殺の爲に、人種子の絕えんことを憂へ雌蟒を入れて隱せし跡とも、一揆の際武器類を保管せし跡とも、ふはる。然し或は古墳にてもあるか。

シガキ　信覺　琉球國(沖繩縣)の古地名。今の石垣・西表等の諸島ならん。續日本紀和銅七年十二月の條に「少初位下

太朝臣遠建治等、率ゐ南島奄美信覺及球美等人五十二人、至り自ら南島に」と見ゆ。石垣は蓋し信覺の轉訛ならん。

シガク　志學　↓佐比賣村（島根縣）

シカクマ　鹿熊岳　耶馬溪の右岸に峙つ山。大分縣下毛郡山移村・下郷村の境界に位し、標高六六五米。東南麓の山移川の溪谷は深耶馬溪、西南麓金吉川の溪谷は裏耶馬溪と稱され、共に名高き景勝地たり。

シカゴー　四箇郷　和歌山縣海草郡にありし村。昭和八年和歌山市に入る。

シカゴエ　鹿越　北海道石狩國（上川支廳）空知郡南富良野村の大字。根室本線の鹿越驛（明治三十三年設置）を置く。

シガサカ　志賀坂峠　埼玉縣秩父郡と群馬縣多野郡とを通ずる峠。最高點八七六米。北東麓は二子山に連る。北陸すれば神流川河畔にして十石峠街道に當る多野郡中里村神ヶ原に至り、南東陸すれば荒川の一支河原澤川の水源なる秩父郡三田川村河原澤に達す。

シガサト　志賀郷村　京都府丹波國何鹿郡の西北部。東北の一部は舞鶴町の西南部と接し、南は物部村に東は西八田村に東北は東八田村に隣り北及び西は加佐郡に界す。面積二七・〇一方粁。全村臺地狀の山塊起伏し中部と東南部に谷が開け、由良川の支流之を流れて南隣物部村に出づ。山地多きも谷地には田畑よく拓け米を主として麥を產し、又養蠶も行はれ繭の產多し。道路は谷地を通じて四隣に出づるも交通なほ便利ならず。此地は和名抄の吾雀郷の地に當る。（阿須々使神社）大宇南河内に鎮座。郷社。祭神天御中主之神外三神。神武天皇六年の創建と傳ふるも確かならず、されど式内の古社たり。和銅六年・享祿元年に改築ありといふ。元慶三年本社に慶雲見えしこと三代實錄に記す。中世、帝に金宮吾雀大明神と稱す。例祭八月三日。

シカスガ　志賀須香　愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、外五箇町村と共に廢し矢作町を置く。

シカスガ　鹿菅　愛知縣寶飯郡にありし村。明治三十九年、下地町・大村と共に廢し下地町を置き、下地町は昭和七年豐橋市に編入さる。

シカタ　志方村　兵庫縣播磨國印南郡の中部。姬路市の東方約一一粁、北は東志方村に、南は平莊村・西神吉村に、西は西志方村に各々接す。此地方は第三紀層より成り、一時沈陸せし時の殘丘あり。東南部には飯盛山（二一五米）あり。此地は河川の灌漑不便なるを以て、溜池による水田耕作行はれ、裏作として麥栽培さる。交通は道路はよく發達せるも鐵道は尙ほ不便にして、西神吉村には山陽本線通過す。本村は中世には志方庄と云はれ、八幡宮は志方庄の氏神たり。觀音寺は天正年間別所氏の一族櫛橋伊則の城址を卿ぜしものと云はれ、この櫛橋氏は赤松則景の子有景を祖とす。八幡宮の西の丘陵上には天神山城址あり。當城は赤松氏範の據りし所、氏範は赤松律師圓心の四男にして、彈正少弼と稱し、元弘の役に勳功を立つ。のち足利氏の叛逆後も尙ほ南朝に忠誠を致し、當城に據りしが、元中三年九月遂に足利氏のために攻略せられ一族郎黨百三十七人と倶に自殺す。（八幡神社）大宇志方町に鎮座。郷社。祭神應神天皇・神功皇后・玉依比賣命。鳥羽天皇天永二年の創建と傳ふ。慶長六年池田輝政黑印領五石を寄す。天保四年炎上し、弘化四年再建す。古來近郷二十四箇村の產土神たり。例祭十月十五日。

シカダ　鹿田　【鹿田】愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年外三村と共に廢して師勝村を置く。

【鹿田】岡山縣御津郡にありし村。大正十二年岡山市に編入す。

シカタチ　鹿ヶ谷　美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄に本巢郡鹿立郷あり。その地今詳かならざるも或は本巢郡文珠村の邊に當るか。一に鹿立は小鹿の誤にして本巢郡根尾村の邊に當るといふ。

シカタ一　鹿谷　【鹿谷村】福井縣越前國大野郡の北部。北は九頭龍川を隔てて北郷村・村岡村に、東は荒島村、南は下庄村・菅見村に各々接し、西は吉峰支脈によりて吉田郡と境す。全村擁ね山地にて九頭龍川に面する一方が漸次低下して U 字形を成し、東北に僅に平地あり、地質は九頭龍川沿岸は第四紀に、菅見村との境、即ち山岳一帶は火山岩に各々屬し、大宇保田方面は保羅紀に、大宇杉俣地方は第三紀に屬す。勝山街道は川の北岸を東西に走り、社線越前電鐵は吉田郡小舟渡より川に沿うて本村に入り保田（大正五年設置）の二驛を置く。全村農を業とし蚕產・串柿の名產の外に炭・藍・桑葉・綠肥料等の產出多し。村名はこの地に昔鹿多棲せしを以て鹿谷と云ふと。吉野朝の頃土岐の族惠秀、保田に閑居し一向一揆の將烏田將監の祖となり、此の烏田をシマタニ・シカタニと轉訛せしものとも云ふ。しかして當村民は此の烏田一族に參加して大功のありし事は眞なるものの如し。いま烏田將監の裔と稱する烏田氏あり。西光寺に城山と稱する城址あり。朝倉景鏡の居城とも云ふ。大宇西光寺に周圍約八米、高約二七米の杉あり、的場杉と云ひ、弘法大師の植樹せられしものと傳ふ。

【鹿谷庄】臺灣臺中州竹山郡下二庄中の一。本庄は全く人里離れし山間にして、臺灣の略中央部に位置を占め、竹内は微ね山地に屬す。東は濁水溪の上流をなす陳有蘭溪を隔てゝ臺中州新高郡郡地に接し、西部・南部は竹山庄に、北部は濁水溪を隔てゝ臺中州新高郡集集庄に接す。庄の南には、鳳凰山の峻嶮屹立し、竹山庄との境界には、三層嶺頭山・嶺頭山・樟空嶺山・小屈山等の高山連立す。西部・南部には濁水溪の小支流山間の溪谷を穿ひて、一は西流し、一は北流し、諸處に平地を現出す。即ち本庄は東南部高くして、西部・北部低し。面積は約一八三方粁。管内住民の生業は農業にして商業・工業に從事する者少なし。内地人の大部分は官公吏なり。管内には平地少きも、長源圳・廣興圳・初郷圳等の埤圳發達するを以て、水利の便比較的良好なれば、農業は盛なり。農產の主なるものは米にして、甘藷・甘蔗・蔬菜・落花生等これに次ぐ。また芭蕉は農家に於て栽培する者多くその生產も大にして、概ね臺中市に搬出さる。畜產は副業的に農家に於て行はるるを主とし、豚・牛・羊の飼育盛なり。管内山地よりは林產多く、多量の薪炭材の外、木材・竹材の產出あり。副業物として、筍・竹皮等を出す。東京帝國大學演習林は本庄山地に在り。工業の主なるものは、砂糖・茶・樟腦等の製造なるも何れも小規模の設備を有するに過ぎず。大宇鹿谷は、庄役場の所在地にして、庄下の中心地をなし、諸種の機關を始め、信用組合・公學校等の施設あり。また大宇小半天・坪子頂は庄下の要地にして何れも公學校あり。庄下の交通は、西部に於て發達し、自動車の運行自由にして、物資の移出入は主として隣接する集集庄に送られ、この地より鐵道（集集線）によりて郡市に移出さる。本庄の地はもと沙連堡の一部にして、本堡はもと五城・集集二堡を合して水沙連堡と稱せしが、光緒元年上記二堡に分けたり。往時、此地は蕃族の住地なりしが、乾隆の初め福建人、程志成なる者十二人の壯丁を引率し、濁水溪に沿ひて進み、蕃人を驅逐して蕃子寮大坵園地方を開拓せり。いま大宇蕃子寮の西方に外城、大宇大坵園の南方に內城の土名を存するは、當時防蕃の堡圍を築きし址なりと云ふ。然るに其後十餘年を經て忽ち蕃人の襲擊に遭ひ悉く慘殺さるゝところとなり、地は再び荒蕪に歸したり。されど二十一、二年代許廷瑄により大宇初郷・坪子頂・鹿谷（舊羌仔寮）・車軌寮・小半天・內樹皮の地方相次いで拓かれて、今日の基礎成れり。五十二年林爽文は戰に破れて小半天山に潛入するや、地方の住民皆力を出して公に奉じ其搜索に功ありしにより、後に大順嶺と稱したり。大宇大水堀は、もと大水窟と稱し、其名は地に大水窟と云へる池水あるにより生ぜりと云ふ。此地は古來水沙連茶の產地として知られ、丘地には多く茶樹を栽培す。赤崁筆談・雲林縣采訪冊・臺灣府志等にも其產茶に就きて記すところあり。我領臺後、沙連堡は臺中縣の管下にありしが、爾後、幾度か其屬する所を變改せられ、のち南投郡に屬し居たるも、大正九年地方制度改正により本堡中より十一庄（いま大宇名）を割きて鹿谷庄の名稱の下に一抱し、臺中州竹山郡下の一庄となる。同時に蕃仔寮庄の名稱は鹿谷なる大宇名に變更せられたり。

シカツ　師勝村　愛知縣尾張國西春日井郡の西北部。北は北里村に、東は豐山村に、南は楠村・山田村を距てて名古屋市に接續し、西は西春村に隣す。濃尾平野の南部を占め、東部には合瀬川南流して天井川をなし、南境には天明四年開鑿されし新川の惡水が西南に流る。大體三方が堤防に圍まれ、北半には桑園多く、南半には水田多し。主なる產物には米・麥・野菜・蘭等あり。交通路は西部に社線名古屋鐵道が通じ西春驛（西春村）に近し。和名抄の春部郡高苑郷は大宇高田寺附近なるべし。高田寺は天台宗高田寺の地名に轉訛せしものならん。里人の言によれば高田・比良・二子・久地野・井瀬木・片場を高苑六ヶ村と呼ぶと。或は高苑がのち高田に轉訛せしか。當國神名帳には「春日部郡從三位小高國天神」と見ゆ。大宇六師は六石より來りしものなるべく、延喜式に春日部郡牟郡志神社と見え、當國神名帳に正四位下六師天神あり。明治三十九年七月鹿田・調原・六ツ師・熊之庄の四村を廢し本村を置く。

（調原神社）郷社。祭神は少彦名命にして、大宇の古社たり。もと菜原天神と稱す。例祭九月二十八日。（高田寺）大宇高田寺にあり。天台宗。裳老年間の開創と傳ふ。享保年中に住僧性見本堂を修理す。堂宇中本堂はその結構壯重雄麗にして手法樣式よく鎌倉期の特色を傳へ、地方稀有の造構にして現に國寶たり。本尊木造藥師如來坐像一軀も亦鎌倉期の作にして國寶たり。

シカツメ　鹿爪　長崎縣北松浦郡にある炭坑。我國唯一重要礦山の一。長崎炭礦會社の經營に屬す。礦區は志佐村及び上志佐村に跨る。粉炭・粗炭を主として採礦し、年產約一・四萬瓲、礦夫一五六人（昭和十年）なり。

シカノ　鹿野　【鹿野町】鳥取縣因幡國氣高郡の中部。鷲峰山の日本海に面する北斜面に位し、鳥取市の西南約一三粁。西南隅に鷲峰山（九二一米）聳えて日本海を見晴し、幾多の淺き放射谷を畳りて北方へ傾斜し、其間に山地の水を集めて北流する小河數條ありて、西北境を西南より東北へ流れ更に村境を潤れ、方向をかへて北流する河內川に合す。農業・商業を主生業として米を產し外に和紙の產多く特產物には鹿野笠あり。聚落北部中央に發達して道路に沿ひて東西約一粁の長さに延び、道路は聚落の西端にて北に向ひ五粁餘にて山陰道に連絡す。之を鹿野街道と言ふ。聚落の東端に於ては道路北に向ひ約三粁に

て東に轉じて山陰道に通ず。省線山陰本線北方を東西に通過し約六粁に濱村驛あり。本村の地は和名抄、氣高郡口沼郷の地にあたるか。志加奴・鹿奴とも書く。明治三十二年町制施行。中世は豪族鹿野氏の領邑にして鷲峰山麓に古城址あり。町は龜井新十郎が城主たりし頃は氏の產業振興、民治政策のよろしきを得したため城下町の繁榮目ざましきものありしが現時は振はず。城は一に王舍城とも稱す。天文の頃尼子氏の臣龜井氏これに代る。江戸時代には龜井氏石見國に移り、寛永九年池田氏の有となる。同十六年池田光仲の子仲澄、ここに在城して三萬石を食む。子孫累世して明治維新に至る。いま城池荒廢せしも、本丸・城門等の遺址あり。なほ龜井氏の鹿野城乘取りに面白き說話あり、はじめ龜井新十郎、鹿野の城を攻めしも城堅固にして如何ともする能はず。この頃鹿野の城下町近郊近在に、假裝せる土民の民笛に合はせて踊る盆踊流行せり。興乘れば終夜踊りつゞけ、曉に至りて家に歸る風習なり。鹿野の城主はこの笛をきゝこの踊を見ることを最も愛好せしが、一夜、物見櫓に登つて笛の音にきゝ入るままに、いづくともなく假裝せる土民の舞姿が影法師の如くあらはれ、次第々々城に近づく。城主は城門を開かせて、その一群を城內に導き入れしところ、土民と思ひしはその實龜井の兵が假裝せるものにて、一時に立つて太刀をぬき遂に城を乘つとり、城主もまた龜井勢の劍に斃れしといふ。今もなほこの地方には、當時をしのぶ盆踊が、青年男女によつて行はる。〔幸盛寺〕鹿野にあり。淨土宗。鹿野山と號す。寶德年中慧鏡房凝阿の開創なりといふ。初め鹿野西北の山麓にありしが、二十七世明譽の時に至り、山中鹿之助幸盛の塋龜井武藏守玆矩これを現地に移建し幸盛の菩提寺となす。本尊阿彌陀如來は運慶・湛慶の合作と傳ふ。

【鹿野庄】臺灣臺東廳關山郡の東南隅。卑南大溪に臨み、パシカウ溪とカナスオイ溪に挾まる。管轄區域は鹿野・大原・月野の三小字に分る。鹿野庄移民部落は大正四年新潟・長野より農民を招致し、臺東製糖株式會社の開墾を行ひしに始まり、大正十年同會社と分離して、臺東開拓株式會社が組織せらるゝに及び、其一部となり今日に至る。臺東線通じて鹿野驛(大正十一年設置)を置き、臺東驛より約四十分にて達す。蕃社は主に高砂族パンツァ族に屬する部落にして戸數八一、人口九七七、なほ社內には八社蕃に屬するもの、九戸七六人あり。

シカノ 志賀野村 和歌山縣紀伊國那賀郡の西南部。長峯山脈の北斜面中腹に位し海南市の東方約一〇粁。東は眞國村に南は下神野村に西は東野上村に北は東貴志村及び調月村に界す。面積八・七一方粁。全村山地起伏し西南境に丸山(三六四米)、東北境に雨山(四七五米)あり。東南境には上ノ城山(四四二米)ありて、その北麓を貴志川支流鞆淵川西南流す。また西北境を貴志川支流西流す。殆んど山地のため薪炭を產し、川に沿ひ小低地ありて米麥を產す。西南部には龍神街道東南方へ掠めて過ぎ南方長峯山脈を越えて有田川流域に出る。此地、中世は志賀野莊と呼ばる。柳澤氏文書「今度志賀野之莊こんのかみ諸納所等、就無沙汰仕候云々、永祿九年拾二月廿九日」

シカノシマ 志賀島村 福岡縣筑前國糟屋郡の西北端。玄海灘に突出する海の中道の西端を占む。南は博多灣に面し北は玄海灘に臨み東は和白村に界す。西半は志賀島にして稍南北に細長き楕圓形をなし、約二〇〇米前後の山地起伏し西北に大崎、東北に黑崎あり。北方僅か隔たれる海上に沖津島等の小島散在す。志賀島はもと島なりしが、砂嘴の發達によりて陸繫島となりたるものにて、東半は其砂嘴の西端を占め島の東南部との間を道切と言ふ。砂嘴の北面は殆ど直線に近き海岸にて稍東北より西南に延び中央にシラヤ鼻の小突出あり。南面は中央部が南方へ突出して西戸崎をなす。其西方に瑞島・中瀨島の小島ありて水產多し。西戸崎の北東面は港をなし、社線博多灣鐵道汽船西戸崎・宇美間の起點西戸崎驛(明治三十七年設置)を置く。和名抄に糟屋郡志珂郷とあるは凡そ本村の地なるべく、のち一に鹿島・磯鹿島等に作る。神功皇后征韓の際碇泊し給ひし事あり。また萬葉集などにも多く見ゆ。弘安四年蒙古襲來の時、其軍船志賀島・能古島に至りしが、大矢野種保・種村夜襲して賊船を燒き、河野通有・通時輕舸に乘じて敵船に入り各斬獲ありたり。いま志賀島の西南岸にある蒙古首切塚は、この時溺死或は戰死せし敵兵の首を埋めしところにして、老松二三亭々として往時を語る。(志賀海神社) 大字志賀島に鎭座。官幣小社。祭神、底津綿津見神・中津綿津見神・上津綿津見神。神功皇后新羅御親征の砌、この三神御船の舵を守りて海上の風難なし、皇后御凱旋ののち阿曇連をして右三神を齋め祀らしめ給ふと傳ふ。延喜の制に名神大社に列し、神階從五位上。神職に三家ありて坂本家を長と稱し阿曇氏の後裔なりと云ふ。社寶中、梵鐘(鎭金)は朝鮮鑄樣式を多分に有し國寶に指定せらる。例祭、九月九日。

シカノタニ 鹿ノ谷 北海道石狩國夕張郡夕張町の大字。夕張線の鹿ノ谷驛(明治三十四年設置)あり。社線夕張鐵道交叉す。

シカベ 鹿部村 北海道渡島國茅部郡の中部。渡島半島の東部茅部郡の中央部に位し、東北は太平洋に面し、西北は駒ヶ岳(一一四〇米)トドメキ川を隔て、砂原村に東南は中ノ川を距てて臼尻村に接し、西南約一五粁に大沼公園(龜田郡

七飯村)あり。面積一一一・八五平方粁。地勢は折戸川を界に北部に駒ヶ岳東南斜面の熔岩・火山灰の不毛地帶あり、南部には横津山脈蜿蜒し袴腰岳・横津岳等千米近き諸山聳立し、全村丘阜起伏す。折戸・鹿部・常路・中ノ川東流し太平洋に注ぐ。折戸・鹿部二川の下流に平野あるのみ。耕地・主要村落此處に開く。鰮・鱈・柔魚・章魚・昆布の水產物多く、馬鈴薯・大根・玉蜀黍・大豆・菜豆を產す。社線大沼電鐵新小川驛・新本別鹿部驛あり。大沼驛よりバスの便あり。村內に鹿部鑛山・鹿部溫泉・留の湯溫泉などあり。〔鹿部鑛山〕本邦重要硫黃山の一。本村に屬し、函館本線大沼驛より鹿部に通ずる大沼電氣鐵道の一驛留の澤より東南八粁、雨鱒川の谷に沿ひて、横津火山の北側にあり・第三紀末乃至第四紀の始に於て、火山瓦斯中よりその周圍の岩石中に鑛染せる硫黃を採掘するものにして、鑛體は徑〇・三乃至一・〇米の小塊狀を成して廣く分布し、硫黃の含量五五%內外、これを採掘して製錬し、精製硫黃として搬出す。その產額例へば昭和十年度に於て一八八六瓲、その價格七・二萬圓に達せり。〔鹿部溫泉〕駒ヶ岳東麓に位し太平洋に面して湧出。泉質、鹽類泉。遙に室蘭港を望み、羊蹄山の勇姿を仰ぎて眺望頗るよく、いま溫泉は鹿の湯・鶴の湯・龜の湯・獅子の湯・電鐵俱樂部等に分たる。〔留の湯溫泉〕炭酸鹽類泉。駒ヶ岳の登山口にして頂上まで約八粁あり。附近に銚子口・留の瀧の名勝あり。

シカマ 思可麻河 播磨國飾磨郡飾磨川の古稱。萬葉・一五「わたつみの海に出でたる思可麻河絕えむ日にこそ吾が戀やまめ」

シカマ 色麻

【色麻(郡)】陸奧國(いま陸前國)の古郡名。續紀天平九年の條に色麻柵見え、同書延曆八年紀に色麻郡名見ゆ。續後紀延曆十八年紀に富田郡を合併すとあり。和名抄は志加萬と訓じ、相摸・安蘇・色麻の三郷及び余戸一を置く。中世以後に郡號を失ふ。五十四郡考に神野郡とあるは蓋し本郡を指させるものならん。この地はのち賀美郡に入りしもその期は詳かならず。いま、加美郡色麻村の邊がその地なるべし。

【色麻村】宮城縣陸前國加美郡の南部。中新田町の西南に隣り、北は小野田村に東は鳴瀨村及び志田郡三本木町に、南は黑川郡大衡村・同郡吉田村に隣接す。西南境に聳ゆる船形山(一五〇〇米)の東北斜面に位し、保野川は中部を花川は南部を東北に流れ、東北境を東南流する鳴瀨川に合す。西南の大半は船形山の裾野にして高原狀を呈し末端部に砲兵射擊場をなす王城寺原あり。東北部は鳴瀨川の沖積平野にして田畑よく拓く。農產物を主とし米・麥・繭を產し薪炭材・用材も少からず。羽後街道は東部を南北に走り里道また各河谷に沿ひ、隣接町村にバス通じ、社線仙臺鐵道は羽後街道沿ひに貫通し本町驛・王城寺原驛・加美一ノ關驛(以上昭和三年設置)・四竈驛(昭和四年設置)を置き仙臺市に出づるに便なり。この地は和名抄、色麻郡色麻郷(之加萬と訓ず)に當る。延喜兵部省式に色麻驛々馬五疋とあるもこの地にして、郡家所在地を以て驛を兼ねたるものとす。村名はその遺稱にして、大字四竈も亦その轉訛か。清和源氏大崎氏の一族この地に四竈氏を稱す。四竈にある村社伊達神社は五十猛命外十二神を祀り、式內の名神大社たり。〔往生寺〕王城寺にあり。曹洞宗。もと淨土宗にして法然上人の法嗣金光上人の草創に係り、法然上人自作の影像を安置す。同寺第九世鑑口文英は現宗に改め、以て中興開山となる。

シカマ 飾磨

【飾磨郡】兵庫縣播磨國二五郡の一。南は播磨灘に面し南方海上の家島諸島を含む。郡の西北部は長く北方へ延びて東隣神崎郡と西隣宍粟郡との間に突入し、西は宍粟郡の南の揖保郡に隣り東は印南郡に界し東北端は加西郡に接す。南部中央に姬路市を圍む。北部は丘陵性の山地をなし北方に高く約八—九〇〇米の高さを示し西北部の東境に七種山(六八一米)あり。山地は次第に南へ低くなり、南部は所々に丘陵臺地起伏すれど概ね平坦にして播磨平野の一部を占む。夢前川は西部山地の水を集めて南流し、東部には北方より來る市川南流して海に注ぐ。南部低地及び川に沿ふ低地は灌漑の便よく耕作よく拓け、播州米の名世に高し。南部海岸の飾磨町・白濱町及び南方海上家島にある家島町の三町の外、十四箇村より成る。姬路市を中心に道路放射狀に延び、卽ち山陽道は南部を東西に走り西部にて作州街道を西北方へ岐ち、北部及び南部海岸にも東西に通ずる縣道あり。南北に走る縣道に東南部の姬路市と飾磨町を結ぶもの、姬路市より北に東部を通ずるもの、西部を通ずるものなどあり。鐵道は省線山陽本線姬路市を通過して東西に走り、省線播但線は飾磨町より起り姬路驛にて山陽本線と交叉して南北に走る。此他、姬路市より西北に走る省線姬津線あり、東南部には明石・姬路間を走る社線山陽電氣鐵道あり。續紀寶龜四年の條に餝磨郡見え、延喜式・和名抄共に飾磨に作り、拾芥抄は餝摩と書く。和名抄は菅生・英賀・伊和・辛室・大野・英保・三野・穴無・印達・巨智・平野・草上・周智の十三郷及び餘戸一を置く。中世私に餘部を置きしが久しからずして郡名を失ふ。明治二十二年飾東郡・飾西の二郡に分ち、明治二十九年飾東・飾西の二郡を合併して飾磨郡を建つ。本郡は往時染料の褐の產地として知られ、修辭上その褐を

徒に掛け飾磨の徒路なる言葉生ぜり。新撰古今集「たのまずはしかまのかちの色を見よあひそめてこそ深くなりけれ」藤曲・賀茂「立つ旗衣色染むる飾磨の徒路行く船も」

【飾磨町】 兵庫縣播磨國飾磨郡の南端。姫路市の南に隣り、東は白濱町・糸引村に、西に廣村に各隣接し、南は播磨灘に臨む。市川の沖積地に當り、高度は低く堤防を以て海水を防ぎ、東部には市川が南流し、西部に船場川、西端に夢前川が南流し各々播磨灘に注ぐ。市街の南港をなす地は入江となり、姫路市の三左衛門堀と繋がる。低地は水田に利用され、紡績と鱗寸の製造工業も盛なり。また火力發電所あり。飾磨港は姫路の外港にして市川の支流船場川により連絡す。この連結は池田氏によつて企畫せられる。併し播磨灘に直面して滿入なくオープンバーにて良港とは云へず、水運の便は陸運よりも不便なり。輸出品は主に播磨米・雑貨・叺等にて、輸入品は石炭・肥料を主とす。海運は飾磨港により行はれるも、陸上交通の山陽本線は英賀保驛（大正二年設置）か、播但線が南下し飾磨驛（明治二十八年設置）を置き、港には貨物驛たる飾磨港驛（明治二十八年設置）か置く。また山陽電鐵は姫路より南下し數驛を置き直角に東折し神戸に至る。此町の附近は古く和名抄、飾磨郡穴無郷の地、中世は播磨津別符に屬す。もと魚間とも書き、しかまの市、しかまの津の名歌枕として著はる。飾磨津とは古の海驛にして萬葉集の都田の細江または思賀麻江とは此地なるべし。西を流れる船場川は雲見川とも飾磨川とも云へり。もと郡役所の所在地、いま警察署・商業學校等あり。大正八年下中島村を合せ、昭和八年津田村、同十一年高濱村・英賀保村を合併し、更に同十三年四月妻鹿町を編入す。飾磨港西波止場に飾磨燈臺（明治三十二年設置）あり、燈質は不動綠光、光達距離は一一浬。なほ別記英賀神社の外に大宇領加に菅原道眞を祀る郷社天滿神社あり。例祭十月九日。（英賀神社）大宇英賀に鎮座。無社。祭神、英賀彦神・英賀姫神外三神。その創建年代および沿革等すべて定かならず。されど三代實錄元慶五年五月五日英賀姫・英賀彦二神に從五位下を授けられしこと見ゆ。例祭。十月十八日。（本德寺）大宇魚山にあり。眞宗本願寺派。昔に魚山御坊と號し本願寺派の別格別院なり。明應年中、本願寺蓮如を以て法統を嗣がしむ。天正年中、豐臣秀吉寺領三百石を寄す。慶長七年本願寺東西二派に分るるや本院大谷派に屬せしが、同十四年池田輝政の後援にて本願寺派に轉す。仍て大谷派にては別に本德寺を姫路に再興すに至り里人これを區別して魚山本德寺と號す。

【飾磨郡】 明治四年より明治九年まで播磨國にありし縣。明治四年七月、當時播磨國にありし姫路・明石・龍野・林田・赤穗・山崎・安志・三日月・三草・小野の十藩を廢してそれぞれ縣を置きしが、更に同年十一月姫路縣を姫路に置き以て播磨一國を管す。同月九日これを改めて飾磨縣と稱し、明治九年八月に至りて兵庫縣に合併。

シカミ　鹿見　福井縣南條郡にありし村。明治二十三年堺村と改稱。

シカヤ　色益　下總國（茨城縣）の古地名。和名抄に筑烏郡色益郷あり。その地今詳ならざるも、色益はシカヤと讀み鰐淵沼の附近なるべく、即ち今の猿島郡香取村・五霞村・靜村の邊なるべし。

シカヤウ　——社　臺灣臺中州東勢郡の蕃社。大甲溪の上流、中央山脈近くの奥地に位し、ヒヤナジ越道路に近し。アタヤル族シカヤウ蕃に屬する高砂族部落。シカヤウ蕃はマリコアン・キナジー・ガオガン蕃等と同系統の種族にして、これ等の種族は南方の白狗方面よりこのシカヤウを經て北上せしもの。順路は豐原より東勢を經てタラス・サラマオを經て至るものにして、東勢郡の中にて最奥地の蕃地なり。東勢より約九四粁あり。蕃書は Sekayau

シガラキ　信樂

【信樂】 愛知縣南設樂郡にありし村。明治三十九年、外二村と共に廢し東郷村を置く。

【信樂谷】 古くは紫香樂に作る。近江國甲賀郡の西部、大戸川の水源地、即ち信樂町及び雲井・朝宮・小原・多羅尾の四村を包含す。山城・伊賀二國と山嶽を以て隔たり、往時は頗る交通不便なりき。信樂は紫木の義にして此地の樹木繁茂せるに因むといふ。聖武天皇の離宮紫香樂宮址（雲井村）あり、東大寺大佛の鑄造されしも此地とす。中世は信樂莊といひ、正應年中近衛家基始めて之を領し子孫莊內多羅尾の地名により多羅尾氏を稱し長く之を領す。天正十年六月、德川家康堺にあり本能寺の變を聞き急ぎ國へ歸らんとて、山城宇治田原郷より此地を經て岡崎に歸る。

【信樂町】 滋賀縣近江國甲賀郡の西南部。瀬田川支流大戸川上流に跨り、北は雲井村に、南は多羅尾村・小原村・朝宮村に界し、西北は大石村及び柔太郎に、東は三重縣阿山郡に接す。胡蝶の羽を擬げたる如き形をなし其胴體に當る中央の狹き部分は東北より西南に向く。面積五〇・四〇方粁。兩翼は山地をなし東南邊に約七〇〇米の雲ヶ嶽あり西に下り東翼南部の山地をなし北部は約三—四〇〇米の丘陵起伏し南部山地との間に西へ開く淺谷を造る。西翼には約四—五〇〇米の丘陵全域に起伏して處々に盆地及び谷を造る。胴體部は西南方より東北方へ開けし谷の一部を占め、大戸川東北流す。耕作よく行はれ殊に低地は灌漑の便よく近江米の産あり。其他、麦類・茶・菜種等を産し、また主邑長野を中心として、昔より精巧なる茶器を産し一時衰へたるも再び品質を向上し、在來の登窯が石炭窯に代る盛況を見るに至る。省線圖西線の一なる信樂線は大戸川に沿うて通じその終點驛信樂（昭和八年設置）あり。街道は南隣小原村より來り中央の谷を東北に過ぎて北隣雲井村に至り、主邑長野の集落これに沿ひて街村型をなす。一道ここにて東南方へ岐れ伊賀盆地東北部に出づ。もと長野町と云ひしが、昭和六年この地は信樂谷の中心なるより信樂町と改む。大宇中野には郷社新宮神社鎮座す、稻田姫命を祀る。

【信樂線】 省線圖西線の一部。滋賀縣の南部を通ずるもの、草津線貴生川驛（甲賀郡貴生川村）より分岐し信樂驛（同郡信樂町）に至る。全長一四・八粁。昭和八年五月八日から運輸營業を開始す。將來は延長して圖西本線加茂驛（京都府相樂郡加茂里村）に連絡し、全長四四・〇粁の線路となるべき豫定のもの。

シカラハン　——社　臺灣花蓮港廳花蓮郡の蕃社。タロコ峽の奥にあり、アタヤル族中のタロコ蕃に屬する高砂族の部落。新城よりタッキリ溪に沿うて行くを順路とす。

シガラミ　柵村　長野縣信濃國上水內郡の中部。長野市の西方約九粁。犀川の支流裾花川の中流に沿ふ。東は芋井村に、西は鬼無里村、北は戸隱村に接す。西北境は飯綱山系の一部、砂鉢山（一四二二米）・新倉山（一一二五二米）等連亙し、南境また千二三百米の山脈をなし、何れも村內に傾斜し、中央を東西に貫流する裾花川の谷となる。裾花川は更に北より柚川を合し、その合流點の志垣は戸隱連山への登山口に當る。北部山地は流れ森林、南部の山地には草原多く、谷沿には耕地拓けり。長野市より縣道通じバスの便あり。この地は和名抄、水內郡芋井郷の內にして、また大宇栃原は東鑑・文治二年三月の條に「橡原御厨、九條城興寺領」とある橡原の遺稱とす。（大昌寺）大宇栃原にあり。曹洞宗。榎現山と號し、溝口信濃守の菩提寺たりしが、のち溝口氏は越後新發田に轉封せらるるや、榮宇從つて荒廢に歸せしも、慶長年中、麟蘇和尚これを再興し、更に松嶺和尚重興す。慶安三年、德川家光より寺領十石の朱印を寄せらる。

シカリベツ　然別

【然別沼】 北海道十勝支廳河東郡鹿追村にある湖。然別火山群の間に湛へられしもの。海拔約八〇〇米の地に位し面積約三・四五平方粁、深度は約九九米にして北海道湖沼中最も深く然別川の支流トヨマベツ川の水源をなす。湖中に浮天島浮び岩魚を產す。湖は大雪山國立公園に含まれ、山嶺峻峰を以て圍まれ常に白雲去來し風光の變化絶りなし。周圍の全山は水際より頂上に至るまで針葉樹の原始林鬱蒼とし、高山植物も多生し、岸には然別温泉の湧出を見、沼水の湧出する附近は懸河の瀑布の偉觀を呈す。また沿岸の奇岩怪石は悉く岩鷺瑪・岩松・石楠花を冠り、その沿岸の針樹の奇岩壁立する壯觀は實に山紫水明風光絶佳の絶境をなす、春夏秋冬探勝する者多く、北海道拓殖鐵道の瓜幕驛並びに省線の帶廣・浩水の各驛より湖畔まで定期自動車運行す。湖畔には温泉旅館及び官設驛遞所等あり。

【然別】 函館本線の一驛（明治三十五年設置）。北海道後志國余市郡大江村にあり。

シキ　志木町　埼玉縣武藏國北足立郡の西南部。東は內閣木村、南より西は大和田町、北は入間郡水谷村と隣す。面積三・〇八平方粁。全町平地にて西半は水田多く東半は畑地なす。縣道は町の中央を横斷し、西は大和田町に入りて川越街道に合し、東は浦和市（約七粁）に通じ、街はこれに沿ひて發達す。また社線東武鐵道東上線は西部を西北に走り、南境に志木驛（大正三年設置）を置く。この地は近世新座郡野方領に屬し、館村と稱し館之郷廣濟庄に屬し、德川氏國東入國後は山中左大夫分重及び大河內兵左衛門業の二人に賜はり、元祿七年この二人の領地を松平美濃守に賜はり、寶永元年所替あり、同二年松平右京大夫輝貞に賜はり爾來子孫相繼いで領ぜり。

シキ　志岐村　熊本縣肥後國天草下島の西北部。北及び西は天草灘に臨み西北隅は富岡町に接し、東は坂瀬川村、東南は本村、南は都呂々村に界す。南隅に柱嶽（五一八米）あり。其東北方に矢筈嶽・茶屋峠（四八九米）等連りて東南境をなし山地西北方へ傾きて所々に小山間盆地を造り西北部に海岸低地開く。海岸線臯調にして西北隅の富岡町に入りて砂嘴を延ばし約二粁の長さにて其先の島に續く。主なる生業は農業にして低地盆地に米を造り、特產には粘土・陶業品あり、また天草炭田の一部を占むるにより無煙炭の產あり。造路は北海岸に沿ひ東西に走り一路は西北部にて分岐し東境の茶屋峠を越ゆ。また西岸を南に走るものもあり。本村は附近諸村と共に古くは和名抄、志草郡志記郷の名とす。天草の豪族なる天岐氏の發祥地たり。志岐氏は菊池氏の族にして、支岐城に居す。永祿の頃、志岐志摩守慣經ありて、熊前龍造寺氏に隨附す。その子を鱗泉入道といひ、天正十七年本渡城主天草種元と共に亂を起し、小西行長・加藤清正等に攻められ、遂に滅亡せり。佛木坂は清正と坂軍の駐將木山勝正と一騎打せし戰場と傳ふ。（上田及潤）蘭學者。平井悲輔の六男にして本村の出身とす。本居大平門下の醫師上田公縣に養はる。長崎に至りて蘭學を究め、寫永四年、岡山にて醫業を開き傍ら藩に

授く。元治元年池田侯に聘ぜられ、次で藩校に出仕、擢られて教頭となる。明治十六年六十一歳にて歿す。遺著二十數卷あり。贈從五位。〔國照寺〕曹洞宗。郡内第一の巨藍。寛永十五年、天草の亂平定するや、正保元年、郡代鈴木重成、幕命に依りて鼓に伽藍を創建し百石の朱印狀を附し、鶯頼を請じて開山となす。十一世天恵これを中興し、櫻・松・柳・楓・躑躅等の諸樹を植ゑ、境内風致を整へ國内屈指の名刹となれり。

シキ　志紀

【志紀村】大阪府河内國南河内郡の北端。大阪市の東南界より東南約五粁、南は柏原町に接し中河内郡の南部に突入し、西北は龍華町に接し、東北は曙川村に、東は南高安村及び堅下村に隣り、西は大正村に界す。面積三・五九方粁の小村。全村大阪平野沖積地の一部を占め、平坦にして東部及び西南部は大和川の支流各西北に流る。耕地よく拓け河内米を主とし麥・菜種等を產し、また大阪市に近く各種の工產あり。奈良街道東南部を南北に通じ、その東に並行して省線國西本線通じて大字二俣に志紀驛（明治四十三年設置）あり。本村は上表に見る如く大都市附近の村としては、必ずしも人口增加率の多き方と云ふべからず、これは昭和十年に於ける本邦の一平方粁の平均密度は一八一人なるに、本村の密度は一一二九人、既に相當人口稠密なるに因る。されど將來なほ發展の餘地相當あるものとす。此地は古く倭和名抄、志紀郡田井郷の内にして、大字田井は郷名の遺稱なり。大字弓削に式内の古社弓削神社あり、物部氏の祖神を祀る。

國勢調査人口表	
大正九年	三〇三六
大正十四年	三二七二
昭和五年	三六四七
昭和十年	四〇五三

【志紀(郡)】河内國(大阪府)の古郡名。古事記綏靖天皇の段に師木縣見え、景行天皇及び雄略天皇の段に志幾とあるは何れも本郡を指せしものならん。延喜式以下これに從ふ。和名抄は之岐と訓じ、長野・拜志・志紀・田井・井於・邑智・新家・土師の八郷を置く。明治二十九年河内國十六郡を分合して南・北・中の三郡とするに及び、南河内・中河内の二郡に分屬し郡號を失ふ。

【志紀縣】河内國にありし舊志紀郡の地方を古く志紀縣といひ、神八井耳命の裔縣主となり志紀大縣主と稱す。古事記には師木縣と見ゆ。それが郡となれるは恐らく大化改新の時ならん。※志紀(郡)

【志紀】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に志紀郡志紀郷あり、郡家の所在地たり。その地今の中河内郡長吉村・大正村の邊なるべし。

シキ　志貴　愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、外一町四村と共に廢し矢作町を置く。往時は志貴庄と稱せられし地なり。

シキ　磯城

【磯城郡】奈良縣十郡の一。縣の中部に位し北は山邊・生駒二郡に、東は宇陀郡に、南は吉野・高市二郡に、西は北葛城郡に夫々相隣る。奈良盆地の東南部を占め、地形的には大和高原・龍門山塊及び奈良盆地の三つに區分され、片狀花崗岩より成る大和高原は奈良盆地に臨層崖を向け、東部に龍王山(五八五米)・柔向山(七六七米)あり、僅かに室生火山群の貝ヶ平山(八二二米)がありて安山岩・玄武岩より成る。南部龍門山塊は山麓が屈曲し傾動地塊をなし、多武峯・天ノ香久山(一四八米)・耳成山(一四〇米)の小トロイデ噴出す。奈良盆地は低平にして櫻井町附近より初瀬川が峡谷をなして西北に流れ、寺川は多武峯に發し略ぼ初瀬川に平行し、西部には飛鳥川・曾我川が北流し、此等は北塊にて合流して大和川となる。山地には木炭の產あり。平野部には米・麥・大和西瓜の產多し。道路は條里制のため井然たるもので、鐵道は櫻井町を頂點として四方に走り、初瀬谷へは大軌の長谷線・參宮急行が、省線櫻井線は奈良市より南下し櫻井にて直角に折れ八木方面に西走す。また盆地の對角線として大和鐵道が王寺方面へと西北走す。交通上の要地と云ふべし。また西部には北より大軌の畝傍線が南走し田原本驛を過ぎ八木町方面に至る。上代には崇神・垂仁・景行天皇を始め奉り武烈・繼體・欽明天皇の帝都にトされし地にして古蹟多く御陵も多し。此地は往古の磯城縣の地にして、古事記は師木縣、書紀は磯城縣と見ゆ。のち二郡となり城上・城下郡に分る。明治の初には式上・式下郡と云はれ、更に二郡を合せて磯城郡とす。いま本郡には櫻井・三輪・初瀬・田原本・柳本の五町の外、十六箇村を含む。

【磯城縣】→磯城郡

シキ　信貴

【信貴山】生駒山脈の一峯。奈良縣生駒郡平群村に屬し、西方大阪府中河内郡高安との境界に高安山(四八八米)對峙す。標高四三七米。山上は男岳・女岳の二峰峙ち、山中には信貴山歌舞院朝護孫子寺あり。眞言宗高野山派に屬して、世に毘沙門堂と稱す。聖德太子の創建と傳へ、延喜年間聖運上人これを中興す。寺傳によれば、楠正成は信貴山多聞天の申子なるにより、幼名を多聞丸と稱せしとぞ。元弘の亂に、護良親王ぼ此處に駐在して戰備を整へ給ふ。永祿三年松永久秀は當山に信貴山城を構へたりしが、のち織田信長に滅さる。されど慶長七年豐臣秀頼その新願所として本堂、その他を再建せり。現今は信徒多く、關西地方にては商業・金融の神として參拜者多し。毎日は一・三・五の日及び寅の日にして、七月三日は毘沙門天出現記念日に當る。大殊

日あり。由上の信貴山城址には聖鉢護法堂あり。山頂よりは金剛・二上・葛城の諸山の相對峙するを望見し、夏は時鳥、春は鶯の囀々を聞く。また北方の生駒山よりの鑑走は約一二粁、大軌電車によりハイキングコース開かれ、三・四時間にて達す。山腹は開拓せられて、蓼畑・果樹畑となり、美しき景觀を呈す。登山は國西本線王寺驛より信貴生駒電鐵に乘換へ、山下驛より下車、それよりケーブルカーにて信貴山下車、山門まで徒歩約半粁なり。

【信貴山急行電鐵】大阪電氣軌道の信貴山口驛(大阪府中河内郡南高安村)より起り奈良縣生駒郡三郷村の信貴山門驛に至る私設鐵道。信貴山口・高安山・信貴山門間は二・一粁の平坦線にして、計三・四粁。昭和五年營業を開始す。沿線に名勝舊蹟多くまた信貴山參詣者によりて利用せらる。

シキイコマ　信貴生駒電鐵　私設鐵道。奈良縣生駒郡にあり。北葛城郡王寺町にある國西本線王寺驛より山下驛(生駒郡三郷村)を過ぎ龍田川に沿ひ、北方の生駒山東麓の生駒町生駒驛に至る。全長一二・六粁、大正十五年に一部開通し昭和二年に全通す。別に山下驛より信貴山まで一・七粁を登る鋼索鐵道線を含む。

シキクン　——社　臺灣臺北州羅東郡の著社。濁水溪の上流山地にあり、アタヤル族に屬する高砂族部落。羅東よりピヤナンを經て臺中州霧社に至る所謂ピヤナンヌ越道路の要衝にあたる。羅東より約五〇粁、途中の土場までは營林所の鐵道便乘の便あり。シキクンよりピヤナンを經て花蓮道路の南澳に通ずる警察道路あり。

シキゲ　式下(郡)　→城下(郡)・磯城郡

シキサイ　飾西(郡)　播磨國(兵庫縣)の舊郡名。諸國古寫國・元祿國に郡名始めて見ゆ。地は今の飾磨郡の西部及び北部に當る。明治二十九年飾東郡と合して飾磨郡名を復す。

シキサキ　志貴崎　愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、外二村と共に廢し旭村を從く。

シキサワ　鴫澤　→丹波山村(山梨縣)

シキシマ　城島村　奈良縣大和國磯城郡の中部。北は三輪町・朝倉村に、東は多武峯村に、西は安倍村・櫻井町・大福村に接す。奈良盆地の東南部に位し村の南半は龍門山塊の東北部を占め片狀花崗岩より成る。南部に鳥見山(二四四米)あり。初瀬川が大和高原を切り奈良盆地に出づる所にして北部にて忍坂川が合流す。平野部には米及び大和西瓜の產も多し。交通は此地が溪口に當るを以て交通上の要地となり省線櫻井線は西部を南へ櫻井町に至る。本村附近は古へ磯城島と稱せし地にして村名はその遺稱とす。和名抄、城上郡忍坂郷の地も亦この地に當り大字忍坂はその遺稱なるべし。忍坂には舒明天皇の御陵なはじめ田村皇女・大伴皇女・鏡女王の墓あり。外山はもと遠見に作り等彌神社あり。この地は長髓彦の從黨の居址と思はれ、生駒郡鳥見郷を本據とし、この地に別居を置きしものなるべし。大字戒重には永正の頃、城構ありしものの如く、英俊日記に永正三年八月、京衆入國、戒重城没落とあり。慶長五年關ヶ原の戰に、織田武藏守長益は東軍に味方し、石田三成を破りし功により大和に三萬石を賜りたり。元和元年、長益は退隱し有樂と號し、戒重一萬石をその長子なる左衛門佐長政に分祿し、以來子孫世襲し、正德三年には同郡芝村に移館せり。〔押坂内陵〕大字忍坂にあり。舒明天皇御陵。御母蘇手姫皇女と合葬にして、陵形前方後圓墳。皇紀千三百一年十月九日崩御。聖年十二月大和國滑谷崗に葬り、更にその聖年九月現地に改葬し奉る。一に押坂陵(紀)・押坂山陵(扶桑略記)と稱す。延喜の制に遠陵に班し、元治中大いに修治を施す。〔押坂墓〕大字忍坂にあり。敏達天皇の皇子押坂彦人大兄皇子紀簸手姫皇女の御墓。舒明天皇と合葬。延喜の制に遠墓に列す。〔押坂内墓〕大字忍坂にあり。欽明天皇の皇女大伴皇女の御墓。圓丘墳。延喜の制遠墓に班す。もと舒明天皇の陵域内にありしが、今はその陵域外に單獨にあり、字なし女塚といふ。〔押坂墓〕大字忍坂にあり。藤原鎌足夫人鏡女王の墓。延喜の制遠墓に班す。押坂陵の陵域外東方約一町の處にありて、俗に冢穴と呼ばる。いま淡山保存會これを管理す。〔忍坂坐生根神社〕大字忍坂に鎮座。村社。祭神、少彦名命。一說に生根神。式内大社。神位、貞觀元年從五位上。例祭、七月十八日。〔忍坂山口坐神社〕大字忍坂に鎮座。村社。祭神、大山祇命。式内大社。例祭、九月十日。〔極樂寺〕聚殿にあり。淨土宗。享祿四年圓譽上人の建立に係る。寺傳によれば、天平四年行基菩薩、極樂寺三昧堂を建立し、釋迦木像を安置せるは此地なりと云ふ。

シキシマ　敷島

【敷島】一に磯城島・城島・式島・志貴島に作る。廣義には日本國を指し、狹義には大和國をいふ。更に狹義には崇神・欽明兩天皇の都し給へる今の奈良縣磯城郡三輪町及び城島村附近一帶を敷島と呼べり。名稱の起原は詳ならざるも、敷は磯城或は城の當字にて古語にて堅固に築きたる城の義なり。島は栖間の轉呼卽ち聚落の意あり、されば敷島は堅き城のある聚落の義にて、崇神・欽明兩天皇の都し給へるより此名起りしものならん。三輪町大字金屋に崇神天皇の磯城瑞籬宮址、欽明天皇の金刺宮址を傳へ、日本書

紀には「欽明天皇元年遷都、倭國磯城郡磯城島、仍號爲磯城金刺宮」とあり。法王帝說には欽明天皇を志癸島（志貴島）天皇と云ふと見ゆ。古代には地形上割合高燥なる地に宮殿が營まれ、奈良盆地周緣に多く、此地もその一つにして御陵御墓も多く存し上代文化發落たり。また枕詞として日本或は大和國にかけて用ひらる。萬葉・二〇「之奇志麻乃日本の國に明らけき名に負ふ伴の緒こころ勤めよ大伴家持」古今・無四「敷島の大和にはあらぬ唐衣ころも經すしてあふよしもがな　紀貫之」本居宣長「敷島の大和心を人とはば朝日に匂ふ山櫻花」

【敷島村】　群馬縣上野國勢多郡の西北隅。利根川の東岸にあり。南は横野村、西は群馬郡白郷井村、北は利根郡久呂保村と隣す。赤城山の西斜面を占め、東端に鈴ヶ嶽（一五六五米）あり。村の東半は傾斜緩なるも西半は縱傾斜となり、西端はその裾にて利根川南流するも平地少く、一部桑畑をなすのみ。全村森林多く、村道あるのみにて交通便ならず。利根川に沿ひて省線上越線北走し、南部に敷島驛（大正十三年設置）を置く。村内に雄鷹（高さ三九米、幅三米）、及厚雄鷹（高さ六一米、幅一米）あり。管窺武藏によれば天正十年六月、濃川一益は沼田に攻寄せる時、厩橋より新發に出で、米野臺に陣上げ、長井坂を越え、新原・森下に移るとある長井坂は、今の大字長井の坂とす。大字津久田・猿には天正年間に長尾一井齋の家臣牧和泉守の居住したりしことあり といふ。

【敷島炭礦】　福岡縣糟屋郡にある炭礦。鎭區は筑豐炭田の一部にして大川村と伸原村とに跨り十九萬二千坪とす。昭和十年塊炭六五七六瓲、粉炭一三九五二瓲、粗炭四〇一五瓲、この總價額十五萬餘圓にして本邦準重要鎭山の一たり。同年六月末日現在にて鎭夫二三七人とす。

シキショー　式上（郡）　↓城上（郡）・磯城郡

シギタツサワ　鴫立澤　神奈川縣中郡大磯町の西端路傍にある名所。和漢三才圖會に「鴫立澤在〻大磯小磯之間、古者葬〻人之地而非〻名所、西行歌詠以後得〻名」とあり。往昔、西行法師が相模國大庭、磯上が原の邊を過ぎ鴫の立上るを見て詠める「心なき身にもあはれは知られけり鴫立澤の秋の夕暮」の歌をこの地にひき當てしもの。されど後には名所となり、鴫立澤を刻せる石標も立ち西行の古像を安ぜる一宇の草堂も營まれ、又傍に曾我祐成の妾大磯の遊女虎に因める虎子堂や鴫立庵も建つ。藤巢毛・初下「大磯のまちを打過…鴫立澤にいたり、文覺上人が刀作と聞えし西行の像にむかひて、われ〳〵も天窓を破りて歌よまん、刀づくりなる御影拜みて」

シキタマ　敷玉村　宮城縣陸前國志田郡の北部。古川町の東南に隣り、西南は三本木町に、北は栗原郡に界す。鳴瀨川は西南部にて多田川を容れて東流し、この地はこれ等河川と北上川の一支江合川の沖積地より成る大崎平野に位す。而して江合川が下流に於て氾濫するを防ぐ爲に本村に於て鳴瀨川に合流する工事を行ひつつあり。全村は大部分平野にして、南の一部が丘陵性臺地をなし畑地として利用される他は一帶の平地は水田なり。馬鈴薯・自菜等を產し、副業として養蠶行はる。古川町より東南隣松山町に至る縣道及び松山町より北方小牛田町（栗原郡）に至る縣道通じ合バスの便あり。此地は繩新前は八幡・境野宮・宮內・御山・綸木・石森・下中目・青生の八箇村にて夫々伊達家に分屬せしが、明治二十二年町村制實施と共に合併し本村を置く。

シキチ　敷地　↓大聖寺町（石川縣江沼郡）

【敷地村】　靜岡縣遠江國磐田郡の中部。二俣町の東方約五粁の地。東は周智郡、北は光明村、西は野部村、南は廣瀨・三川兩村に隣す。西端に天龍川と太田川を分つ山脈連り、二三百米の山あり、中央の細長き谷は太田川の支谷にして南に次第に廣くなり多少の田地拓かる。森町より二俣町に至る道路南部を貫通し、これより谷沿に一條の山道ありて、北隣なる光明村に通ず。本村の全面積は一四平方粁なるにも拘らず、人口僅かに一六七〇（昭和十年）に過ぎず、大正九年の一五六六人と比するも幾何の增加にもあらず。これは村內に有用地面少く、また資源に乏しくして發展の餘地なきことを示すものとす。この地古くは和名抄、周智郡依智郷の內に屬せしものならん。中世は附近諸村と共に野部郷と稱せらる。（野邊神社）大字敷地に鎭座。郷社。祭神、大山咋命。近江の日吉社を勸請したるものといはれ、もと山王社と稱す。今川氏の時に社領六十七石餘を寄せられ、江戸時代には朱印領十五石を有す。例祭、十月十六日。

シキツ　敷津浦　摂津國にありし地名。大阪府東成郡にもと敷津村あり（今は大阪市に編入せらる）、されば敷津浦は住吉社の西に當り、田見澤の西につづく砂洲の邊に求むべく、今の大阪市住吉區南・北加賀屋町の邊に當るべし。萬葉・一二「住吉の敷津の浦の名告藻の名は告りてしを逢はなくも怯し」

シキトー　飾東（郡）　播磨國（兵庫縣）の舊郡名。諸國古寫圖・元祿國帑に始めて郡名見ゆ。地は今の飾磨郡の東南部に當る。明治二十九年飾磨郡と合し飾磨郡名を復す。☞飾磨郡

シキナイ　四畿內　大化改新の時、京都附近を畿內といふ。持統天皇の時に四畿內の稱あり。即ち、大倭・河內・攝津・山背の四國をいふ。のち元正天皇の靈龜二年四月河內國の三郡を割いて和泉監を置き、これを國に准じて畿內五國とす。↓畿內

シキナシ　敷梨　筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄に糟屋郡敷梨郷あり、訓を岡くも文字通りに壹岐奈之と讀むべきか、或は音讀して不理と云ふべきか審かならざれども、いま前者に從ふ。その地今の柏屋郡の內ならんも、讀當すべき地見當らず。

シキナミ　敷浪　石川縣羽咋郡柏崎村の大字。省線七尾線の敷浪驛（明治三十一年設置）を置く。

シキネ　式根島　東京府大島郡にある島。伊豆諸島中の一にて行政上新島本村に屬す。新島の西南にありて南方遙に神津島を望む。直徑約二粁、周囲約六粁の小島、最高點も一〇五米にすぎず、黑雲母流紋岩より成る貧平なる臺地なるも小起伏に富み、谷間に民家散在し北端に野伏灣あり。島の南岸に足附溫泉あり、東南岸の到る所に溫泉湧出す。此等溫泉は岩隙より出で其溫度は潮汐の干滿により調節さる。夏季（七月十日—八月末）は毎日熱海・大島・新島を經て本島に至る東京灣汽船の就路あり、其他の月は東京芝浦より隔日に出帆す。

シキネ　敷根村　鹿兒島縣大隅郡姶良郡の東南部。鹿兒島灣の東北岸に面し隼人町の東に隣る。北に東國分村に接し東及び南は福山町に囲まる。東の大部分は山地をなし、四—五〇〇米程度の山地東部に起伏し、東南隅に約五〇〇米の臺地あり。西方は山地次第に低くなりて西北部に約二五〇米の臺地を造り、此臺地は西南方に急斜す。其西は國分平野の東南隅を占めて沖積低地をなす。爰に北方より來る綸校川あり。海岸は西部を西々北より東々南に走り概して平直にして僅に東北へ彎曲し、其南に西南方へ突出する若潦ノ鼻の岩石海岸あり。西部低地に肥沃な水田拓け米產豐なり。日向街道東方より來り南部海岸近くの鳥利坂を越えて當村に入り、西部海岸低地に沿ひ西方へ走りて鹿兒島灣北岸を繞りて鹿兒島市に至る。西北方約七粁に省線肥薩線國分驛あり。大字蓑に敷祖郷の視里にして、中世敷根氏と號せる邑主の城塞址存す。郷社敷神社また大字蓑にあり日本武尊・倭彥命・小臼命・大臼命・天兒屋根命を祀り、祭例三月十八日。大字上之段の桂之尾は桂姫の居所址なりといはれ、傳ふるところに據れば桂姫は敷祖に生れ、のち神功皇后に仕へ奉り三韓征伐に從ひ武功ありと。

シキノ　師木野村　山口縣周防國玖珂郡の東部にある農村。岩國町の南、藤河村の東南、藤村の西、通津村の西北、組生村の北、玖珂町の東北、南河內村の東南に當る。地勢は周圍凡て山地にて、殊に東南部に高峰あり、高きは海拔四〇〇—六四五米餘に達するも、村域の大半は二—三〇〇米前後の丘陵性山地より成る。產業は農業を主とし米の產出多く、蠶これに次ぎ、木材・竹材・筍などこれに次ぐ。大字柱野は慶長七年吉川廣家が建築用柱を同村大畑に採りしより斯く名づけしといはれ、大字六呂師の名は、往昔平家の落人來りて轆轤師たりしもの多く、因つて此の名稱起りしと傳へらる。交通上には山陽本線、本村の西部を通じ柱野驛（昭和九年設置）を置く。本村は初め六呂師・叶木・柱野の三村より成りしものなるも、明治二十二年町村制實施と共に合併して一村となり、三村の名稱より各一字を取りて之を師木野と名づく。

シキノ　鴫野　また鵜野に作る。いま大阪市東成區鴫野町の邊、大阪城の東北に當る。もと大和川此の東を流る。この堤上は大阪冬陣の際、大野治長の兵が上杉景勝の兵と戰ひ利あらずして退きし處とす。

シキノカミ　城上・式上（郡）　大和國（奈良縣）の古郡名。磯城縣の地を分けて置けるもの。延喜式に郡名見え、和名抄は之岐乃加三と訓じ山村・檜中・山邊・櫟生・八島・大岡・春日・大宅の八郷を置く。中世以後式上に作り、正保國以後式上・城上兩樣に書き、またシキノカミ・ジキジョー兩樣に訓む。明治に至り郡區編制法以後式上に作る。地は大體今の磯城郡の東北部に當る。明治三十年式下・十市の二郡と合併して磯城郡を建つ。☞磯城郡

シキノシモ　城下・式下（郡）　大和國（奈良縣）の古郡名。磯城縣を分けて置けるもの。和名抄は之岐乃之毛と訓じ村國・佐紀・矢田・鳥見の四郷を置く。中世以後式下に作り、式下・城下の兩樣に書きシキノシモ・ジキゲと兩樣に訓む。郡區編制法以後式下に作る。地は凡そ磯城郡の西北部に當る。明治三十年式上・十市兩郡を合せて磯城郡を建つ。☞磯城郡

シキノヌ　敷野　大和國磯城郡の平地即ち奈良盆地の東南部をいふ。萬葉・一〇「君に恋ひうらぶれをれば敷の野の秋萩しぬぎさを鹿鳴くも」

シキフ 敷生　北海道勝振國白老郡白老村の大字。省線室蘭本線の敷生驛（明治三十年設置）を置く。

シキミ 榊原　京都府の愛宕山の中腹にある平地。雍州府志「榊が原、在二愛宕山西山腹一」大學大僧正御傳記・四「これも愛宕の御利生かの、面白やと狀述れ、つづらをりくる榊が原、はらはら過る村雨」

シキミ 式見村　長崎縣肥前國西彼杵郡中部の西海岸。西彼杵半島の西部に位し長崎市の西北方約七粁。東南部は福田村に接し東は西浦上村に隣り北は三重村に界す。面積九・六一方粁。北端に二二二米の飯盛山あり。全村山地起伏して南部海岸に僅に低地あり。海岸は崎戸北より東南に迂して小屈曲多く西北隅に鰐崎・その東南に鍋崎あり。海上に神樂島・黒瀬・平瀬・白瀬等の小島散在す。山地多きため耕地は麥・粟・甘藷を産し村民の生活對象は海上にあり。南部海岸低地に人口多く、主邑式見村聚落あり。こゝより路は北・東・南の三方に通じ隣村と結ぶ。附近町村と共に要塞地帶の一部を占む。式見港は内務省指定港灣にして主として鮮魚介を移出し、油類なも移入す。〔乙宮神社〕大字向郷に鎮座。郷社。祭神健速須佐之男命。創立年代未詳。古へ神樂島飯盛岳に坐せしを、のち同邑矢筈岳に遷座し寒り矢筈權現と稱せしが、天正年間更に式見面子切島に遷り坐し、乙宮大宮大權現と改稱す。これ現今の神社にして、明治三年乙宮神社と改む。

シキミ 色見村　熊本縣肥後國阿蘇郡の東部。阿蘇中央火口丘の東南麓を占め高森町の北に接す。西は白水・黒川二村に隣り北は宮地町・坂梨村・波野村に界し東は草部・野尻の二村に續く。面積三三・三八方粁。西北端に高嶽（一五九二米）・中嶽（一三二三米）ありて東南方へ山裾を延ばし東北端には根子岳（一四〇九米）ありて四周に急斜して高嶽・中嶽と共に南方へ廣き裾野を引き、東端は阿蘇外輪山の一部をなして約一〇〇〇米の山地連りて西方へ急斜す。全村傾斜地なれば耕地は麥を產し、また牛馬の放牧地もあり。一街道高嶽と根子岳の間の火ノ尾峠を越えて中央を南北に貫き北方宮地町と南方高森町とを結ぶ。南部には之と交叉する一路ありて西南方の白水村大字新町と東北方外輪山を越え玉來町（真入郡）方面とを連絡す。此地古くは和名抄、阿蘇郡衣尻郷の内に屬せしものゝ如く、中世以降は附近諸村と共に南郷谷と總稱せられたり。村域はいま阿蘇國立公園の内に屬す。

シキヤ 敷屋村　和歌山縣紀伊國東牟婁郡の北部。奈良縣の南部を南北に連る大峯山脈の南端に位し十津川に跨る。東は九重村に接し南は清川村に隣り西は本宮村・三里村に界し北は奈良縣吉野郡十津川村に續く。北端に大峯山脈南端の太平多山（一〇三二米）及び其西に大森山（一〇四五米）あり、東北端には甲森（九八七米）ありて西北隅及び東北隅より南方へ次第に傾斜しつゝ山脚を延ばして東西兩端を限り、東端中央には富士根山（四七三米）あり。兩山地中央に傾斜し東南部には約五〇〇米の山地ありて西北方へ傾斜し其北に壯年期の谷を造り、西隣三里村・本宮村を屈曲しつゝ南下す十津川は西南隅にて東に向ひ西南端を流れ、南端中央にて東南部山地の北を迂回して東端富士根山との間を東流し、約四粁先にて北方より來る北山川の水を合せて熊野川となる。南隅の流域に桑の栽培地もあれど、山地深ければ木材薪炭を出す。道路は川に沿ひて走り、中央谷を北にゐけて太平多山峠を越えて奈良縣に至るものあれど交通不便なり。本村の地域は廣大なるも山地多く更に貧源乏しければ、人口密度頗る粗なる上に漸次減少するの傾向にあり、こは他に移住或は出稼するに因る。なほ本村の地はいま吉野熊野國立公園の内に屬す。

シキャクテー 四脚亭　臺灣總督府殖産局宜蘭線の一驛（大正八年設置）臺北州基隆郡瑞芳庄大坑埔にあり。

シキョー 只杏面　朝鮮慶尙北道迎日郡の東南端。北は滄洲面、西は烏川面、南は慶州郡陽北面に合相隣接し、東は日本海に面す。域内丘陵性山地を成し、南と西やや高くして東方に低廣し、長鬐附近及び北部に海拔二〇—五〇米高度の平坦地廣く連なる。海岸は絶崖・砂濱相交ぜり屈曲に乏しく、南部の一小灣に良浦の泊湾あるのみ。住民は農を主とするも、沿海地方は漁撈及び製鹽業に從事する者多し。農產物は大豆を第一とし麥・米・煙草・麻・生牛等、海產物には鰮・鯖・鯛・鰒・鮑・太刀魚・鰯及び天草・和布、其他の海草類、鹽等あり。また石炭の塊藏多きも未だ採掘に至らず。鉄線道路より遠ざかり、總べて等外路線にして坂路多く車を通ぜず交通不便なり。面邑長鬐はほゞ中央に位し、郵便所・駐在所・金融組合・學校等あり。また定期市開かれて穀類・水產物・牛等の取引多し。本面は新羅時代に、北隣の滄洲面を合せたる地域を以て只杏縣と稱し、近世に至り長鬐郡と改め長鬐に郡衙を置きしが、大正三年に廢して長鬐・峰山・滄洲の三面に分ち、最近に至り峰山・長鬐兩面を以て古名により新たに只杏面を建つ。

シキリヤン ——社　臺灣花蓮港花蓮郡タロコ峽奥の山地にある蕃社。タヌキリ溪の入口より約三二粁。アタヤル族中のタロコ蕃に屬する高砂族の部落。

シク 志久峠　佐賀縣杵島郡北方村大字志久より小城郡多久村に出づるの峠。また馬神峠ともいふ。天文十四年龍造寺氏が有馬氏の侵入を防ぎ戰ひし所。

シクカ 敷香　【敷香支廳】樺太豊七支廳の一。我國領の樺太東海岸の最北に位し、北は北緯五〇度を以て露領と境し、東はオホーツク海に面し多來加灣に臨み、西は泊居支廳に隣接す。面積は他支廳に比し著しく大きく一二四一七平方粁。西端には白至系に屬する砂岩・頁岩・變岩・泥灰岩より成る樺太山脈が南北に走り逢見山（一〇一〇米）・幌登山（一三七一米）・敷香山（一三七五米）・新門山（一〇三四米）等を主峰とし、東部には結晶片岩類及び古生界の岩類より成る最高約一一〇〇米内外の東北山脈が廣がり、其南の一分脈は北知床の鼻き半島となり先端には海豹島が分離す。この兩山地間の中央地帶は鳥内第一の長流幌内川の流域低地にして河口の東に本島最大の多來加湖あり、一條の砂洲により多來加灣に臨む。この低地は氣候寒冷のため湖水の北は一望際涯なきツンドラの濕地にして水草を追ひ轉々各地を漂泊する土人の遊牧に委ぬ。然し熊地の豊富なる原始林と西部の廣大なる爽岌層とは漸次開發されつつあり、内川炭坑が昭和三年以來繰行し、敷香の人絹パルプ工場が昭和六年に認可さる。沿岸の鱈・鮭・鱈等の漁獲は最も早く注目され海豹島の膃肭臍と共に著はる。街道は海岸沿ひ及び西樺太山脈の東麓南北に通ずるも未だ便ならず、海上は敷香に沿岸航路寄港す。近年木材の伐採業の繁榮のためやや人口増加せしも未だ稀薄にしてアイヌ・ニクブン・オロッコ・キーリン・サンダー・トクーラ等の土人多く、アイヌ以外の土人は他の支廳管内には見られず。この地方のみに住居す。行政上は敷香郡・散江郡に分る。散江は往時に於けるアイヌの大集團地にして穴居の跡多く土器・石器の類が多く掘出され、なほ寛政文化の頃、最上憲内・間宮林蔵等ここに來りアイヌと會見せしといふ。

【敷香郡】樺太敷香支廳二郡の一。敷香町・泊岸村・内路村を含む。☞敷香支廳

【敷香町】樺太敷香支廳敷香郡の東部。北は北緯五〇度を以て露領に境し、西北は泊居支廳・西南は内路村に、東は散江郡に隣接し、南は多來加灣に臨む。西部には西樺太山脈南北に走り、東北部には七百米内外の東北山脈あり、この中間は所謂中央低地にして幌内川は保意川・初問川・射恩川・敷香川等の支流を合せ南流し下流にて多蘭川を分流し多來加灣に注ぐ。多蘭川の東に東西に網長き多來加湖あり。海岸一帶には砂丘發達す。西部山地は白至系及び第三紀の岩類に屬する砂岩・頁岩・變岩・泥灰岩・凝灰岩分布し、第三紀層中に爽岌層を含む。東部山地は西部山地を構成する岩石より古く主として結晶片岩類及び古生界に屬する石墨片岩・絹泥片岩・硅岩・砂岩・粘板岩・變岩・石灰岩・鄰岩・花崗岩・閃綠岩等分布す。中央低地帶は主として第四紀層にして幌内河畔に點々存する安山岩の外は堅硬なる岩類なく、厚層の泥・粘土及び砂礫より成る。この低地帶の大部分はツンドラと稱する低濕地にして厚層の泥炭上に厚き蘚苔類密生し僅小なる落葉松が點々疎生するのみにて沼澤多き階段的平地をなす。松し幌内河畔の兩側及びその支流兩岸には柳・白楊・赤松・蝦夷松及び落葉松叢生し、或は階段的平地の乾燥する所には白樺の純林を見る。かくツンドラは寂漠荒涼たる濕地をなすもこの地方に住するオロッコ・ギリヤーク等の馴鹿の好放牧地なる。この地の平均氣溫は零下一度、最低氣溫は一月の零下一七・八度、最高は八月の一五・八度、降水量は九月（一二二粍）に多く、二月（二〇粍）に最も少く、全年を通じ七五九粍、快晴日數は全年を通じ僅に五八日なるも、樺太・北海道地方にては最も多く、曇天日數は一年一四七日、降雨日數は一年一四六日、初霜は九月下旬（最晩は大正五年四月七日）・終霜は五月下旬（最晩は大正十一年六月二十六日）、初雪は十月中旬（最早は昭和三年九月二十六日、終雪は五月中旬（最晩は大正二年六月十二日）にて降雪日數は一年を通じ八九日なり。以上敷香は何れも昭和十一年）地は極北寒冷なるため畑は少し、沿岸の鱈・鮭・鱈等の漁業中心地たりしも、昭和三年に鐵鋼の内路村に跨る内川炭鑛が開かれ、また同六年人絹パルプ工場設置し、漸次繁榮し、更に西部山地には京都及び九州帝大の演習林あり、なほ斧鉞を加へざる原始林あり

てその伐採近年頗に活況を呈し益々繁榮す。麻頃東海岸線の落合驛（栄留町落合町）より分岐する社線樺太鐵道は、幌内川の河口右岸の市街まで通じ、敷香驛（昭和十一年設置）を置き、海上また夏季には東海岸定期航路の寄港地たり。なほ夏季には四隣の町村間に自動車通ずるも冬季は橇に變ず。此地は邦人の足跡は相當古きものあるも詳ならず、明治九年以後にも邦人の田繰場所の一たり。大正十一年敷香村を設き昭和四年新制度により二級町村制行、同五年町制を布く。主なる部落は敷香市街・上敷香・氣屯の三にして明治四十一年敷香市街に敷香市廳設置、樺太鐵道の終點地としてまた國境近き東海岸北部の要地として益々重要視さる。いま警察署・豊原區裁判所出張所・林務署・樺太廳觀測所等あり。

シクシクダニ じくじく谷　江戸時代銅場所の所在地。いま東京市四谷區谷町。鮫ヶ橋と隣接し、丘に挾まる谷地にて絶えず濕潤なるより起りし俗稱。略して単にじく谷とも云ふ。契國策「そのすこしあなたにじくじく谷といふすつといやしき所有、てまへはさめがはしといふ切り見世なり、此所より山の手のやぼつは出る也」緒美車紫鹿子「市谷ちく谷。此淨土は髮衣類人がら鮫がはしにおなじ、引かれ事甚し、御用心〳〵」☞じくじく谷

シクナミ 宿南村　兵庫縣但馬國養

父郡の北端。城崎郡豊岡町の南方約一四粁、北は城崎郡日高町、東は伊佐村、南は八鹿町、西は城崎郡三方村にそれぞれ接す。中國山地に屬する安山岩の山地より成るも高度は高からず。この山地を圓山川（朝来川）蛇瀧して河谷平野を作り、南端にて稲葉川を合す。古来平地は低き為洪水多く山陰道の如きも川の左岸山麓線に沿うて北へと走り、山陰本線も之と並行して豊岡盆地に出づ。河岸氾濫原は桑園となり、その外側に水田分布す。本村は和名抄、養父郡淺間郷の地にして、中世は宿南莊とも云ひ、大田文に「二尊院領、宿南庄十三町、地頭八木左衛門重直」と見ゆ。大字朝倉は開化天皇の後裔日下部氏住し朝倉氏を稱す。また延喜式兵主神社は此地にあり、中世には兵庫を置かれし地にして朝倉の名はこれより出づ。大字赤崎は式内伊久刀神社のありし地、大田文に赤崎庄十七町四反と見ゆ。尚本村には史蹟青藜書院あり。これ幕末の儒者池田禎蔵（草菴と號す）の書院にして、當時貴族的教育流行せし為これと反對に教育の民衆化に努力し、為にその門を敲く者京・大阪畿内の者は勿論、廣く中國にも及びその数を受けし者七〇〇人の多きに達し、公卿一條實輝公、我國大學教育の功勞者濱尾新、久保田譲等多くの名士輩出す。書院は保存會により保たれ、昭和三年には草菴五十年祭行はる。氏は明治十一年六十六歳にて死し、功により從四位を追贈さられ但馬聖人と稱せらる。また大字赤崎に天台宗の遊美寺あり、郡中第一の古名刹たり。寺傳によれば慶雲二年文武天皇の勅願により作られし寺なりと。のち後鳥羽天皇の勅願寺となり、建久八年源頼朝、平氏の冥福を修せんため五輪塔三百基を當寺に建つ。至德年中、州内三十三番巡禮第一の札所となる。

シグマ　四熊ケ岳・四熊岳　德山市の北西方約七粁、山口縣都濃郡富岡村に峙つ一峯。標高五〇四米。山體鄂石安山岩より成る。山中に樫・椎等の雑木繁茂す。

シクラ　叔羅河　越前國の河の名。萬葉集に見ゆ。越前國府（いま武生町）の附近を流るる九頭龍川の一支日野川を指せるものならん。これ日野川の一名を白鬼女川といひ、叔羅は御ちゞゝきにて白鬼に通ずと稱するも未詳。萬葉・一九「叔羅河瀬なみたづれつゝ我が兄子は鵜河たたさねば情なくさに　大伴家持」

シグラ　神樂村　兵庫縣丹波國氷上郡の西北隅。佐治町の西に隣り、北には遠阪村、西より南は朝来・多可の二郡と界す。大半は山地をなし西北境に九六二米の栗鹿山あり南へ約九〇〇米程度の山嶺を延ばして西境をなし、西南端には八五五米の三國岳ありて山地東方へ廣く傾斜し、東南端にも約七〇〇米程の山地南北に連り西方へ傾斜する所は三國岳麓と稱を接し、西北方へ傾斜する所は西郡山地麓との間の村の中央東部に東西に連れる稍廣濶なる低地をなす。東北部には東南流する佐治川の上流あり東境近くにて中央の谷の東隅に出で東に向ひて流る。全村山地多けれど耕作よく行はれ米を產し其他麦を出し養蠶も行はる。東隣佐治町より來る一街道は中央の谷を西に走り中央にて南に方向を轉じ南隣杉原谷村（多可郡）に至る。また途中之より分れて西方生野町（朝来郡）に至るものあり。此地古くは和名抄、永上郡佐治郷に屬す。もと本村邊の山地を神樂谷といひ、いま村名に轉ず。丹波志に村内の佐治神社は俗に志牟良大明神と稱し、慶長六年奉納の額目の銘には神樂大明神に作ると。或は神樂はもとシムラとも呼びしものか。（高源寺）大字檜倉にあり。臨濟宗妙心寺派。瑞巖山と號す。正中二年の創立にして菩應國師（元の高僧明本）の法嗣遠溪祖雄を開山とす。後柏原天皇の御宇、本寺を勅願道場とせられ臨濟宗中華派の一本寺となる。現に同派別格寺たり。境域楓樹多く頗る風致に富む。寺寶中絹本着色菩應國師像一幅は國寶に指定せらる。（大燈寺）大字稻土にあり。臨濟宗妙心寺派。惠照山と號す。應永年間僧一休當地に草庵を結びて隱居す。時に後小松天皇勅して七堂伽藍を造營せしめ給ふ。永正年間兵火に罹りて衰上、天文三年足立修理大夫藤安秀これを再建し開山を請ず。もと塔頭八院ありしも今は廢絶す。

シゲイ　重井村　廣島縣備後國御調郡南方海上に横たはる因ノ島の西北端を占む。東は大濱・中庄二村と界し、西及び北は海に臨む。面積八・六八方粁。沿岸は砂濱廣く發達して低平なる神楽地をなし、之に續き西北より中央部にかけて一帯の低地あり、この低地を挾みて南北に百乃至二百米の山地あり、東部に高く傾斜して隣村との分水嶺をなす。山間低地は耕地を拓き米を產す。外に山より出る蜜柑・ネーブル等の稙樹を出す。西岸の字重井は漁港をなし西方佐木島領ノ上とは渡船の便あり、近海漁船の寄航地なり。此地古くは和名抄、御調郡因島郷の内なり。中世以降海賊大將軍村上氏の有たり。のち毛利氏を經て淺野氏これに代る。村名の起原に傳說によれば、神功皇后此地の井水のうまきを御賞美あり重ねて水を求め給ひしにより、重井と稱すといふ。

シゲウチ　重内　→礒原町（茨城縣）

シゲオカ　重岡村　大分縣豐前國大野郡の東南隅。九州山脈の日向灘斜面にあり北川上流の地を占む。西は小野市村に接し、北及び東北は南海部郡、南及び東南は宮崎縣東臼杵郡と界す。山地四周を圍み西北境に酒利嶽（七五三米）、東境には中ノ嶽（五四九米）、東南境には黒岩山（五四五米）、西南境に坂戸山（七四六米）等聳ゆ。これ等の山地は起伏なだして中央に傾斜し、北境より源流する北川上流田代川は北部山間を曲流しつつ西南流す。沿岸には盆地狀の小低地開けて耕作行はれ、農を主生業として米・麦・粟・甘藷を產し又養蠶行はる。省線日豐本線中部を南北に走りて重岡驛（大正十一年設置）を置き、日向街道東偏を曲折これとほぼ並行す。また中央低地に發達せる主要部落よりは小路放射狀に走り、交通撫して便なり。小野市村と共に古く字目郷と稱せらる。南端に梓峠あり、天正十四年島津家久・土持久綱、薩軍の先鋒となり此峠を奪ひて豐後に侵入す。また明治十年西南役には薩軍この峠に據り官兵を拒ぎたり。

シゲオカ　茂岡　大和國の古地名。萬葉集に見ゆ。詞書に跡見の茂岡の松樹云々とあるによりて磯城郡城島村大字外山の邊なるべしといふ。萬葉・六「茂岡に神さび立てて榮えたる千代まつの樹の歳の知らなく　紀鹿人」

シゲキヨ　重清村　德島縣阿波國美馬郡の西北隅。東は郡里村、南は吉野川を挾みて半田町に對し、西に三好郡三野村、北に香川縣綾歌郡美合村と界す。讃岐山脈の南斜面の高距約七〇〇米餘の山地と、その山麓下に發達せる段丘及び吉野川流域の沖積平野とより成る。平野は肥沃なる耕地をなすため田畑よく拓けて米を產す。また段丘・山麓には畑作行はれ、煙草・桑の栽培盛んにして、煙草は名高き阿波刻の主產地の一をなし、養蠶も亦盛んなり。吉野川左岸に並行して德島線通り脇町・池田町・池田町を連絡す。また對岸半田町とは渡船の便あり、省線德島本線阿波半田驛に近し。此地古くは和名抄、美馬郡三次郷に屬せしか。石器時代の石鏃・石斧・石鎗及び竪穴等の發掘あり。字城名に重清城址あり。小笠原豐後守長政此に據る。天正六年大西城主大西出雲守、三好に背き長曾我部に降るや、其子白地城主大西角藏・其弟七郎兵衛・久米刑馬亮なして長政を誘殺せしむ。角藏偽て自ら移りて此處に居る、同十年十何存保大舉して攻むるに及び角藏城を棄てて豫州宇摩郡に逃れ後に害さる。存保乃ち源重平をして之を守らしむと。今猶ほ殘壘遺礎等散點し牙城の所在また認むべし。（八幡神社）郷社。祭神、譽田別命・氣長足姫命・姫大神。創建年代詳かならずと雖も、往古源長宗の創祀するなる所にして社領若干を附せりといふ。例祭九月二十五日。（美馬獲造）勤王の士にして、本村の出身とす。名は諧、字は和南、別に土佛・櫻水と號す。尊王攘夷を唱へ高杉晋作等と國事を議せしが、幕譴を蒙り因獄四年、赦後私塾を開く、明治七年七月二十七日病歿す、年六十三。贈正五位。

シゲクラ　茂倉山　上越國境なる清水山塊の一峯。群馬縣利根郡水上村と新潟縣南魚沼郡土樽村に跨り、標高一九七八米。南麓は一ノ倉岳を經て谷川岳（一九六三米）に連る。東側は大斷崖をなし壯觀を呈し、利根川の水源はここより發して南流す。茂倉岳と一ノ倉岳との中間鞍部は悠平と稱せられ附近に小池あり、谷川岳よりの縱走者の好露營地なり。登山は多く水上村土合より谷川岳を經、縱走して至る。尚ほ山頂より土樽に下ることも可能なり。省線上越線ほこの山下を清水トンネルを穿ちて通過す。

シケツ　四結　→五結庄（豪灣豪北州羅東郡）

【四結】豪灣總督府鐵道宜蘭線の一驛（大正十四年設置）。豪灣豪北州宜蘭郡礁溪庄四結にあり。

シケツ　紫月島　朝鮮京畿道の西部、江華灣内の島。一に小忽島。（鳳鳴島と德積島の中間に位し、東西の長さ六粁餘。島の中央に國思峯（約一七〇米）聳ゆ。北島の北側は上海・大連・鎮南浦等より仁川港へ入る船舶の常航路なり。

シゲトミ　重富村　鹿兒島縣大隅國姶良郡の西南部。鹿兒島灣西北岸に面し鹿兒島市に北隣し、東北は帖佐村、西北は蒲生町、西は鹿兒島郡吉田村と界す。西及び南半は惣林鼠・赤崩（五七九米）・中嶽・天ヶ鼻（四三〇米）等の山地踞居し東南隅近くの牟禮ノ岡（五五三米）は東に急斜して鹿兒島灣に斜面を向く。北部には一〇〇米乃至一五〇米の丘陵あり。其北に別府川東流して北端を限り、北隅は流域低地の一部を占めて小低地あり。丘陵の南には思川流れ鹿兒島灣に注ぐ。東部海岸に稍廣き平原あり。海岸は屈曲少し。低地には水田拓け米產豐かなり。山地に木材・薪炭の產あり。温泉の湧出する所あり。日向街道東海岸を南北に走り之より一道分れて西北方へ延び、また省線日豐線は街道に沿ひて走り重富驛（明治三十四年設置）あり。其南部にて日向街道より分るる一山路は東南部の白銀坂を越えて西南に延び吉田村の東南隅を貫きて鹿兒島市に至る。此地或は和名抄、桑原郡大原郷に屬せしものか。薩隅日地理纂考によれば舊名脇元といふ。元文二年二十二代島津繼豐の時、帖佐寄内三村及び鹿兒島郡吉田郷佐多浦村の内を割き脇元に併せて一郷となし、その弟周防忠紀に與へ食邑となさしむ。延治二年文書に重富名百八十町とある地にて、地理纂考に重富名三十三丁と見ゆるは此地にあらず。（岩剱城）白銀山中にあり。西・北及び東の三面は高さ約一四五米の懸崖絶壁をなし、南の一面は山に接して馬切の址あり。山上平地二反あり天險の地なり。天文中盛谷一族郡谷院良重城主たり。同廿三年蒲生城主蒲生範清守護方に反す。良重また菱刈・相良等と共に之に與し加治木城主肝屬兼盛と屢々戰ふ。同年中島津貴久、當城を攻む。良重頑強に抗せしも遂に城を棄てて落つ。依りて貴久、義弘をして當城を守らしめむ。（岩剱神社）

大字平松に鎮座。郷社。祭神、大己貴命・大山祇神。棟札に「天文十一年大檀那平重嗣地頭重清」とあれば其以前の創立なること明なり。例祭三月十八日。

シケノ　滋野村　長野縣信濃國小縣郡の東部。千曲川の右岸。北佐久郡小諸町の西北方約五粁。北は籠ノ登山を境に群馬縣に、東は北佐久郡大里村に、南は千曲川を境に川邊・北與牧兩村に、西は縣村・彌津村に隣る。北境に三方ヶ峰（二〇四〇米）・籠ノ登山（二二二八米）聳え、西南に傾斜し千曲川の谷に臨む。北部の山腹は樹林・草原をなすも、山裾には田地・桑園拓け、米・繭の産あり。北國街道・省線信越本線は山麓に沿ひて村の南部を貫通し、滋野驛（大正十二年設置）あり。小諸町・田中驛（縣村）バスの便あり。小諸町・田中驛（縣村）バスの便あり。此地は和名抄、小縣郡跡部郷の内なりん。紀國造族の後なる滋野朝臣の後、此地に住し地名を負ひ滋野氏を稱す。その族繁衍し、海野・眞田・望月・祢田の諸氏となる。然るに滋野氏を以て清和天皇の皇子貞保親王より出で、海野氏を以て同じく貞秀親王より出づとなすは共に誤なり。また一に光孝天皇の皇子國紀、源姓を賜ひ、其子公忠、滋野氏を稱す。此地には明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の砌、御小休あらせられたり。〔成立石器時代住居址〕指定史蹟。三方ヶ峰の西南麓の畑地にあり。直徑約一〇米ほ圧圓形の地域を石を以て割し中央に爐址あり、之を繞りて大小不同の鐵平石を敷きたる處あり、南に幅約〇・九米、長さ約四・五米の敷石あり、その兩側には入口と認むべき耳石を存す。區域内多數の縄紋土器破片並に石器を發見せり。〔寺ノ浦石器時代住居址〕指定史蹟。戊立遺跡の東南約四〇〇米の處にあり。巨石の散在せる間の適當なる窪地に三個の小爐を作りたるものにして、内一個は方形に石を組み縄紋土器の破片を敷きて底部を構成せり。區域内より縄紋土器並に石器を出土せり。

シケノブ　重信川　愛媛縣温泉郡を流るる川。高縄半島の地塊部の分水嶺より發しほぼ郡を東西に貫流し伊豫灘に注ぐ。石手川・久谷川等の支流と共に松山平野を灌漑し下流は伊豫郡との境界を流る。流程約四〇粁。古くは森松川といひ慶長年間加藤嘉明の区足立重信、本川の大改修をなして五千町歩の地に灌漑し、のち水田と化す。重信正五位を贈らる。

シケハラ　重原　愛知縣碧海郡にあり。明治三十九年他の一町三村と共に廃し刈谷町を置く。

シケハル　重春村　兵庫縣播磨國多可郡の西南隅。姫路市の東北約三〇粁、北は日野村及び西脇町・比延庄村に、南は加東郡上福田村・瀧野町に、西は加西郡芳田村に夫々隣る。丹波高原の南西部を占め、山地は流紋岩及び石英斑岩より成り、南部には鳴尾山の分麓丘陵あり。北部に於て杉原川・篠山川合流して南へ下り、更に西より來る野間川を入れて加古川となる。北方の西脇町を中心として盆地狀をなし、川の流域には水田廣く分布し、山麓の水田附近には溜池を見る。社線播丹鐵道は加古川の右岸を北上し、大字野村にて鍛冶屋行の支線を分岐し、野村（大正二年設置）・新西脇（大正十四年設置）の二驛を置く。此地は播磨風土記の法太里の一部にして、和名抄、多可郡賀毎郷の地たり。

シケヤス　重安　省線奈良線の一驛（大正五年設置）。山口縣美禰郡大嶺村にあり。

シケヤマ　蓄山　↓伊里村（岡山縣）

ジケン　慈眼山　大分縣日田郡日田町にある小丘。一に皇城山と稱す。山中老松茂り、閑雅なる形勝地。西北麓は花月川に洗はる。いま慈眼山公園となる。丘上に附近の民政に功ありたる日田代官鹽谷大四郎の石碑立つ。また多くの國寶古佛像を安置する永興寺觀音堂あり。山麓三芳村には日田神社鎮座す。※日田町

シケン・ジョマエ　試驗所前　豊潤總督府鐵道線貫線の一驛（昭和八年設置）。豊潤豊南州新豐郡永寧庄にあり。

シコ　四湖　【四湖庄】豊潤新竹州苗栗郡一街七庄中の一。打那叭堡の西南隅。堡路市の東北約三〇粁、北は日野村及び西脇町・比延庄村に、南は加東郡上福田村・瀧野町に、西は加西郡芳田村に夫々隣る。丹波高原の南西部を占め、山地は流紋岩及び石英斑岩より成り、南部には鳴尾山の分麓丘陵あり。北部に於て杉原川・篠山川合流して南へ下り、更に西より來る野間川を入れて加古川となる。北方の西脇町を中心として盆地狀をなし、川の流域には水田廣く分布し、山麓の水田附近には溜池を見る。社線播丹鐵道は加古川の右岸を北上し、大字野村にて鍛冶屋行の支線を分岐し、野村（大正二年設置）・新西脇（大正十四年設置）の二驛を置く。此地は播磨風土記の法太里の一部にして、和名抄、多可郡賀毎郷の地たり。

シケヤス　重安　省線奈良線の一驛（大正五年設置）。山口縣美禰郡大嶺村にあり。

シケヤマ　蓄山　↓伊里村（岡山縣）

ジケン　慈眼山　大分縣日田郡日田町にある小丘。一に皇城山と稱す。山中老松茂り、閑雅なる形勝地。西北麓は花月川に洗はる。いま慈眼山公園となる。丘上に附近の民政に功ありたる日田代官鹽谷大四郎の石碑立つ。また多くの國寶古佛像を安置する永興寺觀音堂あり。山麓三芳村には日田神社鎮座す。※日田町

シケン・ジョマエ　試驗所前　豊潤總督府鐵道線貫線の一驛（昭和八年設置）。豊潤豊南州新豐郡永寧庄にあり。

シコ　四湖　【四湖庄】豊潤新竹州苗栗郡一街七庄中の一。北港郡の西部を占むる一庄にて、東は元長庄、西は豊潤海峡に面し、南は口湖・水林兩庄に、北は虎尾溪を隔てて虎尾郡海口庄に各々隣接す。管内は處々に丘陵を見る外概して平地なり。面積約八〇方粁。主なる産業は農業にして、住民の大半は之に從事す。甘藷・甘蔗は其産額最も多く、落花生・米・蔬菜之に次ぐ。また農業に附隨して畜産行はれ、牛・豚・山羊・鶏・家鴨等の飼養盛なり。庄の西部は海に面するも、冬季は地勢上季節風強く、多くの水産業者は、半農半漁の生活を營み、また一般に資金に乏しく幼稚の域を脱せず、概して漁業は不振にして其漁獲高も少し。庄下の處々に設けられたる貯水池兼養魚場よりは年々若干の淡水魚の漁獲あるも多くは庄下の需要に供せらる。管内交通の便概して良く、製糖會社の營業線は、南北に各一線を有し、大小の道路は四湖を中心として八達す。いづれも自動車の運行自由なり。大字四湖には、庄役場の所在地にして庄下産業・交通・文化の中心地をなし、公學校・國語講習所・青年團等の教育教化の施設備はる。また此地に在る參天宮は其沿革古く、參拜信仰する者多し。其西部なる大字飛沙も亦、庄下の一要地にして公學校を有す。海岸地帶なる大字三條嵜には、海水浴場の施設備はり、四湖よりは乗合自動車の便あり、夏季は遠近よりの浴客の頃、後龍溪の下流なる後龍港開けてより編建・廣東地方より來住する者多く、遂に此地に蟠居せし平埔蕃を驅逐して開拓ぜり。爾後粤人によりて苗栗開かるるに及び、此地は其地方に到る要地をなし居たり。されど地は開拓に便ならざりしゆえ、其業に遑きとして進まず、繁榮を來たさずして我が領臺に及びたり。明治廿八年臺灣の我が版圖に歸するや直に地方制度開かれ、此地は臺中縣に屬し、苗栗支廳の管轄下にありしも、爾來幾度かの地方制度の變改に會ひて、其屬するところ變改せられしも、大正九年十月の全面的地方制度改正に際して、苗栗一堡中の六庄（現大字）は割かれて四湖庄の名稱下に統一され、新竹州苗栗郡下の一庄となれり。〔觀音廟〕大字高埔にあり。普通觀音佛祖の例祭日は、二・六・九・十一月の十日なるも本廟にありては、特に七月十五日を例祭日とし盛大なる祭典を催す。本尊泰祀の由來に就き、地方民の傳承に依れば、約九十年前、先住せし番人を、支那より移住せし本島人が、山地に臨遥して此地を開拓せし頃、當時病死者續出ぜり、依りて住民は或は其祟りなりとし、人心穩ならず、之が爲地主等相談の上、其安定を計る爲隣村より觀音佛を村の鎮護の爲迎へたり。然るに其後病者減じ、作物亦豊收となりしかば、村民これ觀音佛の靈驗なりとて大いに之を祀れりと云ふ。

【四湖庄】豊潤豊南州北港郡一街四庄中の一。北港郡の西部を占むる一庄にて、東は元長庄、西は豊潤海峡に面し、南は口湖・水林兩庄に、北は虎尾溪を隔てて虎尾郡海口庄に各々隣接す。管内は處々に丘陵を見る外概して平地なり。面積約八〇方粁。主なる産業は農業にして、住民の大半は之に從事す。甘藷・甘蔗は其産額最も多く、落花生・米・蔬菜之に次ぐ。また農業に附隨して畜産行はれ、牛・豚・山羊・鶏・家鴨等の飼養盛なり。庄の西部は海に面するも、冬季は地勢上季節風強く、多くの水産業者は、半農半漁の生活を營み、また一般に資金に乏しく幼稚の域を脱せず、概して漁業は不振にして其漁獲高も少し。庄下の處々に設けられたる貯水池兼養魚場よりは年々若干の淡水魚の漁獲あるも多くは庄下の需要に供せらる。管内交通の便概して良く、製糖會社の營業線は、南北に各一線を有し、大小の道路は四湖を中心として八達す。いづれも自動車の運行自由なり。大字四湖には、庄役場の所在地にして庄下産業・交通・文化の中心地をなし、公學校・國語講習所・青年團等の教育教化の施設備はる。また此地に在る參天宮は其沿革古く、參拜信仰する者多し。其西部なる大字飛沙も亦、庄下の一要地にして公學校を有す。海岸地帶なる大字三條嵜には、海水浴場の施設備はり、四湖よりは乗合自動車の便あり、夏季は遠近よりの浴客により賑ふ。本庄の地は、その沿革詳かならざれども、清の康熙二十二年領臺と共に、區建・廣東より移民來りて開拓するところと云はれ、諸羅縣先山堡に屬したりと云ふ。庄の南なる大字蔡厝は最も早く開拓せられたる地にして、此地より漸次西部なる飛沙・三條嵜より、中部羊稠厝・四湖方面拓かれたりと云ふ。光緒十四年、時の巡撫劉銘傳により全島府縣の廢合行はるるや尖山堡は雲林縣に屬せり。本島の我が版圖に歸するや本堡は先づ臺中縣の管轄に屬し、三十年には臺中縣北港郡務署に、三十四年には斗六廳に、また四十二年には嘉義廳に屬し居たるも、大正九年十月、全面的地方制度の改正に際會し、尖山堡中の十二庄（現大字）は割かれて、四湖庄なる名稱の下に一括せられ、臺南州北港郡の管轄に入れり。

シコー　至厚里　臺灣高雄州恒春郡の古地名。現在の恒春庄大字鹽埔仔社の區域なりしもの。漢人の開拓を行へるは光緒年間にして同治六年米國商船ローゲァ號難船し、社番に依る乘組員殺害事件を生じ、清國政府との間に所謂ローゲァ號事件を惹起せるは此地なり。

シコー　姑興（しこ）【姑興郡】朝鮮京畿道中部の郡。道管内三府二十郡の一。北は京城府に、東は廣州郡に、南は水原郡に、西北は金浦・富川の兩郡に、西南は海に面す。面積三五四方粁にして、道中の最小郡なり。城内丘陵脈ちにて東部に冠岳山（六二九米）、東南境に清溪山等あり。河川は安養川・良才川何れも北流して漢江に注ぎ、流域に沃野拓けて灌漑も便なり。農業を主生業とし米・麥・豆類・棉等の産多く、また園芸・梨等の果樹を栽培する者多し。工業は近年に至り安養に朝鮮織物會社の工場設けられ織機四三一臺を有し人絹織物の産出やや見るべきものある外、杞柳製品・酒類等あるも著しからず。海岸地方は漁業盛ばず、ただ製鹽はやや盛に行はれ、君子面に官營の天日製鹽田あり。鑛床各所に存し、近年君子面・秀岩面・新東面の諸鑛山より金・銀・亞鉛・タングステン等を採掘しつつあり。總督府鐵道京釜本線、郡中部を南北に貫き、軍浦・安養・姑興の各驛を設け、北は京城府、南は水原邑に近く、一等道路これと並走し、三等道路西部を走りて交通は比較的便なり。行政上、東面ほか七面に分ち、郡廳を京城府永登浦町に置く。本郡は新羅時代に穀果と稱し、のち姑興と稱ふ。李朝世祖に至り果川郡と合併して姑興郡となし、のち復た果川と分離せしが、大正三年府郡廃合に際し安山郡の大部及び果川郡と合併し、昭和十一年四月永登浦邑が京城府に編入せられ今日に至る。

【姑興】京釜本線の一驛（明治三十八年設置）。朝鮮京畿道姑興郡東面にあり。

シゴー　四郷

【四郷】愛知縣中島郡にありし村。明治三十四年本村は光堂村と合し光郷村となる。光郷村は同三十九年西島村・片原一色村・國分村と共に廢せられ、その區域と井長谷村の大字儀長とを以て新に明治村を置く。

【四郷村】三重縣伊勢國度會郡の東北部。宇治山田市と鳥羽町に挾まれ、東北は二見町に接す。北は大湊町に、西北は濱郷村に界し、東北の一端は鳥羽町と二見町との間に細く突入して僅かに伊勢海に面し、東南境は志摩郡加茂村に續く。南境に有名なる朝熊山（四七八米）聳え山嶺東西に連り北方へ傾斜す、東北部には二〇〇米內外の丘陵東西に延びて南部山地との間に五十鈴川の支流西流し、朝熊山麓と西隅の低き丘陵との間を東北流する五十鈴川に合す。其一分流は北境に沿ひて東に向ひ二見町を橫切りて二見浦の東方約〇・五粁にて海に入る。五十鈴川の沖積地には水田よく拓け米を多產し山地よりは木材を出し其他御殘材細工（神宮御殘材より製作）・蕃製品（匙・臥）等の特產あり。宇治山田市と鳥羽町とを通ずる街道中央の谷を東西に走り西部村境近く參宮街道南北に通ず。省線參宮線は西北境を東西に掠め北方約二粁に二見浦驛、西方約三粁に山田驛あり。また社線三重鐵道は東日野・西日野・清水橋・室山・伊勢八王子の五驛（清水橋驛は昭和三年、他は何れも大正五年設置）を置き交通便利なり。朝熊山は標高四七八米に過ぎざるも、山上に臨濟宗の名刹金剛證寺ありて著聞し、いまケーブル通じ容易に登山し得。寺門には有名なる萬金丹本舖あり。村內に月讀宮をはじめ皇大神宮の別宮及び攝末社の鎭座するもの多し。→朝熊山

〔朝熊社〕大字鹿海にあり。延喜式に列し、內宮の二十四攝社の一。祭神、櫻大刀自命・苔蟲神・朝熊の水の神。或は富士淺間の祭神木花開耶姫を祀るともいふ。社殿は朝熊川に面し奇石あり、櫻樹多く風景幽美。〔伊佐奈彌宮〕月讀宮の宮域內伊佐奈岐宮の西方に鎭座。皇大神宮十所別宮の一。祭神、伊弉冉尊。式內大社。例祭十月十九日。〔伊佐奈岐宮〕月讀宮の宮域內に鎭座。皇大神宮十所別宮の一。祭神伊弉諾尊。式內大社。例祭十月十九日。〔宇治山田神社〕大字北中村に鎭座。皇大神宮攝社。祭神山田姫命。倭姫命の祝ひ定むる所といふ。〔大土御祖神社〕皇大神宮攝社。祭神、大國玉命・水佐々良比古命・佐々良比賣命。倭姫命の祝ひ定め給へる社といふ。〔國津御祖神社〕大土御祖神社境內に鎭座。皇大神宮の攝社。祭神、宇治比賣命・田村比賣命。延喜大神宮式・神名式所載社。〔月讀宮〕大字北中村に鎭座。皇大神宮十所別宮の一。同別宮たる月讀荒御魂宮・伊佐奈岐宮・伊佐奈彌宮と同一の宮域にあり。祭神、月讀尊。創建年次詳ならざるも倭姫命の斎き奉りしものと傳へらる。式內大社。例祭、十月十九日。〔月讀荒御魂宮〕月讀宮の東方に鎭座。祭神、月讀尊荒御魂。皇大神宮十所別宮の一。式內大社。例祭十月十九日。〔倭姫宮〕大字楠部に鎭座。皇大神宮十所別宮の一。祭神、倭姫命。大正十二年創祀。例祭、十月二十五日。〔永松寺〕大字朝熊にあり。金剛證寺に屬す。慶長七年秋田城介安倍實季、蟄讀を蒙りて此に謫居し萬治二年卒す。林泉幽邃にして杜鵑花多し。〔金剛證寺〕大字朝熊にあり。臨濟宗南禪寺派。勝峯山兜率院と號す。當派別格寺にして俗に朝熊山を以て名高し。欽明天皇の朝僧曉臺勅に依りて創建。天長年間空海之を中興し密法修業の大道場となす。時に寺域東西廿一町、南北十四町、堂塔五十、子院四十九を具へきといふ。中世衰頽せしを東嶽之を再中興し禪林に改む。德川歷代將軍を始め諸武將の崇敬厚く寺運隆盛を極めしが、文化・明治の二度の炎上にて未だ舊觀に復せず。然れども依然として縣下の名巨刹たるを失はず。古來當寺を伊勢神宮の內院又は奧ノ院と稱し「伊勢へ參らば朝熊をかけよ朝熊かけねば片參宮」なる俚諺あり。現に二十餘の末寺を有す。本堂（摩尼殿）は桁行七間、梁間六間、單層四注造、柿葺にして、慶長十四年の棟札あり。形式手法總て桃山時代の精華を盡し國寶たり。虛空藏菩薩を本尊とし明星天子・雨寶童子を脇侍とす。その木造雨寶童子一軀は藤原初期の作と見られ、紙本着色九鬼嘉隆像（慶長十二年清韓贊）一幅・銅造雙鳳鏡一面・陶經筒（承安三年荒木田時盛造立の銘あり）一口・太刀一口と共に國寶に指定せらる。其他寺寶極めて多し。〔吞海院〕朝熊にあり。臨濟宗南禪寺派。金剛證寺の塔頭にして俗に奧の院と稱す。應永二十一年本寺中興開山東岳佛地禪師始めて此處に隱棲す。朝熊山を去る三〇〇米、憂見峯の東北麓にありて絕勝の地たり。〔徵古館〕倉田山にある歷史博物館。主として伊勢神宮に由緒ある寶物竝に我國文化の發達變遷を徵する各種の資料を集めて展觀に供す。

【四郷村】兵庫縣播磨國飾磨郡の東南部。姫路市の東南に隣り、東は印南郡別所村的形村に接す。市川の左岸に位し東部及び南部には分離丘陵あり、これ此地の一度沈降し市川其他河川の沖積土に依り埋められて埋殘りとなりしものなり。南境には麻生山（小富士山一八〇米）・仁壽山（一七五米）ありて播磨平野中に急聳し、若松簇生す。西部には市川、東部には八家川が何れも南に流れ、白濱町にて播磨灘に注ぐ。產業は農業主にして平野にては米產あり、播磨米として著はる。蔬菜栽培も盛なり。交通路は北部を舊山陽道通過し姫路宿に至り、省線山陽本線も亦これに並行し、別所村の御着驛に近し。此村は和名抄、飾磨郡三野郷の地なるべく、いま大字見野の地名あり。大字山脇の印鑰祠は神功皇后凱旋の折の鈴を祀ると云はる。明治三十六年明治天皇舞子行幸の砌、上鈴山にて大演習を御統監遊ばさる。

【四郷村】奈良縣大和國吉野郡の東部。上市町の東約一二粁。北は小川村・高見村に、東は三重縣飯南郡波瀨村・森村に、南より西にかけては川上村と接す。此地は紀伊山脈中に屬し、東境大臺ヶ原山地の延長部は伊勢海側と瀨戸內側との分水嶺をなす。此の山地は大體結晶片岩より成り、高見川の上流は大臺ヶ原山地に發源し西流す。此地は山間部のため農業はさして行はれず主として養蠶行はれ、木炭の產も少しとせず。交通は便ならず。此地に高さ四〇米、幅六米の和佐羅瀧あり。大字麥谷に良算上人苦行の地たる蔚岳あり。

【四郷村】和歌山縣紀伊國伊都郡の西北隅。葛城山脈の南斜面に位して紀ノ川支流四郷川に跨り、笠田町の北に隣り、東南は大谷村、東は妙寺町、西は那賀郡上名手村、北は山を隔てて大阪府に接し、西北は泉北郡南橫山村、東北は南河內郡高向村につづく。北境に三國山（八八六米）、西北隅に大石峯（八六一米）あり、山嶺北境より南方へ傾き、西境には成高山（八一〇米）あり、中央に谷ありて三國山より源流する四郷川西南流し約六粁先にて紀ノ川に合す。全村山地を占め木材・薪炭を產し、南部には蜜柑產地もあり。古來串柿の名產地として、その名關西に聞え、村內に數百年を經たる柿の古木も珍しからず。また棕櫚の晒葉は無類の上物と稱せらる。大阪府に通ずる道路の一は四郷川に沿ひて東北方に走り中央にて之と離れて西北方へ向ひ鍋谷峠を越えて北へ續き、一は東方より來り東境の城越を通りて東北部を西北に通じ三國山西方の七越峠（八三五米）を過ぎて大阪府に出づ。〔定福寺〕大字平にあり。眞言宗御室派。開基不詳。本堂は飛驒匠の建造といひ形狀異常、堂中用ひたる板樞は手斧削にして、表は遣瘤削なり。柱の古さこと千年以上、本尊觀音大士は行基の作といふ。

ジコー　慈光山　都幾山とも云ふ。關東山脈秩父山塊の西緣部に位する一峯。埼玉縣比企郡平村・大河村との境界に位す。西接は堂平山（八七六米）に連る。北方は荒川支流槻川谷に臨む。南側に慈光寺あり。社線東武鐵道東上線小川町驛より南方六粁に當り、山麓まで自動車の便あり。

シコーコー　史港坑　↓埔里街（臺灣臺中州能高郡）

シコーシヘー　死磺子坪硫黃山　臺灣臺北州基隆郡金山庄大字頂中股にある硫黃礦山。金山の西南方約八粁、大磺嘴山の北側盆地に位す。四方嶮ね斷崖にして僅に一面東北方に向ひて開く。一般地質は、變質せし安山岩層に蔽はれ、各所に白煙を噴揚し、熱泉の湧出また盛なり。硫質噴氣孔附近は有毒ガスにより空氣不良にして、往々人畜を窒息死に至らしむる事あり。死磺子坪なる地名は卽ちこれに基くものなるべし。現在小規模の採取施設ありて採取に從事す。其額大ならず。

シコク　四國

【四國地方】本州の西南に位する四國島と附近の島嶼より成る。北は瀨戸內海を隔てて中國と、東は紀伊水道を隔てて紀伊半島と相對し、西は豐後水道により九州と分れ、南は太平洋に臨む。阿波・讃岐・伊豫・土佐の四國、行政上は德島・香川・愛媛・高知の四縣に分る。〔地形〕地體構造上この地方は南日本の內外帶に跨る。この境界をなす中央線は極めて明瞭に直線的に走る。卽ち佐田岬の北邊より石鎚山脈の北側に沿ひ吉野川地溝の南邊を通過し東北東―東微北に走る。この線は地質的に結晶片岩と和泉砂岩を隔つる構造線にして白堊紀末期に於ける南日本內外帶の接合運動の際成生せしもの。所謂市川礫岩はこの時の結晶片岩中の斷層角礫岩なり。一般に中央線附近の和泉砂岩は大に擾亂を受く。中央線成生當時の地形は勿論現在は認められざるも洪積世の初期の大地變に際しこの線を境として內外帶に高度の差を來し地形上に著しき特色を與ふ。卽ち佐田岬の斷層海岸・石鎚斷層崖・吉野川地溝南線の斷層崖は中央線の近似的位置を示す。而して是等の斷層崖を作るものは結晶片岩にして北面し、北側の和泉砂岩はこの下に擬して低く存在す。內帶は和泉砂岩の外に花崗岩廣く露出し、中國に續きし地體なることを示す。讃岐半島にては讃岐山脈及び讃岐平野、高繩半島にては高繩山塊及び松山平野が主要地形をなす。外帶は北より南に結晶片岩・御荷鉾層・二疊石炭紀層・保羅層・上部白堊紀層が並れ順序に成層し帶狀構造を示す。是等の地層の境界は構造線にて北より南に向ふ衝上により境され鱗狀構造をなす。走向は概ね北東又は東北東を示し地形も之に從ひ大きこの方向の脈狀山地をなし球磨紀伊山脈の一部なる四國山脈に當る。四國山脈は脈狀の外に地質に無關係なる多數の地塊に分れ普通東部・中部・西部の三大地塊に區別す。中部地塊の東境は安藝・觀音寺線にて示され之に吉野川橫谷部が沿ひ、西境は須崎・小松線にて示さる。讃岐山脈は和泉砂岩と花崗岩より成る標式的地壘とす。撫瀨南東隅より大體東微北に走り鳴門海峽に斷絕す。和泉砂岩は南部大半を占め分水嶺をも越えて分布するも花崗岩は概ね北斜面の中腹以下を構成し、兩岩層の境界は斷層線をなす。この山脈は白堊紀直後に北方よりの壓迫により南の結晶片岩の山地に衝上せしも今日見る斷層地形の基礎は洪積世初期の運動によ

し安藤・西郷両全権の会談は決裂を宣し西山を主盟とする西国の軍隊と対峙した。この間東海・北陸・畿内・中国・四国・九州の諸藩は次々に官軍に参加し、東海・東山・北陸・山陰・山陽・南海・西海の諸道は官軍の支配下に入り、旧幕府の勢力は東国・奥羽・北海の諸藩に限られた。

慶応四年（一八六八年）三月十五日、官軍は江戸に進撃し、翌日江戸城を無血開城した。しかし、会津・庄内・長岡・仙台・米沢・盛岡・秋田・函館の諸藩は、新政府に対して、会津藩の処分の寛大を求めて、奥羽・北越の諸藩は、同盟を結んで、新政府に対抗した。

会津藩は、藩主松平容保が、京都守護職として、幕府の命を受けて、長州藩を中心とする尊王攘夷派と、激しく対立し、文久二年（一八六二年）以来、京都の治安を維持するために、新撰組を組織して、尊王攘夷派の志士を弾圧した。

慶応三年（一八六七年）十月、将軍徳川慶喜は、大政奉還を行ない、翌年一月、鳥羽・伏見の戦いに敗れ、江戸に帰って、恭順の意を表した。

会津藩は、藩主松平容保が、京都守護職として、幕府の命を受けて、長州藩を中心とする尊王攘夷派と、激しく対立し、文久二年（一八六二年）以来、京都の治安を維持するために、新撰組を組織して、尊王攘夷派の志士を弾圧した。

慶応三年（一八六七年）十月、将軍徳川慶喜は、大政奉還を行ない、翌年一月、鳥羽・伏見の戦いに敗れ、江戸に帰って、恭順の意を表した。

慶応四年（一八六八年）三月十五日、官軍は江戸に進撃し、翌日江戸城を無血開城した。しかし、会津・庄内・長岡・仙台・米沢・盛岡・秋田・函館の諸藩は、新政府に対して、会津藩の処分の寛大を求めて、奥羽・北越の諸藩は、同盟を結んで、新政府に対抗した。

この戦争は、官軍の勝利に終り、会津藩は、藩主松平容保が、会津若松城に籠城して、官軍と戦ったが、敗れて、降伏した。

会津藩の降伏は、慶応四年（一八六八年）九月二十二日であった。

会津藩の降伏は、慶応四年（一八六八年）九月二十二日であった。

この戦争は、官軍の勝利に終り、会津藩は、藩主松平容保が、会津若松城に籠城して、官軍と戦ったが、敗れて、降伏した。

会津藩の降伏は、慶応四年（一八六八年）九月二十二日であった。

三椏・楮も栽培され、柿・蜜柑の果樹も少からず。本縣は氣候の關係上、年二回米作の可能地あるも一般に耕地少く米の自給はならず。然し氣候を利用して野菜の栽培盛にして特に促成栽培が發達し胡瓜・茄子・西瓜・南瓜・里芋・トマト等の產著しく、近時メロンの產出をも見、土佐青物と稱し京阪市場に歡迎せらる。蜜柑・オーアル・レモン等の柑橘類、梨・桃・枇杷・柿の果實、楊梅また土佐の名產として知られ、茶の栽培も多し。香川縣は耕地の利用度極に發達し米・麥の產額多く、果樹・除蟲菊・桑樹・植木等を栽培し、小豆島には本邦にて珍らしきオリーブ樹の栽培を行ふ。(ロ)林業　山地が土地の大部分を占むるために林業に適する地域は頗る多し。西國山脈はその南北にて氣候に影響され、北側は氣候乾燥し地質も花崗岩質より成るを以て風化甚しく森林の生育に好適なら ず、加ふるに人口稠密、農耕地よく開けるを以て森林少きも、南側は季節風の影響にて溫暖多濕、樹木の生育に適し森林の地域廣し。香川縣を除き他の三縣には森林多く美林を持つ。殊に高知・愛媛兩縣に著し。德島縣那賀川上流の木頭地方・吉野川上流・高知縣安藝郡馬路村の魚梁瀬山・同長岡郡白髮山・愛媛縣の久万高原・面河川沿岸地方・南豫の大野ヶ原地方の如きは世に知らる。德島縣にては杉材の產多く、高知縣魚梁瀬よりは杉、白髮山よりは檜、愛媛縣久万高原地方よりは檜・杉並びに檜、南豫の大野ヶ原地方よりは檜の產出す。木炭の產多く、高知縣の木炭の如きは殊に多く、この外、德島縣吉野川沿岸、殊に美馬郡地方には竹林多く筍を出し、高知縣の西南なる幡多郡中筋川沿岸には杞柳を栽培し柳行李原料として移出す。近時に各縣とも森林の保護造林に努め松の造林は諸方に行はれ、香川縣のごときは樹脂を供給する佛蘭西松の栽培を企畫す。(ハ)水產業　北部は內海に臨み南部は外洋に面する故に生產物を異にす。即ち南部は暖流黑潮が流れ暖流性の魚族を產し、殊に氣溫の關係上暖地の海に產する珊瑚礁なも有す。之に反し北部の內海は水面に極限され一般に淺く平均僅に五〇米位の深度にすぎざるも魚族の產卵場に適し、內海棲息の魚類のみならず外洋產魚族の群來するもの多し。俗に人魚と稱する鯛・鰆・鰯・鯖・マナガツオ・鰈・烏賊を產す。故に內海は魚類の種類に富み海上は波浪靜穩なるため漁撈に便なるのみならず、沿岸には大都市多く、殊に阪神を近くに控ふるを以て魚類の需要多し。從つて內海に於ける漁業は早くより開け沿岸並びに內海諸島の住民は何れも漁業を行ひ、沿岸の魚市場に出す外に漁撈地より直接鮮魚のまま阪神市場に輸送すること多し。漁獲の多きは鰯・鯛にて鯛の如きは沿岸漁民の生活は一にこの魚の豐凶に據ると稱せらるる程なり。鯛漁期より少し遲れて鰆漁となる。鰆漁しと稱する刺網漁撈にて、內海各所に漁獲さる。鰯・鯖も產額多く、鰯は主に春季に入り來り、鯖は六・七月頃を最盛とし、鰯の漁獲も多し。外洋に面せる側は內海側と異り海岸は淺瀨少く、魚類は主に黑潮中に棲息するを以て遠洋漁業の性質を帶び漁船の如きも主に石油發動機を備ふ。主なる魚族に鰹・鰤・鮪・鯛・鰈・鯉・鰹・鰹・鰯とす。鰹は暖流に乘じて群來し春夏の際に產卵のため近海に集り、鰤も初夏の頃に鰹の後を追つて襲來す。なほ鰤は、土佐節に製せられ、土佐にては須崎・伊佐・清水の三町がその製造本場なるも、南豫の八幡濱・阿波の海部郡地方よりも產出す。鰤の如きも元來は外洋性の魚族なるも比較的沿岸に群來する性あり漁獲多く、殊に豐後水道より足摺崎・室戸崎を經、蒲生田崎に至る沿岸は絕好の漁場をなす。鯛も春季海岸に來游し德島縣板野郡沿岸にて漁獲す。柔魚も同所及び鳴門附近並びに伊豫の八幡濱に多く、鰯に製することも少からず。德島縣の勝浦・德島附近の神洲・津田・小松島には蝦の產多く乾蝦を製す。東北海岸には和布多し。淡水魚には鮎が諸川に產し那賀川・吉野川は知られ、德島縣勝浦郡小松島町附近には鰻、拂泊灣には牡蠣、海部灣沿岸並びに南伊海岸にては貽珠の養殖も行はる。四國沿岸には各種魚族の棲息に適し漁業は早く開け漁民も多く農業と同じく集約的の漁法を營み、近時遠洋漁業も行はる。香川縣にては東讃地方より朝鮮を始め太平洋方面に出漁する者多く、高知縣に三陳・北海道方面に出漁し、德島縣にては沿海漁業の閑散期を利用し朝鮮・豆濟島方面より長崎縣五島方面に出漁す。製鹽は殊にこの地方の特質にて、北部四國は乾燥地帶且つ內海の事とて海水は鹽分に富み、沿岸には遠淺廣く發達せるため早く製鹽業の發達を見、平安朝頃既に行はれ、讃岐志度の如き早く海士の傳說を有し、江戸時代には鹽田諸方に開け讃岐の坂出・丸亀・宇多津・詫間・仁尾・屋島・引田を始め、愛媛縣にては多喜濱・新居濱・波止濱、德島縣に最も多くその產高全國第一位を占め、四國全體に於ける製鹽高は全國製鹽高の半に近くに當る。(ニ)鑛業　地質の關係上單純にして四國山脈中に含有するのみ。南部四國には產出少く、いづれも北部四國に限られ、安質母尼の美晶の產にて知らる。伊豫市ノ川鑛山、水銀鑛辰砂を產する德島縣那賀郡の鑛山は今は產出少く、伊豫の佐田崎宮須本銅山を始め德島縣にも含銅硫化鐵鑛を產し、高遠・東山・久宗・持都・三好等の鑛山あり。小豆島に於て僅に露る第三紀層中よりは石炭を出すも著しからず。現今四國の鑛產は伊豫別子の銅山にて代表され、鑛石は四坂島及び香川縣の直島にて製錬す。鑛石以外の岩石には北部瀨戸內海諸島に火山質の岩石、安山岩を始め花崗岩に富み建築石材として良材を出す。小豆島の花崗岩・豐島の豐島石はよく知られ、又西國山脈を形成する和泉砂岩及び結晶片岩類も利用廣く和泉砂岩は迫發石として知られ、南豫宇和島港頭九島の石材も著はる。南部四國には石灰岩層廣く分布しセメント業起る。(ホ)工業　一般に恵まれざるも農產及び水產を原料とする工業は早くより行はれ、製紙・製鹽を始め讃岐の綿花・砂糖、阿波の製藍の如きも一時盛なりしが、製鹽を除きては今は衰へ昔日の觀なし。製紙(和紙)は四縣共に行はるるも高知・愛媛の兩縣は殊に盛なり。高知縣にては土佐・吾川・高岡の三郡に最盛にて伊野町(吾川郡)はその中心地、高知市も盛なり。主に農家の副業として製出するも伊野町・高知市にては大規模に製造す。愛媛縣にては東豫・中豫・南豫の地方に行はれ、松山市を始め大洲平野五十崎町(喜多郡)は中心地をなし、大洲半紙・南豫の泉貨紙など古來知らる。織物には愛媛縣の伊豫絣を最とし德島縣の綿鄕(阿波縞)、香川縣の保多織等知らる。伊豫絣は最も著しく松山市を始めその附近より盛出す。なほ今治市には綾綿布・綿ネル、八幡濱市の綾布、香川縣豐濱町(三豐郡)の木綿・服地、坂出・丸亀・高松邊の綿糸紡績、德島縣徳島市及び小松島町(勝浦郡)の紡績、鹽竈町(板野郡)和郡)の紡績、松山市の綿糸・綿布等あり。農產原料による工業には麥稈眞田・製粉・醬油・清酒醸造・素麺製造等あり。麥稈眞田は農家の副業として香川縣に多く、製粉業は麥の集散地たる讃岐の坂出町(綾歌郡)に開け、醬油及び素麺も香川縣に發達し殊に小豆島に盛なり。清酒は水質の好適地または米の集散地に發達し香川縣琴平町(仲多度郡)、德島縣の德島市・板野郡・那賀郡、高知縣佐川町(高岡郡)等は知らる。藁の利用として行はれ香川縣にては三豐郡地方、德島縣にては那賀・勝浦二郡の南方米產地及び板野郡地方に多し。近時は養蠶の發達と共に生糸業も起り煙草・茶の調製も盛なり。生糸は各縣共產出し德島・高知兩縣を最とし愛媛・香川これに次ぐ。德島縣にては吉野川地溝帶の池田・市場・川島・鴨島・德島市加茂名・小松島に盛にて縣下工產中第一位を占め、高知縣にては越智・山田・野市・安田・本山・池川の諸町に盛なり。愛媛縣にては大洲平野肱川沿岸に多く五十崎町を中心とし南豫の八幡濱・宇和島等に多く、香川縣にては木田郡を始め大川・三豐・香川・綾歌諸郡に產す。茶は高知・德島兩縣に多し。なほ工藝品に香川縣高松市には漆器塗・彫刻、丸亀市の團扇・團扇骨などあり。高知縣の本山町には地方產檜を原料とする檜笠・本山膳あり。鑛產原料による工業は少きもセメント製造と銅製錬あり。セメントは石灰石・粘土の關係上高知縣に興り、別子銅山の爲に起れる製錬場は內海島嶼に行はれ四坂島及び直島に置く。この外に陶磁器・煉瓦の製造も地方的に行はれ香川縣三豐郡觀音寺町地方の煉瓦及び土管瓶、高松市方面の陶器、高知縣安藝郡安藝町の瓦、愛媛縣越智郡菊間町の製瓦、同伊豫郡砥部町の陶磁器等知られ伊豫郡中より產する砥石も著はる。要するに四國の工業に別子に屬する製錬業を除き近代的大工業の發達は未だ盛ならず。然し人口稠密、勞働力を得るに便にして水力の利用にも適する所少からず、阪神の大市場を控へて地理的位置に惠まれ、近時北部にては近代的工業の發達を見つつあり。本地方は農產を主業とし未だ著しき製造品の產出なきため商業は活潑ならず、地方的域を脫せず。また第一種港灣高松、第二種港灣小松島・今治あるも對外的貿易も盛ならず。(交通)本地方は四周環海なるため本土との往來には海に依らざるを得ず。從つて交通は瀨戸內海によく發達す。本土との連絡には高松・宇野間の省線連絡船を始め瀨戸內海には大阪を起點として內海航路の船多く、大阪商船の別府航路の外、尼ヶ崎及び住友の汽船も各地に寄港す。外洋方面にも明治初年より海運の發達に留意され、今は大阪商船により阪神・高知・須崎間の定期航路が開け、土佐灣沿岸には土佐同盟汽船及び土佐沿岸汽船の兩社により營まれ、土佐沿岸汽船は沿岸を巡り更に九州と連絡し、德島縣にては德島灣及び小松島港より大阪商船・阿波共同汽船・德島繁榮組が就航して阪神と連絡しまた鹽竈港及び南方漁港をも連結す。從つて內陸交通は何れもこの汽船の寄航地に集合す。これに比し陸上の往來は不便にして僅に我來の陳路を修築するにすぎざりしも四國八十八箇所の遍歷により道路網の發達を助長し、近時自動車交通の發達に伴ひ異常に發達せり。特に自轉車の使用は非常に多く德島縣の如き每戸一臺の割合にして自動車も同縣に夙に用ひられ乘合自動車また各地を通ず。省營自動車にも西讃線・川池線・鹽土線・南豫線・大瀨線ありて各縣を結ぶ。鐵道の如きもその發達遲く且つ四國山脈東西に連るを以て南北を結ぶものは未だ充分なる發達なし。省線の東西に走るものには讃予線・德島線あり、南北に貫くものには讃岡線・大歩危小歩危を通ずる土讃線あり、香川・高知を結び、東海岸に高德線あり、やがては四國循環線も通ずるに至るべし。要するに本土に近くまた地形的に平地多き瀨戸內海沿岸に發達し、南部太平洋側は僅に自動車交通によりその不便を補ふ。然し高知市方面は昭和十年の土讃線の開通は高松市を經て阪神地方に時間的距離の短縮となり物資の移動活潑となる。高松市は阪神に近く海陸交通の要衝を占め宇野(岡

山縣）間の省線軌路は近時益々便を加へ、港灣の設備と相俟ち四國の玄關となり、また內海の沿岸各地よりは中國地方との間に各航路を設く。なほ香川縣の琴平詣を中心とする社線の發達あり。尙古へ近畿地方より四國へ渡るにはなるべく海路を避くるの結果淡路の南を通り阿波に渡りしものの如し。紀貫之が土佐に赴任の時もこの道を通りし事は阿波及び土佐に殘れる貫之の遺跡にて察するに足る。かく阿波が交通の衝に當りしが如く古代の國造が德島より大阪越を通りて讃岐に出でしものにて中古源氏の軍が平家を攻めしもこの道による。また高松城主生駒氏が始めて築城せしは引田にしてその後漸次西に向ひしことにても明かなり。（人口）人口は昭和十年の國勢調査によれば三三六萬人餘なり。四國山脈により地形が南北に分たれ、氣候風土が變化し、產業に差異を生じ延いて人口密度にも影響を及ぼせり。人口分布の狀態は南北にて著しき差異を示し人口の約三分の二は北部に住す。故に北部は人口密度高く南部は低し。德島縣は位置が京阪に近く吉野川下流には平地開け居住に適するため一般に密度高く、西南部地方を除けば吉野川下流の如きは人口密度一平方粁に二百人以上の多きに達す。高知縣は一平方粁一〇一人にして全國中にても稀なる人口稀薄を示し、土佐郡（一方粁四九人）・幡多郡（六七人）・安藝郡（七五人）に殊に甚し。之に反し北部は一帶に密度高く愛媛縣の南部四國山脈中に横はる上浮穴郡（五一人）を除けば二百人以上の地域多く四百人以上の所もあり。殊に香川縣の如きは稠密を極む。かく北部と南部とにては著しき差異あるも、これは居住に堪へざる山地の多きためにて平地にては何處も相當稠密なり。從つて住民は自然と他國に移動し出稼及び海外移住となる。岡山縣の藺草刈取期には藺刈人夫として香川縣より多數出稼し、養蠶時期には香川縣の讃岐山脈地方より德島縣の東部地方に出稼する者多く、德島縣那賀郡椿村大字椿泊の如きは、男は遠洋漁業に出で婦女子は出稼をなし娘達は必ず阪神地方に年季奉公に出る風習あり。また北海道・樺太方面及び海外に移住する者も少からず。高知縣の如きは殊に盛にて南米ブラジル・加奈陀・秘露・ボルネオ・メキシコ等に移住し、香川縣も南米に進出多し。都市も南部には發達遲きに反し北部には顯著なり。南部には僅に德島・高知の二市あるにすぎざるも北部にては愛媛縣にても松山・今治・宇和島・八幡濱・新居濱の五市、香川縣は地積狹きも高松・丸亀の二市を有す。然し都市の人口の最も多きは高知市にて、昭和十年度國勢調査によれば、人口一〇三四〇五人にて四國唯一の十萬都市ななし、德島（九七〇二一人）これに次ぎ、高松（八六八四〇人）・松山（八一九四〇人）・今治（五一六〇二人）・宇和島（五一二八〇人）・八幡濱（三〇五〇〇人）・丸亀（二九六一五人）・新居濱（五四〇〇人）またこれに次ぐ。なほ各縣の人口は德島・高知共に少きに反し都市の人口は大なり、之に反し香川縣は人口數多きに拘らず都市人口は少し。これに依れば德島・高知兩縣地方は人口の都市集中的傾向あり、香川縣の聚落の狀態は散居的なるを示す。（西田）

【沿革】 四國島古名を伊豫之二名島といふ。（紀の一書には伊豫洲に作る）漢土との交通により早く開けたる九州北部の倭人文化が、先づ伊豫より入りて其の名早く世に知られたりしが爲なるべし。之を二名之島といふは、中に香川山脈を挾みて南に阿波と土佐、北に讃岐と伊豫が二列になれるが故に、二列びの島の義なるべしと解せらる。古代帝都より此の島に通ずるには、紀伊より海を航して淡路を經由す。よりて四國と此の二國とを南海道の所管となす。アハヤは即ち阿波路にして、阿波に通ずる道中に當る國の義なり。現時四國は德島・香川・愛媛・高知の四縣、各其の一國を管し、紀伊は和歌山縣及び三重縣に、淡路は兵庫縣に屬するも、今は便宜淡路を四國に附して其の沿革を述ぶる事となす。四國四縣の名稱は、愛媛以外の三縣は他の普通に見る例と同じく、各縣廳所在の郡市名に基づくものなれども、ただひとり愛媛の名のみは例外にして、是は古事記に「此の島は身一つにして面四つあり、面毎に名あり、かれ伊豫の國を愛比賣と謂ひ、讃岐の國を飯依比古と謂ひ、粟の國を大宜都比賣と謂ひ、土左の國を建依別と謂ふ」とあるに取れるものなりとす。讃岐・伊豫・土佐三國の名義は不明なるも、阿波は古事記の文字の示す如く「粟」にして、太古に於ける穀食品の主要なるもの、其の別名の大宜都比賣また食物の大女神の義なり。讃岐の別名飯依比古も食物に關係あり。是等の地方は海を隔てて北に位する吉備（黍）の國と共に古く穀物生產地として知られたりしものならん。また伊豫の愛比賣は愛らしき女神、土佐の別名建依別は其の民俗の古來剛健なるを意味するものか。古語拾遺に、忌部氏の祖天宮命、天日鷲命の孫を率ゐて阿波國に穀及び麻の種を植う。其の裔今も彼の國にありて大嘗祭の際に木綿・麻布、其の他種々の物を貢すとあり、また、天宮命阿波の忌部を分ちて房總半島に植民す。其の忌部の居る所之を安房郡と名づくともあり。また讃岐にも天宮命の率ゐる手置帆負命の裔あり、矛竿を造り、毎年調庸の外に八百の竿を貢すともあり。阿讃兩國の古く忌部に因緣深き事を語れるなり。我が太古の遺物として著名なる銅鐸は、阿波に於て其の最も多數の發見地と發見數とを傳へ、其の分布は讃岐及び土佐に及ぶも、伊豫に於ては未だただ一箇の存在のみ學界に報告せられず。蓋し銅

鐸の分布は近畿を中心として其の四近に及べるものにして、淡路及び阿波には其の比較的古式に屬するもの多く、古く其の民族のここに蕃殖せしことを示す。兩も之に反して銅鐸の絕無なる伊豫及び其の隣國なる土佐・讃岐には、九州古代の倭人文化の遺物たる銅鉾・銅剣は多く發見せらるるも、阿波には極めて少數の外其の存在を見ず。蓋し當初近畿地方に起れりと思考せらるる銅鐸文化が、風に淡路を經て阿波に入り、やがて讃岐及び土佐にまでは蔓延せしも、未だ伊豫に入るに及ばざる中に此の文化は衰滅し、之に反して九州北部に起れる銅鉾銅剣の倭人文化は、先づ伊豫に入りて是れより讃岐及び土佐にまでは蔓延せしも、未だ多く阿波に於ては其の發達を見るに至らざるうちに、此の文化亦衰滅せしものと解せらる。兩も四國が伊豫を以て名とせるは、此の倭人文化の方が比較的おそく侵入して後までも其影響を及ぼせしが爲なるべし。降りて歷史時代に入りても、伊豫がなほ四國に於て主要なる地位を占めたりしことは、伊豫總領の名の古史に見ゆるによりて察せらる。これと國造の配置に就いて見るに、阿波には北部吉野川流域なる農業主體の粟國造と其南部池民を主體とする長國造あり。又讃岐には讃岐國造、土佐には都佐國造と其西部なる波多國造との名の傳へらるるに對して、伊豫には成武天皇の御宇伊余國造置かれしに、應神天皇の朝史に久味（久米郡）・小市（越智）・怒麻（野間）・風速（風早郡）の四國造置かれたり。蓋し之によりても其拓殖の進歩の他の諸國より比較的早かりし狀を察せしむるものあり。かくて中央政府の統治是等國造の上に及ぶや、太宰・國司を置いて之を統督す。太宰或は總領と稱し、伊豫總領の名の持統天皇朝に見ゆるものは、蓋し當時四國の都督府伊豫にありし事を示すものなりとす。四國は一大海島として沿岸には海人多く、殊に北方瀨戸內海には小豆島を初めとして大小の島嶼散布し、住民漁撈の業に長ず。仁德天皇紀に始めて後、淡路の野島（淡島）の海人の住吉仲皇子に篤して皇太子に反するあり。允恭天皇の御代には阿波の長邑の海人男狹磯、天皇の御饌に明石の海底に沈みて桃子大の眞珠を獲るあり。長邑は即ち古への長の國にして、阿波の那賀・海部二郡の地方に當り、近年まても海部沿岸住民の中には婦女が海產物を頭に戴きて遠國に行商する風習ありしが、近時交通發圖の發達によつて、其の頭に戴くの古風は漸く廢ぜられんとす。併しながら是は必ずしも淡路の野島と阿波の長邑とに限れるにあらず、讃岐・伊豫等の海岸住民亦同樣にして、殊に瀨戸內海に散布せる多數の島嶼の民衆は、其の地理上自然に漁撈の技に長ずる事によりて、平安朝時代以來、後の戰國時代に至るまで甚しき社會の混亂に乘じて所謂海賊となり、其の名史上に喧傳せられたり。中にも讃岐の鹽飽諸島、伊豫の忽那島等、其の他因島・來島・能島等最も著名なり。西海の海賊は東國の武士と同じく、社會の混亂と國家統治の進緩とに際し、其の地の利に適して自然に發達せし所にして、支那に於ける南船北馬の語に對して日本には東馬西船の實あり、海賊は畢竟海上の武士に外ならず。隨つて亂世に於ける海賊は、直ちに平和時代に於ける國家の海軍となり、德川幕府の海軍には海賊衆の稱ありき。彼の承平・天慶の際に於ける藤原純友の如きは、實に東國に於ける武士の首領平將門に對するものとして、是等海賊の勢力を利用せるもの、又後の平氏の如きも、瀨戸內海の海軍力を利用して餘喘を保ちたるものなりき。國造時代に於て伊豫國が最も發達したるべく察せらるる事情は上文既に之を觀察せし所なるが、其の後は讃岐の方面に於て著しき進歩を見たるものの如し。仁和年中管原道眞此の國の守として遣せる慟悔會の文に、「歸化す一萬三千佛、哀愍す二十八萬日」の語あり、又城山の碑を祭る文には、「八十九鄕二十萬日」とも見えて、孰れにしても當時の讃岐は他の地方に比して、面積の割合に人口の甚だ多かりし事を示す。稍後の和名抄に讃岐十一郡九十鄕の名を列するもの、鄕數に於てほぼ是と相當り、之を地域廣大なる阿波の四十六鄕、伊豫の七十二鄕、土佐の四十三鄕に比して讃岐が土地の狹小なる割合に、拓殖の進歩の著しかりし狀を見るべし。更に古く天平年間のものと思はるる阿波國戶籍計帳には、見戶五千六十八とあり、之を一鄕五十戶の制によりて百一鄕に相當す。然るに是に對して和名抄收むる所阿波國鄕數前記の如く僅に四十五、六、其の間著しき減少整理の跡を見る。或は前記五千六十八の戶數は、所謂房戶によりて數へたるものとして、五十戶一鄕の率を以て論ずべきにあらざるが如きも、特に阿波が平安朝に於て、墮落衰類最も甚しかりけん事は戶籍の實數によりてもほぼ推測せらるべきものあり。大體として貞觀以降に於ける藤原氏橫暴の結果は甚しく地方の政治を紊亂せしめ、民衆強欲の苦を嘗めて公民籍を放棄するもの甚だ多く、延喜年間に於ける三善清行の意見封事によるに、當時諸國の公民課役の過重を忌避して、出家の手段によりて戶籍より脫出する者甚だ多かりし狀を述べ、今天下の人口三分の二は禿首なりとまで云へり。而して之を延喜八年の周防國玖珂郡の戶籍斷簡に見るに、課役負擔の義務ある男子八十八人に對して女子二百四十八人、即ち男子の約三分の二が戶籍より脫れたるものとして、正に清行言ふ所に相當するを見るなり。延喜二年の阿波國板野郡の戶籍斷簡に就いて之を見るに、男子六十七人に對して女子四百八十三人、即ち

に國を奪はれ、由利一郡之に代りて資盛の手に渡り、次で二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以

	今	城	山	城	谷	宮	所	在	郡
一	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
六	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
七	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
八	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
九	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
一〇	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
一一	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
一二	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
一三	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
一四	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
一五	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
一六	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
一七	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
一八	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
一九	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二〇	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二一	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二二	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二三	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二四	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二五	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二六	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二七	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二八	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
二九	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三〇	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三一	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三二	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三三	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三四	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三五	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三六	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三七	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三八	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
三九	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四〇	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四一	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四二	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四三	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四四	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四五	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四六	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四七	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四八	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
四九	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五〇	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五一	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五二	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五三	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五四	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五五	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五六	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五七	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五八	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡
五九	春	宮	山	城	古	古	所	在	郡

國を奪はれ、由利一郡之に代りて資盛の手に渡り、次で二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以て子孫繁昌の地、同郡の地頭職に補せられ、本庄十七郎時中新田義貞の鎌倉攻に加はるまで數百年間、代々此地に住し、全國二十貫を以

三〇番	安樂寺	百々山	新義眞言宗豐山派	同 高知市江ノ口
三一番	竹林寺	五臺山	新義眞言宗智山派	同 長岡郡五臺山村
三二番	禪師峯寺	八葉山	新義眞言宗豐山派	同 同 十市村
三三番	雪蹊寺	小林山	臨濟宗妙心寺派	同 吾川郡長濱町
三四番	種間寺	本尾山	新義眞言宗豐山派	同 同 秋山村
三五番	清瀧寺	醫王山	新義眞言宗豐山派	同 高岡郡高岡町
三六番	青龍寺	獨鈷山	新義眞言宗豐山派	同 同 宇佐町大字龍
三七番	岩本寺	藤井山	新義眞言宗智山派	同 同 窪川町大字窪川
三八番	金剛福寺	蹉跎山	新義眞言宗豐山派	同 幡多郡清水町大字伊佐
三九番	延光寺	赤龜山	新義眞言宗智山派	同 同 平田村大字中山
四〇番	觀自在寺	平城山	古義眞言宗	愛媛縣南宇和郡御莊町大字平城
四一番	龍光寺	稻荷山	古義眞言宗	同 北宇和郡成妙村大字戸雁
四二番	佛木寺	一理山	古義眞言宗	同 同 同 大字則
四三番	明石寺	源光山	天台宗寺門派	同 東宇和郡田之筋村大字明石
四四番	大寶寺	菅生山	新義眞言宗豐山派	同 上浮穴郡久万町大字菅生
四五番	岩屋寺	海岸山	新義眞言宗豐山派	同 同 仕七川村大字七鳥
四六番	淨瑠璃寺	醫王山	新義眞言宗豐山派	同 溫泉郡坂本村大字淨瑠璃寺
四七番	八坂寺	熊野山	眞言宗醍醐派	同 同 同 同
四八番	西林寺	清滝山	新義眞言宗豐山派	同 同 浮穴村大字高井
四九番	淨土寺	西林山	新義眞言宗豐山派	同 同 同 大字鷹子
五〇番	繁多寺	東山	新義眞言宗豐山派	同 同 桑原村大字畑寺
五一番	石手寺	熊野山	新義眞言宗豐山派	同 同 道後湯ノ町大字石手
五二番	太山寺	瀧雲山	新義眞言宗智山派	同 同 和氣村大字太山寺
五三番	圓明寺	須賀山	新義眞言宗智山派	同 同 同 大字和氣濱
五四番	延明寺	近見山	新義眞言宗豐山派	同 越智郡乃万村大字阿方
五五番	南光坊	大積山	古義眞言宗	同 今治市大字別宮
五六番	泰山寺	金剛山	眞言宗醍醐派	同 越智郡日高村大字小泉
五七番	榮福寺	府頭山	古義眞言宗	同 同 清水村大字五十嵐
五八番	仙遊寺	作禮山	古義眞言宗	同 同 鴨部村大字別所
五九番	國分寺	金光山	眞言律宗	同 同 櫻井町大字國分

六〇番	橫峯寺	石鐵山	古義眞言宗	愛媛縣周桑郡千足山村
六一番	香園寺	栴檀山	古義眞言宗	同 同 小松町大字南川
六二番	寶壽寺	天養山	古義眞言宗	同 同 同 大字新屋敷
六三番	吉祥寺	密教山	眞言宗東寺派	同 新居郡氷見町
六四番	前神寺	石鐵山	古義眞言宗	同 同 神戸村大字洲ノ内
六五番	三角寺	由靈山	古義眞言宗	同 宇摩郡金田村大字三角寺
六六番	雲邊寺	巨鼇山	古義眞言宗	德島縣三好郡佐馬地村
六七番	大興寺	小松尾山	古義眞言宗	香川縣三豐郡辻村
六八番	琴彈八幡	（觀音寺内）	古義眞言宗	同 同 觀音寺町
六九番	觀音寺	七寶山	古義眞言宗	同 同 同
七〇番	本山寺	七寶山	古義眞言宗	香川縣三豐郡本山村大字寺家
七一番	彌谷寺	劍五山	眞言宗善通寺派	同 同 大見村
七二番	曼荼羅寺	我拜師山	眞言宗善通寺派	同 仲多度郡吉原村
七三番	出釋迦寺	我拜師山	眞言宗善通寺派	同 同 同大字吉原
七四番	甲山寺	醫王山	眞言宗善通寺派	同 同 筆岡村大字弘田
七五番	善通寺	五岳山	眞言宗善通寺派	同 同 善通寺町
七六番	金倉寺	鷄足山	天台宗寺門派	同 同 龍川村大字金藏寺
七七番	道隆寺	桑田山	古義眞言宗	同 同 豐原村大字北鴨
七八番	鄕照寺	佛光山	時宗	同 綾歌郡宇多津町
七九番	高照院	金花山	古義眞言宗	同 同 坂出町
八〇番	國分寺	白牛山	古義眞言宗	同 同 端岡村大字國分
八一番	白峯寺	綾松山	古義眞言宗	同 同 松山村大字青海
八二番	根香寺	青峯山	天台宗寺門派	同 香川郡下笠井村大字中山
八三番	一宮寺	神毫山	古義眞言宗	同 同 一宮村大字一宮
八四番	屋島寺	南面山	古義眞言宗	同 木田郡屋島町
八五番	八栗寺	五劍山	古義眞言宗	同 同 牟禮村大字牟禮
八六番	志度寺	補陀落山	古義眞言宗	同 大川郡志度町大字志度
八七番	長尾寺	補陀落山	天台宗寺門派	同 同 長尾町大字長尾西
八八番	大窪寺	醫王山	古義眞言宗	同 同 多和村

【四國山脈】 四國の中央部を略々東西に走る脊梁山脈。東西約二五〇粁、南北五〇粁。北は西南日本を内外兩帶に分つ中央構造線に沿うて讃岐山脈・高繩山塊と斷層崖により境す。南は越智・高知構造線及びその延長線により室戸三角地塊・四萬十川流域地と境す。中央部は北に燧灘、南は土佐灣に對し、斷層海岸平野を以て海に臨み、東は紀伊水道に、西は伊豫灘・豐豫海峽に沒す。基盤岩石は結晶片岩類、秩父古生層が北より南に帶狀に排列し、西方山頂に石槌山第三紀層及び噴出岩が結晶片岩層を被覆す。高度は東に劍山、西に石槌山高く聳え、中央部に鞍部低地を作る。この山脈は安藝・觀音寺線以東の劍山脈を主とする東部山地、東部山地の西に連り須崎・小松線の石槌山脈に屬する中部山地。中部山地の連續なるこの以西の西部山地に區分せらるるも、便宜上、結晶片岩層と古生層との境界により、石槌山脈と劍山脈とに分つ。石槌山脈は石槌山(一九二一米)を主峰とし、その西に二ノ森(一九三〇米)・堂ヶ森(一六九〇米)・青瀧(一三〇四米)・皿嶺(一二七一米)連り、西方に向ひて漸次低下し、松山平野の南緣に階段斷層を形成す。牛ノ峯(八九六米)より以西は伊豫灘斷層海岸を成し、遂に佐田岬の尖端に於て海に沒す。石槌山より東は吉野川の支流銅山川によりて赤星山(一四五四米)連山と工石山塊とに分たる。赤星山連山は西に於て、千六七百米餘の平頂面を有し、東に於ては水波峯附近より八百米餘の平頂面を有す。工石山塊は石槌山脈の主脈にして千五百米餘の平頂面を有し、東は侵蝕谷たる吉野川橫谷の大步危・小步危の峽谷となる。この侵蝕谷の東に、中津山(一四四七米)、西に國見山(一四〇九米)・友内山(一〇七三米)・奥野山(一一六四米)等あり、德島市の南に漸低し、北側は吉野川地溝帶を俯瞰す。石槌山脈と劍山脈との境界は、西より八幡濱・大洲・小田川・露峯川・池川・日比原・地藏寺川・祖谷川・穴吹川・鮎喰川・園瀬川を以て境せられ、大洲・廣田・久萬・土居・本山・祖谷等の山間盆地あり。この南にある劍山脈は、主峯劍山(一九五五米)より東へ一ノ森(一八八〇米)・天神丸(一六八二米)・高城山(一六三三米)と漸次低下し那賀川の北に連る。本山盆地の南に梶ヶ森(一四〇〇米)・杖立山(一一三三米)・國見山・笹ヶ峯の諸峯及び穴内川橫谷あり。上八川・土居附近にては石槌山脈の雨ヶ森(一三九〇米)斷層崖により南に二〇〇―三〇〇米程低下す。更に西に仁淀川の上流面河川峽谷あり、次に笠取山(一五六二米)斷層崖北面し久萬盆地に臨み、同斷層崖頂に大川嶺・雨霧山・大野ヶ原等の平坦面ありて、順次西に肱川橫谷・多田・卯之町盆地と低減し宇和海に入る。これ等の山地は間歇的に隆起せるものにて、山腹平坦面各地に散在す。以上の如く、嶮峻なる山岳が四國全島を南北に二分せるを以て、その南北に於ける地理的現象は特に注目せらる。冬は北風、夏は南風の卓越せる該地方にては雨量・氣溫に影響多く、瀨戸内にては一年の雨量千四五百粍に過ぎざるも、南側にては二千五百乃至三千粍にも及び、山脈中にては二千粍内外にして、一年平均氣溫は十五六度なり。

【四國水力電氣線】 私設鐵道。香川縣北部にあり。高松市中野町の公園前驛より起り市内を南に走り、市の東北端より市外に出で、屋島登山口驛・八栗驛等を經て木田郡北邊を橫斷、大川郡に入りて志度町の志度驛に通ず。全長一四・四粁、明治四十四年十一月に營業を開始し、大正四年に瓦町驛より公園前迄延長す。

ジコク 地谷面 朝鮮忠清南道瑞山郡の北部にありて牛島及び鳥嶼部より成る。郡邑瑞山の北一〇粁。東は地谷灣を隔て大御芝面及び聖淵面に相對し、北は大山面に接し、西は加露林灣を隔てて聖淵面と相對し、南は八峰面及び聖淵面の西部に各相隣接す。南部は丘陵起伏するも北するに從ひ、漸次平坦度を增す。沿海は遠淺にして干潮時には淺灘を露出し舟楫の便を缺く。產物は米・大麥・大小豆を始め、栗・馬鈴薯等あり。近海は鰈・貝類等を產す。道路は南方瑞山邑より北方大山面に通ずる路線は稍良好なるも、其他は改修充分ならずして車を通ぜず。聚落は海岸に多く分布す。

ジコク 寺谷面 朝鮮忠清南道公州郡の西北部。公州邑の西北方一五粁。東南は牛城面、東は正安面、北西は新上面、西南は新下面に各隣接す。車嶺山脈中に位置し、北境に國師峰(五九一米)・金鷄山(五七五米)、西境には廣德山(九六一米)、東境には武盛山(六一四米)等四周山地を以て圍繞し、中央部に南北に狹長なる縱谷ありて寺谷川其間を灌漑し耕地橫はる。住民は主として農業に從事し、產物には米・大麥・大豆其他雜穀、綿花・煙草等あり。公州より來る二等道路は面の南部を東西に橫斷し、西方洪城に通じ乘合自動車の便あり。其他は何れも等外路線にして、嶮坂多く、交通運輸便ならず。聚落は谷底平地に分布し、其主なるものに北より東海里・達宗里・富谷里・雲岩里・會鶴里・佳橋里・海月里・新水里等あり。雲岩里に麻谷寺等あり。〔麻谷寺〕朝鮮三十一本山の一。忠清南道各寺院の大本山にして、また本道第一の巨刹たり。唐の貞觀十七年(一三〇三年)慈藏律師の開基に係り、堂宇の主なるものは大雄殿・大光寶殿・應眞殿・靈山殿・梅花堂寺にして、他に十數個の堂塔立つ。特に大光寶殿の前庭にある石造多寶塔は開基の際の建立にして、尙ほ青銅製香爐の寺寶と共に世に著はる。寺域は山を負ひ、谷に臨み、幽邃の境にして清遊する者多し。

ジゴク 地獄 【地獄】 千島列島の一なる得撫島の北東

側に位する二重火山。西南方に紗樂山・赤山・得撫富士の諸峯聳え立つ。南東方は沼川の上流を隔てて大平山對峙す。東側より赤崩川、西側より瀧川發し、いづれも北流して鐘灣に注ぐ。北稜は礒鼻となりて海に沒す。

【地獄】→長陽村(熊本縣阿蘇郡)

ジゴクダニ 地獄谷 →平穏村(長野縣)

ジゴジ 慈根寺山 東京府南多摩郡元八王子村にある山。天正の初め北條氏康の二子氏照の築きし舊八王子城のありし所。慈根寺といふは、延喜の昔、八王子權現を此山に勧請し別當を神護寺といひ後には慈根寺と書くに至りしによると傳ふ。氏照卽ち八王子權現を鎭守とし、その城を八王子城と名づけしもの。

ジゴゼン 地御前村 廣島縣安藝國佐伯郡の東部海岸にあり、嚴島に對す。廿日市町の西南約一・五粁にあり、それと宮内村を挾み、北及び西は宮内村に、南は大野村に界す。面積四・五二方粁の小村。東岸は東北より西南の方向に走る斷層により沈降して生ぜし廣島灣の一部を占め海岸に並行して二〇〇—三〇〇米の山地あり、西・南に高く北に傾斜して僅の低地を開く、海岸及びその低地に水田拓けて米を產す。海岸はまた牡蠣の養殖盛に行はる。省線山陽本線及び山陽道は海岸を通過し、又廣島市と宮島を連絡する社線廣島ガス電軌は道路に交錯しつつ通る。宇地御前村の海岸より嚴島へ渡る便船あり。村の人口は年々増加の傾向を辿る。嚴島神社の外宮、地御前神社あり、村名これに因む。もとは宮内村をも含みしが、のちに分れて二村となる。〔地御前神社〕大字南町に鎭座。官幣中社嚴島神社。攝社。祭神田心姬命・湍津姬命・市杵島姬命・天照大御神外二神。創立年代詳かならねど、推古天皇の御宇嚴島神社と同時に創立せらるともいふ。大正四年獨立神社を停め、舊の如く嚴島神社攝社に復す。

シコタン 色丹 【色丹島】北海道根室支廳色丹郡の主島。東北より西南に長く二八粁、幅平均一〇粁の長方形を呈し、東北端にある斜古丹山(四一三米)を最高とせるも、島内到る處に三〇〇米内外の丘陵散在し平地は甚だ乏しく、河川も見るべきものなし。沈降性海岸の特色にて、大島・小島・鴨島等分離し小出入頗る多く、南岸の稻茂尻灣・松ヶ濱灣・西岸の能登呂灣、北岸の穴澗灣、また古丹港・斜古丹港は代表的なるものにて、その灣頭に小聚落發達し、斜古丹港頭の斜古丹を首聚落とす。耕地は僅に約二ヘクタールの畑あるに過ぎず。住民の主生業は漁業にして、近海は昆布・若布・帆立貝等多く、鮪漁・捕鯨の一中心なり。島内には道路と見るべきものを缺き、島外とは北海道廳命令航路根室色丹線及び函館擇捉線が各月三日斜古丹に運航す。島は高山性にして高き山嶺々に存し、山地には高山植物なる石楠・厖紅蘭等あり。其他に同島獨特の色丹松(唐松・落松ともいふ)と稱する一種の落葉松あり。幹約六〇—九〇糎、枝葉細小にて静色を呈し風趣云ふべからず。盆栽として愛玩に適し、從つて伐採多ければ之を禁じ營林區支所其監督に當る。色丹は蝦夷語のシイーコタンにして「大なる村」・「最も良き村」・「眞の村」等の意なりと。本島は往時、志發・水晶・多樂島の諸島と等しく根室國花咲郡に屬し、東蝦夷と稱され志古丹または支古丹と書せり。文化三年幕府の直轄となり、安政二年仙臺藩の警衛地となる。明治二年十二月、東京市芝區增上寺の寺領となり、同三年德島藩士稻田邦植の支配に轉じ更に同五年開拓使根室支廳の管轄に歸し、同十五年根室縣に屬す。超えて明治十八年十一月、花咲郡より分離、千島國に編入せられ色丹郡と稱せらるるに至れり。明治二十年戶長役場設置、大正十二年二級町村制を布き、昭和八年斜古丹村を色丹村と改稱す。いま一島一郡一村なり。字シャコタンは本島樞要の地にして、明治九年四月、外國密獵船取締のため船改所設置され、開拓使根室支廳及び根室縣勸業課員出張して密獵取締、產業獎勵等に關する事務を取りし所、いま色丹村役場・色丹郵便局・斜古丹驛遞所等あり。之より先、明治十七年、千島の各島に分散せるアイヌを本島に移住せしめ之にその種族保護を加ふ。

【色丹郡】→色丹島(北海道)

【色丹村】→色丹島(北海道)

シコツ 色都島 筑紫の古地名。紀聖武天皇の天平十二年紀に、筑紫にありて叛きたる藤原廣嗣が戰敗れて値嘉島(今の五島列島の内)より船出し、西航四日、朝鮮の南岸の耽羅島(今の濟州島)に近づきし頃、風卒かに變りて東に吹き戻され等保値駕島の色都島に着くと見ゆ。而して同書に廣嗣の捕へられたる處を値嘉島の長野村とあり。色都島と長野村は同一所なるか將た異所なるかは審かならず。等保値駕島は今の福江島なるべければ、色都島は其地明らかならず。想ふに福江島附近の一小島を稱せしものならんか。後考を俟つ。

シコツ 支笏 【支笏火山】北海道石狩支廳千歲郡にある火山。支笏湖周邊に存在せる同湖陷沒前の火山地域の總稱。基底は時代不詳の頁岩・砂岩・粘土等より成る第三紀層。噴出物は熔岩・浮石・泥流等なり。熔岩は各處より噴出し、シュシモラップ山(含石英複輝石安山岩)・キムモラップ山(含石英普通輝石安山岩)・シリセツナイ火山(含角閃石普通輝石石英安山岩)・樽山(含角閃石石英複輝石安山岩)・タプコプ山(含石英複輝石安山岩)等の火山體を形成す。これらのほかになほ支笏湖邊山地の一部を形成する變朽安山岩見らる。浮石(曹灰長石、亞灰長石)は、湖の北西山地に分布せるも熔岩との關係は詳ならず。泥流は白老臺地より社臺・苫小牧附近に迄分布し、支笏湖を中心として南東に流下せるもの。支笏湖はこれらの火山地域内に生ぜし陷落湖盆なり。

【支笏湖】北海道膽振國石狩支廳千歲郡にある大カルデラ湖。圓形の一大カルデラ環壁上に惠庭・風不死・樽前の三火山噴出しカルデラを埋めし故、湖盆の形は鼓形となる。高度二四八米。湖岸線延長四〇・九八粁。面積七六・一八平方粁。岸より甚だ急斜し三〇〇米の等深線は廣大なる面積を占む。最大深度三六三米に達し北海道第一、日本第二の深湖にしてこの底は海面下一一五米にあり、噴火灣の海底とほぼ同じ水準にあり。西方よりビブイ川注入し東より千歲川に排水す。千歲川には四箇の發電所あり、湖水は此貯水池となる故人工的に調節され、從つて水位の年較差二米に達し、湖岸は波浪の爲崩壞しつつあり。水色濃藍(三號)、透明度二五米に達することあり。水温二〇〇米以深年中三・六度を保ち、日本最低なり。冬季も二・五度を降らず、結氷は稀有にして洞爺湖と共に本邦最北の不凍湖なり。夏季水温は表面二〇度となり一〇米附近に躍層あり。湖水は微アルカリ性にして酸素は深層迄飽和す。固形物は一立中一五〇瓱に達す。プランクトンは赤色のアイアブトマス多く、ヒメマスの餌料となる。底棲動物は量少く、イトミミズ・揺蚊タニタルススを主とす。魚類はアメマス・ヒメマス・ニジマスにしてアメマス以外は移植したるものなり。殊にヒメマスは阿寒湖より移植せられしものにして此湖より十和田湖その他内地湖沼に配給せらる。漁業は餘り盛ならず遊漁行はる。湖沼標式は調和貧榮養型なり。湖沼の利用は發電・遊覽・木材の運搬等にて觀光地としては風光稍單調なり。

シサ 只沙面 朝鮮全羅北道任實郡の東部。北は聖壽面、西は屯南面、東は長水郡山西面、南は南原郡德果面に各相隣接す。北境に靈峰(四三〇米)の聳ゆる外は著しきものなく、南方に向ひ漸次低夷となる。產物は米・大麥・大豆其他雜穀・煙草・蜂蜜等にして特に大豆は市場最も聲價高し。位置中央より偏在せるを以て道路の改修未だ行はれず交通便ならず。聚落の主なるものは圓山里・琴坪里・寧川里・芳磎里等にして面事務所を芳磎里に置く。

シサ 志佐町 長崎縣肥前國北松浦郡の北海岸。志佐川の河口に跨る。西は御厨村に接し南は上志佐村に隣り東は調川村に界す。面積八・九八方粁。東西の兩部に小丘陵、中部に低地ありて志佐川北流す。西北岸にも小低地あり。西方海岸は稍屈曲多き岩石海岸にて逹綱崎あり、志佐河口より東は平直海岸をなし、僅かに柏崎の小突出あるのみ。低地には水田多く米を產し、また鹿爪炭礦あり。街道北岸に沿ひ之より分岐する一道中央低地に沿ひて南方へ向ふ。省線伊萬里線は村内を走り志佐驛(昭和八年設置)を置く。此地古くは上志佐村・調川村と共に志佐と總稱せらる。海東諸國記に下松浦志佐壹岐守源義とあるは平戶邑主肥前守源義と同人か。而して松浦氏は始め此地に住せしものにや。明治四年廢藩置縣と共に平戶縣に屬せしも、同年長崎縣に入り、明治十五年志佐・調川の兩村を併合し、同二十二年町村制施行に際し調川村を分離し、大正十年町村制施行す。〔淀姬神社〕大字浦免に鎭座。鄕社。祭神、豫等比咩命・豐姬命・大足彥忍代別天皇。大足彥忍代別天皇は景行天皇の御事にて、此地は天皇九州御巡幸の砌、假宮を建てて久しく坐しし所なるを以て、早くより天皇を奉齋せるに係ると傳ふ。また豫等比咩命は神功皇后の御妹なり、欽明天皇二十四年の鎭座といふ。領主松浦氏の崇敬あり、黑印領一石五升を寄せらる。例祭陰曆九月二十六日。〔住吉神社の公孫樹〕鳥居前の縣道に沿ひてあり、枝條欝蒼として人家の屋根まで達す。今より百三十五年前寛政四年附近大火の際、中身以上を燒失し、のち殘株より新に發芽して現今の如く西方へ分枝、九本を出して繁茂すといふ。元來公孫樹は發育旺盛にして其の特質杉・檜の如く癖れ叢立的なるに本樹は前記の如く中身以上燒失したるためかかる變態なる成育を遂げしものと思はる。

シサイ 市西村 千葉縣上總國市原郡の北部。養老川の東岸にあり。北は市原村、西は海上村、南は養老村、東は鶴津村と隣す。東半は丘陵地にて森林あり。西半は養老川流域平野の一部にて水田多し。從つて村民の主生業は農業にして米產多し。縣道は西部を縱貫し社線小湊鐵道線また之に沿ひ、村内北部に海士有木驛(大正十四年設置)・上總三又驛(昭和七年設置)を置く。此地は和名抄、市原郡海部鄕の内にして、近世市西庄と稱し、大字大坪のみ海保庄と稱せり。蓋し村名は庄名の遺稱なるべし。維新前、旗本の鈴木・小栗・名田・永井・柳原・川口・重野・水野氏等の采地たり。〔有木城〕大字海士有木にあり。今は田圃山林にして其形跡を存せざれども地名に本城・中城・城ノ下・堀ノ内・塔の下等の舊稱を有す。蓋し其地城址たり。往時、二階堂實綱これに居り當時は蟻木城と稱せり。天文・天正の亂の頃に實綱此處に討死せりと。〔建市神社〕大字武士に鎭座。鄕社。祭神。武甕槌命・大宮姬命。創立年代詳かならずと雖も、三代實錄に、位階陞敍のこと見ゆ。もと本村鹿島山の麓にありしを後今の地に遷し奉れりといふ。中古以來、俗間本社を盗人の守護神と稱せしより賽者漸く絕え絕えとなりきと傳

ふ。社地高丘に位し、茂樹祠を繞る。例祭、陰暦九月十九日。〔圓藥寺〕山倉にあり。天台宗。醫王山東光院と號す。和銅二年春、山中の一枯木夜々光を放ちしに里人怖れて近づかず。行基此地に巡錫し、此枯木を以て藥師佛を刻し近傍の岩窟中に置き去る。里人尋ねて此像を得、堂宇を建立して之を安置すといふ。黴毒を患ふ里人の參拜常に絕えず。

シサカ　四阪島　愛媛縣越智郡にある島。新居濱市の沖合約一八粁、燧灘中央にあり。宮窪村に屬す。家ノ島・三ノ島・明神島・鼠島の四島より成りこれを四坂島といふ。今は家ノ島と三ノ島は霞にて埋立て一續きとなる。もとは全く無人島にて鎖國時期の見張所に利用せられしにすぎず。新居濱市惣開に於ける製錬所の煙害問題解決のため住友家はこの島を買收して家ノ島に製錬所を置き三ノ島に舍宅を設け、明治三十八年一月より製錬作業全部を本島で營むこととなる。現今は別子銅山の銅鑛を新居濱より每日三回四十噸積の被曳船にて運び、ここにて製錬し含金銅粗銅とし、再び新居濱の電氣粗銅工場に送る。住宅地となれる三ノ島は平地に乏しく最高點一一二米の山島なるも、此山地を開き階段狀に屋敷を設け道路をつくり住宅を構へたり。又この最高點に四阪島測候所（昭和十年度平均氣溫一五・四度、最高三五・二度（八月四日）、最低零下一・五度（二月七日）、降水量一二九五粍）あり。この近くに住友家經營の小學校あり。飲料水は全く湧出せざるも他の生活必需品と共に每日新居濱より運ばる。三ノ島の西方にある鼠島は無人島にて火葬場の設あり。三ノ島の北方にある明神島は四阪島中最も大きく大部分は森林に蔽はるるも、畑地を拓き野菜類を栽培し野菜供給地となる。

ジサク　自作　朝鮮鐵道局滿浦本線の一驛（昭和八年設置）。朝鮮平安道价川郡北面にあり。

シサワ　宍禾郡　→宍粟郡（兵庫縣

シサワ　宍粟　岡山縣吉備郡池田村の大字。省線伯備線の宍粟驛（大正十四年設置）を置く。

シサン　矢山島　朝鮮全羅南道の東南部にある島。高興郡蓬萊面に屬す。居金水道南口外に於て高興半島南端の南西方約四浬に位し、北西―南東の長さ約二浬、その最高部は南部にありて高さ一七〇米。島の東側中央に一小灣あり、灣首に聚落發達し、人口比較的稠密なり。

シザン　芝山面　朝鮮全羅南道光山郡の東北端。光州府の北約一〇粁。最近牛峙面・本村面を合併の上、芝山と改稱せるものにして、東は石谷面及び潭陽郡古西面、北は同郡大田面及び長城郡珍原面、西は飛鴨面、南は瑞坊面及び極樂面に各相隣接す。東南境に三角山（二七四米）の聳立せる外著しきものなく、土地低平にて所謂光州沃野の一部を成し、榮山江西部を灌漑し重要なる農業地區を成す。產物は米を第一とし大麥・大豆・小豆・棉花・麻・苧等あり、近時果樹の栽培も亦盛となれり。三等道路、面の北部を橫斷せる外は何れも等外路線にて今尙徒步及び馬背に據る。聚落の主なるものは舊牛峙區に水谷・孝嶺・龍江・龍田・生湧、舊本村區に月山・大村・五龍・芝野・龍頭・日谷・本村・陽山・蓮堤の諸里ありて面事務所を本村里に置く。

ジサン　慈山面　朝鮮平安南道順川郡の西部。北は內南・順川の兩面に、東は殷山・厚灘の二面に、南は舍人面に接し、西は平原郡と境す。最近豐山面を合併して面積倍加せり。西境に降龍山（四四六米）・慈母山（五五九米）等聳え東方に緩斜し、東半部は概ね低平にして田畑よく拓く。河川は何れも西方山地に發して東流し、北より來る大同江に合し、この本流は東境に蛇曲流し面邑慈山附近に於て東折す。農產物に米・大豆・小麥・棉等あり、北西部の光龍山鑛山其他より金・銀・銅を出すこと多し。總督府鐵道平元西部線は東境の江岸近く走り慈山驛（昭和三年設置）ありて順川驛（順川面）に近く、順川・平壤間二等道路これに並走する外、慈山を中心に道路網やや發達し、西部山地を除く外は交通便利なり。面邑慈山は大同江右岸にあり、市場ありて取引頗る盛んなり。西境の慈母山頂に山城址あり、延長八粁に及ぶ城壁の一部を遺存す。築城の沿革甚だ古く、李朝に至り之を修築して支那に備へ、のち倭寇に對する防禦となし、更に山上と平壤間に關道を設け大に兵器糧食を積藏すといふ。いま城址に城南里等の聚落ありて農耕行はる。

シザンガン　芝山巖　→士林庄（臺灣臺北州七星郡）

シシ　市仔街　臺灣臺南市の古地名。現在の臺南市安平の舊稱にして、乾隆二十九年編纂の續修臺灣府志に其名見ゆ。鄭氏時代始めて安平・上下鯤鯓の三字の地に効忠里を設けて地方區とし、安平には鎭を開設せるより安平鎭の名を生ぜるも、市仔街は安平港の輸出入物貨を府城臺南に仲繼する、安平の商業上の位置より生ぜるものと云ふべし、安平鎭の名を以て呼ぶを普通とせり。

シシ　志々村

【志々村】島根縣出雲國飯石郡の西部。北は簸川郡山口村に、西は安濃郡佐比賣村及び邑智郡澤谷村に各隣接す。西北境に三瓶山（一一二六米）聳立し、四周五百米以上の山地を繞らし、神戸川は東西兩山地を開析せる小流を合せて中部を北に流れ谷底に僅に低地あり。農作物を主とし米・麥を產し木炭も出す。街道は神戸川に沿うて南北に通じ外に各溪流沿ひに東西に通ずるものあり。古くは和名抄、飯石郡來島鄕に屬せるものの如し。もと

は獅子とも書き、現に大字に獅子あり。出雲風土記飯石郡の條に渡多徑、須佐徑、志都美徑以上三徑常無レ剗、但當レ有レ政時權置耳、並通二備後國一也とあり、志都美は大字志津見に其名遺る。同じく風土記に志々乃村社あり、夙くより文化開けし地なるべし。〔志々乃村神社〕大字獅子に鎭座。鄕社。祭神、瀛津島比賣命。創建年代由緒等詳ならざるも、出雲風土記に志々乃村社とあり。明治四十一年村內の村社雨神社、同三原神社を合併す。例祭、十一月四日。

【志々島】香川縣三豐郡にある島。郡の東北に突出せる三崎半島の東側に橫はる。粟島の東方一・五粁の所に位す。面積一・三九方里、周圍〇・三四里の小島にして、東西に長く、高さ約百米なり。主に古生界に屬する片麻岩より成り、鹽飽諸島の一部に屬し、粟島と共に粟島村の一字として、詫間灣を形成す。島の東側は深さ三米乃至五米、長さ三粁の淺瀨をなし、志々藻先と稱し、漁場をなす。

シシ　獅子

【獅子村】長崎縣肥前國北松浦郡平戶島の西海岸。北西は中野村に、東は紐差村に、南は中津良村に界し、西北は辰ノ瀨戶を隔て生月島に對す。全村山岳をなし東北境に安滿岳、南境に有僧都岳あり。西岸は屈曲に富み南部に呼崎突出し其北に小灣を隔て人津久崎岬あり、多く岩石海岸をなす。海上には小島・竹ノ子島・立場島等浮び風景よし。西南岸に僅に低地あり。全村山地なれば米・麥の產あるも耕地乏しく、西岸には水產盛なり。西部海岸近くに村道通じ之に沿ひ聚落散村式に點纏す。交通多くは便船による。往古の事は不詳なるも、此地舊藩時代には松浦藩の治下に屬せり。傳ふるところに據れば、嘗て切支丹迫害の時代に宗門改めに追ひ立てられし一人の神父、十數日間漂流ののち本村海濱に漂着し、不自由なる言葉をたどり切支丹の流布に努め、漸くにして其曙光の見え初めし頃、再び幕府よりの追手を受け十人の信者と共に海岸の砂濱に斬られたり。今砂濱の頗る白きは神がその弟子達の血を洗ひ淨めし故なりといふ。

【獅子島】鹿兒島縣薩摩國出水郡長島の北にある島。周圍約三一粁。東長島村に屬す。その島峰を七郞岳と呼び、西岸に片側浦と呼ぶ小港あり。此島往古は鹿多く、士民鹿皮を以て年貢とし、宍ノ島の名を得たり。今專ら獅子の字を用ふ。

シシオリ　鹿折村　宮城縣陸前國本吉郡の東北部。氣仙沼町の東北に隣り、東は唐桑村、西は新月村に接し、北は岩手縣氣仙郡氣仙町・矢作村に界し、西南端は大島瀨戶を距てて大島に對し、西南は氣仙沼灣に臨む。北境に飯森峠（二一〇米）の小分水嶺あり、西境の八森平山（五六九米）・黑澤山（五三五米）・大森山（四三九米）・二ツ森山（三六五米）・鍋越山（三四八米）の諸山南北に連りて、東境の權長根山（五二〇米）・高判形山（四二四米）・石割峠（二〇四米）と相對峙し、鹿折川は北部山地に發し中部を南流して氣仙沼灣に注ぎ、沿岸に低地ありて耕地發達す。半農半漁の形態をなし、氣仙沼港の半面は本村の海岸を以て形成され船舶の避難にまた水產物製造に好適地をなす。從つて漁獲物は鰹・鮪・鰤・鰯・鯖等少からず、氣仙沼町の水產製造業者中その工場を本村に置くもの等ありて氣仙沼町との關係深し。また近時養牡蠣事業により一躍その名を知らるるに至り、其施設に對しては農林省及び縣の援助を受け年額數萬圓を產するに至る。なほ鹿折川沿岸の耕地より米・麥のほか桑を產し養蠶を行ひ山地より木炭を出し、北部山中に鹿折鑛山あり。省線大船渡線は鹿折川に沿うて通じ鹿折驛・上鹿折驛（共に昭和七年設置）を置き、縣道また氣仙沼町及び氣仙町に達し各バス通じ、海上は三陸汽船寄航す。〔鹿折鑛山〕本村の北部山中鹿折川の上流、飯森峠の東南斜面にあり。金・銀を採掘す。慶長年間伊達政宗時代より採掘せしも、一旦廢坑となり明治三十六年再び採鑛し始む。

シシガセ　鹿瀨山・猪ケ瀨　和歌山縣有田郡と日高郡との堺にある熊野街道の峠。一名を井關山とも云ふ。標高約三三〇米。元亨釋書には肉脊山に作る。治承四年九月熊野權現別當湛增兵を舉げてこの峠以南を略せり。太平記蠑鑑・四「否とよ山伏は山に伏す、草には伏さじと御戲れ、笑ひに道も捗りて、猪が瀨、湯淺、蕪坂、小原、芋瀨打過ぎて、熊野高野の中津川、孤村の辻に佇みて、勞れなばらさせ給ひける」

シシガタニ　鹿ケ谷　京都市左京區の町名。大文字山の西麓にて吉田山との間、淨土寺町の南に位し、もと愛宕郡に屬す。松蟲・鈴蟲の兩尼によりて知らるる安樂寺、法然上人念佛修行の遺跡たる法然院及び比丘尼御所の靈鑑寺等あり。また靈鑑寺の東方谿谷を上ること約一粁に談合谷あり。法勝寺の執行俊寬僧都の山莊の地にして、治承元年俊寬・平康賴・藤原成親等平氏の專橫を怒りこれを滅さんと密に會合せし所として著はる。

シシキ　志々伎村　長崎縣肥前國北松浦郡平戶島の南端。津吉村に南接す。東北部を除き他は三面海に圍まれ、中央東に幅約二粁、長さ約四粁餘の大なる志々伎灣の彎入あり、灣の南岸は幅約〇・五粁の地峽部をなす。全村低き丘陵性の山地起伏し東北境に屛風岳、東境に濱岳、南部に志々伎山あり。志々伎山の南尾は海に突出し志々伎岬となり平戶島の最南端を成す。海岸稍屈曲に富み岩石海岸をなせる所多く、西方海上には頭ノ島・中ノ島・高島・御神島等の小島群在す。また西方約五粁海上に上阿値島及び其南に下阿値島あり。海岸に小低地あり水田拓

は米を産す。また水産盛なり。平戸島中央を南北に縦断する街道は濱岳の北を過ぎ志々伎灣東北岸へ寄り主邑志々伎の聚落に入りそれより一路灣の東及び南岸をめぐり、一つは西北方海岸の宇草嶋に至る。肥前國風土記に景行天皇の志式宮より値嘉島を望み給ふ由見ゆ。志式宮は御ち縣社志々伎神社にして、延喜式内社たり。（志々伎神社）縣社。祭神、十城別命。創建年代不詳なるも延喜の制小社に列し、風土記に、景行天皇十八年九州に行幸ありし際、志式宮浦の行宮に在しまして諸賊を征し給ひ、また神功皇后御征韓の砌、十城別命を此地に駐剳せしめ三韓の警備に當らしめ給ふと。もと下松浦明神・松浦明神等と稱せしが、弘仁二年本殿を奉安して神體となし現社號にあらたむ。元寇異變の際、神風のため元軍潰滅せるも赤當社の神威の致すところと云ふ。當社は志々伎山中の上宮・中宮・地宮・神宮四社の總稱なり。なほ社域附近より古代土器・石器の發掘せらるるもの多く考古學研究に資するところ少なからず。例祭、九月八日・九日

シシクイ　宍喰町　徳島縣阿波國海部郡の南端、土佐國との境にあり。北は川上村、東北は川西村と界し、西は土佐國安藝郡馬路村、南は同じく北川村・野根町に隣り、東は太平洋に臨む。面積九三方粁。外四國の安藝山地の東斜面にあり、西北隅に貧田丸山（一〇一九米）、西に龜谷山（一〇八三米）等聳えて東に向ひ山脚を伸し、又中央に於ては南北に高距約八〇〇米餘の連峯並立し東西に急斜し、西の谷に野根川の渓流あり、東部は海に迫りて廣き臺地を造る。故に平地は海岸に沿ふ所及び東南の宍喰浦附近を東西に流るる河川の流域に多少ありて耕地拓げ米を産す。其他の産物として木材・木炭あり、また鹽・鰹節を産す。海岸は出入に富む沈降性海岸なるため良好なる漁港をなす。國道は町を通りて沿岸を走り、北は牟岐町に、南は室戸村に至る。人口密度稀薄にして一方粁四七人に過ぎず。此地古くは和名抄、那賀郡海部郷の地、中世は宍喰荘に屬す。荘名は建久二年の文書に見え、建保四年、宜陽門院この地を高野山蓮華乗院に寄附す。もと脚喰（脚咋）とも稱す。村名に古く、日本書紀履中天皇六年の條に脚咋と見え、南海治亂記にも履中天皇、筥住王を召し給ふに王は攝津住吉より逃れ阿波に來り脚喰に隠る、のち讃岐に至り國造となると。また此地及び土佐野根兩所の城主は筥住王の裔にて元木氏を稱せしも天正の始め落城するといふ。天正年中豊臣氏の兵南伐するに及びても此地はその註謂を免れ、のち本町以東を蜂須賀家政に附せられ阿土の國界をこの地に劃定するに至る。大正十三年町制を布く。本町大字宍喰浦より高知縣甲の浦に至る海岸は大小の島嶼散點し風景佳なるを以て著はる。山地は第三紀砂岩より成り白色軟質なるを以て太平洋の波濤の浸蝕を受け、奇岩怪石の狀を呈す。この地は地震・津浪の被害を蒙りしこと屢々あり、永正九年の津浪には宍喰浦殘らず流出し、慶長九年の地震・津浪には溺死人一五〇〇人、安政元年の地震・津浪には流失家屋一四〇戸ありき。（八坂神社）大字久保に鎮座。郷社。祭神速須佐之男命。創立年代詳ならず。大永六年再建す。もと祇園殿・祇園牛頭天王と稱せり。例祭七月十七日。

シシクイヤ　猪喰屋橋・宍喰屋橋　大阪市西區内の橋名。立賣堀に架し、立賣堀北通四・五丁目と、立賣堀南通四・五丁目とを通ず。今宮心中・上「敵は三原重太夫、序にて作りし惡心の、切で報いのくる時は、猪喰屋橋思ひ出す、思ひ出し〳〵つられ行く先づ是れまでが片おもて云々」

シシクラ　宍倉　↓志士庫村（茨城縣）

シシコ　志士庫村　茨城縣常陸國新治郡の東部。霞浦に突出する部分の一部を占む。北は關川村・三村、西は七會村、南は上大津村・美並村、東は安飾村と各相隣接す。全村低き丘陵地にて畑地多く所々林を交へ、中央部は丘陵の間に低地ありて水田をなす。農業を主とし全戸數の八割餘は農家にて主産物に米・繭・麥・大豆・甘藷あり、特産物としては煙草・苧麻・椎茸を出す。縣道は村の中央を西北に走りて石岡町（約七粁）に通じ、又省線常磐線村の西端を掠めて北走するも村内に驛なく、南隣上大津村に神立驛ありて縣道を通ず。この地は和名抄、茨城郡安食郷の内。鎌倉時代は南住宍倉郷と稱せらる。（宍倉城）信太庄司の族類、菅谷隠岐守始めて之を築き子孫世々之に居り、天正年中、佐竹氏豊臣秀吉の命を受けて、南郡三十三館を滅せり、此時に菅谷氏は越前に奔る。これより佐竹氏は大山田刑部をして此城を守らしむ。のち羽州に後るに及びて城廃す。（呆春寺）宍倉にあり。曹洞宗。陽廣山と號し野州西田村大中寺末にして、末寺一院を有し近郷の名刹たり。文龜三年宍倉城主菅谷信濃守の開基に係り桂庵用白を開山とす。本尊釋迦如來は水戸光圀の寄附に係る。（景勝寺）宍倉にあり。淨土宗。松應山瑞聖院と號し、永禄三年宍倉城主菅谷隠岐守の開基に係り顯慶上人を開山とす。のち類廃せしを元禄十一年水戸光圀之を修營す。本尊阿彌陀如來は惠心僧都作といふ。

シシト　獅子戸岳　↓鷲島山

シシト　宍戸町　茨城縣常陸國西茨城郡の東部。北は大原村、西は南山内村、南は岩間町・南川根村、東は北川根村及び東茨城郡鮎澤村と隣す。西半は低き山地にて西北部に一一二米の山あり。南西部も約二〇〇米にて兩山地の間を潮沼川東南に流れ、村の南部は沼地をなす。東半は平地にて畑地をなし林を交ふ。米・麥・繭の産あり、また工産・林産行はる。省線常磐線は中央を北走し、東北部に友部驛（明治二十八年設置）あり。同驛は又省線水戸驛の分岐點にて同線はこれより西走し、町内に宍戸驛（明治二十二年設置を置く）縣道も亦これらの線に沿ふ。いま設浦就空隊友部分屯隊・日本國民高等學校等あり、この地は古の宍戸庄の本郷にして、中世宍戸氏の據りし宍戸城址あり。元和二年、水戸徳川頼房の七子頼雄ここに封ぜられ一萬石を食み明治維新に至る。明治二十三年、明治天皇水戸行幸の際この地に御小休あらせらる。（宍戸城）大字平町にあり。八田知家の四男宍戸四郎家政初めて此處に築き、天正年間宍戸氏亡び、圓ヶ原の役後、慶長七年秋田實季を此地に封ず。萬治二年に至り奥州三春に移封、宍戸城廃す。（宍戸藩）天和二年水戸光圀、その弟松平頼雄に一萬石を分ち此處に置き世々水戸藩の支藩として明治維新に至る。明治四年藩を廃して宍戸縣を置き、のち廃して茨城縣に併す。（宍戸古墳）大字太田にあり。石室の後壁露出し、その間隙より内部を窺ふを得。石室は扁平なる石材を以て造られ長さ六米、幅一・五米、高さ二米あり。表面は土に埋没せしも、明治二十九年頃發掘され、勾玉・埴輪破片等發見さる。（宍戸氏）本姓、清和源氏。八田知家の第四子家政、常陸宍戸邑を領し、伝て氏とす。家政五世の孫朝家安藝宮田郡に徙り、朝家五世の孫元家の玄孫隆家、毛利元就の女を娶り毛利氏を助けて功あり、子孫永く毛利氏に仕へて明治維新に及びのち華族に列し男爵を授けらる。但し慶應元年、徳川幕府長州再征の師を起すや、藩主毛利氏、藩士安田直温の三子璽を以て宍戸氏の末裔とし國事に當らしめて宍戸を稱せしめ、維新の功により子爵を授けらる。（瞿通寺）太田にあり。曹洞宗。慈眼山と號す。東茨城郡澤山村龍谷院末たり。創建年代不詳。開山は宗智大圓和尚。舊寺領五石の朱印を有せり。（龍穏院）曹洞宗。恵日山と號す。興國五年の創建に係り佛曼古心禪師を開山とす。爾來數度の災厄に遭ひて其沿革を詳かにせず。（唯信寺）太田にあり。眞宗大谷派。宗祖見蕚大師の法弟唯信房念空法師の開創に係る。圖東二十四番の靈蹟たり。

シシトー　獅子頭山　豪灣臺北州にある山。文山（新店庄）・海山（三峡庄）二郡界にあり。標高約八六六米。

シシトビ　鹿跳　琵琶湖より流れ出づる瀬田川（宇治川の上流）の近江國栗太郡大石村の谷にある一瀧。川は此處に至りて兩岸相迫り川幅最も狭し。この地の鹿跳橋の邊、鹿が一跳して河を越え得るとの意より鹿跳の名起るといふ。古くは石良瀬といふ。散本集「氷魚も世を過ぎがたしとや思ふらん石良の瀬にも網代うつなり」

シシドメ　鹿留山　關東山脈道志山塊に屬する一米。忍野湖底平野の北西方に聳え、山梨縣南都留郡東柱村と忍野村の境界に跨る。標高一六三二米。山麓御坂古生層より成る。山中にバラモミの原生林、落葉松林等あり。

シシハマ　獅子濱　↓静浦村（静岡縣）

シシヒト　宍人　駿河國（静岡縣）の古地名。和名抄駿河郡宍人郷あり、之之比止と讀す。其地今の駿東郡静浦村の淺なるべし。大字獅子濱は宍人の轉訛か。

シシマ　志島村　三重縣志摩國志摩郡の東南海岸。波切町の北方四粁にて西北に甲賀村に接し、西南は英虞灣に臨む立神村に隣り、南は畔名村と界す。面積一・一七方粁の小村。西に五〇米程の臺地ありて東へ低く海岸に終る。平地乏しく海岸は西方へ弓形に彎曲す。村民の生活は半農・半漁にて麥・甘藷・蜜等を産し海草加工もなす。交通は西境に南方波切町より西北に走るものあれど多く水運による。古の英虞郡名錐郷（和名抄）の内なり。もと名田・畔名を合して三和村と云ひしが、明治二十七年三和村の大字志島村を分割し本村を新設す。

シシマイ　獅子舞岳　羽金山（福岡・佐賀縣境）の別名。

シシマチ　鹿町村　長崎縣肥前國北松浦郡の中部。佐世保市の西北方約一四粁に位し西方は平戸海峡に臨む。北は南田平村に隣り東は江迎村及び佐々村に接し南は小佐々村と界す。全村丘陵性の山地起伏し南境に金刀比羅山あり。山間所所に盆地開け海岸に小農地あり。北境は江迎灣に臨み東南方より來る小河東北境を流れて同灣に注ぐ。海岸線出入多く殊に西南は複雑なる海岸を示し中央に本ヶ浦の灣入あり。其灣口北岸に黒崎あり、南岸に小島岬の北方への突出あり。其他岬多く小島嶼海上に無數に散在し之を九十九島といひ、九頭島・島頭島・瀬尻島・出細代島・丑ヶ島・大島・上中六島・戌島・赤島・麦島等稍著し。海岸低地及び山間盆地に講地ありて米・麥・粟・甘藷等を産し海岸は水産業盛なり。海岸に沿ひて道路走りそれより東方へ數條の道路分岐して隣村へ至る。北松浦炭田の一部を占め岳下・矢岳・鹿町・平田山三坑・山口等の炭礦ありて頗る活氣を呈す。

シシミ　蜆

【蜆河】大阪市北區にありし河。大河の分流堂島川の水が中ノ島を過ぎて北に分れ曾根崎新地と堂島との間を流れ來は堂島川に落合ふ。これを蜆川と稱しまた一に曾根崎川ともいふ。のちこの川は埋立てられて嵌れ街路となる。心中天網島「さほど心のこらば、泣かしやんせ泣かしやんせ、その涙がしじみ川に流れて、小春の淺んで飲みやろうぞ」

【蜆橋】大阪曾根崎新地蜆川に架せられ

たる橋。現在の大江橋筋を北へ入りし盧にありしもの。天の網島「あのいたいけな貝殼に、一杯もなき蝦橋」

シシミ　志染村　兵庫縣播磨國美嚢郡の南端。明石市の北方約二〇粁。北は細川村に、東は淡海村・上淡河村に、南は武庫郡山田村・明石郡押部谷村・神出村に、西は別所村・久留美村に接す。六甲山塊の西北部に連なる第三紀層の山地より成り、東部にはシビレ山あり。志染川此山地を浸蝕して神積地をつくり、東部にて山田川を容る。此川の流域には水田廣く分布し、丘陵上には溜池多く、西部にては十一箇の鍬列をなすを見る。南東部廣野新開にてはその名の示す如く豪地開墾され、溜池灌漑行はれ、米・麥・繭の産あり、中部には淡河疏水あり。此地は交通の便よく、鐵道は南西部に社線三木電氣鐵道通じ廣野ゴルフ場前驛あり。播磨風土記に記して云ふ「志深里。所二以號一志深一者、伊射報和氣命、御二食於此井一之時、信深貝遊二上於御飯筥緣一爾時勅云、此貝者、於二阿波國和那賀一我所食貝歟、故號二志深里一」とあり。和名抄、美囊郡志深郷の地、中世は志深荘に屬す。或は館見または志染に作る。大宇中村は履中天皇の御代館見屯倉の置かれし地、今その遺址あり。大字窯屋には館見山石室ありて、土俗に池野と呼び池堤あり。これは慶計・弘計二王の潛伏せられし地にして、二王の御父市邊押磐皇子が雄略天皇に討たれ給ひしため、日下部使主は二王を奉じてここにかくれしが難の及ばん事を恐れ、岩屋中に縊死せりと。今廣野の臺地上にはゴルフリンクあり。〔御坂神社〕大宇御坂に鎮座。郷社。祭神、八戸柱御諸命外二神。崇峻天皇元年九月の創建と云ひ、延喜の制、小社に列せらる。もと庄内志染中村に鎮座せしも、天正年間、現社地に奉遷すと云ふ。古來志染十箇村の氏神として知られ、一に三坂明神とも稱せらる。例祭、五月一日・三日・正月初亥の日。〔伽耶院〕大宇御坂にあり。天台宗寺門派。大谷山と號す。大化元年法道仙人の開創と傳ふ。爾來歴朝勅願寺として歸依淺からず。花山法皇また此地に行幸あらせれ五部の大乘經を納め給ひしといふ。かくて數十の堂宇一百三十餘の坊舍櫛比して輪奐の美を極めしが、天正八年羽柴秀吉の兵火に罹りて一山悉く烏有に歸す。のち多聞房除之を中興す。而して漸次諸堂の再建を見る。天和元年後西院上皇伽耶院の勅號を下賜せらる。當時本寺は修驗道の道場として洛東聖護院の院家に列し寺運盛なりしが明治維新後稍衰ふ。大正七年以降堂宇を改修し寺觀を革む。近時西國三十三所第廿六番となる。寺寶中見沙門天立像（本造）一軀は藤原末期の作に係り現に國寶たり。

シシヤ　鹿屋町　京都一條堀河西の地。昔、此盧に屠人住み、冬は鹿・野猪・狼・兎等を賣りしよりの稱。東洲府志・六「鹿・猪・猪井兎　一條堀河西有二屠人一至冬屠二麋・鹿……兎之類一而賣之、故是處謂二鹿屋町一」

シシユー　四州面　朝鮮忠清北道清州郡の略中央。郡政の中心清州邑其の中央にあり。東は項城面、北は北一面、西は江西面、南は南一面及び南二面に各相隣接す。東境に近く仙到山（五四五米）聳え、餘勢城内に及び、東半部は丘陵性山地を成せども、中央を錦江の支流無心川流れ西半部は土地極めて低平にして、所謂清州平野の一部を成し、地味肥沃、穀物の産地として著はれ、氣候亦適順にて夏季最高攝氏三四度、冬季最低零下一三度にして京城に比し、夏冬共に凌ぎ易し。住民は農を主とし、副業として養蠶を營む者多し。産物は米・大麥・大豆・棉花・麻・菰草・明紬・綿絲・藺等あり。鐵道は京釜線烏致院驛より分岐せる社線忠北線は二二粁にして中心の清州邑に達し、途中に忠北松亭驛（大正十年設置）あり。項内へは此兩驛より連絡し、殊に清州驛よりは東北方へ陰城・忠州街道を始め二三等道路放射狀に四通八達し、概して平坦にして交通極めて便なり。藥落よく發達し、密度極めて大なり。面事務所を清州邑内に置く。

シシユー　始終面　朝鮮全羅南道靈巖郡の西北端。東は都浦面・新北面及び羅州郡潘南面、北は同公山面に各相隣接し、西は南海灣（榮山江口）を隔てて薇安郡石谷面及び一老面、南は西湖面と各相對す。土地極めて低平、地味肥沃にして農業に適し、北部には無數の灌漑用溜池分布して一地域性を成す。住民の多くは農業に從事し、傍ら養蠶を營む者も多し。産物は米を主とし其他棉花・甘藷・煙草等あり。また紬布・綿布等の工産品あり。中央より稍偏在せるを以て道路の改修未だ行はれず交通運輸便ならず。面事務所を臥牛里に置く。

シシユー　侍從

【侍從川】　横濱市磯子區の光傳寺の前を流るる川。水源は鎌倉の三殿浦にて海に入る。昔、照天姫の乳母侍從といふ者姫の行方知れざるを悲しみこの川に身を沈めし故の稱と傳ふ。

【侍從池】　平安京右京右條三坊四坊の間にありし池。古事談・一・玉造后宮「寛德二年二月比、有二白鳥一（羽長四尺計、身長三尺）來二住侍從池一（西七條）、件鳥鳴詞、有飯無菜」

シシユークイン　十九院　→慧鄕村（滋賀縣）

シシユーケー　四重溪　→東城庄（臺灣）

シシユーハチガセ　四十八ケ瀨　遠中黑部川の下流をいふ。川は下流に於て諸方に分流し、數十の分流をなす、之を黑部の四十八が瀨ともいふ。壑靜脇内搭・四「柳が瀨憂き瀨つらき瀨の、四十八が瀨七里半」奥の細道「くろべ四十八か瀨とかや數しらぬ川をわたりて那古と云浦に出づ。擔籠の磯浪は春なれども、初秋の哀とふべきものをと人に哭ねれば是より五里いそ傳ひしてむかふの山陰にいり、蜑の苫ふきかすかなれば盧の一夜の宿かすものあるまじといひなとされてかがの國に入る。わせの香や分入る右は有磯海」

シシユーマガリ　四十曲峠　岡山縣眞庭郡新庄村と鳥取縣日野郡根雨町との境上に跨る峠。出雲街道に當り、東降すれば鬼川畔の新庄へ、北西降すれば日野川畔の根雨に至る。峠上の北方には毛無山（一二一八米）、南西方には二子山（一〇七五米）聳ゆ。

シシヨ　四所　京都府加佐郡にあり。昭和十一年鳥取町に入る。舊村城内の上福井に省線宮津線の四所驛（大正十三年設置）あり。

シシヨー　四條

【四條通】　京都市の東西に通ずる大通の一。錦小路通と綾小路通との間にあり。東は東山區八坂神社の西門前に起り、四條大橋によりて賀茂川を渡り、西は中京區の壬生、右京區の西院を經て京梅津に至る。寺町通以西は大凡往昔の四條大路（幅八丈）に當り、室町時代の頃には四條立賣と稱し、爾來京都の商業の一中心地として榮え、今京都の横の通りの最繁華の大街にして大丸百貨店兩側に軒を並ぶ。京都第一の花街祇園町は此通の東邊の南北にあり。また盛場所京極は寺町通の東にて本通より三條通に至る間にあり。

【四條大路】　平安京の横の大路の一。幅八丈。錦小路と綾小路との間に位し、凡そ今の下京區四條通の寺町以西に當る。公家の四條家はもと四條大宮に住せしにより家名とす。

【四條大橋】　京都市四條通の賀茂川に架せる現代式の鐵筋コンクリート造の橋。賀茂川と並行して西に流るる高瀬川に架けし橋を小橋と稱するに對して之を大橋といふ。もとは祇園四條橋と稱し三條・五條の二橋と共に官橋たり。往時は夏季橋下に床几を置き、橋より北三條大橋との間の磧には諸無行物・露店など設けられ四條の夕納涼と稱し京都の一名物たりしが、賀茂川の河床改修と共に廢す。

【四條河原】　京都の賀茂川四條大橋より北三條大橋の邊に至る磧をいふ。江戸時代、芝居小屋・見世物小屋など設けられて賑はひし處。今は全くなし。

【四條村】　大阪府河内國北河内郡の南部。大阪市旭區の東方約九粁。東は田原村に北は四條畷村に、西は四宮村及び南郷村に界し、南は中河内郡孔舎衛村に接す。生駒山脈の西麓に位し、北境に飯盛山（三一八米）ありて東半は低き山地なれど、西半は大阪平野沖積地の一部を占めて土地平坦、西境に近く寝屋川南に流れ、南郷村に出でて西へ流れ、約一〇粁先にて淀川に合す。水田よく拓けて河内米を主とし、麥・菜種・蔬菜等の農産あり、メリヤス等の工産も出す。生駒街道南部を東西に通じ、中部を南北に走る東高野街道は之と交叉連絡し、河内街道また西部を南北に通じ、省線片町線は東高野街道と河内街道の中間を走りて四條畷驛及び野崎驛（前者は明治二十八年、後者は同三十二年設置）ありて交通の便よし。四條畷村との境に飯盛山あり、高野街道その山麓に懸り、古來兵家必爭の地たり。小補公が高師直と決戰せる所謂四條畷の一部にて、村名之より起る。大宇野崎の野崎觀音堂に昔より大阪商人の信仰を集め所謂野崎詣として頗る賑はへり。「お染は思ひ久松が跡をしたうて野崎村堤傳ひにやう〳〵と梅を目當に軒のつま」と寒き時分の野崎詣に無人を導ぬる新版歌祭文は哀れにもいぢらしく、いま寺内に御染久松の墓あり。野崎詣は往時は陸路よりも多く寝屋川の屋形船によりしも、今は省線片町線による。〔須波麻神社〕大宇中垣内に鎮座。郷社。祭神大國主命。創建年代不詳。延喜の制に式内小社に列し、新年祭・鍬・鎌各々一日を加へらる。河内國讃良郡（今の北河内郡）小社五座の一にて當地の産土神たり。例祭、十月廿一日。〔慈眼寺〕野崎にあり。曹洞宗。福聚山と號す。俗に野崎觀音の名を以て著聞す。創建年代不詳。行基作十一面觀音を本尊とす。永禄八年兵火に罹りて焦土と化す。元和年中青嵐之を再興す。近年衆庶の信仰愈々厚く寺運漸く盛大となる。本堂後方に お染久松の塔を存す。本寺參詣を俗に野崎詣りと稱し、寝屋川の舟便による者、堤防を步行する者互に鬻り合ふ習慣あり。

【四條村】　香川縣讃岐國仲多度郡の南部。地域南北に長く、東西十七町、南北廿八町、恰も法螺貝の形を呈す。西南は榎井・神野兩村に、東南は吉野村に接し、北は高篠・象郷兩村と犬牙相交り、東は土器川を境に綾歌郡長炭村と相對す。地勢平坦、沖積層より成り、東に土器川、中央に金倉川の支流にして滿濃池の用水路たる滿濃川貫流し、地味豐沃、純農村として發達す。田二〇六〇反、畑二五反。米（十五萬圓）・麥（六萬圓）を始め蔬菜を出し、副業として養鶏・蒲製品製造・麥稈莨田など行はれ、蒲製（叺）の産最も著しく一萬七千圓を示し、他に卵（五千圓）・麥稈莨田（四千圓）あり。琴平町に近く、國道高松・琴平線が村内を略東西に貫通し、琴平電鐵榎井驛（榎井村）に近く交通便なり。本村は明治五年以來從來の正屋制を改め、廢藩置縣後行政區劃を定めし時には、現今の大字吉野下は吉野下村と稱し香川縣下第五十七區に屬し、大字四條は四條村と稱し第五十八區となる。明治六年名東縣に合併、同七年區劃改正、兩村共第廿一大區第六小區に屬す。同廿

三年市町村制實施、四條村・吉野下村を合併、四條村と改稱、四條・吉野下の二大字を置く。本村は開發早く、條里制の如き、仲多度郡中他村と同じくよく保存され、社寺には意外に古きものなし。

ジジョー 慈城（じじやう）

【慈城江】 朝鮮平安北道の東北部を流るる河。鴨緑江の一支。厚昌郡の南部、臥碣峰山脈中に發して西北流し、佳山洞にて同郡の加陵嶺北方に發し蓋馬高原を北流する雲洞江を併せて慈城郡に入り、北西に流路を轉じ慈下面内に於て鴨緑江に注ぐ。流程一〇〇粁餘。上流流域は概ね原始林地帶にして、下流慈城邑附近にやや廣き平野を拓き耕作行はる。江に沿うて二等道路走り自動車を通ずるも沿岸多くは人煙稀薄にして、僅に上流に佳山洞、下流に慈城、江口に近く慈城江口等の諸邑あるのみ。

【慈城郡】 朝鮮平安北道の最北端に位する郡。道管内一府一九郡の一。東は厚昌郡に、南は江界郡にそれぞれ隣接し、北西は鴨緑江を隔てて滿洲國通化省と相對す。地勢、蓋馬臺地の北縁をなして域内到る處山岳起伏し平地に乏し。河川は慈城江、南方厚昌郡内に發し、郡のほぼ中央を東南より西北に貫流し、東北部を北流する湖芮川・中江川等と共に、鴨緑江に注ぐ。中江川の東岸には、玄武岩メサの特殊地形をなす鳥德山（八九二米）聳立して注意を惹く。慈城江の流域及び中江川の下流には稍廣濶なる平地ありて農業行はるるも、其他は到る處喬木鬱葱として繁茂し、半島著名の森林地帶を成す。産物は木材を主とし、郡の北端江岸の中江鎭は伐木・製材・組筏の中心をなし、其他農産物として粟・大豆・小豆・大麻等を産し、生牛・蜂蜜・山人蔘等の産もあり。工產は麻布・燒酒を主とし、また金・銀・石炭の鑛床廣く分布す。交通、咸興慈城線・義州惠山鎭線・慈城舊城洞線等の各二等道路走りて何れも自動車を通じ、鴨緑江には總督府命令による淺吃水汽船の航行あり。行政上、本郡を慈城・梨坪・三豐・慈下・長土・中江の六面に分ち、郡廳を慈城面邑内洞に置く。郡邑は慈城邑のほか中江鎭を主要なるものとし、中江鎭は鴨緑江を距てて滿洲國の臨江及び帽兒山に近く、此地に國境警備隊置かる。沿革。約五百年前、郡の南界麻田嶺以北に漸く住民移住しその益々多きを加ふるに及び、江界防營の別中軍を三上面舊中營（いま三豐面内）に移し、近世に至り農民自枠嶺（慈城・三豐面界）以北に入りしを以て、更に舊中營の別中軍を現慈城面に移し上土と稱する僉を置き、次いで李太王七年に至り江界郡より分離獨立し、慈城郡を建て今日に及ぶ。

【慈城面】 朝鮮平安北道慈城郡の略中央。東は梨坪面、北は長土面及び慈下面、西及び南は三豐面に各隣接す。玄武熔岩より成る蓋馬高原の西北縁に位置し、東境に鶴城山（一二七六米）、南境に紅桃兒德山（一〇八九米）聳立し、城内一帶熔岩流より成る山地帶をなせど、中央を灌流する慈城江沿岸には河成段丘の稍多き平地横はる。産物には粟・玉蜀黍・大豆・生牛・蜂蜜・山人蔘等あり。道路は面の西部を義州・惠山鎭間二等道路通ずる外、慈城を中心として東方厚昌へ四八粁、南方の江界、東方の咸興に通ずる二等道路あり、面境の自枠嶺（七一〇米）・大東嶺（五四一米）等の諸嶺を踰えてバスを通ず。慈城には慈城郡廳を始め面事務所・警察署・郵便局・地方法院出張所・金融組合・小學校等あり。

ジジョーコーコー 慈城江口（じじやうかうこう）
→慈下面（朝鮮平安北道慈城郡）

シジョーナワテ 四條畷（しでうなはて）

【四條畷村】 大阪府河内國北河内郡の南部。南は四條村、西は寢屋川村・四宮村、北は豐野村・水本村及び星田村に接し、東は田原村と界す。生駒山脈北部の西麓に位し、南部に飯盛山（三一八米）ありて東半は低山地をなし西半は大阪平野の低平な沖積地を占む。水田よく拓け米を主とし麥其他の農產あり。また大阪市に近く織物・製紐・堵塲・製藥等の工場あり各種の工產多し。河内街道及びその東に東高野街道西部低地を南北に走り、中部には東西に走る街道ありてこれらと交叉し、省線片町線の四條畷驛（四條村内）はその南境に近く交通便利なり。隣村四條村との界に峙つ飯盛山の山下は所謂楠正行快戰の古戰場四條畷にて、もと甲可村と云ひしが昭和七年現名に改む。いま村内に四條畷神社・楠正行墓・和田賢秀墓あり史蹟に富む。大字岡山は和名抄、枚岡鄕の內にして式內津鋒神社あり、大阪陣の時東軍ここに集まれりと。〔飯盛山城〕 飯盛山上に址あり。河・泉兩國交通の要路に當る。天文・永祿の頃常に爭奪の戰場となる。織田信長之を攻略するに及びて廢せらる。〔四條畷戰〕 延元三年北畠顯家和泉石津濱に戰死せしより、吉野朝廷の京都回復運動は一頓挫を來せしが北畠親房常陸より吉野に歸るに及び、正平二年秋の頃よりその活動盛になり、同年九月河内藤井寺附近の戰に、楠正行の軍大いに細川顯氏の軍を破り、尋いで攝津住吉・天王寺方面の戰に顯氏並に顯氏の援軍たる山名時氏を破れり。此に於て足利氏は高師直・師泰兄弟を總帥とし中國・東海・東山諸國の大軍約六萬を率ゐ一擧楠氏の軍を擊破せしめんとせり。翌三年正月二日師泰の軍は淀を發し天王寺に向ひ、師直の軍は河內に向へり。之に對し朝廷にては、北畠親房は槇尾山、松尾寺を本據とし和泉の官軍を督し、四條隆資は河內東條の軍を率ゐて之に當ることとなれり。時に正行は寡兵を以てこの大軍に對することとて、固より生還の期し難きを知り、行宮に參りて龍顏を拜し、如意輪堂の壁板に一首の和歌を記し

敵陣に向へり。かくして正月五日正行は弟正時及び一族和田高家・同賢秀等と三千餘騎を率ゐ四條畷に押寄せ決戰數合、屢々敵の大軍を破りしが、次第に兵を失へり。しかも正行は師直の陣を目ざして突進し、師直と相距る僅に半町に過ぎざりしかば、正行は師直を獲るは此時にありと雀躍しこれに肉薄せり。時に上山高元といへるもの師直の危きを見、自ら師直と名乘りて討死せり。正行多年の本意今に至りて達せりと其首を手玉に取りて喜びしは實にこの時なり。かくて正行は巳の時より酉の時に至るまで、三十餘合の戰に氣疲れ、加ふるに重傷を負ひしかば、弟正時と刺違へて死し、自餘の三十餘人みなこれに殉ぜり。正行時に年二十三。師直は正行の首級を得、翌六日京都に送りて之を梟ぜり。南風これより益々競はざるに至れり。〔四條畷神社〕 大字南野に鎭座。別格官幣社。祭神、楠正行・同正時・和田賢秀外殉難戰歿將士。南朝の忠臣楠正行の陣歿の地をトし、正時・賢秀等以下盡忠の士の遺靈を合祀し此處に奉祭せるに創まり、明治廿二年の創建なり。同年十二月從二位に追陞せらる。社寶中、太刀二口は國寶に指定せらる。例祭、二月十二日。〔本泉寺〕 大字蔀屋にあり。眞宗大谷派。同郡門眞村の願得寺、同讚岐村光善寺等と共に富濱五箇寺の一にして、加賀國（石川縣）河北郡淺川村の本泉寺と同系なり。この淺川村本泉寺の第三世蓮悟の弟實悟の孫教誓、文祿三年に攝津の天滿に本泉寺を重興し、その後更に此地に移る。〔楠正行墓〕 四條畷驛の西約三〇〇米、大字南野にあり。大久保利通の筆にて贈從三位楠木正行朝臣之墓と誌され、老樟之を蔽ひ居れり。〔和田賢秀墓〕 四條畷驛の北約半粁。大字南野にあり。墳上に和田賢秀戰死墓と刻したる高さ約一米半の碑あり。天保二年浪華の人永田友之の建立に係るものにして、賢秀は楠正行の從弟なり。

【四條畷】 省線片町線の一驛（明治二十八年設置）。大阪府北河內郡四條村北條にあり。

シシリコ 肉入籠 書紀齊明天皇紀に見ゆる蝦夷の古地名。齊明天皇五年、阿倍比羅夫蝦夷を征し、進んで肉入籠に至り、後方羊蹄に郡領を置きて歸ると見ゆ。その地審かならざるも、或は北海道日高國沙流郡平取村の地か。この地の舊名をシシリムカと云ふ。肉入籠は卽ちこのシシリムカならんといふ。

ジジン 慈仁面 朝鮮慶尙北道慶山郡の略中央。東は龍城面、北は珍良面、西は押梁面、南は南山面に各相隣接す。琴湖江氾濫原の一部を成して土地低平、北方に向ひ僅かに傾斜し、城内灌漑用溜池多く地味肥沃にして農業盛なり。產物は米・大豆・大麥・棉花等にして殊に大豆は慶山大豆として市場聲價高し。道路は中央に位置する面邑慈仁を核として放射狀に發達し、西方慶山邑よりは朝鮮總督府鐵道京釜線と連絡して乘合自動車の便あり。聚落密度は頗る大なり。慈仁は昔て郡廳の所在地にして面事務所を始め郵便所・金融組合・小學校等あり。又陰曆一・六の日に開く市場ありて穀類・薪炭・果物・雜貨・生牛等の取引行はる。

ジシンバンヨコチョー 自身番横町（じしんばんよこちやう） 江戶深川永代寺門前仲町北側の橫町、金子橫町の南。現今富岡門前町。深川遊里の中心として作品に多く見ゆ。春色辰巳園・二序「化されやすき稻荷橫町、これ化すにはあらずして、自身番橫町は自身の迷ひと異見もこもる」

シズ 志津（しづ）

【志津村】 千葉縣下總國印旛郡の西部。印旛沼の西南岸に位す。東は臼井町・千代田村、西は阿蘇村、南は千葉郡と隣る。村内の大部分は丘陵地にて森林多し。北部の印旛沼附近の低地の一部と東境を北流する小流の流域とは沼田をなす。主生業は農にして米・麥を出し、また養蠶業行はる。佐倉街道は村の中央を東走し、社線京成電氣軌道線またこれに沿ひ村內に志津驛を置く。この地は和名抄、印旛郡村神鄕の內なるべく、中世、臼井氏の一族、志津氏この地を領す。蓋し村名之に因るか。大字下志津の地は陸軍の演習地たる下志津原の一部を占む。〔千手院〕 大字井野にあり。新義眞言宗豐山派。井野山と號し、天平年中春日佛師、千手觀音像を刻し、臼井台上の地に一宇を創建して之を安置す。明德三年小竹五郎高胤之を現地に移して寺田を附す。當時常・總・武三州の叢林と稱せられ寺勢隆盛たりしが、近時振はず。

【志津村】 福井縣越前國丹生郡の東北部。東は三方・天津の二村、西は殿下・糸生の二村、南は朝日村、北は西安居村に接す。四圍に山を繞らし村役場の所在地大森を中心に盆地狀をなし農業良く發達し四圍の山々よりは薪・松茸・木材を產す。大字下天下・上天下には菅笠の產多かりしも今は昔日の如くならず。蒲生街道は東北方福井市方面より來り、兩天下を通り大森を經て殿下村に至る。丹生バスもまた此の街道を往復す。越前刀鍛冶國兼則は寬永年中の人にて大森に住し、大森打と稱して世に名高し。〔賀茂神社〕 大字大森にあり。鄕社。祭神、別雷神・伊賀古夜比賣命・玉依姬命・大巳貴命。養老元年廣部民部が京都の賀茂兩宮を勸請し奉りしもの。天慶年中多田滿仲の信仰厚く規模も亦大なりき。當社附近一帶は昔大杉の森林をなせし故に此地を大森と名づくといふ。〔本覺寺〕 大字梯谷にあり眞宗山元派。榮光山と號す。安和二年道林法師の開創にして證光寺と稱へ、初め天台宗たり。慶長三年豐臣秀吉より境內地山林田畑等若干を寄せらる。承元元年道淸法師の代現宗に轉ず。

【志津村】 滋賀縣近江國栗太郡の中部。

草津町の南東に當り南は上田上村、西は老上村、北は治田村、東は金勝村に接す。村の東部及び南部は水口丘陵の一部をなして二〇〇米内外の丘陵起伏し、何れも舊洪積世の粘土層・砂層・礫層より成り、古琵琶湖時代の堆積物なり。北西部は沖積平野にして湖岸の低地に續く。草津川の上流桐生川は南方上田上村の志津山より發し、本村の中央部を北流し大字馬場に於て茨谷川を合せ、更に大字山寺に於て美濃郷川を合し、治田村の境に於て金勝川を合せ草津方面へ流る。桐生川の本村内の流程四粁半、外に北部を西流する子守川・伯母川の小流あり。是等河川は概して降雨期を除き水量少きを以て灌漑に僅ふる甚近村と同じく村内に無數の溜池を穿つ。産業は農業の外見るべきものなく、縣道は草津桐生線・桐生手原線・關津石部線村内を通過す。古くは梨原郷の地にして、當時交通の要衝に當り今の大字追分は驛家址と傳へらる。中世の志津荘(別稱青地荘)の一部にて、世々佐々木の一族青地氏の所領たり。大字部田の小學校附近の城山は青地城址にして、三浦則行博士撰の石碑立つ。江戸時代には大字部田が旗本領たりし外は膳所藩に屬し明治に至る。十八年驛合戸長役場の制定められし時、本村は馬場村外十一箇村と野路村外七箇村の二に分たれしが、明治二十二年現制の如くなる。〔小槻神社〕大字部田に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命・於知別命。創祀年代詳ならざるも式内社に列す。村上天皇天德三年當村池の邊に遷す、故に一に池の社とも稱す。例祭、五月一日。〔無量壽寺〕大字部田にあり。淨土宗。舒明天皇の御宇惠遠の開創に係る。惠遠は宮中に無量壽經を講ぜしことあり。今堂前に槍の如き石あり。中世この地より發掘せしものなりといふ。〔祥光寺〕大字山寺にあり。黄檗宗。大曼山と號す。往古は法相宗の巨刹たりしが、中世佐々木高頼追福のため青地氏主青地駿河守之を再建して曹洞宗に改む。天正年中兵火に罹りて衰上。寛文年中釋友晨再建して黄檗木庵禪師を請じ、中興の祖となして現宗に改む。

シズ　静村　ハ　茨城縣常陸國那珂郡の中部。東は上野村を隔てて久慈川に近く北は大宮町・玉川村、西は大場村、南は瓜連町と隣る。村の西半は八溝山脈の一支の東南端を占め、西境に一一六米の山あり。東半は丘陵の間に低地ありて水田拓く。縣道は村の東端を北走し省線水郡線またこれに沿ひ、村内南端に静(大正八年設置)・常陸村田(昭和十年設置)の二驛を置く。古くは瓜連町の地と共に和名抄、久慈郡倭文郷の地とす。また延喜兵部省式に見ゆる田後驛は此地か。慈鎮の志士にして穂田門外の變の一人たりし齋藤監物(贈從四位)は此地の人なり。〔静神社〕大字静に鎮座。縣社。祭神、健葉槌命・高皇産靈尊・手力雄尊・思兼命。

一に神代の創建と云ふも定かならず。傳説に、當村未だ機織の法を知らざる往昔に健葉槌命これを教へ給ひしより土民その德を尚び奉祀すと云ふ。延喜の制名神大社に列し常陸國二ノ宮たり。寛文八年德川光圀社殿を改營し神寶神器を寄せ且つ僧侶を斥く。其後、神殿修築は藩費を以てす。天保年間以後は年三回國家安康の大祓を奉る例ありて藩主以下の崇敬甚だ篤かりき。例祭、四月一日。〔常弘寺〕大字石澤にあり。真宗本願寺派。太子堂玉川山(又は寶壽山)と號す。寛元二年創建。開基は慈善房常弘和尚。關東二十四番第二十番の靈場たり。本尊阿彌陀佛は佛工春日の作なりと。

シズ　賤ヶ岳　ハ　滋賀縣伊香郡伊香具村大字大音にある山。標高四二三米。南方は琵琶湖に臨み、眼下に竹生島を眺め南東には遠く伊吹山を望み、北方は余呉湖を控へ、眺望甚だ佳なり。この山は北方に續く茅巻山・大岩山等と共に天正十一年所謂賤ヶ岳の合戰の行はれし所にして、いま山上に戰跡の碑あり。〔賤岳戰〕羽柴秀吉・柴田勝家の戰ないふ。本能寺の變後、羽柴秀吉一擧に明智光秀を山崎に屠りてより、清洲の會議、大德寺の法會等によりて秀吉の威名益々盛なり。信長の老臣柴田勝家之を忌み、織田信孝・瀧川一益等と相結びて、秀吉を除かんと圖る。玆に於て天正十年十一月、秀吉、信孝を岐阜に圍みて之を降し、翌十一年正月、伊勢に入り、一益の籠城及び亀山を拔く。是より先き勝家は、雪に閉されしも、此年春出兵準備を整げ上杉氏を抑へ、遠く毛利氏と氣脈を通じ、前將軍義昭を奉じ、秀吉を挾撃せんとす。二月、佐久間盛政を先鋒として、加・越・能の兵を率ゐ、近江柳ヶ瀬に陣し、兵を分ちて諸砦を守る。秀吉時に伊勢に在りしが報を得て、織田信雄を説めて、一益に當らしめ、軍ヲ班して近江長濱に至る。勝家、柳ヶ瀬に陣す。秀吉賤岳に城砦二十四壘を連れ、兩軍對峙す。時に信孝また勝家に應じて兵を擧げ、秀吉の背後を衝かんとす。四月十七日、秀吉、長濱を發して即日大垣に至る。勝家、秀吉の虚に乘じて之を襲はんとし、二十日、佐久間をして余呉湖に沿うて、中川清秀の守れる大岩山の壘を攻めしむ。清秀防ぐ能はずして戰死す。飛報大垣に達す。秀吉即日譴せて木ノ本に歸り。二十一日の曉、盛政、秀吉の歸れるを知り將に退かんとす。この時秀吉兵に命じて、盛政の軍を急追し、大いに賤ヶ岳の北麓に戰ひ遂に盛政の軍を破る。勝家亦奮鬪せしも、大勢既に傾き、僅に身を以て免れて、北ノ庄に逃る。時で秀吉之を追擊して、廿三日、北ノ庄を圍む。勝家守る能はざるを知り、火を放つて自殺し、柴田氏遂に亡ぶ。賤岳七本槍とは、賤岳合戰の際、羽柴秀吉の兵にして槍を提げ柴田軍を破りし七勇士、即ち加藤清正・福島正則・加藤嘉明・平野長泰・脇坂安治・片桐且元・糟屋武則の七人を云ふ。

シスイ　泗水　シ　【泗水村】熊本縣肥後國菊池郡の西部。阿蘇山の西麓を占め、菊池川支流合志川に跨り隈府町の南約六粁。熊本市の北々東約一四粁。東南部に阿蘇山麓の約五〇—一〇〇米の豪地ありて西へ延び、南部より西南部へ細く續き南境を越えて隣村へ連り、北部にも東境より西境まで五〇米程度の豪地ありて其間に廣闊なる沖積低地あり。合志川東北方より來り中央低地を西西南へ流れ、南境近く西偏にて南部豪地麓に迫り、それより西西北に向ひて西隣田島村に入る。低地は肥沃なる米産地にして古來肥後米の名高し。豪地麓には桑を栽培し養蠶行はる。其他菓・甘藷・裸麥・小麥・麻・菜種・大豆の產あり。隈府より熊本市方面へ至る街道西部を南北に通じ、此西に接して社線菊池電氣軌道通ぜり。高江驛を置き、隈府町より東南方大津町に走る道路傍に東北部を掠めて過ぐ。其他中央低地の北・南豪地麓に散在する集落を結ぶもの及び附近町村を結ぶもの數條あり。地形より考ふれば或は和名抄、合志郡日奚郷に當るものか。驗郡発神料日錄往吉日吉山王社の條に「當地は往吉玉名郡より此川筋に海潮通じ百船會集福榮の津なる故、往吉大明神を榮津より勸請し地名を往吉と稱すること此に始れり、當村と富納村との間の帆千岬といふ所は萬船帆を干す所なる故地名に殘れり」とあり。延曆二十一年桓武帝の宣命に依り往吉日吉山王宮創建ぜらるる以前已に住吉大明神の勸請ぜられしを知るべく、また大宇住吉に帆千岬あり、西部には高江・福本・富等の字名あるより推考すれば、上古早くも海神族の一根據地となり、合志川に依りて高瀬地方との關係密接なりしを知るに足る。康正二年合志隆門、大宇住吉の地に兼隈館を築き眞木村より移居せし頃より佐々木合志の勢强まり曾孫隆崇竹迫城に移り合志全郡を領有するや大宇住吉・福本に一族を分屯せしむ。天正五年龍造寺隆信勢の侵入に逢ひ、天正十三年には薩摩勢のために蹂躪ぜらる。加藤清正肥後國入國後假田壘兵衛をして治めしめ、後細川藩時代には竹迫手永に屬し大宇福本に會所を設けらる。村内諸處に古墳散在し、殊に久米古墳は著名にて大石槍現存す。〔福本八幡宮〕大宇福本に鎮座。郷社。祭神、神功皇后・仲哀天皇・應神天皇。嘉元二年日置恒治、玉名郡千田荘の聖母八幡宮より勸請せる所にして、恒治之が祠職となるといふ。その後明應二年阿佐古武員再建す。

【泗水里】　↓中南面(朝鮮成鏡南道長津郡)

シスイ　酒々井町　シ　↓酒々井町　(千葉縣)

シズイチノ　静市野村　シ　京都府山城國愛宕郡の南部。西南部は京都市上京區の北部に接し、南は岩倉村に東は大原村に西は鞍馬村に界し、稻東北より西南に長し。東北部は稻廣く中央部は稻約一粁に迫るも南西部に於てまた稻を殆す。北境に約七〇〇米の天ヶ岳ありて南方へ起伏なしつつ傾斜し、東境に金毘羅山(五七二米)を起す。また南境中部に箕ノ裏ヶ岳(四三三米)、村の西南部に向山(四二八米)あり。鴨川の上支に天ヶ岳に發し村の中部を西南流し上賀茂の北境にて南流し京都市に入る。村の大部は山林をなし谷地に田畑あるも山林面積の約一割に過ぎず。米・麥の農產、木材・薪炭の林產あり。府道と社線鞍馬電鐵線は西南部の谷を南北に通ず、後者は二軒茶屋及び市原の二驛(昭和三年開業)を設け交通不便ならず。村名は町村制施行の際静原・市原・野中の舊三箇村を合併し各その一字を採りて静市野と命名せるもの。大宇市原の邊は、もと原野にして市原野(楢原野)と云ひ、怪賊鬼童丸が此野に潛伏し源頼光これを斬りしといふ。また藤原惺窩が晩年棲居の地にしてその終焉の遺跡あり。著岡集、ゆふくれに市原野にておふきすはくらまきれとやいふ(かるらん」〔静原社〕大宇静原に鎮座。村社。祭神、伊弉諾尊・瓊々杵尊。成務天皇即位十二年の創建と云ひ、古來當國二ノ宮と稱す。仲哀天皇即位二年東夷御征討に當りて御新願あり。また天武天皇逆賊御追討の時、當社に行幸ありて種々の神寶を納め給ふ。例祭、五月三日。

シズウラ　静浦村　シ　静岡縣駿河國駿東郡の東南端。駿河灣の支灣江浦灣に臨む。沼津市の東南隣。北に大平村、東は田方郡江間村と界す。北境に鷲頭山(三九二米)あり、南に傾斜して江浦灣に臨む。西北部は駿河灣岸平野の一部にて砂濱をなし、夏季海水浴場として賑ふ。傾斜面には桃の栽培行はれ沼津桃の產地なり、また江ノ浦石・志下石の產あり。沼津市より海沿ひに縣道通ず。この地は和名抄、駿河郡宍人郷の地にて、村内の日蓮宗本能寺の地に大石寺後守の守りし志部濱城ありきといふ。大宇江ノ浦は寛永三年、徳川將軍上洛の途中、沼津及び此の地の漁民が生けるを獻上せしより幕府命じて駿・豆二州に於て獲る鯛を此の浦に集めしむといふ。大宇江ノ浦の沿岸は風光の明媚なるを以て知らる。江ノ浦灣〔本能寺〕御子濱にあり。本門宗。富士山と號し北山本門寺に屬す。本門寺四世法嗣日蔵上人之を創建し此處に退隱す。爾來本門寺住職玆に隱棲するを例とす。寶暦元年水災のため堂宇流失し寺寶多く失ひたるも、尚ほ將軍家光・日出等の書を存せり。近郷の名刹たり。

シズオカ　静岡　シ　【静岡縣】本州中部地方の東南部に位す。〔境域〕東は神奈川縣、北は山梨縣・長野縣、西は愛知縣に境し、南は太平洋に

面す。東南部に伊豆半島突出して東の相模灘と西南の遠州灘を分ち、その南端の石廊崎は縣の南岸中部に突出する御前崎に對し、遠州灘より北方に彎入する支灘駿河灣を相掩ふす。伊豆(熱海市と賀茂・田方の二郡)・駿河(沼津・清水・靜岡の三市と駿東・富士・庵原・安倍・志太の五郡)及び遠江(濱松市と榛原・小笠・周智・磐田・濱名・引佐の六郡)の三國五市十三郡を管し、縣廳を靜岡市に置く。面積七・七六九平方粁餘、内地道府縣中の第十三位に居り、人口一、九三九、八六〇人、一平方粁平均二五〇人を算し、密度は第十四位なるも、山岳地帶を除く河岸及び沿海の平地部に於ける人口は頗る稠密なり(以上數字は昭和十年調査)。〔地勢〕東西一四〇粁を超え、南北は最廣一一〇粁、最狹二〇粁に滿たず。地勢複雜なるも大略富士川によりて東西二部に分つを得べし。縣の東部は大部分富士火山帶に屬する諸火山によりて蔽はる。北境山梨縣に跨り聳ゆる富士山は標高三七七六米、高度に於ては臺灣の新高山(三九五〇米)・火高山(三九三一米)等に劣るも、完全なるコニーデ型を呈して裾野を長く曳き、四時白雪を戴き、側嶺に輝き夕照に映ゆる秀麗崇高の山容は、我國の靈峰として世界に誇るに足る。その南麓には既に大いに開析せられたる愛鷹火山(一一八七米)あり、東南には二重式火山の典型たる箱根火山ありてその外輪山たる金時山(一二一三米)・長尾山(一一四四米)及び鞍掛山(一〇〇四米)等によりて縣の東北境を限り、富士山・愛鷹山と箱根山との裾合に黄瀬川の谷をつくる。伊豆半島に於ては、東北部、即ち箱根山の南に接して今はその東半の潰滅せる熱海火山、中部東偏には多數の側火山を有する天城火山群あり。この火山の西には猫越火山、西南には蛇石火山(五二〇米)、西北には達磨火山(九八二米)等ありて殆ど第四紀噴出岩によりて蔽はる。狩野川天城山の北側に發し、日伊豆の中部洪積層の地を北流して黄瀬川に會し、附近に沖積平地を造り、沼津市を貫きて駿河灣の東北部に注ぐ。富士川は甲府盆地の諸水を合ぜ身延山脈の東を峡谷をなして南流し、縣の中部に來り、富士山の西を南北に走る白水山・白鳥山(五六八)米等の第三紀安山岩より成る山脈を横ぎり、富士・庵原兩郡界をなして田子ノ浦(駿河灣北部)に注ぎ、日本三急流の一に數へられ、河口に三角洲を形成す。富士川の西は庵原郡の地にて、東部には第三紀安山岩、中部には第三紀層と南部の沖積地あり、西部には鈴富士山・龍爪山等(第三紀安山岩より成る)の山脈あり。これより西は古生層・結晶片岩より成る赤石山系の山地と、其南に續く第三・第四紀層の山麓平野地帶を含み、安倍・大井・太田・天龍諸川の流域に屬す。赤石山系中の白峯山脈は安倍郡と山梨縣南巨摩郡との境上を南方に進りて白峯山・笊ヶ岳・青薙山等の高峰を起し、赤石山脈は安倍・榛原・周智三郡と長野縣下伊那郡との境をなして西南方に續き鹿見岳・赤石岳・光岳・中ノ尾根山等の嶮岳を起し、また縣の北部に支脈を派出して大無間山・黒法師岳等の高峰をなす。これらの山脈はいづれも南するに從ひて次第に陵夷し山麓地帶に移る。即ち白峯山脈の末は三ッ峯(一三五〇米)・智者山(一〇九二米)・無雙連山(一〇八三米)・菩提山(六七七米)等となり、大井川とその東なる安倍川、その支流藁科川及び瀬戸川の谷を分ち、赤石山脈の支脈の南端は白光山(八三二米)・粟ヶ岳(五二五米)・秋葉山(八六三米)・光明山(五四〇米)等となり、大井川と天龍川の流域を分ち、牧ノ原・磐田原の山麓豪地に沒す。また赤石山脈の本脈は一旦天龍川により斷たるるも、餘脈は更に西南に起りて淺間山脈となり愛知縣境を割し、一部は低夷して三方ヶ原の豪地に續き、一部は溯れて濱名湖床となる。富士・安倍・大井・天龍の諸川は山地より急に平地に出づるを以てその下流は何れも川幅俄に廣まり、平常は河床に砂礫多き中洲をなす處多きを以て知らる。伊豆半島の東海岸は屈曲少く、箱根火山の東麓海に盡くる所に眞鶴崎の突出あり、其南に熱海舊火山の火口をなす熱海灣と網代港の小彎入あり、半島の南端近き田浦崎は下田港を抱き良好なる投錨地をなす。西海岸も大なる屈曲なく松崎・田子・土肥・戸田等の小入江ありて漁港をなし、西北角大瀬崎と沼津との間は東に深く江浦灣彎入す。東岸は新しき火山噴出物の堆積より成り一般に急峻なる斷崖をなす所多く平地に乏し。南部海岸は第三紀噴出になる火山岩が、之に互層し、或ばこれを貫き、集塊岩(安山岩)の波浪に洗はれし所は奇觀を呈し下田附近より石廊崎間の海岸風景は人口に膾炙す。海濱は安山岩の砂にて暗色の磁鐵鑛・珪石の頻なるも下田附近は石英粗面岩及び凝灰岩現れ白濱海岸は白砂の異觀を呈す。駿河灣の東北狩野川口の沼津より富士川口迄は富士山の裾野末端と海岸との間に低濕なる浮島沼の水田地域を挾み、富士川口の三角洲より西興津までの西南に走る海岸一帶は第三紀層丘陵の下に狹き平地をなし、唯その南、久能山との間に東北に向ふ海流の作用によりて三保ノ松原の砂洲突出し、東北に開く清水港を抱く。久能山より西南は安倍川沖積地の平坦なる海岸となり高草山(五〇一米)の海に盡くる所は斷崖を呈し焼津以南の大井川三角洲との間を隔つ。大井川右岸の第三紀豪地は海に迫り南端御前崎に至る間には相良町の小平地あるのみ。御前崎は遠州灘に突出し海上の険絶難大を極む。御前崎以西の遠江海岸も相良豪地の南麓海に迫り、西に天龍川口の平地開け、その流下せし土砂によりて生ぜし砂丘は汀線に接して發達す。また天龍川以西の海岸も低平にして、濱名湖の彎入が著しき變化を與ふ。〔氣象〕北部に富士の高峰、赤石山系の山地等を負ひて冬季の西北季節風が齎す雪と寒風を遮り、南は一帶に海に面し、特に中部には駿河彎深く北方に彎入し、海洋の影響をうくること多く、又夏季の東南季節風は富士・安倍・大井・天龍等諸川の河谷深く濕氣を送り降雨量を大ならしめ、山地を除けば一年を通じて溫和快適の氣候を有す。氣溫は年平均沼津は一五・三度、濱松は一五・一度にして東の東京(一三・九度)・横濱(一四・五度)、西の名古屋(一四・五度)よりも高く、北の甲府(一三・四度)・飯田(一一・七度)に比すれば更に溫し。又最寒の一月には沼津は五・三度、濱松は五度を示し東京(三度)・横濱(四・一度)・名古屋(三・四度)・甲府(一・二度)・飯田(零下〇・一度)に比して何れも暖なり。更に最高の八月に於て沼津・濱松共に二五・九度にて、東京(二五・五度)・横濱(二五・七度)・名古屋(二六・六度)・甲府(二五・四度)・飯田(二三・七度)に比するも殆と其差なきが若くは低溫なり。年平均降水量は沼津の二〇三八粍、濱松の一九八〇粍は東京(一五七三粍)・横濱(一七八二粍)・名古屋(一七二五粍)・甲府(一二八六粍)・飯田(一七八八粍)のそれに比し何れも多く特に夏季に於て然るものあり。熱海・伊東・沼津・興津・清水・静天鳥等が風光の明媚と相俟ち保養地として

榮ゆるもまた當然の事に屬す。〔交通〕本縣の南部は舊東海道の通ずる處にして東の三島より西の白須賀に至るまでに、五十三次中の二十二驛を數へ、今の國道も大部分これに依る。これより岐れ山梨縣に至る縣道に、沼津より黄瀬川谷を上り御殿場を經、籠坂峠を越ゆる甲州道(沼津街道)、吉原より大宮を經、富士山西麓の三里ヶ原を通ずるもの、興津より興津川に沿ひ北し、富士見峠を越え富士川の谷に出づるものの三線あり、長野縣に至るものには掛川より岐れ森・犬居を過ぎ秋葉山を經て、青崩峠を越ゆる信州街道(秋葉街道)によるもの、愛知縣に出づるに濱松より北に上り濱名湖の北岸なる氣賀・三ヶ日を過ぎ本坂峠を越ゆる姫街道あり。また甲州道の御殿場より岐れ神奈川縣足柄上郡に入る足柄道あり。その他伊豆の南端に至る下田街道、雲崎より熱津に至る熱津街道、中泉より横須賀・相良に至る街道、濱松より二俣に達する二俣街道等あり。省線東海道本線は熱海より丹那トンネルを經て三島・沼津に出で之より略舊東海道に沿ひて西し、我國有鐵道中の主要幹線をなし、伊東線は熱海より南して網代まで開通し、御殿場線は沼津より御殿場を經て國府津驛に達り、二俣西線は新所原より濱名湖の西北岸を巡りて金指まで開通す。また社線には駿豆鐵道あり、三島より狩野川流域の修善寺に至り、富士身延鐵道(電車)は富士驛より起り富士川筋に沿ひて甲府に達し、藤相鐵道は岡部より南走して藤枝驛に至り、更に南方地頭方に延び、大井川鐵道は金谷驛に始まり大井川中流の千頭に至り、中遠鐵道は新袋井より東南方新三俣に向ひ、静岡電鐵は袋井・可睡間を繫ぎ、遠州電鐵は濱松市・二俣町間に通じ、濱松鐵道は濱松市より引佐郡奥山村に至り、三信鐵道は磐田郡の北部を貫き、南は風来寺鐵道、北は伊那電鐵に連絡す。その他國道・縣道には多くはバスの運行ありて、縣の南部平野地帶と伊豆半島の地は交通甚だ便利なり。〔産業〕縣内山地廣く、山林地積は民有地の五八%を占め田畑は僅に二八%に過ぎず、多くは諸河川の流域と沿海の狹長なる平野・豪地に局限せらるるも縣内全戸數の四一%餘は農業に從事し、氣候の溫和と土地の利用宜しきとにより農業榮え、農産總額は八八五〇萬圓に上り縣下全生産額の一八%に

職業	戸數	百分比
農業	一四二、四二六	四一・三
水産業	二、七三二	〇・七
鑛業	一、三三五	〇・四
工業	六〇、三二四	一七・六
商業	六四、七三二	一七・九
その他	六二、一六〇	一八・一
計	三四二、七〇〇	一〇〇・〇

生産總額(千圓未滿四捨五入)	昭和十一年	比率	昭和九年	昭和七年
農産	八八、五〇三千圓	一七・八	七三、一二六千圓	七七、四五七千圓
蠶糸	二五、〇四三	五・〇	一五、九五四	一七、〇八一
畜産	一〇、一二三	二・〇	八、二四〇	七、六二三
林産	一〇、九二二	二・二	八、六二二	七、二〇一
鑛産	八、五九八	一・七	五、五六〇	三、三二一
水産	五一、二〇五	六・〇	二四一、二四六	二三、〇八五
工産	三三三、九七九	六六・〇	三二九、四五二	一五九、八二八
計	四九七、〇〇〇		二七四、七二八	二七四、七八八
一人當一戸當	一、四五三圓	二、九五三圓	一、二〇五	一、九三三圓

〇一萬圓)を最重品とし、甘藷・馬鈴薯・大豆・小豆等の食用農産、蜜柑・梨等の果實、蔬菜、葉煙草・絲瓜・蒟蒻芋等の工藝農産、製茶等あり。茶は主として牧ノ原・磐田原等の豪地に栽培せられ年額一六〇〇萬圓に達し縣下の主要重要品た

著はれ、椎茸・木炭・山茨等の産出も少からず。沿岸は魚族に富み、鯖・鰯・鰹・鮪・鰹等を主とし海藻にテングサ等の漁獲あり。遠洋漁業による鰹・鮪・鯖等の漁獲物のみにても八〇〇萬圓を超え、更に焼津・伊東等を中心とする鰹節・生節・鯖節をはじめ、その他鰯節・煮干鰯・乾蝦・蒲鉾・竹輪等の水産製造物、濱名湖畔に於ける養殖の蛤・鰹・鰻等を合すれば水産總額は實に三一〇〇萬圓を過ぎ、縣下全生産額の六・三%に當り、全國有數の水産縣に數へらる。工業は近年長足の進展を遂げ、工業家は六萬餘戸に上り、縣下全戸數の一七・六%を占め、遠州織より發達し之に色染業の附隨せる織物と絹糸その他の紡績、富士山の南麓に行はれし駿河半紙より勃興せる大工場の洋紙製造を主とし、飲食物・金属製品、静岡市に於ける漆器、濱松市の樂器・帽子の製造等ありて、工産額は三二、三六七萬圓の巨額を示し、縣下生産額の六五%に當り諸産業の首位に居る。〔沿革〕本縣はもと徳川第十五代將軍慶喜の後を承けたる徳川家達が、駿遠二國及び三河(初は陸奥のうち數郡)の中に封ぜられ、駿河の府中に居り府中藩と稱せしを、明治二年八月に静岡藩と改稱し、更に同四年七月一般廢藩置縣の時これを静岡縣と稱せしに基を置く。而して同年十一月十五日には一旦これを廢し更に静岡縣を静岡に置き駿河一國を管す。明治九年四月十八日相模國小田原にありし足柄縣所管の伊豆國を本縣に移管し、同月二十一日更に遠江國濱松にありて遠江一國を管せし濱松縣を併せて駿・遠・豆の三國を管す。明治十一年一月十一日に至り伊豆國のうち八丈島以下の七島を東京府に移管す。明治二十二年静岡市先づ市制を布き、次で明治四十四年濱松市獨立し、沼津市(大正十三年市制を布く)・熱海市清水市(大正十三年市制を布く)・熱海市(昭和十二年市となる)も獨立し今五市を算す。郡は明治二十九年四月に大廢合を行ひ、駿河國にては有渡郡を安倍郡に併せ、益頭郡を志太郡に入れ、遠江國にありては敷智・長上二郡の大部と豐田郡の一部を濱名郡に入れ、佐野・城東二郡を以て小笠郡を建て、豐田郡の大部を磐田郡に併せ、麁玉郡及び敷智郡の一部を引佐郡に入れ、伊豆國にては那賀郡と賀茂郡の大部とを以て賀茂郡とし、君澤郡及び賀茂郡の一部を田方郡に併せ、ここに現在の如く五市十三郡となる。

工産總額(昭和十年)	
織物	八七、一三一
紡績	六三、八〇七
飲食物	五六、七〇六
紙	三二、八四一
金属製品	一二、六七五
植物油	八、八〇五
漆器	七、五七七
樂器	四、五二九
その他	三〇、四一八
計	三三二、六七九

【静岡市】 東海道筋屈指の大都會にて静岡縣廳の所在地。駿河國の西南部、縣の略中部に位し東京を距る一八〇粁、名古屋とは一八六粁を隔つ。東は清水市・安倍郡有度村及び庵原郡西奈村・南河内村に接し、西南は志太郡東益津村・同郡町に、西北は安倍川を挾みて安倍郡服織村・美和村・玉川村に隣り、北は同郡大河内村に界し、南は駿河灣に面す。東西約一六粁、南北約二〇粁、面積一四七・七六方粁を有す。北部には眞富士山(一三四五米)より南方に連なる龍爪山脈連亙して西は安倍川に向つて傾斜し、山嘴は西南方に延びて丘陵狀をなし、その南端は市の中央部に至りて賤機山となる。その東南には谷津山・清水山・八幡山・有東山の小丘阜あり。また市の東南部、海岸に近く有渡山塊あり、最高點は三〇八米を示し、南側は急傾斜をなして海に臨む久能山となり、西北面は極めて緩く下りいはゆる日本平の臺地をなす。更に市の西南部なる安倍川右岸の長田區の西半には宇津ノ谷峠の山地あり。市街は安倍川左岸より賤機山・清水山・谷津山・八幡山の間の平地に建ち、舊駿府城を中心にその四周に發達す。舊城の本丸・二の丸址には歩兵第三十四聯隊の兵營、外郭には静岡縣廳・地方裁判所・第二十九旅團司令部等の官衙、師範學校その他の學校等あり。追手町には元御用邸址あり、その一角に市役所・市公會堂等を設く。省線東海道本線の静岡驛は舊城の南角に近き榮町にあり。驛前より西北に通ずる呉服町・兩替町、これに直交する七軒町は主要商業街をなし、城の西南方なる本通よりその西北の番町方面は市の重要工産たる輸出向漆器及び木製品の家内工業地區をなし、番町の北方安西町はまた主として輸出向再製茶の工場地帶なり。市の産業の第一位にあるは工業にて、再製茶(一八八八萬圓)を第一とし、漆器(五三六萬圓)・綿織物(三五二萬圓)・木製品(二七六萬圓)・西洋紙(二二六萬圓)・和紙(一五八萬圓)等これに次ぎ、その他名産に山葵漬・竹製品等あり、工産總額五二〇〇萬圓に近く、實に市の總生産額の八八%を超ゆ。農産品は工産品に次ぎ米麥(合計一八六萬圓)・製茶(一六三萬圓)柑橘(三八萬圓)、石垣苺を主とする草苺

生産總額(昭和十年)		
種別	産額(千圓)	百分比
農産	四、八五五	八・三
蠶絲	五六	〇・一
畜産	四二	一・二
水産	一、一二六	一・八
林産	六三	〇・一
製産	三六	〇・一
工産	五二、八九八	八八・三
計	五八、五七七	一〇〇・〇
一人當		三六圓
一戸當		一、六〇一圓

類(約一七萬圓)ありて農産總額四八六萬圓に達し、水産に蒲鉾・竹輪・鰹節等の製造物のほか鰹・鰯・鮪・鯖等の漁獲物ありて總額一一〇萬圓を超ゆ。交通には東海道本線市の中央部を東西に貫き、中央部に静岡驛(明治二十二年設置)を置く外、西南部長田區に用宗驛(明治四十二年設置)を設け、静岡電鐵ありて市内及び東方清水港間に通じ、清水との間の國道は近年改修を加へて貨・客自動車の疾驅を自由ならしめ交通頗る便利なり。市の名勝には駿府城址の外、全市を俯瞰するによき賤機山公園(一に青葉ヶ岡)・清水山公園、市の南端西島海岸の松林中にある本市唯一の臨海公園たる大濱公園、及び奇勝を以て知らるゝ大崩海岸あり。社寺に久能山東照宮・淺間神社・寶臺院・清水寺・臨済寺等、古蹟に安倍川機・由比正雪の墓・安倍川義夫の碑等あり。この地は古への安倍の市にして駿河の國府の置かれし所、府中と呼ばれ偖に駿府と稱せられ世々州守の居地たり。戰國時代今川氏ここに據りしが義元桶狭間に於て織田信長に敗れ、その子氏真武田氏の滅すところとなりしより信玄之を領す。勝頼の滅亡後は徳川家康濱松城より移り、家康の隠退後は又ここに居城し、諸侯に課して城を修築し、大御所として天下の事を裁せしを以て、地は俄に繁榮を加へたり。家康の薨後、徳川頼宣・同忠長相繼いで居城し、忠長の寳後は幕府の直轄地となり、城代を置きまた町奉行所・代官所もあり。以て明治維新に至る。維新後、徳川家達に駿遠七十萬石を賜ひ、明治二年府中を静岡と改稱す。同四年廢藩置縣の令出で静岡縣廳を置き、同五年駿河國を八大區に分ち、當地を第四大區第五小區に割す。同十一年郡區編成法發布せらるゝや有度・安倍二郡の所管に屬し、同十七年七月官選戸長を置かるゝに至り五箇の戸長役場を置き、其後同二十二年四月始めて自治制を施行し、當時の地域を全市の一區域と定め静岡市と稱し、同四十一年十月安倍郡豐田村南安東の一部を編入、同四十二年二月同郡南賤機村の廢せらるゝや、同村の内安西井宮・安西内新田・安西・安西外新田の四大字を合併し、更に昭和三年十月豐田村、同四年三月安東村及び大里村、同七年四月賤機村、同九年十月長田村・麻機村・千代田村・大谷村・久能村を合併し、市域を擴張して現在に至る。〔俗静岡御用邸〕追手町にあり。指定史蹟。明治三十三年の造營にかゝり、敷地約〇・〇二三平方粁、建坪〇・〇〇二平方粁。和風二階建にして結構莊嚴たり。明治三十五年十一月十八日明治天皇始めて御駐輦あらせられしより鳳輦を駐めさせ給ふこと四十餘回、昭和五年今上陛下静岡縣巡幸の時五月二十八・九の兩日玆に御駐輦あらせ給ふ。造營以來宮内省の主管なりしも、昭和五年十二月十九日之を廢止せられ、同七年十一月三日本市に移管せらる。現今その地の一角を市廳舎及び公會堂用地とす。〔駿府城〕市の中央にその址あり。其の地域は東西六五五米、南北七二七米。面積〇・五一六平方粁。吉野割の頃中賀野掃部助ここに防備を堅へ久能寺城と連絡して足利尊氏の東下を遮らんとして成らず。のち今川範政駿府に居を定むるに當り、此の城を居館とせしが、今川氏滅亡後、天正十四年徳川家康濱松より來り遷りて、松平家忠をして之を補築せしむ。慶長十二年家康駿府を亀裂の地となし、本城修築を令し、遠州・越前・尾張・三河・丹波・備中・近江・伊勢・美濃等に課役、二月工を起し七月竣工す。十二月新城火災ありしが、翌十三年正月再築を命じ三月に至りて成る。城は所謂平城にして、南を追手とし外郭に追手・四足・草深・横内の四門を設く。城内を二の丸・本丸とし本丸の西北隅に七重の天守閣を起す。元和二年四月家康の薨後、徳川頼宣・忠長相繼ぎて城主となりしが、寛永九年忠長甲府に移されてより城代を置きて之を守る。同十二年十一月茶町二町目よりの出火にて二門を除き悉く烏有に歸し、同十五年再建せしが天守閣の造營を得ず。明治二十九年本丸・二の丸を毀ちて歩兵第三十四聯隊の營舍を置き、郭外には縣廳其他の官公署及び學校等を設け昔時の壯觀を偲ぶ能はざるも尚石垣・壕址・淺間神社(新宮)・大歳御祖神社(宮ヶ崎町に鎮座。國幣小社。祭神、大己貴命(神部)・木之花開耶姫命(淺間)・大歳御祖命(大歳)。神部神社は當國總社にして式内の古社。淺間神社は新宮とも云ひ延喜元年大宮淺間社より移祭せるもの。新宮とは本宮(大宮淺間社)の對なり。鎌倉執權の崇敬篤かりしと云ふ。總社神主を志賀氏と云ひ知行百七十石。また廳守と云ふあり、神事總奉行にして國方とも稱す。これは兩社及び國中の大社、富士大宮・六所淺間・入山瀬淺間・豐積淺間・有度八幡白髭明神・志太八幡と八所の神事を司る。蓋し古國衙の遺官ならん。總社別當は總持院と云ひ眞言宗たり。大歳御祖神社は奈古屋本社とも稱し應神天皇四年の鎮座と云ふ。神部・淺間二社に東照宮を配して三社と稱せしに、近年東照宮を斥けて大歳御祖命を以て之に代ふ。一境三座同格神社なり。社殿の莊麗は貝原益軒をして、東國に於て日光を第一とし、淺間を第二とす、と言はしめ、また駿河日光の稱あり。蓋し祠殿の壮麗は國府崇敬の舊例なるを以て江戸幕府また之を厚遇したればなり。明治二十一年五月一日三社共に國幣小社に列ぜられ、普通三社を静岡淺間神社と併稱す。例祭、三月三日。特殊神事たる廿日會祭は四月一日より五日に亘る。〔小梳神社〕船屋町に鎮座。縣社。祭神霊速領佐之男命・奇稲田姫命。創建年代不詳。式内社に充てらるも定かなら

す。中世以降、少浮宮と稱せられ、小槌ナセウヅウと音讀して京都八坂神社の少浮井宮に乗強して舊名を失へりと傳ふ。德川家の祭崇厚く府城の鎮守神と崇む。舊社地は宮之町にして家康の七歳より十九歳に至るまでの宮所なり。寛永八年忠長は社殿を城外新谷町に移し、延寶二年更に現社地に奉遷す。例祭、七月二十七日。〔伊河麻神社〕中田に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。白鳳四年四月創建すと傳ふ。延喜の制小社に列す。舊稱を八幡宮・井鎌明神と云ふ。附近に鳥居森・香垣添など呼ぶ字の殘りたれば、古くは廣めしき社なりしならん。例祭、九月十五日。〔稲荷神社〕丸子に鎮座。郷社。祭神、倉稲魂命。創立年代未詳、一に永平七年の創建と傳ふ。江戸時代に除地五石四斗四升五合を有し、古來丸子の產土神たり。例祭三月三日。〔熊野神社〕安東に鎮座。郷社。祭神、速玉之男命・伊邪那美命・事解之男命。和銅年中の鎮座と傳へ、往古は盛なりしも近世衰ふといふ。別當を惣持院玄陽院と云ふ。弘長・慶長の交に造營あり。祭神は司盟の神たるにより、德川家康在城の時、罪の決し難きものある節は當社々頭にて火起請を行うて決せりといふ。もと熊野三社權現と稱し、江戸時代除地三石五斗を有せり。例祭、十月十七日。〔八幡神社〕八幡に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣命・崇道盡敬皇帝・保食命。府中八幡の遺れるものともいふ。永正十四年今川氏親は當社を再建す。今の社殿是なり。武田・豐臣二氏の崇敬あり。江戸時代朱印領二百五十四石、除地五町餘を有せり。例祭、八月十四・十五日。〔廣野神社〕國吉田に鎮座。郷社。祭神、速須佐之男命。創立年代未詳。一に景行天皇四十年の勅請と傳ふ。もと牛頭天王社或は津島神社と稱し、境内社八幡宮と共に除地七石一斗餘を有せしが、明治八年現在號に改む。例祭、九月十五日。〔別雷神社〕下石町に鎮座。郷社。祭神、別雷命・玉依比賣神。相殿保食神。創立年代未詳、もと有度郡加茂村に鎮りまし奈吾明神と稱せしを、中古今の地に奉遷し、のち稲荷神社を配祀せるもの。駿河國諸郡神階帳に「從五位上奈吾屋火雷地祇」と見えたるものこれなり。もと雷社・加茂稲荷社・加茂大明神・兩社大明神などと稱し、府中九十六町の產土神たり。例祭、五月十五日。〔感應寺〕寺町にあり。日蓮宗。常住山と號し日蓮宗三感應寺たる名刹なり。初め富士郡入山瀬村にありて眞言宗に屬せしが、日向來謁するや、寺附之に歸し現宗に改む。明應年間岩越刑部大輔、父の菩提のため之を其封内に移して修覆し日朝を請じて開山とし現寺號に改む。天正年間德川家康現地を寄せ諸堂を造營せしも、永應年間災上、更に安政の大震に悉く亡失す。文久二年に至りて日治上人現堂宇を再興す。〔華陽院〕巽田町にあり。淨土宗。玉柱山府中寺と號し、知恵上人の開創に係る。のち德川家康再建し、文慶和尚を中興の祖とす。當時寺領三十石を有し、堂宇頗る壯麗なりしが、安政の大震また數多の災厄に遭ひて次第に衰微す。境内に家康の祖母華陽院並に家康の五女市姫一照院の廟あり。〔柴屋寺〕丸子にあり。臨濟宗。天柱山と號す。連歌師宗長法師こゝに閑居せしを以て著はる。此地東は吐月峯に據り西には天柱山聳え、北は首陽山に接し、南は泉ヶ谷を隔てゝ丸子富士に對し幽邃閑雅を極む。宗長は今川義忠に愛せられ、宗祇に連歌を學び一休に就きて禪を修む。寺寶に後水尾天皇御宸筆を始めとし、宗長百韻連歌、藤愛の一節切、足利義政より贈られたる盧屋釜、武田信玄の用ひし村雲の茶臼、一休和尚の寄附に係る鐵鉢、堀河の作と稱する人丸像等を藏す。また當寺の竹細工に有名にして、今川氏が京都の嵯峨より竹を取寄せて移植せしと傳ふ。〔柴屋寺庭園〕指定名勝・史蹟。宗長の造築に係る。東西方に湧出する清水を引きて之に注ぎ、池畔に礎石を配し、西方に聳立せる天柱山を巧に利用せし借景園にして泉石の配置妙を極め雅致に富み、文人墨客の杖を曳くもの多し。〔靜岡別院〕屋形町にあり。浄宗大谷派。明治四年、大谷派二十一代嚴如の創建に係る。初め本市の上石町にありしが同二十二年當市出火の際に類焼し、同四十三年現地に移る。〔瑞龍寺〕曹洞宗。創建年代不詳。寺後の山上に鷹巣(秀吉の妹、家康に輿す)の墓あり。ために秀吉より香料、家康より朱印を寄せられ、駿州七寺の一なりと稱せられき。〔清水寺〕音羽町清水公園内にあり。曹洞宗。音羽山と號し、俗に清水觀音と稱す。永禄中今川氏の家臣朝比奈丹波守元長、京都東山の音羽山清水寺に擬へて創建、道因法印を開山とす。本尊千手觀音は惠心僧都作にして德川家康の寄附に係る。境内藥師堂本尊丈六の藥師如來像は長谷の國分寺より移せるものにして、聖武天皇の勅願により行基菩薩の開眼せる尊像なりといふ。境内に芭蕉・月巢の句碑あり。「駿河路や花たちばなも茶のにほひ　芭蕉」〔長善寺〕本通にあり。時宗。寶地山蓮地院と號し俗に一華堂といふ。陀阿爾敎上人の開創に係る。第十二世柴阿切臨上人は連歌を能くし、後陽成帝の時御歌會に召されて連衆となる。本尊阿彌陀佛は惠心僧都作にして、他に行基作聖觀音像(家康寄附)等を藏す。〔寶泉院〕下魚町にあり。淨土宗。金米山と號し永正三年觀譽祐崇の開基に係る。天正十七年、德川家康の側室西郷局を葬る。局は二代將軍秀忠の母堂なりしかば、奏請して從一位を贈り寶泉院と號す。翌後田藩三百石、紫衣勅許の寺格なりき。本尊木造阿彌陀如來立像は國寶たり。〔本覺寺〕池田町にあり。日蓮宗。青龍山と號す。正應二年、日位の

開基に係る。初め本駿庵原郡富士川町大宇中ノ郷にありしが、のち本市の宮ヶ崎町に移り、延慶二年現地に轉ず。爾來六百年曾て回祿の災に罹れることなし。現在同宗本山なり。〔臨濟寺〕大岩町にあり。臨濟宗妙心寺派。大龍山と號す。享祿年間國主今川氏親、三男恵永芳の爲に建立する所にして、天文五年瑞子氏輝卒するや當山に葬り其法號に因みて現寺號を附し、大休を開山とす。後奈良天皇勅願所に定め給ひ勅願を下賜せらる。永祿十一年武田信玄の兵火に罹りて焼上。元龜三年正親町天皇の勅命に依り武田勝頼之を再興す。天正十年再び德川家康の兵火に罹る。乃ち正親町天皇勅を下して德川家に再建せしめ給ふ。時に家康寺領百石を附す。斯の如く朝廷・幕府の歸崇厚し。寺中九院を施し末寺三百餘寺を統べ寺運隆盛を極めしも、維新後稍々衰類し末寺の廢滅するもの多く現に三十餘寺を存するに過ぎず。しかし舊觀を失ふと雖も伽藍の古雅にして庭園の幽靜なる尙ほ古を偲ぶに足るべし。諸堂宇整備す。書院に家康幼少時の居室及び學問所と稱するものを傳へ、護國道場に家康の守護神と稱する摩利支天を奉祀す。當寺の寫眞鳳に高く地方の信仰厚し。寺寶として後奈良天皇の勅願及び宸翰、正親町天皇の御宸翰、今川・武田・德川諸氏の古文書、雪舟・探幽等の畫幅多し。境内門の左傍に今川義元の廟あり。〔臨濟寺庭園〕天正年間德川家康が伽藍再建の時築造せしめしものなりと傳ふ。建物の北方なる傾斜地を背景として南面し、敷地に高低あり、東方一段高き大書院前の小池には尾上より溪谷風に導かれたる清水注ぎ、その水溢れて西方低き方丈前なる小池の飛泉となる。東側なる岩盤にはイハヒバ郡生し、主要部にはアカマツ・ウカノマキ・ゴエフマツ・ソテツ・サツキ等を植栽して江戸時代の景觀と大なる變更なきものの如し。〔大應國師產湯井〕井宮にあり。高僧元年大應國師當地に生れ此處にて產湯を使ひしと傳ふ。國師は諱を紹明といひ、幼にして建德寺の淨辨に仕へ、十五歳の時蘇愛して鎌倉建長寺に學び、のち宋に渡り臨濟の高僧虛堂を師とし、歸朝後、崇福(筑前)・萬壽(京都)・建長(鎌倉)等の諸寺を司り、後宇多法皇・北條貞時の歸依せられ、謚號は後宇多上皇より賜はれるもの。國師の木像は寺町少林寺にあり。〔由比正雪墓〕慶安四年七月二十六日、正雪、德川幕府を覆さんとせしも事發覺し、當地梅屋町の旅宿梅屋勘兵衛方にて捕縛に先ち自盡す。その首級安倍磯に梟せられしを誅人か竊み來り、寺町菩提樹院の井戸邊に埋めしといふ。兩してい、つか五輪の墓を立て後生を弔ふに至る。〔安倍川橋〕安倍川の架橋、もと安水橋と稱す。承和の頃此處に渡船三艘を置きしが、德川時代に至り舟橋を禁じ大井川と等しく肇臺にて渡川せしむることゝなし、以て別治に至りしが、宮崎德五その不便を感じ私費を投じ架橋す。のち縣營となり、更に大正十一年三月鉄橋架設工事に着手し、同十二年七月開通式を擧ぐ。長さ四九一米、經費約六〇萬圓。橋上の眺望絶佳にして夏時は納涼に適す。〔安倍川義夫の碑〕安倍川橋畔、側勒に在り。義夫の事蹟は小學國語讀本卷七に載する所にて著名なり。此の佳話を遺せるの地未だ旌表の金なきを慨し、昭和四年四月靜岡縣・靜岡市・安倍郡の三教育會主催となり、碑を建て安倍川義夫碑と題し、白隱禪師の原文中「不ト臨ンデ戰不ル知ニ忠臣之志一不ル臨ンデ財不ル知ニ義士心一」の一句を刻す。〔賤機山〕一に青葉岡とも稱す。靜岡市の北部に位し、南北に長き一埋沒丘陵の尖端をなし、安倍川その西部を南流し、その下流に著しき堆積作用を生じ、丘陵の西側と東側とは沖積平野面の高廣に著しき差を生ず。山の尖端に、國幣小社淺間神社あり、その背後に公園ありて靜岡市を一望の中に收め絶景佳し。古來歌枕として知られ、霞・鶯・鵑・鹿・雨等の名所たり。續古今・春上「今朝霞みれば霞の衣縫りかけてしづはた山に春は來にけり　後法性寺入道前關白太政大臣」

【靜岡電氣鐵道】私設鐵道。東海道本線袋井驛(靜岡縣磐田郡)より起り、可睡口驛を經て、周智郡森町の遠州森町驛に至る秋葉線を幹線(一・二一粁)とし、可睡口驛より可睡驛(周智郡久努西村)に至る可睡線(二・一粁)を分岐す。

シスカ　敷香

【敷香町】→敷香町

【敷香岳】樺太山脈の北部に位する一峯。標高一三七五米。邦領樺太に於ける最高峯たり。

シズカ　靜

【靜村】茨城縣下德國筑島郡の北部。利根川の北岸にあり。東に境町・長田村、北は機井村、西は香取村、南は利根川を隔てゝ五霞村と隣す。全村平地にて利根川の小支流中央を南流し、東南隣境町に入りて本流に合す。その東側は水田多く西側は畑地をなし米・麥・繭の產あり。西境附近にも些少の水田あり。縣道は境町より來りて村の中央にて二分し、一は北走し一は西北に走りて古河町(約九粁)に通ず。この地は和名抄、筑島郡色益郷の内とす。塚崎・横塚・志鳥・稻尾と合し靜村と改稱す。

【靜村】埼玉縣武藏國北葛飾郡の北端。栗橋町の西隣にあり。西より北に北埼玉郡と隣す。面積六・八八平方粁の小村。栗橋町を隔てゝ利根川に近く、全村平地にて南の一部に水田あるも他は全部畑地にして米・麥・繭の產あり。縣道は栗橋町に通じ、省線東北本線にこれに沿ひて北走し、村内北部に栗橋驛(明治十八年設置)を設き社線東武鐵道と接續す。此地は近世、鳥飼郡島中川邊領に屬し、江戸

時代、一橋領・酒井但馬守・幕領等の所領たり。大宇伊坂は義經の愛妾靜が義經を慕ひて東國に來り、義經の歿に死せるを聞き悲歎のあまり、此地に死せるを葬りしと傳ふる墓あり。

シズガタケ 賤ヶ岳 ↓賤ヶ岳

シズカリ 靜狩 北海道膽振國山越郡長萬部村の大字。室蘭本線靜狩驛（大正十二年設置）を置く。此地に靜狩鐵山あり、また靜狩泥炭形成植物群落は天然記念物たり。

シズカワ 靜川村 山梨縣甲斐國南巨摩郡の東部。富士川の西岸。北は西島村、西は大須成村、西南は曙村、南は原村、東は富士川を境に西八代郡共和村に接す。西部より東部に傾斜せる山地富士川の谷に迫り、富士峡谷の一部をなす。全村低地少く森林多く米・麥・繭・木炭の產あり。谷沿の縣道は信州より甲斐を經て駿河に出づる信州往還の一部に當り、他に西方山地より之に出づる二條の山道あり。此地は和名抄、巨摩郡川合郷の內にて近世は西河內筋に屬せり。もと切石村と稱せしが明治二十五年靜川村と改稱。大宇石切は富士川の右岸にして駿河西往還の驛次たり。〔寺澤城〕大宇寺澤にあり（一）に切石にありともいふ）。甲斐國志によれば、岡部次郎右衛門の築きし所にして、天正年間、菅沼藤藏定政（後に土岐山城守と更む）河內領を采邑とし、當城に治すと。〔善妙寺〕大宇切石にあり。日蓮宗。深立山と號し、もと眞言宗の庵室なりしが、善妙坊日受上人現宗に改め、天正三年一宇の精舍を建立す。境內庭前に一老松あり、日蓮上人蒔年の松なりと傳ふ。

シズカワ 志津川 【志津川町】 宮城縣陸前國本吉郡の東南部。志津川灣に富み、北は歌津村に、西は入谷村、南は戸倉村に各隣接す。北境に真任山（三六四米）・鹿內山（三八〇米）聳えその山脈東南に延び、南部にて大塚山（四一一米）の山脈延び來り、その中間を水尻川東南に流れて志津川灣に注ぐ。また清水川は真任山の東南斜面に發し東南に流る。志津川灣奥に志津川港あり。地質は海成の侏羅系よく發達し、爲に志津川統の名あり。水尻川下流にはやや廣き沖積地ありて耕地拓け、米・麥・大豆・園藝農產を出し、また養蠶盛にしてその中心地をなし旭製糸工場ありて機業も行はる。志津川港は三陸沿岸稀要の港灣として知られ、從來は施設不備のため利用價値も少かりしが、近年港灣の設備充實し、また水產事業の改良を計り、魚市場を設置し水產物需給の圓滑を計りし結果漁業とみに發達す。本町は嘗て城下町として發達し、のち郡役所を置かれしを以て本郡の中心地として盛なりし所。いま役務署・實科高等女學校等あり。東濱街道は海岸に沿うて通じ、また登米郡米谷町に至る本吉街道水尻川沿岸を走り、鐵道沿線には非ざるも各附近にバス通じ、海上にも汽船便あり定通不便ならず。この地は藤原秀衡の子、元良四郎高衡の領有にて旭館（朝日館）に居城す。地館は文治五年平泉舊原氏滅亡により、初代の城主高衡を失ひ、その後葛西氏の一族千葉氏を城主に迎ふ。而して戰國の頃までは政治の一中心地として發展し、慶長年中に火災あり、この地方にて燒失家屋二〇〇戸と記錄されしことより當時を想像するに難からず。德川時代には伊達氏の領地となり、その直轄地として時々代官が出張する程となり、行政の中心は他に移りしより、次第に衰微して明治初年の頃は單なる一漁村にすぎず。當時本吉村と云ひしが、明治二十八年町制を布き志津川町と改む。これより先、明治十一年この地に郡役所が置かれしにより町は回春し現在の發展の基礎となる。故に旅人の目を沾すは町の割合に旅館・飲食店の多きことにて、其他、商店の營業狀態を見るも公用の爲に參集する人々に依存せしことを語る。されど大正十五年郡役所が廢止されて以來、之等の營業は直接打擊を蒙り、間接には各種の商業も影響を受け甚しく不振に陷り、兩度の回春に努めつつあり。水尻川の川口に近く葭の茂れる鄙ガ潟あり。城主高衡はこの葭を切りて、明笛を造り、夜半城中にて吹奏し領民は城主の雅懷を稱しきと云ふ。市街の東に大在神突出し、その麓に近く荒島は鬱蒼たる雜樹に蔽はれ、南方遙かに海年鶴が渡來すると云ふ椿島あり。また海岸には松原續き、水清く海底は遠淺にて好海水浴場として知らる。〔志津川統〕北上山地南部地方及び志津川灣附近に發達せるジュラ紀の地層群。下部は三疊系の上部を不整合に覆ひ堆積す。海棲動物の化石を含むも、その種類及び分布狀態より次の如き層序が想定さる。下部（菊石層）最下部は礫岩にて頁岩・砂岩等互層し、ハーボセラス・ジュロテミイヤ・リトセラス等の菊石を產する。中部（三角介層）砂岩及び砂質頁岩より成り、基底には礫岩ありて下部とは不整合の關係を示し、箭石・三角介等の化石を產す。上部（貝層）基底に礫岩を有し中部とは不整合。黑色頁岩が主體にて、その中に砂岩等が挾まり、貝・障泥貝・三角貝等二枚貝の化石を含む。以上の各地層より出る菊石・三角介等により時代決定をなすに、概ね下部層は歐洲の黑ジュラ統に、中部は褐ジュラ統に、上部層は白ジュラ統に對比せらる

【志津川灣】 宮城縣本吉郡にある灣。三陸海岸に於ける リアス式海岸の一。灣岸は志津川町・戸倉村に跨る。附近は中世代ジュラ紀の海成層より成る。灣は沈降により生ぜるものにて十三濱崎を南角とし、歌津崎を北角となす。灣內に椿島・竹島・荒島・野島等あり、灣頭の北部荒島の西方は鎌地となる。

シズキ 志筑町 兵庫縣淡路國津名郡の中部。洲本町の北約一二粁、北は生穂町に、東は大阪灣に面し、南は鹽田村に、西は中田村に隣る。淡路島地壘の東側にありて山地は第三紀層より成り、淡流はこの斜面を浸蝕し沖積地を作り、米麥を產す。海岸は砂濱をなし、港深く灣入せざれども大阪商船の寄港地たり。この東岸に沿うては四國街道が走り、鹽田浦より西南に入り安乎・中川原を經て三原郡に入る。また市街の中央より西へ本郡を橫斷し、中田・多賀を經て西海岸に至る縣道あり。此の川の流域には米を產し、水田は灌漑により灌漑せらる。古來捕魚の盛なりを襲し、志筑と稱し世に賞美さる。町は四國街道に沿ひ發達し中部淡路の交通上の要衝たり。本町は中田村・生穂町と共に和名抄津名郡志筑郷の地にして、また志筑の浦は古くより港津をなす。本町の山麓にげ靜女の墓あり。源義經が戰死の後、靜御前は剃髮し名を丹性と改めて此地に閒居し、建曆元年終るると傳ふ。町には警察署・實科高等女學校等ありて、中淡路の地方的中心地となす。〔志筑神社〕 鄕社。祭神、少彦名命。創建年代詳かならざるも延喜の制小社に列せらる。志筑七社の一にして、天神とも申の宮とも稱す。例祭、三月二十一日・九月二十四日。

シズキ 後月 【後月郡】 岡山縣（備中國）三市十九郡の一。北は川上郡に、東と南は小田郡に、西は廣島縣深安郡に界す。面積一五五・〇八方粁。小田川上流の地を占め、地勢一般に高地に富み、北部は約五〇〇米、南部は約三〇〇米の山岳重疊し、何れも郡の中央に向つて傾斜す。南北兩山地の間を東西に小田川斷層が通ず。北部山地の水を集めて中央の谷を南下する小田川は、斷層谷に出るや方向を轉じて谷底を東流し、倉敷市の西北にて高梁川に合流して瀨戸內海に注ぐ。北部山地は牧場をなし牛を飼ふ。中央谷底は農耕よく行はれ米・麥・蘭草等を栽培し畳表・花莚を產す。近年は紡績・綿織物等の工業も勃興しつゝあり、山陽道は小田川北岸を東西に通り廣島縣に通ず。街村七日市附近より西北方に縣道出で、北隅の高山市村を經て山間の各郡邑に連絡す。また七日市より南方笠岡町に至る街道あり。社線井笠鐵道は省線山陽本線笠岡驛より本郡に入り小田川南岸を通りて井原町より高屋に至り、こゝにて社線神高鐵道に接續す。井原町は郡の主邑にして小田川氾濫原に沿ふ細長き町にして木材・綿織物・麥稈莫田等の集散地なり。郡は井原・高屋・西江原・芳井の四町と九ヶ村とを含む。安閑紀二年の條に吉備國後城屯倉を置くと見え、延喜式に後月郡名見ゆ。和名抄は士豆支と訓じ荏原・縣主・出部・足次の四郷及び驛家一を置く。爾後大變化なく以て今日に至る。

【後月】 ↓驛家（備中國）

シズク 志筑村 茨城縣常陸國新治郡の中部。石岡町の西隣にあり。北は林村、西は小幡村・七會村、南は新治村と隣す。村の西半は筑波山より發く山地の東端を占め、西境に櫻現山（一〇〇米）あり、北部も約一五〇米の山地をなす。東半は平地にて燃河川東南に流れ、北部は水田多く、東境附近は石岡町に發く沼田の一部をなし、南部は畑地多し。農業主にて米（陸稻・水稻）・大麥・小麥・大豆を產し、特產物に梨・栗・蒟蒻・繭あり。縣道は石岡町および北方柿岡町に通じ、石岡町には省線常磐線石岡驛あり。此地は和名抄、茨城郡城上郷の地なるべく、近世本堂氏八千石の封邑にして陣屋を大宇中志筑に置く。風土記、茨城郡の志筑川は本村の北方の燃河川を稱せしものにて、西嶺の間居山は雫山・滴山・滴杜と稱し古來歌枕として知られ梅・花・春雨・鳥・鹿・雪・田井・杜等の名所たり。萬葉集卷九に見ゆる師付の田井とあるも此地なり。風土記・茨城郡「從郡西南近有二河間一謂二信筑之川一、源出レ自二筑波之山一從レ西流レ東、經レ歷郡中一、入二高濱之海一」 萬葉・九、草枕 旅の愛な 思もる事もあらむと 筑波嶺に 登りて見れば 尾花ちる 師付の田井に 鳥がれも 寒く來鳴きぬ 新治の 鳥羽の淡海も 秋風に白浪立らぬ云々」（志筑城）村の西嶺、櫻現山にあり。下河邊政義の子、志津久三郎行幹の子孫居住して小田氏に屬す。興國二年六月、高師冬、平高幹をして志筑城を攻めしめ十一月城陷る。〔雲集寺〕大字中志筑にあり。曹洞宗。瑞龜山と號し本郡下大津村松學寺末たり。永祿元年創建。開基を本堂伊勢守源茂親、開山を模堂永範和尙とす。往時は羽州にありしを、正保二年茂親當國に移封の際に現地に移轉す。現堂は天保十二年燒失後の建築に係る。本尊釋迦如來を安す。いま末寺一を有す。

シズクイシ 雫石 【雫石川】 岩手縣岩手郡にある川。御明神村の西境駒ヶ岳（一六三七米）火山連峯に源を發し、雫石村を經、盛岡市の南西端にて北上川に合す。延長四二粁。水量豐富にて筏流し發電・灌漑に利用さる。一支流葛根田川は特に知られ、上流には直下三〇米の鳥屋ノ瀧・瀧ノ上温泉を有し、下れば玄武洞の峽谷を穿つ。一たび山麓線を出れば西山村の扇狀地が展開して農耕地となる。その山麓に葛根田發電所が設けられ、盛岡市に送電さる。また雫石川本流を利用して雫石發電所（瀧澤村）が設立され、深澤穴口に機械が据ゑられ動力源を供給する。北上川縱谷への雫石川扇狀地は穴口（瀧澤村）を頂點として築かれ、扇面には見事なる散村が形成され、且つ鹿妻用水により灌漑さる。

【雫石村】 岩手縣陸中國岩手郡の西部。東は鹿澤村に、西は西山村に接し、南は

雫石川を隔てて御所村・御明神村に對す。奥羽脊梁山脈の東側、岩手火山列・南昌山々塊により圍まれたる所謂雫石盆地の中心をなす。北部は猿倉を中心となす岩手山々麓地帶。中部は長森山・沼返山・杉合森山(二八〇米)等ありて草原荒地多く、西部には雫石・黒澤の二流によつて安山岩地域削制され、盆地平野を僅かに形成し、これを免がれし一帶が洪積層地帶をなし一二米内外の殘丘突出す。南部は七ツ森中心となり第三紀終末、舊三紀層を貫き噴出せるものの如き此等群山は全部石英粗面岩角岩より成り、生森最高にして三四八米を示す。主要産業は農業にて全戸數六一三の内農専業一八九戸、米作付反別二七四反餘、年收一・四萬餘圓を主位となし、其他、雑穀合計約二萬餘圓の收穫を得。また村内に本部を置く小岩井農場は、農・畜兩方面より大農場的經營をなし全國にのそ名を知らると。なほ副業的手工業によるフローリング・ブロック(床板)は本村を圍む山林地帶の檜・楢を採材し年額二・四萬餘圓を得つゝあり、將來家具・建築材等に及ぶ時は年産約五萬餘圓を得る見込なり。東北本線の盛岡市より分岐する省線橋場線は西南部を東西に通じ、雫石驛(大正十年設置)を置き、縣道秋田街道はこれに沿うて盛岡市に達しバス通じ、外に山伏峠街道・停車場街道・小岩井街道等の縣道ありて交通便なり。此地、中世は雫石庄の地、雫は滴にも作る。吉野朝時代の末、北畠顯信・滴石氏と共に東端部の雫石城に據りしことあり。其後、手塚左衛門尉の居城となり其の所領となりしが、南部信直の爲に亡ぼされ、玆に南部藩直轄地となる。明治二十二年町村制實施におよび雫石・林・下久保・野中・黒澤川・晴山・谷地の各部落を合して本村を置く。鄕社三社座神社は春日大神・天照大神・八幡大神を祀り例祭九月十六日。〔小岩井農場〕岩手山麓の本村及び瀧澤・西山の二村に跨る。海拔六二七米の高原に位し面積約三六方粁。もと小野義眞・岩崎彌之助・井上勝三氏の合資により創設され、その頭字を以て小岩井と呼びしもの。今は岩崎家の經營に屬す。場内は本部・育牛・育馬・耕耘・樹林の五部に分れ、馬・牛・羊等を飼育し、全國各地に供給しまたバタも出荷す。

シズサト　静里（しづさと）　**【静里村】**　岐阜縣美濃國不破郡の東端。大垣市の西隣。濃尾平野の北部に當り、東部には杭瀬川南流す。此地の高度は十米以下にして、從つて水害多き地方をなす。爲に輪中形成せられ静里輪中と云ひ大垣輪中の中に含まる。輪中内は水田が分布す。交通路は大垣市南部より西に新中道が通じ、西方垂井町にて舊中山道と合す。此村は和名抄不破郡三桑鄕の地に屬せしが。大字榆俣は郡村記に中世笠木庄に屬すと。同久德は中世に久德鄕と稱しこの附近三一四村の本鄕にて、續日本紀に曳常と記し、美濃神名記に引常と見えし地は此地ならんといふ。荒川には土岐彈正小弼頼遠の六男荒川七郎頼道この地に住みし由、土岐系圖に見ゆ。中曾根は中世中曾根鄕と云ひし地。また今の静里は鹽田と德光が合併せしものにて中世は久德鄕の中。鹽田正圓寺境内には經塚あり。有名なる白隱禪師は本村瑞雲寺の馬翁和尚に學ぶと傳ふ。〔長源寺〕大字静里にあり。眞宗大谷派。遍照山と號し、弘仁十三年弘法大師の開創に係る。嘉禎元年春親鸞上人關東より歸洛の時、住僧專讀は歸して弟子となり、廣善と賜ふ。之より眞宗に改め、古本尊大日如來を彌陀佛とす。

【静里】　愛知縣寶飯郡にありし村。明治三十九年、豐岡村・蒲郡町・神之鄕村と共に廢し、蒲郡町を置く。

シズタニ　閑谷（しづたに）　→伊里村(岡山縣)

シズタマ　鎮玉村（しづたま）　静岡縣遠江國引佐郡の北隅。西北は山脈を境に愛知縣に、東は磐田郡に、南は伊平村に界す。全村四五百米の山地にして、西境の城山(六五七米)最も高し。いづれも村内に傾斜し、都田川上流の谷を作れり。山地は殆ね森林にして薪炭を産す。谷澹の山道により、氣賀町及び愛知縣大野町に通ずる外、數條の山道ありて隣村に連絡す。この地は風土記傳によれば往時の餘戸の地にして、三代實錄・貞觀十六年の條に『遠江國澁垂神授從五位下』とあるは此地にありと。元弘以後は澁川氏世々ここに住せしといふ。村内に澁河金玉の墓あり。建武・元弘中鎌倉勢中に澁谷遠江守・澁川刑部大夫義秀なるものあり、此一族か。〔六所神社〕大字澁川に鎭座。鄕社。祭神、綿津見三神・住吉三神。外に速玉之男命等十五柱を合祀す。創立年代詳ならずと雖も康安二年再建の棟札を藏す。例祭、七月二十一・二十二日。

シズナイ　静内（しづない）　**【静内郡】**　→静内町

【静内町】　北海道日高國静内郡全部を占む。日高支廳管下。日高山脈西南斜面に位置し太平洋に面す。西に新冠村、東南に三石郡・浦河郡接し、東北は十勝國と界す。面積八〇四・五五平方粁。人口一〇・三七四。北部はイドンナップ岳(一七四五米)の外二〇〇〇米に近き日高山嶺連亙し、極めて高峻なる山地に占めらるるも漸次南方に傾き海岸平野に終る。染退川は北部山地より發し數多の支流を合せつつ中部を貫流し海に注ぐ。流域低地は耕地拓け町内文化の中心なり。静内・神森・目名・田原の諸字は下流々域に發達す。東部に捫別・布辻川また灌漑の便あり。流域に川合・春立等の字ひらく。農を主とし、なほ漁・林・牧畜業も行はる。米・小豆・燕麥・馬鈴薯・昆布・鮭・馬を産す。染退川の鮭孵化場は市父村に設けられ、新冠宮内省牧場は静内町東北千四粁にあり。省線日高線海岸に通じ、静内驛(大正十五年設置)・東静内驛(昭和八年設置)・春立驛(同上)を置く。海岸線定期航路ひらけバスの便もあり。此の地は明治三年舊德島藩の稻田邦植が本部・新冠兩郡及び支古丹支配を命ぜられ、依つて藩臣と謀り移住し、開墾に從事せしも不幸災に罹り財物悉く灰燼に歸す。明治四十二年、下下方村その他十五箇村を以て静内村を置き、二級町村制を布き、大正十三年一級町村制を布き昭和六年町制を布きて今日に至る。静内はアイヌ語シーフッチーナイにてアイヌの始祖の居りし澤、即ち大祖母澤の義なりといふ。〔神武天皇社〕大字ゲハウに鎭座。鄕社。祭神、神武天皇。明治四年此地に移住せる稻田邦植等社殿を創建して神武天皇を氏神に奉齋せる所に係る。もと下方座神社と稱せり。例祭、四月三日。

シズナミ　静波村（しづなみ）　岐阜縣美濃國惠那郡の南部。土岐郡多治見町の東方約二二粁。北は遠山村に、東は下原田村に南は串原村に、西は明知町に相隣す。木曾山脈の餘波東濃山地が起伏し、東側には斷層線が認めらる。大體六〇〇—七〇〇米の山地にて花崗岩より成る。山間部のため農業は餘り發達せず、副業とて柄杓を作る。交通も便ならず。西接の明知町には近年明知線開通し、その明知驛に出づるを便とす。鎌倉時代は手向鄕の中にして、室町時代は遠山庄に屬す。明治三十八年七月明知町の大字野志・杉野・東方と割き本村を置く。當時彌勒尊は日本立像三體の一にして御丈三尺伽羅木像にして行基菩薩の作と傳ふ。後光明天皇の正保年間松平の鄕長傘に安置されしがのち野志に移る。杉平の安住寺には遠山景行の墓あり、景行は明知城主にて元龜三年武田信玄の將秋山伯耆守晴近、美濃に侵入するや之を邀擊し、終に敗れ自刃す。のち安住寺住僧光國舜玉師は遺骸を敵中に盜み安住寺山中に葬ると傳ふ。本村の枝垂栗自生地は世に知られ、其の數僅少なるも本植物の分布上保存の必要ありて大正九年指定保護されしが昭和初年に枯死せるにより指定解除さる。

シズハタ　賤機（しづはた）　**【賤機】**　静岡縣安倍郡にありし村。明治四十二年同郡南賤機村の四箇字を北賤機村に編入し、同時に北賤機村は賤機村と改稱し、昭和七年本村を廢し静岡市に編入さる。

【賤機山】　→静岡市

シズハマ　静濱村（しづはま）　静岡縣駿河國志太郡の南部。駿河灣に臨む。燒津町の南方約六粁。北は和田村・大富村に、西は大洲村・相川村に、南は吉永村に、東は海に接す。面積六・四五方粁。大井川左岸の沖積平野にして水田開け、米作を主とす。燒津町より川崎町に至る二條の道路に沿ひ、これに交錯して藤枝町に至る道路もあり。此地は中世以降、遠江國榛原郡初倉庄の管内にして、向榛原と稱せられし地の聚落なり。大字宗高は一に棟高に作り、掛川志稿によれば民家が棟別に田地を持ちし故に棟高と稱せりと。大字藤守は南禪寺文書・建武二年官符に遠江國初倉庄内・江富鄕・吉永鄕・鮎河鄕・藤守鄕とあるは藤守の地なり。〔大井八幡宮〕大字藤守に鎭座。鄕社。祭神品陀和氣命。相殿大山咋命・大己貴命。延曆年間の創建と傳へ、當村山王權現を相殿として、また八幡宮を攝社として勸請しのち仁和年間諏訪神社を合祀す。文久元年諏訪神社を末社に、八幡神社を本宮に遷し奉り社號を川除八幡宮と改む。足利尊氏・今川貞世社領を寄進せしことありしが、のち戰亂のため社頭衰退す。江戸時代朱印領二十石五斗を有す。例祭二月十七日。

シズハラ　静原（しづはら）　京都府愛宕郡の地名。市原・野中と合して静市野村を建つ。夫木・二二「やとしめてなに山かつの静原やしつかなるへきあたら住居を　信實」

シズマ　静間村（しづま）　島根縣石見國邇摩郡の北端。日本海に臨む。東部は安濃郡に接し、東方太田町との間に長久村を挾み、東北部は鳥居村に接す。西は五十猛村に隣り南は大屋村に界す。西南部一帶は約一〇〇—一五〇米程の準平原をなせる低き山地あり。東北部には西北流する静間川ありて沿岸僅かに低地開く。海岸低地乏し。米・麥・甘藷の産あり。養蠶も行はれ、牛の家飼をも行ひ、また木炭を出し水産に從事するものもあり。東方太田町より日本海岸に出でて南下する道路中央を走り、西部にて之より分れて東北方へ走る一道あり。省線山陰本線中央を東西に通過し静間驛(大正五年設置)を置く。和名抄に安濃郡静間鄕と云ふは本村及び大屋村の地に當る。海岸に近く垂水山あり、その麓に二個の天然岩窟あり、静岩窟といふ。洞門の高さ約二米、幅約三米、窟内は相通じ奧行約四五米、横約三六米、高さ一三米弱、俗に千疊敷といふ。大己貴命と少彥名命が協力して國土經營の際籠居せる遺跡と傳ふ。〔静間神社〕字垂水に鎭座。鄕社。祭神、大己貴命・少彥名命。延喜式神名帳所載の神社なれど創建年代を詳にせず。例祭、四月十五日・十月十五日。

シズミ　志都美村（しづみ）　奈良縣大和國北葛城郡の中部。奈良市の西南約一六粁。北は王寺町、東は上牧村に、南は二上村・下田村、西は大阪府中河内郡堅上村・南河内郡國分村に夫々接す。西北部は生駒山脈に連り、東側に斷層崖を向ける地壘をなし、その南に接續して二上火山群あり。東境は洪積層より成る馬見丘陵の西斜面を占め、兩者の間に葛下川が北流して沖積層を堆積す。西境には明神山(二七四米)ありて二上火山群は安山岩

りは先進山宗教学の盛んなりしが、今は故学となれり。

りて古墳墓を存するのか。

り。荒廃は高下川流域には特に著しく、その間に点在する村々は、[illegible]・分川沿岸のみなり。其他幽邃・渡・渡・[illegible]・[illegible]・[illegible]

三年）島津義弘の築造したる新築城址あり。（治革）泗川は新羅の史勿縣にして、景德王の時に泗水と改め、固城郡に屬す。高麗の始め晉州に隸屬せしめ、更に顯宗の時に泗州と改稱し、明宗は此處に監務を置けり。李朝太宗に至り東城と改め、のち鎮を置き兵馬使を以て判縣事を兼務せしめしが、のち泗川縣監と稱ぜり。建陽元年に泗川郡守と改め、光武十年（明治三十九年）隣接郡より南陽・文善の兩面を本郡に移屬し、次で大正三年府郡廢合に際し、晉州郡の一部と昆陽郡の大部とを併合し泗川ほか十餘面となり、大正七年洙南・文善兩面を以て三千浦面（昭和六年に邑となる）を建て今日に至る。元昆陽郡は新羅時代の稱呼を許にせざるも、高麗の昆明縣は晉州郡に隸屬し、李朝世宗元年に南海縣（いま南海郡）を合して昆南縣と稱し、同十九年（永享九年）更に南海縣となす、のち晉州の金陽部曲を合し、鐵城・昆山等の改名を經て昆陽と改む。大正三年に西面・金陽面は河東郡に屬し、他は悉く本郡に來屬せり。

【泗川面】朝鮮慶尙南道泗川郡の東北部。西は昆陽灣を隔てて昆陽面に相對し、南は正東面及び泗南面に、北は柱洞面と晉州郡井村面に、東は晉州郡金谷面に各相隣接す。東境に鼎仙山（一七五米）の聳立する外は著しきものなく土地低平にして所謂泗川の沃野を成し、西部は昆陽灣頭深く侵入して淺堆を成す。農產物の主なるものは米・大麥・大豆・棉花等にして水產物に貝類・和布・淺草海苔等あり。面邑泗川は晉州・三千浦間の略中央に位置し兩者の間には乘合自動車及び馬車の便あり。泗川は沃野を控へ物資の集散活潑にして陰曆三・八の市日には近隣の諸面より來集し穀類・棉花・食鹽・海草類の取引行はれ頗る活氣を呈す。泗川郡廳・面事務所・警察署・郵便所・地方法院出張所・金融組合・小學校等あり。古くは史勿・沛水・東城等と稱す。○柏津。（泗川戰）慶長征韓役の一戰。慶長二年八月島津義弘、小西行長と軍を進め全羅道より慶尙道に入り、その子家久と泗川に留まり新築を築き慶尙道を管す。義弘兵を出し附近の郡邑を剽掠す。翌三年九月明將董一元、兵十萬を率ゐ島津氏の屬築望津を攻めしに築中にありし明人叛き火を放ちしため島津氏の兵みな走りて新築に集まる。十月朝日明軍大擧して新築を攻むるに當り、義弘二千の兵を以て奮鬪し大いに明軍を破り、その臣寺山久兼別働隊を率ゐ明軍の背後を襲ひその輜重を破る。之により明軍大敗し遠く退き、義弘の兵斬首三萬八千餘級に及べりといふ。

ジセン　耳川　朝鮮總督府鐵道局鐵道慶全南部線の一驛（大正十四年設置）。朝鮮慶尙南道晉州郡晉城面にあり。

シリー　宍粟郡　兵庫縣二十五郡の一。縣の西部山間に位置し、北は朝來郡・朝來郡・岡山縣八頭郡に、東は神崎郡・飾磨郡に、南は揖保郡に、西は佐用郡・岡山縣英田郡に接す。北部は隆起準平原を示す。中國山地が東西に走り主として花崗岩より成り、その南には中世層及び流紋岩の廣き分布を見る。東境には日名倉山（一〇四七米）、北部には三室山（俚稱シロー峯一三五八米）・鷲無山（一一三九米）・笠杉山（一〇三二米）・段ヶ峯（一一〇三米）があり、南する程高度を減じ、千町ヶ峰（一一四一米）・一山（一一〇六四米）・黑尾山（一〇二四米）等が中央に聳ゆ。此等山地は日本海側と瀨戸內海との分水嶺をなす。本郡の川が必從河をなし開析して瀨戸內海に入る。即ち西部に千種川あり、中部には引原川と三方川が合流し揖保川となり南流す。南部にては山崎町附近は盆地狀をなす。川の流域は耕地化し、米・麥・大豆・大根・藺を產し、大立鑛山より銅を採掘す。交通路としては山崎町より揖保川の谷によりて因幡街道通じ、神戸村より豐岡町道分れ、また山崎町より左へ佐用道分岐す。この郡は孝德天皇の國郡設置の際、揖保郡より割きて置きしものにして、後世しばしば宍を宍と誤りシソーと訛る。和名抄には志佐波と註し、三方・高家・比地・猶野・安志・石保・伊和・土方の八郷を置く。いま山崎町外十八箇村を包括す。山崎町は本多侯一萬石の城下町、もと郡衙の所在地にして、また交通上の要地たり。古代より此地は文化の局部約中心をなし出雲と自然的なる道路により連絡されし爲なるべし。また戰略上重要にして戰國時代には赤松氏の居城となり、更に尼子氏が出雲より此地を侵略し、豐臣秀吉も長水山を攻撃せし事あり。なほ此地方には伊和大神にまつはる神話傳說殘る。

ジリー　時草面　朝鮮忠淸南道舒川郡の中央より稍東に位置す。東は馬山面、北西は文山面、西は舒川面に各相隣接し、南は錦江の支流吉山川を隔てて鰲山面と相對す。舒川平野の一部を成し配る低平にして地味肥え、且つ舒川水利組合の蒙利地域に屬し良米の產地として著はる。住民は農業を主とし、殊に婦女子は苧布の製織を業とする者多く、韓山苧布と共に各道に聲價高し。產物には米・大豆・苧布・煙草・生牛等あり。產業密度頗る大にして域內普く分布す、その主なるものに厚岩里・豐亭里・草峴里・鳳仙里・臺城里・新谷里・新興里・仙東里・仙岩里等あり。

ジリー　地藏　【地藏島】宮城縣宮城郡にある島。松島灣內の一島。鹽竈港口にあり。島上に地藏島燈臺（大正九年設置）あり。燈質は閃紅光、光達距離八浬。

【地藏峠】磯氷峠の北東約一二粁に當る峠。最高點は郡島縣磯氷郡細野村・島潟村との境界上に位し、海拔約七五〇米。北東方に進めば鳥川を橫切り榛名湖畔に至り、南東方に降れば中山道に沿ふ原市町に達す。

【地藏岳】赤城山（郡馬縣）の一峯。

【地藏峠】淺間山の西方約九粁に當る峠。最高點は一七三三米、西方の湯ノ丸山（約二一〇〇米）と東方の鹿の塔山（二二二八米）との中間鞍部に位し、北側は長野縣小縣郡鹽津村に、南側は群馬縣吾妻郡嬬恋村との境界に跨る。北降路は淺蕨山（一九一五米）の西麓に廻り長野街道に、南降路は五十番茶屋を經て北國街道に連絡す。

【地藏峠】山梨縣南巨摩郡富河村と靜岡縣安倍郡梅ヶ島村との境界に跨る峠。西南路は安倍川流域に達し、北東路は二路に分れ、いづれも富士川畔に通ず。

【地藏岳】觀音ヶ岳（山梨縣）の別名。

【地藏岳】日本南アルプスの一峯。鳳凰山の一岳。

【地藏峠】長野縣下伊那郡にある峠。北東降すれば小盜川の畔長野縣下伊那郡大鹿村大河原に、南西降すれば秋葉街道に當り、遠山川に沿ふ上村字上町に通ず。西北麓に鬼面山（一八八九米）、南東麓に尾高山（二二二二米）聳ゆ。

【地藏崎】↓美保關町（島根縣）

【地藏ヶ鼻】↓佐賀關町（大分縣）

ジリージ　地藏寺村　高知縣土佐國土佐郡の中部にありて高知市を去る西北一五粁にあり。北は大川村・森村、南は土佐山村・上八川村、西は本川村、香川郡清水村に接す。四國山脈の中にあり主として古生層より成る、この層は和泉山脈より九州山脈に被くものにして日本の外帶と內帶とを分けるもの。西北に稻叢山（一五〇六米）、南に陣ヶ森（一〇一三米）・三辻山（一一〇八米）等ありて、相川は東境を流れ、地藏寺川は之と合し來は吉野川に合流す。地藏寺川の流域には水田見られ、其他移の良材・櫟草等を產出す。交通は山中なるため微れ不便、地藏寺川の谷より吉野川の谷に出づる道が唯一の交通路にて高知街道に連絡す。本村は舊藩時代には鳴村森と共に森郷と稱せしも、明治二十二年分離獨立して現在に至る。またこの地方は戰國時代に落武者の入り來りて居を占めし所なりといふ。〔平石の乳公孫樹〕指定天然記念物。大字地藏寺字日浦に在り。小山麓の傾斜地に立てる稀有の公孫樹にて高地面即ち東側に於て遇れる根元の周圍九・三米、それより一・五米上の幹周七・九米、高さ約三〇米に達す。幹は地上四・四米の所にて七本に岐れ、大なるもの一三本、小なるもの四〇餘本の氣根（乳柱）垂下し樹勢極めて旺盛なり。乳柱の最大なるもの長さ約四米、基部の周圍約一米に及ぶ。この木もと平石寺屋敷にありし寺院の境內に植ゑられしものなり。この樹の乳柱地に達するときは平石部落の衰微を招くとて、昔時は氣根に綱をつけ牛に牽かしめ折り取りたりといふ傳說あり。乳なき婦人はこの樹により乳の出るやう願せるより、乳公孫樹と呼び靈木となす。樹幹の基部に於ける凹所に地藏・觀音石像・子安地藏の小祠を安置す。

ジリードー　地藏堂町　新潟縣越後國西蒲原郡の西南端。三條市の西方約一一粁。東は西川を境に島上村に、北は國上村、西南は信濃川放水路を挽して三島郡大津村に界す。面積一・〇二方粁。信濃川支流西川と放水路新信濃川の分岐點に近く新潟へ上下の載行あり、米穀集散地として郡內屈指の商業地たり。省線越後線の地藏堂驛（大正元年設置）あり、縣道四通し三條・寺泊・與板へバスの便あり。此地は近世蒲原郡出雲田庄に屬し、毎年六月四日より十日迄市立ち、これを地藏堂市と稱す。（地藏堂城）一に藏王堂城と稱す。城主丸田因幡守は大面城主丸田伊豆守の弟にて上杉景虎に屬從し、景虎の歿後、天正八年兄弟共に景勝に降る、のち移封となり、慶長三年より堀秀政の區畫美作守居住す。

ジリーバシ　地藏橋　省線小松島線の一驛（大正二年設置）。德島縣勝浦郡勝占村にあり。

シタ　下夕村　富山縣越中國上新川郡の西南隅。神通川右岸に沿ふ。北は給嶋村、東は福澤村、南は岐阜縣吉城郡船津町、西に神通川を境に婦負郡細入村に隣す。全村山勝ちにて東より西に傾斜し、神通川は西南部にて高原川を合し西境を北流す。谷沿に僅少の田地・桑園を見るも略ど森林をなし、林業を主生業とし、薪炭の產あり。村の略中央を西流する神通川の一支長棟川あり。西部を神通川に沿ひ、南方笹津驛より岐阜縣船津町に至る鐵山用軌道通ぜり。また省線高山本線は對岸を通り、楡原・猪谷兩驛に近し。本村より今生津礫岩を產す。また神通川水系の高原川を利用せる猪谷發電所（出力二二三〇〇キロワット）・長棟川發電所あり。近世には太田庄（大字太田薄波・吉野・伏木・小糠・舟渡・猪谷は此庄に屬す）及び給嶋寺郷（大字牛ヶ瀨・廣生・今生津・布尻・町長・寺津・薄波は此郷に屬す）の內なりき。大字牛ヶ瀨は往時飛騨入りの諸貨物は此の邊より檢破なるため牛を增して運搬せるよりその名あり。此地の公錢の坂には往時公錢場屋敷あり、舟渡により此地より富山藩岩稻邊に輸出する諸貨物に稅金を課ぜり。大字廣生には瀧谷瀑あり、高さ三〇米、幅二米、附近勝景に富む。大字猪谷の南端には藩政時代の郡所址あり。

シタ　志太　【志太郡】靜岡縣（駿河國）十三郡の一。縣の略中央に位し大井川左岸に沿ふ。東より北へかけては赤石山脈の一支流により安倍郡に、東海岸に近き一部は靜岡市に、西は大井川を境に遠江國榛原郡に對

し、東南は駿河灣に面す。面積五六二・〇六方粁。東境の山脈は更に村内に數條の支脈を出し、大井川の谷に迫る。北部に屹立せる三ツ峰（一三五〇米）・七ツ峰（一五三三米）・天狗石山（一三六六米）・無雙連山（一〇八三米）等いづれも峻々たる壯年期の山巒を呈し、南部には大井川の見事なる扇狀地展開し、瀬戸川の沖積と相俟つて所謂駿河海岸平野の一部をなす。全部五町二十三村、業落は南部平野に密集せり。山麓に沿ふ岡部町・藤枝町・島田町・青島町はいづれも東海道の宿驛として往時より榮えし所今は地方的中心市場なり。また海岸の焼津町は漁港として附近漁業の中心地、鰹節を產す。平野は水利に富み水田よく拓け米產多し。北部山地は概ね森林なるも平野に近き傾斜地には桑・茶・蜜柑等を栽培す。大井川を下す木材は島田町にて集散され、藤枝町と共に製材盛なり。省線東海道本線は安倍川沖積地と之分つ山脈の南端の海に迫る所を通り、部内に入り、島田町に至りて對岸の金谷町で宇津ノ谷峠を經て部内に入り山麓に沿ひ、大井川の橋によりて西に渡ビ、その他は濱松市より相良町（榛原郡）を經て、藤枝町・岡部町に至る社線藤相鐵道通ぜり。東大寺天平九年の文書に志太郡名見充、延喜式・和名抄・拾芥抄皆之に從ふも萬葉集に廣太、後風土記は止駿に作る。和名抄は大長・大津・菜原・餘笛・刑部・茨原・夜梨・大野の八郷を置く。名稱の起原は羊齒類の植物の本郡に多く生ずるに因むといふ。明治二十九年益津郡と合併し更に志太郡の稱を建つ。

【志太之浦】 駿國の浦名。萬葉集に見ゆ。いま志太郡の南部大井河の河口の附近の海濱を稱せしものならん。萬葉・一四「志太の浦を朝こぐ船はよしなしに漕くらめかもよしこさるらめ」

シタ　志田

【志田郡】 宮城縣（陸前國）十六郡の一。北は栗原郡、東北は遠田郡、南は宮城郡・黒川郡、西は加美郡に各隣接す。面積一八六・五六方粁の小郡。南方に鹿島臺東西に連り高寺山（一四〇米）聳立す。北部は大崎耕道の一部を占め鹿島臺の北麓に沿うて鳴瀬川東に流れ東部にて南に彎と東境を流る。東南部に品井沼あり。北部の平地は鳴瀬川の沖積地にて耕地よく拓け水田米作を主とし外に麥・大豆・馬鈴薯あり、養蠶も行はる。國道陸羽街道は西部をほぼ南北に走り、これに交會する縣道は西北部に位する鄙の中心邑古川町より放射狀に西方に通じ、省線東北本線は東部を南北に貫通し、西北部を東西に省線陸羽東線通ず。國造本紀に成務天皇の朝志久麻彦を以て思國造となすとあり、思國は思太の太の略落にて即ち本郡ならんといふ。續紀慶雲四年の條に信太郡、同書延曆八年の條に志太郡と見ゆるも本郡の地ならん。延喜式・和名抄共に志太郡に作り和名抄は長岡・酒水の二郷及び餘戸一を置く。元祿國以後志田に作り今之に從ふ。

【志田村】 宮城縣陸前國志田郡の西北部。古川町の東南に隣り、北は玉造郡に、西は加美郡に各隣接す。大崎平地の西北條に當り土地低平、鳴瀬川の一支多田川の支流村内を流れ灌漑の利多く、水田よく拓け、米の他に麥・馬鈴薯・蘭を產す。國道陸羽街道は東南部を僅に掠め、古川町より西方中新田町（加美郡）に至る縣道中部を東西に走り、省線陸羽東線北部を通じ中新田驛（大正二年設置）を置き、更にこれより社線仙北鐵道を分岐す。此地古くは和名抄志太郡餘戸郷の地ならん。〔安國寺〕 大宇柏崎にあり。臨濟宗妙心寺派。興聖山と號す。開應二年、足利直義、尊氏の志を體ざ曾祖石の說に從ひて諸國に建立せし安國寺の一。開山疎石。慶安年間藩主伊達忠宗雲居國師を瑞巖寺に請じて當寺を中興せしめ寺領を附す。

【志田山】 神奈川縣愛甲、津久井二郡の境にある山。志田峠ともいふ。三峰峠の西に位し共に厚木方面より甲州街道に出づる山路。永祿十二年武田信玄小田原を圍みしが敗けず。後軍を引返さんとせし時北條氏照・氏邦等その歸路を要して三峰峠に戰ひしが信玄の子勝頼志田山より北條勢を擊つてこれを破る。

シタ　信太

【信太】 陸奥國（宮城縣）の古地名。和名抄に志太郡信太郷あり、諸本は志太郷に作る。古は思太國造ここに治し、のち郡家ここにあり。その地今の志田郡三本木町・高倉村の邊に當る。

【信太（郡）】 常陸國（茨城縣）の古郡名。續紀養老七年の條に郡名見え、和名抄は志多と訓じ大野・高來・小野・朝夷・高田・子方・志萬・中家・島津・信太・桑濱・稻敷・阿彌の十三郷及び驛家一を置く。本郡は白雉四年筑波・茨城の二郡の中を割きて置きしものと稱せられ風土記には舊稱を日高見國といふとあり。中世信太庄といひ郡名を失ふ。文祿檢地の際其稱を復せしも、のち五郷を河内郡に割き郡境大いに縮小す。明治二十九年河内郡と合併して新に稻敷郡を建つ。

【信太】 常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に信太郡信太郷あり、その他今の稻敷郡江戸崎町・馬崎村・末原村の邊に當る。蓋し信太郡家のありし地にして、中世以降は信太庄と稱せしこと東鑑、文治四年六月の條に見ゆ。延喜兵部省式に常陸國信太馬牧とあるは本郷の北に當る。

【信太流海】 ↓榎浦流海

【信太浮島】 茨城縣稻敷郡に屬する霞浦中の浮島の古稱。浮島は往時舊信太郡に屬せるよりかくいふ。◎浮島村

シタイ　繼山　出雲國（島根縣）仁多郡の山の名。風土記に見ゆ。同郡阿位郷（今の阿井村）の高尾山を俗に志多布留

ゆるといふがそれなるべし。風土記・仁多郡「懸山、郡家正南廿三里、古老傳云、和爾懸二阿伊村坐神玉日女命二而上到、爾時玉日女命、以石塞ヶ川、不得上會所ヶ懸、故云二懸山一」

シタカ　志託　丹後國（京都府）の古地名。和名抄に加佐郡志託郷あり。その地今の加佐郡岡田上村・岡田中村・岡田下村の邊に當り、岡田下村の大字志高は郷の遺稱。諸本は訓なきも高山寺本は之多加と註す。正應田數目錄に加佐郡志高莊田二十三町一段百七歩とあるも此地なり。

シタカラ　舌辛　北海道釧路國支廳阿寒郡にありし村。昭和十二年鶴居村・阿寒村の二村となる。

シタコロベ　下頃部　省線根室本線の一驛（明治四十三年設置）。北海道十勝國十勝郡浦幌村にあり。

シタダ　舌田　愛媛縣西宇和郡にありし村。昭和十年他の一町二村と共に廢し八幡濱市を置く。

シタダン　下段村　富山縣越中國中新川郡の西部。五百石町の南。東は上段村、南は釜ヶ淵村、西は大森村、北は五百石町・高野村に界す。面積五・九二方粁。常願寺川の右岸沖積平野にあり全村水田にして農業を主とし、米・麥・馬鈴薯・蔬工品の產あり。社線富山電氣鐵道に沿ひ、下段驛（大正十年設置）を置く。また五百石町より南方上滝町方面に至る縣道もあり。村名の起原に就ては本村東部を貫流する若狹川地帶が奈良時代すでに部落を形成し、其の東部は約二〇米を登りて段丘あり、上の部落を上段村といひ、下の部落を下段村と稱するに至れりと。この地近世、新川郡高野郷に屬す。

シタノエ　下ノ江村　大分縣豐後國北海部郡の東海岸。佐賀關半島の瓢部に位し臼杵灣に臨み臼杵町の北方にありて間に海邊村を挾む。西は下北津留村に界し北は佐志生村に接す。全村丘陵起伏し低地乏し。東岸は山地海に迫り海岸線屈曲少し。全村山林地にて薪炭の產あり。佐賀關半島の瓢部を南北に走る街道西南隅を掠めて臼杵町に至り、それより一道岐れて東北方へ延び東岸には海岸に沿ひ村道通ず。省線日豐本線中央を東北より西南へ走りて下ノ江驛（大正四年設置）あり。ここは附近町村と共に要塞地帶の一部に屬す。小潮を擁し、下江港といふ。慶長十四年、毛利秀頼この港に來り、其後再び來港して假屋を海濱に設け貿易すといふ。

シタバ　下波村　愛媛縣伊予國北宇和郡の西部。宇和島市より西南約一〇粁。北に遂子村、東は三浦村、南は北灘村と界し、西に蒼潮村に隣す。北部は狹長なる半島狀の段前の南半より成り南部との間に宇和ノ海を抱く。東方宇和山地の西麓海に臨みて急に低くなり一〇〇—三〇〇米の急崖をもつて沈水し、出入烈しくリヤス式海岸をつくる所にあり。南部は一〇〇—二〇〇米の丘陵東西に連亙し北灘村との境は二五〇米餘の山地をなす。其他は比較的低平にして蘭・麥・芋等の農產物を出しまた水產業を營む。宇結出は主邑にしてまた漁產をなす。此地古文獻の徵すべきものなく史蹟詳かならざるも島津の浦は古戰場にして、鎧の裏には平家落人の遺跡ありといふ。

シタヒ　下樋山・下檜山　↓西能勢村（大阪府）

シタヒモ　下紐關　↓大本戸村（鳥取縣）

シタミ　志多見村　埼玉縣武藏國北埼玉郡の中部。忍町の東方にて隣に太田村を挾む。東は禮羽村、北に須影村、南は田ヶ谷村・高柳村と隣す。面積六・八五平方粁の小村。全村平地にて畑と水田なし東部にのみ畑地ありて米・麥・蘭の產あり。忍町より縣道來りて村の北部を過ぎ東方加須町（約三粁）に通ず。また南方騎西町より來り北方羽生町に通ずるものあり。社線東武鐵道伊勢崎線に村の東北方を西北に走り、加須町に加須驛、北隣須影村に須影驛を置く。この地は近世、埼玉郡羽生領太田庄に屬し、江戸時代は柴地藩領入り交りし地なり。

シタミ　下見村　廣島縣安藝國賀茂郡の中部。北に寺西村を隔てて西條町に對し、東は御薗宇村に、南は郷田村に、西及び西北に原村に界す。面積四・五三方粁。西條盆地の西部低地を占め、東南及び西南隅に一〇〇米の丘陵ある外は全村低平なる沃地にて農業盛んに行はれ優良なる米麥を產す。米は西條町に於て清酒の原料となり、麥よりは醬油を製す。西條町と連絡する村道を始め數條の道路開けて交通を助く。上古は賀茂郡香美郷（和名抄）に屬せしものの如し。中世は西條庄の地頭の支配に屬す。戰國時代は大内氏鏡山城（吉土實村）に據りその陣屋の支配をうく。のち毛利氏の領たり。

シタミ　思淡　美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄に方縣郡思淡郷あり、刊本恩淡に作るは誤なり。その地今の岐阜市長良志段見の邊に當る。

シタミ　志段味村　愛知縣尾張國東春日井郡の南部。河戸市の西北約四粁。北は篠木村・高藏寺町、東は水野村、南は旭村・守山町、西は鳥居松村に各隣接す。村の南部には第三紀層より成る丘陵連り、北境には庄内川流れ、内津川を合す。庄内川は此地より天井川をなし灌漑に便せず、丘陵地に溜池を設けこれによりて米作を行ひ、麥蕎も亦盛なり。また此地一帶に鹿炭の產あり。本村は主要道路に沿はず鐵道も通ぜず交通不便なり。本村は和名抄、山田郡志淡郷の地。明治三十九年七月上志段味村と志談村を廢して本村を置く。志段味城は尾陽雜記に二の曲輪の構へ堀のめぐれる跡殘り、城主は水野氏有衛門作にして藤島正則が清洲在城當時之に屬し、正則安藝の廣島に轉

封後は浪人となり農民となると見ゆ。龍泉寺城址は往昔吉根にありしも所在地は不明なり。安土創業録には弘治二年織田武蔵守信行、尾張春日井郡龍泉寺に城を築き、同國岩倉の織田伊勢守信安と約し尾州東郡を押領せんと計り後腰城となりし由見ゆ。また上志段味には勝手明神の古墳ありて前方後圓式古墳なり。之は往古南朝に屬せし水野又太郎良春の率ゐる郷人・士卒亀を避けて本村にかくれ吉野勝手の明神を勧請しここに祀りしもの。また王塚とも呼び前方の部は全く壊れ、後圓部及び南西部半分は穿たる。また當國山西叢に存する古墳は實に本郡中最大のものにして前方後圓式なり、里人之を白鳥陵と云ふ。其他松林中または當國山中腹には無數の圓形式古墳存す。次に東部東谷山(一九八米)の西腹にも圓形式の古墳多く存す、里人の言によれば名古屋城築造當時石垣使の岩石を給するために塚を毀きて石材を運べりと。中志段味の大日洞は昔は洞場なりしも今は架橋し、天正の役豐臣秀吉の將池田勝入、森武蔵は兵を三隊に分ち三州に向はんとし此の洞を越えし古蹟なり。龍泉寺山は一に龍の御山とも稱し龍泉寺あり、庄内川を控へ風光よく、松洞山八景あり。天正十二年長久手の戰に羽柴氏の軍敗れ、秀吉德川氏の軍を襲はんとし樂田よりこの地に到る。すでに家康兵を小幡に敗む。秀吉その用兵の機敏に驚き龍泉寺に陣し次で樂田に歸る。此寺は龍の御山と稱し古へより和歌の名所たり。夫本・二〇「雲はれぬ龍の御山のほとゝぎすそらなかけりて鳴わたるなり 伸正」(龍泉寺)大字吉根にあり。天台宗。松洞山大行院と號し尾張四觀音の一なり。延暦年間僧最澄の開創に係る。古來熱田神宮の鬼の院と稱せられ、熱田八劍中の三劍は當寺の地中に埋められきと傳ふ。創建以來屢々炎上せしため寺運衰はざりしが、慶長三年僧秀純入りて復興に努めしより寺運隆昌に向ひたり。堂宇中仁王門は寺寶地蔵菩薩立像(本造)一軀と共に國寶たり。天正十二年長久手役の時、羽柴秀吉この寺に宿せしことありと。

シタミ　志談　→志段味村。

シタヤ　下谷　【下谷區】東京市舊十五區の一。現在は低地の部分と臺地上の上野を含むも本來は低地のみを稱し、上野に對する地名たりき。即ち高燥なる上野に對し、その下に位する谷の如き卑濕地なりしを呼名とせるものなるべし。その範圍は、北は坂本・金杉・三輪、南は神田川に至り、東は淺草・鳥越の平地、西は湯島・本郷の臺地下にまで擴る。然れども元來の地域はなほ狹小なるものにして、市街の成長するに及び擴張せしものと考へらる。この地域現在も所々に池沼を殘し、下谷なる地名にふさはしき狀態を呈す。寛永二年僧天海上野忍岡に寛永寺を建立せしより、本區繁榮の中心をなせる上野廣小路は、寛永寺を唯一の對象として榮え來れり。然るに上野は戊辰戰役に於て彰義隊の奮戰の舞臺とされ、遂にこの繁榮も戰塵の内に沒し去られんとせしが、明治政府の上野譯設立と寛永寺境内が上野公園として復活するに及び技に蘇生、舊時に幾倍する新勢力を以て盛り返し來りしものなり。近邊に東京驛・上野驛間を結ぶ省線の連絡せるあり、また地下鐵道は上野を起點とし淺草或は新橋・溜谷方面に通ず。上野公園下に千葉成田に通ずる京成電車も引込まれ、交通頗る便なり。殊に帝都の北門たる上野驛の壯麗なる大建物竣成し、公園山下より廣小路・車坂町一帶は一層の殷盛と繁華を極む。本區を代表するに最もよき上野公園は西南に蓮池を以て名高き不忍池を抱き、背後に文人墨客の住居と御行の松とに依りて知らるる吳竹根岸の里を控ふる廣大なる臺地をなす。最近竹之臺・不忍池等に大改造施されし結果、靜かなる安息の公園たる一方、娯樂の公園として市民に親しまる。尚本公園は震災前迄宮内省の管轄なりしが、大正十三年動物園と共に東京市に下賜されたるものなり。年中行事として例年開催せらるる帝展・院展・二科展等の諸美術展覽會會場たる東京府立美術館・美術學校・音樂學校・帝室博物館・東京科學博物館・帝國學士院・帝國圖書館・上野東照宮・上野動物園等もまた本公園内にあり。

【下谷國】上野の臺地(東京市下谷區。上野公園のあるところ)をいふ。別稱忍ヶ岡、忍の岡などともいふ。武藏風土記・殘篇「豐島郡下谷岡賈、鹿狐兎狸山鴿雉雀、又賈、蓼蓯松脂」

シダラ　設樂(郡)　三河國(愛知縣)の舊郡名。延喜三年八月資飯郡を割きて本郡を置く。和名抄に志太良と訓じ、賀茂・設樂・黑瀧・多原の四郷を管す。名稱は郡内に多く生ずる羊齒原に因むといふ。明治十三年五月南設樂・北設樂の二郡に分つ。

シタン　獅潭庄　臺灣新竹州大湖郡の一庄。蕃界に接したる山嶽地帶にて、北は竹東郡南庄、西は苗栗郡頭屋庄・公館庄、南は大湖庄、東は蕃界に隣接する。主なる聚落に獅潭・和興・八角林・桂竹林・純湖・三洽坑等あり。純湖の山地にはパンデウ社なるサイセット族の部落あり。パンデウ社はマリン・パンデウ・パンサンパの三部落より成る高砂族の部落。本庄全戶數九五三、人口五、六四五。大字は獅潭・八角林・桂竹林に分れ、獅潭は戶數五二五、人口三、一三六、八角林は戶數二一〇、人口一、三三〇、桂竹林は戶數二一八、人口一一七九を有す。

シチ　志知村　兵庫縣淡路國三原郡の西部。北は湊町、東は榎列村・市村、南は福良町、西は伊加利村に夫々隣接す。淡路島の南部に位し、和泉山脈と讃岐山脈をつなぐ東西の走向を有する南部山地の南斜面を占む。山地は中世代の白堊紀層より成り、大日川(三原川とも云ふ)の左岸にあり、この川は南部山地を開析して第四紀層を堆積す。平地には米・麥を産す。交通はさして便ならず、社線淡路線道市村驛に近し。此地古くは和名抄三原郡榎列郷の一部にして中世には郷士野口氏ここに居りて松本城を築き天正の末まで續き、加藤嘉明に仕ふ。嘉明は天正十三年此地に封ぜられ、海部の士民を領して豐臣氏の水軍を掌る。慶長二年嘉明伊豫國に轉封され、のち數年にして廢城となる。中世は志知庄と云ふ。今此地一帶は要塞地帶となる。〔八幡神社〕大字片田に鎮座。郷社。祭神應神天皇。本殿・幣殿・拜殿の外、神饌所・神庫等あり。例祭十二月二十日。

シチ　七山・颶馳山　鳥取市中心街の北東方約八粁。鳥取縣岩美郡服部村に屬し、東側は大岩村に亙る。圓錐形火山にして、山體火山岩より成り、標高三一四米。北西面は日本海に臨み、絶壁峻險にして東面には一溪流落ち、溪流を挾みて左右に山の尾多く延び、谷を畳みて、宛も蹄鐵形をなす。大岩村字大谷はこの谷口に當る。元來、この溝壑は山中蒸氣の爆發し、V字形に生じたるものなり。いま山上には噴火口跡みとめ難し。この山の西方海岸は長く砂丘をなす。山陰道はこの山の南方馳馳峠を通過し、省線山陰本線はトンネルを穿ちて通ず。

シチカ　七ケ・七箇　【七ケ】新潟縣中頸城郡にありし村。明治四十一年柿崎村と共に廢ぜられ、新に柿崎村を置き、柿崎村は昭和九年町制を布く。

【七箇村】香川縣讃岐國仲多度郡の東端。地形唐犬の座するが如し。西は十郷村、北は神野村大字琴野に接し、東嶺を以て綾歌郡長炭村・造田村に隣り、南は德島縣三好郡三野町及び畫間町と界す。東南部一帶は山岳連亙し、國境には若狭峠(七八七米)・裡伏場(八五一米)・中蓮寺峠(七五五米)聳立し、財田川此處に發源して西流十郷村に入りまた伸多度郡を灌漑する蒲濃池の水源をもなす。河流は屈曲多く急流にして水利に便なら ず、各所溜池を造りて灌漑に備ふ。但し地味肥沃、穀類並に林産に富み氣候温順、水雪少く健康に適す。山林二二三二町餘、田二〇六四反、畑三八〇反、住民は專に農業に從事し、米(十五萬圓)・麦(七萬圓)の他、副業として篤郎(五千圓)・叺・縄(一萬六千圓)を出す。北部は洪積層地をなせども、南部大部分は和泉砂岩層より成り、礫質壌土・礫質埴土なり。氣温比較的冷涼なるを以て、栗・柿の栽培に好適、果樹の栽培も盛にて富有柿(三千圓)・蜜柑(一千四百圓)の產著しく、林產亦重要、二萬圓の產額を見る。本村には從來七箇・鹽入・東七箇・祇野の四箇村より成りしが、明治廿三年町村制實施に際し、東七箇・祇野の兩村は隣村神野村に合併し、七箇・鹽入を以て七箇村と稱す。七箇・鹽入の二大字、鹽入・春日・久保・本日・小池・福良見・照井の小字に分る。此地方は其開發新しきものと見え、先史時代・原史時代の遺跡の發見寡外に少く、社寺の如きも、氏社が日本紀略に「延喜六年二月七日授讃岐國氏太神從五位下」とあるものならんとの說ある程度なり。村社春日社は弘安元年東右衛門高行郎領守神なりと云ひ、同白鳥社(大字七箇字福良見)は齊衡四年城丸丹後守の肇祀と傳へ、同山戸社(大字鹽入)は永正二年勸請、圓德寺(大字七箇字照井)は照林山と號し禪宗興正寺末にして、應安年中僧淨順の建立、或は天文年中とも稱するが如し。現今にても縣道丸亀・善間線村の略ぼ中央を南北に通ずるのみにて交通不便の地なれど、近時省線土讃線開通、西隣十郷村に沙入驛設置せられ稍便利となれり。村内に鳴鹿(高さ一八米・幅二米)・千切淵(高さ一五米・幅四米)等あり。

シチカイセキ　七塊厝　→林邊庄(臺灣)

シチガシュク　七ケ宿村　宮城縣磐城國刈田郡の西端。東は宮村・福岡村・小原村に接し、北は山形縣南村山郡東・本庄二村、西は同縣東置賜郡二井宿村・高畠町、南は福島縣伊達郡茂庭村に各相隣接す。東北境に藏王火山の外輪山の一峰刈田岳(一七五九米)あり、北境の舟引山(一一七三米)・弊城山(一三二三米)・蓬ヶ澤山及び東北境の屏風嶽(一八一七米)・不忘山(一七〇五米)等の連嶺に連り、西境に仙臺嶽(九一二米)・山ヶ岳(九九四米)、南部に峠田岳(一〇八二米)・五郎山(九〇五米)等聳え、阿武隈川の一支白石川は西北山地に發し横川の外諸水を合せて中部を東南に流る。概ね山地にして白石川の沿岸低地に僅に耕地あり、米・麥の外養蠶行はるるも用材・木炭等の林產に依存する所多し。特產物に良質の葛粉あり。此地は羽前街道に沿ふ交通の要地。往時は山形縣米澤より奥羽街道に通ずる唯一の交通路にして、之に通原・峠田・滑津・關・渡瀬・下戸澤・上戸澤の七驛あり、この七つの宿を總稱して山中七ヶ宿と呼べり。諸侯及びその家臣・飛脚の往來繁く一夜二千人も宿せしと傳ふる程の繁榮を見しも、明治維新となり、福島・米澤間の鐵道(奥羽本線、明治卅二年開通)の開通せらるるに及び交通系の中軸を離れ昔日の面影なし。なほ明治二十二年町村制施行の際、前記七つの宿のうち上戸澤・下戸澤の二驛を小原村に合し、渡瀬以北五驛を以て七ヶ宿村を建て以て今日に至る。

シチガハマ　七ケ濱村　宮城縣陸前國宮城郡の東海岸。松島灣の西南角たる牛島狀の地を占め、北は鹽竈灣を挾みて鹽竈町に對し、西は貞山堀を以て多賀

城村・高砂村に隣接し、東と南は太平洋に臨む。五〇米内外の洪積性臺地逆り抵して周邊高く多岡山・高山・君が岡等の勝地崛起し、處々に開析の小澤低地ありて耕地拓け、海岸は絶壁・岬角・砂濱交錯し、御殿崎・眺望が崎・長須賀海岸等あり、海上には馬放島を始め幾多の島嶼浮び、松島灣の景勝を望み風景に富む。漁業を主とする半農半漁の村落形態をなし、全戸數一三一八の内漁業七七五戸・農業二一一戸・商業一四六戸・工業六二戸なり。漁業は縣内屈指にして機船底引網たるトロール業を主とし近年カムチヤツカ沖の鮭漁業に從事し好成績を收め、沿岸漁業も盛にして鰹・ボラ・鰯等の漁獲、若布・昆布等の採取も多く殊に代ヶ崎・東宮濱・要害の沿岸には海苔・牡蠣の養殖盛なり。農耕地は西南部に稍廣きも一般に田畑共に少く、米は需要の半を滿すに足らず、外に麥・大豆等あるも特に近年蔬菜の栽培盛にして縣外に移出する量逐年増加す。馬放島には仙臺自菜の採種場あり。縣道は並覽道路として環狀に通じ里道も海岸に沿うて一周す。主要交通機關は自動車及びモーターにして自動車は鹽竈町を起點とし四十分毎に發着す。モーターは菖蒲田濱・松ヶ濱方面は大代より、其他の部落にては各濱より日に數回鹽竈港に往復す。この地は元祿年間より伊達氏の領にして鹽竈村（いま町となる）に屬す。明治二年藩籍奉還より仙臺知藩事の管地となり、同四年宮城縣所轄となる。同十二年鹽竈より分離し同二十五年本村を置く。なほ松島灣岸には貝塚あり先住民の棲息せし所なるべし。貝塚には暖流性の貝殼を含む。松ヶ浦島とは今の松ヶ濱の總名にて古來藤花を以て著はれしも今は面影を留めず、古歌により昔を偲ぶのみ。新撰古今集、後鳥羽院御製として「心ある夢や結ぶけむ春ごとに藤咲きかかる松ヶ浦島」後撰集「雪にきく松ヶ浦島今日ぞ見るげに心ある墨衣は住みけり」素性法師「御殿崎（一名鴻ヶ崎）は松ヶ濱の東方に斗出せる嶮崖なり、遠近の眺望美に富み藩祖伊達政宗の假館を營みし所と云ふ。高山は往昔廻船數體破壞し乘組員の溺死せし所なりし所と傳へ、今は外人の別莊を設け避暑地となりしを以て知らる。この地は明治四十一年一月世一日、米國人デー・ビー・ジユウネーダー氏外二名に九九〇年間貸與せしに始り英米人旅も多し。君ヶ岡は吉田濱の西方に位し標高五九米、東は渺茫たる太平洋、南は白砂の濱に接き遠く和馬岬を望み西に仙臺平野、北は松島灣内の八百八島を一望に入れ眺望絶佳なること村内第一の稱あり。大正三年縣立公園となり樹樹を植ふ大正十四年御用邸敷地に獻納せんとの議ありしも沙汰止みとなる。岡は一に黄龍岡にも作り、俗に吉田城とも呼ぶ。仙臺武鑑に吉田城は戰國時代吉田某ここに居ると、或は花淵氏の本城となすと。眺望ヶ崎に續く菖蒲田濱は彎曲せる白砂青松の地にて海水浴場として著はれ、馬放島は多岡山と相等しく往古鹽竈神社の神馬を放せしよりこの名起ると。今は松島公園唯一の海覽地として設備充實し近時海水浴場として賑ふ。

シチカワ　七川村（しちかわむら）　和歌山縣紀伊國東牟婁郡の西部。古座川の水源地方一帶を占め、東南部は串本町の西北部より約七粁を隔て、南は三尾川村に、東は小川村に、北は小口村・請川村に界し、西は西牟婁郡に接す。面積一〇八・六六方粁の大村。全村山岳重疊し西境に高尾山（九四二米）・大森山（八四二米）等聳え、北境には大塔山（一一二二米）・足郷山（八八九米）等蟠居し、東境には笠置山（六三八米）等ありて四圍を繞らし、北境の大塔山より源流する古座川中央の山地を縫ひつつ南流し三尾川村に入る。林産頗多く低地には田畑も拓け米・麻を產し柑橘の產もあり。外に工產あり。古座川の谷に沿ひて道路通じ聚落之に點在し、南部にて分るる一道は西南方へ走りて太平洋岸に出づ。交通疎にして不便なり。

シチギ　七疑峰　七峰・七夕森ともいふ。仙臺市の北方約一八粁。宮城縣黑川郡宮床村と吉田村とに亘り、火山岩より成る七峰を總稱す。獲倉山・笹倉山（五〇七米）・松倉山（二九一米）は宮床村に、鉢倉山・大倉山・逢倉山・鎌倉山は吉田村に屬す。犬牙相錯接するの故に里人呼んで七疑峰となす。源頼朝、東征してこの地に逗留し時、和生大夫廣高、愛鹿一頭を獻じたりと傳ふ。また伊達成實記に依れば政宗公この地に狩をなし給へりと云ふ。

シチキャクセン　七脚川山　臺灣花蓮港廳花蓮郡木瓜溪の北方にある山。標高二四三八米。

シチケン　七軒

【七軒村】　山形縣羽前國西村山郡の西偏。左澤町の西約八粁。西南に聳ゆる朝日嶽に連る明手山（九六一米）・大頭森山・金池山（八九八米）等の諸山は西境に、南境に小朝日嶽（一六四八米）・鳥原山（一四三〇米）・伏龍山（一〇一七米）・高鳥屋山（六八四米）等聳え、東境に田代山（五一八米）、北境に鶴畑山あり。最上川の一支月布川はこれ等山地より發する諸流を合せて東流す。山谷深く月布川沿ひに僅に谷低平地ありて耕地拓く。戶數五二五戶のうち農業三八五戶・林業四三戶・工業二三戶・商業一七戶等にして山村の形態を示す。主產物は米（約一一〇〇石）・（繭約一・四萬貫）・木炭（約三四萬貫）なり。左澤町に達する街道は大字貫見より月布川に沿うて走りバス通ずるも、北部にては萩ノ森峠（四八三米）、西部にては大井澤峠（八五三米）・地蔵峠、南部にては勝生越等ありて交通便ならず。大字貫見は中心聚落にして、上流には大字柳川の聚落あり。大字小清・勝生・十郎畑等の小集落は山腹の斜面に立地し階段狀の水田・山畑等を耕作す。村名は往古此地に郷司七人ありて黎民を治教せし故に七軒郷と稱せしによると云ふ。明治三年山形縣に屬し、貫見・黑森・小柳・小清・片生・澤口・青柳の七箇村に分つ。同二十二年町村制實施により右七箇村を合併し今日に及ぶ。天正十二年寒河江城主尭元、最上氏と中野に戰ひて敗るるや此地に逃れ、さる農家に入りて自殺す。墳墓を光學院と云ふ。澤口部落の田澤には佩守の墓内に杉の巨木あり。古寺は朝日岳山腹の原始林伐木の中心地にして製材着手以來二軒より七軒に戶數を增す。傳說に據れば朝日權現の榮えし中世の山岳佛教隆盛時代には千軒の僧坊ありし地なりと云ふ。近年近傍に鐵泉發見せらる。

【七軒町】　江戶時代根津遊里の引手茶屋ありし地。現今東京市下谷區池の端七軒町。但し引手茶屋は今の麦染橋まで宮永町にかけてありしもの。守貞漫稿・二〇「根津も七軒町は引手茶屋　軒を並べ、惣門より内は兩側ともに一面に娼家也」

シチコ　七股庄　臺灣臺南州北門郡内の一庄。東は佳里街・西港庄に接し、北は將軍庄、南は曾文溪を隔てて新農郡安順庄に連り、西は澎湖水道に臨む。面積一〇・八一方里。郡中第一の廣面積を有す。此地土地瘠薄にして水利の便良好ならざりしも嘉南大圳の完成により通水の便を得るに及び米作の如き一躍產額を增加せり。甘藷は米に次ぐ主要產物にしてその加工品たる蕃薯粉は食料・酒精原料として内地に移出され、甘藷赤郡下他庄と同じく產額多し。水產等としては養殖盛んに行はれ、鹹水にては虱目魚・牡蠣約二十四萬圓、淡水にては虱目魚・草魚・鯉・鯉等約六萬四千圓、其他一般水產業は鰻・鱧・飛魚等二萬五千圓、魚苗約六千圓を產す。工業としては副業的家内工業としての帽子編業盛んに行はる。教育機關には公學校三、就學歩合男三三・八七%、女三・九八%（昭和九年）にして他庄に比し著しく不良なり。國語講習所三、簡易國語講習所五、其他產業組合に信用組合一あり。地方病としては瞽てマラリヤ猖獗を極めたりしが種々防遏の結果著しく減少せり。尙トラホーム患者極めて多く、現在當局者は豫防治療に深甚の注意を拂ひつつあり。土城子海濱地方は關書東夷志の加老潤の一部にして、國使港（臺灣地輿圖說）と記され、また鄭氏上陸以來國聖港の字を寇つと云はる。現在は曾文溪分流の氾濫により港底の變遷を來し、僅に小戎克船を容るるに足るのみ。往時の曾文溪本流は南西なる媽祖宮新豐郡より海に入り、分流は三股子溪と稱し國聖港より海に注ぎたるものなりしが、十分堰・青草崙・土城子は此の間に形成せられたる三角洲中に發達せし部落なり。此地古くは西港仔堡・蕭壠堡の故地にして明末鄭氏時代の永定里に屬し、清領初期安定里と稱し、康熙六十年代安定里西堡と云はれしが、後別に雍正十二年蕭壠堡・西港仔堡となる。領臺後始め臺南縣に屬せしが、後數次の改正を經、大正九年九月一日地方制度改正により七股庄を改めて七股とす。元下營區內後港・城子內・篤加・七股・大寮の外に學甲庄區十分堰・青草崙・七十二分・樹子脚・三股子・土城子の六、鹽埕區竹子港、青鯤鯓區頂山子・下山子寮の九大字を加へ、庄場役を七股に置く。

シチコー　七高山（しちこう）　秋田縣雄勝郡の北西方明治村に峰つ一峯。標高三〇四米。山體第三紀層及び火山岩より成る如し。山中に多く福壽草を產す。佐藤信淵の六部耕種法に丈の七八尺の福壽草七高山の谷に生ずと見えたり。山頂に村社七高山神社鎭座す。天平寶字年間の創立にして、稻倉魂命を祭る。古は高寺城主、小野寺中務守道近領内の鎭守なりしが、高寺落城後佐竹氏封を移し、社領三石を寄附したりと云ふ。

シチゴー　七郷村（しちごうむら）　宮城縣陸前國宮城郡の東南端。仙臺市の東南に隣り、南は六郷村（名取郡）に隣接し、東は太平洋に臨む。仙臺平野の中部に當り土地低平なるも村内に大沼・北長沼等の池沼及び四地あり、中部を廣瀨川より引水せる七郷堀東西に通じ、また海岸に沿うて貞山堀あり、灌漑の利頗るよく水田拓け、米作を主とし蔬菜は自給の程度なり。海に面するも漁業は殆ど行はれず、僅に大沼・北長沼・南長沼等に養魚を行ふ。縣道は中部をほぼ東西に貫通し仙臺市にバス通じ、貞山堀には舟を通ず。此地中世は私に國分荘を稱し古くは和名抄、宮城郡宮城郷の地に屬す。一說に大字小泉の地は國分城のありし所と。文治五年千葉常胤の五男胤通、源頼朝より宮城郡國分郷を賜ひてここに居し、その後盛氏の時伊達氏に併ぜられ城廢す。大字荒濱の地は慶長・元和の頃戰國の餘黨越中大學・但馬掃部・土佐十郎右衛門等藩を此地に避け、農耕を事とす。のち移民漸く相集り今日に至り、明治十七年貞山堀運河開鑿の擧ありて更に灌漑の便を增し水田を開き、且つこれにより舊來の町割改善せらる。本村は廢藩後第二大區小六區に編入し、大小區の更正に際し六丁目・伊在・蒲町・長宮城・南小泉・霞目の舊六箇村は小九區に、荒濱・荒井の舊二箇村は小十區に編入す。明治十一年大小區の制度廢れ、前記小九區は聯合し戶長役場を置き、荒井・荒濱も戶長役場を置く。のち南小泉村の字八軒小路・行人塚・五ヶ谷・桃原院東・穀治屋敷・廣瀨川橋下の地域は仙臺市に分離し、同二十二年舊八箇村合して本村を置く。村名は七郷堀より起りしもの。

シチコク　七谷面　朝鮮慶尙南道宜寧郡の西南端。東は嘉禮面、北は大義面、南は草井面、西は晋州郡美月面に各相隣

接す。東北境に緒嶺山（八九七米）聳え餘勢域内に及びて老年期の丘陵性山地をなし平地極めて乏し。從つて耕地は丘陵面及び緩斜面を開墾利用す。住民は質朴にして主として農業に從事し、また副業に養蚕を成すもの逐年増加の狀態にあり。産物は米・麥その他の雜穀を主とし、棉花・煙草等あり。東方宜寧より西北方三嘉に通ずる三等道路、面の略中央を東西に横斷せる他、支線は何れも等外路線にして僅かに隣接地を結ぶに過ぎず。

シチシュー　七宗山　しちし　岐阜縣武儀郡の東方、上麻生村に峙つ山。標高六七八米。基底は石英斑岩にして山體閃綠岩より成る。中古この山御留木山とせられしかば長幹梨樹蓊鬱として繁茂し良材に富む。いま七宗山御料林をなす。東麓は南流する飛騨川に、西麓は南流して南麓にて飛騨川に合する神淵川に臨らる。

シチジョー　七條　しちじょう

【七條通】　京都市を東西に通ずる大路の一。東は東山區東大路の智積院門前に起り、西は大宮通の西に至る。賀茂川以西は下京區に、東は東山區に屬す。賀茂川より西は大體平安京の七條大路（幅八丈）の位置に當る。附近に本願本願寺・興正寺・大谷派本願寺・智積院・三十三間堂等の巨刹、別格官幣社豐國神社・恩賜京都博物館・丸物百貨店等あり。西鶴織留・四「下京七條通りに小家をかりて春夏は女房に扇を折らせ、秋のすゑより冬中は男手もみの紙子をこしらへ商ひけるに」太平記忠臣講釋・六「暮六つ過ぎて七條の、相場屋りも手が合うて、敵び取つたる六條の、御愛下向の禪門が、十德授へて云々」

【七條河原】　京都の賀茂川の河原の七條通より以北の稱。本朝二十不孝・二「後は三百よ人の組下石川が捉を官、晝夜わかちもなく京都をさはがせ、程なく猫捕れ世の見せしめに七條河原に引出され、大釜に油を煮立、是に親子を入て煎られけるに云々」

【七條新地】　江戸時代京都七條にありし岡場所。七條大橋附近。花路色里扶案内「七條新地……此所見世付はれ〳〵歌みせ、先きすだれにてそのうちよりこぞりまつり客のやうにして居らるる、此所直段壺匁五分と定あり、揚客は相場がかりみな〳〵氣持あらく、こんたんもそれにじゆんじてよろずはなやかなり……扨又七條新地に二の宮町三の宮町といふて二すじ有り、是同じ所ながらはるかに品位おとりたり」

【七條】　京都府葛野郡にありし村。大正六年京都市に編入さる。

シチセー　七星　しち

【七星郡】　臺灣臺北州二市九郡の一。東は基隆郡に、西北は淡水郡に夫々山嶽を以て界し、西は一部淡水河を隔てて新莊郡と相對し、一部臺北市に接し、南は一部臺北市に、一部文山郡に連る。面積十七方里餘にして、其の最も廣き所東西六里二十七町、南北五里十二町あり。東・北・南の三方は大屯山塊其他の連山によりて圍繞せられ、此等の分水嶺を發したる溪流集りて基隆河となり、管内を東西に貫流すること約二十四粁、下流に至りて淡水河と合し、郡の西南部を抱す。本河流の沿岸は所謂臺北平野の一部を爲すものにして、地味肥沃良米を産す。山地地方に到る處石炭を産し、また火山臺の影響を受け、北部一帶の高地には温泉の湧出を見る。主なる山岳は沙止街管内に五指山・姜子寮山・茄蔓脚山・和尚山・大尖山、士林街に草山（四三〇米）・北投庄に七星山（一一一九米）・大屯山（一〇八一米）・竹子山（六五〇米）・紗帽山（六四三米）、内湖庄に大嵩尾山・碧山嶽等あり。氣象は地勢上平地と山地との氣温相同じからず、草山・竹子湖の如きは平均氣温六三度五を示し、臺北の平均氣温七〇度七に比し、七度二の低温にて七星・大屯の兩山には毎年降雪を見る。毎年九月下旬より翌年四月上旬に至る間は季節風の影響を受け、謂ゆる南潮なし、殊に沙止街方面は雨量多し。其他の季節は概ね天候靜穩にして暑氣强し。産業は總生産額一千百十萬餘圓に上り、農業を第一位とし、工業・鑛業・商業・林業・水産業等之に亞ぐ。かくの如く郡下産業は多岐に亙る爲め、統制ある指導方針を確立し、其の發達を促進せんが爲め昭和五年産業是を制定し、翌六年度より實施し、爾來之に則り鋭意指導誘掖に努めたる結果、年々生産額を増加し、成績の向上を見るに至れり。農業は地方經濟の基礎を爲し、斯業の消長盛衰は實に農家のみの利害關係に止まらず、郡下一般經濟界に影響する所大なるものあるを以て多年之が指導改善に努めたる結果、最近當業者に於ても漸く覺醒するに至れり。而して地勢上平坦地少く、水田面積六八五三甲、畑面積三七五八甲に過ぎずと雖も、山地は漸次開發せられ、農耕地として利用せらる。農産物は米・蔬菜類・茶・甘藷・果物類・其他なり。茶は郡下山手農村に於て缺くべからざる重要物産にして、本郡は古來臺灣唯一の包種茶産地として知られ、製品は遠く南支・南洋各國に於て名聲を博し、烏龍茶と稱せられ、高級素（目頭茶）として、昔日より輸出せられたり。畜産は其の生産概米に亞ぐ、少數の專業者を除けば、農家副業として其の首位を占め、養豚を主とし、牛及び家禽類（鶏・鴨・鵝・七面鳥）なり。士林街及び北投庄には乳牛の牧場を有す。此等畜産事業の改良發達及び指導の目的を以て各街庄に畜産組合、郡に之が聯合會を組織し、品種・豚舎の改良及び販賣斡旋に努め、且つ家畜市場ありて販賣事業の衝に當る。林業としては林野面積廣汎に亙るも、保安林（水源涵養林・風致林・土砂扞止林）以外は造林實施中にて、林産物乏しく、用材・竹材・筍・薪炭等あるも、産額微々たり。工業は其の生産額農産に亞ぐ、製紙・窯業・靴下製造を主とし、鰹節・製麻之に亞ぐ。其の工場の主なるものは臺灣製紙（士林街）・北投窯業（北投庄）の諸會社工場、臺灣電氣鑛鋼所・松山鰹節工場及び北投・松山兩靴下莫大小工場にして、投資結果は工場數多きも、士林・松山・内湖各信用組合兼營に係るものの外は、概して規模小なり。重要製造物は紙・板紙・煉瓦・屋根瓦・靴下・鰹節・陶器・アルテッタス・麻類・木製品・竹細工・線香・石灰・蘭蓆等なり。鑛業の主なるものは石炭採掘にして、沙止・士林・松山・内湖の各街庄管内に分布し、硫黄採取は北投庄を主とし、内湖・沙止・北投に於ける砂金鑛採取・石油鑛區の出願等あるも、未だ探掘の實現を見るに至らず。水産業は河川漁沼による純みて幼稚なる漁法に屬し、漁獲高跡し。金融機關には一部個人經營のものによるの外、各街庄に設置せる産業組合を以て其の主なるものとし、之が普及徹底は直ちに農村部落の振興に多大の影響を及ぼすものにして、住民は漸次之に對する認識を深め、組合員の増加と共に利用者の漸増を見るに至れり。現在組合數六にして、士林街に二、其他の街庄に各一あり。臺北市に隣接する關係上、交通よく開け、縣買道路（沙止街保長坑—臺北市松山中巻）を始め、指定道路（臺北—淡水・臺北—内湖・水道町—松山・士林—草山・士林—金山）其他の産業道路ありて、何れも郡内外主要地に連絡し、乗合自動車は臺北—基隆間・臺北—淡水間に局營バス、臺北—草山—北投間に巴自動車會社の循環バス及び臺北—内湖間に臺北市營バスあり、尚ほ臺北市營バスの松山・士林延長も遠からず實現を見ん。鐵道は縣貫道路と殆んど並行する縣貫線及び臺北—北投間指定道路に沿ふ淡水線ありて、管内に驛十を有す。軌道は總計二十四線あるも、營業軌道は松山—三張犁間に通ずる一線のみにして、他は全部石炭・煉瓦・土砂等の運搬專用軌道なり。本郡は元臺北縣の芝蘭一・二堡・大加納堡・石碇堡の四堡に分屬し、明治三十年六月官制の改正により、臺北縣士林・臺北・水返脚（沙止）の三廳務署に管轄せられ、同三十四年廢縣置廳の結果、臺北・基隆兩廳に分屬し、同四十二年廳の廳合行はれて、基隆廳は臺北廳に合併せられ、その下に士林・錫口（松山）・水返脚（沙止）の三支廳を設け、大正九年十月一日自治制實施に伴ひ、臺北廳を臺北州に改みらるるに當り、前記三支廳を廢し、沙止街・士林・北投・松山・内湖・平溪の一街五庄を管轄區域として七星郡を設置、昭和七年二月一日平溪庄を基隆郡に編入、同八年十二月士林庄を街に昇格し、沙止・士林の二街、北投・松山（昭和十三年臺北市に編入）・内湖の三庄を管轄し、郡役所を臺北市中町に置く。教育方面にては小學校三（沙止・北投・松山）、公學校十二、同分教場三、幼稚園（私立）一を有し、昭和十一年度末調本島人兒童の就學歩合は、男六五・八三%、女四三・六二%にして、近年向學心著しく向上し來り、毎年入學兒童の増加に伴ひ、學校増加を行ひ來れるも、尚未だ十分なりといふを得ず。尚士林街三角埔には州立の農業傳習所あり。社會教育は敬神思想の涵養・皇室尊崇の信念確立・國語の普及常用・國防思想の涵養・部落の振興を第一として、習俗の改善・公民精神の涵養等を主なる目的とす。其の費圓としては郡教化聯合會一、街庄教化聯合會五、男子青年團十一、女子青年團九あり。尚ほ沙止・士林・北投・松山の四箇所に青年教習所を設置し、公學校を卒へ、上級學校に進まざる青年のために、學校教育の効果を保持すると共に、公民的教養を施す。一般民衆の國語學習熱年々旺盛に向ひつつあり、不就學者に對する相談所及施設として公私立の國語講習所に多數設置し、尚ほ女子青年團經營に係る國語保育園多數ありて、幼兒に對する國語教育・皇民化教育を施す。圖書館は士林・北投の二箇所あり。社會事業施設としては、街庄貧に依る窮民救助、分娩産婆、慈善救濟團體、其他公會堂・食料品小賣市場あり。また釋放者並に浪者の保護善導を目的とする七星郡明星會あり。尚ほ此外に成德學院（内湖庄獅山坡にあり、所謂不良少年の教導を目的とし、總督府の直營）・松山療養所（内湖庄東新庄子にあり、肺結核患者を收容し、總督府の直營）・草山衆樂園（北投庄頂北投字紗帽山にあり、臺北州經營の温泉場）・北投公共浴場（新北投にあり、臺北州經營の温泉場）等の施設を有す。温泉は郡の北部卽ち北投庄・士林街管内に湧出し、給湯施設は昭和七年度以來完備せし爲め、使用者著しく増加し、北投・草山は全島第一の温泉地、且つ景勝の地を以て聞ゆ。名勝・舊蹟甚だ多く、御遺跡所（沙止街）・北投温泉（北投庄）・草山温泉（北投庄・士林街に跨る）・天母温泉（士林街）・皇太子殿下行啓記念碑（大屯山上—北投庄）・竹子湖（北投庄）・圓通（北投庄）・北投石（北投庄）等殊に著名なり。尚大屯山を中心とし、北投・草山に跨る一帶は昭和十二年十二月二十七日總督府の告示により正式に指定せられたる大屯國立公園地域内に包含せらる。

【七星山】　臺灣臺北州七星郡にある山。士林街及び北投庄の境界（北部）に聳立す。大屯火山臺中の最高峯。四時登山する者多し。

【七星墓】　臺灣高雄州恒春郡にある鳥嶼群。恒春庄大字鵝鑾鼻に所屬す。鵝鑾鼻より海上南西約九浬の地點に、長さ約一浬に亙りて點々として散在し、大日本帝國領土の最極南に當る。その形北斗七星

の海上に散布したるに倣たるを以て斯く名付けしと云ふ。蝦人はこれをゲェル・レート・ロッタス（裂岩島）と稱す。

【七星面】朝鮮忠清北道槐山郡の東南端。郡邑槐山の東南五舊。東は慶尙北道聞慶郡加恩面、北東は延豐面・長延面・甘勿面、西に槐山面及び文光面、南は香川面に各相隣接す。小白山脈中に位し、東南境には長成峰（九一六米）、東北境には七寶山（七八一米）・寶達山（七九一米）等聳立し、六部分山岳重疊し、北部は稍開け平坦なる耕地連る。住民は農を主とし傍ら養蠶を成す者少なからず。產物は穀物を主とするも其產多額からず。道路は西方槐山より來る三等道路北部低地を横斷し東方聞慶に達する他は何れも等外線にして峻坂多く運輸は人肩・馬背により交通困難なる所あり。

シチセン　七川島　↓漆川島（朝鮮慶尙南道統營郡）

シチト　七堵庄　臺灣臺北州基隆郡七庄中の一。本島の玄關たる港都基隆市の背後（西南）に控へ、東西に延れる本郡の略々中央部に位し、地形は西北より東南に延びたる不正菱形をなす。東北は隆起せる小山脈を以て基隆市及び瑞芳庄に接し、西南は七星郡汐止街と界し、東南は基隆水源地一圓の山岳を以て平菜庄に隣接し、西北は起伏重疊せる山岳地帶を以て萬里庄に連る。管內は到る處山岳丘陵重疊として起伏連續し、東端瑞芳庄より來れる基隆河は庄の中央部を蜿蜒曲折して横斷し、西流して西隣汐止街に入る。平地は其の流域に僅かに展開するに過ぎず。地勢上雨量甚だ多く、一年の半分は雨天及び曇天なり。廣袤東西三里餘、南北二里餘、面積五・五方里餘。住民は農業者其の半數を占め、勞働者之に亞ぐ。勞働者は大部分鑛山勞働者にして、主に他地方より蝟集し、管內の炭礦に就業し或は金瓜石・九分（瑞芳庄）等の礦山に出稼す。故に鑛業の景況如何によりて管內の戶數人口に年により增減あるを常とし、近年炭礦・金山等の好況に惠まれ、人口頓みに增加し、勞働者の生活概ね豐かなり。地勢上平地に乏しく、且つ地味肥沃といふを得ず。水田は僅か六百七十餘甲に過ぎざるも、山地は年々開發せられ、畑面積一千四百甲に近し。平地は水稻、山地は茶・甘藷等の栽培に適し、米・粗製茶・蔗糖・甘藷等の主要農產物とす。然れども氣候風土の關係上、米作は面積の割合に收量少し。茶は山手農村第一の農作物にして、茶園面積一千餘甲に上り、畑總面積の約八十%を占め、茶業者は農業者の九分の八に相當す。從つて茶業の振不振は當に農民のみの利害關係のみに止まらず、地方經濟界に重大なる影響を及ぼす。茶業團體として茶業公司・茶業組合あり。畜產は主に畜牛・豚・家禽等にして、就中養豚業は耕地に乏しく且つ降雨量の過多より招致する農家經濟の不利なる立場を補ふ唯一の產業たるのみならず、基隆・臺北の二大消費都市を控へ甚だ有望なり。庄にては畜產組合を設置し、品種の改善・飼育方法の合理化・販賣の斡旋等所業發達の爲め力を致しつゝあり。而して本庄は地理的に基隆市に隣接し、八萬市民の食料品消費市場に獨自の優越的地位を占むるが故に、同市の發展は期せずして本庄產業の發達を促進し、庄民の享受する將來の福利大なるべきは論を俟たず。林業に就き見るに、管內の山林原野面積は田畑の總面積二千餘甲に比し、實にその二倍以上の廣汎なる地域を擁するも、從來の濫伐濫採に因り、森林の見るべきものなく、近時各種產業の進展に伴ひ、造林を奬勵しつつあり。林產物として用材・薪炭・竹材・筍等あるも、產額は僅少なり。上述の如く農林業は地理的または氣候風土の關係上、天惠に浴すること少きも、管內の大部分を占むる山岳地帶には至る處に石炭を埋藏し、近年經濟界の好轉と共に、從來休鑛または廢鑛せるものも一齊に事業を再開し、從つて出炭量も著しく增加し甚だ活況を呈す。石炭の外に砂金の產出あり。此等鑛產額は本庄諸產業中の王座を占む。庄財政は他街庄に比し豐かならず。昭和十二年度豫算額四四、二三五圓にして、其の殆んど全部が稅收入を以て財源とする爲め、庄民の負擔重く、且つ時勢の進運に伴ひ、文化的施設に追はれ、逐年財政の膨脹を餘儀なくせらる。それ故昭和八年度より基本財產の造成に着手し、財政問題の解決を圖らんとす。金融機關に七堵信用購買組合にして、地方金融經濟上重要なる地位にあり、斯界に貢獻する所尠からず。教育方面に於ては公學校三、同分教場二を有し、本島人兒童の就學歩合は男女平均約四十五%の高率を示す。これは人口の約四割を占むる鑛業勞働者と其の兒童の就學率との間に特殊の現象を存し、即ち父兄そのものが國語を解すると否とは、當に勤務上の便不便の問題たるのみならず、賃金收入の現實問題とも種々交渉を有する事情の爲め、從つて兒童の就學せしむる傾向を招致せしに起因す。社會教化施設としては教化聯合會を始め、庄勞振興家長聯盟・男女青年團・國語講習所等を設置し、社會教育の振興に努む。因みに本島人の國語解者歩合は三十%前後なり。臺灣鐵道路及び鐵道路は基隆河の流域に沿ひ兩者並行して庄の中央部を貫通し、前者は八堵・七堵の兩驛（共に明治三十二年設置）を有し、後者には局營バスの便あり。尙ほ宜蘭線は基隆驛を起點とし、鐵道線と並行して八堵驛に至り、同驛より東に轉じて瑞芳庄に入る。管內大字暖々に同名の驛（大正八年設置）を有す。山地の交通は不便なるを免れず。本庄はもと總て石碇堡に包含せられ、乾隆の初年頃淡水港より基隆河を溯りし漢民族は、西隣汐止街の開墾に從事し、汐止附近を根據として更に當地方一部の拓殖に着手せり。五堵・六堵・七堵・八堵等は當時蕃害を防ぐ爲め、私隘を設けし所にして、蓋し「堵」は土垣の義、五・六・七・八の數は、一丈を「板」といひ、五板を「堵」といふに基づく。大字暖々はもと暖々街と稱し、初めノアジノアジといへる山蕃（アタイヤル族）の所在地なりしが、乾隆年間基隆より進入せる福建人は之を山奥に驅逐し、其地を拓き、近番を寇て、暖々庄と稱せり。既にして土人自闢なる者、初めて此地を根據として三貂嶺路を開きしより、漸く宜蘭方面に入るの門戶となりしも、道光の初年頃までは尙ほ寥々たる一寨村に過ぎず。爾後基隆港の發達と基隆河に於ける砂金採取の開始とは此地をして一市場を形造らしめ、更に宜蘭線の道の開通と石炭採掘の隆盛は之が發展を益々促進せり。その南方なる高地、火燒寮は南量、年六七〇七ミリあり、極東第一の多雨地なるより、暖々の名は多くの地理教科書に記載せられ、雨を以て廣く知らる。我が領臺後數次行政上の變遷を經て、大正九年十月に至り、自治制施行と共に清領時代より存據し來りし堡は始めて廢せられ、舊石碇堡より一街十庄を割きて、計十一大字に改め、之を一括して新に七堵庄となり、庄役場を大字七堵に置く。

シチナン　七難坂　↓蒲原町（靜岡縣）

シチノヘ　七戶

【七戶町】青森縣陸奥國上北郡の中部。南部一圓の臺地の奥羽山脈に接近せる盆に位置し、南は三本木町との間に大深內村を挾む。奥羽山脈は町の西部に連り、中に八幡嶽（一〇二〇米）等の山地起伏す。その麓は鶴兒平・小山平・藥師平・荒屋平・池平等の一連の臺地をなし、町の主要部分は平と稱する臺地の上に發達す。この臺地を七戶川の支流治部袋川・和田川・作田川・中野川等の河川西部山地より源を發し東部の小河原沼に注ぐ。その沿岸地は水田として利用さる。附近一帶は洪積層にして、七戶川上流には第三紀層あるも八甲田火山の火山灰に覆はる。洪積層中より象化石を出土せり。陸羽街道に沿ひ、藩政時代には宿場なりしも明治時代鐵道建設に反對せし爲め、東北本線は約十二粁東方に敷設せられ、交通不便なりしも、近時バスの發達著しく沼崎驛（東南隣浦野館村）・乙供驛（早地村）・野邊地驛（野邊地町）及び三本木町間には定期バスの便あり。農業を主とし牧馬また盛にして外に清酒・味噌・醬あり、林檎も栽培す。南部氏支藩の城下町として發達し、地方產業の中心地たると共に本邦產馬の中樞地をなす。馬は古來七戶馬として世に知られ、秋季に開かるる馬籠市は十三日間に亘る。その補助指導機關として國立奥羽種馬牧場・青森縣種畜場・國立獸疫調査所七戶支所等あり。養蠶方面には、青森縣蠶業試驗場の設置あり。私設牧場に東北牧場・盛田牧場・濱中牧場・須藤牧場等あり。外に營林署・實科高女等を置く。文治五年南部光行奥州藤部ノ庄に封ぜられ、二十三世安信の代に至り、其第直時隼人と稱せし者七戶城に居し、爾來二百有餘年その子孫の統治する所なり。慶應二年利敬の二男信方入りて信民公の後を襲ぎ明治維新に至る。明治六年三月大小區の制を布くに當り、第七大區第三小區となり七戶村と稱し同三十五年町制を布く。（柏葉城）町の主邑の西北臺地上にあり。七戶藩の城址なり今は小學校となる。昔日の面影は碧闕の滄と急崖に留むるのみ。（獸疫調査所七戶支所）大字七戶町にあり。農林省に屬す。昭和四年開設。馬の疾病殊に傳染性流產の豫防に就き調査研究をなす。（奥羽種馬牧場）鶴兒平にあり。明治二十九年開設。國有種馬の養殖・育成及び改良をなす。放牧地・厩舍・耕作地等整然たり。面積二三方粁。場內正門より巍々六粁、道の南側に櫻樹あり、花の頃三浦山上よりの眺望最も著ほる。（七戶產馬畜產組合）遠く藩政時代より牧馬の制あり。統制ある產馬改良を行ひ來りしも明治三十三年畜產組合法により現名に改稱し、一町五箇村の區域を統制し馬に關する諸種の事業を掌り、放牧地一五方粁直營にして輪換放牧を合理的に經營す。（盛喜山竪穴住居址）字砂子田にあり。蠶業試驗場の南方西より東に突出せる半島狀の丘陵にあり。竪穴住居址數十群在す。竪穴は圓形を呈して地表やや窪み何れも直徑約一二米、內一個よりは甕址が發見され、鐵滓・土器破片等を出す。土器破片は埴質土器の系統に屬するもの多くこの他赤質土器の破片あり。丘陵の南麓には小林川が流れ、西部には淺き空濠が南北の方向に掘られ、竪穴群の區域を限る。蓋しこの丘陵は、竪穴住居址を包有せし一種の堡壘を以て護られし聚落の遺跡なるものの如し。而して發掘遺物上、石器時代以後の文化を有する民の遺跡多く存在す。本町附近にもこの種の遺跡多く存在す。（鶴兒平基線）鶴兒平にあり。我國油地三角測量基線の一。明治三十一年測定。長さ四〇〇六・〇三〇九米。（神明宮）大字七戶町に鎭座。郷社。祭神、大日靈貴命。社傳に後陽成天皇文祿二年の勸請創祀と傳ふ。例祭、七月十六日。

【七戶川】青森縣上北郡にある川。奥羽山脈中の八幡嶽（一〇二〇米）附近に源を發し、七戶町を經て東流して第三紀層の低き臺地を浸蝕し、河岸に段丘を作り、遂に小河原沼に入る。流程約二五粁。坪川・中野川等の支流を有す。河岸一帶の地は水利惡きため原野をなせる所多く、水田よりも畑多く馬飼養・養蚕等を產し牧馬の一中心をなし、奥羽種馬牧場をは

じめ大小の牧場あり、七戸町はその中心にして馬市に賑ふ。下流小河原沼沿岸には低濕地多し。

シチハツ　七發島　朝鮮全羅南道の西部、羅州群島の一島。務安郡飛禽面に屬す。北緯三四度四七分、東經一二五度四七分に位し、東方約九浬を隔てて飛禽島と對す。高さ九九米。七發島燈臺（明治三十八年設置）あり、第一等燈臺にして燈質は閃白光、毎一五秒に一閃光を發す。明弧は全度に亙り、光達距離二五浬。霧信號を裝置し、霧笛は五〇秒を隔て四秒間吹鳴す。

シチフン　七分　→新北庄（秦澗臺中州東勢郡）

シチヘー　七坪面　朝鮮平安北道厚昌郡の西南端。東は東興面、北は南新面、西及び西南は江界郡楸南面、東南は成鏡南道甚津郡郡内面に隣接す。蓋馬高原の北緣部を成し、東北境には小上山（一四四六米）・自三米（一五五六米）・令鄙峰（一七八七米）等一千餘米の峻峰聞樓し、更に域内には仕建峰（一四九〇米）・奉天臺（一三九四米）・古仲峰（一三九四米）等峻々たる山骨を露はし壯年期の地貌を呈し、峻岳重巒し老樹喬木鬱蒼として繁茂し、朝鮮第一の森林地帶を形成す。鴨綠江の支流慈城江其の間を深谷を成して廻流し、碧地絲めて乏しき氣候は寒氣酷烈にして七・八月の候霜雪を見るを例とし、盛夏と雖も岡谷には尚ほ氷を存す。住民は農を業とするも生産乏しく貧つて富裕ならず。産物は粟を第一とし、大豆・馬鈴薯・大麥・蜂蜜・山蔘・藥用草根等あり。道路は西方江界、東方長津より來る二等道路は域内にて合して北方慈城に通じ、自動車を通ずるも坂路多く交通運輸容易ならず。聚落は溪谷に沿ひ分布せるも人煙稀めて稀にして大興洞・小北洞・中興洞等を數ふるに過ぎず。面事務所を小北洞に置く。

シチホー　七寶　朝鮮咸鏡北道の東南部。日本海に近き山彙。この山地は明川郡の大部分を占めて南北に延亙し、上鷹峰（一一〇三米）・下鷹峰（一〇四七米）・七寶山等の諸峯あり、東は直ちに日本海に臨みて險崖をなし、特に南端の雲岩山（四九一米）附近に於て著し。山中に溫水坪の溫泉、開心寺等の古刹あり。山は奇勝に富みて金剛山に擬稱たるものあり、一に小金剛と稱し古來探訪の客多し。探勝には西麓を縫走する咸鏡本線の古州驛または古祐驛にて下車す。古祐驛よりは山中を横斷して東海岸の寶村洞に至る自動車道路を通ず。

【七寶山地】　朝鮮咸鏡北道の七寶山地の一峰。明川郡上古面にあり。高六百米餘。山の北を咸鏡線古祐驛より海岸の寶村洞に至る三等道路あり自動車を通じ、この道路に沿ひ山頂より西方に開心寺あり。

【七寶面】　朝鮮全羅北道井邑郡の東南部。郡邑井邑の東方約一〇粁。東は山内面及び山外面、北は龍東面、西は北面、南は内藏面及び淳昌郡雙峰面に各相隣接す。西境に七寶山（四七二米）聳立せるを始めとして南境一帶山地相連なり、北半部は漸次低下し東津江沿岸には低地を見る。産物には麥・棉花・大豆・蕎・柿等あり。又綿布・麻布等の家内工業行はる。偏在せる爲に道路は何れも等外路線にして加ふるに坂路多く交通・運輸は徴れ馬背に據る。聚落は北部低地に臥牛里・武城里・詩山里・白岩里等、南部の山間に盤谷里・光德里等あり。面事務所を詩山里に置く。武城里に武城書院あり。昔て奉山郡守として此地に住みし新羅時代の額儒崔致遠外七名を祀り、全羅道の儒生の最も崇敬するところにして本道唯一の書院なり。

シチホンギ　七本木村　埼玉縣武藏國兒玉郡の北部。本庄町の西隣に鼎りり。北は旭村・神保原村・賀美村、西は長幡村、南は丹荘村・共和村と隣す。面積九・二四平方粁。神保原村を隔てて利根川・神流川の合流點に近く、全村平地にて畑地多なし中央部にのみ水田あり米・菽・藍を産す。縣道は本庄町及び南方兒玉町（約四粁）に通じ、また省線高崎線は北境を掠めて西北に走り、北境に近き神保原村に神保原驛を置き縣道を通ず。この地は和名抄、賀美郡中村郷の内なるべく、近世長幡郷丹ノ庄に屬し、江戸時代には幕領・采地入り交り地たりき。

シチミ　七美村　富山縣越中國射水郡の東北部。婦負郡四方町・新湊町いづれも四—五粁、略中間に位す。北は海老江村を距て富山灣に、南及び東は下村に、西は片貝村・堀岡村に界す。面積二・五八方粁の小村。富山平野の西南部にあり。水田多く、米作を主としまた藥品の産あり。村の東部を南北に走る縣道は海岸より北陸道に通ずるものなり。社線越中鐵道の海老江驛に近し。往古の事は詳かならざるも近世は倉垣庄に屬したり。

シチメン　七面　→七高山（秋田縣）

【七面山】　山梨縣中巨摩郡本建村にある山。富士川の右岸、身延後背に當り、標高一九八二米。赤石山系に屬する白峯山脈の一峯にて主として褶曲せる古生層によりて構成さる。身延町より約二〇粁、山腹には七面山本院あり、身延參詣者の參拜絶え字。隨神門を入れば眼前に富士山を、麓下に富士川を望み眺望よし。境内に拜殿・宮殿・敬慣院・御供所等の建築物あり。なほ山頂には奥院あり。永仁二年僧日朗の開山と傳へらる。

【七面山】　大峯山脈西方一支脈の一峯。奈良縣吉野郡大塔村と十津川村に跨り、標高一五五七米。北方に明星ヶ岳、南東穀は佛生岳（一八〇五米）に連る。西穀は

下辻山（一三〇六米）に終る。十津川の一支旭川は南斜面より發源して西流す。山頂の南側には大岩壁あり（北親なり。大和志に「七峰連聳、寇如蓮華」とあり。

北方の明星岳と七面山の分岐點の鼓低鞍部を舟の多和と云ひ、ここに七面山遙拜所あり。大峯奥驛路は即ちこの舟の多和を過ぎて通じ、七面山へは舟の多和より西方に分岐する路をとりて登る。

ジチュー　時中面　朝鮮平安北道江界郡の西北部。東は曲河面、北は外貴面及び文玉面、西は高山面、南は池雷面に隣接す。東境には舞鶴山（一〇八五米）南境には點岩山（八〇〇米）・劍門峰（七一三米）、北境には天祭峰（六八二米）等聳立して大部分山地を成す。鴨綠江支流禿魯江面の中央を蛇曲して西流し、其沿岸に見事なる河成段丘の發達を見、東部に於ては三段乃至四段、西部に於て二段乃至三段の發達を見る。耕地及び聚落は段丘面上に發達分布す。産物の主なるものに大麥・米・蜂蜜・馬鈴薯・栗・生牛・薪炭等あり。東方江界より來る二等道路は面の中央を縱走して鴨綠江岸の湍浦鎮及び北方惠山鎮に達し、自動車を通ずるも、他は何れも未改修にて坂路多く嶮して便ならず。聚落は散村型のもの多く、面事務所を外時川洞に置く。

シチョーリ　四張犂　→北屯庄（蘆澗臺中州大屯郡）

シチリ　七里

シチュ——シツ

【七里長濱】　青森縣西津輕郡にある海濱の稱。北部の十三潟より南の鰺ヶ澤町間に至る海濱をいふ。津輕平野の海に臨む所著しき砂丘地形の發達を見、ほぼ海岸線と直角の方向の砂丘列が併走し、之等砂丘の間及び背後には無數の湿沼・湿地あり。海岸は西北卓越風が直接吹きつけるを以て湿地も發達せず。冬季雪中の旅行は極めて困難なり。

【七里渡】　千葉縣東葛飾郡宮咲村大字布施より對岸北相馬郡稻戸井村に渡る利根川の渡津を俚俗七里渡といふ。往時この邊は大なる沼にして下流の取手までの里數を算して七里渡と稱せしものか。

【七里ヶ濱】　神奈川縣鎌倉郡鎌倉町稻村ヶ崎より西方腰越町小動崎に至る四粁餘の海濱をいふ。往昔、支那の里法により約我が六町を以て一里とせし頃の命名。此地は屢々戰場となり寶德二年四月には足利成氏兩上杉氏と此處に戰へり。近時は保養地海水浴場として著はる。東海道名所圖會「七里濱、腰越より稻村が崎まで渚道四十二町あり。東圖の六町一里なもつて七里が濱と呼ぶ。此所古戰場にして、今においても刀劍の折たる、又は武具の錆、或は骸骨など沢砂の中より出る事あり。南方は大洋にして、風あらき時は浪打上げて据な潮に浸す。此濱に黑き砂あり、日に映ずれば光あり、黑漆の如し、土人鐵の砂といふ、又花貝とて裝色したるごときの貝あり、又櫛貝といふ、此濱砂道にして歩する事煩し、農家の牛に乘りて往來する旅人もあり。」

【七里街道】　→足助街道（愛知縣）

【七里渡】　江戸時代、東海道は尾張の宮より海上七里を航し桑名に出づるを順路とし之を桑名七里渡と呼びまた間遠渡ともいへり。この航路邊の海を七里灘といふ。海上風波高き時は佐屋廻りの陸路をとれりと。⊛佐屋渡

【七里の御濱】　三重縣紀伊國南牟婁郡熊野浦の一部。熊野川の河口以北、河田和を經て木本に至る間の海岸は、紀伊國の海濱に稀なる平滑なる砂濱にして、熊野街道これに沿ひ、松の並木の中を通り、美しきドライヴ・ウェーをなす。通稱して七里御濱といふも、古くはまた有馬浦と稱し詞藻に入る。增基家集「心ある有馬の浦のうら風にわきて木の葉を殘すありけり」

シチリダ　七里田　→都野村（大分縣直入郡）

シチリハン　七里半　福井縣越前國敦賀郡愛發村と敦賀縣近江國高島郡創熊村との間の有乳山の坂路をいふ。故にまた七里半越といひ近江の海津に出づる道に當る。樵靜胎内想・西・四十八が瀧七里半、幾重の霞幾瀧の渡越えても、末の治りとは、いつこ有乳の山高く云々」津國女夫池・四「若狭口七里半より切つて入れ云々」⊛愛發山

シチリョー　七良面　朝鮮全羅南道康津郡の東部。郡邑康津の南方約五粁。東は長興郡大德面及び冠山面に、北は郡東面、南は大口面に隣接し、西は康津灣を隔てて康津邑及び道岩面と各相對す。東北南の三面は山地を以て圍繞し、東境には芙蓉山（六〇八米）・陽岩洞（四六五米）等連なり、北部には道岩山（四四八米）あるも中部は稍低平にして西方に向ひ漸次傾斜す。氣候は溫暖にして臨海の關係上夏涼しく冬暖なり。住民は主として農業に從事し臨海の松路里・永福里・鳳凰里のものは半農半漁を營む。産物には米・大豆・大麥・棉花等々あり。工産品には綿布・麻布・紙器等、海産物には石首魚・太刀魚・貝類・鰻等あり。道路は北方康津邑より來る三等道路海岸地帶を南下し大口面馬良里に通じ、永東里よりは更に支線を分つも何れも等外路線にして交通便なら字。巽津灣は潮汐干滿の差二米以上に達するを以て干潮時は船舶碇繫には不便を免れず。内陸聚落には冬稻里・三興里・丹月里・松丁里・興鶴里・長溪里等ありて面事務所を永東里に置く。永東里には交通の要衝に位置し、警察官駐在所、及び陰曆二・七の日に開設の市場ありて海産物・薪炭・穀類等の取引行はれ年額約二萬五千圓に達す。

シツ　磯津山　日本書紀景行紀に見ゆる地名。福岡縣企救郡曾根町大字貫に屬する芝津山を指せるものならんといふ。蓋し芝津は磯津の轉訛か。一に宇佐郡長

峰村大字清水ならんともいふ。景行天皇十二年九月、天皇筑紫行幸の時、周芳の娑麼に至り、使を神夏磯媛に遣はす。媛天皇の使至ると聞き、磯津山の賢木を抜とりて髻・鬘・玉等をかけて、給の舳に樹てて之を迎へしことあり。

ジッカ　日下面　朝鮮平安南道德川郡の西北端。郡邑德川の西方五粁。東は德川面、北は平安北道寧遠郡龍山面、西は价川郡北面及び朝陽面に各相隣接す。西境には月峰山(一〇三三米)、東南境には龍門山(一一八〇米)・甑山(六二八米)等聳え以て南・北・西の三面高峻なる山地を以て圍繞し、之等山地に發源せる諸流は中部に集りて矢柴江となりて東流し、域外數粁にして大同江に合す。矢柴川沿岸に稍廣き平地を見る。住民の多くは農耕を事とし、傍ら機織・採薪又は簡易なる家内工業に從事す。產物は雞卵・薪・明紬・木炭・草履等にして、特に明紬は德川充綿の名を以て人口に膾炙し、また良質の白菜種子を特產す。道路は何れも溪谷に沿ひて延び西境に於て優日嶺(六七七米)・柏峴(五九六米)等ありて嶮坂多く交通便ならず。聚落の主なるものに露坪里・西倉・尙樂里・雲谷里・中間站・興德里・槍屯里・遠下里等ありて面事務所を中部の西倉に置く。

シッカワ　後川村　兵庫縣丹波國多紀郡の南端。西宮市の北方約三十粁。北は日置村に、東は福住村・豐能郡昭和村に、南は川邊郡六瀬村・有馬郡小野村に接す。丹波高原の南部を占め、南境には大野山(七五三米)、北境には彌十郎ケ嶽(七一五米)あり、これ等は不明瞭な分水界をなし、後川はこの東北部に源を發し西南に流る。產業は川の流域に水田が認められ、外に林業も盛なり。鶴坊には鹽崎湯と呼ぶ鐵泉の湧出あり炭酸鐵泉たり。交通路には南より西峠を經て大坂峠を越え篠丸川の谷に通ずる街道あり。鐵道は不便にして、篠山町へ出づるを最も便利とす。此地はもと日置村に屬し、和名抄、多紀郡榛原郷の地たり。

シッケー　——社　臺灣新竹州大溪郡の蕃社。大嵙崁溪流域地方の山地にあり。ガオガン蕃を主とせるアタヤル族の部落。中央線桃園驛より大溪・角板山を經るを順路とす。大溪まで自動車、大溪よりは手押臺車の便ありて角板山に至る。角板山より徒歩約八粁の距離の行程なり。蕃音はSekki.

ジッゲツ　日月面　朝鮮慶尙北道英陽郡の東北部。東及び北は宮比面、西は青杞面、南は英陽面に各相隣接す。小白山脈中に位置せるを以て、西境に日月山(一二一九米)・興雲山(七六七米)等聳立せる外は著しきものなく、東南に向つて漸次傾斜す。域内概して丘陵性山地を成し、丘陵平坦面を利用せる耕地發達せるも地味痩せ農產豐かならず。住民は專ら農を業とし、副業として煙蠶に從事する者多し。產物は米穀の外麻布・紙・煙草・松茸・薪炭等あり。南方倉松より西方乃城に通ずる三等道路南部を橫斷せる外は著しきものなく交通便ならず。聚落は南半部に多く分布し、其主なるものに龍化洞・七星洞・梧里洞・道谷洞・佳谷洞・注谷洞・道溪洞・佳川洞・劇村洞等にして面事務所を道溪洞に置く。

ジッゲツタン　日月潭　→魚池庄(臺灣臺中州新高郡)

シッゲン　漆原面　朝鮮慶尙南道咸安郡の東部。馬山府の北西方約一二粁。北は漆北面及び漆西面、西は山仁面、東は昌原郡北面、南は同内西面に各相隣接す。東北境に晋臺山聳え餘脈域内に及びて東半部は山岳重疊すれども、西半部は老年期の丘陵起伏し、峰に中央を北流する漆原川沿岸には稻平野開け灌漑の便と相俟ちて面内の代表的農業地域を成す。然れども農產物收穫率他地域に比し低く米・大麥を馬山地方より移入の狀態にあり。主產物は煙草・大豆・甘藷等にして民度低く生活裕かならず。馬山・鎭山間二等街道略中央を縱貫し、北境に近く面邑漆原ありて此地を核心として道路網四通八達し郡内各面と連絡す。漆原は郡邑咸安に亞ぐ第二の地方中心聚落にして警察官駐在所、並に陰曆一・六の日に開く市場ありて穀類・日用品・織物類等の取引行はれ年額二萬五千圓に達す。

ジッケンダナ　十軒店　東京市日本橋區の本町と本石町との間に沿へる大通の通稱。昔より節句の人形を賣る店が多く、名稱も初め人形を賣る店十軒ありしよりの名なるべしといふ。守貞漫稿・二三「二月二十五日より三月四五日比監江戸十軒店及び尾張町鞍町等平日他業の家なも雛商人借り之」

シッコク　漆谷　【漆谷郡】　朝鮮慶尙北道の西南部。道管内一府一島二二郡の一。東南は達城郡に西は星州・金泉兩郡に、北は善山郡に、東北は軍威郡にそれぞれ隣接す。面積五三八方粁、高麗・慶山の各郡に次ぎて小なり。東部及び西部は山地を成し、東部に聖山(九〇二米)・遊鶴山(八三九米)、西北境に金烏山(九七七米)等の峻峰聳立し、中央をやや西偏りに洛東江北より南に貫流して沿岸に廣大なる耕地を拓き、水利の便よく地味肥沃にして肥沃なり。耕地面積は田七二七六ヘクタール、畑四九六六ヘクタール、農家は内地人一六戸、朝鮮人一〇九一一戸にして全戸數の八四%に當り、米(五・三萬石)・大麥(六・五萬石)・大豆(一・八萬石)等を產し、其他、棉花・大麻の產少からず。副業として繭及び蚕子・紙の賃織盛にして、殊に蚕子紙は從來加工者約五〇〇〇人を算し、最も注目せらる。工產は酒類をはじめ、藁製品・織物・陶器・紙等を產するも、重に鮮人側需要の一部を充すに過ぎず。鐵產には金・銀・タングステン・水鉛等あり。物資の集散は倭館及び若木を中心とし、内地・京城・釜山・大邱等を主要取引地となし、米・大豆の輸移出特に多し。總督府鐵道京釜本線、東南より西北に貫通し枝川・新洞・倭館・若木等の各驛を設け、東部を京城・釜山間の、南部を天安・大邱間の各一等道路通じ、且つ星州・軍威間の三等道路南北を貫くほか、洛東江には舟楫の便ありて安東・尙州等の奥地に通ずるを以て、交通頗る便なり。行政上、倭館面ほか八面に分ち、郡廳を倭館面倭館洞に置く。郡邑倭館は產業・交通の中心にして、郡南部と星州郡の大部はその所轄内に屬し、商況活潑なり。倭館驛東北の峻嶺を慶城山と呼び、文祿の役に我軍の一時駐屯せし處にして、倭館の名はこれに起る。北部仁同面に新興始祖赫居世の築きしといふ天生山城の址あり。東部の渠山頂上には李朝仁祖王の築きたる山城址あり、鵝鄕數里に亙る石壘今に存す。本郡の地は新羅の八居里縣にして一に仁里とも稱せしが、高麗朝に至り八莒縣と改め、更に顯宗王に至り漆谷と稱し一時星州に隸屬す。李朝仁宗王の時、渠山に築城し郡護府を置き、のち郡に改め、仁同郡を併合して漆谷の名を襲用し、郡廳を倭館に置けり。仁同郡は新羅朝の斯同火縣にして、景德王仁同と改め、のち一時星州に屬す。李朝に至り縣監を置き、のち天生山城を築き郡護使を置き、降りて更に郡となし、郡守を置きたり。

【漆谷面】　朝鮮慶尙北道漆谷郡の東南端。大邱府の北方五粁。北は東明面、西は枝川面、東は達城郡達西面及び城北面、南は同多斯面に各相隣接す。北東に道德山(六六〇米)、西北境に明峰山(四〇二米)聳立し、各山麓南に延びて東境及び西境を劃し、中央部に南北に地溝狀窪谷を成し、琴湖江支流外川南流灌漑し、地味肥沃、農產物に富み煙草及び果樹の栽培に適す。農產物には煙草・苹果・梨・米・大麥・大豆あり、外川流域には製紙業行はれ又南部の八達洞附近には陶器の製造行はる。其他綿布・麻布の機織行はる。鑛物にはタングステン・金等の埋藏あれども未だ稼行に至らず。鐵道京釜本線、面の南方を西走し枝川驛に近く、南方大邱府より來る二等街道綾谷を北走し乘合自動車の便あり。面邑漆谷は面の略中央に位置して前記一等街道に沿ひ之より更に放射狀に路線を分岐し交通比較的便なり。聚落は山麓線に沿ひて分布し八達洞・琴湖洞・潤水洞・大田洞・鳩岩洞・東川洞・鶴亭洞を其主なるものとす。漆谷洞には面事務所の外郵便所・警察官駐在所・小學校・金融組合、及び陰曆二・七の日に開く市場ありて、穀類・果物・煙草・薪炭・雜貨の取引行はる。

シッコク　十國峠　一に十石峠と書く。熱海市の西北に聳ゆる日金山の頂上をいふ。最高點七七四米。箱根外輪山稜掛山より豆相の分水界を南に下つて熱海に至る山道これに懸り、東面は熱海市、西面は静岡縣田方郡函南村に屬す。恰も伊豆半島の脈郡に當り、東には相模灣を脚下に眺め、西には駿河灣の湖波を眺み南は南豆一帶の山岳、さては田代・丹那の盆地など手に取るが如く、特に北方に仰ぐ富士の秀峯は一段と偉容を示し、附近は觀かな笹原のスローブを作り、其の佳趣他に比類なし。峠の名も豆・相・駿・遠・甲・武・信・雨總・常の十國及び豆南の五島(大島・利島・神津島・三宅島・式根島)を望見し得るより起る。昭和九年箱根より熱海に通ずる自動車專用道路(駿豆鐵道經營)完成するに及び遊覽行樂の便頗る良く、その名大いに喧傳さるるに至る。峠上に十國峠航空燈臺(熱海市)あり、燈質は白熱電燈速閃白光、二六六萬燭光にして、光達距離は晴天の時夜約七五粁に及ぶ。燈臺の下には展望臺あり休憩所賣店の設備整ふ。これに近く自然石に十國五島の碑ありて觀望の方位を詳に刻す。展望臺より熱海へ降ること約一粁に名刹日金山東向寺あり。その途中に自然石の歌碑あり、右大臣實朝公が「箱根路を我が越え來れば伊豆の海や沖の小島に波のよる見ゆ」と詠まれし處と傳ふ。

シッセー　漆西面　朝鮮慶尙南道成安郡の北部。東は漆北面、南は漆原面、西は代山面に各相隣接し、北は洛東江を隔てて昌寧郡古谷面・都泉面及び南旨面に相對す。洛東江の蛇曲流地帶に屬し一帶湖沼群地區を成し、域内赤湖沼多く中央部に小丘陵起伏する外は土地概ね低平なり。住民は概して質朴にして農業に從事し、農產物に北部の湖沼地域に於ては米、南部に於ては大麥・大豆等あり。また近時苹果の栽培行はる。東南部には馬山二等街道通じ慶全南線中里驛(昌原郡内西面)に連絡し、域内等外路線なるも比較的密にして交通便なり。北部は洛東江の水運ありて運輸便なり。

シッセン　漆川島　朝鮮慶尙南道の南部。統營郡何清面に屬する島。一に七川島。巨濟島の北に位し、東と南とは漆川水道を隔ててそれぞれ巨濟島の松眞浦及び鼎浦と相對す。周囲十餘粁。明治三十八年、日本海々戰の直前、東鄕提督がわが海軍の精兵を蒐めてバルチック艦隊との遭遇を待機するや、漆川水道附近は聯合艦隊の集地となれり。

ジッリン　實村面　朝鮮京畿道廣州郡の東南端。郡邑京安里の東南十餘粁。北は退村面、西は草月面、南は郡尺面、東南は利川郡新屯面、北東は驪州郡金沙面に各相隣接す。東境に天德峰(六三四米)・鼎蓋山(八七〇米)等聳え、急斜面を面内に臨ませ、北部赤丘陵起伏を成し中央は盆地を成して此處に漢江の一支流流す。產物の主なるものに米・大麥・大豆・粟・生牛・牛皮・薪炭等あり、西北方京

安里より來る二等道路は面の西部を經て東南利川に通ずる外は等外路線にして、地方的のものに過ぎず。聚落の主なるものは、悦美里・昆池岩里・唯仙里・釜頃里・二仙里・鄕寺里・三合里・遠谷里等にして昆池岩里には面事務所・金融組合等あり。

ジッチョーノ　拾町野　愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年本村はか四村を廢し長岡村を置く。

ジットー　十島村　鹿兒島縣大隅國大島郡の村。薩南諸島の北部にある諸島を含む。その主なるものは、薩摩半島の南方海上に東西に散在する竹島（竹野島）・硫黄島・黑島の三島と、屋久島と奄美大島との間に略南北に點在する寶（吐噶喇）七島、即ち口之島・中之島・諏訪瀬島・悪石島・寶島（吐噶喇島）及び中之島の西方なる蛇島、その南方なる平島の七島、合計十島を含むよりその名出づ。面積約一〇八方粁。霧島火山帶に屬する火山島にして多くは削剝なほ進まざる幼年期の地貌を呈し、周圍は高き海崖をなし、鎮地少く、内陸には耕地乏し。農産に米・甘藷・麥等あるもその額多からず。外に畜産・水産・林産あり。明治初年には熊毛郡・馭謨郡及び川邊郡に分管せられしも、明治十八年名瀬町に金久支廳置かるるや十島合してこれが所管に移る。これと同時に熊毛郡西之表村に其出張所置かれ黑島・竹島・硫黄島はこれが所轄に入る。同十九年支廳を廢し大島島廳となり、同二十二年西之表出張所に廢せられ黑島・竹島・硫黄島は島廳直轄となる。同三十年に至り十島も大島郡の管下となる。

シツニ　漆仁　出雲國（島根縣）仁多郡の古地名。和名抄に鄕名見ゆれども出雲風土記に鄕名なし。これ當時は三澤鄕の中に屬せしによるか。併し風土記に漆仁社・漆仁川の名見ゆ。風土記の記事によりて其の地のいま斐伊川の右岸の温泉村の邊なるべきを知る。風土記・仁多郡・湯野小川、源出ず玉峰山、西流入斐伊河上、通ず飯石郡堺漆仁川邊、廿八里、即川邊有り藥湯、浴ずれば身體穆平、再濯則萬病消除、男女老少、爽夜不息、驚駭往來、無不得驗、故俗人號云藥湯云々」

シツヌ　漆沼　出雲國（島根縣）の古地名。和名抄に出雲郡漆沼鄕あり。地は今の簸川郡直江村及び伊波野村に當る。出雲風土記・出雲郡漆沼鄕「郡家正東五里二百七十步……藏枕志都沼侯……此神鄕中坐、故云志刀沼」（神龜三年改字漆沼）。

ジップンリョー　十分寮　徳川幕府鎖道平溪線の一驛（昭和四年設置）。臺灣臺北州七星郡平溪庄十分寮にあり。

シッポー　七寶村　愛知縣尾張國海部郡の中部。名古屋市の西方約五粁、北は美和村に、東は甚目寺町・大治村に、南は富田村・蟹江町に、西は神守村に相隣る。濃尾平野の南部を占め、西境に蟹江川南流し、其他多くの悪溝を通じ、平野は水田に利用され畑地も多し。大字遠島は七寶焼の産地にして、七寶は慶長年中京都の人平田彦四郎道仁がオランダ人につきて學び之を子孫に傳へしも、專ら平田家の秘法に止る。天保年中尾張海東郡の梶常吉等オランダ七寶の類似品を作りこの村の人に傳へ、これ以來七寶焼の産額は益々增加し、この産物に因み、明治三十九年七月、井和村・伊福村・寶村を廢し、七寶村と改む。交通は北端にぼ社線名古屋鐵道津島線が通過し、中部には東西に津島街道が走る。此地は和名抄、海部郡志摩鄕の地、大字伊福は和名抄、海部郡伊福鄕の地たり。日本逸史には「天武天皇十三年諸國置伊福鄕」と見え、「粗美濃尾張之二國造殷富門伊福部氏也」と見ゆ。〔藤島神社〕大字秋竹に鎮座。縣社。祭神、伊知使島命。創建年代詳かならざるも延喜式内社たり。明治元年東京遷都に際し金幣若干を奉納せらる。例祭、四月三日・八月三日。〔富貴健速神社〕大字須成に鎮座。郷社。祭神、建速素戔嗚尊。鍛田信長當社を崇敬し、天文七年社頭を再興す。ついで豐臣・徳川氏の崇敬あり。假稱牛頭天王社。例祭は六月十八日。船祭とほぼ津島祭の如く、地方に有名なり。〔伊福部神社〕大字伊福に鎮座。郷社。祭神、日本武尊。天平年中の創建と傳へ、國内神名帳に「正四位伊福部神」と見ゆ。境内廣くして古木森森たり。例祭、八月十日。〔八幡神社〕大字遠島に鎮座。祭神品陀和氣尊。古來當村の産土神たり。例祭日、八月十四日。

シツホク　漆北面　朝鮮慶尙南道咸安郡の東北境。南に漆原面、西に漆西面、東は昌原郡北面に相隣接し、北は洛東江を隔てて昌寧郡古谷面に相對す。東南境に鈴峯山脈ゆる他は著しきものなく南半部は概して低平なるも、北部は三〇〇米内外の丘陵相連り、其山麓洛東江に臨み低地に乏しきも、西北境は潮沼都引連り低濕地を成す。南部は一般に農業盛にして米・麥・大豆・小豆・麻・甘藷等を産し、北部の洛東江よりは鮎・鮒の産あり。馬山街道西境を縱貫して北方鑾山邑・昌寧邑に連絡し、更に數條の等外路線を分岐して北面・昌原邑其他に連絡す。聚落は主として西半部に分布し、其主なるものに二宮里・佳澄里・鳳村里・徳南里・檢丹里・化川里・雲西里等ありて西寧郡所に面浦里に在り、また警察官駐在所を置く。鳳村里の市場は陰曆四・九の日に開き、東は北面、北は對岸古谷及び面内よりの人出多く活氣を呈す。

シツミ　七美　【七美（郡）】　但馬國（兵庫縣）の古郡名。延喜式に郡名見え、和名抄に志豆美と訓じ兎東・七美・小代・射添の四鄕及び郡家一を置く。元祿國以後七味郡に作りしものも舊に復す。明治二十九年北方の二方郡と合併し新たに美方郡の稱を建つ。【七美】因幡國（鳥取縣）七美郡の古地名。和名抄に七美鄕見ゆ。之郡美と訓じ七美郡家の所在地にして、式内志都美神社鎮座。中世には七美莊と稱し、長講堂領たり。後一二分莊ともいひ世々山名氏の居りし處。いま美方郡村岡町の邊とす。

シツミ　質見村　京都府丹波國船井郡の略中部。由良川の支流高屋川の左岸に位し園部町の西北方約一三粁。西に三ノ宮村に接し、南は增山村に隣り、東南及び東に高原村に圍まれ、東北は上和知村に北は下和知村に界す。西北境に六六八米の三峰山あり。東に山嶺のびて北境を限り南方へ緩く傾斜し、西南境及び南境には約三〇〇—四〇〇米の山地連り、北へ緩斜して中央に谷を造り、西境に源流する高屋川の支流東方へ出で村の東北隅にて本流に合す。全村山地多く木材・薪炭を産し、低地は耕作行はれ米・麥を産しまた養蠶も行はる。一村道、中央の谷を東西に貫き東隣高原村に出で、南北に走る縣道に連絡し、省線山陰本線の下山駅（高原村内）に近し。

シツラ　七浦村　石川縣能登國鳳至郡の西北部。東北は西保村に、東南は浦上村に、南は門前町及び諸岡村に隣し、他は海に面す。鳳至山地の一編に當り、北部の番場山（三一四米）、南境サビヤ山（三四二米）・猿山（三三三米）等いづれも海岸に向ひてなだらかな傾斜をなす。海岸は略中央に皆月灣を抱きて通ず崎・小崎の突出部あり、灣岸に多少の平地あるも他は山地迫りて斷崖をなす。傾斜地は概ね森林にして平地には多少の水田あるも、漁業をもつて主生業とす。交通は門前町より來る縣道の外、海沿の輪島町及び黑島村に至る細き道路あるのみにて概して不便なり。此地古くは和名抄、鳳至郡櫛比鄕の内に屬し、康應元年田數目錄に志津良庄七町とある地とす。

シツルイ　質留比ノ浦　出雲國（島根縣）島根郡の地名。今の同國八束郡片江村七類浦。出雲風土記・島根郡「質留比浦。廣二百廿步南神社。北百姓質、世給可泊」

シデ　四泥能埼　→刺津村（三重縣三重郡）

シテー　砥堤面　朝鮮京畿道揚平郡の東南部。東は楊東面、北は丹月面、西は龍門面及び驪州郡介軍面、南は同大神面及び北内面に各相隣接す。南境に鉢山（五四三米）・西境に注邑山（五八三米）等聳立するも域内一般に丘陵性臺地にして、所謂準平原の平坦面を形成す。耕地は多く準平原面上に分布し、漁撈の便乏しきを以て多く畑作農業行はる。産物は大麥・米・大豆・小豆・粟・煙草等にして副業として養蠶を營ず者近年著しく殖加し、明紬の産あり。又畜牛盛にして揚平牛の名に於て取引さる。其位置道の東境に偏在せる爲に道路の改修充分ならず廣濟里より南走する三等道路、西部を南北に縱貫せる外は何れも地方路線にて車を通ぜず、運輸は馬背に據る。聚落は地形に即して準平原面上に均等に分布し、概ね散村型聚落を成す。面事務所を北部の砥平里に置く。

シド　志度町　香川縣讃岐國大川郡の西北端。東は鴨庄・鴨部二村に境し、南は神前・造田兩村に接し、西は本田郡平井町・平賀村に隣り、北は志度灣に面し内海を隔て遙に小豆島と相對す。大字志度は三方山を以て圍まれ、地勢南より北に傾斜し、一小平野を擁す。海岸に沿ひ商家櫛比し一市街を形成す。昔時は商取引殷賑、軍譜第一の名邑として其名を博せり。海岸は一帶砂濱にて屈曲少く、東に小串崎、西に木田郡庵治村太讃ノ鼻突出し、一大灣をなす。灣内漁業の利あり。舟入深きも水淺きため、大船瓦船の碇泊に便ならず。灣口には高島點在し、呼べば應へん許、八葉・屋島の眺望と相俟ち風光可良なり。大字志度と服部とを合し、西北東の三方山岳にて圍まれ、其間一の高原をなし、發水は中央に合し南流造田村境なる野間池に入る。大字志度は農商相半ばせるも大字末は全部農家なる爲て風俗習慣稍異る處あり。米（五千餘石）・麥（四千石）を始め、生繭（二萬餘圓）・塩（八萬五千圓）・花茣（切花、八千圓）を出し、近時葉煙草（二萬圓）の産多くなる。尙商工業も永第に發達し、酒（二萬六千圓）・醬油（三萬圓）・下駄（三萬五千圓）・スプリング（給船用一萬二千圓）・線火鉢（一千五百圓）等の産あり。國道第二十二號線が海岸を東西に通じ、志度・坂出線は西南に、志度・脇町線は南に、志度・川島線は東南に通じ、省線高徳本線が町の中央を南北に通り、志度驛（大正十四年設置）あり、鴨部を經て、小田港並に津田町に、また一方造田方面へ定期自動車の往來あり。また社線四國水力電氣線は志度西口驛・志度驛を置き、交通便利なり。前面の海岸を志度浦といひ古くは玉浦・房崎ノ浦とも稱す。文治元年二月、平宗盛等屋島に破れ、軍船を志度浦に廻航せしも源氏に襲はれ長門に走ると。此地古へは良港として早く開け、小串崎を始め八葉源氏ヶ峰並に末等各所石器時代遺跡を有し、源氏ヶ峯には銅鐸の發見もあり、古墳時代の遺跡は認め得ざるも、附近には嚴然たる古墳を存す。和名抄、寒川郡多知鄕の地、多知は多和の誤りしものといひ、延喜式の多和神社は町の西北に鎮座。平安朝若くは鎌倉時代初期頃より志度と呼ぶに至りしものなりと云ひ、中世は志度莊に屬し、藤原氏莊園となり、志度等の如きは推古天皇の御宇藤原房前草創と傳へ、四國八十六番

靈地として參詣者絶えず、町は寺を中心として發達し、室町時代に至り塞川氏・安富氏の勢力範圍に屬し、江戸時代に入り、松平家の領となり、明治二年藩籍奉還、香川縣に屬し、同五年區劃制と共に第十一區となり、同七年第十四大區三小區となり、同廿三年町村制施行と共に志度・末兩村聯合、同三十一年二月十一日町制施行す。警察署・縣立商業學校等あり。附近には名跡多く、志度寺の他に大字末に靈芝寺あり。寛永年間の創始、藩主松平頼常の墓地なり。また竹林庵あり、竹林上人を以て知らる。町内には平賀源内の舊邸、田宮坊太郎の遺跡、謡曲に因める海士の墓等あり。〔多和神社〕志度に鎮座。郷社。祭神、速秋津比賣命。創建年代不詳なるも延喜の制、式内小社に列し當國二十四座の一。神位從五位上。なほ延喜式の多和神社に就き、當社となすものと、長尾郷前山村太田尾の多和神社に充つるものとの兩説あり。いま當社を以て暫定す。寛平元年、八幡大神を弁殿に勸請せしより土俗は多和八幡宮と稱へて產土神と崇む。寛文年間に今の志度寺の地にありしを現社地に移遷す。例祭、八月五日。〔志度寺〕志度にあり。古義眞言宗御室派。補陀落山清澄光院と號す。四國八十八所第八十六番札所にして古來當國七觀音の一と稱す。推古天皇御宇縫に一間四面の小堂なりしが、のち藤原不比等志度浦にて尖ひし面光不昔の靈玉を海女に探らしめし條山に依り、持統天皇八年不比等の男房前、海女温羅のために大いに堂宇を再建すといふ。後人此寺傳に基きて謡曲「海士」を成す。天正年間兵火に罹りて堂宇炎上せしが、領主生駒讃岐守近規觀音堂を再建し、高松城主松平頼重更に諸堂を興す。もと末寺十一箇寺を擁せしも、いま六箇寺を遺すのみ。諸堂宇整備し來讃最古の名刹として著聞す。本尊木造十一面觀音及び兩脇士立像三軀及び組木着色十一面觀音像一軀・同志度寺緣起圓繪六軸は何れも國寶たり。御詠歌「いざさらば今宵はここに志度の寺いのりの聲を耳に觸れつつ」〔地藏寺〕古義眞言宗御室派。如意山と號し、創建は欽明天皇の御宇にして藥師像を安置し魚靈堂と稱せり。上古讃阿二州の海濱に怪魚ありて船筏を害せしかば、之を退治しけるに風雨順を失ひ、洪水千餘頃に起る。仍て其憂を除かんために本寺を建立せりといふ。中古兵火に罹りて堂宇舊記等悉く烏有に歸す。寛文年中當山より五町餘の東に之を再興す。之れ即ち志度寺にして、當山は閻子尼化現の靈跡なるを以て別に一寺を造營して志度寺の奥の院と定めぬ。〔靈芝寺〕大字末にあり。古義眞言宗。日内山と號す。現に同宗高野末たり。弘仁年中、空海の開創に係り、初め圓律道場として大岡寺と稱せり。天正の兵燹に罹り、廢滅に歸せんとせしも寛文二年、國守松平頼重これを再興し、延寶八年現寺號に改む。のち松平氏累代の菩提所として香川郡の佛生山法然寺と並稱せらる。〔平賀源内〕此地の人。本草學者にして戯作者。蘭學・國學にも通ず。名は國倫、字は士彝、號、鳩渓・天竺道人・松籟子・風來山人（一世）・森羅萬象翁・無根翁・福内鬼外。高松藩主に召され藥方を司る。三十歳にして致仕す。江戸に出で田村文雄を師として物產の研精に傾注しまた戯作をも作る。源内夙に電氣の實驗を行ひ發電機を作り、また寒暖計諸種の器械を研究し、更に人蔘培養・砂糖製法を弘む。たまたま田沼意次のために別莊を營み、一商人と紛爭し過つて殺害す。よつて獄に投ぜられ安永八年十二月獄中に卒す、年五十一。贈從五位。

シトー　市東（しとう）**【市東（郡）】**上總國（千葉縣）の古郡名。中世に於て私に市原郡を東西に分けて置きしもの。近世の初舊に復す。※市原郡

【市東村】千葉縣上總國市原郡の東北隅。西に潟津村、南は長生郡の長柄村・新治村、東は山武郡士氣本郷町、北は千葉郡磯田村・椎名村と隣す。全村丘陵地にて森林多く、丘陵間の狹き低地は畑地・田地なす。北部には村田川西流しその流域にも狹き低地ありて水田をなし、米・麥・繭を產す。北隣磯田村を省線房總東線東走し、郡境近くに磯田驛ありて縣道を通ず。この地は和名抄、市原郡潟津郷の内にして、大字板倉は往時竹河原と稱す。のち此地に板原あり、のち麓に村名となる。維新前旗本春田氏の采邑たり。大字奈良は中古犬成村の支郷たり、後分れて一村となる。承平年中、平將門東國に據て叛す。當時この地上野郷と稱す。將門之に居り國務を司らんと欲す。のち下總國相馬里に據り、此地を以て南部と稱し、大和の奈良に擬し大佛の像を建つと。村名之によると傳ふ。大字古都邊は平將門、奈良村の地を大和の南都に擬し奈良と稱し、而して將門相馬に據るも居館なほ存し、嘗てこれに居らしむ。故に都の名あり。廢館後、古都邊と稱せり。大字高田も志摩郷に屬し、維新前旗本の本郷・中山二氏の采地たり。南方の高田城址は今は畑となり、其形を存せざるも北條氏の臣、高田直膳市東郷を領し砦を構へ之に居り、のち廢すと。村名之に因る。〔光德寺〕大字中野にあり。日蓮宗。經王山と號す。平將門築城せし古跡に日意上人本寺を建立すといふも創建年代を詳かにせず。周圍に今猶ほ土手・堀等の跡を存す。

シトー　泗東（しとう）**面**　朝鮮江原道淮陽郡の東南端。東に金化郡通口面及び長陽面、北に安豐面、西は淮陽面、西南は金化郡岐稽面に各相隣接す。大白山脈中に位置するを以て四面山地を以て圍繞し、東境には甑峰（一二六七米）・玉田峰（一二四一米）・清斫山（一〇八七米）・九鶴山九三〇米）等相連なり、北境には群鶴山（二〇二五米）・白龍山（一二四一米）等聳立し、域内高峻なる山岳重疊し西南に向ひ漸次低下し、則條山地に發源せる金剛川の支谷泗東川中央に集りて南流し、面境に於て金剛川に合流す。金剛川沿岸には僅かに河岸段丘の發達を見るも斜面は大部分畑地にて畑作農業卓越す。住民は主として農業に從事す。產物は大麥を主とし大豆之に亞ぐ、其他粟・馬鈴薯等を產し、北部に於ては稗を栽培し之を食料とする者多し。中部の上泗東里及び下泗東里附近に於ては養蜂行はれ、蜂蜜の產郡中第一位にあり。聚落は散村型にして南向斜面に多く分布す。下泗東里に面事務所・警察官駐在所あり。

シトー　獅頭山（しとう）　臺灣新竹州竹南郡にある山。南庄と三灣庄との境界に聳ゆるも南庄管内に屬す。海拔五二〇米。臺灣十二勝中の第一位を占むる大觀場にして、全山鬱蒼たる樹木に蔽はる。山腹には獅巖洞・金剛寺等の名刹點在し、自然の岩窟を利用せし勸化堂等十餘の堂宇あり。山頂に立ちて展望すれば、白蛇の如き中港溪の清流、大屏風の如き鹿場大山、近く象山・旗山・鼓山等起伏の樣は筆舌のよく盡す能はざるものあり。廟宇の規模また宏壯にして臺灣の東照宮にも比すべく參詣する者多し。多數の食菜人を擁するを以て名高し。近時ハイキングコースの一として此地を訪れる者多し。

シトー　莉桐庄（しとう）　臺灣臺南州斗六郡の西北端。濁水溪の南に位し、形は不正三角形を爲す。北は濁水溪を隔て臺中州北斗郡溪州庄と相對し、東南は斗六街に、西は虎尾郡西螺・虎尾の二街に夫々隣接す。管内は總て平坦なる沃野より成る。地勢上天惠に富むこと多く、耕地面積廣くして田畑合計三千百六十餘甲に及び、水利の便に惠まれ、農業盛にして純農村を形成し、住民の三分の二は農民なり。農產物は米・甘蔗最も多く、他に甘藷・落花生・胡麻・蔬菜類・豆類・柑橘類の產出赤勝からず。豚・家禽の飼育は農家副業の主班にして生產額莫大なり。交通は比較的便利にして道路よく發達し、縱貫道路を始めとし、指定道路・產業道路・部落道路縱横に開設せらる。なほ西隣西螺街及び東南隣庄六街との間には手押臺車の便を有す。本庄の内、香子・莉桐の二大字は舊西螺堡に、其他の五大字は總て舊溪州堡に屬し、乾隆年間閩粵の緒に就き、黄・蘇・王三姓の漢人最初の墾首となれり。大字莉桐は現庄役場の所在地にして、もと莉桐巷と稱し、乾隆の末年頃より小市街を形成し、現行制度實施の際改稱せらる。我が領臺後數次の行政上の變遷を經て、大正九年十月に至り、自治制施行と共に清領時代より存續し來りし堡を廢止し、七大字（もと七庄を爲せり）を合して莉桐を形成し、臺南州斗六郡に編入され現在に至る。〔北白川宮莉桐巷御舍營所址〕大字莉桐にあり。御遺跡地は改謹當時林本の所有にして、狹隘なる通路を隔て向側に存せる土地と併せて一屋敷をなし、向側には林本の宅存し、此の地點には鬱蒼扁一字ありたり。明治二十八年十月七日、能久親王は午前六時十五分北斗御發、濁水溪を御徒渉ありて、同十一時莉桐巷御着、林本の宅にて御舍營あらせらる。師團の濁水溪渡河は五日より七日に亙りしが、河川敷條、深さは頸に達し且つ流水急に、河底泥濘にして頗る徒渉に苦しみたり。此の日親王御乘馬にて河流を渉らせらるること五箇所に及びしといふ。林本の宅は明治の末に之を解體し、稻東方に移して之を改築し全く舊觀を存せず。また前記の鬱蒼扁は明治三十二年頃腐朽倒壞せしが、明治三十六年、其の址を選びて木標を立てて御遺跡を表示す。其後大正三年に至り、嘉義廳長津田毅一は西螺支廳長宮尾邦太郎と謀り、木標を改めて石碑となす。これ現在の記念碑にして、表面に「北白川親王莉桐巷遺跡碑」と刻す。

シトー　慈東（じとう）　朝鮮總督府鐵道東海北部線の一驛（昭和四年設置）。朝鮮江原道通川郡歙谷面にあり。

シドー　寺洞（しどう）**四道河子會**（しどうかしかい）　關東州普蘭店民政署管内の西南部。東は土城子會・亮甲店會、南は金州民政署管下の岔山會、西は三十里堡會、北は石河頭會に各隣接す。四周に山嶽を繞らす。即ち北東界には小黑山（四六九米）、東境に西大山（一九一米）、西境に大張山等あり、それらの山麓中部に延び、高度一〇〇米内外の丘陵到る處に起伏す。三十里堡河の上流東北境に發し、中部の輻狹き低地を傳ひて西流す。これらの低地には耕地開け高粱・大豆等を產す。道路四隣に通ずるも交通なほ甚だ便利ならず。

シドーカシ　地頭方村（じとうかたむら）　靜岡縣遠江國榛原郡の南部。駿河灣を擁する西南角の尖端部を占め、相良町の南に隣り、東は駿河灣に臨む。北部の大半は第三紀の丘陵連り南境にも低き丘陵あり。南部に東流し海に注ぐ小流あり。沿岸は沖積層よりなり耕地拓く。海岸は砂濱をなし良港なきも岬鼻部に位置する關係上遠州灘氣海氣の假泊場となる。南部沖積地には水田開け丘陵には茶園あり、米・繭・茶を產し、漁獲も少からず。社線藤相鹿道には本村を終點とし終點地頭方驛及び落居驛（共に大正十五年設置）を置き、相良町より南方御前崎村に至る縣道これに沿うて通じ、西方佐倉村に至る縣道を分岐し各バスを通ず。海濱は地頭方海水浴場として著はる。此地古くは和名抄、榛原郡相良郷の内に屬せしものか。村名は蓋し相良庄の地頭方の義なるべし。

シトーリ　倭文村（しとり）　兵庫縣淡路國三原郡の北部。洲本町の西方約八粁。北は堺村に、東は廣田村に、南は榎列村

に、西に宮城村に接す。

走る奥羽山脈の西麓にあり、東北より西南に三記録より流れ、南木川の谷を切り、谷をなして東流す。西北には矢山が奏り、そ平地には本田耕作が行はる。交通路としては南谷に北東南に南木川の谷を北東線鉄道が走り奥羽山脈を貫通し、中央に新本かたる金鉱を形成す。

訪湖に接し、十人を先祖として自ら頂部を訪ちて自ら頂部をなり。初代光義頃は大鉄鉱を命ずれば其の宿を命ぜられ、三代目は大鉄鉱氏の恩恵あり。加藤氏は建久・建武の見切りより交通・弘長年間に東京に住し、東京に見え、後醍醍・弘長年間に東京に住し、東京に見え、後醍醍氏は建久の頃の事も見え、後醍醍氏の加藤氏はその支流ならん。鉄道氏も支分は三手鉄道氏は鉄道氏の一部中山道鉄道氏の一部中山道鉄道氏の一部中山道

上ノ太子といふ。推古天皇二十七年聖徳太子此地を相して墓所を築き、翌年母后崩じ給ふや此處に葬せらる。次で同二十九年太子薨ずるや此處に葬る。のち太子の妃膳手皇女なども附葬し世に之を三骨一廟と稱す。墓の高さ一〇米、徑約五〇米の圓丘にして周圍に楚官を刻せる石柱を二重に繞らし、正面羨道の入口に唐破風の屋根形あり、嘗て此處より出入し玄宮に參拜するを得たりしも明治十二年修理に當りて之を閉塞す。推古天皇、太子御追福の願頭を發し給ひ御墓を守護せんため坊舎十棟を香華所として建立せしめ六町四方の地を賜ふ。聖武天皇神龜元年、勅願に依り東西に伽藍を構へ東を薄法輪寺、西を願福寺と稱へ大和の法隆寺に擬す。弘仁元年弘法大師一百日間鼓に參籠し太子の教命を請け三地を證得す。歴代天皇の御崇敬他に絶し、諸天皇屢次御臨幸あり。安年中平清盛勅を奉じ伽藍を補修し、其子重盛赤大樓越たりき。永仁二年亀山天皇臨幸して當國高安莊を御寄進あり。爾後皇室より賜りし莊園一時は二萬石に達すといふ。のち天正の兵火に罹りて諸堂灰燼に歸せしが、慶長年間豊臣秀頼勅を奉じて再興す。曾て親鸞・日蓮等の大德も玆に參籠して法を修むといふ。元禄元年の記錄に十六箇院、八坊、四庵と見え維新前塔頭十三箇寺ありしも、今は東福院・聖光明院の二箇院を存するのみ。諸堂中念佛堂は善光寺四十八願所第十三番札所にて善光寺如来の模像を本尊とす。寺寶中絹本着色文殊渡海図一幅・寶亀七年高屋連牧人墓誌一枚は共に國寶にて、前者は鎌倉時代の作、後者は延享年中本寺愛染堂畔の田間より得たりと。〔四方尼院〕大宇太子にあり。浄土宗。南向山と號す。聖德太子、推古天皇二十九年に御歳四十九歳を以て薨じ給ふや、太子の侍女日益・月益・玉照の三女黒髪をおろし太子御廟の傍に一宇を建立しその菩提を弔ふ。これ本寺の濫觴なりと傳ふ。當時は法樂寺と稱せりといふ。のち寺門荒れ果てしが寛永十六年、壽正尼これを中興す。〔妙見寺〕大宇春日にあり。曹洞宗。天白山と號す。寺傳に依れば蘇我馬子の開創なりと云ひ、舊時は堂塔坊舎頗る盛なりしがのち衰頽す。明治維新後に東方數町の山腹より現地に移る。寺寶中紀吉繼墓誌一枚は國寶たり。

シナガワ　品川（しなが）

〔品川區〕東京市三十五區の一。もと荏原郡品川町といひしが昭和七年東京市域の擴張に際し大崎町・大井町と合併して品川區となり市域に入る。本區は東は東京灣に臨み、西は荏原區、南は大森區、北西は芝區・目黒區に接す。舊東海道の明峠を扼する樞要の地として古より知らる。その地形東西に短く、西北及び西南に跨りて凹字形を成し、廣袤一〇・一六二平方粁にて、町數七十三町に區劃せらる。西の荏原區、西北部の芝區及び目黒區に接する部分、西南の大森區に境する方面は高燥なる臺地を成す。區内を西より東へ蜿蜒する二河川あり、區の南部を流るる立會川は荏原區との境を經て、大井森下より大井南濱川に至りて東京灣に注ぐ。東北部を流るる目黒川は大崎本町附近より西部臺地と北部臺地の中間に介在する舊大崎の平地より、南・北品川の境を經て東品川に於て東京灣に注ぐ。本區は京濱工業地帶の一部をなし大工場多く、大東京市實現の後を承けて、世界の大都市として恥しからぬ事務事業の整備と充實に向つて一路躍進しつゝあり。品川町は區の略中部に位し、北は芝區に東は東京灣に臨み、南は大井町、西は荏原區に接す。舊東海道五十三次の品川宿のありし地、東海道本線の品川驛は本町に接する芝區高輪南町にあり、山手線の分岐點にて京濱電氣鐵道の起點とす。町は古の大井郷の内にて、延喜式の大井驛馬十疋傳馬荏原郡五疋の地は本町ならんといふ。鎌倉時代、品川氏の領する所となり、承久三年字治橋合戰の討死者に品川次郎、同三郎と東鑑に見え、應永二十二年、上杉禪秀亂を鎌倉に作すや、品川左京亮足利持氏に從ひて畢族陣歿せりといふ。其後一時、太田道灌の有となり、大永四年小田原北條氏の分國となり、北條役帳に太田新六郎知行品川内布西寺分二貫五百文、葛西樣御領七十七貫文、島津四郎知行十六貫文、同又次郎知行十五貫文、北に北品川法林院分と載す。德川氏入國後は直領となり、慶長年中驛場を定むるや東海道五十三次の首程となりしより年々を経うて繁榮に向ひたり。千住・新宿・板橋と共に、江戸四宿の一に數へられ、江戸の南の門戸として重要なる位置にありき。明治元年品川縣に隷し、明治天皇御東幸の砌度々も當地に御駐輦あらせられ、賢所を荏原神社に奉安あらせらる。明治四年十一月より東京府の管下に移り、同十一年品川步行新宿は北品川宿と聯合、南品川宿は南品川櫻師町・南品川利田（しなだ）新地・二日五日市の三箇村と聯合し各聯合戸長役場を設けしが、明治二十二年町村制施行と同時に六箇村合併して品川町と稱す。舊東歐洲文明の移入につれ各種工業の勃興の機運に會し、帝都の接續地なると共に交通上の要衝に當りしため、全く往時の面目を一新せし工業地帶として大いに繁榮をなすに至る。昭和七年東京市に編入し、東西南北の品川に分る。品川の名稱の起源はこの地を流るる目黒川を古くは砂川といひ、のち品川と稱せしに因むといふも詳かならず。此地に名勝舊蹟多く、品川神社・禪刹東海寺・八ツ山公園・權現山公園・御殿山公園・御鷹場海晏寺等あり。古墳三箇「品川じやア兩方のはしへすはるのがいい女郎さ、見とうしの事を演ずいひやすい、穴ぐらの樣に下々にある庵室を下々家といひやす。天王のじぶんがにぎやかさ、六月七日から十九日までこざりやす。そして燈籠が出やす、二十六夜は大もの日さ、妙國寺の仁王さん、岸行寺のぢうやなぞはべつしてにぎやかさ」※大井町・大崎町

〔品川灣〕東京灣西北隅の一部。江戸川三角洲と多摩川三角洲との間の海面をいふ。灣の沿岸はすべて東京市に屬する。灣内に隅田川・中川等注ぎ、江戸川・多摩川等と共に盛んに土砂を運ぶため埋められ、絶めて浸海となりしを埋立によりて漸次陸地化し爲に灣は縮小す。また浸海なるため大船の入るを得ざりしが、近時航路の浚渫を行ひ築港工事進みしにより内地航路の汽船の出入增加す。漁場としては内海的なるものにて漁獲少く、僅に干潮時の干潟地を利用して多摩川口に至る間に海苔の養殖行はれしが、これも築港のため衰ふるに至れり。

〔品川〔縣〕〕明治の初め武藏國に設きし縣。明治二年二月九日、荏原郡品川に設き、同年四月十日には伊豆國の韮山縣の管下たりし武藏國多摩郡を移管し、更に本縣管下の武藏國比企郡を韮山縣に移せしが、同四年十一月三日本縣を廢して東京府に合併す。

シナガワ　仕七川村（しちな）

愛媛縣伊豫國上浮穴郡の東部。北は面河村、西北は川瀬村、西は久万町、西南は弘形村、南は中津村、東は高知縣吾川郡池川町と界す。四國山脈の西部を占め、村内高峻なる地形をなし、東北隅に三光ノ辻山（一二一六米）、北には四ツ辻ノ森（一二〇二米）、西北にも八百餘米の山岳あり、東南にも二筧山その他の山岳ありて中央に向ひ低くなり、各山地を切つて諸川流下す。東より西に仕七川、北境中央部を南北に面河溪流奔り、共に中央部にて合して西流し、一軒餘西にて更に南流する溪流を容れ西南に往き、西南隅より南方に面河川下る。溪谷に沿うて縣道開け、仕出・七鳥・東川の街村あり。主として林産物（木炭・三椏・楮等）を出し、また谷底平野より米・繭を産す。古へ七鳥と稱せしも、のち東川・仕出を併せて現村名となす。大宇七鳥にある岩屋寺附近は深山幽谷にして、岩石突兀として聳立し、斷崖絶壁の間所々に岩洞あり。岩壁の特に大なるものに鹿原岳・不捨岳・鈴岳・高祖岳・龍女峯等あり、尚この外に飯内滑り・觀音の窟等の奇勝あり。〔河崎神社〕大宇東川に鎮座。郷社。祭神、天之忍穂耳命・天之若身命・能命・天津日子根命、其外。社傳に據れば文武天皇慶雲二年國司伊豫大領越智玉興、詔を奉じて社殿を創立せしと。蓋東國司領主の崇敬厚く社領を附せられしこと多し。例祭、十一月十五日。〔岩屋寺〕大宇七鳥にあり。新義眞言宗豐山派。海岸山と號し四國八十八所第四十五番札所たり。幸傳によれば弘仁六年空海の草創にて、明治初年までは菅生山奥ノ院と稱し大寶寺末たりしが、のち分立す。同三十一年災厄に遭ひて諸堂悉く有に歸せしも、其後再建成る。寺域は深山幽谷の間にあり、岩窟の間に奇石散在す。詠歌「大聖の所の力の實に岩屋石の中にも蓮咲くなる」

シナケ　四林格社　臺灣高雄州恒春郡の蕃社。恒春の奥地山巒地帶にあり、パイワン族パリウリジャオに屬する高砂族の部落（戶數一〇九、人口六八六、昭和十一年末現在）。平地に近きため習俗の漢化されしもの多し。恒春街より約十六粁、途中の峠林まで自動車を通ず。

シナヌ　科野・信濃（しなの）　→信濃國（長野縣）

シナノ　信濃・信農・科野

〔信農〕陸奥國（岩手縣）にありし古地名。和名抄、江刺郡に信農郷あり、高山寺本は信濃に作る。其の地、今詳かならざるも今の江刺郡伊手村・恵里村の邊に當るか。大同類聚方に江刺郡人信濃連勝麻呂とあるは、蓋し此地を領せし者の族なるべし。

〔信濃坂〕東京市上野公園内帝室博物館の東、即ち東叡山寛永寺の巽隅愛宕門前より東の下谷區坂本へ下る坂。柳樽「寛山の謀叛は信濃坂を下り」

〔信濃國〕東山道十三國の一。一に信州。本州の中部に位し全く海に面せず。土壌は一帯に高原性を有し河水の他國より流入するものなし。大體國の中央をほゞ南北に走る山脈により南信・北信に分れ言語氣風も自ら多少の相違あり。古事記・國讃りの條に、洲羽と見ゆるは此國の史上に見ゆる最初にて、天孫降臨に先立ち高天原より天鳥船神に建御雷神を副へて出雲の大國主命を說伏すべく差遣せられし時、大國主命の御子事代主命は、父命の問に應じ、天神の命に應ずべく恭順の態度を示されしに反して、次子建御名方神は、反抗的態度に出で千引石を擎げ來りて高天原よりの使節と抗爭し、力競べを試みられしが、これに敗北され結果その場を逃去り、窘迫されて科野（信濃の洲羽海（諏訪湖）に到る。此に於て遂に殺されんとせしが、我を殺すこと勿れ、この地を除きては他所に行かじ、また我が父大國主命の命及び事代主命の言に違はじ、この葦原中國は、天神の御子の命に隨つて奉獻せんと云はれしとあり。これを以て見るに上代諏訪地方は出雲族の勢力下にあり、その由緣を以て建御名方神は諏訪に逃れしものとも考へらる。國造本記は科野國に作り、崇神天皇の朝、神八井耳命孫建五百建命を國造と定め給ふ。次いで日本武尊が東夷征伐の歸途、信濃を經て美濃に出で給ふ。また景行天皇の朝には建沼河命孫大區命を以て項羽國造と定め給ふと國造本紀に見ゆ。この科野・項羽二國を合して信濃國とせるは和銅年間ならんと云はる。次いで養老五

年六月信濃國を割きて始めて諏方國を置きしが、天平三年三月諏方國を廢し信濃國に併す（續紀）。而して國郡制の定められし時、國府は筑摩郡の今の松本市内に置かれたり。平安時代には貢馬のこと國史に屢々見ゆ。これ高原性の原野が好牧場たりしことを物語るものなり、また信濃の枕詞を、みすゞ刈る」と云ふは、蓋は篠にて、篠竹の繁れる原野多かりしに因むといふ。源平時代、源義賢敗死するや妻はその子を伴うて信濃に逃れ國中原望遠に身を寄す。この義賢の遺子こそ實に後の木曾義仲にして叔父源行家が以仁王の令旨を奉ずるに及び、平氏討伐の兵を擧げ、越後方面より來れる城長茂を破りて北陸より西に向ひ、行く行く平氏の軍を破りて京都に上りしが、のち源頼朝に忌まれ栗津原に戰死す。かくて頼朝の治下に入り小笠原長清守護となる。元弘三年北條高時の鎌倉に滅ぶや其遺子泉壽丸信濃に逃れ諏訪神社の祠官の家に隱る。これ即ち後の北條時行なり。足利尊氏の叛きて鎌倉に據るや建武二年五月時行兵を擧げて鎌倉に攻入る。これを中先代の亂といふ。吉野時代に至りて宗良親王この國に來り給ひ中興の軍を督し信濃宮と稱せらる。戰國の頃、松本城には小笠原氏居城し、木曾には木曾氏、諏訪高島には諏訪氏、葛尾城には村上氏、佐久方面には平賀氏等ありて虎視眈々たる有樣なりき。この頃甲斐國に武田晴信（信玄）あり、天文年間に兵を先づ信濃國佐久に出して平賀氏を破り、次で諏訪・小笠原・木曾の諸氏を降し遂に葛尾城に迫る。城主村上義清敵せず、越後に走りて上杉景虎（謙信）に救を求む。よりて景虎、兵を信濃に出し、川中島等に於て戰ふこと數年に及び未だ勝敗決せざるに兩雄相次いで歿し、織田信長の有に歸し、信長國内を部下の諸將に分與す。然るに間もなく信長は本能寺の變に遭ひて斃れしかば、信濃國内にある諸將はいづれも遁退に逐ひ國内大いに亂る。豐臣秀吉小田原を平定し天下ほぼその勢力下となるや、川中島を上杉景勝に、松本を石川數正に、高島（諏訪）を日野根高吉に、小諸を仙石秀久に、上田を眞田昌幸に、伊奈を毛利秀頼に與ふ。既にして秀吉薨じ、のち上杉景勝領地會津に轉りて德川家康の譴を蒙ふ。よりて家康は景勝を討たんとして東下せしが、偶々慶長五年、石田三成舉兵の報に接し、兵を返して東海道を上り、子秀忠をして東山道を經て西上せしめしが、上田城主眞田昌幸途にこれを遮みて秀忠の軍を抑留し、爲に秀忠は關ヶ原役に參戰することを能はざりき。爾後世は德川時代となり諸侯の異動頻繁なりしが幕末には松代（眞田氏十萬石）・松本（戸田氏六萬三千石）・飯田（堀氏一萬七千石）・高遠（内藤氏三萬三千石）・高島（諏訪氏三萬石）・龍岡（田野口、大給氏一萬六千石）・須坂（奥田〔堀〕氏一萬餘石）・飯山（本多氏二萬石）・岩村田（内藤氏一萬五千石）・小諸（牧野氏一萬五千石）・上田（松平氏五萬三千石）の十一藩あり、その他尾張の名古屋藩、美濃の高須藩、越後の椎谷藩及び德川の旗本の領地等六二十二に區分す。明治元年八月伊奈縣を置きて國内の諸藩以外の領地を管す。明治四年七月には南信の松本・飯田・高遠・高島の四藩は何れも縣となり、同年十一月には伊奈縣及前記の四縣を廢し筑摩縣を松本に置き、飛騨の高山縣と併せ、筑摩・伊奈・諏訪・安曇の各郡及び飛騨國を管轄す。而して北信にては明治三年九月伊奈縣を割きて中野縣を置き、翌年六月田野口藩を二分して伊奈・中野二縣に分ちて一半を併せ、次いで之を長野縣と改稱す。當時北信の松代・須坂・飯山・岩村田・上田・小諸の六藩は何れも縣となり、十一月には以上の七縣を廢して更に長野縣を水内郡長野村に置き、北信の埴科・更級・水内・高井・佐久・小縣の六郡を管す。明治九年八月筑摩縣廢止せらるゝ。爲にこれを廢して長野縣に合併し、飛騨國はこれを岐阜縣の管下に移し、長野縣は信濃一國を管するに至る。明治十五年五月郡を分割し、水内・高井・伊那三郡は各々これを上下の二郡とし、筑摩郡を東西二郡に、安曇・佐久の兩郡は各南北二郡に分ち計十六郡となる。長野・松本・上田の三市は早くより夫々市制を布きしが、最近には岡谷（おかや）と諏訪郡平野村・飯田の二市出現して、五市十六郡となる。

【信濃川】本州中部地方の長野縣より新潟縣に亙る我國第一の長流。中央日本高地の略中心地より東北流し、上越の魚沼原野及び中越の低野を貫流する大河にして源を信州に發するを以て信濃川といふ。東南流する利根川、西南流する木曾川と對峙す　越後山脈及び三國山脈の西北方に益行して第三紀層の低山丘陵廣く發達し、殊に信濃川を挾みて東山・西山の低山脈は西南・東北の方向に並列す。この兩低山脈は地質構造上地層の背斜に相當し、信濃川はその間の向斜又は向斜に沿ひて起りし地溝帶に相當す。川は右岸より東久見川・中津川・清津川・魚野川の支流を合し、左岸は筆三紀の圓田山脈に限られて殆んど支流を缺く。本流の長さは三六九粁にて石狩川及び利根川を凌駕し我國第一の長流なり。流域面積は一二二六〇方粁にて、利根川・石狩川に次ぎ第三位。上流は主として長野縣、下流は新潟縣に屬す。支流の數は二七七にて八千八川の骨譜あり、魚野川はその最大なるものとなす。上游千曲川の水源は甲武信岳（二四八三米）にて日本海よりも寧ろ太平洋に近く、八ヶ岳と關東山脈との間を西北に流れ、佐久平にては蟇科山（二五三〇米）・淺間山（二五四二米）山腹の水を集め、上田盆地を過ぎ善光寺平に出でて川中島に於て犀川を合す。犀川は木曾山脈中の駒ヶ岳北側鳥居峠附近に發する奈良井川を上源とし、松本平に入り松本市の西を流れ間もなく梓川を入れ更に北より流れ來る高瀬川を合せ、之より第三紀の山地を切り善光寺平にて千曲川に合流す。信濃川に沿うては上流及中流地方にも諸所に神積平原が發達しその中最も著しきは、長野市附近より飯山町（下高井郡）に達するものにて、主に千曲川・犀川の合流の爲生ぜしものなり。この邊の信濃川は斷層谷を成す。飯山平（飯山町海拔三一六米）を過ぎて信越國境の峽流に入り志久見川（高倉山・鳥甲山・大次郎山・毛無山等の火山の北面に發したる諸水を合す）を、新潟縣中魚沼郡上郷村に於て合流し、全く新潟縣に入りて信濃川の稱を得。越後に入りては北越の大縱谷平野を縱貫し、中津（郡馬縣野反池（一四八七米）に發する魚野川と雄魚川との合流せるものにて、所々に峽谷を造り大割野（二四二米）にて本流に合流）・清津（三國峠（一二四四米）と白砂山（二一四〇米）の北部に發し北流、高津倉山（一一八一米）の西麓にて峽谷をなし、僅に羊腸たる小徑を通ずるのみ）の二水を容れ、魚沼高原に下る。中魚沼の谷を過ぎ北魚沼郡川口村に於て魚野川（三國山脈の茂倉岳（一九七八米）に發し北流、南魚沼郡湯澤村を過ぎ塩澤町にて清水峠（一四四八米）に發せる登川を合せて北流し六日町（一六五米）に達す。之より浦佐村・北魚沼郡小出町に合流する支流中、最大なるものなり）を合せ小千谷町（北魚沼郡）附近より初めて第四紀の越後平野に出で長岡市に至り、西方より鍵谷を流れ來る蟠海川を合せ河流は大規模なる網狀をなし氾濫原上を蛇行し下越平野を造り、下流に於ては刈谷田・五十嵐の諸溪を併せ、更に分流に次ぐに分流を以てし合流に次ぐに合流を以てし多くの蜂網狀河川をなして流れ、中ノ口川・西川の分流を、大河津より分水路を分ち、阿賀野川とは分水小阿賀野川により連絡し、また西川・中ノ口川をも收め三條市・加茂町（南蒲原郡）・小須戸町・白根町（共に中蒲原郡）等を經て新潟市に於て日本海に注ぐ。川口は北に櫛形山塊、南に角田・彌彦・多寶地塊の岩石海岸をふちどる砂丘を控へ、この間を信濃川が斜に吐口をひらく。信濃川下流の沖積平原及び信濃川・阿賀野川の複合扇狀地は越後平野と呼び、此地方最大のものにて最も土地肥沃、人口も稠密なり。新潟港はこの川口に發達せしものにて近來異常なる發展をなすも、其原因は良灣にして就海至便なる爲にてはなく、背景に越後平野あり、北陸の門港としての生命を持つ爲なり。航路距離、鈴川二八三粁、鈴支川七〇三粁、川蒸氣は長岡市まで、小船は小千谷より更に遡り中魚沼郡の十日町を經て水澤村まで通じ、途中の信越國境には總濃と稱する急灘あり河口より一二〇粁にて舟行を斷たれ、善光寺平に入れば飯山・屋代間は舟を通ず。それより上流は犀川に於て新町・明科間に僅に通ずるのみにとどまる。魚野川は小千谷より六日町まで遡航し得て利根川の倉賀野河港と對應す。併し長岡より上流は織道開通後は著しく衰微す。千曲川・犀川及び中流の大割野附近は水力發電所に適する地多く已に東京電燈により多く利用され京濱地方送電に成績をあげつつあり。上田盆地・佐久平・松本平・善光寺平等の斷層盆地には千曲川・犀川流れ狹長なる氾濫原を形成し水田開け、兩側には斷層崖下に扇狀地の發達著しく畑地特に桑畑として利用さるる所多し。中魚沼谷・北中魚沼谷・越後平野等に於ては灌漑に十分利用されて水田耕作を助け、また聚落の用水路としても貢獻する所大なり。一河川流域としては日本海斜面に於ける最も大規模なる生產地帶とす。また流域に松本・長野・新潟等の都邑發達す。（信濃川分水路）信濃川下流が曾て入江にてあり、また洲潟なりしことは口碑記錄に殘り、現在の沖積地は之等の巨大なる湯湖又は入江の埋りしものにて水田景は平滑廣汎、關東平野の狹長樹枝狀の複雜なる分布とは大に趣を異にす。最下流の地方は今も排水不完全にて、福島潟・鎧潟等の溜水殘存し灌漑よりも寧ろ排水を必要とし、星天續きの年に却て旱魃を來す程なり。大河津・寺泊間の信濃川分水もこの救濟が主要なる目的の一なり。他の目的は沿岸住民を洪水の脅威より救ひ且つ新潟港の發展の爲とす。流域は十郡に亙り影響も非常に大きく、治水の歷史は鄕土史の大部分をなす。地上に發れし高水位は二十數米に及び沿岸各町村は全く破壞流失の厄に遭ひ、田畑荒蕪に歸せし悲慘なる大氾濫は數年に一度は必ず起る。水害區域は數百方粁以上にも上り、其度に長岡以北は一面の大海原と化す。殊に阿賀野川の分離と共に享保以來衰退せし新潟港は、度々大洪水に惱まされ特に氾濫激しき上に流出する土砂は河口の新潟港を年々埋め、改修困難を加ふ。故にその治水が如何に緊急を要する事業なりしかを知らる。それ故河口より五五粁上流の大河津より、日本海沿岸の寺泊町に直接洪水を分水する計畫樹てられ、明治四十二年より大正十五年まで前後十八箇年の歲月を閲し、この大分水工事が完成さる。分水路の長さ約一〇粁、幅員二七〇—七二〇米。信濃川の最大流量を分水路に導き日本海に放流し、本流及び大河津に於ける分水路入口には、自在堰や洗堰を設け、信濃川の水量を適宜に調節せるため本流の水位は常水を保ち下流の安全を期す。分水路は略んど直線的に開鑿され、大正十一年始めて通水を行ひ、古來慘虐を極めし洪水を征服す。總工費二千五百萬圓、日本最大の河川强制工事なり。これにより碧潟港の洪水の

危險は全くなくなり、往時その河口屋々變遷し、商港的價値を定め能はざりし新潟港の改修も可能となり、下流地域の數百方町歩の水田と多數の村落は永久に水害を免れしのみならず、濕水地は千て美田となれり。かくて大河津分水は越後の產業に大なる轉機をもたらせり。

【科野村】長野縣信濃國下高井郡の西部。千曲川の支流夜間瀬川の右岸。下水内郡飯山町の南方約七粁。北は倭村に、南は平岡村に、東は夜間瀬村に、西は長丘村に寄す。東北境に高井富士（一三五二米）屹立し、西南に傾斜し、夜間瀬川の谷平野となる。山地は概ね森林をなし、河岸の平地には水田・桑園あり。社線、長野電鐵西部を貫通し、赤岩驛（大正十四年設置）を置く。飯山町・中野町へは縣道通じバスの便あり。この地は延喜左馬寮式に信濃國笠原牧とある地なるべく、東鑑・文治二年三月の條に見ゆる信濃國左馬寮領、笠原御牧の内なるべし。いま赤岩・深澤・越の舊三箇村を合し科野村となす。〔高杜神社〕縣社。祭神、少彦名命・大國主命・健御名方命。延喜式内社。當社は奥社・里社の別あり。奥社は高杜山第二の峰上岩窟中に鎮座し、土俗は高杜藥師と稱す。然るに中世に眞言宗高杜山神宮寺別當たりし時、祭神を第一峰の小祠に奉遷し改めて藥師佛を安置す。爾來高杜本宮の祭祀は社僧行ふ。里社は正中年間に神宮寺廢絶し、奉賛者たる神官於國氏も斷絶せしが、文明の頃曹洞宗の僧の再興してまた藥師佛堂の別當となれり。寛永年中改めて谷厳寺と號して現存す。明治五年、藥師佛を廢し祭神舊に復せらる。例祭十月八日。〔越智神社〕大宇屋敷添に鎮座。鄕社。祭神、御穗須々美神・菅原道眞。創立年次を詳にせざれど口碑によれば、天武天皇白鳳十三年の勸請創祀に係るといふ。例祭九月二十八日。〔谷厳寺〕曹洞宗。龍巖山と號す。天長二年の創建なりといひ、初め高杜山神宮寺と號し眞言宗に屬す。舊領主月庵源江大禪定門を開基とす。のち寺運衰へ文明五年携國宗從和尚これを再興し現宗に改む。慶長十九年暴風雨の爲め山崩あり堂宇埋沒せしが寛永十年第六世祇厳、現地に再興し現寺號に改む。德川家光十石の朱印を寄せ、のち飯山城主松平忠倶が堂宇寺境を修營し中興の開基となる。

【科野坂】長野縣信濃國下伊那郡より岐阜縣惠那郡に越える國界の險道。即ち、三州街道の駒場（下伊那郡會地村の大字）より分れ隣村の智里村を經て、神坂峠を越え中仙道の落合（岐阜縣惠那郡落合村）に至る坂路なり。往時中仙道の大道ここに懸りしが、中世この道を廢し木曾谷の新道開けしより、今は伊奈の小道を通ずるのみ。古事記に日本武尊が信濃の詢訪を經て、科野御坂に懸り惡神を言向けて尾張國に歸れりとあり、卽ち尊は詢訪を經て天龍川の上流に沿ひ伊奈郡を經由し惠那郡の境を越えて木曾川に出で、川に從ひ尾張國に歸り給ひしなり。

【信濃路】信濃國（長野縣）を經て東國に至る官道をいひ、また歌枕ともなる。萬葉に「信濃道は今の開道」とあるは奈良時代に既に開かれたる古蹟道を稱せしものか。萬葉・一四「信濃道は今の開道刈株に足踏ましなむ履著け我が夫」

【信濃大町】大糸南線の一驛（大正五年設置）。長野縣北安曇郡常盤村にあり。

【信濃追分】信越本線の一驛（大正十二年設置）。長野縣北佐久郡西長倉村大字追分にあり

【信濃川上】省線小海線の一驛（昭和十年設置）。長野縣南佐久郡川上村にあり。

【信濃木崎】大糸南線の一驛（昭和四年設置）。長野縣北安曇郡平村にあり。

【信濃境】中央本線の一驛（昭和三年設置）。長野縣諏訪郡塩尻にあり。

【信濃常盤】大糸南線の一驛（大正四年設置）。長野縣北安曇郡常盤村にあり。

【信濃宮士】有明山（長野縣）の別名。

【信濃松川】大糸南線の一驛（大正四年設置）。長野縣北安曇郡松川町にあり。

【信濃森上】大糸南線の一驛（昭和七年設置）。長野縣北安曇郡北城村にあり。

【信濃四ッ谷】大糸南線の一驛（昭和七年設置）。長野縣北安曇郡北城村にあり。

【信濃鐵道】長野縣にありし私設鐵道。松本市より北安曇郡宮盤村大字大町に通ず。昭和十二年六月省線大糸南線となる。

【信濃坂】碓氷峠（長野・群馬縣境）の別名。

【信濃小路】平安京東西に通ずる小路九條坊門小路と九條大路との間に位す幅四丈。

シナノ　品野町　愛知縣尾張國東春日井郡の東端。瀬戸市の北に隣り、北は岐阜縣土岐郡之倉村・笠原町に、東は鶴里村及び西加茂郡藤岡村に、西に水野村高嶺寺町と夫々接す。木曾山地の南に延ぶる所の南部は、猿投山脈に續き花崗岩よりなる。國山（七〇一米）あり、北部山地は主として古生層より成り、高度は低し。東部山地よりは水野川が流れ、西北には庄内川が峡谷をなして南に流る。花崗岩地域よりはその産燒せる陶土を產し陶器の產多く、また石粉の產あり。品野町陶業の起源は陶祖春慶の十五世孫景春の次男基範が天正年間織田信長の命により、岐阜縣惠那郡水上村に移り製陶に從事し、其子景重弟重光は慶長十五年國守の命により召還され、品野町に移り陶業を營む。のち國守より、弟重光と共に瀬戸・赤津・品野の三鄕中に隨意居住し陶業を營むべき命あり、重光は品野に分家して陶業を開始せり。これ品野窯の開祖とす。交通は東部は瀬戸市に近く、岐阜縣多治見町と瀬戸市との間には省營バス通じ品野驛あり。西部は中央本線定光寺驛に近し。此地は明治三十九年七月、上品野村・下品野村・掛川村を合せて品野村を置き、大正十三年一月町制を布く。上品野には品野城址二箇所にあり。一は山地の絶壁に築けるものにて天主閣址・郭址・石垣を存す、松平内膳正の城址にして、若有隨筆には享祿二年、濱諌君出ニ兵尾州一大戰勝ヲ之取ニ品野城一賜ニ松平内膳正家重一とあり、補侯問合雜記には、先是尾州科野城なほ今川家より櫻井の松平監物家次に守らしむと見ゆ。のち松平利長の子信一は伊豆守と稱し丹波篠山に隱る。他は村の西北の丘上にあり本丸址・土壘・隍等殘存す。墨下城とも云ひ、永井民部少輔の居城と傳ふ。上品野の北境に雲見ヶ岳の仙境あり、乘鞍石・五牧石等の巨石あり深山幽谷をなす。〔定光寺〕臨濟宗妙心寺派。龍夢山と號す。曆應元年僧疊源の開創に係る。中古衰微せしが、元和年中藩主德川義直堂宇を再興す。慶安二年、喝堂入りて更に大に之を中興す。もと建長寺派なりしも、これより妙心寺派となる。現に德川家の菩提所たり。本堂及び德川綱誠・家宗の寄進に係る太刀は共に國寶たり。

シナノエ　科上（しなのへ）　陸奥國（陸前、宮城縣）の古地名。和名抄に宮城郡科上鄕あり、その地今は詳かならざるも恐らくは宮城郡七北田村の邊なるべし。延曆四年四月、多賀・階上の二郡を宮城郡より分ち設く（續紀）。蓋し階上とは科上にして、科上・餘戸・丸子の三鄕を以て階上郡となせしものの如し。

シナノマチ　信濃町　中央本線の一驛（明治廿七年設置）。東京市四谷區東信濃町にあり。

シナミ　階見村　廣島縣備後國甲奴郡の東南隅。神石・蘆品の兩郡と接觸の地にあり。中國山地の南にて地勢一般に高豪地よりなり、北部及び南部には約六〇〇—七〇〇米の山嶽蟠り兩山地の間に西北より東南に亙り幅約一粁、高距約五〇〇米を有する低地あり、山峽の水を集めて耕地をなす。米・麥を產し、山地よりは木炭を出す。低地中央の字階見は村の主邑にして、この村落を通りて南北に村道通ず。古くは和名抄、甲奴郡矢野鄕に屬せり。

シナン　泗南面　朝鮮慶尙南道泗川郡の中部東偏。郡邑泗川面及び正東面の南に隣り、東南は固城郡下二面と界す。地東南より西北に長く、長さは一二粁を超ゆるも幅は四粁に達する處殆どなし。東南半部は山地にて、西境の臥龍山を始め、東境にも高度五〇〇米臺の山嶽連り、その間に幅狹き低地あるのみ、西北半部は概ね平坦にて耕地よく拓け、米・麥・棉等の農產あり。晉州・三千浦間の二等道路は西北部を通じてバスの便あり。西部海岸の船津港（龍見面）に近くして、交通不便ならず。泗岸には牡蠣・捷鋼等の漁獲多し。

シニヌ　死野　生野（いくの）

シヌウ　信有　大隅國（鹿兒島縣）の古地名。和名抄に囮讃郡信有鄕あり、讃を岡くもしばらくシヌウと訓す。從つてこの地、いま詳かならざるも或は熊毛郡口永良部島等に當るか。

シヌタ　振太　武藏國（埼玉縣）の古地名。和名抄に兒玉郡振太鄕あり、其地、今は詳かならざるも兒玉郡本泉村・若泉村の邊に當るか。

シヌハラ　篠原　壹岐國（長崎縣）の古地名。和名抄に石田郡篠原鄕あり、その地は今の壹岐郡志原村の邊に當り、蓋し志原は篠原の訛れるもの。

シヌハラ　篠原　肥前國（佐賀縣）松浦郡の古地名。今の東松浦郡久里村　肥前國風土記・松浦郡「大伴狹年彦連……奉命到來至ニ於此村一卽鎖ニ篠原村弟日姬子一成ル婚」

ジネゴ　笹子村　秋田縣刑後國由利郡の東南隅。西北は川内村、西は直根村に隣り、東北は雄勝郡に、南は山形縣最上郡に界す。東境に姥井戸山（九二七米）・大仙山（九二〇米）、南境には丁嶽（一一四六米）・壺森（一〇七五米）・大森山（一〇七八米）・鹿山（九八一米）の諸峰連り、西境にも朝日森（六二二米）あり。これ等の山麓は村内に起伏し、南境の丁嶽より發する丁川、鹿山より起る鹿川とは大字上笹子にて合流し笹子川となり、北西に流れ子吉川に合す。山地頗る多く全面積の九〇%に達し、笹子川沿岸に僅に平地ありて田畑開く。農業別戸數は全戸數四九五戸の中農業はその六八%、製炭業二五%、其他七%を占む。他產は農產物・林產物を主とし、米の外に豆類・粟・馬鈴薯等の產あり。野菜は販路に乏しきため自家用の物を栽培するに過ぎず。馬・家兎の飼養盛にて、馬は牧草に惠まるる關係上古來良馬の產地として名あり。山林面積大にして且つ濶葉樹林甚だ多く、原木のまま他に移出せられ、曲木細工の原料となり、また薪炭材として移出せらるるものあるも、製炭盛にして白炭・黑炭共に多く雄勝郡院内町に出荷して東京方面に送らる。矢島町より來る縣道は笹子川・鹿川に沿うて走り東境の松ノ木峠（六四四米）を通じて院内町に通じ、また北東境の立石峠（三四五米）を通り雄勝郡仙道村を過ぎ、同郡西馬音内町に到る街道を分つ。本村は舊矢島藩に屬し、明治初年廢藩置縣に依り矢島縣に屬せしが、間もなく秋田縣と改まり、上笹子村・中村・天神村・下笹子村の四箇村に區分せらる。明治九年戶長制度布かるるに當り上笹子村・中村・天神村の三箇村を合併して上笹子村と稱し、下笹子村の二箇村となる。明治廿二年町村制實施に際し上・下笹子村を合して笹子村となる。丁嶽は奇岩重疊として夏季登山者多し。温泉湧出し、附近に三階瀑あり、高さ一階一五米、二階二四米、三階二〇米にて、紅葉の候は風景最も佳なり。また白糸瀑は高さ二五米。〔慈恩寺〕上笹子石神にあり。

曹洞宗。明峰派に屬し本郡院内町龍源寺末たり。慶長五年金子安太郎の建立に係る。文化二年炎上、中興開山を三世祖山古學和尚とす。

シネハ 標葉 ←標葉

シノ 志野 ←長田村（和歌山縣）

シノ 篠 ←篠島村（愛知縣）

【篠島】 【篠村】 京都府丹波國南桑田郡の東部。保津川の右岸に沿ひ亀岡盆地の東南隅に位す。東北は京都市右京區に接し西は亀岡町に隣り、北は保津川を隔てて保津村に對し西南は樫田村、東南は乙訓郡大原野村・大枝村に界す。西南境に明神嶽（五二四米）聳え北方に傾斜して西南部の山地を造り東北部には高さ約四〇〇米臺の山地あり、保津川その北を削鑿して峡谷をつくる。東北部及び西南部兩山地の間は亀岡盆地の東南隅に當り、西北部は平坦にて耕地よく拓け米・麥をつくり養蠶行はる。山陰道（國道）は東南境上の有名なる老ノ坂を過ぎて中部低地を西北方へ走り亀岡町に通ず。省線山陰本線は北部の保津川の谷に幾多の隧道を穿ち東西に通じ、西北部低地よりまた亀岡町に出でその亀岡驛は西北約二粁に設かる。延喜兵部省式に丹波國大枝驛馬八疋とあるは本村に設かれしものなるべし。一に篠村宿と呼ばれ、中世は篠村庄とも稱す。大字篠村に村社篠村八幡宮ありて、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后を奉祀す。本村は保津川の右岸にありて本國々府の所在地に接近し、また京都にも程近き景勝の地たり。この地、もと平家の所領たりしが、其後落後、源氏の有となり一時は義經の勳賞地に當てられしこと等ありて、鎌倉以降源氏との由緣深く八幡宮の鎮座さるべき史的契機を藏したり。降りて元弘三年四月足利一氏、北條高時の命に依り京師に攻上り、間もなく旗を翻して官軍に歸屬せし際、途を丹波にとり篠村宿に於て初めて義旗を擧ぐ。其際ここに鎮座せる八幡宮に一通の願文を納めて然誠なる祈願を籠めしが、今その願文は社寶たり。足利家との關係ここに初めて結ばれ、爾後尊氏志を得るに伴ひ、崇仰次第に篤きを加へ、尊氏は勿論、歴代の將軍家また厚く崇敬を寄せたりしが、土地僻遠なるために中央の政局と懸絶し、石清水ば勿論、他の宗祀たる八幡宮の如き親密なる交渉の跡を殘すに至らざりき。戰國に入り兵亂の爲め社頭灰燼に歸し、天正十九年小早川秀秋再建、爾後亀岡落主代々崇敬を捧ぐ。近世衰頽し古の盛觀を見る能はず。

シノイ 篠井村 ←柳木縣下野國河内郡の北部。鬼怒川上流の南岸。東は弱黒村・宮屋村、南は國本村、西は大澤村北は鹽谷郡大宮村・船生村と隣す。北部は鬼怒川流域の低地にて一部に小丘陵地あるも畑地多く所々林を交へ、東部は水田をなす。村の中部は山地にて西境に宮已山（四四六米）、東境に本山（五六二米）あり。南部も山地にて南境に半藏山（五〇二米）あり。これ等はいづれも村内に傾斜し、その裾合を赤堀川の本支流東南に流る。流域には低地ありて川沿ひは水田をなし他は畑地多し。日光街道は宇都宮市より來りて村の南部を北西に走り、西隣大澤村を經て、上都賀郡今市町に通ず。又これと分れて村の中央を北走する縣道あり。明治初年大字鹽野室の邊に數百町の新墾をなせりといふ。また本村は金・銀・銅鑛を產する日東鑛山の一部を占む。

シノオ 篠尾村 ←山梨縣甲斐國北巨摩郡の西北部。釜無川の左岸。東は小泉村に西は小淵澤村、東南は青谷村、西南は釜無川を境に鳳來村・菅原村に界す。八ヶ嶽の南山麓の一部を占め、北より南へ緩かなる傾斜をなす。南部には田地拓け、所々に桑園もあり、農業・養蠶を生業とす。省線中央本線及び信州往還、山麓に沿うて通じ、小淵澤驛に近し。また北部を省線小海線横斷す。村内には濁山と稱し泉水盛に湧出する地あり、附近水田百數十町歩に灌漑するといふ。下篠尾の篠尾桑は東西に深山峨々と峙ち、南も高岩壁立し、下に釜無川あり、北方僅かに平地に接す。濁桑二三重にしてあまり廣からず。左右の山腹にも桑形を存す。本城高き處五六十歩、南へ下ること十五六歩にして數十人を容るる洞穴あり。（國道寺）曹洞宗。萬松山と號し、弘治二年下篠尾の内釜の窟に創建せらる。戰亂に際して寺門更に振はず。天正十年玄翁和尚再興して開山となる。明和八年現地に移る。本尊觀世音菩薩は弘法大師の作なりといふ。

シノオ刀 篠岡村 ←愛知縣尾張國東方日井郡の北部。名古屋市の東北約十二粁、北は丹羽郡樂田村・池野村に、東は坂下町に、南は篠木村に、西は味岡村に相隣る。北部と南部には古生層よりなる丘陵が連り、西部には洪積層の平地あり。北部には白山（二二三米）聳立す。木津用水は中部を東北より西南に流れ、名古屋水道も此地を通過す。この木津用水流域には水田耕作が行はれ、南部丘陵地の末端には果樹園（田樂原）・桑畑多し。大字大草からは勝砂を產し、大字大山からは花崗斑岩の石材を出し、大山礦と稱する礦石も產す。なほ篠木・坂下町等に亘る芝鑛山ありて亞炭を產す。この地は和名抄、山田郡主殖郷の地にて、今大字上末・下末殘る。また神鳳抄には尾張國宋郷厨とあり、其地の由來久しきを知る。明治二十九年七月、部林・大野・陶・大草の四村を廢し本村を置く。大字上末には上末城址あり、室町時代の末に蒲合將監藤正初めて築城しここに居る。其の子安親は織田氏に仕へ、天正の役には將監安親及び其子庄兵郎は池田勝人の先鋒をなす。其後故ありて廢城となる。

張州府志には上宋村の人、神主東松秀村三子ここに陶城を築きて居り織田氏に仕へし由見ゆ。大字大草の大洞には大草城址あり。これ文安年中、西尾式部道永の築きしものにして、岩倉の織田氏に仕へ此地一帶を領して善政を布くと云ふ。白山は白山神社を祀れるを以つてこの名を得、眺望よく、或は藩政時代にはこの山を鷲ヶ石御林とも云へり。（大山廣寺塔址）指定史蹟。俗稱本堂ノ峰上に在り。長徑約一・四五米、短徑約〇・八七米、表面に輪郭の彫込ある心礎、他に自然石の礎石十六箇を原位置に存す。附近に奈良朝時代の遺瓦散在し銅佛を發見せらる。（江岩寺）大山にあり。臨濟宗妙心寺派。洞雲山と號し、往古は天台宗にて、延暦年中傳教大師の開創に係るといふ。のち中絶せしが、永久年間に玄海和尚再建し現宗に改む。（福厳寺）ノ草にあり。曹洞宗。大叢山と號し、文明二年四品式部卿、西尾道永の開基にて、三嶺盛禪洞爽禪師の開山に係る。盛禪下五派の輪住地にて門葉百三十一ヶ寺を有す。本尊聖觀音は行基大士の作。鎮守秋葉大士は開山の神護神として遠近の賽者絶えず。

シノギ 信藝 ←遠江國（靜岡縣）の古地名。和名抄に山名郡信藝郷あり、其地いま詳ならざるも磐田郡袋井町の邊に當るか。一に數地村の邊ともいふ。

シノギ 篠木村 ←愛知縣尾張國東春日井郡の北部。名古屋市の東北約四粁、北は篠岡村・坂下町に、東は高藏寺町に、南は志段味村・鳥居松村に、西は鷹來村に各々接す。北部には僅に古生層の丘陵地婦るも、南部は第三紀層より成る平地をなす。南境を庄内川が流れ、其北に内津川が天井川をなして西南の方向に流れ、南部にて南者に合流す。西部は桑畑多く内津・庄内兩川に挾まれし地域には水田多し。西部は川の灌漑の便惡しきため溜池による灌漑行はれ、大池・落合池等あり。西部洪積臺地には甘藷が作られ、また亞炭の產あり。大字下原には磨砂の特產あり。下街道は坂下より西南に走り名古屋市に至り、中央本線も庄内川の谷に沿ひて走る。此地中世は篠木庄と呼ばれまた志濃爲にも作る。明治三十九年七月下原・八幡・小木田の三村を廢し、鑪五村の一部とを以て本村を置く。大字鑪田には曾呂利塚あり。昔この地方に篠木宗八と云ふ賊あり。世に之を曾呂利と呼び此塚は其墳墓なりと言ひ傳ふ。また堀ノ内にも廣大なる前方後圓式の古墳存す。明治十三年明治天皇は山梨・三重及び京都行幸の砌、此地の下原新田、飯田重藏宅に御小休遊ばさる。（小木田神社）大字鑪田に鎮座。郷社。祭神大己貴命・素戔嗚尊・少彦名命。創立年代未詳。古來當村の產土神にて、もと天王社と稱す。例祭九月九日。（松原神社）大字下原に鎮座。郷社。祭神、高御產巣神・稚牽頭比命・大宮比賣命外六柱。創立年代詳ならず。天明四年再興。もと稲荷神社と稱せしが、國内神名帳の松原神社なるの故を以て明治四年社號を改む。例祭八月二十一日。（瑞雲寺）神領にあり。臨濟宗妙心寺派。龍光山と號し、織田備後守の開基にて、圓鑑和尚を開山とす。往古は天台宗たりしが、のち曹洞宗に轉じ、近世更に現宗に轉ず。（密藏院）大字熊野にあり。天台宗。藥師寺と稱す。寛暦三年、慈妙上人これを草創し、七堂伽藍を統べ近代名古屋東照宮の別當職を兼ねたり。當寺の傳法は古來篠木派と稱し、別に一派をなす。多寶塔・本尊藥師如來は共に國寶なり。

シノクボ 篠窪 ←上中村（神奈川縣）

シノザキ 篠崎 東京府南葛飾郡にあり。昭和七年、全町・水元村・新宿町・奥戸町・本田町・亀青村・南綾瀬村と共に合し、葛飾區を成す。

シノシマ 篠島村 愛知縣尾張國知多郡の南端。知多半島の先端師崎町より東同約四粁の海上にあり。北方には日間賀島村および幡豆郡佐久島村、南東は渥美郡伊良湖岬村に對す。篠島村は知多半島と渥美半島の中間に位し、最大島なる篠島および篠島築見・本島・中手島・小磯島・松島・戸島島・平島を含む篠島群島より成る。その風光は松島に似たるを以て東海の松島と呼ばる。篠島は全島丘陵をなし中部にて四八・一米の高度を有す。東海岸は砂浜にて、その他は海岸を以て渥美灘に臨む。島圏は約五粁、東海岸の神風ヶ濱、又は前濱は海水浴場として夏季は賑ふ。この島は渥美半島とは關係なき火山系の一部にて、知多半島とは關係なきが如し。海灣中の小島嶼のため農業は盛ならず。專ら漁業に依存し、鯛の產は有名にて、其漁場は伊良湖岬又は志摩國に於けるものと接續す。この篠島鯛は伊勢大廟に奉納するを以て著はれ、奉納の事は古くより行はれしものの如く、起源は詳ならざるも、伏見天皇の院政時代正應の年號を記せし記錄あり。交通は師崎町との間に汽船便あり。篠島は往古伊勢國鎌倉郷の内、答志島の一部なりとの說もあり、地勢上も不自然ならず。島には帝ノ井ありて、後村上天皇の御遺蹟を傳ふ。天皇未だ皇太子に在す時、延元三年九月北畠顯家と海路東國に向はんとせられしに暴風にて此地に漂着し給ふ、いま島の東南角の字東山の丘上の妙見齋と云ふ俗庵は行在址なりと傳ふ。藩政時代は尾張藩の罪人の配流所にて、三百年間に流刑に處されし者は多數にて、熱田の神職田島伸定等も其内に見え、かくて孤島にも被等により文化が輸入され島人の教化に大いに關係ありき。篠島は一孤島にも拘らず寺院多く昔は十八ヶ寺あり、今は四寺有す。もと水產試驗場を置かる。

シノジリ 信濃尻村 ←長野縣信濃國上水内郡の北端。信越の國境に沿ふ。東

西に細長く、北は鬼川の峡谷と袴岳・斑尾山を結ぶ弧線によりて新潟縣中頸城郡に、南は柏原村・古間村に界す。面積六〇・二九方粁。西南境に屹立せる黒姫山（二〇五三米）は見事なる幼年期コニーデの山容を示して北境鳥川の谷に傾斜し、東南部古間村との境には野尻湖を流へ、東の斑尾山（一三八二米・袴岳（一一三五米）湖岸に傾斜す。平地はほぼ中央野尻湖の西岸に少しあるのみ。北國街道・省線信越本線南北に貫通す。村内は織れ在林にして、山林に開墾されたる野尻湖畔は夏季外人の避暑地として賑ひ、南方柏原驛　北方赤倉温泉へ、共にバスの便あり。明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の際、野尻に御小休あらせられ野尻湖を御覧あらせらる。荒川水系の四川を利用せる信濃電氣會社高瀬第二發電所（出力一〇八〇〇キロワット）あり。延喜兵部省式に見ゆる信濃國、沼邊驛馬五疋とあるは此地なりといふ。いま野尻・古海・鳥坂の舊三魯村を合し信濃尻村と稱す。村内に地震潮・古海城址・野尻城址等の名勝あり。野尻城は上杉輝虎の臣宇佐美駿河守定行の居城たり。地震潮は落口一五米。墨痕一八二米餘。（宇賀神社）宇鬼苞島に鎮座。鬼社。祭神宇氣母智命。創立年代不詳。寛永年中飯山城主松平遠江守の再建に係る。例祭八月二十七日。

シノズ　篠津村　埼玉縣武藏國南埼玉郡の北部。久喜町の南方にて其間に江面村を挟む。東より南は須賀村・日勝村・黒濱村に、西は蓮田町と隔す。面積八・〇七方粁。全村平地にて西境を元荒川南流す。東北半は水田なり、西南半は畑地ななす。省線東北本線は村の中央を北走し、南境に白岡驛（日勝村）を設く。縣道も之に沿ふ。村に新井白石の屋敷址と傳ふものあり、白石は江戸に生れしも、その祖先は此地に居りしものといふ。

シノズカ　篠東　三河國（愛知縣）寶飯郡の古地名。和名抄に郷名見ゆ。また大和物語に忘乃郡加驛あり、これこの地にありしものならん。地は舊東海道の吉田・御油間に當り、往昔は驛ななせしものか。いま寶飯郡小坂井町の邊に當り大字篠東はその遺名なり。

シノダ　信太　【信太村】大阪府和泉國泉北郡の中部北偏。和泉町の東、堺市の南方約七粁。北は取石村に接し、西は大津町、西南は南王寺村・和泉町、南は北池田村、東は福泉町に界す。面積六・六方粁。和泉山脈の北麓埴生臺地の北部を占め、南部に約一〇〇米臺の信太山ありて北方へ緩傾斜ななし、西北部は和泉平野の一部に當り耕地よく拓け、良質の米の外、麥・野菜を產し、綿絲・ガラス玉等の工業行はれ、工產は生產の首位を占む。小栗街道は西北部を西南に延び、また佐野町方面に至り漢落この周邊に集まる。また文鬼街道は東隣福泉町の西邊を南北に通じ、社線阪和電鐵西北部を掠め阪和寫業驛（昭和七年開業）を設け、交通便なり。古くは信太郷に作る。和名抄に和泉郡信太郷あり、区太と訓す。地は凡そ本村及び上條村の邊なも含めるものゝ如し。萬葉・九「いにしへの小竹田壯士の妻問ひし菟原處女の奥津城ぞこれ」とあり。小竹田は信太に同じ。姓氏錄に「信太首、百濟國人百年之後也」と見ゆ。この地の氏人ならん。式内聖神社あり、その本殿は國寶たり。信太森は安倍晴明の故事、葛の葉の子別れを以て名高し。信太山は陸軍の信太山演習地、信太山野砲聯隊の裏に黑鳥山桃林あり、花時賞するに足る。（聖神社）大字王子に鎮座。郷社。祭神、聖大神。創建年代不詳。式内社。神位從四位下。貞觀元年五月官社に列し、一に信太明神と云ふ。のち織田信長千二百石を神領として寄進せるも豐臣秀吉これを沒收す。其後、秀頼は片桐且元をして社殿を修繕せしむと云ふ。古來當村の產土神たり。明治五年郷社に列す。社殿中、本殿は國寶たり。境内は老樹繁茂し信太森として世に名高し。例祭、五月十日。（信太森）白狐葛の葉の子別れ傳說にて名高き森。聖神社の西數町、大字中にあり。古くは信田森・篠田森にも作り、赤染衛門の「うつたはでしばしのだの森を見よかへりもぞする葛のうら風」その題歌たる和泉式部の「あき風はすこし吹くとも葛の葉のうらみかほには見えしとぞ思ふ」など歌枕として知られる。もと廣大なる森なりしと云ふゝも今は僅に樟の大樹に往時を偲ぶのみ。されど樹下に小祠信太森神社あり、葛の葉の住めりと傳ふ祠宮あり、賽するもの絶を接し、陰曆二月初午の祭日には臨時に葛葉停車場を設くるに至る。この傳說を敷衍せる戯曲・小說の類は甚だ多く、殊に享保十九年竹田出雲作「鷺屋道滿大内鑑」は名高く、この淨瑠璃は延寶二年二月に出來し「信田妻」に編を發し、古淨瑠璃傑作の一と云はる。鷺屋道滿大内鑑・四「一度は尋ね逢はではかなはぬ義理、夜道を行くもたどゝし、明けなば夫婦童子みつれ、尋ねて來ませ和泉なる信太の森へと」

【信太村】和歌山縣紀伊國伊都郡の北。西は妙寺町に、南は高野口町に、東南は應其村に、東は山田村に隣接す。北は葛城山脈を隔てゝ大阪府南河内郡高向村に接す。面積九・八四方粁。葛城山脈が北境に約七—八〇〇米の高さに連りて南方へ傾き、紀ノ川北岸の高野口町へ下る。全村山地にて耕地面積少きも、南部には耕地も拓け米を產す。交通不便なれど、南隣高野口町に至れば東西に大和街道、又それより分れて南方へ高野街道通じ、省線和歌山線も東西に走り南方約三粁に高野口驛あり。村は上中・下中・九重・田原・竹尾・蟻峨谷の六大字より成る。

シノダ　篠田　愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年外二村と共に廢し、その地域を以て美和村を設く。

シノノイ　篠ノ井・篠井　【篠井山】赤石山脈南東方一支脈、富士川と安倍川の分水嶺に起る山。山梨縣南巨摩郡の南端雎合村・富河村の境上にあり。標高一三九四米。山麓第三紀層より成る。山頂に山靈を祀り、四位明神と稱す。山中樹木繁茂す。登山は多く北麓富士川支流戸栗川の畔、雎合村成島より行はる。

【篠ノ井町】長野縣信濃國更級郡の東部。千曲川の左岸。長野市の南方約一〇粁。千曲川を距てて對岸の埴科郡松代町・屋代町と隣足の狀をなす。面積六・七一方粁。犀川と千曲川の會する所川中島の洪積原にあり、善光寺平の南部を占む。附近は養蠶地帶の中心地にて見渡す限りの桑園はまた製絲町をなす。省線信越本線は布施高田に篠ノ井驛（明治二十一年設置）を置き、こゝより篠ノ井線を分ち安通の要地にて長野市・屋代町へは國道、松代町・稻荷山町へは縣道通じ、いづれもバスの便あり。この地は和名抄、更級郡斗女郷の内なるべく、もと布施村と云ひしが大正三年篠ノ井町と改稱、昭和三年篠ノ井町と禁村とを廢して新たに篠ノ井町を置く。蓋し篠ノ井は信濃井に同じく、長門本平家物語の横田川原合戰の時に信濃井を換く事見ゆ。また續日本紀・延暦十八年十二月、當國貫籍の高麗人が姓を賜はる條に「前部秋足、駒姓篠井」とあり、早くより開けし地なるを知る。大字御幣川はまた國平川にも作り、溝の名より地名となれるものにて、神鳳抄に薏長御厨とあるは此地なり。大字布施高田・布施五明は、神鳳抄に布施御厨とあり、東鑑・文治二年三月の條に布施本庄・布施御厨は共に御室御領等と見ゆる布施の地にしていま本町の外に山布施（信里村の大字）あり、延喜式内社布施神社は川柳村大字石川にあれば、山布施・石川の地もみな布施の地にて御室御厨なりしもの。大字横田は奏和元年木曾義仲、越後の城長茂を破りし處と、源平盛衰記に見え、世に横田河原の合戰といふ。

【篠ノ井線】省線中央線の一部。中部地方中央にあり。中央本線鹽尻驛（長野縣東筑摩郡鹽尻町）より北方の松本驛（松本市）を經て、更級郡篠ノ井町の信越本線篠ノ井驛に至る、全長六七・九粁。此線を通じて長野・名古屋間に直通列車を通じ約七時間にして達す。

シノノメ　東雲　【東雲村】秋田縣羽後國山本郡の中部西岸。南は米代川を隔て能代港町に對し、西は日本海に臨む。東北部に東雲原の一〇〇米以内の臺地達り、小河谷は此臺地を浸蝕し若き地形を呈し、海濱には南北に砂丘發達す。南部に米代川、北部に竹生川ほぼ並行して西に流れ、其流域及び東雲原臺地と砂丘との間に、廣き低地あり。田畑よく拓け水田は特に南部米代川沿岸に多し。畑作物はその種類多く能代港町及び他町村に販賣する目的にて、裁培せらるゝ野菜甚だ多し。特に馬鈴薯は產額・品質秀れ秋田市及び東京市場にも出荷さる。更に燃料國策上よりこれが增產を圖り、酒精製造等に供せんと企圖しつつあり。砂丘地帶は近時漸く開墾せられ、梨の生產大なり。日本梨多く能代梨として附近は元より縣内に需要多し。產額一萬圓に及ぶ。梅・桃等の產亦多し。養鷄盛にて全村九九一戸中四八八戸に於いて飼育さる。廣大なる東雲原は從來荒蕪地として牧畜（主として馬）行はれしも近時陸軍飛行隊の練習場として利用せらる。本村は製材を以て知らるゝ能代港町に對し、その隣接創設により、本村にも材・松等を製材する業者相當多く、能代港町の製材會社に日屋・社員となるものも少からず。且つ能代港町とは能代橋にて接する大字向能代には商業發達し、本村と能代港町との團体深きことを認ゝる。漁業も相當多く、北海道と鰰の取引盛なり。省線五能線は砂丘の内側を縫貫し、大字竹生に羽後東雲驛（大正十五年設置）を置き、縣道大間越街道これに並行に走り、能代港町にバス通ず。祖武天皇延暦十六年に坂上田村麻呂夷大將軍として移澤（本村大字磐）に籠り、高岩山の蝦賊を平定するに當り、この地に鎮野明神を祭ると。能代港町の對岸にあるため舟の發着地として大いに利用せられしも、川岸不良のため舊藩時代より屢々その修築を行ひ、交通の要地として繁榮す。明治二十二年町村制實施に際し、向能代ほか八箇村（いまの大字）を合して本村を設く。東山天皇寶永九年、この地方に大震災あり。

【東雲】京都府加佐郡の村なりしが、昭和三年、丸八江村と合併して八雲村と改め、いま省線宮津線の東雲驛　大正十三年設置）にその名を留む。

シノバズ　不忍池　東京市下谷區上野公園の西南部にある池。忍ヶ岡（上野）と向ヶ岡（本郷）兩臺地間の窪地が、下町海岸埋積地の成生と共に、湯湖の形式として殘りしものにて、上古は海が此處まで入込みしもの。その名稱は忍ヶ岡に對比せしものといはる。以前は大なりしも次第に埋められ、現今は周圍約二粁に過ぎず。江戸時代より月雪の名所として知られ、中央に天海僧正等の築造に成る弁財天を祀る小島あり、琵琶湖の竹生島に擬す。池中には蓮を植ゑ、江戸情調の名殘りを止む。横溜の根岸と共に不忍發馬と稱し、我國に於ける最も古き競馬場が池の周圍に設けられ、今の博覽會場の邊に馬見場ありて明治天皇の行幸屢々ありき。江戸名所記・一「不忍池　忍ぶの岡に打つづきて、しのばずの池あり、本はしのばずの池といひしを、今は蓮輪津の池と呼來れり、慈惠法師の路次記に、忍ぶの岡は今はうへ野にありといふ、忍ばずの

が池、今は、しのはづの池と號すといへり、池の大さ五町四方もありなん、池の中に島あり、神才天女はします」

シノハラ　篠原

【篠原村】　滋賀縣近江國野洲郡の東部。日野川下流の南岸に位し、蒲生郡八幡町の西南約五粁。北は北里村に、西北は稲西北方へ延びて中里村の東北部と界し、西は祇王村に、南は甲賀郡岩根村に、東は蒲生郡鏡山村及び桐原村に續く。東南境に三八五米の鏡山峯ありて、南部に低き山地蟠居し、中央には臺地延び北部は野洲川流域の低平なる沖積原の一部を占め、北境に野洲川西北流す。主生業は農業にて農家全戸數の八六%を占め米麥・菜種を産し、また篠原燈の特産物あり。中仙道は中央臺地上を東西に走り、西方約四粁の野洲町にて分るる一道は西北部を横切り八幡町へ續き、一は野洲川南岸に沿ひて西方へ至る。省線東海道線の篠原驛（大正十年設置）は桐原村に置く。古くは篠原驛と云ひ、菁繍倉街道の宿驛たり。文治元年三月、壇浦の戰に平宗盛・清宗の父子捕へられ、義經に護られて鎌倉に至る。頼朝命じて再び京都に送還せしむ。元暦二年六月（文治元年を改む）その途中義經、篠原驛にて宗盛を、野路驛（栗田郡老上村）にて、清宗を斬らしむ（東鑑）。いま宗盛の首洗池・胴塚と呼ぶものあり。一説にもと野路の内に篠原と云ふ地名ありて、宗盛父子の斬せられたるはその地なりともいふ。篠原の名よりして往昔此地に篠多き原なりしものならん。〔大篠原神社〕大字篠原に鎮座。郷社。祭神、神速須佐男命・稚稲田姫命。創建年代不詳。應永二十一年四月當村領主馬淵廣定、吉備國より勧請せしところにして、當時社領百八十石を有せり。文龜元年三月永原重秀の再建あり。のち此地は六角氏の領有し、永祿十一年六角義賢は織田信長の軍を觀音寺城に防ぎ敗北せしより當社衰微す。其後の沿革詳かならず。社殿中、本殿は應永二十一年の造營にて國寶たり。例祭、五月六日。〔來迎寺〕大字小南にあり。淨土宗。光明山と號す。長德元年源信の開創に係ると傳ふ。もと天台宗に屬せしが寛永元年現宗に轉ず。寺寶中、木造聖觀音立像一軀は藤原初期の一佳作にして現に國寶たり。〔岩蔵寺〕大字大篠原にあり。天台宗。光雲山と號し、昔に篠原藥師といふ。文和五年、六角氏の創建にかゝり、慈藏寺と稱せしが、天正元年、織田氏の兵燹に罹りて堂宇炎上す。のち之を再建して、現寺號に改め以て今日に及ぶ。本尊本造藥師如來は國寶。〔不歸池〕大字篠原在鳥橋の東にある池。古昔、同郡兵主村大字五條の兵主神が、毎日三度づつこの池に影向せしが、その歸る姿を見かけたるものなかりし故にかく名づくと。一説にこの池、神池にて蛙が棲息せざる故、蛙不入池ともいふと。

【篠原】　↓老上村（滋賀縣栗太郡）

【篠原】　阿波國（徳島縣）の古地名。和名抄に勝浦郡篠原郷あり。續日本紀の寶龜四年の條に豐原の眞人篠原阿波守に任ぜられ、この地その封邑なりしによりこの名起りしか。中世は篠原莊と稱し莊名は治暦二年の記事に見え、明白款通これを仁和寺に寄進すと。建仁の頃は既に金剛峯寺領となる。また能勢氏文書に勝浦本莊幾篠原とあり、篠原莊に同じ義か詳ならず。此地いまの勝占村・多家良村の地域に當るか。多家良村の大字篠原はその遺稱ならん。

【篠原】　土佐國（高知縣）の古地名。和名抄長岡郡篠原郷あり。忘乃波良と訓す。今の大篠村にて大字篠原は其遺稱か。

シノブ

【忍ヶ岡】　東京市下谷區上野公園の不忍池畔の丘陵。もと東叡山寛永寺の全境内を稱す。寛永七年德川家光が此地五千餘坪を林羅山に賜ひ興學の地とす。これ昌平黌の濫觴たり。寛文三年弘文院と名づけ、元祿三年湯島に移す。明治元年五月郭義隊の戰爭を以て著ぐる。巡上野公園

【忍村】　山梨縣甲斐國中巨摩郡の南部。北は花輪村に接し、西は釜無川を隔てて南湖村に對し、南は西八代郡に隣す。面積三・四六方粁。甲府盆地の南部を占め釜吹川は村の西部を、笛吹川は村の南部を流れ、西南隅にて合し南流す。灌漑の便よく、米作を主とす。社線富士身延鐵道、村の東部を掠め東花輪、甲斐上野兩驛に近く、甲府より駿河に至る縣道また南北に貫通す。もと小井川・花輪の二郷村と組合村なりしが、町村制實施の際に分離して現在に至る。

シノフ　信夫

【信夫郡】　福島縣の北部。東及び北は伊達郡、南は安達郡、西は耶麻郡及び山形縣南置賜郡に隣接す。面積五〇六・二一方粁。福島市は本郡に屬する村々により て包圍せられ東部に當る。吾妻山は東吾妻山（一九七五米）・一切經山（一九四九米・高山（一八〇五米）・吾妻富士（一七〇五米）等の諸峯より成りて郡の西境に聳え、その北麓及び南麓は松川・荒川等によりて開析せらる。吾妻山の北部に衝菊澤山（九六七米）、南部に箕ノ輪山（一七一九米）・鬼面山（一二七一米）ありて各東方に傾斜し、山麓は南北の斷層線によりて切斷せられ福島盆地に臨む。此等火山群の中腹には高湯・微温湯・幕の湯・土湯等の温泉湧出す。河川は西部山地に發して東流し盆地に出で、阿武隈川に合流す。北より小川・松川・天戸川・須の川・荒川等あり。摺上川は小川を併せ、須の川は天戸川・松川を合す。此等諸川の盆地に出づる所は扇狀地をなし、扇頂は三〇〇米に達す。阿武隈川は郡の東部を北流し、西岸は前記諸川による洪積層の複合扇狀地をなし、東岸は低平なる氾濫沖積原をなす。福島盆地は一名信達平野とも稱し、信夫・伊達の兩郡に亙りて開け、其南部は本郡に屬す。盆床は古へ信夫湖の湖水を湛へ、信夫山は島をなせしが、のち地盤の隆起と人力による下流の下刻作用により排水せられ、盆地となりたるものにて、その後の堆積及び侵蝕の作用により廣き沖積平野をなし、河川の兩岸には河成段丘を見る。本郡に於ける農業につきて見るに、桑園は阿武隈川右岸の砂地に、水田は左岸諸川の扇端部に、果樹園は摺上川・松川等の扇頂部に廣く分布し、米・繭・梨・柿・桃等の産ありて郡外にも移出せらる。また西部の傾斜地には森林・牧場等あり。阿武隈川の左岸には陸羽街道南北に通じ、その中央に福島市あり。福島市より西北に向ふ萬世大路は、小川に沿ひて西方栗子峠を越えて米澤市に通じ、西南方に向ふ若松街道は荒川に沿ひて鬼面山の山麓を縫ひ、土湯峠を越えて耶麻郡猪苗代町に通ず。また東南方の伊達郡川俣町に向ふもの、東方遠く相馬郡中村町に通ずる中村街道、東北方伊達郡保原町に通ずるもの等あり。バスは此等の諸道路に沿ひて各地に通ぜり。陸羽街道に略々平行して省線東北本線通じ北より福島・金谷川等の諸驛あり。福島より奥羽本線分岐し西北に向ひ、吾妻山の北麓を松川に沿ひて進み、西方坂谷峠を越えて米澤市に向ふ。按木野・庭坂・赤岩等の諸驛あり。福島電鐵線は福島を起點とし、東北方長岡を經て飯坂に至るもの、同じく長岡を經て樂川・保原・掛田等に至るものあり。國造本紀に成務天皇の朝、信夫國造を置く。本郡は卽ち其稱を襲へるものにして當時は伊達郡をも含めるものゝ如し。大化改新の時これを郡となし陸奥國に屬せしむ。奈良時代養老二年信夫郡以下五郡を以て石背國を置きしが神龜年中これを廢し再び陸奥國に入る。古事談に忍郡とあるを別として延喜式以下信夫郡に作り、和名抄（高山寺本）は志乃不と訓じ、小倉・日理・鎌山・靜戸・伊達・安岐・岑越の七郷を置く。後その東北を割きて伊達郡を置きしが、その時期は詳ならず、或は延喜・延長の頃ならん。郡名信夫は卽ち篠生（しのふ）なりといふ。明治元年陸奥國を分ちて岩代國を置くに及び、その管下となり以て今日に至る。

【信夫村】　福島縣岩代國西白河郡の北部。東は矢吹町、南は川崎村・小田川村、西は西郷村、北は岩瀬郡廣戸村・大屋村に隣接す。地勢南部・北部に高く（約四〇〇米）、阿武隈川の支流隈戸川は村の中央部をほゞ西流して沿岸に耕地拓け米を産す。北部及び南部の原野には牧場ありて馬の飼養行はる。茨城街道は村のほゞ中央部を西南より東北に通じ南方白河へは約六粁、北方は長沼町に通じ各バスの便あり。大字新城には新城氏住し、永祿三年、新城備後守・須田源永郎と共に白川の結城晴綱に叛き、その將新小萱篤綱を破る。また大字粉見には斑目越後守の末葉、斑目信濃守の居城址あり。

【信夫山】　福島縣信夫郡にある丘陵。福島市の北部。き約二七三米に過ぎざるも、平野の間に屹立するを以て眺望に富む。羽黒神社・黒沼神社・招魂社等あり。明治十二年南麓を開きて公園とす。またこの山を信夫山と稱するは近年のことにして、古歌に名高き信夫山は信夫郡の諸山を總稱せるものといふ。勢語「しのぶ山忍びて通ふ道もがな人の心の奥も見らるゝ」千載・戀一「いかにせん信夫の山の下紅葉しぐるゝ儘に色のまさるを」二條院崩皇后宮常陸」

シノフ　敷信村　廣島縣備後國比婆郡の南部。北は庄原町・高村に、西は山内東村に、東は本・峰田二村に、南は雙三郡三良坂（みらさか）町に界す。西北部は庄原盆地の南部に當り土地平坦にして、農耕地をなす。東部より中央部にかけて、また南部に三百—四百米の山地あり。中央部山地と南部山地の間には東西に一條の低地あり、北部の平野と共によく耕作行はれ、米・麥を産す。山地は牧場をなして良牛を牧畜す。庄原町より尾道市へ連絡の縣道は西北から東南の方向に通り、新庄・後新庄・是松等の街村あり。この地古くは和名抄三上郡信敷郷の地なり。中世は敷信庄に作る。莊名は東鑑文治二年の條に見え、康正の頃は等持寺領なり。〔成美寺〕大字高門にあり。禁言宗御室派。長祿二年宗頼法師の開基に係る。當寺には古來文覺上人の木像を安置し、寺寶の鐵鉢錫杖は共に上人所持のものと傳へられ、その由來記を藏す。

シノブ　篠生村　山口縣長門國阿武郡の東南部にある農山村。東南は吉敷郡に接す。村域は略々中國山脈の衝に當り、山高く谷深く、物見岳・高羽ヶ岳・黒御子山等聳立し、何れも五百乃至七百米以上に達し、谷地と雖も海拔三百米を下らず。河川に阿武川上流の本支流あり。謂ゆる長門峡は此の本支流と兩岸の〻山とが以て形成せらる。省線山口線に通じ村内に篠目（しのめ）（大正六年設立）・三谷（みたに）（大正七年設置）の三驛あり。產業は米・麥等の普通農業を主とし、副業に用材・木炭・薪材・竹材等を出す。村の名稱は、明治二十二年四月一日町村制實施に際し、篠目村と生雲東分とを合せしに起り、村内に長門峡あるを以て近年大に世に知らるゝに至る。

【淺川城】　大字生雲東分の築地と千頭との間にあり。石州街道に沿ひ、兩側は山脈連亙して其間に山峡を形成し、阿武川これを貫流す。城址は一小山上に存し、石州口要害の一とす。相傳へて大内義興の築く所、大内氏及び毛利元就等が軍事上屢々利用せしことありと。※長門峡（ながときょう）

シノベ　篠部　上總國（千葉縣）の古地名。和名抄に篠部郷あり。上總國誌は、れを篠部の譌ならんといふ。

し、ひらびて暮らす。「上総の国住貞の子孫なる人がせ給ひしかば、いかいかといふ所に住まる給ふ云々」

ふノミヤ　四宮

【四宮】 もと京都市東山区の一部。今は京都市東山区の大字になり、西が宝鉢山に接し、北は白川に接し、東は東山に接し、南は白川に接し、東は東山に接し、南は白川に接し、東は東山に接し、南

に近し。道路は四通八達しバスの便利あり。この地は近世、足立郡浦和領（大宇芝・伊苅・小谷場は之に屬す）木崎領（大宇柳崎これに屬す）の内にして、大宇芝は徳川氏關東入國後、幕領及び長徳寺領・安西甚兵衛の采地交錯せし地。大宇伊苅は元祿年間に大宇芝より分村せしものなりと。大宇小谷場は芝郷高鼻庄と稱せし地にて、伊苅と共に大宇芝の内なりしがのち分村す。徳川氏關東入國の頃より安西甚兵衛の所領となり子孫繼いて領す。大宇柳崎はもと大谷口（今は矢田村の大宇）・井沼方・中尾（今は共に尾間木村の大宇）と共に一村なりしが、正保・元祿の間に分村せりといふ。古くより慈領たりし地なり。（長徳寺）大字芝にあり、臨済宗建長寺派。大智山と號す。慶永年間僧秀田、領主二階堂氏の援助を得て創建し、其師、古先印元を勸請開山とす。天正年間徳川氏より四十石、其他八幡領十五石、觀音堂領二十石を有せり。

【芝區】 東京市三十五區の一。新橋以南品川に至る間を古め、東京灣に面する海岸低地と、武藏野臺地の末端の地とを有す。もと柴と書き、柴浦・柴濱にも作り最初は專ら海濱の部落のみを指せしが、近世廣く領倉・三田及び金杉の地をも稱す。地名の起原に關してはその說區々なり。一說に曰く、昔この邊一帶の地、芝生にして武藏野の末端なりと故かく稱すと。また南向茶話によれば、この海邊小枝を並べ置き海苔を採り、その小枝を俗に柴と稱せしより、地名生ぜりと。但し海苔は後世に始まりしものなれば、この說また信じ難し。江戸時代に於ける本區は略ど大部分、社寺または武家地として知られ、僅かに品川灣に臨む東海道筋により新橋附近の諸町にかけて町家ありしに過ぎざりき。されば今日に於ても區内に散在する社寺の數は、二百の多きに及び、なほ往時の名殘りを止む。瓢形の如き本區は其地勢廣く東京灣に面し、白金臺・高輪臺の高燥地は上流階級の住宅多く、東南一帶の低地は東海道其他の主要街路貫通し、品川・新橋・汐留等の各驛ありて東京市南口の要路に當り、交通上極めて重大なる地點をなす。本區の面積は約九・九七六平方粁にて其市部に屬する十五區中首位を占め、両も芝浦埋立地東京港を控へて、その將來の發展を約束せらる。現在の本區は東南部は工場地、北部より中央部は、商店街として榮ゆ。區内に芋芝離宮恩賜庭園・芝離宮・芝公園・泉岳寺等あり。

【芝川】 芝溜川ともいふ。靜岡縣富士郡を流れる川。上井出村大字猪之頭の山中に發し富士山の西南斜面の諸水を集めて南流し、芝富村大字橋場にて富士川に合す。流程約二〇粁、この川筋より水苔を生じ、芝川のり・富士のりとして知らる。また古來駿の名所として著はる。夫木・九「夏も猶雪けの水の月さえてこほりしぬべきふしの芝川　法眼源全」

【芝（村）】 兵庫縣武庫郡にありし村。昭和八年西宮市に編入す。

シバ　柴

【柴】 ↓寺尾村（長野縣埴科郡）

【柴（村）】 愛媛縣喜多郡にありし村。大正十年濕川村と共に合し白滝村を置く。

シバイ　巳梅面　朝鮮全羅北道南原郡の西北部。郡邑南原の北方約三粁。東は寶節面、北は德化面・任實郡屯南面、西は同三溪面及び南原郡大山面、南は王峙面に相隣接す。西南境には雲積峰（五六八米）聳え、東・南境また三百乃至四百米の山地を以て圍繞し、中央盆地を成して僅かに北方に開く、盆地床は比較的低平にて蔡栅川の支流これを灌漑す。產物は大麥を第一とし大豆・米これに亞ぎ其他、棉花・煙草・乾柿等の產あり、養鷄・養豚も近時盛となれり。郡の西部に鐵督府鐵道全羅線通じて書遺驛（昭和六年設置）あり。南方南原に近く、また南原より來る二等道路は面の略中部を縱走、北方全州に連絡し乘合自動車の便あり。近時交通便になる。聚落は山麓線に沿うて分布し、其主なるものに龜達里・桂壽里・仁化里・大榮里・花亭里・大新里・梧新里・月坪里等あり、面事務所を北境に近き梧新里に置く。

シバウラ　芝浦　東京市芝區の町名。東京灣に面する海岸一帶の地。土地低平多くは埋立地にして小運河縱横に通じ、芝浦日之出町に東海道本線の貨物專用たる芝浦驛（昭和五年設置）あり。其他、陸上交通便にて、加ふるに東京港の築港この地に設けられ、東京市に於ける海陸交通の咽喉を兎するに至り、これに伴ひて各種の工業勃興し、東京市の工場地帶の一ななし。京濱工業地帶の北限に當る。舊は芝區の海濱の稱にて、古くは柴浦または柴濱に作り、江戸開府以前既にその名稱ありしものゝ如く、廻國雜記に「やかぬよりもしほの名にぞたつ船に蒸こりつむ芝の浦人」と見ゆ。江戸時代は東海道この海濱にかゝり品川沖に臨む。形勝の地にて、明治の初め先づ京濱鐵道（今の東海道本線）が海に沿うて敷かれ、その後漸次埋立られて今日の東京港をなす。この地の埋立は明治より大正初年に至る東京港の第一期第二期工事の浚渫により設けられしが、當時は依然として海苔の養培場たりしにすぎず。其後、海運界の發達は千噸級の船舶が危險を冒しこの地に蝟集するに至り、大正十一年より更に第三期築港工事を起し築港の根幹を實現するに至る。この計畫によりこの地先に七米餘の本船溜約五〇ヘクタールをつくり、沿岸に約九三ヘクタールの埋立をなし、其一部に約九百米の繫船岸壁を築造することゝせり。然るに大正十二年の大震災直後には、未だ整備さざるこの海面も極度に利用され、二千噸級の救援物資輸送船舶が蝟集するに至り、第三期工事

は頗る變更して大規模のものとなる。なほ震災直後の應急施設として別途に芝浦日之出町に一八七萬圓を投じ繫船桟橋約五六〇米を建造し、二千噸級の船舶六隻の荷役設備を設け、また省線東海道本線汐留驛より分岐して桟橋に至る臨港鐵道の敷設を見、且つ東京港の完成とともに益々殷盛を極む。今主なる工場に瓦斯會社・建築工場・製漆工場・稻藁工場・自動車工場等あり、外に各種の倉庫あり、また東京高等工藝學校・電氣計器試驗場等もあり。尙また附近には濱離宮恩賜公園あり。

シバエ　芝江　遠江國（靜岡縣）の古地名。和名抄に敷智郡柴江郷あり、之波江と訓す。その地今詳かならざるも濱名郡神久呂村及び濱松市の一部（宮塚村）の邊に當るか。

シバカリ　芝刈村　福岡縣筑後國浮羽郡の北西部。筑後川中流の南岸に位し久留米市の東北約九粁。田主丸町の西に隣り、北及び西南は三井郡に圍まれ、東北は筑前國朝倉郡に接す。面積五・九一方粁。筑紫平野の一部を占むるため全村地形平坦にして筑後川中央を北流する支流を合せて北境を西流す。田畑よく拓け米・麥・菜種・煙草を產す。村内交通便利の走るものなけれど南方約三粁餘に省線久大本線の筑後草野驛（三井郡草野町）あり。此地域は和名抄、竹野郡柴刈郷の地にして村名は差し其證稱か。

シバグチ　芝口　東京市芝區内の地名。芝區の東北隅、京橋區に隣接せる地。江戸時代新橋に芝口門を設く。現今芝口一丁目より三丁目に至る。貳女意題「逢もの事なら江戸でかせいで見やうとおもつて、方々と問立たが、芝口の鼻紙袋屋へ口入する人が有て、住込んで居る内に」

シバサキ　柴崎村　茨城縣常陸國稻敷郡の南部。新利根川に跨り利根川にも近し。東は太田村、北は君賀村、西は根本村、南は長竿村・金江津村と隣る。北境には東流して霞浦に入る小流あり、その流域は狹き低地にて沼田をなす。その南は東西に續く丘陵地の一部なり。村の中部より南部にかけては低地にて新利根川東流し、水田多く、西境附近は根本村に續く沼田の一部をなす。丘陵の南麓には畑地あり、農業主にて米を產す。村の中央を橫斷する縣道は西方龍ヶ崎町（約一〇粁）に通じ、又北走するものは霞ヶ浦畔の江戸崎町（約六粁）に通ず。此地古くは和名抄、信太郡朝夷郷の内に屬せしものの如きも、其後の沿革詳かならず。村名は蓋し地勢より出でしものの如し。

シバザキ　芝崎　江戸の村名。今の神田橋内（今の東京市麹町區大手町濱）の地を稱せしといふ。神田明神の舊地。里見八犬傳・八ノ六「雨は麻生高嶺、芝浦近く寄る波も、東へ續く入江湯、北は芝崎神田の岱、漁村樵牧相隣ひて、目に見ゆるあり見えぬあり、征客宮に鵬を、斷べかりける眺望也」

シバサワ　芝澤　筑後國（福岡縣）の古地名。和名抄山本郡に芝澤郷あり、山本郡は明治二十九年に御井・御原の二郡と共に三井郡をなせるにより、今の三井郡内ならんもその位置詳かならず。

シバジー——社　臺灣新竹州竹東郡の著社。竹東街の南方山地、鳳山溪の流域にあり。タイショット族、及びアタヤル族の中のマシバター系統に屬する高砂族の部落。竹東より近年自動車道路開通して交通の便よし。この地はこの地方一帶の理蕃行政の中心地にして、警察關係の内地人多く居住す。これより奥井上には溫泉あり、その爲の通行者も多し。蕃稱アタヤル語にて Sipeja 又は Sipeji.

シバセ　師尙迫山　駿河國（靜岡縣）の歌枕。未だ詳かならざるも東海道名所圖會に「浮島原（駿河國駿東郡）のかたはらに在り。土人、芝山といふ」とあり、或は駿東郡の内か。萬葉・一一「芝篤の住むとふ山の師尙迫山責めて問ふとも汝が名は告らじ」

シバタ　柴田

【柴田村】 青森縣陸奥國西津軽郡の南部。本造町の西に隣接す。岩木川の沖積平地より成る津軽平野の南部に位して土地低平、所々に湿地ありて草地をなすも全村略ど水田をなし、妙堂川は東部を、内川は西部を、其他の小流南より北に流れて灌漑・排水をなし、米（約六十萬圓）を多產し若干の野菜を出す。なほ西部新田地方より泥炭を採る。街道は東隣木造町に達しバスを通ず。此地は舊藩時代の新しき開墾地にして古くは十三湖の入江をなせし所。その後岩木川の堆積、陸地の上昇により開墾を見、漸次聚落發達し、特に東南部に著しきものあり。

【柴田郡】 宮城縣陸前國十六郡の一。東北は名取郡、南は刈田・伊具の二郡、西は山形縣南村山郡に各隣接す。西南境に藏王山峙ち北方の雁戸山（一四八五米）・神室嶽（一三五三米）に續き、山脈は東に延び北境の三方倉山（九七一米）・鷹ノ巣（七〇五米）、南境の火鳥谷山（五三八米）等となりて東に次第に高度を減じ、東部にては愛宕山（二九一米）・船倉山（二四五米）の二百米内外の山となる。名取川の一支碁石川は神室嶽の南斜面に發して東流し、西境山地より發する北川・前川等の支流を合し、東南境を阿武隈川北東に流れ、東流し來る白石川を容る。中部御ち菲石川・北川・前川の合流附近に山間盆地及び東南部の白石川・阿武隈川流域にはやや低地あるも大部分は山地をなす。各河川沿岸に沖積地ありて田畑拓け米・麥の外に大豆・馬鈴薯・芋・梨等を產し養蠶も行はる。なほ山地廣きを以て林產物も少からず。省線東北本線は東南部白石川の右岸に沿うて通じ、國道陸羽街道また白石川の左岸沿ひに貫通す。中部川崎村大字川崎にて縣道四方に放射狀

に通じその一なる猿谷街道は西境猿谷峠（九〇六米）を越え山形市に至るものにて古へこの街道に有耶無耶関を置かれしものなり。續紀養老五年の條に陸奥國柴田郡を割き苅田郡を置くとあり、郡名初めて見ゆ。和名抄は之波太と訓じ、柴田・蟹前・高橋・淵城・駒橋・新羅の六郷餘戸一驛家一を置く。明治元年陸奥國を割き陸前國を置くに及びその管下に入る。

【柴田】陸奥國（宮城縣）の古地名。和名抄に柴田郡柴田郷あり、之波太と訓す。郡家の所在地たり。延喜兵部省式陸奥國柴田驛馬十四、柴田郡傳馬五匹とあり、管時驛傳を掌りしものなるべし。此地いまの船岡村・大河原町の邊に當る。

【柴田】伊勢國（三重縣）の地名。和名抄に三重郡柴田郷あり、之波多と訓す。地は今の三重郡菅盤村の邊一帯を稱せしものにて、同村の大字に柴田の名を存す。

シバタ　新發田町　新潟縣越後國北蒲原郡の中部。新潟市の東方約一五粁。北は鴻沼村、東南は五十公野村、南は中浦村、西は猿橋村と界す。面積三・四一方粁。加治川上流の南方平野にありて下越地方の中心地たり。生絲及び木工品の生産盛んにして、附近に産出する加治川米の集散地ななす。省線羽越本線の新發田驛（大正元年設置）は町の東部にあり、省線赤谷線を東南に分岐す。國道・縣道集合交錯し、新潟市・水原町・菅谷村等へバスの便あり。往古の事は今詳かならず。近世溝口氏の城下にして、慶長の初五萬石を賜與せられしが爾後加藤新開、年々に加はり實入二十萬石の封額に値すと稱せらる。一に新發田にもと芝田・柴田に作りしが、溝口氏受封ののち開墾の義を寓してこれを改むといふ。然るに上杉家世々の舊記には多く新發田を用ひ芝田・柴田の字を見る事甚だ稀なるより推考すれば溝口氏改文といふは附會の説のみ。明治十一年明治天皇北陸・東海御巡幸の際其所在所となり、今其址は指定史蹟たり。「新發田城」一に鳳尾城・舟形城ともいふ。加治氏の一族新發田氏の築く所にして、天正中重家に至り上杉氏に叛し、據守七年遂に十五年十月上杉景勝のために滅さる。慶長三年堀秀治當國に封ぜらるゝや、其與力として溝口秀勝當城に入る。堀氏絶家ののち離立して五萬石の舊領に依る。爾來子孫相繼ぎ萬延元年直溥に至り、十萬石となり明治維新に至る。封を增して十萬石とし明治維新に至る。明治元年閏に東軍に應ぜりと雖も敢て兵を出さず。七月下旬に至り急に官軍を迎へて歸順し、越後口の參謀黒田清隆・山縣有朋等は海路新發田に至れる西郷隆盛等と此に會す。されど今僅に城壁及び濠を存するのみ。其一部に歩兵第十六聯隊の兵營を置く。なほ新發田藩は明治四年新發田縣となりしが久しからずして新潟縣に入る。〔諏訪神社〕郷社。祭神、健御名方神・八坂刀賣命。相殿神、溝口秀勝。古へ浄足・弊舟の楫設けられし頃、信濃國より移住せる人々のその本國氏神を勸請せるものと傳へらる。慶長三年溝口氏當地を領するや、再興して城中に遷祀し、領内の鎮守神となす。更に寛永二年に鍛冶町を經て元禄元年に現社地に遷座し、溝口秀勝を合祀す。溝口氏歴代の崇敬浅からず。現在の社殿は寶暦年間の造營に係る。例祭、陰暦七月二十八日。〔福勝寺〕寺町にあり。曹洞宗。菩提山と號し應永元年悦叟祖問和尚の開創にして、新發田城主佐々木治長の菩提所と定められる。安政四年炎上、明治三十二年再建。現に末寺七箇寺を有す。〔託明寺〕眞宗大谷派。新江山と號す。親鸞の法弟祐玄の開創。初め越前國新江に一宇を創せしが中古加賀國大聖寺に移り、慶長年中、領主溝口伯耆守に樂び現地に來り、其の菩提所となす。

シバツ　四極山　大分縣大分郡の北部、別府市濱脇の東南にありて別府灣に臨む高崎山の別稱。標高六二八米。山上に大友氏時の築きし高崎山城址あり。

【四極山】萬葉集・三の高市連黒人の「四極山うち越え見れば笠縫の島こぎかくる棚なし小舟」とあるものにて、今詳ならざれど大阪市住吉區の附近なるべしといふ。

シバツ　芝津　福岡縣企救郡にありし村。明治四十年本村及び霧岳村・曾根村・朽網村を廢し、新たに曾根町を置く。この地に芝津山と呼ぶ小丘あり、書紀景行紀に見ゆる磯津山は此山を稱せるものならんといふ。

シハト　磯泊　三河國愛知縣の古地名。和名抄に幡豆郡磯泊郷あり、諸本誤りて磯伯に作るもいま高山寺本に從ひ磯泊となし之波止と訓す。其地今の幡豆郡吉田町幡豆村の邊なるべし。

シバトミ　芝富村　静岡縣駿河國富士郡の西部。富士川の左岸。大宮町の西方約四粁。北は植野村に、南は富士川を境に庵原郡に接す。中央を南流し富士川に合する芝川の谷に多少の平坦ある外は何れも低き山地ななす。平地には水作行はれ、傾斜地は草原または樹林ななし牧畜行はる。また家内工業として駿河半紙の製造も盛なり。社線富士身延鐵道、富士川に沿ひて通じ芝川驛（大正四年設置）あり。また芝川に沿うて北走する縣道は富士五湖方面に至り、また之より分れて大宮町に至る道路もあり、交通便なり。此地古くは和名抄、富士郡大井郷の内に屬せしものか。其後の沿革は今詳かならず。〔本門寺〕大字西山にあり。本門宗。富士山と號す。康永二年日興の嫡弟日代の開創。德川時代朱印領を受け、のち興門派の本山となりしが、明治三十二年、北山本門寺と共に獨立して本門宗を公稱す。現に同宗本山にして末寺十七箇寺を統ぶ。

シバネ　芝根村　群馬縣上野國佐波郡の西南端。伊勢崎町の西南にて利根川・神流川の合流點の西北にあり。東境を利根川、南境を神流川流る。西は玉村町、北は宮郷村、東は名和村、南は埼玉縣兒玉郡と隣る。面積七・九九平方粁、全村平地にて村の中央にも利根川の小支流東南に流れ、西北部には水田あり。利根・神流二川に近き部分は桑畑ななす。村の中央を横斷する縣道は西は玉村町に通じ東は名和村にて北折し伊勢崎町に通ず。和名抄に那波郡田後郷とあるは蓋し本村邊を指せしものか。江戸時代には芝根郷佐味庄に屬し、大字の下茂木・上茂木・後箇は玉村郷の一部たり。慶長元和の頃には厩橋の城主酒井雅樂頭の所領たりしが延享寛延の頃には幕府領或は旗本領となり、大字沼之上・飯倉・川井は前橋の城主松平大和守の所領となり以て明治維新に至る。大字川井字堀ノ内に舊城址あり。天正年間上杉氏の麾下齋藤定盛なるもの北條氏直に屬して此處に築城し霞城と名付けて弟石見守基盛を守將とす。天正十年濃川一益、厩橋に在城し、織田信長の計に接し一益の急ぎ西上せんとするや其隙に乘じてこれを襲ひしが反つて敗北に歸せり。のち豐臣氏小田原を征伐し同十八年東海道に進み、西陣の先鋒霞城を攻むるに及び基盛防戦努めしも遂に敗れ奔りて其終る所を知らずといふ。今僅に其址を存するのみなるも地中より鎧刀類を出すと。〔火雷神社〕大字下ノ宮に鎮座。郷社。祭神、火雷神。社傳に、崇神天皇元年の鎮座なりとす。延暦十五年官社にあづかり、延喜の制に小社に列す。例祭、四月三日。〔法蓮寺〕大字下茂木にあり。天台宗。妙日山光照院と號し文和元年の創建。明應六年焼失、文龍元年齋藤左衛門尉盛光・同八百太夫之を再建す。延寶三年東叡山輪王寺直末となる。

シバハシ　柴橋村　山形縣羽前國西村山郡の東南部。東の寒河江町、西の左澤町の間に挾まれ、南は東村山郡長崎町・豐田村に各隣接す。西北部に二百餘米の平野山聳え、南部にも白鷹山（二九八米）の山地連るも、中央を最上川東に流る。この地は最上川の扇狀地にしてその後の浸蝕により段丘發達す。東にやや傾くも土地低平、耕地よく拓け大半は水田ななすも西部・東南部の最上川岸には桑園多し。中郷は段丘上にある集落として南方の山地直ちに河岸に迫り水田少く、明治中頃迄漆・青苧等を植ゑ、また上杉陣屋の御用蚕頗多く、左澤町・西置賜郡間の米鹽運搬の船衆として生活せる者多かりしが、明治二十年に至るや安孫子兼次郎等主となり最上堰を通ぜしも村にはさして新田興らざりしかば、安孫子政六等電氣揚水して約百ヘクタールの水田を開きたり。されども猶人口比較的多く餘に出稼・出寄留者等多し。寒河江町より左澤町に至る縣道は中部を東西に走り、左澤町より長崎町に達する縣道は最上川の右岸に沿うて通じ各バスの便あり。省線左澤線は西北山地の麓を迂回し、その左澤驛・寒河江驛・羽前長崎驛に出づるに便なり。柴橋城址は大字柴橋にあり。大江親廣五世の孫懐廣の治する所たりしが、大江氏滅亡後最上氏の所領となる。のち公料となり寶暦六年より代官の陣屋置かる。戊辰の役後村山郡散在の幕領百餘村を收め、尾花澤と共に民政局を設けられしが久しからずして廢す。字谷地一帯の地にては、表土を除けば窯に用ひたる穴址に灰を以て埋められたるもの無數に發見せらる。又此附近に縄部土器、其破片等土器類多く發見せらる。其他中郷・金谷等の最上川岸に石器・土器の產地散在所あり。落衣には古へ出羽郡司小野良實の居宅と傳へらるる長者屋敷あり。今向古松と壕跡あり。大字平塩には鹽分濃き冷泉あり、一時製鹽せりと云ふ。また名刺熊野神社（郷社。祭神、伊邪那美命・櫛御氣野命・速玉男命・事解男命）あり。愛老五年紀伊國熊野本宮・新宮兩社より勸請し三殿並び立ち、熊野三所大權現と稱せり。明暦元年眞言宗平塩寺を別當職たらしむ。古來武將の崇敬厚く、寒河江城主大江親廣・最上家親等社領を寄進し御朱印地百四十九石あり。文祿慶長の頃農村の啓發に全力を注ぎ風に高松疏水の開鑿を企畫せし菊池嘉五郎（贈從五位）は此地の產なり。寒河江川より約六粁、幅約三米の疏水を通じ平野山の裾野一帯、寒河江町外一町五村の領域を灌漑し良田を作り、時に旱魃あるも減收なし。

シバハマ　芝濱　東京市芝區一帯の海濱、主として濱松町・田町より高輪に至る濱の江戸時代の稱呼。里見八犬傳・四ノ一「彼河下は葛飾なる、行德の浦に出づ、其處より南は安房上總、北は武藏の江戸、芝濱、或は水戸浦、銚子口、半ば御方の地にしあれば、索求るに便よし」同・八ノ八下。然ば這司馬濱はいと郷久たる漁村也けり、道興准后の廻國雜記に、やかぬより藻鹽の燈り名にぞたつ、船にこり積むしばの浦人と咏れしにて當時の光景想像るべし、寔に無下の村落なれども、這浦人の生活に、只鹽を焼くのみにもあらず、釣漁る便り多かられば、世に芝蝦芝雅魚とて、今もなほ名物とす」

シバハラ　柴原村　大分縣豐後國大野郡の北部。大野川中流の左岸。犬飼町の西南に隣り、北は井田村に接し、西は大野町と界し、南は大野川を隔てて百枝村及び菅尾村に續く。全村三百米程度の山地起伏し西北境に八山（三一四米）あり、東部には白鹿山あり。南部には南境に沿ひて稍屈曲をなしつつ略西南より東北に流るる大野川の北岸に小低地開く。大野川支流菊川傍に北部を掠めて東流し沿岸に極少低地あり。低地は水田よく拓けて米を產し、全村耕作よく行はれて麥・粟・甘藷等を產すれど山地多ければ產額多か

ちす。薪炭の產あり。酒川の北岸に西南方直入郡竹田町より東北方犬飼町に至る街道東西に過ぎざるより敍るる道路、一は西南方へ延び、一は東南方へ玉り隣村を結ぶ。省線豐肥線東端に沿ひて南北に走り北方大分市より西南方竹田町方面に玉り東南約三粁に菅尾驛あり。此地域は和名抄大野郡田田郷の內に屬せしものか。豐後國志に柴山より白鹿を出す。日本後紀延曆二十一年の條に豐後國白鹿を獻ずとあるは、蓋し柴山ないひしものかとあり。柴山はいま大字に進る。〔柴山八幡社〕大字柴山に鎭座。郷社。祭神、仲哀天皇・比賣大神・神功皇后・應仁天皇。社傳に依れば豐南國宇佐神宮を勸請せしものにして初め同郡田原村に鎭座ありしを、建治二年現地に遷座すといふ。例祭三月三日。

シバヒラ　柴平村　秋田縣陸中國鹿角郡の東部。花輪町の東北に隣り、東は青森縣三戸郡・岩手縣二戸郡に隣接す。東境に四角嶽（一〇〇三米）・中嶽（一〇二四米）・鍋鉛森（八三六米）ありて南北に連り、山脚は西部を北流する米代川に向ひて緩やかに傾き、西部の鹿角盆地の低地に續く。盆地床は地味豐沃にして灌漑の利多く水田よく拓け、米の外に大豆・馬鈴薯の農產物あり、日本梨・西洋梨・林檎の果實を出し、此等は花輪町・毛馬內町へ出荷さる。なほ馬の飼養盛にして奏臺亦行はれその產額、卵のみにて約一萬圓に及ぶ。山地よりの木炭の產も少からず。省線花輪線は西部を南北に通じ大字柴內に柴平驛（大正十二年設置）を置き、縣道鹿角街道またこれに並行に走り花輪町・毛馬內町にバス通ず。明治維新前は舊南部藩領にて毛馬內代官所管轄に屬せり。もと柴內・乳牛・鶴田・高市・上臺・小平・小枝指・寺坂・敍ノ木の九ケ村なりしも明治九年柴內・鶴田・高市・上臺・乳牛の五箇村へ同落花輪代官所管轄に屬する小深田を合して一村となし村名を柴內と稱す。また小平・新斗米・敍ノ木・小枝指・寺坂の五箇村を合して一箇村となし村名を平元村と稱す、同二十二年町村制實施の際、柴內・平元兩村を合併し村名は各一字をとりて柴平村と稱す。大字平元字小枝指部落近くに先住民蕨の住居跡あり。〔不動社〕不動長嶽の麓にあり。行基菩薩の作なりと傳ふる御神體を安置す。創立は一千年以前阿保一品親王なりと。〔萬松寺〕大字柴內西町にあり。開創弘化元年、阿保親王開基、天保元年柴內與五左衛門中興。寶物に釋迦牟尼佛坐體、丈二尺一寸、奈良正倉院の御物に象りたるものといふ。薬師如來坐體、丈六寸、菩提菩薩坐體、丈一尺六寸のものあり。

シバマタ　柴又　東京市葛飾郡金町の大字なりしも昭和七年市に入りしもの。社線京成電氣軌道の柴又驛を設く。題經寺に帝釋天を祀る堂あり庚申の日賽客賑ふ。俗に柴又の帝釋天といふ。※東京市（佛國）

シバムラ　柴村　→綾田村（奈良縣磯城郡）

シバヤマ　柴山　石川縣の西南にあり、日本海とは低き丘陵にて隔てられ、大體淡水なるが、時に鹹水注入す。その水は今江潟を經て梯川となり、安宅町の側にて海に入る。面積五・〇八平方粁、潮岸一七・一粁。深度三米にして海拔一米。水草湖底一面を被ひフナ・エビ・ウナギ・コヒを饒產し、一町歩當り產額年五十一貫に達す。西湖岸に片山津溫泉あり。

【柴山】→口佐津村（兵庫縣）

シハラ　志原村　長崎縣壹岐國壹岐郡壹岐島の南部。南岸は壹岐海峽に臨み、東は石田村に接し、北は郡賀村及び柳田村に隣り、西は武生水町及び初山村と界す。面積七・三九方粁。全村丘陵起伏し南方海岸に迫る。海岸は比較的單調なる岩石海岸なり。北東部には僅に小低地あり。低地狹けれどよく耕され米・麥・甘藷等を產し、山地よりは薪炭を出す。西隣武生水町海岸より東北方田河村海岸へ通ずる道路西北隅を掠め、武生水町より東隣石田村の南岸へ通ずる道路は北部を東西に走る。また南部を東西に通ずる小路もあり。和名抄に石田郡篦原郷とあるは蓋し本村にして村名は其遺稱ならんといふ。

シヒ　柴尾山　九州山脈西南方支脈に隆起する一峯。一名上宮岳。鹿兒島縣出水郡出水町と薩摩郡宮之城町・山崎村の境上に峙つ。標高一〇六七米にして薩摩第一の高山。全山古生層より成る。密林を以て掩はれ、山頂の眺望きかず。山上に小祠あり、上の宮と云ひ、八合目附近にあるを下の宮と稱す。即ち上宮神社にして伊弉冉命を祀る。古來附近の住民の信仰厚く、薩州兵兒は必ず登山參詣して武運長久を祀りしと云ふ。當時は鎭國主義にして他國の登山者殆どなかりしが近來漸く知られ、鹿兒島本線・宮之城線の開通に依り一般登山者殆加せり。南麓に柴尾溫泉湧く。登山は宮之城線終點宮之城驛下車、柴尾溫泉まで一二粁自動車の便あり。溫泉より山頂まで九粁なり。

ジヒ　慈悲嶺　朝鮮黃海道の峠。道の北部、鳳山・黃州二郡に跨る慈悲山の一鞍部にして、西北の黃州、東南の瑞興兩面のほぼ中間に位す。古來平壤より京城に至る樞要の交通路に當りしが、世祖の時、嶺上に虎害多く、且つ明使は皆その西方平野部なる義城路より往復するを以て漸く廢道に歸す。いま南麓龍峴里（鳳山郡山水面）より黃州郡郡峰面に至る里道通ず。この峠は又古より政治的意義を賦與せられ、例へば第十三世紀に元が日本通好に著手せるのち五年、慈悲嶺以北を以て元の領域に編入して西京（平壤）に東寧府を置きしが如き之なり。因に東寧

府は文永役の時陸して東寧路總管府となし、弘安役ののち九年に之を廢し、同嶺以北は再び高麗の有に歸せり。

ジヒキ　地引村（ぢび）　青森縣陸奥國三戸郡の中部を占め、八戸市西南一〇粁の地たり。北は豐崎村に、東は館村に、南は馬淵川を隔てて田部村に對し、西は北川村に隣れり。北部は第三紀層の丘陵地起伏し、約百三四十米の高度を有す。南部は馬淵川を軸に半圓形の低地をなし、淵淵もあり、丘陵下は水田分布し、蓮蒔近傍には畑地多し。米產豐かに野菜・果實の產も多く、畑作に麥・粟等の雜穀あり、牛馬の飼養も行はれ、木炭の產出に名あり。三戸町より八戸市に通ずる縣道南部馬淵川に沿うて東西に走り、省線東北本線また貫通し、北高岩驛（館村）に最も便なり。往時は八戸藩に屬し、維新の際、第九大區七小區に配屬せられ、町村制實施と共に本縣を置き今日に及ぶ。

シヒレ　四尾連湖　山梨縣西八代郡北部山保村にある小湖。蛭ヶ嶽の中腹に位し周圍約一・八粁。富士山とは關係なきも富士八湖の一に數へらる。

シフ　周布　愛媛縣伊豫國周桑郡の北部。北は壬生川町、東北は多賀村、東は吉井村、東南は小松町と界し、南及び西は丹原町と隣る。面積五・四六方粁。西方の高縣山地の東南麓と石槌山脈北西部の斜面との間に、中山川、その他の河川により沖積作用行はれて形成せられたる三角形の平地あり、本村はその中央部を占む。從つて全村平坦なる肥沃地にして稻地よく拓け、米・麥等の農產物多く、特產物として綿・麻を作る。東方の西條町・小松町より北方の今治市に往く通路に當り、また省線予讃本線壬生川驛に近し。此地古くは和名抄周敷郡吉田郷に屬す。周敷の郡名はこの地より起るといふ。延喜式周敷驛とあるもこの地なるべし。越智玉純の子益男は周敷郡司となりこの地に居す。〔周敷神社〕大字周布に鎭座。縣社。祭神、火明命・大山祇命・大己貴命。創建年代不詳なるも延喜式內の小社に列す。舊稱西宮、例祭五月七日。〔德威神社〕大字吉田に鎭座。縣社。祭神、大日靈大神・御食津神外二神。顯宗天皇の御字に阿閉臣事代の創祀なりと傳ふ。舊稱、德威神・吉田八幡宮・勸使八幡宮。神位從五位下。源頼義の伊豫守たりし時旱魃に際し、當社に祈願をこめて瑞雨を得、即ち三百五十貫の地を獻じ、且つ「天の下治る神の德威にて惠みへだてぬ神ぞこの神」の歌を獻ずと云ふ。累代の領主・地主の篤崇厚く、黑川元春の如き產土神として每歲八十斛を寄附せり。其後、小松藩主一柳直頼領知以來、社殿を再建し郡內の總鎭守となす。例祭十月十二日。

シフ　澁　【溫泉】上・信國塩上に位する峠。最高點二一七五米、東側は群馬縣吾妻郡六合村、西側は長野縣上高井郡山田村・高井郡に屬す。峠より南東方草津溫泉まで約八粁、北西方熊の湯溫泉まで約二粁餘。道は繪路にして、山行きゃオカーのみの通行する所となり、一般には鬱橋街道にかかる草津峠を越ゆ。

【澁】→平穩村（長野縣）

【澁】→長地村（長野縣）

【澁川】→澁川（大阪府）

シブカワ　澁川（しぶかは）　【澁川村】福島縣岩代國安達郡の北部。南は鹽澤村・油井村、東は上川崎村・下川崎村・北は信夫郡松川町・水原村に隣接す。奥羽山脈の東斜面に屬し、西部は標高六五〇米にして東方に傾斜す。松川は村の東北の一部を東流し、その支流は村の中央部に發源して亦東流し松川に入り、ついで阿武隈川と合す。東北部には水田拓け米を產し、西部の斜面には馬の飼養行はる。奥羽街道は村の東部を南北に通じ、北方約二粁にして松川村に、南方約四粁半にして二本松町に至る。此道路に並行して東に省線東北本線通じ、北方松川村松川驛、南方油井村安達驛への便あり。此地は奥州街道の二本柳宿のありし地にして、澁川田小屋館に遊佐左藏有徳門・鎗子新右衛門の居住せし所なりと。〔圓東寺〕大字澁川にあり。新義眞言宗豐山派。安達太良山光明院と號し、大同二年慈一大師の開基と傳へ、本尊大日如來を安ず。現堂宇は慶長四年の建立に係る。

【澁川町】群馬縣上野國群馬郡の東北部。利根川の西岸にて榛名山の東麓の一部を占む。北は金島村、西は伊香保町、南は豐秋村、東は勢多郡北橘村と隣る。中部より西は榛名山の麓の斜面にして壺林あり。東部は利根川と吾妻川との合流點にて低地をなし、桑畑多し。街衢もこの部分に發達し、製絲業行はる。縣道は三條あり。一は利根川に沿ひて北走し、省線上越線これに沿ひ、澁川驛（大正十年設置）あり。一は西北に走りて吾妻郡草津町に至る通路となり省營自動車通ず。他の一は町の北部を西走して伊香保町に到り、伊香保溫泉自動車會社の乘合自動車通ず。又これ等の外に社線東武鐵道の前橋線及び高崎線來り澁川新町驛を置き、更に伊香保線これに連絡して伊香保町に通ず。古來交通の要衝として發達し、また伊香保溫泉の連絡驛にして伊香保溫泉地に對する物資の供給地たり。古くは和名抄群馬郡有馬郷の內に屬す。中世淸和源氏足利氏の族此地に來住し澁川氏を稱す。城內に堀口藍園の碑あり。藍園、名を貞歆といひ町內の染物屋に生る。幼にして俊爽、長ずるに及び諸國を遍りて諸學者と交り、歸郷するに及びて家塾に從事するかたはら子弟を敎育し、絲生育英を以て樂しみとせり。明治二十四年七十四歲にして歿し、大正十三年從五位を贈らる。碑は明治二十六年門弟等の建設に成るものなるも、贈位ののち更に一碑を

建て、今二碑相對して存す。明治二十六年明治天皇の前橋・高崎行幸の際行在所となりし地にして、今その地は指定史蹟たり。〔八幡神社〕大字北原に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣命・大日孁貴・火雷神等十柱。年代詳かならざるも元龜以前白井城主長尾氏の創建に係り、地方の古社たり。

【澁川】 愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年本村ほか七村を廢し高橋村を置く。

【澁川郡】 河内國(大阪府)の古郡名。書紀持統三年に澁川郡名見ゆ。和名抄は之不加波と訓じ、竹渕・邑智・跡部・賀美の四郷及び餘戸一を置く。明治二十九年河内國の諸郡を廢して南・北・中の三郡とするに及び中河内郡に入り、郡號を失ふ。今、中河内郡の西部長瀬川の西、布施市より龍華町の邊に當る。

【澁川】 河内國(大阪府)にある大和川の一支の古名。寶永年間大和川を改修して今の南河内郡の柏原町・道明寺町の間より西に導きて直に淀津・河内兩國の間より海に注がしめしが、その以前は大和川は柏原町より西北に向ひ、中河内郡なる龍華町の東を過り、八尾町と久寶寺町との間を過ぎ布施市・高井田村を經て寝屋川に入る。蓋左右兩岸に支流を分つも蓋し大和川の本流とす。長瀬川また囀川ともいふ。志紀川と稱するも舊志紀郡の地に於ける本川の稱呼なり。本川は古來堤防の修築決潰屢ありしこと史に見ゆ。即ち奈良時代に於ては、寶龜元年七月澁川堤を修め、また同三年八月には大風雨ありて澁川堤の決潰するもの十一箇所云々と續日本紀に見ゆ。

シフキ　柴福村　山口縣長門國阿武郡の西部にある農山村。吉部村の西大井・奈古兩村の東、福賀村の南、福川村の北に位す。村域一帶は山地に富み、周圍には三〇〇—五〇〇米餘の山峯を環らし、西北境に三ヶ岳(五六六米)聳立し、大井川は中部を西南に流るるも谷地はなほ海拔一四〇—一五〇米の高度を有す。産業は農・林兩業を主とし、物産には米・麥・蠶繭等のほか木材・木炭等あり。大井川のどうどう瀧には水力電氣第一發電所、雄瀧には第二發電所を設く。交通上には須佐・奈古・萩を通ずる縣道、本村を通過す。本村は古くは柴福郷と呼ばれ、一に澁木とも書せしことあり。毛利藩制時代には柴福村と稱し、當島宰判の所管に屬し、明治六年には福川村大字黒川と合併して一時柴福黒川村と稱せしことありしが、明治十七年に及び、再び黒川と分離し、現在の如く單に柴福村と稱するに至る。〔毘沙門城〕宇佐ヶ市の東、毘沙門山にある古墳。古く此の地に毘沙門堂の設けありしかば斯く稱す。見島氏累世の居城たりしといはる。〔佛光寺〕字畑にある古刹。臨濟宗。正安二年の開創にして、古くは五臺山佛母寺と稱せしが、今は同宗瑞光寺を併せて佛光寺と改稱せり。その文殊堂の側に見島氏の古墓一基を存す。〔金子重輔〕長藩の人。名は貞吉。變名は澁木松太郎、市木公太。土屋蕭海・吉田松陰に學ぶ。嘉永六年松陰と米艦に投じて海外に渡航せんとして果さず下獄、安政二年獄死す、年二十五。贈從五位。

シフキ　澁木　省線美祢線の一驛(大正十三年設置)。山口縣大津郡深川町にあり。

シフク　地福村(ぢふく)　山口縣長門國阿武郡の東部にある農山村。生雲村の東、德佐村の西南、篠生村の北西に位し、東は佐波郡境に接す。村域は中國山脈の衝に當り、支脈各地に分出し、從つて土地概ね高く、山峯には西部に大蔵ヶ岳(八三五米)、東部にも津々良岳(七三三米)聳立し、西部及び東部には比較的高き山岳を繞らすも、中央部を阿武川の上流西南に流れ、流域には稍廣き低地ありて水田よく拓く。省線山口線本村を通過し地福郷駅(大正七年設置)を置き、國道山陰道溪谷に沿うて通じ萩市及び佐波郡に至る縣道を分岐す。産業は農林兩業を主とし、物産は米・麥・蠶繭・薪炭・用材のほか赤瓦及び鰲漁を出す。本村は古く地福郷の置かれし所なるも、古來の沿革詳ならず。明治二十三年四月一日町村制實施以前までは地福上・地福下の兩村に分れたりしが、此の時兩村を併合して現時の如く地福村を置く。名勝古蹟には下迫分に祖生松あり。尚ほ村内に地福八景なるものあり十人に餘衆す。〔八幡宮〕字迫ノ畑に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・田心姫命・湍津姫命・市杵島姫命。大同二年豐前國宇佐より霊を分ちて創祀すといふ。例祭九月十九日、廿日。

シフクマ　澁前　山口縣玖珂郡にありし村。藤谷村と合し坂上村(さかのうへ)を置く。

シフシ　志布志

【志布志町】 鹿兒島縣大隅國囎唹郡の東南部。有明灣の北岸に臨む。北西は末吉町に隣り、西は移山村・西志布志村に接し、東及び東北は宮崎縣と界す。面積一三九・三六方粁。村内山地處々に起伏し北部・東部及び東南部に高く、西部及び西南部は低き波狀の臺地一帶を占む。即ち東北方の鬱ノ塚山脈より續く山嶺東北境を限り北部中央に五三〇米の御岳所嶺を起し、それ等山地は幾多の起伏を示し山間處々に小盆地を造りつつ東部へ延が り、東南境には四四四米の笠祇嶺ありて南部山地をなし、兩者の間に西南方へ開く小谷を造り前川は笠祇嶺北麓より西麓を流れて海に入る。西部及び村域西方へ擴がれる西南部は山地次第に低くなりて百乃至二百米程度の臺地を示し西部村境近く安樂川西南流す。海岸線は東半に於ては稍屈曲多き岩石海岸にしてダダリ崎の突出あり。前川目より西半は平直なる砂濱をなし海岸に砂丘發達す。低地・盆地處々に耕作行はれ、米・麥・甘藷・粟等を產しまた椎茸・筍・薪炭をも產す。海岸は附近漁業の中心地にして前川目に主邑志布志町漁港あり。街道西南方の肝屬郡鹿屋町方面より西南部の海岸低地を志布志町へ通じ、西隣西志布志村を通過して西北より東南へ走る一道ここに連絡し、更に東方海岸の山地斜面に沿ひて隣村へ續く。前川口志布志町より北方へ走る一路あり、また途中之より岐れ東西に通ずるもの數條ありて各隣町村を結ぶ。省線志布志線北方郡城市にて日豐線より分岐し西南部に入り來り志布志驛(大正十四年設置)・大隅夏井驛(昭和十年設置)あり。屬島枇郷島は南方凡そ五粁半の海上に浮び、指定天然記念物たる熱帶性植物群落によりて著はる。志布志港は内務省指定港にて主として木材・木炭・食鹽等を移出し、食鹽・肥料・礦油等を移入す。古く此邊は救仁と稱し建久日向國國田帳に救仁院百六十町、また九十町、地頭右兵衛尉殿とあり、薩藩舊記には當時救仁院、平八成直郡司ともみえたり。明治二十四年志布志村を東志布志村・西志布志村・月野村の三村に分ち、大正二年に至り東志布志村を志布志町と改稱す。

〔松尾城〕大字志布志にあり。建久の頃、救仁院平八成直領主となり當城を治所とす。貞和の頃に至り櫨井遠江親仲志布志を奪ひ當城に據り屢々兵を發して諸邑を併す。足利直冬の筑紫に至るや島山直顯これに應じ觀應元年新納時久の所領日向新納院高城を陷れ、延文二年直顯また當城を攻む。同年二月に至り城遂に陥り櫨伸遠るるに路なく遂に自殺す。新納時久は新納院の陥る時足利尊氏に屬して京に在りしが、任終り國に歸るに及びて救仁院を與へられ當城に移る。これより先、直顯諸處に兵を發して大隅の加治木に屯せしが、島津氏久兵を發して是を破るや直顯志布志に走りて内城を拔き再び當城を攻む。時の城主は時久の子實久なりしが、島津氏久これを聞き自ら兵を率ゐ來り援く。直顯内外より攻められ遂に豐後に走る。のち時久より八代新納近江忠勝の時、北郷忠相(都城領主)・島津忠朝(櫨間領主)・肝付兼興(高山城主)・樺山幸久等來り攻むるに及び遂に敗れ忠勝は櫨間に移り、其子新納四郎忠茂は母と共に佐土原に走る。のち忠相・忠朝救仁院を分ち領せしが、忠朝の子島津忠親、伊東義祐・肝付兼續等と戰ひて敗れ櫨間に走る。爾來兼續は救仁院を併領し肝付左馬助兼道に至りしが、勢漸く衰へ天正八年遂に島津氏に屬し茲に於て救仁院平治するに至る。〔批郷島熱帶性植物群落〕指定天然記念物。批郷島は本土の南方凡そ五粁半の海上に浮び、海拔一〇〇米、周圍約四粁に過ぎざる小島にして、もと蒲葵島と記さる。植物は百五十餘種或は九十七種と稱され、そのうち亞熱帶及び熱帶的なるものはピラッ・ハマビハ・ハマヒサカ等廿三種と稱さる。蒲葵は全島に散在するも北部に少く南部に多く、海岸より漸次高所に及び三〇米近きところまで及ぶ。繁殖の最も濃厚なるところは東南部なり。葉の太さは目通七五糎内外、高さは九米及五一〇米のもの多し。〔志布志町平山氏庭園〕指定名勝。古刹石峯寺の遺址にして世々平山氏の住する所なり。作庭の年代不詳なるも文政八年に其一部加工せる記錄を有するを以て江戸中期以前のものなり。庭園は自然の傾斜地を利用し傾斜面に露出せる大岩盤を主景とせるもの。岩盤を穿ち之を滿月に象り降雨の際は此に流水を導き瀑となすが如き技巧を凝らす。傾斜地には多數のツクバの丸物を配しヌアノキ・イス・ツバキ・マキ・ムク等を以て背景を構成す。自然式岩石園として見るべきものあり。〔宮ヶ原氏庭園〕指定名勝。もと村原氏所有にして村原氏の祖先が二百年前に築造せしものなりと傳ふ。庭園は大岩盤上に構造せられ築山を設け築山の前面に石を組み池泉とす。建築物に接して手水鉢を置き鉢前石とツクバとを配す。庭園の背景としまた見切としてツクバ・クチナシ・サザンカ・ツバキ等を刈込生垣を作り志布志城址を借景とす。當地方に於ける代表的庭園なり。〔山宮神社〕郷社。祭神、天智天皇・大友皇子・玉依姫命外三神。和銅二年六月天智天皇の寵姫玉依姫の創建と傳ふ。例祭十月中の午日。〔大慈寺〕大字志布志にあり。臨濟宗妙心寺派。龍興山と號す。興國年中遠江守櫨伸これを當國肝付郷に建立し玉山を請じて開山とす。のち現地に移す。〔肝付兼續墓〕町内大慈寺海岸墓地の東側入口にあり。墓石は大なる五輪塔なり。兼續は志布志の領主たりしも、島津氏の勢におされ永禄八年十一月自殺す。その夫人阿南御前は島津忠良(日新)の息女にして薩摩婦人の鑑と崇められたる烈婦なり。

【志布志線】 省線日豐線の一部。九州の東南端大隅半島にあり。日豐本線西都城驛(都城市)より分れて南下し志布志灣岸鹿兒島縣囎唹郡志布志町の志布志驛を經て東に向ひ宮崎縣南那珂郡油津町の油津に至る。全長八一・六粁。志布志驛にて省線古江東線に、油津驛にて省線油津線に接續す。

シフタニ　澁谷越　澁谷越(しぶやこし)に同じ。

シフタニ　澁溪　↓太田村(宮山縣)

シフタミ　澁民

【澁民村】 岩手縣陸中國東磐井郡の中部、東は大原町、南は奥玉村、西は摺澤村・猿澤村、北は興田村に各隣接す。西北より東南に長く、中部に於て細くほぼ瓢箪形を成す。村内は概ね二〇〇—三〇〇米程度の丘陵起伏して森林多し。砂鐵川北部を西流し、その一支流東南境山地に發源して西北流し、其沿岸には何れも細長き谷狀盆地を形成し、耕地及び集落發達す。主生業は農にして米を主產し、麥・

大小豆・甘藷等なも出す。今泉街道中部を東西に走り省線大船渡線摺部駅（西隣摺部村地内）及び東方氣仙郡高田町方面にバスの便あり。江戸時代中期の儒者盛東山は此地の人とす。室鳩巣其子の教育を託せし程の篤学者たり。〔東川院〕大字盛民にあり。曹洞宗。稻荷山と號す。天文年間天說問察和尚の創建に係る。境内に觀音堂ありて運慶作正觀世音菩薩を安置す。寺域風致に勝れ、東山第一と稱せらる。

〔盛民村〕岩手縣陸中國岩手郡の中部。東北は卷堀村、東は玉山村、西北は大更村、西南は盛澤村に各隣接す。西に岩手山、東に姥神山を望み、北上川中央を南流す。北上川の西岸は岩手山の緩き裾野、展開し、東岸姥神山の裾野は西部岩手山裾野よりも稍傾斜急にして東南境に独峠山（三一一米）聳ゆ。北上川及びその支流松川・濁川・生出川・大橋川の沿岸は沖積層にて、姥神山の裾野なる大字手田山屋部落附近は花崗岩、岩手山裾野の大字下田生出部落は火山層、大字松内・川崎附近は第三紀層、他の大半は洪積層より成る。北上川沿岸に稍廣き低地あり、耕地拓け、水田は各支流沿岸にもありて米（約一二萬圓）を主とし、麥（約三萬圓）・蔬菜類（約二萬圓）・馬鈴薯（約一萬圓）・蕎麥・胡蘿蔔・葉等を產す。用材・薪炭材・木炭等の產少からず。外に瓦綿・竹製品等の工產物あり。國道陸羽街道は中央を南北に走り、縣道津軽街道は西北境に沿うて通じ、更に東南部北上川の東岸なる盛岡市に至る縣道あり盛岡市本線は中央北上川の西岸なる南北に走り好摩駅（卷堀村地内）に最も近し。本村は明治七年まで、盛民・芋田・門前寺（今いづれも大字）の三部落は盛民に、下田・川崎・松内（いま大字）の三部落は川崎に、各役場を置き、正副戸長を立て戸長は百姓代・組總代なして村治上の事務を取扱はしめたり。明治八年第二大區第七小區三番取扱所を設置し、同十七年盛民・芋田・門前寺・下田・川崎・松内（以上盛民村）・卷堀・好摩・永井・寺林（以上卷堀村）を合併して村役場を盛民に置き、官選戸長を以て村治を掌らしむ。同二十二年町村制實施と同時に卷堀村と分離し盛民・芋田・門前寺・下田・川崎・松内の六部落を合併して現村を立て役場を大字盛民に置く。尙此地は石川啄木の故郷として廣く知られ、大字盛民に「やはらかに柳青めり北上の岸べ目に見ゆ泣けとごとくに」と刻せる歌碑あり。明治九年明治天皇東北御巡幸の折大字門前寺千本松に御小憩あり、同日大字盛民胸井太兵衛方にて御小休午餐を召され、同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際にも大字千本松にて御野立遊ばされ、同日大字盛民の胸井太兵衛宅にて御小休午餐を召され給ふ。〔石川啄木〕名は一。明治十九年隣村玉山村大字日戸の常光寺に生る。翌年父と共に此村に移り爾來この地を故郷となす。小學代用教員・新聞記者等を勤めて東京・北海道等に轉々の生活をなす。夙く新詩社に加はり詩を作りしがのち短歌に專心し獨得の口語的發想による新しき生活短歌を作り、大正初年若き歌人の間に異常の共鳴を贏ち得たり。明治四十五年東京に病歿、年廿八。歌集「一握の砂」「悲しき玩具」の他、詩・評論・小說等の作多し。

シブツ　至佛山　上野國の北東部にある山。尾瀨ヶ原の南西方、群馬縣利根郡片品村・水上村の境上に位す。標高二二二八米。北稜は日崎山（一一一六米）・大白澤山（一九四二米）、南稜は笠ヶ岳（二〇五八米）に連る。北西斜面は利根川の一支流猿俣川の上游にして、北東斜面は只見川の發源地に續く。山頂よりは北東脚下に尾瀨ヶ原を俯瞰し、北東方には燧岳（二三四六米）の秀峰を望み、東方に近くアヤメ平を指呼し、その彼方に日光諸山の重疊するを展望す。又南方は近く武尊山（二一五八米）、遠く赤城・榛名等を眺め、西方は脚下に奥利根の谷を距てて上越國境の山々を望む。登山は尾瀨より約七粁にて西麓の山小屋に着す。又は南方片品川の畔戸倉部落よりその支流笠科川を遡行し。鳩待峠最高點（一六一五米）を經て約一〇粁にて小屋に達す。ここより山頂まで約四粁。山中濁本帶多く、ネコ・シヤクナゲ・偃松等を見、山頂近くにはミヤマウスユキサウ・シンバウ等の高山植物も豐富なり。

シブナオ　——社　臺灣新竹州大溪郡の著社。アタヤル族のうちガオガン蕃に屬する高砂族の部落。大嵙崁溪の東岸なる高き山地にあり、角板山より約一六粁の奥地。點路としては桃園・大溪を經て至るを便とす。近時臺北州下に移住せる者多し。

シブミ　澁海川　新潟縣にある信濃川の一支。東頸城郡の南境頸城山脈の一峯三方ヶ岳（一一三九米）・山伏山等の北斜面に發源して東北に流れ、刈羽山塊を切り小國郷の盆地を北流し、越後平野に出で長岡市の西南隅才村（三島郡）にて信濃川と合す。流程約五五粁。省線信越本線は北條駅（刈羽郡北條村）・塚山駅（北魚沼郡塚山村）間に於てこの川上に鐵橋を架す。

シブヤ　澁谷　〔澁谷區〕東京市三十五區の一。市の西南部に位し、東は四谷區・赤坂區・麻布區・芝區に、南は品川區・目黒區に、西は世田ヶ谷區・杉並區・中野區に、北は淀橋區に各隣接す。東西五・三一粁、南北五粁、面積一五・二三六平方粁。人口二三四、八三七人（昭和十年）。當區は昭和七年もと豐多摩郡の澁谷・代々幡・千駄谷三町を東京市に編入して澁谷區と稱せるもの。區内の地勢は概して洪積層の

臺地にして丘陵の起伏多く、古く代々木野と稱せられし邊は平坦なる臺地にして此處に官幣大社明治神宮鎭座し、また代代木練兵場展開す。澁谷川これ等丘陵間の溪谷の水を集めて品川灣に注ぎ、北部には舊多摩川上水今甦りて市上水道一部の給水に役立つ。區内の產業は商業及び工業にして、商業街としては道玄坂・宮益、卽ち澁谷驛を中心とする一帶が新宿と共に東京市西部の一中心をなし大小商店軒を連ね繁榮を極む。工業は惠比壽・澁谷・原宿・代々木・千駄ヶ谷各省線驛が區の中央部を連ぬる關係上、比較的早くより勃興の機運に向ひ現在相當なる生產額を擧げつつあるも其將來に關して商業の如く多大の期待を持ち得ざる實狀にあり。工產額は年約二千百六十九萬圓に達するも、これを市内各區に比すれば三十五區中漸く二十位にありて、向島・城東・品川各區の一億圓以上には遠く及ばず。これは蓋し本區が明治神宮を中心とする風致區一帶を別墅し、大工場の設立を許さず、主として住宅地を形成し且つ一部の商業地域を有する、所謂高級住宅を構成するの實狀にある故なり。昭和九年末に於ける東横百貨店の新築開店は勤もすれば中央に奪はれ勝の區内の顧客を此處に吸收し、東京市西南部の中心地として一段の精彩を加ふるに至りしも、更に市の中心なる新宿驛に通ずる地下鐵の竣成せる曉には猶一層の繁榮を期待し得べし。交通はその規模に於て新宿に及ばざるも、澁谷驛は厚木街道の咽喉を扼して各種交通機關の輻輳甚だしく、大東京西南部に於ける交通上の大關門として主要なる地點たるを失はず。卽ち省線山手線の南北に縱走する外、東横電鐵は田園調布、元住吉を經て横濱に至り、玉川電鐵は玉川本線、世田谷線の二線を含み、更に澁谷、吉祥寺を結ぶ帝都電鐵も亦澁谷驛前に起る。此他、京王電軌、小田原急行鐵道は何れも新宿に起り本區の北部の重要交通機關たり。市電及び市バスは共に此地と都心との連絡に當る外、東横バス・京王バス・山手バス等は區内の住宅地を縱横に走り、更に將來は第二高速度鐵道、卽ち地下鐵、並に東横電鐵の新宿驛迄の延長線、鎌倉急行等の竣成をも豫定さる。されば東京市當局は、昭和八年澁谷驛を中心として綿密なる交通調査を行ひ、尙一層の交通の完備を期せんとす。その計畫の概要は現澁谷驛西側の玉川電鐵附近に面積約四千坪の大廣場を設け、集團駐車場・乘合自動車乘降場・芝生・車場・歩道を設け、此處に集まる諸電鐵の共同驛舍を建築することとし、地下鐵も、宮益坂傾斜中腹より地上に現はれ、東横デパートの南を掠めて共同驛の二階を占むる省線のプラットホームより一段高き三階に通ずる事となり、また將來市電は宮益坂より分岐してループ運轉をなし廣場を一周し、街路は環狀及び放射狀に配置し、附近の主要道路と連絡して交通の利便と緩和を計らんとする豫定なりと。近年澁谷川溪谷を中心に、石器時代遺蹟三十六箇所、古墳三十九箇所の存在明かとなりたれば、道玄坂臺地、宮益坂臺地及び代々木八幡附近の三部を中心として先史時代既に文化の發落たりしを知り得べし。澁谷なる名稱の起源に就ては未だ詳かならざるも、一に上古此邊は江海に濱して鹽谷ノ里と稱せしを、何時の頃よりか澁谷と讀はるるに至るといひ、また一に此地澁谷氏の所領たりしより此名起るといふ。後者は江戸志にも見ゆればほぼこれを妥當とすべし。澁谷町は往古谷盛庄と稱せられ武藏平野の草茅たる一聚落に過ぎざりしも、德川家康入國の頃より次第に開發に向ひ、此附近一帶の地は大名の抱屋敷・旗本屋敷等置かれたり。正保改「四代將軍家綱」には單に澁谷村と稱せしも、のち上中下の三箇村に分割さる。其後、幾多の變遷を經て文久・元治の頃には鳥津・黑田の大諸侯を首とし數多の下屋敷置かれ、その多かりし事は當時江戸近郊第一なりきと。明治七年上中下各豐澤村は夫々上中下澁谷村に合併せられて三箇村に統一せらる。同二十二年町村制實施の時當て編入せられたる諸町村を合して澁谷村と稱し同四十四年町制を布く。もと千駄ヶ谷町は恩田（穩田）・原宿・千駄ヶ谷村の三村を明治二十二年町村制施行の際千駄ヶ谷村に統一せしもの、代々幡町は同じく町村制施行の時代々木村と幡ヶ谷村とを合して代々幡村と稱せしも後に夫々町制を布きしもの。いま區内に久邇宮・東伏見宮・梨本宮邸をはじめ奉り李鍵公・李鍝公の諸邸、東京工業試驗所・體育研究所・航空研究所・國學院大學・東京農業大學・青山學院等あり。※代々幡・千駄ヶ谷

〔澁谷村〕神奈川縣相模國高座郡の東部。北は大和村、西は綾瀨村、南は六會村、東は鎌倉郡中和田村と隣す。東境を境川南流し、他は丘陵地に桑畑あり、養蠶行はれ麥・甘藷の產多し。小田原急行鐵道江ノ島線は村の中央を南走し、村内中央部に高座澁谷驛（昭和四年設置）を置く。鐵道これに沿ふ。此地は和名抄、高座郡高座郷の地にして、中世、澁谷庄に屬す。大字長後は穩川氏關東入國の頃より土屋義助利懷・劉岡兵庫助の采地なり。大字上和田は小田原北條氏の頃は内村神三郎の知行せし地、大字下和田は北條氏の頃は小幡勘解由左衛門の知行せし地なり。大字福田は大永の頃、保田筑後守・町邊因幡守・廣瀨甚兵衛・市川源兵衛・夫・廣瀨甚八・山下半彌・市川源兵衛・小林大玄の九人にて開發せし所なりといふ。

シブン　志文　北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。室蘭本線の一驛（明治三十五年設置）にして萬字線の起點。

シベチャ 標茶村　北海道釧路國川上郡の南部。釧路國支廳管下。阿寒國立公園の内。南に釧路村を隔てて釧路市あり。北に弟子屈村、西に阿寒郡、東に根室國及び厚岸郡太田村と界す。面積九三〇平方粁。釧路平野の北部に位し釧路川中流に跨がる。西北部に三〇〇米内外の高地存するも概ね平坦なる地勢にて、釧路川の蛇行流域には低濕地多し。シラルトロ沼・塘路湖あり。數多の支流合流し流域大なるも人口甚だ稀薄にして耕地乏しく、軍馬補充部用地等官有地多し。省線釧網線東部を終定し、標茶・塘路・茅路・五十石（以上昭和二年設置）・磯分内（昭和四年設置）の五肆を設く。釧路市・弟子屈村にバスの便あり。この地水田多からず、畑作を主としビート栽培を以て名あり。米・甜菜・馬・鮭・昆布を産す。本村はもと熊牛村と稱し大正十二年四月二級町村制を布き昭和四年標茶村と改稱す。この地は釧路村外數個村と共に釧路丹頂鶴蕃殖地として天然記念物に指定さる。※釧路村

シベツ 士別
【士別町】 北海道天鹽國上川郡の西部。上川支廳管下。北は多寄村を挟み名寄町に對す。東南は上士別村、南は朝濃村、東は温根別村と隣る。面積一五二・七平方粁。天鹽・北見二山脈間に介在する天鹽川上流の士別盆地にあり。天鹽川東南より西北流して村心を貫き西北界にて朝濃川を合す。村の中央部は流域平野に屬し西北・東北・中央の南部に山地を殘す。本町は二川合流の内に挾まれたる平地上に發達し省線宗谷本線の士別驛（明治三十三年年設置）あり。また上士別村・朝濃村に通ずるバスの便もあり。また社線士別軌道の士別驛あり。澱粉・馬鈴薯・除蟲菊を主産物とす。明治三十九年二級町村制、大正四年町制、同時に一級町村制を布く。
【士別軌道】 私設軌道。北海道天鹽國上川郡にあり。宗谷本線士別驛（士別町）より起り天鹽川に沿ひ東南方の上士別を經て奥士別驛に通ず。全長二一・四粁。

シベツ 標津
【標津村】 北海道根室國標津郡全部を含む。根室支廳の管下。知床半島東南部に接續し根室平野の北部に渉る。根室町を距る約九二粁の西北方にあり。根室灣に面し千島の國尻島に對す。北は目梨郡羅臼村、南は野付郡別海村、西は釧路國、西北は北見國に界す。面積一二七三・九九平方粁、人口一二一五三。北と西界には千島火山脈連り海別岳（一四一九米）・サマクタメブリ岳（一五四五米）・標津岳（一〇六一米）等の諸峯聳え、高峻なるも東南方に傾斜し平野を展開す。釧路北見國境に火山湖摩周湖あり。トーボロ川・標津川・忠類川・薫別川・植別川等多くの支流を合せつつ東流して根室灣に注ぐ。標津川下流ムサ川との合流地域に大なる低濕地あれど、全村耕地の大部は概ね海岸線に出入大にして東岸に茂世路灣彎入す。西北岸は小ヨアス海岸をなし人口集り漁場多し。薬取川西北に流れ、其河口に薬本村有り。西方の乙今牛村また都内稀薄部落をなす。鮭・鱒・昆布・蟹等漁利多く、東南山中、茂世路火山の硫黄鑛より硫黄を産す。夏季は二、三十噸の發動機船が凡そ隔日に來り貨物一方、又は貨物及び旅客の運搬をなし、それと共に命令航路の汽船の來航あり、冬季となれば月三回の航路も危險にして殆ど交通遮斷の狀態に至る。爲に秋季に島民は根室に出て越年するか又は冬季の日用品を一度に買ひ求めて冬籠りの用意をなす。本村は東蝦夷に屬する標津島の一部として正德以來松前氏の所領たりしも、其後、幕政詰求を專にせるものあり、更に露人の蹂躪跋扈甚しからんとするに至り、寛政十二年以後七箇年を限り幕府の指揮に從はしむ、當時邦人の來住するもの稀なりしも、露人は既に得撫島を略し進んで本島に來り、本島に十字架を建て先住民との間に交易を爲す者生じたり、幕府統轄を始め、近藤重藏・山田嘉兆をして島中を按察せしむるに當り、近藤重藏十字架を倒し「カムイヨッカテイ」に日本國標を建て爾來邦土の警衛人民の撫恤に努むるに至れり。即ち郷村の制を定め諸制度を整備し漁場を開き漁具を授け生業を教へ、風化全きに至る。漁場請負は文化十一年幕府直轄を廢止せし後、高田屋嘉兵衛の請負となり、天保二年故ありて廢す。文政四年一旦松前藩に復封せしも松前氏の寄政甚しく、安政二年再び幕府の直轄となし仙臺藩をして警衛せしむ。明治二年開拓使に屬し、同三年郡を置かれ土佐藩に配屬、同四年再び開拓使直轄となり、同五年改めて根室支廳に屬す。同十五年根室縣に屬し、同十九年根室支廳の廢止により北海道廳に屬し、根室支廳の所管、大正十年二級町村制を布く。
【薬取郡】 →薬取村

シヘン ——社　臺灣新竹州竹東郡の蕃社。竹東街の奥、内橫屏の近くにあり。アタヤル族キナウー蕃の奥地より移住せし部落。竹東より約一二粁、途中まで手押臺車の便あり。蕃音 Lhen

シホー 志方　朝鮮鐵道局の東海中部線の一驛（大正七年設置）。朝鮮慶尙南道晉州郡の東部。馬山府・晉州邑の略中間にあり。東は二班城面及び成安郡郡北面、北は智水面に隣接し、西北部は南江を隔て大谷面に相對し、西は晉城面、南は一班城面に相隣接す。東南境に馬嶺山聳え其他、餘脈城内に重疊し極めて低地に乏しく、高度は漸次西北方に向つて減じ南江沿岸に至つて稍平地を見る。住民の多數は農業に從事し、傍ら棉花を栽培し、綿布を紡織する者多し。馬山・晉州街道面の略中央を東西に横斷し支線三等道路は鐵道慶全南部線班城驛と、數粁の間に連絡し、交通・運輸は便なり。主要集落に宮溪里・鳳谷里・沙谷里・武村里・芳村里等ありて面事務所を芳村里に置く。

シホーリン 四方林社　臺灣臺北州羅東郡の蕃社。大元山麓近くにあり、アタヤル族中のセデック系統なるタウツア蕃の系統を引く高砂族部落。羅東街より一二粁弱　附近には寒溪・小南澳等の部落あり。蕃稱 Qaga-Hu'ai

シホク 史北面　朝鮮江原道春川郡の北部。春川邑の北方一五粁。南東は新化面、北東は華川郡看東面、北は下南面に隣接し、西は北漢江を隔てて史内面及び西面に相對す。大白山脈の西斜面に位置し、東北境に袖拂舞山（六九六米）・龍華山（八七八米）聳え、北部及び東境は山地を以て劃し、西南に向つて漸次傾斜し、ここを北漢江縁流し、中央部は稍々淺き盆地を形成す。畑地大部分を占め水田極めて少し。産物に大麥・煙草・大豆・粟・蜂蜜・麻織物等あり。南方春川より北方華川邑に通ずる二等道路は面西端の北漢江々岸に沿ひて通ずる外は見るべきものなく、域内坂路多く交通運輸便ならず。面事務所は芝村里に置く。

シホツ 志發島・志物島　→鹿舞

シボムサム 凋寒　北海道十勝支廳中川郡にありし村。大正二年川合村と改稱し、同十五年浦田町と改む。

シホロ 士幌
【士幌村】 北海道十勝國河東郡の中部東偏　十勝支廳の管下に屬す。南は音更村及び中川郡浦田町に、北は上士幌村に接し、西は鹿道村に、東は足寄郡本別町に隣る。四半は東ヌプカウシ火山（一二五二米）の東斜面の山地にて東南に緩く傾斜し、東半は十勝川の支流音更川・士幌川・居辺川西より東の順に平行して南下し、東境に居辺山（四二八米）の山嶺南北に連る外は一般に平坦にして極めて緩く南方に低下し、近時耕地拓け農業盛にして菜豆・小豆・燕麥・米・大豆・豌豆・蕎麥等の産あり。省線士幌線音更川左岸の平地を南北に走り中士幌・士幌の二驛（大正十四年設置）を設き、社線北海道拓殖鐵道西部に通じ、中音更驛（昭和四年開業）を設け、東北に走りて士幌線の上士別驛に連絡し交通便利なり。士幌の語源はアイヌ語のシ、ホロにて廣大なる土地を意味す。本村は往時僻蒼たる老樹參差し、群鹿・熊・鼬の出没彷徨する所なりしが、明治三十三年、中士幌に美濃國（岐阜縣）武儀郡の國整及び美濃開墾合資會社の團體等の移住あり、其他、岐阜・宮城等の諸縣よりの移住者逐年その數を增加し村勢の進展著しく、遂に大正十年音更村より分村して川上村を建てて二級町制を布き、大正十四年三月浦田町字上居辺を合併し、同年十二月士幌線開通と共に愈に發展し、同十五年六月士幌村と改稱、昭和六年四月上士幌村を分村し、昭和八年六月浦田町字下居辺の全部を合併し以て今日に至る。
【士幌線】 省線根室線の一部。北海道十勝國河東郡にあり、十勝平野の北邊に通ず。帯廣市にある根室本線帯廣驛より音更・士幌二村等を經て上士幌村の糠平驛に至る。全長五九・一粁。帯廣驛より士幌驛（士幌村）までは大正十四年、同村上士幌驛までは大正十五年、上士幌村清水谷驛までは昭和十年、更に糠平驛までは昭和十二年に開通す。

シマ 四萬　→澤田村（群馬縣）

シマ 士麻　美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄に賀茂郡志麻郷あり、訓を闕くも志摩國の例により之萬と訓ずべし。その地いま詳かならざるも、或は西白川村の邊なるべしと。或は下米田村の邊なりしもいふ。

シマ 志摩
【志摩】 若狭國（福井縣）遠敷郡の古地名。天平十九年大安寺資財帳に「若狭國乎入郡島山百町、四至皆海」とあり。のち郷となりて志摩に作る。和名抄には志摩郷とあり、高山寺本は志麻に作る。中世は駿海庄と稱す。その地いま遠敷郡内外海村に當り、大安寺資財帳に四至皆海とあるは久領夜嶽半島を稱せしものなり。

あるものは大にして祭典・法会・新天皇・牛馬・小家畜等の市場を立つる所多し。東に大家港の北に接し、北は高地に接し、東に大家港の北に接し、北は高地に接し、東に大家港の北に接し、北は高地に接し、

および大同元年に神封各一戸を奉られ、貞觀年間に奥津島比賣命に從五位上を授けられ、延喜の制に大島神社は小社に、奥津島神社は名神大社に列す。神體の大國主命坐像（木造）一軀は高さ約一米、藤原期の優秀なる神像として國寶に指定せらる。例祭、四月十八日。（長命寺）大字長命寺にあり。天台宗。鳴綺耶山と號す。西國三十三所第三十一番札所たり。寺傳に聖德太子の創建と傳へ、天智天皇御宇臨幸ありて勅願所と定めらる。元暦年間佐々木定綱、源頼朝の命を承け父秀義追福のため本堂以下四十餘宇の堂塔を造立し、登海を請じて中興開山となす。足利義滿亦當寺を以て代々將軍の祈願所となす。元龜四年兵火に罹りて堂宇烏有に歸せしが天正十年豐臣秀吉百石の朱印獻を附し、同十八年再建成る。堂宇中本堂（國寶）は桁行七間、梁間六間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺にて、内部は内外兩陣に分たれ外觀やや低きに似たれど、造營當時の天台宗佛殿の形式を傳ふ。三重塔婆（國寶）は三間三層塔婆にて、屋根は檜皮葺、擬寶珠に慶長二年の銘あり桃山時代の遺構たり。寺寶中木造地藏菩薩立像一軀（國寶）は高さ約九六糎、絵彩色を施し玉眼嵌入、寺傳に定朝作といふも鎌倉時代の作。同毘沙門天立像一軀（國寶）は高さ約一・七一米。製作溫雅彫法精能なる鎌倉時代の作。同聖觀音立像一軀（國寶）は高さ約六七糎、藤原初期の作。

同木造十一面觀音立像一軀（國寶）は高さ約五三糎、平安朝の作。此他何れも銅本着色に成る四點の國寶佛畫像を有す。詠歌「やちとせや柳にながきいのち寺はこぶ歩のかざしなるらん」（伊崎寺）伊庭内湖を抱きて湖中に突出せる伊崎の北部突端にあり。石英斑岩の岩角上にある天台宗の古刹にして、名高き竿飛びは八月一日に行はる。長き數間の瓦材を岩角に挾みて湖上に突出し、裸體の青年交々竿上を走りて水中に飛下りる行事なり。當日は船を浮べて觀覽するもの多し。（寶珠寺）大字岡山にあり。寺寶の木造毘沙門立像一軀（國寶）は高さ（約一・〇二米）藤原時代の作に係る。（專稱寺）大字北津田にあり。淨土宗。本尊阿彌陀如來立像（國寶）は高さ（約一・〇七米）平安初期の作たり。

【島（村）】大阪府泉南郡にありし村。昭和六年貝塚町・麻生郷村・南近義村・北近義村と共に廢せられ、その地籍を以て更に貝塚町を置く。

シマイ　姉妹島　→蒼風面（朝鮮黃海道）

シマウチ　島内村　長野縣信濃國東筑摩郡の西部。梓川の右岸。松本市の西隣。北は上川手村に、南は島立村・新村に、西は梓川を境に南安曇郡に接す。梓川扇狀地の一部を占め、奈良井川との合流點にて之より北は犀川と稱せらる。東北部の山地は斷層崖をなして松本平に接し、崖下を犀川流れ、省線篠ノ井線南北に貫通す。平地は廣れ水田・畑地にして米麥を產す。省線大糸南線は村内を東西に貫通し、島内（大正四年設置）・島高松（大正十五年設置）兩驛あり。糸魚川街道また之に並行し、松本市・豐科町へはバスの便あり。本村は小宮・高松・北中・南中・青島・東方町・北方・犬飼新田・上平瀬・下平瀬の舊十箇村を合して成れるもの。

シマオ　島尾（しま）　富山縣氷見郡宮田村の大字。省線中越線の島尾驛　明治四十五年設置）を置く。

シマガハラ　島ヶ原村　三重縣伊賀國阿山郡の西部。伊賀川に跨り伊賀盆地の西北隅を占む。上野町の西方八粁、東は新居村・長田村、南は花之木村に接し、西は京都府の東南端相樂郡高山村・大河原村に界し、北は滋賀縣西南端の甲賀郡多羅尾村に續く。北境に約五百米の連嶺東西に連りて次第に南方へ傾き終に豪地狀をなして中央部に下り、南境には約二百米程の丘陵ありて北へ緩斜し北部の豪地との間に伊賀川中央を貫きて西に流る。農業を主產業とし米・繭を產し、特產物には耐火粘土・煉瓦・花崗岩等あり。縣道は東方上野町方面より來り中央谷を西に貫きて西方木津町方面に至り、同じく中央谷に省線關西本線走りて島ヶ原驛　明治三十年設置）あり。夢殿峡は月ヶ瀬の上流約二粁の溪谷、中央にて五日川合流して三叉狀をなし近時設けられし發電所のダムの爲に河水横溢し、兩岸の奇岩靖壁の間に潜み形成し舟遊に適す。この地は古く和名抄、阿拜郡新居郷に屬す。（觀音提寺）新義眞言宗豐山派。もと虎國寺といひ奈良東大寺二月堂の別院にして、天平年中聖武天皇の勅を奉じて東大寺僧實忠の創建に係る。伊賀の名刹たり。本堂及び樓門は、天正の兵火を免れ、創立年次を詳にせざるも樣式手法よく室町時代の特色を具へ、本尊木造十一面觀音立像一軀（弘仁期作）と共に現に國寶たり。

シマカミ　島上

【島上村】新潟縣越後國西蒲原郡の南端。信濃川の北岸。地藏堂町の東に接し、三條市の西方約六粁。南は信濃川を境に南蒲原郡に、北は栗生津村に、東は小池村に界す。越後平野の一部を占め、全村水田拓け、米作を主とす。越後米の產地なり。村の南部信濃川に沿ひ、西部にて灣曲し北に走る一條の縣道あり、省線越後線は西北部を横切り、地藏堂驛に近し。大字笈ヶ島に偖に笈掛石と稱する一瓦石あり。源義經奥州下向の時、笈を下して休息したる古蹟と傳ふ。また同地に古墳墓といふ砂子塚及び酒呑童子の宅址と傳ふるものなどあり。大字横田の信濃川堤防には多數の埋樋ありて田地の灌漑に供せしが、明治二十九年七月縣内諸川大氾濫の際、同二十二日此地の堤防八十餘間

決潰し西川以東、中之口川以西渤々たる一大湖水と化し、近世稀有の慘害をなしたりといふ。

【島上（郡）】→島上（郡）

シマゴ　島子村（シマヤ）　熊本縣肥後國天草郡天草上島の西部。北部は、島原海灣に面す。東は下津浦に隣り、南は栖本村に接し、西は志柿村に界す。南境に四九五米の勤鳴山ありて西北方へ傾き、東北部及び西北部海岸に稍低地開け、海岸線は東北より西南の方向に連りて單調なり。農業漁業を主業とし米・甘藷・甘蔗・繭を產しまた近年養蠶も行はれ、畜產（牛・馬）をも出す。交通概して不便なれど海岸に沿ひて東西隣村に走る一路あり。村内には天正年間の築城と傳へられる古城址あり。また馬場川門の前・柵千橋・家數の下の地名あり。また諏訪ヶ原・天時地などは天草四郎の亂の激戰地にして、村内沖田に當時の戰死者林又左衛門兄弟の墓碑あり。本村は往時郡内有數の村落にして戶數千戶に及び、酒造家も二十七軒に達し從つて出入する船舶も百數十隻に及び、對外的にも可なり賑盛なりしが今日は全く昔日の俤なし。

シマゴー　島郷（しま）　筑前國（福岡縣）遠賀郡の地名。遠賀川の東、洞海の西北岸をいふ。もと洞海は遠賀川口の邊に通じ、此地は一島の如き形をなせるより遠賀の島郷と稱せり。明治四十一年この地の洞北・江川二村を合併して島郷村を建てしが昭和六年八月若松市に編入。

シマサキ　島崎

【島崎】新潟縣北蒲原郡にありし村。明治三十九年、島屋・笹山の二村及び藤井村の一部と共に合して木崎村を建つ。

【島崎】石川縣鳳至郡にありし村。明治四十一年、穴水町・東保村と共に合して穴水町を置く。

【島崎】熊本縣飽託郡にありし村。大正十年熊本市に編入す。

シマジ　島地村（しま）　山口縣周防國佐波郡の東南部。防府市の東北約七粁。東北は串村に、東は和田村に、西は出雲村・小野村に、南は都濃郡湯野村と各相隣接す。村内には三—四〇〇米の山地起伏するも佐波川の一支島地川は中部を西北に流れ、流域は沖積地にして水田拓く。產業は農業及び製紙業を主とし、前者には米の產出多く、麥その他の農產あり、副業に養蠶・養鷄行はれ、山林多きを以て用材・薪炭等の產出もあり。製紙業は即ち楮皮を原料とせる和紙の製造にして、古來より防長米と共に當地方の名產に擧へられ、世にこれを德地紙と稱す。德地とは、明治以前に本村及び附近の和田・串村・出雲・八坂・楠野の六村二十三大字を總稱せるものにして、この一帶はその原料に富める上に、山川幽邃淸洌なる溪水に富み、最も製紙に適す。傳へいふに、鎌倉時代、俊乘坊重源上人この地方を巡錫し、村民に製紙の業を傳へしに始まり、毛利藩時代には藩の專業として之を奬勵し、原料・紙質・販賣等すべて嚴重なる監督を施し、その名ために遠近に鳴りしものなるが、現時と雖も其の製造なほ衰へず。また本村には酒類の醸造を行ふものあり。本村の名稱は嵌和年間以來、島地村と稱せりと傳へられ、その中心たる部落を德地市または島地市とも稱し、現に一部に島地市の稱あり。明治十一年までは、上記四大字はそれぞれ獨立の一村をなし、同十七年までの間、上村のみは他の管轄區に入り、同年新たに上記四箇村を一管轄區として本村を置き、今日に及ぶ。（花尾八幡宮）大字島地に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・玉依姬命。社傳によれば和銅四年の創祀と傳ふ。例祭、八月十八日。

シマジマダチ　島島口　日本北アルプス（飛彈山脈）諸峯の特に乘鞍・穂高・槍ヶ岳等への登山口の一。長野縣南安曇郡安曇村島島より起り、梓川に沿ふ。

シマシモ　島下（しま）（郡）　→島下（郡）

シマジリ　島尻

【島尻】鹿兒島縣大島郡にありし村。大正十年伊仙村と改稱す。

【島尻郡】沖繩縣二市五郡の一。沖繩島の西南端部を主部とし、西方海上の慶良間諸島・久米島・國頭郡の西北方海上に略南北に列る伊平屋諸島及び東南方遙かの洋上にある大東諸島等の島嶼部より成り、面積約四〇五方粁。主部は北方中頭郡及び那覇・首里の二市に界し、東・南・西は海に面し、隆起珊瑚礁より成る波狀の丘陵地にて高山なく、沿岸所々に小沖積地あり。河流も北部を西北流する鳴波川をはじめ二三の小流ありて南・西に流るるも水量極めて少し。沿岸には西北部に小祿、東北部に知念の小半島ありて那覇港・塲天港を抱き、西岸に糸滿の漁港ある外には著名の出入なく海岸に近く新珊瑚礁の發達せる處多し。郡内よく開拓せられたるも灌漑用水乏しきため殆ど畑地をなし、水有和地の六六%に達するも田地は僅に三・六%に過ぎず、殘餘の二三%餘は山林・原野をなす。從つて農產は甘藷・甘蔗を主とし米・麥の產は少く、近時小祿・眞和志地方の早期野菜の栽培次第に擡頭しつつあり。又養豚盛に行はれ鳥獸・鰹・鯊・漁魚等の水產物少からず。また大東諸島には、燒酸鹽土の產多し。工產は黑糖を主とし、織物これに次ぐ。那覇市を起點とし縣道南北・東西に走り、また縣營鐵道も那覇市より郡東北部與那原と、西南岸の糸滿に通じ交通は便利なるも、島嶼部と主部との交通はなほ便利ならず。本郡はもと山南といひ、島尻は即ち島後の義なり。明治十二年琉球藩を廢し沖繩縣を置き、これを九行政區に分つや島尻は其一となり、同二十九年九行政區を廢して二區五郡とするや、其一郡となる。二區は大正十年に市制を布く。

シマス　島津

【島津】 常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄、信太郡に島津郷あり、その地今の稻敷郡木原村・舟島村の邊に當り、舟島村の大字島津は郷の遺稱なるべし。安中村もその郷域域なりしものか。近世は信太庄と稱せられし地なり。

【島津國】 →志摩國

【島津村】 三重縣伊勢國度會郡の西南部。熊野灘に臨み、東北は吉津村に、西北は紡崎村に、西南は北牟婁郡に隣接す。西境に大河内山（五四六米）・有地山（五五六米）・堀越山（五〇三米）の山嶺連り、海岸には島津灣・方座浦北方に細長く灣入しリアス式海岸の樣相を示し海岸近くに竹ヶ谷山（二五三米）・天神山（二九一米）等え山脚直に海波に洗はれ斷崖をなす所多く平地乏し。聚落は各灣頭小流の海に注ぐ河口に多く集り水產盛にして鰹・鮪・鰤・鯛等の漁獲多し。街道は灣頭北岸を連れ東西に走るも交通便ならず、多くは海運による。古くは和名抄、志摩國英虞郡芳草郷に屬す。中世は北畠氏の領にして維新前は和歌山藩田丸領なりき。

【島津越】 五僧越

【島津村】 京都府丹後國竹野郡の中部。與謝半島の頸部北岸に位し網野町の東に接す。東北部は間人町及び榮村と隣り、東は彌榮村に界す。南は中郡丹波村に續く。全村低き丘陵臺地起伏し、海岸の西部は單調な砂濱なれど東部は稍屈曲を示し東北より西南の方向へ延びる。所々の低地に耕作行はれ米・麥を產しまた養蠶も行はる。道路は中部を東西に走るもの、北部を同じく東西に延びるもの、又之等を連れて西部を南方へ走り峰山町方面へ至るもの及び海岸に沿ひて東北方へ通ずるもの等あり。西方には省線宮津線東南より西方に走り網野町にて西方へ向ひ西約二粁に網野驛あり。此地は和名抄竹野郡網野郷の内とす。

【島津】 日向國（宮崎縣）の古地名。延喜兵部省式に島津驛馬五疋と見ゆ。中世は庄名に呼ばれ薩隅に亘る廣大なる地域を統べたり。島津庄は太宰大貳平季基島良宗と共に、後一條天皇の萬壽年間に管内を巡視し日向國に到り、無主の曠野を開きて攝政藤原頼通に寄進せしをその起原とす。これより攝政家の所領となりて島津御庄と稱し、附近の土地を次第に併せて漸次增大し、大隅・薩摩の兩國にも亘りて、保延年中、攝政忠通の時代にはその面積七千八百餘町に及び、日・隅・薩三國の、半ばを占むる廣大なものとなれり。建久八年の三國圖田帳によれば日向にては三千八百三十七町、大隅にては一千五百町、薩摩にては三千二百十二町を算ふ。鎌倉時代の始めには惟宗忠久莊の下司職を帶び、且つ日・隅・薩三國の守護職となりて子孫漸次盛んとなる。即ち島津氏なり。鎌倉時代の末までは攝政家たる近衛家の所領なりしが、元弘の亂より莊園の領有狀況漸次混亂し、一時足利氏領となり、後に島津氏に歸す。

シマタ　島田村

【島田】 山口縣周防國熊毛郡の西南部にある農村。淺江村の東、光井村の北、三井村の南、岩田・三輪兩村の西に隣る。地勢は島田川に沿へる兩岸平坦なるも、其の他は丘陵起伏し、高度は其の高きも二百米餘にすぎず。省線柳井線通じ、字上島田に島田驛（明治三十年設置）を置く。產業は農工兩業を主としほかに水產及び林產あり。本村は古く島田庄・石田庄などの地域ありしが、後代には幾多の部落散布し、文祿年間に至りて此等は凡て合併して一村となり、島田市の名に因みて島田村といひ、爾來今日に至る。

シマタ　島田

【島田】 陸奥國（陸前・宮城縣）小田郡の古地名。續紀稱德天皇の神護景雲三年十一月、陸奥國牡鹿郡の俘囚大伴部押人奏して云ふ、押人等はもと紀伊國名草郡片岡里の人、昔し先祖征夷の軍に從ひ小田郡島田村に至りて居る。其後、子孫蝦夷の爲に虜にせられ代々歷て俘囚となる。願はくは俘囚の名を除きて調庸の民とならんと。勅してこれを許すと見ゆ。小田郡は後に遠田郡に併せられたるも島田村の地いま尋ねんすべなし。

【島田】 常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に茨城郡島田郷あり、その地今の東茨城郡川根村・上野合村、及び鹿島郡沼尻村等の地に當り、上野合村の大字島田は郷の遺蹟なるべし。

【島田村】 新潟縣越後國三島郡の中部。與板町の西に隣り、西は日本海に臨む。此地は信濃川の谷の向斜谷と日本海との間に存在する第三紀の背斜層をなす低丘陵地上に位し、主として砂岩等より成れり。高度と雖も一〇〇米内外にして、此の丘陵地は更に略々東西に流れる島崎川に依つて開析され二分さる。この丘陵地には樹枝狀に水田が分布し、島崎川の流域も水田多し。なほ西山丘陵地には背斜層のため石油を包藏し油田あり。鐵道には島崎川の谷を省線越後線が走り、妙法寺・小島谷驛（共に大正二年設置）を置く。又丘陵地は高度低きため山越に信濃川の谷に通ずる事を得。此地或は和名抄、古志郡大家郷の内に屬せしものか。中世は附近諸村と共に西越庄と稱せらる。小島谷（大字）一千石は近世稻葉氏の邑たり。是は元祿中、高田城主稻葉丹後守正通、其弟淵十郎通周に分與せしものにて高田藩封の後もなほ舊に依り稻葉氏に傳へ明治に至る。（妙法寺）大字村田にあり。日蓮宗。法王山と號し當宗四十四本山中の一なり。德治二年風間信濃守信昭の開創する所、日昭為真開山となす。爾來上下の尊崇厚く寺運隆盛を極めしが、天正十九年炎上、更に明治戊辰役の兵火に遭ひて一山悉くも有に歸す。近時漸く復舊成る。配下寺院十一を有す。

【島田村】 山梨縣甲斐國北都留郡の東南隅。桂川の南岸にて、上野原町の南隣にあり。西は鍵村、南は南都留郡秋山村、東は神奈川縣津久井郡名倉村と隣す。面積八・八四平方粁。關東山脈中の一部を占め、南境は約五〇〇米にて、北境を東流する桂川の谷に向ひて傾斜す。森林多く、川沿ひに桑畑ありて養蠶行はる。甲州街道は桂川に沿ひて、對岸上野原町を西走し、省線中央本線またこれに沿ひ、本村に上野原驛（明治三十四年設置）を置く。この地はもと都留郡勝置庄に屬し、新田・鶴島の二村に分る。鶴島村は上下二部落に分れ字田野入は上鶴島村に屬せり。明治八年合併して鶴島の島と新田の田とを以て島田村と改稱、同十七年上野原村と合同し組合村となりしが、同二十二年分離し以て今日に至る。（鶴瀧泉）中央線上野原驛より一一粁。桂川の渓流に近き幽邃境にて、鮎漁場としても名高し。鹽類泉。リウマチス・胃腸病・皮膚病等に效あり。（法性寺）大字鶴島にあり。天台宗。富士山と號す。もと眞言宗の古刹にして蓮乘寺と號し桂川の南岸にありしが、廢寺となり、後に眞正阿闍梨再興して上鶴島に移し、上吉田にありし法性寺なる廢寺の號を移し、秋元氏の新願所と爲せしに新寺の建立を禁ぜし爲めなりとぞ。本尊阿彌陀如來を安す。

【島田町】 靜岡縣駿河國志太郡の西南部。大井川の左岸。東は六合村に、西より南へは大井川を隔てて榛原郡に界す。大井川の沖積地にあり、土地平坦にして水田多し。木材の集散地なり。省線東海道本線の島田驛（明治二十二年設置）を置く。東海道も對岸金谷町に橋を以て通じ、また北方山地方面へ二條の縣道通ず。此の地或は和名抄、志太郡大野郷の地に當るべきものか。古くより東海道の名驛として知られ、東鑑、建久元年の條及び同書暦仁元年の條に島田驛の名見ゆ。掛川志稿に、島田驛の古書に出づるは東鑑を初とすと見え、金谷驛より大井河を渉りて島田に至るは中世以後のことならん。古は遠江初倉驛より駿河小川驛に通ぜしものなり。此地は明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の際御休憩遊ばされし地にして、いま明治天皇島田行在所として指定史蹟たり。丹波與作待夜の小室節「日本一の大井川、柔に無の字を打出せば、水の出ばなの八十川の、島田、金谷に二日のよどみ、仕合よしの旅すご六里、七里八里も只一足に、先へ先へと咲き掛りたる藍枝岡部」藍業毛・三上「大井川の手前なる島田の驛にいたりけるに：：川ごしども出迎ひて、だんなしゆ川なたのんます。貴き川ごしか、ふたりでいくらで越す。ハイ今朝がけに、あいた川だんで、かたくまじやアあぶんない、蓬莱でやらすに、おふたりで八百下さいませ」「大井神社」縣社。祭神、波邇夜須姫命・彌都波能賣命。創建年代不詳。もと谷田村大字大澤に鎮座ありしも、建治二年夏洪水に社殿流れて當町字下島に來りしかば此處に祀奉す。のち再び水に浸され給ひしに野田山字御手水谷に奉遷し、元和元年舊地に復し、更に元祿二年現社地に祀ると云ふ。現社殿は近世氏子なる漁夫が二分錢を貯蓄して造營せるものにて、勝剛は江戸漁業者の寄進に係る。例祭十月十五日。

【島田村】 靜岡縣駿河國富士郡の南部。吉原町の南に接し、東は元吉原村、西は富士町、南は田子浦村に界す。面積一・九九方粁。駿河平野の一部を占め、潤川左岸に沿ふ。水田多く、富士梨の栽培も盛なり。村の南部を省線東海道本線通じ鈴川驛に近し。吉原町より田子浦に至る縣道村内を貫通す。此地或は吉原町・田子浦村と共に和名抄、富士郡島田郷（之萬多と訓ず）に屬せしものか。其後の沿革は今詳かならず。不二紀行に「しまた川橋うちわたすこまのあしもはやせの波の音やきこゆる　雅世」とあるは此地を流るる潤川のことなるべし。

【島田】 尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄、海部郡に島田郷あり、その地今詳かならざるも海部郡神守村・美和村の邊に當るか。

【島田】 愛知縣中島郡にありし村。明治三十四年玉田村・比島村を合して島田村を設き、同三十九年本村外四村を廢し更に大里村を設く。

【島田】 京都市下京區の古地名。續日本後紀仁明天皇承和九年十月に左右兩京職の東西悲田院に命じて島田及び鴨河原の獨饌五千五百餘頭を燒かしむと見ゆ。これ島田及び鴨河原は共に鴨・桂二川の合流點附近にありて往昔島地のありし所なり。島田は桂川寄りにありていま吉祥院石島町の邊ならんといふ。

【島田村】 島根縣出雲國能義郡の東北端。中海の東南隅に臨み、米子市と約一粁を隔てて西にあり、安來町の東隣。南は宇賀莊村・安田村に界す。約一〇〇—二〇〇米程度の低き丘陵臺々に蟠り、北部海岸所々に低地開く。海岸は稍屈曲に富み、殊に西北部は岬の突出多く中央に八溝鼻あり、海上に螢島・松島等の小島散在するあり。農業を主とし米を產しまた梨・桃・柿・葡萄・蜜柑・枇杷等の果實を多く產し、其の他筍も出す。北岸に沿ひ山陰道走り中央にて西南方廣瀬町方面へ至る一道を分つ。省線山陰本線も北部を通過し西境に安來驛（明治四十一年設置）あり。村は島田・黑井田・門生・吉佐の大字を含む。古くは和名抄、能義郡屋代郷の地なるべし。門生附近の海濱を古くは門江濱と云ひ、出雲風土記にその名見ゆ。（安布佐神社）大字吉佐に鎮座。郷社。祭神、天穗日命。延喜式所載の神社なれど創立由緒等詳かならず。例祭、十月九日。（常福寺）臨濟宗妙心寺派。陽德山と號す。寛文九年富國雲樹寺の塔頭

臥龍庵を移建せしものにして末禪和尚を開山とす。寺域風致に富む。

シマタカマツ　島高松　省線大糸南線の一駅(大正十五年設置)。長野縣東筑摩郡島内村にあり。

シマダチ　島立村　長野縣信濃國東筑摩郡の西部。松本市の西に接し、北は島内村、南は麻賀村に、西は新村・和田村に界す。面積六・二九方粁。松本平の略中央を占め、東境を奈良井川北流す。全村殆んど水田をなし、米産多し。社線松本電氣鐵道村内を東西に貫通し、信濃荻井駅・大庭駅(何れも大正十年設置)を設く。また松本市より西方に至る縣道及び之より南に分岐せる縣道もあり、交通便なり。この地は、古の犬養郷の地にして、中世、清和源氏小笠原信濃守政長の三男、四郎氏長は此地に住し島立氏を稱す。松本藩當時は島立組と稱す。村内には乃木大將祖先了智上人の墳墓あり、また儒醫淺田宗伯(從四位)は本村の出身なり。宗伯は漢方醫にして、曾て大正天皇の未だ皇太子に在せし頃侍醫たりし人。〔沙田神社〕縣社。祭神、彦火々出見尊・鵜葺草葺不合尊。大化五年六月國司の勅を奉じて勸請するところと傳ふ。延喜式内社。もと鷲峰山に鎮座せり、いま影向石(霊殿石)と云ふものあり て舊址なりと云ふ。延喜五年天下の諸神に神號を授奉せし時、三ノ宮沙田大明神の號を賜ふ。のち小笠原貞朝・長棟・長時・貞慶の時代まで七十石を領す。以來歴代領主の崇敬を蒐む。例祭、九月二十七日。

シマド　島門　筑前國(福岡縣)遠賀郡の古地名。萬葉集にその名見え、延喜式に島門駅馬二十三匹とあり。地は遠賀川の西岸、鹿兒島本線遠賀川駅の附近、もと島門村と稱せしが昭和四年浅木村と合併していま遠賀村といふ。萬葉・三「大王の遠の朝廷と在り通ふ島門を見れば神代し念ほゆ　柿本人麿」

シマナ　島穴　延喜兵部省式に見ゆる上總國の駅名。和名抄上總國海上郡に島穴郷あるも、島穴駅は同名異所なるが如し。即ち延喜式に駅名を掲げて大海・藤籠・島穴・天羽・駅馬各五疋、傳馬、海上・望陀・周淮・天羽の各郡各五疋と見ゆ。以上の駅は上總國府より安房國府へ至る間の駅次を順次にあげたるものの如く、大前駅は海上郡に、藤籠駅は望陀郡にあり、天羽駅は天羽郡家の所在地たり。さすれば、島穴駅は舊周淮郡の地なるべし。而してその地は或はいま君津郡の小糸川の河口の邊にて、周西村の中ならんか。一説に島穴駅は舊海上郡の島穴郷の地となすものあれども、何れとも定め難し。

シマナ　島名
【島名村】茨城縣常陸國筑波郡の中部。南は谷田部町、東は篠城村、北は旭村・上郷村、西は眞瀬村と隣す。全村低き臺地をなして畑地多く、林を交ふ。臺地の間には南北に細長き沼田三條あり。南隣谷田部町を經て更に南方牛久沼につづくものなり。全村農業・養蚕を主業とす。縣道は村内を縦横に走り、東に向ふものは土浦町(約一二粁)に通ず。此地は和名抄、河内郡島名郷の内にして村名は蓋し其遺稱なり。中世は附近諸村と共に田中正と稱せらる。其筑波郡に入りたるは文祿年中の事ならんといふ。本村には六軒冢なるものあり。其祖先は、平安時代の初の頃より此地に來り住みたりと云へば當時既に拓殖の行はれあたることは明かなり。爾來幾多の變遷を經て小田氏全盛の時代には其幕下平手氏の所領となり、徳川氏の時に至りて幕府及び旗本の士小笠原太郎左衛門及び菅谷平八郎の分領する所となる。明治維新後一時茂木藩(細川侯)の治下に屬し、明治二年廢藩置縣の際若森縣の所轄となり明治四年新治縣となり、同九年より茨城縣の治下に屬し以て今日に及ぶ。〔西福寺〕曹洞宗。神田山と號し北總結城郡石下町興正寺に屬す。長享二年領主原外記の開基に係り曹空惠洞を開山とす。〔高谷篤三郎〕本村面野井の人。名は篤信。夙に勤王の志厚く、元治元年筑波山の擧に加はり西上の途加賀藩の軍門に下り、同二年刑死す。年二十一。贈從五位。
【島名】上野國(群馬縣)の古地名。和名抄、群馬郡に島名郷あり、之萬奈と訓す。その地今の群馬郡大類村・京ヶ島村・新高尾村に當る。京ヶ島村の大字島野は郷名の訛れるものなり。島名は東鑑に島名刑部三郎の名見え、また七黨系國にも山名行親の子家親、島名刑部丞を稱すとあり、此地に住し在名を稱せしものか。

シマヌキ　嶋抜　伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に壱志郡島抜郷あり、之末沼末と訓す。地は今の一志郡雲出村・桃園村に當る。

シマネ　島根
【島根縣】中國地方日本海斜面の中部を占む。〔境域〕東は鳥取縣の伯耆國、南は廣島縣、西南は山口縣に界し西北は日本海に面す。東の出雲、西の石見と出雲の北方日本海にある隠岐の三國を含み、松江市、八束・能義・仁多・大原・飯石・簸川(以上出雲國)・安濃・邇摩・邑智・那賀・美濃・鹿足(以上石見國)及び知夫・穩地・海士・周吉(以上隠岐國)の一市十六郡あり、縣廳を松江市に、隠岐支廳を周吉郡西郷町に置く。本陸部は東西一五七粁、南北約二四粁より五五粁餘、内地道府縣中第十九位、人口約七五八、四〇〇人にて第三十七位、一方粁平均一一四人にて第四十一位にあり。〔地勢〕本陸部の南部は中國山脈の主軸東西に延り、縣境上には三國山(一〇〇四米)・鍵政山(一二六八米)・大万木山(一二一八米)・阿佐山(一二一八米)・大佐山(一〇六九米)・冠山(寂地山、一三三九米)・平家岳(一

〇六六米)・蔵ヶ岳(一〇〇四米)等の山峯聳ゆるも山容概して輪廓なら ず、幾多の支脈これより派出して北または西北に延び瀬戸高原を減じて日本海に迫り、中部には三瓶山(一一二六米)、西南部には青野山(九〇八米)等白山火山帯に屬するトロイデ型火山の崛起するあり。河川も中部の江ノ川を除く外は伯太川・飯梨川・斐伊川(簸ノ川)・神戸川・周布川・高津川等は悉く南部山地の北側に發し北流或は西北流して多くは日本海に注ぐも、流程短く、その流域平地にも大なるものなく、江ノ川以外には舟楫の便あるものなし。ただ出雲の北岸に島根(宍道)山脈あり、高度三〇〇—五〇〇米の地塁山脈なるも東西に延亙すること約六五粁の半島をなす。その南方には謂はゆる宍道地溝帯横はり、東部に中海、中部に宍道湖あり。西部には主として斐伊川・神戸川等の沖積によりて成れる杵築平野ありて縣下第一の大農耕地域をなす。隠岐國は島根半島の北方約四〇粁を隔つる日本海上にあり、第三紀中葉より火筆に隆起し、その後幾回かの噴出によりて成生せし火山島にして島前・島後の島群より成る。島前は東北の中島、南の知夫里島、西北の西島の三島環狀に那立し、面積約一〇四方粁、三島の間に曲玉狀の内海を抱き自然の良泊地をなす。島後は東西約一八粁、南北約二〇粁、略圓形を呈し、面積二四三方粁餘。東方に大濱寺山・高尾山、北方に大峯山、西方に横尾山等五〇〇—六〇〇米臺の山岳聳え、河川は放射狀に流れ、東南流する八尾川・北流する中村川、西北流する重栖川に沿ひて狭小の沖積層ある外概ね山地をなす。〔氣象〕北陸氣候區と九州氣候區の中間地帯にて、東北部は前者に類し、西南部は後者に近し。年平均氣温は境(鳥取縣)なるも本縣東北部の氣象を代表す)は一四・二度、濱田は一四・五度、内陸山地は一三度以下なるも、宮津(一三・八度)・敦賀(一四・一度)よりやや高く、下關(一五・一度)よりも低し。年平均降水量、境は一九五五粍、濱田は一六二二粍にて宮津(二〇九九粍)・敦賀(二三七五粍)より少く下關(一六五六粍)・廣島(一五五四粍)等より多く、特に下關・廣島等に比すれば冬季に於ては多く、春より初夏にかけては却て少し。また快晴日數、境は二二日、濱田は三三日、曇天日數、境は一八六・六日、濱田は一七六日、降水日數、境は二〇六・四日、濱田は一九〇・二日にしてこれを下關・廣島に比すれば快晴少く、曇天・降水共に多く、特に冬季に於て著し、以上はいづれも日本海に直面して南部に山地を負ひ、西北季節風の影響によるものにて、冬季の降雪量また山陽方面に比すれば遙に多く、農業上に於ても二毛作を殆んど不能ならしむ。〔交通〕國・縣道の延長二五八五粁餘。その最重要なるは阿道(山陰街道)にして鳥取縣米子市より縣の東北部に入り安来・松江・宍道・今市等宍道地溝帯の都邑を連れ、更に日本海岸に近く西南に通じ、大田・温泉津・濱田を過ぎ、益田より南折して津和野を經て山口縣に出で、また益田より海岸路につながり山口縣に入る。縣道中廣島縣に通ずる廣島街道には宍道より分岐して三刀屋・掛合・頓原・赤名を經、赤名峠を越えて雙三郡三次町に出づるものと、濱田より東して今市・市木等を過ぎ三坂峠によりて、山縣郡大朝町に至るものとの二線あり。また幟道には省線山陰本線略々山陰街道に沿ひて東西に貫き、本次線は山陰本線宍道駅より分岐し大東・木次より斐伊川上流に沿ひ三國山の西を越えて廣島縣に入り備後落合駅に達し、大社線は出雲今市駅より大社町に至る。本線宍道駅より大社駅に至り、三江線はまた山陰本線の石見江津駅に起り、江ノ川の谷に沿ひ邑智郡濱原村まで開通し、山口線は石見益田駅より分岐し、津和野を經て山口市に向ふ。社線廣瀬鉄道は山陰本線の荒島駅より西南方出雲廣瀬駅へ延び、一畑電鐵は出雲今市駅に起り川跡・小境灘を經て東村なる一畑薬師に通じ、その川跡よりは支線西に走りて大社町の大社神門駅に、小境灘よりは宍道湖北岸を東に延びて松江市の北松江駅に至る。大社宮島鉄道また出雲今市駅より西南に走り出雲須佐駅に達す。このほか國・縣道等にはいづれもバスの便あり。隠岐島へは隠岐汽船會社の定期船ありて松江・境・西郷間を往復す。〔産業〕縣内民有地積は四六五七八二町歩、うち山林・原野は約七九・七%を占め、田畑は僅に一八・九%に過ぎず。大部分は宍道地溝帯に屬する鐵川・八束・能義の三郡にあり。農産は縣民の主要産業にして米(二六三七萬圓)を主とし麥・大豆・小豆・甘藷等の食用農産、楮及び三椏・蒟蒻等の工業用農産、梅・桃・梨等の果實類を出し、煙草また盛にして農家戸數の約二五%は之に從事し畜の産額は七〇〇萬圓を超ゆ。農産總額は四三四一萬圓にて生産總額の約三九%に近く工産に次ぎて第二位を占む。畜産に牛・馬・豚・山羊あり、牛は古く出雲牛として知られ、飼育頭數六三、〇〇〇頭を數へ、邇船山・三瓶山・島前の山地を主要牧場とす。また養蜂各地に行はれ、雞肉・雞卵の生産價額は、一〇〇萬圓以上に達

生産總額(昭和十年)		
種別	價額	百分比
農産	四三四、四二七、三八七	三八・七
工産	三〇、三九三、八四四	四四・八
水産	七、〇五六、一三七	六・三
鑛産	一、九二一、四〇九	一・四
林産	七、五五四、五四三	八・七
畜産	三、二四一、一九五	二・〇
計	一一二、一三三、六四五	一〇〇・〇
一人當	一四八	
一戸當	七二	

す。山林廣く林業また主要生業の一にして、木炭（約二八〇萬圓）・木材（一八五萬圓）・薪炭材（一〇八萬圓）の外柴草・竹材・松茸等を出す。海岸線の延長七〇六粁に達し、島根半島より隠岐島にかけては陸棚よく發達し、また對馬海流沿岸を東北に流れて好漁場をなし、鰯（九八萬圓）・鯖（八三萬圓）・鰺（五六萬圓）・鯛（五二萬圓）・烏賊及び柔魚・鮪・海藻・貝類等の漁獲物、煮乾蛎・鰒・鹽鯖等の加工品の外、遠洋漁業の漁獲物等ありて全國有數の水産縣に數へらる。また工産に今市に於ける絶糸（一〇三二萬圓）・生絲（八六八萬圓）等をはじめ清酒・絶織物・醬油・菓子・罐詰・汽機及び汽罐等を主とし、外に製紙・瓦・陶磁器・墨表等ありて、生産總額五〇〇〇萬圓に上り、工業は諸産業の首位を占む。「沿革」本縣は出雲國松江にありし松江藩及び其支藩廣瀬・母里の兩藩を明治四年七月十四日に夫々縣とせしものを、同年十一月十五日廢して更に島根縣を置き出雲・隠岐二國を管せしにはじまる。縣名は縣廳所在地の島根郡によりて建てしもの。次で同年十二月二十七日、隠岐國を鳥取縣に移管す。明治九年四月十八日石見國を管せし濱田縣を併せ、同年八月二十一日には因幡・伯耆・隠岐三國を管せし鳥取縣を本縣に併す。濱田縣は明治二年八月設置したる大森縣を翌三年正月石見濱田に移して濱田縣と稱せしものにして、四年六月津和野藩知事の上表辭職によりてその地を併せ、同年十一月に至りて石見一國を管せしものなり。のち同十四年九月十二日鳥取縣を復活し、因幡・伯耆二國を其管下に移し、本縣はここに出雲・石見・隠岐三國を管するに至る。明治二十二年松江市島根郡より獨立して市制を布き、明治二十九年四月出雲國意宇・秋鹿・島根三郡を併せて八東郡を建て、楯縫・出雲・神門三郡を合して簸川郡を設き、一市十六郡を以て今日に至る。

【島根山脈】 島根縣北部の一山脈にて、島根半島の脊梁山脈をなし、宍道山脈とも呼ばる。西は日御岬に起り、東北東に延び島根半島となり、東は地蔵岬に終る。海拔三〇〇—五〇〇米、幅員二—七粁に過ぎざるも、その延長は約六五粁に及び南は宍道地溝帯に臨み、北は日本海に面す。中國山脈とは全く獨立せる主として第三紀層の頁岩・砂岩・凝灰岩の累層より成る地塁山脈なり。この山脈は更に二條の西北・東南の斜層斷層によりて三小區域に分たる。即ち平田町と十六島鼻を結ぶ斷層低地以西は北山區域にて、これは斷層崖を南の簸川平野に向けし傾動地塊にして、鼻高山（五三六米）を最高とし、鷲鳥帽子山・彌山・高尾山等あり比較的に最も高し。その東北に展行し松江市の西北より日本海に通ずる低地帯なる佐陀川斷層まで及ぶ地塊は湖北區域にて、南面を宍道湖に向け日本海には斷崖絶壁にて臨み、高度概して前者より稍々小にして、朝日山（三四二米）を最高とす。この佐陀川地溝帯以東は島根半島を形成し、これを島根半島と呼ぶ。半島區域は地體擴大し山脈の幅最も廣く、澄水山（五三六米）等聳ゆるも、東部に至り著しく幅員と高度を減じ、北の日本海に低夷に終るも南の中海に斷層崖を向け夜見ヶ濱半島との間は中江瀬戸にて隔てらる。現今の島根半島は古くは島根島をなせしものの如く、宍道地溝帯は淺海峡をなせしものなるべし。之が斐伊川・神門川等の土砂の堆積により埋められ現在の如き一種の陸繋島と化せり。東端なる地蔵岬に近き美保ノ關は半圓形の良港にて、往時は裏日本交通の要津なりしが、現在は北岸の江角江（佐陀川の水路にて宍道湖と相通ず）と共に繁要なる漁港をなす。鵜峠の石膏・鉄鑛鐵山の黒鉛鑛はこの山脈の重要鑛産物なり。太古出雲民族の活躍せし地域なること勿論にて、美保ノ關に於ける事代主命を祀る美保神社、佐陀に於ける猿田彦命を祀る佐陀神社、日御碕に於ける素戔嗚尊を祀る日御碕神社等それを物語り、その他天台宗の古刹鰐淵等、開眼の靈驗あらたかなる一畑薬師、天然林にて有名なる杵木山の華蔵寺等の靈場あり、景色勝れ、特に美保ノ關附近の眺望、北海岸に多古の七つ穴、加賀浦の潜戸の神窟等その主なるものなり。

【島根半島】 島根縣東北部の一半島。廣義にとれば謂ゆる島根山脈の全部を含み狹義にとればその中部及び東部、即ち佐陀川地溝帯以東を指示す。

【島根（郡）】 出雲國（島根縣）の古郡名。古へ島根・秋鹿・楯縫三郡の地は海中の一島をなし之を總稱して島根國または島根山國と云ひしものの如し。名稱島根は島に同じく、根は助詞にして大和島根といふが如し。建郡の期は詳かならざるも延喜神護景雲二年八月の條に郡名見え、和名抄は之を訓じ、朝酌・山口・手染・美保・方結・加賀・多久・生馬・法吉・千酌の十郷を貫く。明治二十二年松江市を分ち、明治二十九年には西方の秋鹿郡及び中海を距てたる意宇郡と合併して八東郡を建つるに及び郡號を失ふ。

【島根】 阿波國（徳島縣）の古地名。和名抄、那賀郡に島根郷あり。之萬葉と調ず。此地いま何處なるか詳かならざるも中野島村・平島村の邊ならんか。

シマノ　島野

【島野村】 北海道後志國岩内郡の西南端。後志支廳管下。北東は野束川を距て岩内町、東は南田村、南は雷電山脈を以て磯谷郡に界し、西北は日本海に面す。面積六七・二平方粁、地勢は概して南より北に稍々三角形を爲して傾斜し、狹小なる海岸平野に終る。雷電山（一二二三米）・雷電山（一二二三米）、東部に岩内岳（一〇八六米）等の火山聳え、幌別川西北流し中流山中に鳴神の滝を懸け海

に注ぐ。海岸南半は熔岩より成る岩礁多く散點し、北半は平滑なり。岩内町より來れる準地方費道海岸沿ひに幌別川口まで通ず。西南雷電峠の麓に朝日温泉の湧出あり。山林原野の約半ばは官有なり。米・馬鈴薯・玉蜀黍・小豆・甘藷等を主産物とし鯡・鰯の漁獲もあり、本村は明治四十三年野束村・敷島内村を合し二郡町村制を布き以て今日に至る。

【島野】 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村の外一町二村と共に廢せられ岩倉町を設く。

【島野】 愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し天白村を設く。

シマノウチ　島之内　大阪市南區の地名。北は長堀川、南は道頓堀川を限り、東は東横堀川、西は西横堀川に圍まれ形狀島に似たるよりかくいふ。船場と共に大阪市の主要商店街、此地を綿貫する心斎橋筋・日本橋筋等に臨ふ。椀久末松山、下「色で固めし軒のつま、愛こそ女護の島の内、堀江の文のたよりさへ、橋がなければ渡られぬ、戀に願ひは西方の、玉の臺のあみだ橋」雙蝶々曲輪日記・四「大坂に愛も名高き島の内、大寳寺町に年を経て、角か絶やさぬ塩米屋、一人息子の長吉は、父親なしの我儘育ち」

シマノウラ　島野浦島　→南浦村（宮崎縣）

シマノカミ　島上（郡）　攝津國（大阪府）の古郡名。古の三島郡を分けて島上・島下の二郡とせるものならんも其期は詳ならず。續記和銅四年の條に始めて郡名見ゆ。東大寺天平寳字四年の文書に三島上郡とあり、島上は即ち三島上を略せるもの。和名抄志末乃加美と調じ、淡味・見屋・鼓上・服部・高上の五郷を設く。江戸時代シマカミと調ず。明治二十九年西方の島下郡と合併して三島郡の稱を復す。

シマノシタ　島ノ下　北海道石狩國空知郡富良野町の大字。根室本線の島ノ下驛（大正二年設置）を置く。

シマノシモ　島下（郡）　攝津國（大阪府）の古郡名。古の三島郡を分けて三島上・三島下の二郡となし、のち島上・島下となりしものなるべし。續紀和銅四年の條に始めて島下郡名見ゆ。和名抄は島上郡の例に準じて志末乃之母と調じ、新野・宿久・安威・穂積の四郷を設く。江戸時代シマシモと調ず。明治二十九年東方の島上郡と合併して三島郡の稱を復するに及び郡號を失ふ。

シマバラ　島原　→京都市（二一六八頁）

【島原半島】 長崎縣の東南に突出する半島。南高來郡に屬す。北及び東は有明海南は島原灣、西は千々石灘・天草灘に臨み、西北部の地頭部にて彼杵半島に接續す。南北に長く東西に短し。半島の南端は天草島と相對し、その間に早崎海峡あり。この半島の基盤は第三紀層なるも、その露出は南部に見られるのみにてその大部分は雲仙火山の噴出物によりて覆はる。即ち第三紀層の上に噴出せる玄武岩と復輝石安山岩が雲仙岳の基盤を作り、最後に角閃安全岩を噴出す。この雲仙火山は半島の最高點をなす。（雲仙岳參照）また半島の西にある千々石灘の北岸は極めて明瞭なる斷層崖によりて切られ、斷層崖は略々東西に走り南方に急に傾く。總面積四六三〇一方粁、この中耕地一五五・一方粁にて前者の三三・五%に相當し、非常に高率なり。この中、田五二・七方粁（三四%）・畑一〇二・四方粁（六六%）にして、畑の二八%は桑畑なり。平地は主に海濱に沿うて帶狀をなす。農産物の産額は藩下にても首位を占め、米・小麥・裸麥を多量に産す。また桑の栽培多く、養蠶甚だ盛んなり。鐵道は長崎本線諫早驛より社線島原鐵道起り、海岸に沿うて半島の北部を迂回し、東岸の島原町に到る。また此處より社線口ノ津鐵道起り半島の東南岸に沿ひ口ノ津町・加津佐町に到る。更に島原鐵道の愛野驛より雲仙鐵道千々石町に達し、此處より小濱鐵道小濱町まで南下し雲仙登山に利用さる。かく半島の周圍略ど鐵道によりて圍まれ交通至つて便なり。また港に島原・口ノ津・小濱・千々石等あり、近海各港との往來頻繁なり。主なる町は略ど海岸に沿うてあり、北方の有明海岸にては愛野、東の島原灣にては島原・有家、南岸にては口ノ津、西岸にては小濱・千々石が最も大なり。この半島また史蹟に富み南部の諸村に切支丹宗徒の墓碑多く見らる。

【島原灣】 九州西岸中部にある灣。また島原海灣ともいふ。有明海の南方に續き島原半島と、對岸肥本縣との間に横はる海。南北に細長く南方は宇土半島・天草島によりて隔らるも、西方の天草灘とは早崎海峡、島原半島と天草下島との間）によりて連り、八代海とは三角瀬戸・柳瀬戸によりて連絡す。一般に淺く特に北部に於て著しく、東岸に菊池川・白川・緑川等によりて運ばれたる土砂堆積し沿岸に洲渚を作る。南半部は稍々深く、最深點は島原港の西南にて六〇米以上に達す。されどこの外、瀬戸または海峡にて潮流の急なる所にては局部的に非常に深きところあり。例へば、湯島の瀬戸（島原半島と湯島との間）にては一五〇米以上の所あり、流速も四・二五節なり。沿岸には三池・三角・島原・口ノ津の諸港あり、遠浅の所多きため干満の差大なる點にて有名なり。

【島原町】 長崎縣肥前國南高來郡島原半島の東海岸。東は島原灣に臨む。北及び西は杉谷村に圍まれ、南は安中村に界す。面積一二・五五方粁。後方にば眉山（八一九米）聳え、前方の海岸には九十九島（寛政四年島原地震の際眉山の山崩が起り此

[illegible]

ふたまつ　鳥見山　[illegible]

ふたまき　鳥夜部　[illegible]

ふたみ　鳥見　[illegible]

ふたみ　鳥本村　[illegible]

[illegible]

崎の路に得たり、一小村のみ、過ぐる者或は其肆址たるを省みず、蓋し足利織豐の數氏を經て世故變移し道里肆程隱びて尋ち改れるのみ、余是に於て低回去る能はずと記し、別に長詩を賦す。實に此地櫻井肆は雪に父子訣別の遺蹟として徒らに史上を潤すのみならずして實にこれ絶世の忠臣が悠々死に臨みて其赤心を皇室擁護に傾けし策源地にしてまた忠孝の淵原たるべき地なり。

シマモリ　島守村　青森縣陸奥國三戸郡の東南部。北は八戸市との間に是川村を挾み、南は岩手縣九戸郡に隣接す。北上山地の北端部に當り二百乃至三百米の山地ほぼ南北に連亙し、この間を新井田川曲流をなして東北に流れ、流域に谷底盆地をつくりまた發電所あり。谷底盆地は耕地よく拓け米を主產し外に稗・麥あり、副業に葛工品・養蠶業・畜產行はれ山地の木炭・用材も有望なり。街道は概ね河流に沿うて通ずるも幹線街道には遠く交通便ならず。この地は落政時代藤部郡に屬し、維新後三戸藩に屬せしが、明治四年八大區、六小區に編入し、町村制實施により、大字島守・頃巻澤合併して一村を形成し現在に至る。村内に虎穴地藏あり。

シマヤマ　島山　伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄、新居郡に島山鄕あり。和名抄に訓を岡くも高山寺本によれば之末也末と讀む。中世は新居西條庄に屬す。此地いまの西條町島山及び大生院村・飯岡村の邊に當る。

シマンド　四万十川　一名渡川。高知縣の西南部を流るゝ河。上源四万川は愛媛縣喜多郡大洲町の東、大野ヶ原カルスト地域(高度約一二〇〇米)に發源し、沿岸に山村發達せしめ、高研山の東に於て南流し來る梼原川と合流し、西津野村(高知縣高岡郡)字中平に於て、仁淀川との分水嶺鳥形山(一四五九米)より南流せる北川と合流す。以上の地域は土佐紙の原料たる三椏・楮の栽培地域なり。また鶴松森(一一〇〇米)の南斜面より南流せる松葉川は五〇〇—六〇〇米の山頂群に嵌入し、漸次南に低下し窪川町(高岡郡)附近より仁井田川と稱し、梼原川と幡多郡大正村字田野に於て合流し四万十川と稱す。日吉村(愛媛縣北宇和郡)の山中に發し南流せる廣見川は同郡泉村の西南部にて吉野川と合流し、やや廣き谷底を作りて東流し縣境大場瀬の峽谷を過じて高知縣幡多郡江川崎村字下山に到り、此處にて四万十川本流に合す。吉野川は南豫と土佐を結ぶ交通路を決定し、沿岸に定期自動車路あり、また將來鐵道線路敷設せらるる豫定といふ。田野々・下山間には稀有の嵌入曲流發達し、迂回十粁餘に及ぶものあり。上流地域は家内工業的製紙業盛んにして、製紙戸數約三百に達す。本流は下山より南流し目黑川を合し、更に津大村字口屋内にて西方鬼ヶ城山・大黑山等の縣境山塊より東流せる黑瀧川を容る。この谷に沿うて同村字黑瀧より口屋内間約十五粁に森林鐵道ありて、上流の伐木を運搬し、口屋内より本流を筏流すなほ上流、東上山・十川・松葉川・大野見等にも森林專用鐵道あり。伐木は河口下田町に集まり、九州及び阪神地方に送らる。本流は中村町に於て、梼原川の延長上を南流せる後川を合す。この附近には氾濫原よく發達し、濕地を利用せる稻の栽培盛んにして、その半製原料は長崎縣豐岡に送らる。河中に鮎・鯉等を產し水運は、田野々より下流約八十粁間に及ぶ。全長約一八〇粁。

シミズ　清水　【清水村】　樺太眞岡支廳眞岡郡の東部。眞岡町・蘭泊村の東に隣り、北は野田郡に東は豐原市に、南は大泊支廳留多加町に各隣接す。東境には西樺太山脈に屬する清水山(七三一米・三峰山七九一米)・春日岳(七九三米・鷲立山、西に緩やかに傾き三百乃至五百米の臺地狀をなす。之等山地を開析する大曲川・貂取川・中野川・天城川・紅川・矢取川・逢坂川等は西南部にて合し留多加川となりて東南に流る。山地は白堊系及び第三紀の岩類よりなり第三紀層中に石炭層を含み、各河川の流域は第四紀層よりなる。この地は豐原市・豐北村・川上村・落合町(以上豐原支廳)と共に海に面せざる地とす。肥沃なる沖積地の農業及び木材の伐採を主業とす。廳鐵豐眞線は春日峠(五二三米)を越え中野川・逢坂川に沿うて走り中野驛・清水驛(共に昭和三年設置)・逢坂驛(二股驛(共に大正十五年設置)・寶泉驛(昭和八年設置)を設き、豐原市より眞岡町に至る街道これに沿うて東西に通じまた留多加川に沿ひ留多加町に至る街道を大字逢坂にて分ち夏季は各自動車を通ず。

【清水町】　北海道十勝國上川郡の南部。十勝支廳管下に屬す。東南に芽室村を隔てて帶廣市あり。十勝平野の西北部を占め十勝・佐幌二川の流域に跨る。西北は新得町、西南は日高國、南は河西郡御影村・芽室村、東北は河東郡鹿追村なり。面積二一二・八平方粁。西部に日高山脈の高峻なる連峰連り、七〇〇—一五〇〇米の高度を示すも中部以東は佐幌・十勝川流域の沃野ひらけ產業・交通發達す。水田多くまた馬鈴薯・甜菜の產あり。省線根室本線に十勝清水驛(明治四十年設置)あり。社線河西鐵道分岐して下清水驛(大正十五年設置)・熊手驛・南熊手驛・北熊手驛・下美蓮驛・中美蓮驛・上美蓮驛(共に大正十四年設置)・人舞驛(昭和九年設置)を置き、別に社線北海道拓殖鐵道佐幌驛(昭和七年設置)あり。バスの便も備はる。町名の起原は附近を流れるペタレペツ川の水の清らかなるに因るかもと人舞村と稱し、大正十二年に一級町村制を施き、昭和二年清水村と改稱し、更に同十一年町制を施行す。この地は明治三十一年香川縣人、谷本儀八の來住を初めとし、漸次來住者多く、同三十六年に月長役場を置かれ、同四十年、鐵道開通後急速に發展し、宇無牛に十勝開墾會社工場の設置あり。殊に大正九年製糖會社工場の設置によりて一層隆盛に赴きしものなり。

【清水村】　青森縣陸奥國中津輕郡の東南部。弘前市の西南に隣り、東は堀越村・千年村に接し、西は相馬村に、北は駒越村に境す。南端に久渡寺山(六六三米)、西南に立積山(三六五米)聳え、北方に緩めて緩かに傾き、北部一帶はその裾野に當り、北端の津輕平野に續く平地及び丘陵には田畑よくひらけ、殊に苹果園は一大展開なり。平野は沖積層、山岳丘陵地帶は第三紀層發達し、久渡寺山附近にマンガン及び白土を產す。日本全國にその名を恣にせる青森縣苹果栽培の先進地たるを以て、苹果の產出盛にして、年額三十萬圓餘に達し、其の他米・麥・馬鈴薯・豆類等の產あり。弘前市に接するを以て隣接經濟により交通發達し、本村大字坂元と弘前市間(四・三粁)、乘合自動車を通ず。本村は明治維新前津輕藩の治下にありて、和德組の一部なりしも明治四年廢藩置縣後、第三大區第二小區に屬し、同十六年行政區劃を定め、官選戸長を置くに當り、和德組に屬せる富田・小澤・坂元・常盤坂・惡戸・下湯口・黑澤・湯口・原ヶ平の九ヶ村を以て一行政區となし、富田村外八ヶ村戸長役場と稱す。同二十二年自治制施行と同時に、富田・紙漉町・小澤・坂元・常盤坂・惡戸・下湯口(いま何れも大字となる)の七ヶ村を以て清水村と改稱す。大字富田に同三十一年第八師團、大正九年に弘前高等學校設置せられ人口急激に膨脹せしも、昭和三年四月一日、この地域を弘前市に併合せられ、役場は弘前市大字新寺町に置く。編入前の人口七・八〇〇人、編入後三五〇〇人となり、その後漸次增加し四・九三八人(昭和十年)に及ぶ。(久渡寺)大字坂元にあり。新義眞言宗智山派。護國山觀音院と號す。開創年代不詳。慶長年間寬海これを中興し、元和元年津輕信枚寺領百石を寄す。爾來寺門興隆し當地方の名刹となる。寬政四年炎上せしかば津輕侯寺祿を贈りて再興せしむ。維新後上地のことありて寺運漸く衰ふ。

【清水】　陸奥國(陸前、宮城縣)遠田郡の古地名。和名抄に清水郷見ゆ。その地今詳がならざるも遠田郡に隣接せる栗原郡に高清水町あり、その隣村の大字に清水澤あるより見れば、清水は郡の西北部より栗原郡に至る邊をいふか。

【清水村】　秋田縣羽後國仙北郡の中部。大曲町の東北約五粁。横手盆地の西北緣に位す。雄物川の一支齊内川による扇狀地にして東に高く西に緩傾斜をなして推移し、齊内川はいまこの扇面を浸蝕しつつ西に流る。扇面には田畑よく拓けるも扇尖近くは畑多く扇端近くは地下水の湧泉により水田卓越す。然しこの湧泉による灌漑は冷水なるため稻の生育を阻害することあり、栽培上注意を拂ひつゝあり。住民は農業により生活を支持するも自作農は少く小作農多し。產物は米・豆類・胡瓜・茄子・芹等を產し近年麥の栽培を加へ、なほ柿の栽培、馬・家兎・鷄の飼養を行ふ。省線生保内線の羽後長野驛(長野町)に最も近く、街道は村内各部落間を通ずるも幹線街道に沿はざるを以て交通便ならず。集落は散村型をなして分布す。本村は廢藩置縣前北浦四十八ヶ村の内にて金鑑・黑土・村杉・大藤・沖郷・野口・梁場の舊七ヶ村に分れ長野撥に屬せり。是より先、秋田縣を八大區に分ち更に之を小區に分ちたり。本村は第五大區第三小區に屬せり。明治五年頃より村司なるもの鑑置・里正・庄屋等種々の名稱の下に之を統べたり。同九年地租改正と共に金鑑・黑土を合併して黑鑑となし、村杉・大藤を合併して賢木となす。沖郷は在來のまゝ、野口・梁場を合併して野口となす。其後、同十六年に至りて賢木村・黑鑑村・沖郷村・野口村・國見村を管轄して賢木村外四ヶ村戸長役場を置き町村制實施に際し現在の清水村と改稱せり。村名は地下水の扇端に清水となりて湧出せるより起るといふ。(八坂神社)大字沖ノ郷に鎮座。須佐之男命を祀る。例祭、六月十五日。

【清水村】　福島縣岩代國信夫郡の東北部。福島市の西北に隣り、北は鎌田村・飯日村・笹谷村、西及び南は野田村に接す。面積九・一五方粁。福島盆地の中央部を占め、東南福島市との境に石英粗面岩より成る信夫山(二七三米)屹立せる他全村概ね平坦なり。松川は北部を東流しその扇狀地の末端北處に達す。水田多く米を產す。萬世大路は村の中央を東南より西北に通じ、東南は福島市に、西北は栗子山峠を越えて山形縣に入り遠く米澤市に達す。又北方飯坂町への道路通じバスの便あり。村の東部を省線東北本線及び社線福島電鐵線通じ、後者の清水役場前停留所あり。大字澤又に澤又城址あり、伊達朝宗の裔、湯澤善兵衛の居りし所なりと。いま昔桑國となる。今昔物語に陸奥の住人にて田原藤太秀郷の裔孫なる澤侯太郎諸任あり、餘五將軍平維茂と戰ふ。或は澤又に居り在名を稱せしものか。村内に福島高等商業學校・縣立信夫農學校あり。(桑王寺)大字御山にあり。天台宗。天安元年慈覺大師の開創に係る。この寺運傾きしが熙傳和尙これを中興す。本尊は唐南岳大師作日出不動なり。

【清水】　常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄、筑波郡に清水郷あり、その地今の筑波郡北條町の邊なるべし。一に新治郡上大津村の邊なりともいふは非なり。

【清水坂】　東京市板橋區志村西臺町にある坂。別稱地藏坂。舊名隱蔽殿坂。昔こ

の坂驗蛆にして行人慈倹せしな、寛保年間に大善寺の直正和尚等が石階にせしものといふ。

【清水村】 神奈川縣相模國足柄上郡の西部。北は三保村、東より南は共和村・北足柄村、西は静岡縣駿東郡小山町と隣接す。村の南半は南方足柄峠を經て、箱根金時山に續く山地の一部にて南境附近に矢倉岳（八六七米）あり。村内に傾斜す。北半は丹澤山塊の西部をなし、東境は約七二〇米、西境も約七〇〇米にて何れも村内に傾斜しその裾合を河内川南流し、村の中央にて、南北兩山地の裾合を東流する酒匂川に合す。川は谷をなし流域に低地殆どなく、東部のみ田地少しあり。全村森林多し。川に沿ひて縣道あり、北方及び西方小山町に通じ、省線御殿場線またこれに沿ひて西走するも、村内に驛なき僻かず。東方約四粁に山北驛あり。この地は近世に、足柄上郡大井庄（大字湯鋼・川西・山市場・神縄これに屬す）。苅野庄（大字谷ヶ村）に屬し、大正十三年川西村・谷ヶ村・山市場村を廢し本村を設き、同十四年神縄村の一部を編入す。江戸時代には大久保加賀守忠眞の領せし地なり。大字川西の字城山には城址あり、遠山左衛門尉景政の居城たりしと傳ふ。永祿十二年武田信玄の爲に一旦落城せしこと管領九代記に見え、また天正九年武田勝頼この城を攻めしことあり、同十八年小田原籠城の時、遠山左衛門尉景政、江戸より愛に來り守護せしが家康は甲州先鋒の諸士を向け、當城を陥す。是より廢城となる。大字谷ヶは往時谷ヶ村關所のありし所。

【清水峠】 上越國境三國山脈を乗越す峠。最も點は南方群馬縣利根郡水上村と北方新潟縣南魚沼郡上田村の境界に位し、標高一四四四八米。南側路は利根川の一水源湯檜曾川に沿ひ、北側路は信濃川に注ぐ魚野川の一支登川に沿ふ。この峠路はいはゆる清水街道にして三國街道と並び、其昔、越後より江戸に出ずる重要道なりしが時代の進展につれて次第に荒廃に歸せり。明治十八年の夏、四年間の日月と莫大なる國費とをかけ二間幅の國道を竣工し、開通式の當日は北白川宮を初め、高位顯官馬車を連ねてこの道を通られたり。されど此道も雪害のため二年後には全く廢道の止むなきに至り、設計者は自責に堪へず自殺したり。この舊道にはいま山歩きの人々の便利に所々ヒュッテが作られ登山者・スキーヤーの便に充つ。南麓水上村湯檜曾温泉より土合を過ぐれば道は二つに別れ、右方は舊道にして湯檜曾川の右岸二〇〇米前後の高地に通ず。舊道を辿り行けば市ノ倉（一ノ倉）澤を經、芝倉澤を過ぎ、漸く險路となり、更に行けば土樽越の分岐點に着す。それより白樺小屋を經てヶサ丸澤を過ぎ、鍛道省氣温觀測所を通り、峠上に至る。こゝに廢朽したる一本の國境の柱と峠茶屋と神社の石垣を殘す。これより稜線は東方に延びて笠ヶ岳（一九四五米）・朝日岳（一八二〇米）に續き、南西稜は七ツ小屋山（一六七五米）を經て茂倉岳（一九七八米）・谷川岳（一九六三米）に連る。峠上よりはこれ等の山々の他、上越の連山手に取る如く眺められ、また大利根水源の谷々を望み、展望甚だ佳なり。峠より越後側へは登川に沿ひ兎平を經て上田村清水に至る。上越線清水トンネルはこの峠道の途上、市ノ倉の西方に聳ゆる茂倉岳を穿ち西北行して土樽方面に通ず。所謂東洋第一の大トンネルなり。

【清水隧道】 上越、群馬縣・新潟縣）國境の清水峠を穿ちたるトンネル。利根川の上流と信濃川の支流魚野川との分水嶺を貫き表・裏日本の兩斜面の連絡を全うせるもの、主トンネルは三國山脈に屬せる茂倉岳の直下を直線に貫通せるものにて長さ九・七〇二粁に達し、笹子トンネルの六・四三六粁、丹那トンネルの八・〇四五粁に比し更に長く、我國長トンネル中第一位にして、世界の第九位に當る。南口は群馬縣水上村字土合（六七〇・五六米）にて、北口は新潟縣南魚沼郡土樽村（六〇九・六米）なり。トンネル内の勾配は南口より上り四百分の一、北口より上り六十六分の一、中央は六百分の一にして、一般に緩勾配なり。この長トンネルの外に南北各々延長約一・六〇九粁のループトンネルあり。我國に於ける從來のループトンネルは、九州肥薩線（人吉・矢岳間）の大畑附近のループ線と、臺灣阿里山の森林鐵道のループ線との二つなるが、それ等はクロスせる地點のみのトンネルに過ぎざりしも、この南斜面の湯檜曾ループも北斜面の松川ループも、共に略ど全部トンネル内に於けるループにして、スウィスのサン・ゴタルドのトンネルに倣ふループトンネルに類せるものなり。單線にして、水上・石打兩驛間は電氣機關車を使用す。工事開始は、南口は大正十一年八月、北口は同十二年十月にて、地質は閃綠岩にして堅硬緻密なりしが、斷層湧水は丹那トンネルのそれに比して少なく、丹那より後に着手し先んじて昭和五年九月一日に開通す。工費約千二百萬圓、從來東京・新潟間の鐵道交通は四邊形の二邊なる信越・磐越二線の何れかによる外なかりしが、上越線はその四邊形の對角線捷路として著しく兩地點間の距離を短縮す。即ち東京・新潟間は信越線によれば四三二・八二一粁、磐越西線によれば四一九・九五九粁なるが、上越線によれば三三六・二八一粁にて九六・五四粁及び八三・六六八粁の短縮となる。信越線のアプト式による勾配を避け、輸送力の増大著しく人文上の影響大なるものあり。

【清水】 信濃國（長野縣）の古地名。和名抄、更級郡に清水郷あり、之美都と訓ず。

其地今の更級郡更府村・牧郷村に當り、更府村の大字三水は清水の訛れるものなりといふ。

【清水】 信濃國（長野縣）の古郡名。延喜式に清水郡馬十疋とあり。地は今の北佐久郡小諸町の邊といふも詳かならず。

【清水市】 静岡縣中部の港市。西南の一部は静岡市の東南部久能區に接し、西は安倍郡有度村に、北は庵原郡飯田村及び袖師村に隣りし、東と南とは駿河灣に臨む。東方沼津へ四二粁、東京へは一六九粁を隔つ。東西約四・六粁。南北約八・三粁、面積二四・八方粁あり。西南部は有度山（三〇八米）の東北斜面にて山地をなすも緩き傾斜をなす。北部には巴川東流して海に注ぎ平坦の地は南方海岸に續き田畑よく拓く。東南部には三保ノ松原の砂洲北方に突出して所々に松林と畑地あり、西に開港清水港を擁す。商工業活潑

生産總額（昭和十一年）			
種別	産額（千圓）	百分比
農産	一、三六一	三・五
畜産	二八一	〇・七
水産	一、六八三	四・一
林産	三	〇・〇
工産	三八、〇三六	九一・六
計	四一、四三四	一〇〇・〇
一人當	六三〇圓	
一戸當	三、二三一	

にして、工業に製油・製材・洋紙・セメント等あり、工産額は三八〇〇萬圓に達し、生産總額の九二%に近し。農産中産額多きものに苺（約四三萬圓）・米（約二七萬圓）・蜜柑（約八萬圓）・甘藷・麥・トマト・蹄元豆等あり。水産に鰹節・蝦・鹽・甘海苔・牡蠣等あり。開港清水港は近年浚渫・埋立・岸壁築造等竣成し、市内辻町なる省線東海道本線清水驛（明治二十二年設置）より埠頭に達する貨物線ありて、水陸運輸の便備はり、輸出には茶・罐詰・大豆油・蜜柑等、移出には木材及び板類・肥料・油脂及び蝦・パルプ類・石炭・瓦及び土管・木製品・米麥等（價額約三、〇〇〇萬圓）、輸入に大豆・大豆粕・木材・石炭・小豆・鼓等、移入に米・麥・石炭・砂糖・パルプ類・鮮魚・金屬製品・セメント・豆類・食鹽等（價額約六、〇〇〇萬圓）あり。名古屋に亞ぐ東海の貿易港たり。東海道本線の通ずる外静岡との間に静岡電鐵・國道通じ交通便利なり。市は西に有度山を負ひ、北に龍爪山・赤石の連峯を望み、東北に田子浦を隔て富士峯富士を仰ぎ、東方は伊豆半島の峯巒に對し風光明媚の地として知られ新日本三景の一たる三保の松原、謡曲羽衣によりてその名高き羽衣の松、御穂神社、鐘舟寺・龍華寺・俵客次郎長の墓等の名所舊蹟に富む。〔沿革〕本市の概要は御穂神社の起源に發するも、遠く上古より東海に於ける政治・經濟の要地として發達せるものの如し。日本武尊東征の際、御穂神社に官幣を供せられたる辻の矢倉神社の勅起、市の西郊草薙神社に垂蹟せられし等、その創東の策源地たりしを想ふべく、降つて齊明天皇の朝に百濟救援のため新羅を征せんとして、當國に勅して船を造らしめ、廬原君に命じ、兵を率ゐて渡海せしめられたる如き、既に工藝の進歩、産業の開發を推度すべきなり。爾後、清見に關を置かれし事跡、平雅盛の富士川に出陣せし、今川氏の江尻に築城せるより、武田氏の之を改築し更に清水に城砦を造營し、また豐臣秀吉小田原に北條氏を討伐せしの際は、大に軍需品を此地に集め、瓦船を泛べて兵站の基點とし、徳川氏政柄を執るの初期に於ては清水港を水軍の根據地と爲せる等、歴世の史實當地の要地樞軸たるを示さゞるなし。もと江尻・入江・清水の三町より成りしが、大正十三年前記の三町及び三保村・不二見村を合併して市制を布く。江尻は江戸時代東海道の宿驛として賑ひし處、城址ありて江尻城或は小柴城と稱し、今川氏これを築き、のち永祿十二年武田信玄が駿河經營の根據として馬場信房に築かしめ、穴山梅雪に守らしむと傳ふ。のち徳川氏より中村氏に傳へ圖々原役後廃城す。入江は中世に庄名を呼び、地は今の巴川の河畔にて清水・江尻などを含み、太平記に入江庄は海道第一の驛所にして北條家の德宗領なりとあれば、興津・薩陲の驛所にも及べるものか。三保湖の入江が中世より干潟となり遂に陸地となりしものか。吉野時代、この地の領主入江氏、同族狩野氏と共に王事に勤め、應永二十三年鎌倉公方の足利持氏の執事上杉禪秀の難を避け、鎌倉を出奔して駿河に來るや本庄に於て上杉勢と戰ひ大に之を攻め破りしこと宣太平記に詳かなり。〔清水港〕南北西の三方に陸地を繞らし、三保の松原、南より北に延て、内に六〇〇ヘクタールの大灣を抱擁す。灣内水深く波靜にして大船瓦船の碇泊に適し天與の良港なり。明治二十九年開港す。外國貿易港に指定せられ、同三十二年更に開港場に指定せられ、外國航路汽船等の寄港するもの多きに至るに及び、天然の形勝にのみ依賴せず、港灣設備改良の必要を認め、工費四六五、二〇〇圓を以て同四十二年五月工を起し、大正三年竣工せりと雖も、その規模なほ未だ小にして、海陸連絡の設備未だ充分ならず。荷役方法の如き、甚だ不便なるを免れざるのみならず、内外輸出入荷物は急激の増加を示し、大正五年に於ては輸出入合計三萬三噸、價格九、七五四、〇〇〇圓なりしも、同十四年に至りては四十三萬四千噸、價格三、四九四萬圓の多きに上り、最近十餘年間に噸數に於て十三倍、價格に於て三・六倍に増加し、荷役改善の急務を絶叫せらるるに至れり。故に大正八年より既に港灣の調査改修計畫の立案に着手し、同十年度より昭和十二

年度に至る繼續事業として、工費九、七五〇〇八六圓、内縣費五、五七七、八七六圓、國庫より四、一七二、二一〇圓の補助を受け、内務省の直轄施行として工事を行ひ、此外、縫道省は港内に石炭揚場を設くる事となり工費四八二、一二〇圓を以て岸壁及び浚渫の工事を内務省に委託し完成せり。いま岸壁水深別及び長さを示せば一〇・六〇米の所三六一米、八・五〇米の所が一八三米、七・三〇米の所が二三九米、及び縫道省專用のもの七・三〇米の所が二五〇米にして、八千噸級の五船を接岸し得、陸上の設備もこれに伴ひ完備せり。〔御穗神社〕三保に鎮座。縣社。祭神、大己貴命・三穗津姫命。社名に御盧・三穗・三保の字を充つ。式内社。神階從二位。後世に至り武田・豐臣・徳川の諸氏の尊信篤く、慶長年間兵亂治まりて家康は當社を再建せしも、寛文八年火災に罹り灰燼に歸し、のち再興せしも舊觀を得るに至らずと云ふ。古來三保の產土神たり。社地は東海の名勝三保松原に臨み、かの羽衣の松は社頭を距つこと遠からず。國寶に太刀一口を藏す。例祭、十一月一日。〔三保松原〕指定名勝。駿河灣口にあり、外洋に面する砂嘴、駒越より北東に突出すること約六粁、殊に勝景の殊賞すべきは三保以北の約一・五粁なり、幅は南に廣り北に尖り青松一帶に茂生し北に富士山の天空に聳ゆるを望む。〔羽衣ノ松〕御穗神社の南方約六五〇米の海濱にあり。一名衣掛の松とも言ふ。漁夫伯樂の爲に舞曲を演ぜし天女が其の羽衣を掛けしと傳ふるもの是なり。樹下に羽車神社(羽衣の社とも云ふ)及び羽衣天女の碑あり。〔龍華寺の蘇鐵〕指定天然記念物。龍華寺は日蓮宗に屬し高山樗牛の墓あるを以て知らる。境内に蘇鐵の大なるもの多く、その中最も大なるものは庭前にありて大蘇鐵と呼ばれ、樹株にして根元より數本の太き枝に分れ、それより次第に分枝して數十本となりて四方に擴り一大樹叢の如く見ゆ。根廻り五・三米、樹高三・七米、枝張り東西九米南北一〇米、根廻りの太さと枝數の多きと樹勢の盛なることは培養蘇鐵中比類稀なり。尙ほ大蘇鐵の南隣に、一群の長蘇鐵あり、これ亦幹の長き事を以て著る。〔明治天皇御遺蹟〕明治元年十月　日明治天皇御東幸の際、江尻宿本陣寺尾與右衛門方に御駐泊、風雅を魚町稻荷神社境内に置かれ、翌二年三月二十二日京都より御還幸の砌にも御同樣御駐泊あらせられし後、件の假舍を稻荷神社に下賜され現に存す。昭和五年今上陛下御臨幸記念事業として之を修理し、同社境内に永久保存し聖跡を傳ふ。〔俠客次郎長之墓〕下清水の祥刹梅藍寺に在り。俠客次郎長之墓と題す。眞本武揚の筆。次郎長、本名は山本長五郎と云ひ清水美濃輪に生れ米穀商を營む。少壯精勵家業を修めしが一日感ずる所ありて、豪俠自ら喜び、氣を負ひ、俠を以て任じ、義侠のために信頼す。明治元年墓區の戰役死體を、市内向島に斂めたるの義舉は、夙に人口に膾炙せり。當時墓士の當地に潛伏するもの數十名、私に資を給して、其歸處に就かしむ。のち山岡鐵舟に謁し、其說に聽きて豁然悟悟、其行を改む。晚年殖產に努め富士裾野に蟹野數十町歩を開墾す。明治廿六年六月十二日、壽を以て家に終る。享年七十四。山岡鐵舟その像に贊して、生無一日歡、死有萬世名と。のち有志相謀り、銅像を草城梅藍寺に建立するに至れり。〔壯士之墓〕港橋南方約三百米餘の所に在り。明治元年九月十八日幕府の軍艦、官軍と相戰ひ敗れて退く、死屍海上に漂蕩するも之を收容するものなし。俠客清水次郎長は悼み、納めて向島の地に合葬し一碑を建立して菩提を弔ふ。山岡鐵舟その志に感じ碑面に「壯士の墓」と題す。〔鐵舟寺〕もと久能寺と呼びしが明治三年廢寺となれり。山岡鐵舟これを惜みて再興し從來の山號を踏襲して補陀落山鐵舟寺と名づく。當時の什寶は久能寺より繼承せるを以て珍重のもの尠からず、殊に妙法蓮華經方便品第二(右衛門尉秀頼手寫)以下十八本、及び小納言信西筆の觀音賛菩薩行法經一卷は國寶なり。山上に觀音堂あり。朝暉夕照鳴鳳烟雨佳ならざるなく、風光群を拔く。〔海長寺〕大字村松町にあり。日蓮宗四十四本山の一。龍水山と號す。慈覺大師の開創と傳ふ。初め有度山麓にあり。天台宗。寛弘八年山津浪に崩潰して現地に移る。文永九年日位こゝに寺に來り住持を說服し日蓮宗と改め、日位を開祖となす。のち興廢しばしばなりしが、大正十一年再建を企て昭和五年竣工す。〔日本平〕有度北嶺の頂を云ふ。清水驛より八粁餘。草薙神社の附近に散在す。日本武尊東征舊蹟十四ヶ所の一なりと云ふ。展望廣濶にして富士・愛鷹・箱根・天城の諸山を指呼の間に望見し、駿河灣は伊豆半島に抱擁せられて庭園のごとく、奇勝大觀より、靜岡・清水の兩市はいふに及ばず、興津・岩淵等麓下に羅布す、その景象の雄大なる、太平洋の海波蒼茫、想を放てば靈の如く、遠く大陸心眼に映ず、この地來だ周く世に知られずと雖も、昭和九年ドライブウエーの完成後に登山するもの、著しく增加す。

【清水村】靜岡縣駿河國駿東郡の東南部、田方郡三島町の西に接し、沼津市の東方約四粁。面積八・八一方粁。狩野川南を限り、黃瀨川西境を流れ、その合流點に當る。水田及び梨畑多く、また茶の栽培も行はる。往時の東海道に沿ひ聚落は街村をなす。今はその北を省線東海道本線走る。大字伏見・長澤等は古くより驛路に當りし地なり。〔八幡神社〕大字八幡に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・比賣神・神功皇后。所謂五里八幡の一にして、もと黃瀨川八幡と稱す。今川・北條氏等の崇敬あり。江戸時代朱印領二十石、除地十九石四斗九升五合を有す。例祭、九月十五日。〔東光寺〕大字長澤にあり。臨濟宗建長寺派。佛日山と號す。永正元年の創建にて勸請開山は佛鑑明照禪師。慶長六年、村内大火に遭ひ、舊記を失ひ、其の沿革を明かにせず。

【清水】愛知縣西春日井郡にありし町。大正十年名古屋市に入る。

【清水】近江國(滋賀縣)の古詳名。延喜式に清水驛馬十五疋とあり。地は今の神崎郡北五箇莊村の内ならんと云ふる。

【清水】近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に犬上郡清水郷あり。地は今の彦根市の邊に當る。

【清水】大阪府東成郡にありし村。大正十四年大阪市に入り、外數箇町村と共に住吉區を編成す。

【清水】大阪府三島郡にありし村。昭和六年本村を廢し高槻町に編入す。

【清水】紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に日高郡清水郷あり。其地いま詳ならざれども、或は印南町・切目村の邊ならんか。

【清水村】愛媛縣伊豫國越智郡の中部。今治市の南方約二粁。北は立花村に東は富田村に、南は下朝倉・鴨部二村に、西北は日高村に界す。面積六・二九方粁。高縄半島東北部にて、西北部を蒼社川、東方を頒田川を流れて瀨戸内海に注ぐ。その下流の神積平野の一部なしめ、南部に約一〇〇米の小丘陵峙つ。その山麓には灌漑用の用水池あり。また氣候の溫暖と相俟つて農業盛んに行はれ米・麥等の農產あり、また梨・蜜柑の果實も栽培さる。省線豫讃本線は東隣を通過して本村にはその便なし。〔壓福寺〕大字五十嵐にあり。古義眞言宗。麻頼山と號し大覺寺に屬す。四國八十八所第五十七番札所たり。もと當郡鴨部村大字八幡石清水八幡神社の別當寺たりしが、のち今の地に移る。御詠歌「こゝの世には弓矢を守るやはたなり來世は人を救ふ彌陀佛」〔西念寺〕大字中寺にあり。臨濟宗東福寺派。元弘元年河野對馬守、足利尊氏の舊恩を報ぜん爲に本寺を創建し土雲をして開山となし、以てその菩提を弔ふ。のち更に十八ヶ寺を建て此寺の末寺とせしが、天正の兵火に堂宇・舊記・什寶等悉く亡ぶ。

【清水町】高知縣土佐國幡多郡の南部。足摺崎の西岸にあり。北は上灘村に、西は三崎村に界し東及び南は海に臨む。幡多山地の東南にのびて半島狀をなす地域を占め北に鹿取山(三〇六米)、東南に白皇山(四三三米)、西に九輪森(二九四米)等あり、地域内は山岳嶇崎して海に迫り平野殆どなし。海岸は沈降海岸のため急崖をなして海に臨む所もあり、また出入に富む故に至る所に良好なる港灣開け漁村多し。從つて主產物は鮪・鰹・鯖等の水產物にして製節は特產物なり。最近多少經濟の傾向あるも尙ほ產額少からず。日本五大漁港の一かなし漁業盛んなり。昭和二—三年頃は年產二百五十萬圓なりしも現在は百萬圓程度とす。灣口の狹き清水港の西岸に發達せる清水町は附近々海遠洋漁業の中心地をなし汽船の寄港するもの少からず。高知市より西方に走る國道は塙域の北東の方より來たりて清水町を經て、西方海岸平地を通り隣村にゆく。この國道より分れて西南岸を傳ひ白碕(鯨詫崎)には燈臺あり。人口約一萬八百六十人。增加甚だ緩なり。此地は古く鯨野郷と稱し、其後、幾多の變遷を經明治二十二年伊佐・松尾・大濱・中ノ濱清水・越・浦尾・養老・加久見・橫道の諸村合併し清松村となる。當時この地は一小漁村なりしも遠洋漁業の根據地となるに及び急激なる發達をなし、大正三年五月清水村と改稱し、同年九月月町制を布く。清水の名は此地に土佐三清水の一と稱されし名泉あるに因み、三清水とは安藝郡岩村清水、高知市潮江清水と當清水なり。長曾我部元親、山内藩主等わざわざ茶の湯の水を當地に求め千石船の廻漕さへありしといふ。社寺には天正年中の創祀と傳ふる郷社鹿島神社(祭神武雷槌尊。例祭二月十三日・十月十八日)、郷社白山神社(祭神、伊非諾命・伊非弉命。例祭六月十八日・十月二十四日)及び名刹金剛福寺あり。〔清水あこう自生地〕指定天然記念物。大字松尾字松の下にあり。足摺崎には諸所に榕樹(あこう)自生し、松尾神社境内に大樹三株あり。日蓮四乃至八米、高さ九乃至三〇米、その中松尾のあこうの大樹と稱さるゝものは寄生樹み枯死せしめ其殘體を遺さず、推定樹齡五百年といはれ目通八米高さ三〇米に及ぶ。近時風害のため枝梢を損ぜしがなほ樹冠擴張約一〇アールに達す。樹枝互に交錯し、樹勢頗る旺盛、光澤ある萬葉蒼蒼として美觀を呈し、あこうの好標本なり。〔金剛福寺〕大字伊佐にあり。足摺山補陀落院と號す。四國八十八所第三十八番札所たり。寺傳に據れば弘仁年間嵯峨天皇の勅を奉じ、空海草創すといふ。爾來歷朝の御歸依厚く寺運隆昌たり。中世以來專ら唐土補陀落山に擬し南海二の靈場たり。享祿年間仁和寺尊海法親王當寺に下向ありてより勢寺頓に揚る。源家累代亦歸依厚し。康元・正應・延慶の三度に亘り災厄に遭ふも、其都度再建成る。寺域煙波渺渺たる太平洋に望み、堂塔樓閣悉く斷崖に連りて、千古の靈場たるに背かず。御詠歌「補陀落やここはみさきの船のさほとるもすつるも法のさた山」〔中濱萬次郎〕本町に生る。天保十二年鯉漁に出で大暴風に逢ひ太平洋の無人島に漂流し、數月の後北米合衆國の捕鯨船に救助され、船長ホワイトフッドの好遇を受け英語・數學・航海等の科業を履修し、布哇・米國を經て十一年目の嘉永五年歸國せり。翌六年米艦浦賀來し海内

ジズカワ　清水川　[illegible]　[illegible]　[illegible]

ジズサワ　清水澤　[illegible]　[illegible]

ジズタニ　清水谷　[illegible]

ジズフナト　清水埠頭　[illegible]

ジズミナト　清水港　[illegible]

シムカツブ　占冠村　[illegible]

シムシ　志茂村　[illegible]

シムシベツ　新知　[illegible]

シムラ　志茂村　[illegible]

シムラ　四明嶽　[illegible]

シムラ　[illegible]　[illegible]

シムラ　[illegible]　[illegible]

**シムラ　[illegible]

和名抄、陸奥國標葉郡に標葉郷あり。當時この地に郡家が置かれしもの。いま郡山の地名殘る。中世は標葉莊と稱す。莊名は延元元年の文書にも見ゆ。此地いまの雙葉郡富岡村の邊に當る。

シモ　征茂　甲斐國（山梨縣）の古地名。和名抄に都留郡征茂郷あり、高山寺本には本郷なし。その地今詳かならざるも、諸郷の位置より推せば北都留郡初狩村・大月町の邊に當るか。

シモ　信茂　三河國（愛知縣）の古地名。和名抄に賀茂郡信茂郷あり、その地今詳かならざるも、東加茂郡下山村の邊に當るか。

シモ　賀母

【賀母】　越前國（福井縣）の古地名。和名抄に大野郡賀母郷あり、その地今の大野郡下庄村・富田村の邊なるべし。

【賀母】　河内國（大阪府）の古地名。和名抄に安宿郡賀母郷あり。地は今の南河内郡國分村の邊に當るか。

【賀母村】　兵庫縣但馬國出石郡の東北隅。城崎郡豐岡町の東方約一粁。北は京都府熊野郡及び中郡に、東は與佐郡に、南は高橋村に、西は合橋村に接す。丹波山塊の一部にて主として花崗岩より成り、北境には高童寺嶽（六九六米）、南境には東里岳（六六三米）聳立す。太田川はこの山地を開析し西流し出石盆地に至る。蓋業は僅かに川の流域に水田を見るのみ。交通としてはこの太田川の谷に沿うて日本海側に出づるも便ならず。此地は和名抄、出石郡賀母郷の地にして、賀母とは高橋郷の下郷より來りし名ならん。中世以降太田庄と呼ばれ、大字太田の地名殘る。大田文に「法金剛院領、太田庄八十町、伯宮御領地、頭前司後室、不出注文之間、往古帳注出之、高瀧寺五町、地頭太田三郎二郎入道行願」と見ゆ。東鑑に文治二年五月藤原能保朝臣及び當陳房昌明等は行家の首級を持參せし怪、その恩賞として昌明に橋津・但馬にて太田・葉室の二庄を賜るとあるはこの太田庄にして子孫代々此地に住し太田氏を稱す。太平記に見ゆる元弘三年後醍醐天皇の第四皇子但馬宮靜尊法親王を奉じ令旨を賜ひ王事に盡せる但馬國の守護太田三郎衛門尉はその裔なり。

【賀母】　播磨國（兵庫縣）の古地名。和名抄に多可郡賀母郷あり。地は凡そ重春村の邊に當る。

【賀母】　大和國（奈良縣）の古地名。和名抄に吉野郡賀母郷あり。その地今不詳。

【賀母】　大和國（奈良縣）の古地名。和名抄に宇智郡賀母郷あり。地は凡そ五條町及び坂谷部村の邊に當る。

シモ　下

【下ノ湖】　パンケトーともいふ。→阿寒國立公園。

【下村】　富山縣越中國射水郡の東部。小杉町の東北方約五粁。北は七美村・海老江村に、東は婦負郡寒江村に、西南は大江村に接す。面積五・一一方粁。富山平野の西南部に位し、水田よく開け、農業を主生業とす。村の略中央を南北に走る縣道は海老江村・小杉町に通じ又これより分岐して東南方富山市に通ずる縣道あり。（福王寺）眞言宗高野派。弘仁年中弘法大師の開基に係りて高野山遠校の地なり。元弘年中兵火に罹りて什寶舊記を失ふ。建寶二年滿律法師再建す。仍て之を中興の祖とす。

【下街道】　奈良縣の縣道の一。奈良盆地には相並行して上・中・下の三街道南北に通ず。上街道は奈良市にて國道より分れ、盆地の東側を通りて三輪より東に轉じ伊賀に出づるもの。中街道は中央を通りて紀州に出づるもの。下街道は郡山行にて中街道より分れ、水高田町（北葛城郡）・御所町（南葛城郡）を經て宇智郡北宇智村に於て中街道に合す。

【下鳥】　→上鳥郡（長崎縣）

シモーサ　下總

【下總】　東海道十五國の一。國東平野の東部にあり、東南の一部は太平洋に面し西南の一部は東京灣に臨む。上總國を南總といふに對して北總といふ。國内をいま千葉市・銚子市・市川市、及び千葉・東葛飾・印旛・香取・海上、匝瑳・北相馬・猿島・結城の九郡に分ち、千葉以下の利根川以南の六郡は千葉縣の管下に、北相馬以下の利根河北の三郡は茨城縣の管轄に屬す。上古房總半島の地は汎稱して總國と稱し、これを上下二國に分ちて北の國を下總と稱せしものが、轉じてシモフサとなる。國郡制定の時、國府は葛飾郡葉原郷に置く。其地いま市川市の國府臺の地なり。往時この國と武藏國との境界は時によりて異動あり、或時は古利根川、隅田川を以て兩國の境とせし事あり。永平年間桓武天皇の皇子、葛原親王の孫平高望の子良兼、この國の次官（介）となり國務を執り、弟良將の子將門は、京都に上りしも志を得ずして國に歸る。天慶二年、良兼卒するに及び、將門は猿島に僞宮を建て、平新皇と稱せしも、久しからずして誅せらる。爾後將門の叔父良文の孫平忠常繼介となる。然れども忠常もまた横暴にして孤みなし同じく誅に伏し、その子常將は特に宥されて介となり父の後を嗣ぎ、千葉に居り千葉氏と稱す。源頼朝の起るに及び、玄孫常胤は結城朝光と共にこれに應じ、ついで常胤はこの國の守護となり、結城氏は北部の結城郡を得、更に常陳及び下野の一部をも領せり。のち建武中興の時足利尊氏この國の守護となり、その叛するや、千葉・結城二氏もまたこれに應ず。尊氏の東國鎮撫のために置きたる鎌倉管領は尊氏の子基氏より氏滿・滿兼を經て足利持氏に至りしが内訌のため自殺せる時、結城氏朝はその遺孤春王、安王を奉じて、結城に據りしもやがて滅亡す。ついで持氏の遺子成氏が鎌倉の管領となるに及び、氏朝の子成朝はまた結城氏を復す。成氏その執事兩上杉氏と隙あり、これを攻めしも克たずして古河に移りて古河公方と稱す。既にして結城・千葉二氏の次第に衰へし時、安房より起りし里見氏此國を侵略せしため、千葉氏は防ぐこと能はず、救を北條氏康に求め、天文・永祿の間、二番屋々國府臺に戰ひしが里見氏終に敗れて國内悉く氏康の有となる。既にして北條氏滅び、家康關東に封ぜらるるに及び、小笠原秀政を古河に、松平康元を關宿に、久能完能を佐倉に封じ、次で結城氏に襲はれし德川家康の庶長子秀康は結城より越前に移れり。爾後此國に封ぜられたる諸侯には幾多の變遷ありしも、幕末には、堀田宏實（森川氏一萬石）、高岡（井上氏一萬石）、小見川（内田氏一萬石）、結城（水野氏一萬八千石）、多古（久松氏一萬二千石）、古河（土井氏八萬石）、關宿（久世氏四萬八千石）、佐倉（堀田氏十一萬石）の八藩あり。のち明治三年に至り、曾我野藩（戸田氏一萬千餘石）の置かるるに及び九藩となる。ついで明治四年七月、これ等の諸藩は全部廢せられていづれも縣となり、十一月には佐倉・關宿・曾我野・生實・結城・古河の六縣は國内にある他藩の領地を管せる葛飾縣と共に印旛縣となりて佐倉に治し、多古・小見川・高岡の三縣は廢せられ、その地は當陸國土浦に治せし新治縣の管轄に屬せり。次で六月には更に印旛縣の廢止により、その地は千葉縣の管下に入る。明治八年五月に至りて新治縣廢せられ、その管下にありし海上・匝瑳・香取の三郡は千葉縣に入り、相馬・猿島・結城の三郡は茨城縣に屬し以て今日に至る。而して明治十三年五月には葛飾郡を分けて東西兩郡とし、相馬郡を分けて南北二郡とし、更に明治二十九年四月には西葛飾郡を猿島郡に合し、翌三十年四月には下埴生郡を印旛郡に合し、南相馬郡を東葛飾郡に合して以て今日の九郡となる。この間に明治二十八年及び三十二年の二回に北東部の諸郡の國郡境界を更定せり。

【下總橋】　省線成田線の一驛（昭和八年設置）。千葉縣香取郡橋村にあり。

【下總豐里】　成田線の一驛（昭和八年設置）。千葉縣香取郡豐里村にあり。

【下總中山】　總武本線の一驛（明治二十三年設置）。千葉縣市川市にあり。

【下總松崎】　成田線の一驛（明治三十四年設置）。千葉縣印旛郡八生村にあり。

シモアガタ　下縣郡　長崎縣對馬國下島の南部及び上島を含む。東南は對馬海峡を隔てて壹岐國に對し、東及び西は日本海に臨み、北は上縣郡に接す、長崎縣九郡の一にして南北約四〇粁、東西約一四粁。北部の下島は北境上縣郡との間に黑瞜山峠ち、西南部には奴加岳あり。山地四方に延びて海に迫り屈曲多き海岸を作り下島・上島の間に西方より深く突入する淺海灣あり。灣内峡灣式屈曲に富み複雜多樣なる形狀をなし到る處水深く好錨地多し。灣内北部に仁位灣・濃部灣等の彎入あり南部に洲藻浦・筑形浦等突入す。灣口北岸に唐洲崎突出し南岸に郷崎の延ぶるあり、灣内無數の大小島散在して多島海の形狀を呈し風光明媚なり。淺海灣の背後の日本海方面即ち東岸は三浦灣の大なる彎入及び其北に芦ヶ浦・チロジカ浦等深く突入して同樣屈曲甚しき複雜なる海岸線を示し、淺海灣との間約〇・五粁廣の地峡部をなせるところ二・三地點あり。郡の西北部は東北へ上縣郡に割みこめる三根灣口の南岸を占めて其あたり小屈曲に富む。一方上島は中央南偏に矢岳山（六四二米）ありて北面にカズエノ壇山あり。山脚四方に延び矢岳山の東部に嶺を連ねて眞石ノ壇山あり。此山地西南方へ延びて登場山・龍良山・木槲山、更に西南に近く雲刺山あり、之等山地と矢岳山との間に四方に通ずる谷を造り、瀬川流る。此各山地東及び南へ山脚を伸ばして海に迫り東より西南へ尾浦灣・安神浦・久和浦・内陸浦・松無浦・豆酘灣等の リヤス式彎入をつくり、豆酘灣の東西を圍ひ岬即ち對馬南端の神崎・コチノ瀬には燈臺の設備あり。眞石ノ壇山の北へ連る山地は有明山・權現山等を起し中央東偏を南北に走り東方へ傾斜して尾浦浦の北に嚴原灣・阿須浦等の彎入ありて大崎・耶良崎・大槲崎等突出し其北に小島散在し勝見浦の稍大なる略弓形の灣あり。鋼掛崎・稲青鼻・見通鼻を隔てて三浦灣につづく。西北部には達見嶽・白嶽・黑土山・大隈山等北より西へ彎曲して連り、白嶽の西に大山壇山、其西北に八斗蒔壇山・持山等あり、また大隈山の北には丸山あり。之等山地は西北部高地を造り、南方矢立山麓との間に谷をなし眞石ノ壇山より源流する佐須川流れて佐須浦にて海に注ぐ。西岸は概して單調にして南北につづき中央北偏に佐須浦、南部に瀬浦・西浦等あり。平地は殆ど無く從つて農耕振はず、殊に米の移入を朝鮮等に仰ぐ。郡内の八割は林産地にして木炭・竹材・椎茸等あり、又水産物多く附近は烏賊・鯛等の大漁場なり。外に石材（石盤石・屋根石・敷石・礫石）を出す。また本島産對馬島は缺くべからざる投斎となりて農耶に運搬に投立ち峻坂・險路に馴る。郡の主邑嚴原町は上島の東岸嚴原灣に面し外に七箇村を含む。街道嚴原町より北へ走り鶏知村を經て淺海灣岸竹敷村に至り、一は鶏知村より分れて東北へ延び淺海灣東南隅の地峡部船越村字大船越の渡船場に至る。嚴原町海岸より西南隅豆酘灣岸へ延ぶるものは途中大河内峠・眞石峠を越ゆ。其他郡内各町村を結ぶ道路數多あり。海上交通は對馬商船の長崎・壹岐・對馬・釜山線及び博多・壹岐・嚴原線によりて地方及び朝鮮に便を開く。本島は日本海入口の孤要なる位置を占め今島要塞地帶をなす。往昔は國府

の所在地にして續日本後紀承和四年の條に郡名見え、和名抄は志母郡阿加多と訓じ、貧志・雉知・玉訓・豆鮫の四郷を管す。後世私に本郡を仁位・與良・佐須・豆酘の四區に分ち上島四郡とも稱せしがのち舊に復す。江戸時代の頃よりシモアガタとも訓み、今專らこれに從ふ。

シモアキツ　下秋津村　和歌山縣紀伊國西牟婁郡の西北部。太平洋沿面にあり田邊町の東北に位し田邊灣に近し。西は稲成村、東北は上秋津村、東南は万呂村と界す。面積二・三〇方粁。西北部に二〇〇米程度の山地あり、その南に會津川東北より來り西南に流れて約二粁先にて田邊町より田邊灣に注ぐ。川の南は低地開け東隅に僅か二〇—三〇米の臺地の末端あり。低地は米の產地にて山地よりは木材・薪炭を產す。中央谷に沿ひ隣村田邊町より來る道路東北方に横切り上秋津村・秋津川村方面に至る。また田邊町に省線紀勢西線走り、南西約一・五粁に紀伊田邊驛あり。古へは上秋津村と共に秋津里と呼ばれ和歌の名所たり。巡秋津〔實海寺〕臨濟宗妙心寺派。岩倉山と號す。上秋津村岡島城主鹽屋三郎行久の創建に係り絶照和尚を開山とす。

シモアサクラ　下朝倉村　愛媛縣伊豫國越智郡の東南部。北は清水・富田二村、東は櫟井町、南は上朝倉村、西は鴨部村と界す。高麗半島東北部にあり、東南隅に笠松山（三二八米）、西南に五一米の山地ありて何れも中央に傾斜し低地を開く。南より須田川北流して東部山地の西麓を流れ流域に沖積平野を造る。氣候の良好と共に農業盛んに行はれ、米麥作をなし副業として養蠶・葉煙草・果樹の栽培を行ふ。交通は低地に開かれ南方丹原町（周桑郡）に通ず。村内に古代墳墓・塚穴等到る處にあり、文化夙に開けし地ならんも史實の徵すべきものなし。中世は今治落松平氏の所領に屬す。越智郡の名神大社なる多伎神社は大字古谷にあり俗に龍宮といふ。〔多伎神社〕大字古谷に鎮座。縣社。祭神、須佐之男命・多伎都比古命・多伎都比賣命。一に龍宮と號し、創建年次詳ならざるも、三代實錄に貞觀二年從五位上、濃神に從四位下を授け、爾後漸次累進して同十三年正四位上に敍せられし由見ゆ。延喜の制名神大社に列す。土人當社の裏山なる川上嶽に雨を祈る時靈驗ありと傳へ、町野政鳳の祈雨の歌あり「名にしおはば日方の田面のうるふまで水せきくだせ濃のみやしろ」例祭五月十一日。〔矢別神社〕大字朝倉北に鎮座。郷社。祭神、鬱田別尊・日本武尊。例祭、九月二十一日。〔竹林寺〕大字古谷にあり。眞言宗大覺寺派。白鳳二年開基法師の開創に係る。聖武天皇の御宇、行基菩薩自刻の文殊菩薩像を當寺に安置す。

シモアサヒ　下日　能登國（石川縣）の古地名。和名抄に能登郡下日郷あり、その地今の鹿島郡高階村・相馬村等の邊に當る。

シモアサヒカワ　下旭川　秋田縣南秋田郡にありし村。明治二十五年上旭川村と合併し旭川村を置く。旭川村は昭和八年秋田市に編入。

シモアシベツ　下芦別　北海道石狩國空知郡芦別村の大字。根室本線の下芦別驛（大正二年設置）を置く。

シモアジミ　下味見村　福井縣越前國大野郡の西端。今立・足羽の二郡と界す。池田街道は足羽川に沿うて足羽郡上宇坂村より本村河原・横越・折立を經て今立郡下池田村に至り、バスを通ず。足羽川沿岸に多少の田圃拓け民家あるも其他は山岳地帶とす。されど最高地と雖も七〇〇米を超えず、村の中央部は海拔約一三〇米なり。產物として米・馬鈴薯・楮・蒟蒻・柿のほか木材を出す。殊に名產の鮎と鮫魚は美味なる以て聞ゆ。また自然産は赤谷より、蛭石は折立より產するも其類多からず。味見は昔味美と書き、曾て福井藩主が本村の鮎の美味なるより將軍に獻じたるを見ても、鮎の美味なる所より生ぜしものと云ふ。尤も其名は遠く正安・文安の頃より味美郷などとして見ゆ。大字赤谷は平家一族の遺寡落匿の地にて赤旗より出でし名と傳へらる。同區字西谷日に平家壁と云ふ方〇・六米、高〇・六米餘の石盤あり。近くに平家堂あり、毎年二月十九日に祭禮を行ふ。明治二十九年九月足羽川暴溢し、流失家屋十五戸、土砂壞沒二箇寺、浸水百戸と云ふ大水害ありて以後人口は甚しく減少せり。また本村出身の歴史的人物に樺太經營者早川彌五左衛門あり。〔早川武英〕贈正五位。通稱彌五左衛門。安政二年幕府が蝦夷開拓の令を出すや武英は許可を得て後志に赴き開拓に著手せり。時に幕府これを直營せんとせしを以て、武英は樺太開拓を思ひ立ち同四年許可を得て幌子谷に至り翌年現今の名好支廳區内の鵜城に元會所を設け、萬延元年には名好支廳全區の地を領地に準じて處管する事を許さる。されど此の頃より寡人來りて去らず、武英は奮然命を賭して之と爭ひしが幕府の不明より慶應元年七月小過に因りて重譴を蒙り事成就せずして明治十六年六十五歳にて逝く。北國男子の意氣を異境に發揮せしことは當に本村の誇といふべし。〔八幡神社〕東河原にあり。響田別尊・神功皇后・武内大臣を合祀す。式内社。神殿・寶殿・拜殿・神輿殿等皆完備し山間には稀有の大社なり。什物に七八百年前の梵文寶筐印陀羅尼經あり。また怪約〇・三六米の神鏡は本願淨阿彌の作にして京都北野神社の大鏡と共に特に有名なり。例祭、九月十六日。〔稱名寺〕大字折立にあり。浄宗高山派。寛元元年親鸞上人の弟子法善坊の創建にかかり、往古は本國老分十二箇寺の一にして本山より別格取扱に班せられたり。

現堂宇は元祿二年の再建なり。

シモアソー　下麻生町　岐阜縣美濃國加茂郡の北端。北は武儀郡神淵村、東は飛騨川を以て上米田村に對し、南は川邊町、西は三和村に接す。太田盆地の最北端にあり飛騨川が美濃中部山地を切る所にて、北部には納古山（六三三米）あり。飛騨川は東境を流れ、谷に沿うて名古屋街道通じ、之と並行に省線高山本線も通過し川邊町に下麻生驛（大正十一年設置）を置く。生業は農六〇%、商二〇%、出稼其他二〇%にして米・麥を主とす。下麻生は和名抄、賀茂郡川邊郷の一部と思はれ、古來飛騨川の舟筏往來し、商業も盛なり。麻生寺は水月場と云ひて禪宗京都聖護院末。本尊如意輪觀音の立像は安阿彌作にて當國三十三所の第二十七番たり。別に西國三十三番の觀音を安置す。其外に佛像多し。遠見山の古城址は稻葉某の砦の址と云ふ。

シモアタゴ　下阿多古村　靜岡縣遠江國磐田郡の西部。天龍川の右岸。東は對岸二俣町・光明村、南は濱名郡赤佐村、西は引佐郡とそれぞれ界す。天龍川、右岸の山脈を離れ平野に出でんとする部分に當り、全村四五百米の山地をなし、略中央を一條の支流曲流し、東部にて本流に合す。谷合には多少の平地あり田畑もあれど大部分は森林なり。農林業を主生業とす。交通は二條の山道と天龍川の舟運によるのみ。此地は和名抄、麁玉郡碧田郷の内にして、大字青谷は郷名の轉訛せるものか。

シモアダチ　下足立　↓足立（武藏國）

シモアナマ　下穴馬村　福井縣越前國大野郡の中央より稍々東南。東北は石徹白・五箇、西は富田・上庄、南は西谷・上穴馬の各村と界す。略ど山地にてただ九頭龍川の沿岸に僅に平地あり。美濃街道もこの川に沿ひバスも上穴馬村に通ず。九頭龍川以東は略ど保延紀より成り、大字長野・同角野・同上下大納一帶は本郡にては稀なる古生紀、鹿島山一帶は深造岩より成る。米・帳祇・木炭・木材を產し、石灰の產も少からず。山中の小川よりは山椒魚を產し天然記念物に指定さる。昔は穴間とも書く。村内に石灰窟多きよりこの稱起るとも。大字貝皿の字御所ヶ平に源義平の館址あり。平治物語に「惡源太承るとて未知らぬ飛騨國の方へ山の根につきて落ち行かれ」とあり、綸國記にも「惡源太の館迹あり御所ヶ平と行ふ義平落人と成りて此處に三年を送らるる」と見ゆ。宇朝日の八幡神社に全長約三三糎、徑約二糎半の古笛所藏され城迹考以下悉く之を義平の笛と云ふ。蒼然たる黑漆の箱に平治二年正月二十一日云々の文字あり。因に省線越美線は近き將來に美濃國より上穴馬村を經て本村に入り大野町に至る豫定なり。明治二十九年一部を割きて石徹白村を置く。

シモアマダ　下甘田村　石川縣能登國羽咋郡の中部。北は加茂村・高濱町、西は中甘田・上甘田兩村、南は越路野村及び鹿島郡金丸村、東は同郡能登部町とそれぞれ界す。邑知潟地溝帶の北緣をなす眉丈山の北斜面を占め、西北になだらかなる傾斜をなす。村の略中部に發源する神代川は北流して高濱町に入り海に注ぐ。この谷に多少の平地あり、田畑をなすも他は傾斜地にて森林なり。能登部町及び越路村より高濱町に通ずる縣道村内に會し、聚落はこれに沿ふ。他に一條の山道、眉丈山を越え、省線七尾線の金丸驛に通ず。此地、古くは和名抄、羽咋郡神戸郷に屬せしものなるべし。中世上甘田・中甘田の二村と共に甘田保と稱せらる。（諸國比古神社）大字二所宮に鎮座。郷社。祭神、大中津日子命。垂仁の朝皇子大中津日子命本國を平定、諸民を安きに置き、久しく此地に留りて遂に薨じ給ふ。依りて衆庶其廣澤を追慕し御陵墓を築きて種々の珍寶を納め奉る。これ即ち本社鎮座の由來なり。醍醐帝の朝別格の神位に進められ、次で延喜の制式内に列し、當郡内を神領地と定め給ふ。歴朝また國司を勅使として屢々幣帛を捧げ、臨時祭に與る。元暦年間源頼朝社殿を造營し神領百餘町の寄進あり。神長官を初め神主二十一名、御巫一名、社僧長數十口を附せられ社僧なほ當社の御陵墓守と定む。のち郡守土田式部社領二千石を寄せ累世の祈願所と定む。例祭八月十七日。

シモアリス　下有住村　岩手縣陸前國氣仙郡の西北部。東に上有住村あり、南は世田米村と相連り、北部は上閉伊郡の小友村及び上郷村と界す。北部は北上山脈の連脈にして高原狀をなし、所謂氣仙・上閉伊・江刺三郡の境界をなす種山ヶ原なり、東部は其の支脈にして刎越山（六一三米）を主峯とし、其の麓を有住川の一支新切川南流す。南部は五葉支脈の一部にして比較的峻嶮なる山岩をなして世田米村との分水嶺をなし、其の麓を氣仙川の本流略東西に流れて世田米村に入る。西部は種山ヶ原高原の一部をなし火の土川は其の麓を略南東に流れて有住川に注ぐ。中央部は複雜なる地形をなし、新切川及び火の土川の分水嶺をなす平地は各河川の流域に細長く存在し多くは耕地なり。地質は主として花崗岩・古生層より成り、花崗岩地帶は本村の二分の一位に分布し新切川沿岸の奥新切・新切の大牛、火の土川岸の奥火の土の大牛、火の土の一部にして厳石高峻なる山地を構成し、耕地は之等溪谷の地に介在す。土性は砂質壤土の分布最も多く壤土・腐植質壤土等之に次ぐ。古生層地帶は本村の最も廣大なる面積を占有し、急峻なる山岳を構成し、上部に位する礫砂岩は第層を現はし又は石灰岩を交へ露出す。沖積層地帶は氣仙川の一支有住川によりて運積構成せられたる平地にして年々氾濫に

依り荒廃せる地多く、農耕地に利用せらるる地積は十文字・中上・高瀬に狭小を見る。上述の如く山地多きを以て木炭の産多く、個人或は共同にて官林及び村有林を拂下げ毎年十萬二三千貫の薪木を製炭し約五萬俵を出す。製産品は堅重なる規約の下に東西兩本炭組合共同販賣を行ふ。其價格二萬六千圓に及ぶ。繭は春蠶・夏秋蠶を飼育し其の産べ戸數二七〇戸に及び、收繭量六千六百石、價額二萬八九千圓に達す。この外に米（六百七八十石）麥（七百石）・稗（一千石）を産するも村民の糧食に不足を見つつあるの現狀なり。街道は東南部有住川沿ひに通じて高田街道に出で高田町にバス通ず。此地もと鳴石といひしも有石と轉訛し、更にいつの頃よりか有住と轉訛すといふ。鳴石と割まれたる古碑は今なほ本村字火の土の長床にあり。建設年月不詳、確信し難しと雖も舊南部藩人は最近まで有石と稱せりといふ。葛西氏の頃まで上下有住の區別なく、伊達氏の時より分離せりとの說あるも文治以後廿四郷に分たれ、有住は上下に分離して各一郷をなし後また合せりといふ。また一說に昔は氣仙郡三十箇村或は三十三箇村ともいひ傳へ、三十箇村といへるは有住を上下に分たず一村となし、本吉郡中七箇村を合せりといふ。また三十三箇村と云へるは有住を上下に分ち右の七箇村に砂居地・波路上を加へて云へりと。按ずるに伊達氏の時代は有住は既に上下に分たれ各一村づつなりし事明かなり。明治九年氣仙郡は岩手縣に屬し當時町五、驛七、村二十にして下有住もその一村たりき。〔古内舍山跡〕字奥新切にあり。藤原秀衡時代に於けるか賈吉次信高の弟吉内が來征して金を探掘したる所なりと傳へ、今猶ほ其の附近を掘る時カネの屑出づ。之を洗ふ時は微なれども金光の輝きを見る。〔外館城址〕字十文字にあり。葛西氏の家臣紺野美作の居城なりきと、又或は有住左近の居城たりしことありといふ。〔貞住山・碧址〕西北部貞住山にあり。上閉伊郡小友村と界する最高嶺をいふ。この山は牲背安信貞任の陣せしよりこの名あり。

シモアワタ　下粟田（しもあはた）→粟田（アワタ）〔山域〕

シモイカワ　下井河村（しもゐかはむら）　秋田縣羽後國南秋田郡の西北部。東北は五城目町との間に上井河村を挾み、西は八郎潟に臨む。東南部は大比良・三嶽の二山ありて山地をなし、上井河村より流れ來る井川は中部を西北に流れて八郎潟に注ぎ下流にアルカを作る。山麓に小池並びに南部に鎌井川堤あり、八郎潟岸は卑濕なれども一般に濃密・樽水の便よく耕地拓く。全戸數五七九のうち農家戸數は四七三を算す。自作農は少く僅かに四十を算するのみにしてその他は小作及び自作兼小作なり。全村生産額の八五%は農産物に依り、米はその大宗にして一二四一六石、三四二五三八圓、蕃工品の生産も約五萬圓なり。農家戸數に比して馬の飼養戸數の少きは湖上の漁業等による收入多く且つ草地の少きによるものと思はる。八郎潟より得らるる魚類の販賣・伽倉の販賣等による收入約三萬圓を算し、農家の副收入としては甚に注目に値す。國道羽州街道中部を南北に走り、奥羽本線また之に沿うて通過す。慶長五年まで秋田城之介之を領有し、同七年佐竹義宣之に代る。明治二年秋田郡第一大區第十小區の内に入る。明治十年濱井川・北川尻・小竹花・坂本の四箇村を併せて戸長役場を濱井川村に置き、明治廿二年町村制實施に際し前記四箇村に今戸村を併せて下井河村と稱するに至る。濱井川の地名はもと川名によるといふ。

シモイクタハラ　下生田原　北海道北見國紋別郡生田原村の大字。省線石北線の下生田原驛（大正三年設置）を置く。

シモイケダ　下池田村　福井縣越前國今立郡の東部。北より東は大野郡と界し、南より西は上池田村に接す。村内殆ど高原をなしただ北部足羽川の沿岸地に僅に平地あり。平地は全面積の二十分一に過ぎず。産物には蠶絲・木材・蕎麥・楮・漆器等多く、上池田村と共に畜産、特に牛においては縣下第一と稱され、滋賀縣伊香郡木之本町の市場にも越前牛として著はる。昔は交通甚だ不便なりしも今日にてはバスも大野郡より當村に入り上池田村を經て鯖江町に通ず。もとは上池田町と共に池田庄と云へり。

シモイシズ　下石津（しもいつ）→石津（イシヅ）〔美濃國〕

シモイジューイン　下伊集院村（しもいじゅうゐん）　鹿兒島縣薩摩國日置郡の北部。東支那海に面し南の伊集院町と北の東市來町とに挾まれ、東は郡山村、西南部は日置村、北は薩摩郡入來村及び樋脇村と界す。北部の薩摩郡に接する部分より南へ更に西南方へ細長く延びて東支那海岸に達し、日置郡の西北部を區切る。北境より西南海岸までの延長約二〇粁。幅約三粁。西南部は狹くなりて約一粁の部分もあり。北半は山地蟠居し西境北部に五二三米の重岑山あり。細長く西南方へ延ぶる部分西半は二〇〇—三〇〇米程度の丘陵波狀に起伏し所々に盆地をつくり、東境南部に沿ひて神之川南流し東南部を西方へ横切りて南隣伊集院町に出で、更に西南境に沿ひて西流し、西南隅を西に横切りて北境を傳ひ約一粁餘先にて東支那海に注ぐ。海岸は南北に連りて平直なり。山間盆地及び川に沿へる低地には耕地拓けて米・麥・粟・甘藷等を産し、甘蔗をも栽培す。また薩摩燒の名産あり。鹿兒島街道南部を東に横切りて東南方約一四粁の鹿兒島市に通じ、西南部及び東南部にて之より岐るる街道、東南方及び西南方に延びて南隣伊集院町に續き、省

線鹿兒島本線西南部を西北より東南に横切り伊集院町を經て鹿兒島市に至る。南方約二粁に伊集院驛、西南部の西北約一粁に東市來驛あり。古く伊集院町・上伊集院村と共に伊集院と稱せらる。大宇苗代川は製陶を以て著名なり。ここは昔に壺屋と稱する製陶家二十餘戸ありしも殊に著名なるは沈壽官と稱する家にして名高き薩摩燒の優良品を製造す。其初めは島津義弘の朝鮮征伐より歸る時、彼の地の陶工二十二姓の男女四十四人（一說に十七姓）連れ歸り茶器等を製造せしめしが其中の一人朴平意（一說に朴興用）なる者領内に良陶土を求め探索の結果同志と共に苗代川に移り、製陶を開きしものといふ。今此地に住む人々は其子孫にして白磁に金襴手を施せる薩摩燒の外に土管・摺鉢・壺などを製す。〔春生田城〕大字春生田に其址あり。橋口兼弘の居城。兼弘初め島津貴久に仕へて軍機を助け、天文五年石谷ノ戰に功を建て、春生田を與へられてここに居城す。永祿七年島津義弘の伊東修理大夫義祐と戰ひし際兼弘進軍して陣役す。其子彌二郎兼元その後を繼ぎ天正十四年島津義久の豐後大友左衛門尉義鎮を攻むるの際これに從軍し利滿城攻略の際遂に戰死す。其子土佐兼持慶長四年伊集院源次郎忠舊謀反の時これに從ひ軍功あり、これより鹿兒島に移り春生田城廢せらる。〔智賀尾神社〕大字獄に鎮座。縣社。祭神、伊弉冉命。創建年代不詳なるも式外の舊祠にして、貞觀二年三月從五位上に陞敍せらる。明治維新までは年々舊領主より祭米八千石を寄進せらる。例祭、三月十九日。

シモイジラ　下伊自良村　岐阜縣美濃國山縣郡の西南端。北は上伊自良村、東は梅原村、南は稻葉郡方縣村、西は本巣郡綱代村に接す。美濃山地の南部、伊自良川の谷に沿ひ、伊自良川は村の中部を南流し北部は伏流をなす。曾て此附近を長良川流れ、のち流路變遷の爲に截頭河となり小流となりし結果とす。山地は大概一九〇米内外の高度を示す。生業は農業を主とし米・麥の他に茶・楮を特産す。本村は和名抄山縣郡出石郷に當るといふも詳ならず。中世は上伊自良と共に伊自良庄・伊自良郷と呼ばる。大宇藤倉には伊自良古城あり、伊自良次郎右衛門住みきと傳へられ、また土岐頼藝の家士陰山掃部助一景も此城に住めりと云ふ。大德愚堂國師は大宇大森の出身、天正五年に生れ、幼にして僧となり、京都妙心寺に修學し、各地に歷參する事六年、花園の甫山禪師に印可を受け愚堂の號を授けらる。開來西濃小島の瑞巖寺、北方の慈溪寺に、東濃和知の正傳寺、細目の大仙寺に、或は堂塔を興し佛殿を營み、道路を通じ堰溝を改め、專心濟民に力む。寛永五年後水尾天皇の勅を奉じて、妙心寺に出世し紫衣を賜る。國師屢々江戸に遊びて德川家光に聞え、家光引見せんとせしも潛かに岐阜に歸り大義名分を重んじ勤王の志を鼓吹す。後山城山科の花山寺に移り、寛文元年遷化す。勅して大圓宗鑑國師と謚す。當國知目の大仙寺、新加納の少林寺、奥條の慈正寺は國師の開基たり。〔東光寺〕大宇小倉にあり。臨濟宗妙心寺派。富士山と號す。明應年間華翁紹霽當地に草庵を營みしが、のち希雲之を中興して寺となし其師東陽を開山に請ず。其後次第に類廢せしが第五世以安之を重興す。往古塔頭十箇寺を數へしが今は一院を存するのみ。

シモイズミ　下出水（しもいづみ）　鹿兒島縣出水郡にありし村。大正十三年三笠村と改稱す。

シモイチ　下町

〔下市町〕　奈良縣大和國吉野郡の北部。奈良市の南方約四〇粁。北は吉野川を隔てて大淀村に、東は吉野村・秋野村に、南は南芳野村に、西は日銀村及び宇智郡南阿太村に接す。地形的には北部の吉野川河谷地域と吉野山地との二つに分れ、吉野山地は紀伊半島を横に貫く結晶片岩より、又吉野川の谷は洪積層より成る。吉野川は構造谷に沿ひ西流す。産業には山地より吉野杉の良材が取れ河岸には米を出し、傾斜地たる東部原谷・梨子堂、中部大塔冢・中村・西原には果樹園多く蜜柑・柿を作る。町は郡内第一の都邑にて吉野川を挾み下淵驛と對しその間千石橋を架く。商業は古く元禄時代に最も盛にて、所謂六人衆と稱した軒の大問屋あり、ここより各小店に切手を發行し金融を行ふ。即ち下市札なるものにして我國最初の手形と云はる。昔より吉野煙・吉野葛の名物あり、殊に葛は延喜式中に見ゆ。現今は割箸と杉箸の産額多く年七〇—八〇萬圓に上る。また廢丸太も此地の特産にして木材の集産地をなす。今も市場は問屋橋附近に開かれ、昔は農産物の外に柴・鹿の狩獵にて生計を營めりと。今は蜜柑・柿の取引多く、柿は大和吊柿として著はる。また新原・大塔冢附近より少量の銅を産す。此地は和名抄、吉野郡吉野郷の内なり。明治二十三年二月町制を布く。義經千本櫻・三「春は來れども花咲かず、娘が潰けた鮓ならば、なれがよかみと、買ひにくる、風味も吉野下市に、賣り弘めたる釣瓶鮓、御酢所の彌左衛門」〔願行寺〕大宇下市にあり。眞宗の本願寺派。本願寺三世覺如の男存覺後醍醐天皇の召に應じて此地に到り、松を植ゑて後の記となす。文明年間、八世蓮如其の舊跡を訪れて此處に來り、一宇を創して願行寺と稱す。〔龍上寺〕大字善城にあり。眞宗本願寺派。藤谷山雪坊と號す。聖空の開創に係る。聖空、承元二年七月、秋野ノ里善城山麓に一宇を營し雪坊といふ、即ち當寺の起源なり。後世寺運榮え、末寺三十箇寺を統べしことあり。

〔下市〕　山陰本線の一驛（明治三十六年設

置)。鳥取縣西伯郡逢坂村にあり。

シモイナ　下伊那郡　長野縣信濃國十六郡の一。天龍川上流伊那谷南部一帶の地。北は上伊那郡と界し、東は駿河、東南は遠江、西南は三河、西は美濃の四國に接し、西北の一部は飯田市をなす。面積一九一・一一方粁。東部は赤石山脈の要部を占め、赤石岳(三一二〇米)を始め三〇〇〇米前後の高峰重疊し、西部は木曾山脈の一部恵那山(二一九〇米)一帶の山々により木曾谷との水を分つ。天龍川はこの兩山脈の間を北より南に貫流し、北方上伊那郡より飯田市附近までは所謂伊那谷を形成し三段の段丘發達す。飯田市の南方時又より中部(四五粁下流静岡縣)までの伊那山脈・赤石山脈の花崗岩地帶に先行するに當りて若き貫通谷を形成し、そこに天龍峡の溪谷美を出現す。郡の北部伊那谷の下の段丘は西天龍の用水を引きて水田開け、米は自給自足、その他の段丘上は桑園の海をなし、養蠶を生命とする地方なり。その他、木曾・赤石の山中には木材・薪炭の產あり。社線伊那電氣鐵道は伊那谷の右岸を貫通し天龍峡にて南方三河川合より左岸に沿ひて北上せる社線三信鐵道と合す。北方松本平より南下せる三州街道は飯田市より西の山谷に寄り、西南部駒根川上流より三河國に出づ。其の他飯田市より遠江に至る秋葉街道、大平峠を越えて木曾谷に出づる大平街道、河岸を曲折して南下する遠州街道等を分岐し、飯田市はその街巷に當れり。また天龍川の舟運は時又以南に盛にして所謂天龍下りの豪快を以て知らる。本郡は明治十三年伊那郡を上伊那・下伊那の二郡に分ちて置けるものなり。

シモイバノ　下伊場野村　宮城縣陸前國志田郡の西部。三本木町の東に隣り、東は松山町・鹿島臺村、南は黒川郡に隣接す。南部は高寺山(一四〇米)に連る洪積層の臺地にして北に傾き、北端なる鳴瀬川東に流れ東北部にて臺地北麓を東流し來る花川と會し沖積平地を作る。この平地は大崎平地の南緣に當り水田よく拓け米を多產す。松山町より古川町に至る野蒜街道は東北部を掠め、鳴瀬川の南岸に沿ひ三本木町に至る街道を分つ。この地は和名抄、志太郡信太郷の内なるべく、村内に月山權現社あり、里傳によれば源義家東征の時、鎌倉權五郎景政、羽州の三山權現に祈り、月山權現を此地に勸請せるものなりと。また古墳あり、大崎の家臣伊場筑後の居りし所なりと。天正十六年、大崎義隆の寵臣伊場惣八郎なる者あり、或は伊場筑後の後裔か。

シモイワガワ　下岩川村　秋田縣羽後國山本郡の南部。檜山町の南に隣り、西南は鹿渡町、南は上岩川村に隣接す。四周に山地を繞らし東部の二〇〇—三〇〇米の丘陵は西に緩かに傾き、西南端に石倉山(一四八米)あり、其間を三種川はこれ等丘陵を開析する溪流を合して西北に流れやや廣き沖積地を作る。土壌は腐植質土壌を主とし地味豐沃、耕地よく拓く。從つて農產物を第一とするも林產物・畜產物も多し。農產物は米(七千石)・大豆・小豆等の產多く野菜類は自給の程度なり。山菜の採取盛にして、その加工も漸次行はれつつあり。また用材(約五萬圓)・薪炭材(二萬圓)を出し、製材所ありて製材に從ふも原木として移出せらるるもの多し。全村の大部分は農家にして縣道は三種川に沿ひて通じ沿道に各部落發達す。村道は各部落を通ずるもの以外鹿渡町に通ずるものあり。車馬道としては縣道以外利用不可能にして交通不便なり。岩川村はもと上・下岩川村なかりしが延寶の頃上下に分る。明治二十二年町村制實施以前は森岳村外二箇村戸長役場として森岳・金岡・下岩川村の三箇村を統轄せしも實施後同年六月分離認可、下岩川村役場として本村を統轄す。人口五十四代仁明天明の御宇、小野小町房住山に參詣せんとせしも山嶮しくして女性の爲し得る處にあらず、小町假遙拜殿を建て、時に嘆がんとすれども浮水なし、小町天地に祈誓したるに不思議にも岩石の間より清水滾々として流れ出づ。今に至るも此水涸かも增減なし。小町且夕參詣し、願書並に詠歌其他種々の奉納あり。小町神社之なり。八十六代四條天皇の御代天災により大部分焼失せり。今その址を傳ふ。眺望絶佳なり。

シモイワナリ　下岩成村　廣島縣備後國深安郡の西部。北は上岩成村に、東は神辺町に、南は中津原・森脇二村に西は鹿品郡駅家村に界す。面積一・一三方粁の小村。神辺盆地西南部を潤ほす蘆田川中流の沖積平地の中央にあり、土地平坦にして肥沃、從つて米・麥の產多し。南方福山市と北方比婆郡東城町をつなぐ縣道は中央部を南北に通過す。上岩成村と共に古くは和名抄、品治郡石成郷の地なり。中世は神辺庄に屬し、水野氏神辺より福山城に移るに及び福山藩の支配をうく。いま森脇村・上岩成村・中津原村と組合村をなし、森脇村に役場を置く。

シモウカワ　下宇川村　京都府丹波國竹野郡の東北隅。與謝半島の北岸。西南は上宇川村に接し東南は與謝郡筒井村・本庄村に界す。全村低き臺地狀の丘陵起伏し西南部に西北海岸より東南の方向に走る谷ありてここに宇川西北流し日本海に注ぐ。北部海岸は西南より東北に走り小屈曲ありて岩石海岸をなすところ多し。東北端に經ヶ岬の突出ありてここに燈臺あり。北緯三五度四七分、東經一三五度一三分の地點に位し、白色圓形石造、明治三十一年の設置、燈質は逆閃白色、十二秒を隔てて八秒間三閃光、光達距離三〇浬に及ぶ。これより東は東南方へ方向を轉じて隣村本庄村海岸に延

ふ。西南部の谷及び北部沿岸所々に耕地あり農業を營み、また養蠶行はれ水產も發達す。道路は北海岸に沿ひて西南方へ走るものあり、一は岐れて西南部の谷を東南方へ通じ與謝半島東岸に至る。鐵道の便惡し。往古の事は以て徵すべきものなし。慶長五年京極高廣の配下たりしも寛保二年德川氏の領となれり。廢藩後久美濱縣より豐岡縣に屬し更に明治十年京都府に編入せらる。

シモウケナ　下浮穴　→浮穴(伊豫國)

シモウサカ　下宇坂村　福井縣越前國足羽郡の東北部。足羽川の中流に沿ふ。福井市の東南方約一一粁。北は吉田郡、東は大野郡、南は上宇坂村、西は酒生村に接す。北部は劍ヶ岳(八〇〇米)一帶の丘陵南に傾斜し、南部も亦四五百米の丘陵の一部を占め、中央を足羽川西に曲流し、流域に多少の沖積地を作れり。山地は廣く森林をなし、平地には耕地もあり、米を作る。谷沿ひの縣道は美濃街道の一部にて、福井市と大野町を結び更に美濃白鳥町に通ず。その他北へ通ずる山道は永平寺に、東に出づる山道は勝山町に至る。中世、上宇坂村と共に宇坂郷と稱せらる。其後の沿革は詳かならず。〔本向寺〕大字市波にあり。眞宗本願寺派。源頼朝の家臣大須賀四郎胤信、剃髮して親鸞上人の弟子となり、本寺を創建す。文明六年焼火に遭ひて諸堂悉く焼亡す。のち再建せらる。

シモウチ　下有知村　岐阜縣美濃國武儀郡の南部。北は美濃町との間に中有知村を挾み、東は加茂郡富岡村、南は關町、西は瀬尻村に各隣接す。美濃山地の南部加茂野の北に續く關盆地の一部にして、西境を長良川流れ、その沿岸は桑畑多く川を距てに從び水田に漸移す。省線越美南線は山麓を南關町より北方美濃町に通じ、社線名古屋電鐵美濃町線も之と並行して美濃町に至り下有知駅を置く。郡上街道は盆地中央を北に長良川の谷へ抜け八幡方面に至る。此地は和名抄、武儀郡有知郷の内にして中世は下有知御厨と呼ばる。詳雲山龍泰寺は曹洞宗に屬し應永十四年通幻派祖模最乘寺了庵の高足無練慧猷が郷人西村永昌の歸信を得て開創し大いに法席を張る。月江正文二世に居り、其下逸足を出し法門興隆し無極一派の本山として有名なり。堂宇は天文四年炎上、のち再興す。寺領御朱印世石、東美濃惣祭所として、西濃今須の妙應寺と共に著はれ近郷に末寺多し。神光寺は眞言宗にして今宮山と號す。本尊十一面觀音の立像にて傳教大師の作と傳へられ當國三十三箇所の第二十四番なり。井神社は曾代用水の開鑿者たる贈從五位喜田吉右衛門宗清、その弟林圓閑、柴山伊兵衛直之を祀る。曾代用水はこの三人の苦心經營の下に寛文八年竣工し郡内中央平地の良田七百七拾町歩を灌漑するに至りしものにてその恩惠の及ぶ所甚大なり。仍て有志者その功を慕ひ文政九年社殿を營みて之を祀れり。明治四十一年更に社地を現地に選び改修せり。關町梅龍寺には宗清の墓あり。

シモウチダ　下内田村　靜岡縣遠江國小笠郡の中部。掛川町の東南約七粁、北は中内田村に隣り、東は菊川を隔てて平田村と相對す。西部及び西南部には百米餘の丘陵連り東境を菊川南に流れ、沿岸は沖積地にして耕地拓け米・麥・繭を產しなほ丘陵地より茶を出す。縣道は東部を南北に通じ掛川町にバスの便あり。此地古くは和名抄、城飼郡鹿城郷の地ならんといふ。中世は上内田・中内田二村と共に内田庄と稱せらる。掛川志稿・源平盛衰記に遠江國住人内田六郎家吉といへる人あり、また永久記に内田四郎、同六郎あり、これ等は何れも兄弟なるべしといふ。蓋し此地の住人ならん。いま中内田村と共に組合村を成し、中内田村に役場を置く。

シモウノリョー　下宇野命　山口縣吉敷郡にありし村。大正四年山口町と共に廢し新に山口市を置く。

シモウラ　下浦　〔下浦〕徳島縣名西郡浦庄村の大字。徳島本線の下浦駅、昭和九年設置。〔下浦村〕熊本縣天草郡天草上島の西南部。西南は海を隔てて下島に對し北は志柿村に接し東は栖本村に界す。東北部に二〇〇米程度の山地起伏し東境を南に丘陵延び、西北部には海岸低地稍廣く開けて海岸は稍屈曲に富み、略東に彎曲して岬南方へ突出し西南端を戸ノ崎といふ。海上に小島嶋散在し上血塚島・下血塚島等著し。主生業は半農半石工にして主產物は米・繭・石材加工品なり、下浦石を特產とす。街道中部を東西に横切り東隣栖本村より西方下島へ通ず。

〔下浦〕大分縣北海部郡にありし村。昭和八年他の二町と共に廢して津久見町を置く。

シモウワ　下宇和村　愛媛縣伊豫國東宇和郡の南部。北は田之筋・溪筋二村に、東は野村町に、西は宇和町に、西南は玉津村に、南は北宇和郡立間・成妙・三間の三村に界す。四國山地の西端の海に迫る所を占め、村内山岳重疊して谷深し。宇和川西北より中央に至り更に流路を東北に轉じ肱川に注ぐ。流域の處々に爽長なる沖積平地ありて耕地拓け、米・繭の產あり。また三椏・楮を栽培して和紙の原料とす。村内明間・鎧山あり、マンガンを產す。村道は宇和川左岸に沿ひ西の宇和町と、東の野村町に連絡す。此地古くは和名抄、宇和郡石城郷の地、近世永長郷と稱し、西圓寺氏の舊邑とす。村名は宇和町方面より流れ來る宇和川の下に當るより起る。

シモエガワ　下江川村　栃木縣下野國那須郡の南部。鳥山町の西北。

東より北は七谷村・那珂村・上江川村、南は向田村、西は鹽谷郡寒達川町と隣す。西部より南境にかけて那珂川の支流荒川東南に流れ、中央にも小支流江川同じく東南に流る。また東隣七合村を隔てて那珂川本流にも近し。流域には細長き低地ありて畑地及び田地をなし、その他は低き山地にて森林あり。生業は農業を主とし、米・煙草・麥を主産す。縣道は鳥山町より來り村の中央を西北に走りて寒達川町に通ず。省線鳥山線は村の南方を東走し、南隣荒川村に大金駅、鳥山町に鳥山駅を設く。此地は和名抄、那須郡篠田郷の地にして、大字篠田は蓋しその遺稱ならん。此地に古く那須の出城たる河合城ありて大永年間、城主河合出雲守安則の宇都宮勢と戰ひたる記錄あり。〔加茂神社〕大字月次に鎮座。郷社。祭神、別雷命。元明天皇和銅年中山城國賀茂大神を勸請せる所と傳ふ。もと加茂大明神といひ、領主鳥山大久保氏代々崇敬す。例祭陰曆三月二十五日。

シモオータ 下太田村 和歌山縣紀伊國東牟婁郡の南部。那智町に南隣し、東北隅は勝浦町に接し、東部僅に海に面す。その南は太地町に隣り、南は下里町に界して玉ノ浦に近く、西南は田原村、西北は上太田村に續く。面積七・九四方粁。西南境に八郎山（二五〇米）ありて西南部及び東北部は山地をなし中央に太田川流れて西北より東南に開く谷を造る。東部海岸は山地海に迫りて低地乏しく海岸線僅に約〇・五粁位にして、その北に那智町の海岸を同じく〇・五粁ばかり隔てて富村域の狹き海岸あり。此地も山地海に迫り小屈曲をなす岩石海岸なり。中央低地は耕地よく拓け米・麥・甘藷の産地にして、山地は太平洋の暖潮の風をうけて森林よく繁り木材・薪炭を出す。海岸は水産業行はる。東部海岸に省線紀勢中線走り太地町に太地駅あり。東北方約〇・五粁に湯川駅（那智町）あり。熊野街道は東海岸を屈曲しつつ南へ走り東隣太地町に出で更に東南部を掠めて南隣下里町より西南方に通ず。中央の谷には下里町より西北方に走る道路あり。この地は上太田村と共に近世太田郷と稱せし處。明治二十二年、庄・市屋・中里・下和田の部落を合併し下太田村を建て以て今日に至る。大字市屋は吉野熊野國立公園の内。〔大泰寺〕臨濟宗妙心寺派。定光山と號す。もと天台宗にして傳教大師の開創に係り寺産五十石を有せり。のち曹洞宗に轉じ、寛文年中更に現宗に轉す。寶山和尚を中興開山とす。

シモオーツ 下大津村 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞浦の北岸にあり。東は牛渡村、北は美並村、西は上大津村と隣す。村の北部は丘陵地をなし、南部は霞浦沿岸より丘陵との間につづく低地あり水田を見る。主産物を米となす。霞浦に沿ひて村道一條あり、豪落もこれに沿ふ。古くは和名抄、茨城郡大津郷に屬す。その後の沿革はいと詳かならず。〔南圓寺〕大字加茂にあり。新義眞言宗豐山派。五智山光明院と號す。應永三年祐山法師の開創に係る。のち衰類せしも寶暦の頃圓瑞法印再興す。鎌倉時代は小田領常陸眞言宗四大寺の一と稱せられ寺領十石を有し、塔頭二院、末寺九箇寺を統べし巨刹たり。

シモオーノ 下大野 【下大野】秋田縣羽後國北秋田郡の西部。鷹巣町の西南約三・五粁、東南は上大野村に隣り、西は山本郡馬喰村に界す。東部は大野臺に連續せる一帶の丘陵地にて蟹澤山（一六七米）巻え、西境に長鞍山（三四四米）ありて東に傾き、中部を米代川の一支阿仁川曲流して北西に流れ、沿岸に沖積地を作る。然も山林・原野多く國有林は村の全面積の半に達す。耕地は阿仁川沿岸に分布し、農業戸數は全戸數の八三%に達す。自作農比較的多く、生産方面に於ては農産物・林産物を主とし、農産物にては米・豆類・馬鈴薯等あり、また養蠶・木炭製造も行はれ、馬は勞役馬としてよりも仔馬を得る意味よりして飼養せらるるもの多し。據新前の沿革は記錄無きを以て詳記し得ざるも、今を去る四百餘年前開拓せられたる地の如し。明治四年七月廢藩置縣、同六年第二大區第三小區となり、同十二年戸長制度に改め同十六年戸長役場を廢し組合役場を置く。後改めて木戸石・八幡岱新田・増澤・麻生・駒根山の五箇村を組合とし木戸石外四箇村戸長役場と稱せり。明治二十二年二月元七箇村、上杉・下杉・川井・道城・木戸石・八幡岱新田・増澤を以て一村編成し大野村と稱し役場を木戸石に置く。同二十五年大野村を二分し、上大野村・下大野村の二箇村に分離し現在に至る。麻生は米代川舟運の要地にして、米代川本流上り阿仁川に至る分岐點なり。阿仁川は所謂阿仁舟と稱する特別なる小型船にて通行せしものなり。今は鐵道交通に壓倒せられて昔日の俤なし。

【下大野村】茨城縣常陸國東茨城郡の東部。那珂川下流の南岸。東は磯濱町、南より西は稻荷村・上大野村、北は那珂川を隔てて那珂郡飯町・勝田村と隣す。面積九・七八平方粁。今村平地にて中部及び西境附近には水田多く、他は畑地をなし米・麥の産少からず。水戸市へは縣道を通ず（約六粁）。古くは和名抄、那珂郡志萬郷に屬す。近世此地に淺津ありて小泉ノ渡といふ。また平戸は常陸風土記、那賀郡の條に平津駅とある地とす。域内に平貞盛の宅址と傳ふるものあり。吉田祀、應安元年田在家の沽券に、賣主大野郷住人兼家と見え、また石川家幹の八男（光幹）は八郎・大野・大泉・小泉・前野・蛭町・田谷等の先祖たる由、同文書中に見ゆ。また石川舊記に大野經幹、吉田文書に大野入道法本とあるは皆其裔とす。

〔長福寺〕大字鹽ヶ崎にあり。天台宗。鹽崎山密藥院と號し上州世良田村長樂寺に屬す。舊時水戸十箇寺の一。興國中の創立とも、また應永三年の創建ともいふ。開山は宰相阿闍梨榮和尚なり。のち數度の災厄に遭ひて舊記を失ひ其沿革を詳かにせず。

シモオーミ 下大見村 靜岡縣伊豆國田方郡の中部。修善寺町の東方約四粁。北は北狩野村に、南は中大見村に、西は下狩野村に、東は宇佐美村に界す。狩野川の一支大見川に跨り、東部は熱海火山脈の西山麓を占め、東北隅に巣雲山（五八一米）あり、西南部また四五百米の山地の裾をなし、この裾合を大見川西北に貫流し、狹き沖積平野を作れり。平地には水田あり、山地は樹林または草原をなす。農業を主生業とし林業これに次ぐ。東海岸伊東町より修善寺に通ずる縣道、大見川の右岸に沿うて走る。村に巣雲山航空燈臺あり。燈質白熱電燈閃白光にて一二〇萬燭光、光達距離晴天の暗夜約五〇粁。古くは和名抄田方郡久寝郷の内に屬せしものか。中世は上大見村・中大見村と共に大見郷と稱せらる。

シモオガワ 下小川 【下小川村】福島縣磐城國石城郡の東北部。南は平市、東は大野村、西は赤井村、西北は上小川村に隣接す。南北約八粁、東西約二粁の狹長なる形をなす。北に二ツ箭山（七一三米）ありて南方に傾斜し、東南部は丘陵をなし、西南部は夏井川の流域にて耕地多し。北部及び東南部の斜面及び丘陵地には牧場あり。米・繭・馬を産す。磐城街道は村の東南部を略々南北に通じ、南方平市へはバスの便あり。また村の南部に於て此の街道より分れ東方四倉町へ通ずる道路あり。鐵道は村の西方赤井村の省線磐越東線小川郷駅へ出でるを便とす。此地もと小川と稱せしがのち上下の二村に分れ、いま上小川村と共に組合町村をなし役場を本村に置く。また佐竹義篤の次子義藤、この地に在名を稱し、小川又二郎と稱す。村内には福島炭礦の鑛區詩る。〔二俣神社〕大字下小川に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣命。創建年代詳ならざれども、貞觀二年の勅請創祀と傳へ式内社たり。小川入道義綱及び内藤氏の崇敬厚し。例祭九月十五日。〔長福寺〕眞言律宗。小川山と號す。元亨二年小川入道義綱の創建に係り、慈雲寺開山とす。當時一山の堂宇宏壯にして塔内に十二坊を有せしが、慶長八年災厄に遭ひ一山焦土と化す。後七年にして堂塔は再興す。然るに同十四年より慶年に亘り三度災上し諸堂宇鳥有に歸す。のち漸次復興せられしも舊觀に及ばず。現に一宗の別格本山たり。

【下小川村】茨城縣常陸國久慈郡の西部。久慈川に跨る。東は諸富野村、北は上小川村、西より南は那珂郡檜澤村・山方村と隣す。八溝山脈中の一部を占め、全村山地にて西境は約四七〇米あり。東北境に近く男體山（六五四米）ありて東境はそれに續く山地をなす。村の中央は東西南山地の裾合にて久慈川南流す。その流域は耕地拓け米麥を産するも、他は山地にて森林多し。川に沿ひて茨城街道（縣道）あり、北走すること約九粁にて大子町に至る。省線水郡線もまたこれに沿ひ、村内南部に下小川駅（大正十四年設置）、北部に西金駅（大正十五年設置）を置く。古くは和名抄、久慈郡條戸郷の内に擬すべきか。大宇西金は奥州街道に當る。新志に據れば此地に鑛脈ありて中より銅造の鍋鑄貨見せりといふ。

シモオシ 下忍村 埼玉縣武藏國北埼玉郡の西部。熊谷市の東南約五粁、忍町の南隣にあり、東は埼玉村、南は北足立郡吹上町・小谷村・箕田村に隣す。面積七・〇〇平方粁。武藏野平地の一部にして緩漫なる起伏あるも、一般に土地低平、元荒川南境を曲流をなして東南に流れ、灌漑排水の便よく水田開け、米の裏作には多く麥作を行ふ。省線高崎線の吹上駅（吹上町）に近く、國道中山道より分れ忍町に至る縣道東部を貫通し忍町・吹上町に各バスを通ず。此地は和名抄埼玉郡埼玉郷の地にして近世、忍正に屬す。

シモオバラ 下小原 樺太廳豊道大疊線の駅（昭和九年設置）。樺太留多加郡留多加町にあり。

シモオバル 下小原 鹿兒島縣肝屬郡串良町の大字。省線古江西線の一駅。小原駅（大正十年設置）を置く。

シモカイフ 下海府村 新潟縣越後國岩船郡の西北海岸。村上町の北方約十粁。北は八幡村に、南は上海府村に、東は黒川俣村・鹽野町村に界し、西は日本海に臨む。東境の蒲萄山（七九五米）・新保嶽（八五二米）一帶の山脈西海岸に迫りて沈降海岸幼年期の地貌を呈し、岩石多く、西の線不知に對する越北の暴險をなせり。蒲萄川は、北部を西流して海に入り、その他蓬莱川・今川・笹川・桑川等數條の細流蛟行して海に注ぐ。全村略んど森林をなし、中部山地に、高倉嶽山あり。漁業を主生業とす。省線羽越本線及び縣道海岸に沿ひ、桑川駅・越後寒川駅（何れも大正十三年設置）あり、冬季雪の難所たり。古くは和名抄、弊鮏郡俣戸郷の内に屬せしものゝ如し。本村の海岸は卽ち奇勝を以て知らるゝ海府浦の一部にして指定名勝天然記念物たる笹川流は本村地内にあり。→海府海岸

シモカサイ 下笠居村 香川縣讃岐國香川郡の西北隅。東は香西町に接し、南は山を以て上笠居村・綾歌郡端岡村に、西は同じく王越村・松山村に隣し、北は瀬戸内海に濱す。大崎山（二〇七米）・虹ノ峰（二四七米）・串ノ山は海中に突出し、島水灣・生島灣を抱く。此等丘陵は地形上所謂メーサにして、頂上は平坦開墾地をなす處多し。地域は丘陵に富

み、住吉川・龜水川流域には田地を見るも、畑地多く、住民は農業を主業とし、米・麥、各八萬圓)を始め、除蟲菊(三萬圓)・果物(八萬圓)・煙草(一萬餘圓)を産す。殊にこの地域は綾北山塊の北東部にて、その東西山腹は日當りよき斜面地をなし理想的果樹地帶を形成し、蜜柑・柿・葡萄・林檎・茂木枇杷を栽培、高松市を始め、阪神地方にも移出す。副業として養蚕・養蜜を奨勵し、鶏卵産額約五萬圓を數ふ。また村の東北なる神在の濱は原料並に輸送上の地理因子に惠まれ窯業發達し、瓦・土管等約十萬圓の産額あり。海岸殊に龜水川・生島川には鹽田發達し、約三六ヘクタール、四百六十萬瓩、十八萬圓の産額を有す。縣道下笠居・高松線が村内を東西に貫き、定期自動車は高松市との間を往來し、海岸には龜水・生島の兩灣並に神在港あり、海上の交通不便ならず。本村古くは和名抄、香川郡笠居郷に屬し、笠居の名は中臣宮處本系帳には鮮見臣中臣笠居遠等祖なりとあり。神風抄には讃岐國笠居御厨内宮と見え、造家處分記にも記され、藤原氏の傳領たりしが如く、中世には香西氏地頭となり、香西家の根據地となる。明治五年區劃設置の際第四十一區となり、同七年第十八大區七小區となり(笠居村・飯田村・鶴市村・郷東村)、同八年第六大區と改め、小區元の如く、同九年第一大區九小區驛合村元の如く、同十年九月第四大區と改め小區元の如く、同十一年廢區置郡の際に一村獨立し、同十四年三月上笠居村・中笠居村(香西町)・下笠居村三ヶ村に分割、各獨立し、同十七年十二月元の笠居三ヶ村聯合中笠居村に一役場を設置し、同二十三年二月村制を實施、三ヶ村各獨立して現今に及び、植松・川窪・中山・生島・龜水の五大字に分る。本地方は早く住民を有し龜水川畔の貝塚址、丘陵上の石鏃發見地等先史時代の遺跡を始め、彈正原の石室墳・神在濱附近の丘陵頂の古墳等原史時代の遺跡も多く、社寺には郷社宇佐八幡宮(香西町)の神船は本村宮浦に御着ありしと傳へ、加茂神社・住吉神社等あり、寺院には有名なる根香寺あり、神在濱は菅公寄航の遺跡なりと。海岸一帯は景勝に富み大字龜水・川窪の一部は瀬戸内海國立公園に入る。〔根香寺〕天台宗寺門派。青峯山千手院と號す。四國八十八所第八十二番の札所。翌海の遺跡と傳へ、もと當國天台宗十七檀林の上級にて七觀音の一に列す。天長九年圓珍當山を開き、香木を以て佛像三體を刻みて安置せしを以て當寺の濫觴となす。爾來寺勢頗る隆盛たり。後白河天皇御宇勅願所と定められ、保元年中崇德天皇屢々當山に行幸あらせられ後夜谷の風光を愛で給ふ。のち兵火に罹りて一時衰頽せしが國主生駒氏・藩主松平氏等の依歸を得て舊觀に復す。いま當流別格本山たり。詠歌「曙のまのたへなる霜の消えぬればあとこそ鉦の勤行のこゑ」

シモガタ　下方　岡山縣眞庭郡にありし村。明治三十四年、鹿田村と共に廢し、その地域を以て木山村を置く。

シモカタダ　下堅田村　大分縣豐後國南海部郡の中部。堅田川河口近くの南岸に位し、北と西は佐伯町に接し、東は本立村に、南は青山村に界す。全村山地起伏し、西部には堅田川北流して北境に出で東に轉じ東北境を流れ、其北約〇・五粁にて番匠川に注ぎ三粁餘東北にて佐伯灣に流入す。川に沿ひて稍廣濶なる沖積低地拓け水田をなす。米・麥・甘藷を産す。省線日豐線佐伯町に通じ北方約五粁に佐伯驛あり。この地は近世上堅田村と共に單に堅田村と稱せらる。岡田帳に佐伯庄堅田村六十町と見ゆるは此地とす。

シモカナイワ　下金石　石川縣石川郡にありし町。明治三十一年大野町と改稱し、大野町は昭和十年金澤市に編入す。

シモカナヤマ　下金山　北海道石狩國空知郡南富良野村の大字。根室本線の下金山驛(大正二年設置)を置く。

シモカノ　下狩野村　靜岡縣伊豆國田方郡の中部。修善寺町の南に接し、東北は北狩野村に、東は下大見村に、南は中狩野村に界す。西境を頂點とする細長き三角形をなし、達磨山東斜面の一部を占め、東部は天城山脈の山麓に當る。狩野川はこの兩山地の間を北流し、細き平野を作る。傾斜面は樹林または荒地なるも平野には水田拓く。主産物は米・繭にして林産これに次ぐ。下田街道は狩野川の左岸に沿ひ、右岸にも一條の道路通ぜり。この地は和名抄、田方郡狩野郷の内にして、近世の狩野庄に屬す。大字加殿は天正十八年檢地帳に「豆州賀郡狩野庄、伯代之郷、門野村」とある門野の地にして、大字本立野・小立野は往時漉紙の製造行はれしことありと。大字田代は田代氏發祥の地にして、田代冠者信綱勇略あり、源義經西征の役に策を献じて逆徒せしこと、源平盛衰記に見ゆ。〔妙國寺〕大字賀殿にあり。日蓮宗。玉澤妙法華寺末にして、妙法華寺三世日運上人の開創。文祿三年北條氏の兵亂あり、本山妙法華寺鎌倉より此に墓を遷すといふ。附近に日蓮ヶ潟なる宗祖の遺跡あり。現堂宇は德川家康の側室お萬の方の發意に依りて建立せられしものと傳へ、いま寺寶にお萬の櫛、表にお萬の袴等殘る。お萬は紀州銀冨・水戸銀房の二子の母、容姿端麗「お萬髪の毛七尋八尋三つばつなげば淺戸迄屬く、牛につけても十駄に餘る、馬につければ尚餘る」と當時俗謡にまでうたはるといふ。

シモカマカリジマ　下蒲苅島村　廣島縣安藝國安藝郡に屬し、賀茂郡の南方海上にある下蒲苅島と上蒲苅島の西部を占む。東は上蒲苅島村に接し西は倉橋島に、南は上黒・下黒二島に、北は賀茂郡仁方町に各々海を隔てゝ相對す。瀬戸内海の陷落の際に生ぜる多島群の一にて上・下蒲苅島共に高さ數百米の山塊をなし海濱に向つて急斜す。下蒲苅島の南北兩岸の一部に、三角形の入江をなす所あり。砂濱の沖積作用行はれて肥沃なる平地をなす。山峡及び海濱の傾斜地には米麥を産し、山地からは温州蜜柑・ネーブル・巴旦杏・桃等の果實を多産す。また近海は豐富なる漁區をなし鰯・鯛等の漁獲も多し。明治二十四年、蒲苅島村を分割し本村を置く。

シモカモ　下鴨　〔下鴨〕京都市左京區の地名。賀茂川と高野川との合流點の三角地帶を占め、賀茂御祖神社(鎮座)の賀茂別雷神社を上賀茂社と稱するに對し此社を下鴨社といふ。地名は、これに因むこゝもと下鴨村と云ひ愛宕郡の村なりしが大正六年市に編入せるもの。いま市の住宅地帶となる。

〔下鴨里〕播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄には見えず。いま兵庫縣加西郡下里村とす。隣村加茂村は即ち上古の上鴨里の地とす。播磨風土記「下鴨里(土中中)……號二鴨里一者、品太天皇應神)之世於二鴨村・雙鴨作一栖生一卵。故曰二賀毛一」

シモカモ　下加茂　〔下加茂〕岡山縣兒島郡にありし村。明治三十六年、本村外二村を廢し、その地域を以て莊内村を置く。

〔下加茂村〕廣島縣備後國深安郡の西部。福山市の北方約七粁。北は廣瀬村に、東は加茂村に、南は上岩成村に界す、西は法成寺村及び蘆品郡服部村に界す、面積三・七九方粁の小村。神邊盆地の北崖上の一部を占め西及び北は約一〇〇米の丘陵より成り、その東麓を北より南流して狐地を横斷し蘆田川に注ぐ河川あり、その流域及び蘆田川左岸に廣き沖積平地拓け、米麥の産多く蒙竇も行はる。山間の中心地東城町と福山市をつなぐ街道の通路に當るも交通なほ便ならず。古くは史實の徵すべきものなし。いま法成寺村と組合村をなし、役場を本村上組に置く。

シモカワ　下川　〔下川村〕北海道天鹽國上川郡の東北部。上川支廳管下。西隣に名寄町・多寄村・風連村、北及び東に北見山脈の諸嶺を界し北見國紋別郡、西北に中川郡、南に上士別村あり。面積六七二平方粁。北見山脈西斜面に位し、ウエンダリ岳(一一四二米)・ピヤシリ山(九八七米)の外、全村五〇〇米以上の廣袤たる山地勢なり。名寄川は東南山中より發し村心を西流し北より來れるサンル川を合して名寄町に至る。開墾地・耕地・農場流域にあり、森林著く蔽ひ、その大部分は御料地帶なり。省線名寄線名寄町河谷沿ひに東西に通じ西方名寄町に至る。一ノ橋(大正九年設置)・下川・上ノ名(以上大正八年設置)三驛を設く。人口稀薄(密度一三人)なるも、此の沿線に最も密なり。米・燕麥・馬鈴薯等を産し、三井殖産鑛山よりは金・銀・銅を産す。本村は大正十三年名寄町より分割して設けるもの。〔三井殖産鑛山〕本邦重要鑛山の一。下川村に屬し、名寄線下川驛の北西一六粁に位し、この間道路平坦にして車馬を通ず。鑛床は第三紀頁岩・凝灰岩・角礫岩等を略ぼ東西に貫く石英脈にして南に四〇—五〇度の傾斜を示し、厚さ平均二米、最大一五米に達し、延長一〇〇〇米を超ゆ。その發見は大正六年にて、其開發は昭和元年三井合名會社の手に歸して以來にして、其後、三井鑛山會社の手に移り昭和八年以來青化製錬を開始して金・銀を得、昭和十年金三二九瓩、一〇一・三萬圓、銀一、八三六瓩、一二、七萬圓を產せり。

〔下川村〕岐阜縣美濃國郡上郡の南端。北は桐生村を距てゝ八幡町に接し、東は西和良村・武儀郡上之保村及び富之保村に、南は同郡洲原村に、西は嘗田村に接す。美濃高地の中部を長良川が曲流をなして切る所に當り、南部は水晶山(五四三米)あり。長良川沿岸は樂園多く、谷には郡上街道が八幡町方面に通じ唯一の交通路となり、近年は省線越美南線開通し、美濃下川(昭和二年設置)・苅安・深戸(共に昭和三年設置)の三驛を置く。此地古くは和名抄、郡上郡郡上郷の内に屬す。福野の生命とも云ふべき福野用水は福野坂の麓を掘抜ける用水にて福野の田園これに依つて開かる。寛文年間新田奉行高田屬左衛門・縄村市兵衛の設計にて開通したるものにて村民今なほ其德を仰ぎて年々祭禮を行ふ。大字梅原に郷社白山神社あり。祭神は伊弉冉命・伊弉諾命・菊理姫神にして、養老元年、泰澄法師加賀國白山を開創し、同五年當社を著むと傳ふ。その後貞觀九年・建久九年・元祿十三年に社殿再建あり。九月十一日の例祭は賑ふ。苅安驛を出づれば東方の林廣院山低く連り、其麓に林廣院あり。當寺は後花園天皇の御代嘉吉元年の開創にして藤原高光の菩提寺たり。此附近に浮土舊宗の乘性寺あり。當寺は正嘉元年戸谷道場と云ひ、下總國千葉の領主千葉胤行郡上に封ぜられ、老後領土を子の行氏に讓り隱遁し創立せしもの。初め天台宗なりしものち親鸞上人の弟子となり本願寺に轉派し、其後、東常縁この寺に籠り和歌を研究し風行より十六代の孫八幡城主遠藤慶隆の母照圓院殿は此寺に住し終に遠藤家の菩提寺となりて戸谷庵と號す。のち慶隆の法名深心院殿乘性且齊の乘性を取りて乘性寺と寺號を改む。

〔下川村〕愛知縣三河國北設樂郡の東部。豐橋市の東北約四五粁。北は國村に、南

は三輪村に、西は本郷町に各々隣る。附近の山地は第三紀層より成り、振草川が西より東南へ曲流をなして流れ、この流域に僅かに耕地あり。別所街道は西部を通過す。山間部のため交通の便悪しく、鐵道は南方浦川村を社線三信鐵道が通じこれに出づるを最も便とす。本村は明治三十三年七月、西隣本郷町と分割して獨立し本村を置く。

【下川】 愛知縣八名郡にありし村。昭和七年石巻村大字多米・賀飯郡下地町・渥美郡高師村・牟呂吉田村と共に豐橋市に編入さる。

シモカワイリ　下川入村　神奈川縣相模國愛甲郡の東部。東は依知村に、北は中津村・西より南は三田村と隣す。面積〇・六三平方粁の極めて小村なり。相模川流域平野の一部を占め、西南境をその支流中津川南流す。一部水田にて他は桑畑をなす。縣道、中央を南走して厚木町（約六粁）に通ず。此地は近世、愛甲郡毛利庄下川入郷の内にして川入村と稱す。元祿の頃に既に下川入村と稱し延享の頃に下の字を省きしことありといふ。いま三田村・林村・妻田村・棚沢村・及川村と組合町村をなし、役場を三田村に置く。慶安の頃より貞享中は大久保新八郎康明の知行せし地にして、元祿十三年牧野備前守成春に賜ひ、のち大久保佐渡守忠保・長澤大蔵・前田織部・建部六右衛門廣載等の知行所とせし地。

シモカワオーチ　下川大内村　秋田縣羽後國由利郡の北部。米荘町の東北約九粁、龜田町の東に隣り、東南は上川大内村に界す。南境に墨森山（五三〇米）聳え北に延びて藤師山（三七二米）となり、西北東の三面も山地を繞らし、此間、子吉川の一支岩谷川の二上流は本村西部にて合一し、各溪谷に低地を作りて耕地開く。農業を主とし、米の外に大豆・小豆・蒟蒻の産、馬・養蚕も盛にしてまた山地よりは木炭を出し本荘町・秋田市・東京市場へ移出さる。縣道は岩谷川の二上流に沿うて大曲本荘線・刈和野街道通じ、西部にて合一し本荘町に至りバス通ず。本村はもと龜田藩に屬し明治四年廢藩置縣の後區制施行に際しては第四大區第五小區に所屬す。明治十二年各村に戸長を置き同十六年に至り一村戸長を廢し組合役場を二ヶ所に設置す。同十八年新澤外八ヶ村戸長役場を置き、同二十二年町村制實施に當り平岫を合して下川大内村と稱し役場を新澤に置く。

シモカワグチ　下川口　【下川口村】 京都府丹波國天田郡の東北偏。福知山市の西北部に接し、西部は上川口村に接し北は金山村に隣る。東北は丹後國加佐郡河西村に續く。稍南北に長く、面積一〇・〇六方粁。西北部は二〇〇米程の山地、西南部にも約三〇〇—四〇〇米の山地あり、中部は東境を北流する由良川に沿ふ低地にて、支流牧川東に流れて本流に合す。低地は田地よく拓け米・麥・甘藷を産し、東南部には桑園ありて養蚕行はれ繭の産多し。福知山市より由良川の西を北方に通じて加佐郡河守町方面に向ひ、之より岐る一道は金山村を經て與謝郡加悦町方面に至る。社線北丹鐵道東部を南北に走り上天津駅・下天津駅（共に大正十二年開業）を設け、また省線山陰本線上川口駅（上川口村）にも近く交通便利なり。和名抄、天田郡川口郷あり、往時は上・下川口を合して川口郷と呼べり。村内に天津の地名あり、いま上下に分れ共に大字名たり。地は犀浪山の麓なるにより、延喜式前浪（花浪の誤りならん）駅のありし處ならんといふ。

【下川口村】 高知縣土佐國幡多郡の南部。東は三崎村に、北は三原村に、西北は小筑紫村に、西は月灘村に界し南は海に臨む。幡多山地の南部を占め高距約四〇〇米の山嶽廣く蟠居して海に迫り、百米乃至數十米の急崖をなして海に沈む所、及び山地の端に僅に砂濱地を開く所あり、西北の山地より東南に溪谷通り宗呂川そこを流れ中流は水無川をなし、下流にてまた地上を流れ河口に少しの沖積地を開く。西南境に近く具ノ川流れ、西北方より東南方に山地を切りて溪谷を作るも平地殆んどなし。從つて村の主産業は水産業にして鰹・鯖等の産多し。宗呂川口の下川口は主邑にして漁村なり。附近には僅かながら農業も行はる。南端叶岬には燈臺あり。北緯三二度四二分、東經一三二度三三分の地點に位し、白色四角形の八角形の錆瓦造、燈質不動白光、光達距離一七・五浬に及び、明治四十四年の初點とす。沿岸を傳ふ縣道及び下川口から宗呂川の谷を通り小筑紫村落に行くものと途中にて分れ、三原村を經て中村町に行くものとあり。この地は明治二十二年下川口・片粕・宗呂・有水・具ノ川・大津（いま何れも大字となる）の六舊村を合して本村を置く。鄉社春日神社は大字下川口に鎮座し、天津兒屋根命を祀る。例祭、十月二十日。

シモカワサキ　下川崎村　福島縣岩代國安達郡の北部。東は阿武隈川を隔てゝ太田村に、南は上川崎村、西は遠川村、西北は信夫郡金谷川村、東北に伊達郡飯野村に隣接す。全村緩れ丘陵地なし、松川はその中央部を東流して阿武隈川に合す。阿武隈川は丘陵地の間を先行して北流す。西北部には水田、東部には桑園あり、繭・米を産す。道路には村の中央を東北より西南に通ずるもの、及び北の一部を略々東西に通ずるものあり。前者は西南方二本松町に、東北方川俣町に達す。後者は東方飯野村を經て川俣町に、西方松川村に達す。省線川俣線は村の北部を東西に通じ、東方岩代飯野駅、西方松川駅への便あり。此地はもと川崎と稱せしが、のち上下の二村に分れしものなり。（高國寺）岡田にあり。曹洞宗。靈光山と號し、天文十二年川崎次郎宗顯、上野介高國の宗廟を創立し利貞殿益和尚を請じて開山とす。本尊に高國の守本尊たる虚空藏菩薩を安置す。のち炎上せしが再建せらる。

シモカワ　下川路　長野縣下伊那郡にありし村。大正十五年川路村と改む。

シモカワズ　下河津村　靜岡縣伊豆國賀茂郡の東南海岸。河津川の下流に沿ふ。西北は上河津村・東南は稲取町、南は白濱村に界し、東は海に面す。天城山脈の東南端をなす四五百米の豪地海岸に迫り、西北より流れ來れる河津川略中央を貫流して海に注ぐ。河沿ひに細き平野あり、多少の耕地を見るの外、山地は略ど樹林・草原をなす。漁業を主生業とし、石花菜の採集盛なり。傾斜地には山葵を栽培す。河津川の右岸に谷津・根津・峯の温泉湧出せり。海沿ひに伊東町より下田町に至る縣道あり、之より河津川の谷に沿ふ二條の道路分れ出で下田街道に結び修善寺町に通ず。此地は和名抄、賀茂郡川津郷の内に屬し、中世は上河津村と共に河津庄と稱せらる。工藤氏の族此地に居して河津氏を稱す。即ち曾我兄弟の實父河津祐泰は此地の人なり。村内谷津八幡神社の傍に河津城址あり。河津祐泰の居城なりと。其城内に同氏の墳墓と稱するものあれど、七百有餘年の星霜を經過せる碑石なるを以て、宇形詳かならず。また城址の前面に一個の井あり。軍備上繁穿せしものなりといふ。また大字筏原に河津堡址（いま城山といふ）ありて南方に空堀を存し焦米を出す。往古藤山和泉守・同勘解由の居城なりしが敵に攻められ、兵火のために落城すといふ。山下の藤山といふ處は、其宅址なりと。（鑛地鑛山）南伊豆第一の金山。鑛區は白濱村・稲生澤村にも亘る。慶長年間大久保岩見守長安、金山奉行として採掘し、慶長大判小判の地金を掘りしに始りや今なほ採掘せられつゝあり。當時伊豆は黄金の國として、修善寺・土肥・金山等の各金山同奉行の手にて管さる。その内鑛地は殊に繁昌し、最盛期には戸數八千戸、寺七戸を算し、その產金の量は佐渡の金山を凌ぎ、いまの雲上金山（三五〇米）にて最も多く採掘せられしといふ。此金山は初め豐臣秀吉が採掘せしを、引續き家康が掘りしものと傳ふ。（新町の大蘆鐵）指定天然記念物。根元より數本の大支幹に分れ中央のものは基部の周圍約二米高さ約八米に達す。樹勢旺盛、蘆鐵の瓦樹として代表的のもの。（沙棹別命神社の大樟）指定天然記念物。一株。目通幹周約一四米、高さ約二四米に達し樟の瓦樹として有數のものなり。（峯温泉）泉質、カロールナトリウムを多量に含有する鹽類泉にして溫度八三—一〇〇度。療養向。近年掘鑿されしものにて高さ約三〇餘米の大噴騰あり。東洋第一の壯觀を呈す。一分間の湧出量約一八二リットル、熱泉は湯鹽と共に轟々たる音を立てゝ噴出す。後に薙木山、前方に河津川を隔て田圃開け、附近に溫度低き鑛（花田）溫泉あり。夏期に梅・櫻・菖蒲・杜若・紫雲英など咲き氣れ、曾ては花田の里と呼び繁昌せしが、一度廢滅し最近に至りて復活せしもの。氣候良く避暑避寒に適す。附近に德川家康の妾お萬の方の生家と傳る家に大蘆鐵あり。今この溫泉を畑に導き花菖蒲の促成栽培を行ひ切花として東京地方に送る。此溫泉はまた東方山を越えて海岸にある今井濱溫泉の原湯となる。（谷津溫泉）峯より南方約一粁。泉質、無色透明の鹽類泉。溫度、九九度。療養向。天城の峯巒三方を繞り天嶺山を負ひ河津川の清流を隔てゝ城山の翠巒に對し風光明媚。（今井濱溫泉）泉質、弱食鹽泉。溫度七〇度。峯溫泉を源泉となす。療養向砂風呂の設備あり。伊豆大島を望み白砂青松風景頗る佳し。今井濱一帶の海岸は夏期海水浴場として賑ひ附近一帶別莊地たなす。（見高石器時代住居地）大字見高、見高小學校構内にあり。遺蹟場内三ヶ所に散在せるも、東南に存する住居地は原狀を遺し、南北二米、東西一米六五内に平石を中央に敷き、平石の間隙は丸石を以て塡充し、中央に石をやゝ高く置ける爐を設く。發見當初はこの爐上に完全なる甕が置かれたりといふ。また附近に無頭の石棒を立てその上に四石を覆ひ、周圍に種々の石を置ける場所も發見され、更に爐及び石敷の半分を遺せる住居地もあり。これらの地より多くの石器及びアイヌ式土器の破片等を發見す。この住居地は相模灣に突出せる產地にて、東南に小港を控へ展望廣く景勝の地を占む。石器時代アイヌ民族の據りし城塞地と察せらる。（河津三郎邸跡）濱稻より谷津・峯に至る道路の左側に、河津三郎を祀りし河津神社あり、神社の傍、桑畑中に若葉したる二基の五輪塔あり。此地即ち河津三郎祐泰の館址なり。なほ村内稱念寺にも三郎の靈牌を安す。　栖足寺）大字谷津にあり。臨濟宗建長寺派。風張山と號し、元應元年德瓊の開創に係り、永享年中足利持氏之を修造す。のち北條氏の時、毎年六月朔日、當寺より新米を貢獻せしといふ。（林際寺）大字澤田にあり。臨濟宗建長寺派。虎杖山と號し、正平十七年上杉安房守靈方の開基にて道秀和尚を開山とす。のち衰類せしを寛政二年本堂を、明和元年庫裡を再建す。（普門院）大字逆川字芝原にあり。曹洞宗。高松山と號し天平年中行基菩薩の開創と傳へ、永享九年足利持氏の歸依に因り、鈴木某の開基に係る。開山は穩庵和尚にして末寺四十九ヶ寺を有す。（專光寺）大字谷津にあり。眞宗本願寺派。佛法山と號し、慶長年中了玄法師の開創に係り、もと鄕地にあり

した現地に移す。寺寶中、聖徳太子像は行基菩薩の作なりといふ。

シモカワリエ　下川沿村　秋田縣羽後國北秋田郡の北部。大館町の西に隣り、東南は上川沿村に界す。北部に丘陵遠りて南に傾斜し東南部は低地にして大館盆地に續く。米代川は村の南部を東西に流れ長木川は大字片山の東北を流れて大字餅田に至り下内川と合し、それより南に屈曲して大字立花に至り米代川に合す。二ツ山は片山野の西隅に聳え長木川を隔てゝ鞆迦内村の八方山と相對峙し、北方には高山ありて鞆迦内村の松峯山、山瀬村の月山と相對す。地は米代川本支流の河谷を占め肥沃にして農業盛に行はれ、田畑の面積大なり。農産物多く米の外に馬鈴薯・胡瓜・茄子・大根・午蒡・葱等は大館町・鷹巣町に近きため販賣に便なり。近來、果實の生産も漸次増加しつゝあり。馬の飼養戸數も多く養蚕さた盛なり。省線奥羽本線は村の中部を東西に通じ、大館驛（大館町）に近く、國道五號線と並行し、自動車其他車馬の便あり。本村は明治二十二年町村制實施に際し、もと片山外四ヶ村戸長役場組合たりし片山村・餅田村と、もと川口村外三ヶ村戸長役場組合たりし川口村・立花村の四ヶ村を合して下川沿村と稱することとなる。明治大帝東北御巡幸の際の御小憩所あり。戊辰役の戰場址として片山・野二ツ山あり。村内に真九郎館（東館村掲鉛淺利氏の館）・四角館（同上淺利氏の分城）あり。なほ片山部落にある村社八坂神社は牛頭天王の尊號ありて遠近よりの參詣者多し。

シモカワニシ　下川西村　新潟縣越後國古志郡の西北隅。長岡市の北方約八粁。信濃川に沿ふ。東北は南蒲原郡に、西は三島郡に、南は福戸村・上川西村に、東南は黒條村に界す。越後平野の南部を占め村の東部を信濃川北流す。水田拓けて越後米の産地をなす。信濃川は舟運の便あり、左岸を曲折して縣道通じ長岡市・與板町を結ぶ。古くは附近諸村と共に單に川西と稱せられたり。（圓福寺）大字川袋にあり。新義眞言宗智山派。應神山滿袋院と號す。もと天台宗といふ。明暦年間に實榮法印古跡を開きて開山となり、享保年間、祐性法印の再建なり。本尊の大日如來は傳教大師作と傳ふ。境内藥師堂の藥師佛は小野篁作といひ、靈驗ありとして信者多し。（來迎寺）大字李崎にあり。新義眞言宗智山派。無量壽山李崎院と號し、榮老二年行菩薩の開創に係る。もと八幡宮の別當なり。當寺には有名なる賓頭盧像あり。柳津虎雄藏堂にありしが、元祿四年中に興覺性比丘の勸請せしものといふ。

シモカワネ　下川根村　靜岡縣遠江國榛原郡の中部。大井川中流の右岸。東は大井川を距てゝ志太郡に、西は山脈を境に周智郡に界して、北は中川根村、南は五和村に接す。概ね山地にして西より東に傾斜し大井川の谷となる。西北部に發源せる細き支流あり谷を穿ち本流に合す。山地は概ね森林、川沿に多少田畑あり、米・茶を産す。林業盛にして薪炭の産もあり。社線大井川鐵道は村の東部の谷沿に通じ家山（昭和四年設置）・抜里（同八年設置）の二驛を設く。その他細き數條の道路隣村に通ず。中世に附近諸村と共に川根谷と稱せらる。天野文書永祿十二年、家康公證判に家山鑪、また同年石川伯耆守の書にも家山鑪と見えたり。蓋し鑪氏は家山の郷士にして天野の給人なり。

シモカワチ　下川淵村　群馬縣上野國勢多郡の南端に位し、利根川の東岸にて前橋市の南方にあり。北は岡市との間に上川淵村を挾み、東は佐波郡上陽村、西より南は群馬郡京ヶ島村・濁川村と隣す。全村は平地にて殆ど水田をなし、中部および南の一部に桑畑あり。農業を主とし米を産し、二毛作にて麥を作る。また養蠶も盛なり。縣道は村の中央を北走して前橋市に通ず。此地古くは和名抄、那波郡朝倉郷の内に屬し、中世は上川淵村と共に川淵と稱せらる。後上野志に據れば、力丸の舊墨江那波の一族日向守廣宗、貞治六年ここに移居し、氏を力丸と改め永和三年卒すと云ふ。両してその裔力丸佐介、天正十八年沒落すといふ。

シモカワベ　下川邊村　鹿島縣備後國御調郡の東北隅。西は諸田・上川邊二村に、南は吉野村に、東は廣島郡栗生・岩谷二村に、北は同じく河佐村に界す。面積六・一七方粁。村内は二—三〇〇米の山岳重疊して平地殆んどなし。村の中央を西南から東北方に切る廣田川支流あり、流路に沿うて狹長なる谷ひらく。また北部東境を北より廣田川本流下り中央部にて東方に轉じ隣村にて支流と合す。されど谷深く流域に平地殆んどなく僅に溪流に沿ふ狹長なる谷に耕地ありて多少の産物を出すに過ぎず。府中町より西南三原市に至る村道は支流の北岸を通る。本流東岸に沿ふ縣道あり、府中町と北方の庄原町とつなぐ。此地は古くは和名抄、御調郡伯多郷の内なり。明治二十二年、篠根・河南・曾殿・河西の四部落を合して本村を建つ。蓋し村名はこの地の御調川に沿ひて上川邊村の下流に當ればなり。

シモキイ　下城井村　福岡縣豐前國築上郡の西北部。行橋平野の南部に位し椎田町の西方約五粁。京都郡行橋町の南方約九粁。西北・北・東の三方は筑城村に圍まれ、南は上城井村に接し西南は京都郡節丸村に界し、東は周防灘に近し。東南境に約二〇〇米の丘陵あり、北東方へ次第に豪地狀に低くなりて東境を限り、西境には約五〇米乃至一〇〇米の豪地ありて、其間に城井川北東流して廣

潤なる神積低地開け、北部の行橋平野南部の低地に續く。低地は肥沃なる水田廣く豐前米の産地、其他麥・粟・甘藷の産あり。中央の谷に沿ひて一路西南へ走り北部低地に東方椎田町より西關節丸村へ東西にのびる道路と連絡す。西南部にて之より分れ西方へ至るものあり。東方海岸に沿ひて省線日豐本線走り北方約四粁に新田原驛、東方約四粁には椎田驛あり。本村の一部は和名抄、筑城郡餘橋郷の内に屬せしものなるべく、大字赤幡は蓋しその遺稱ならんといふ。（八幡神社）大字赤幡に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇・神功皇后・應神天皇・猿田彦命・天御中主命。創建は豐前國志によるに推古天皇十八年といふ。例祭、五月五日。

シモギオン　下祇園　省線可部線の驛（明治四十二年設置）。廣島縣安佐郡祇園町にあり。

シモキサイチ　下私都村　鳥取縣因幡國八頭郡の北部。鳥取市の南方約五粁なり。東は中私都村に、南は大御門村に西は賀茂村に、北は岩美郡津ノ井村及び宇倍野村に接す。面積九・六六方粁。北部及び南部は準平原面をなせる低山性の山地をなし、東南隅に鷲山（五三六米）あり。中央部は千代川支流西へ流れて流域に神積低地開く。麥・粟・甘藷を産し養蠶も行はれ、また薪炭・牛を出す。西隣賀茂村には鳥取市より東南方へ走る若櫻街道通過し、外に數條の村道あれど概して交通便ならず。古くは和名抄、八上郡私都郷の内なり。

シモキタ　下北　【下北郡】　青森縣陸奥國八郡の一。縣の東北隅に位置する斧形の半島にして、この半島を下北半島または斗南半島と稱し實に本州北端の地に位す。北端大間崎は北緯四十一度三十一分、津輕海峡を隔てて北海道渡島の汐首崎との間僅か一九粁なり。三面繞すに海を以てし南の一部地峡を以て上北郡と堺す。この半島の中央を那須火山脈通過し恐山湖を中心として恐山（八一〇米）・釜臥山（八七一米）・朝比奈嶽（九四三米）の諸火山蟠踞し、平地に乏しく、津輕海峡に注ぐ大畑川、陸奥湾に注ぐ田名部川・川内川の流域に耕地よく開け田名川の流域は郡中一の農産地なり。海岸線の延長は實に二四〇粁に達し漁業は概ね海岸に介在す。恐山湖は恐山火山の火口址に水を湛へたるものにして北岸に硫黄泉・噴氣孔あり、三途の川は火口瀑なり。地質は發達の變遷狀態により大體二區に分け、大湊町大平より津輕海峡の大畑町までの間を界とし、西部を斗南舊區、東部を斗南新區とす。舊區は第三紀末に出來、新區は第四紀の初めの變動即ち津輕海峡、日本海の陷沒せし時、隆起し成れるもの。恐山北西一帶の山巒は輝石安山岩及びその碎屑岩より成り、福浦山以西は古生層及び花崗岩の俠少なる露出あり、川内川西岸の山地、脇野澤より九艘泊に至る海岸、田名部より大畑を經て大間に至る海岸、佐井以北並に湖野澤附近の地域は第三紀古層にて、田名部以南近川に至る海岸は第四紀層。其他の平地は概ね第四紀新層なり。省線大湊線は東北本線野邊地驛に分岐し北に走り田名部を經て要港大湊に至る、未成線に田名部より分岐し大畑を經、大間に至る大間線あり。縣道は田名部を中心とし海岸に沿うて半島を一周し自動車の便よく大湊・川内・脇野澤・佐井・大間・大畑・白糠の諸港には毎日青森・函館への定期汽船發着す。津輕海峡に臨める地方は、鰯・昆布・鮑・蟹・鱈・陸奥海に面せる海岸は帆立貝・海鼠・鮭を産し、田名部川・川内川流域の米・馬鈴薯・大豆、山地の檜・杉・桐、田名部町・東通村の馬等の産多し。なほ太平洋岸野牛を中心とせる砂鐵の鑛業も將來有望視さる。もと北郡と稱し古へ糠部郡に屬し宇曾利郷と稱し、盛岡南部氏の領するに及び北郡田名部通と呼び、寛文以降は田名部の代官所の支配に屬し、明治戊辰の變革に暫く野州黒羽藩の管領となり、明治三年會津松平氏の支配の下に斗南藩と唱へ、同四年斗南縣、同十二年青森縣の管轄となり同十三年北郡を上北・下北の二郡に分けて置けるもの。同二十二年町村制施行の際、田名部・大湊・川内・脇野澤・東通・大畑・風間浦・大奥・佐井の九ヶ村となし、現在町制を施行せるは田名部・川内・大湊・大畑の各町なり。

【下北半島】　→下北郡

シモキタカタ　下北方村　廣島縣安藝國豐田郡の中部。北及び東は本郷町に、南は南方村に、西は上北方村に界す。面積一・二六方粁の小村にして人口約四七〇人に過ぎず。南半は沼田川右岸の沖積平地を占め低平なる沃野をなし北半には一〇〇—二〇〇米の山地ありて南に滑な斜面あり。農を主生業として米・藺の産あり。上北川村と共に古への製業郷の地なり。善入寺村・上北方村と組合村をなし、上北方村に役場を置く。

シモキタツル　下北津留村　大分縣豐後國北海部郡の中部。佐賀関半島の頸部を占め臼杵町の北に接し、東は海港村に隣り、東北は佐志生村に界し西は上北津留村に續く。全村山地起伏し南部に僅か小低地あり。臼杵川支流南境近くを東流し、約一粁東南方にて臼杵川口にて本流と合し臼杵灣に注ぐ。全村山地をなすため耕地面積乏しけれど麥・粟・甘藷を産す。省線日豐本線の蒲崎驛（大正九年設置）あり。附近町村と共に要塞地帶の一部をなす。古くは和名抄、海部郡丹生郷の内に屬し、中世は臼杵町等と共に丹生庄また臼杵庄と稱せらる。（井村神社）大字井に鎮座。郷社。祭神、大山積命・菅原神・大年神・豐受神外數神。もと熊崎明神と稱す。德治年間に越智忠通の伊豫大三島を勸請せりと云ふ。また永祿年間

大友宗麟攻城の守護神と仰げりといふ。例祭、五月第二の卯の日。

シモキタテ　下北手村　秋田縣刺後國河邊郡の西北部。南は上北手村に、西は南秋田郡廣山田村に界す。村内は一〇〇米以内の丘陵連亘し、太平川の一支は中部を西に流れ、西境を西南に流れる太平川に合し、この沿岸に低地ありて秋田平野に續く。丘陵の末端には幾多の小湖沼ありて灌漑の利多く新地拓くも、秋田市の經濟的勢力に壓倒され自作農少く、地籍の多くは秋田市の地主の有に歸す。農産物は米の外に野菜・花卉ありて秋田市に出荷され、また木炭の產多きも品質の劣れるために他地方の製品に壓倒されつつあり。街道は河谷に沿うて通じ秋田市にバスの便あり。大字櫟村の曹洞宗萬峰寺は名刹なり。寛永八年に建立、佐竹家の勇將梅津半右衛門憲忠の廟なり。舊寺祿五十石。

シモキタヤマ　下北山村　奈良縣大和國吉野郡の南端。新宮市の北方約四〇粁。北は上北山村に、東は三重縣北牟婁郡尾鷲町に、南は南牟婁郡五郷村及び和歌山縣東牟婁郡北山村に、西は十津川村に接す。面積一二八・七六平方粁の大村。概れ　峻なる山地にして吉野山地の大峯山脈の東斜面と大臺ヶ原山地の西斜面に當る。西北境には大峯山ありて釋迦ヶ嶽（一八〇〇米）・大日嶽（一五九三米）・天狗山を含む。北境には小峰山（一一〇〇米）ありてその南に奥佐田山（八四八米）あり。此等の山地は何れも中世代傾羅紀層より成る。北山川は著しき横谷を示し、嵌入曲流をなして南流し和歌山縣に入り有名なる瀞八丁の奇勝をなす。北部にては前鬼川を東より東の川あり、中部では池郷川を各々合す。本村は山岳美に富み且つ山中に多くの本流・栃木谷の流・蘇尾の流・護谷の流・スヰコの流・大流・カラオト流・いさ大字前鬼は・下池原の全部及び上池原・池峯・下桑原の一部は吉野熊野國立公園の一部をなす。此地は四圍山岳にて閉鎖され以て農業的發展の方向を奪はれ、專ら林業に依存し、吉野杉の良材が主として切出され、北山川を筏で流し、和歌山縣の新宮市に集產さる。交通路には東熊野街道が上市町より吉野川の谷から北山川の谷へと通じ新宮市に至る。鐵道の便は惡しく省線紀勢線の開通の曉は本村に出づるが便なるもいま省營バス紀南線本本線あり。何れにしても鐵道には不便にて用による交通が行はる。本村は上北山村と共にもと北山郷或は北山莊と稱されし處。※北山（きたやま）（池神社）大子池峰に鎮座。郷社。祭神市杵島姫命。もと池明神と稱し、北山莊八ヶ村の氏神なり。社地は大峰・大臺原の二大山嶽に挾まれ、幽僻の境たり。例祭九月九日・十一月廿三日・四月廿三日。

シモキトー　下木頭（しもきとう）　徳島縣海部郡にありし村。昭和四年那賀郡宮浦村に編入。

シモキョー　下京（しもきょう）　京都市南西部の行政區。略々四條通以南の賀茂川の右岸の海拔二〇米内外の低平なる地域を占め、北は中京區に、東より南にかけては東山區及び伏見區に、西は右京區と桂川を距てゝ乙訓郡に隣る。明治十二年三月三條通を境として京都を上京區と下京區との二區に分ちし以來、これは漸次その内容を充實し、同二十一年六月にはその南東に隣る清閑寺及び今熊野の二箇村を併合し、同三十五年二月には南に隣る大内村字東鹿小路及び西九條を併せ、更に大正七年四月の第三回市域擴張によりて葛野郡の朱雀・大内・七條・衣笠の四箇村と、西院の一部並に紀伊郡の樋原町、東九條と上鳥羽、深草二村の一部を合して面積は原の約二倍となる。然るに昭和四年四月上京・下京の二區の他に中京・左京及び東山の三區の設定さるるに及び、鴨川以東並びに四條通以北がこれ等に屬する事となりしが、昭和六年四月市域擴張の際、南西に隣る上鳥羽村及び古祥院地を合し再びほゞ原の面積に復し、現在一九・二九〇方粁を占む。區の北東部は人口最も稠密にして市の重要なる商業區をなし、京都驛及び丹波口驛・中央卸賣市場がここに存す。これに對し區の南方地區は工業地域に指定さるるも、未だ大工場存せず、蔬菜その他の農作地が大部分を占む。人口二三五、二九二。名所舊跡として東西兩本願寺・東寺・本圓寺・佛光寺・祇園祭等著し。

シモクイシク　下九一色村　山梨縣甲斐國西八代郡の北部。市川大門町の東南に隣り、東は上九一色村に、北は東八代郡に界す。北境には千米内外の山嶺連り、南部にも釋迦ヶ岳（一二八〇米）・蛾ヶ岳（一二八〇米）の連嶺も東西に走り、この中間を富士川の一支芦川西に流る。村内緩傾山地にして水田は僅に芦川の沿岸にあるも畑地多く養蠶最も盛なり。街道は芦川に沿うて通ずるも、交通便ならず。此地は中世、九一色郷に屬ぜり。

シモクサノ　下草野村　滋賀縣近江國東淺井郡の南部。七尾村の北に接し、西は湯田村、北は田根村と上草野村、東は東草野村に隣りし、南東の一部は坂田郡伊吹村に境す。伊吹山脈に屬する山地が東部及び北西部に連り、南東境上の七尾山（六九一米）を最高とし、西及び南に進みて高きを減じ村の中央部より南西に向ひ平野となる。草野川が北方より來り南西に流れ村内の流程三粁半にて湯田村を貫き虎姫村にて姉川本流に合す。產業は農を以て本となし米・麥・菜種・製茶・繭を產す。國道北國脇往還が村の南西境を通じ、縣道は上草野村大字岡谷方面より村の中部に來り、大字東野より分岐し一は南して七尾村へ一は西して村界へ向ひ、各北國線往還に合す。定期バス往來

濃より上草野村大字野瀬に至るものが本村を通過す。中世は東草野村・上草野村と共に草野莊と呼ばれし處。名跡として郷社岡高神社は大字北郷にあり、俗に岡高天神と稱し、主神は素戔嗚命にして、後に織田信長の她討を避けんが爲に菅公を合祀せり、口草野十五大字の產土神たり。醍醐寺は大字醍醐にあり、眞言宗新義派、役小角の草創と傳へられ、大永元年覺遍中興す。盛時には七堂伽藍備はり山内に四十九坊を有せしが火災に遭ひて烏有に歸し、今僅かに玉泉・岩本の二坊を存するのみ。本寺は今は廢寺となれる飯山寺・大聖寺・小野寺・保樂寺と共に下草野五山と稱せらる。※草野（すの）

ジモクジ　甚目寺町　愛知縣尾張國海部郡の北端。名古屋市の西北約六粁。北は中島郡大里村に、東は西春日井郡清洲町・新川町に、南は大治村に、西は七寶村・美和村に接す。濃尾平島の南部に位し土地低平、東部には五條川が南流し南境にて新川を合す。川は天井川なるを以て灌漑には餘り便ならず、平地は廣く水田となり裏作に麥その他野菜を作る。また桑園も多く養蠶盛にして、陸に畑も多く大名古屋市に蔬菜の供給を行ひ、枇杷島の市場に出荷されるもの多し。蔬菜にては大根の產多く殊に方領大根は大字方領の原產にして宮重大根に次ぎ聲價高し、寛永に別する最草子には「ふときもの」の條に「大黒柱・門柱・尾張大根・八幡牛蒡」と云ひ尾張大根とはこの大根を指す。大字方領では畑地に於ける秋作の全部は大根が栽培され、また水田裏作としては方領種の種子を採取す。この大根は名古屋料理として名高き「フロフキ」に消費され、また粕漬・切干にも利用さる。南部には東西に津島街道が走り、之と平行して社線名古屋鐵道が走り、甚目寺驛・新居屋驛（何れも大正三年設置）を置く。此町は和名抄の海部郡驛家郷の中なり。今宿と草津の宿は後世鎌倉の末に廢れて室町の初めにここに移りし爲此名あり。石作は和名抄の中島郡石作郷の地にして、鎌倉時代以後本郡に入れるものなり。甚目寺は元波陀米（はだめ）なる寺な波陀米泥（はだめどろ）と呼び往昔は甚目の逐公に因緣のある地ならん。三代實錄には尾張國海部郡甚目逐公宗氏尾張醫師甚目逐公冬嶽等之同族十六人賜姓於高尾張宿禰と見ゆ。明治三十九年七月豐津村・甚目寺村・白鷺村・今宿村・新居屋村・森村を廢して甚目寺村を置き昭和七年八月町制を布く。

〔石作神社〕　大字石作に鎮座。郷社。祭神、石作天神。創立年代詳かならずと雖も延喜式内社なり。例祭、八月十七日。

〔八大社〕　大字甚目寺に鎮座。郷社。祭神三見宿禰命。延喜式内漆部神社は當社にして、奉唱國内神名帳に從三位漆部天神とあるはこれなり。例祭八月十八日。

〔光專寺〕　大字土田にあり。眞宗大谷派。堤田山と號す。もと天台宗にて護國山專修院と稱せしが永仁二年平義次眞宗に改む。境内に織田信長手植の木犀樹あり。

〔光明寺〕　大字中萱津にあり。時宗。横笛山と號し、弘安五年遊行眞教上人の創建に係る。豐臣秀吉は幼時當寺の徒弟となりしといふ。〔甚目寺〕　新義眞言宗智山派。風凰山と號す。推古天皇五年甚目龍麿、海中より聖觀音を感得して當寺を創建すと傳ふ。天智天皇の朝勅願所となり永で白鳳八年勅して堂宇を造營せしめ勅願を賜ふ。爾來上下の尊崇厚く寺運隆盛たり。天正十一年織田信雄田園三十町歩を寄せ、次で秀吉寺領三百石を附す。國主德川氏また之に準ず。堂宇中樓門及び寺寶中銅本著色不動尊像一幅・同佛涅槃圖一幅は共に國寶たり。〔妙勝寺〕　大字上萱津にあり。日蓮宗。もと眞言宗にして七堂具備し僧坊二十三支院三十餘宇あり。坂東の巨刹たりしが弘長元年住持善妙、日蓮上人に歸依し現宗に改む。のち織田敏定・豐臣秀吉・鳥居正則等各々寺祿を寄せ、德川忠吉の清洲城主となるに及びて朱印三十石を附せらる。

シモクノ　下久野　島根縣大原郡阿用村の大字。省線木次線の下久野驛（昭和七年設置）を置く。

シモクラ　下倉村　岡山縣備中國吉備郡の西部。西は水内村に、北は高梁川を隔てて日美村に、東は秦村に、東南は久代村に、南は山田村に、西南は小田郡美川・字戸二村に界す。東・南・西には三〇〇～四〇〇米の山地繞りて巷え北に向つて傾斜す。北部にはその境界に沿うて高梁川が西北より東南に屈曲しつゝ流れ、流域に僅少の低地を遺るも略ど耕地には利用されず、山地は開析をうけて谷廣く起伏緩かなれば森林地と牧場地となし良牛を出す。對岸日美村より分れて西方玉島へゆく縣道は村の東部を南北に通り下村・寺畑・鹽田の街村を有す。高梁川には渡船の便あり。古くは和名抄、下道郡水内郷に屬す。

シモクロカワ　下黒川村（しもくろかわ）　新潟縣越後國中頸城郡の東北部。北は柿崎町。東は黒川村、西及び南は吉川村に界す。高田平野の東北部を占め、黒川に沿ふ。東部は米山の山麓に當り、百米臺の丘陵をなす。平野は灌漑の便よく水田開け、上越米の產あり。村の略中央を南北に貫く縣道は柿崎町に至り、省線信越本線の柿崎驛に出づるを得。中世は黒川庄に屬せしも、其後の沿革は詳かならず。

シモクロコマ　下黒駒（しもくろこま）　山梨縣東八代郡にありし村。明治二十五年本村ほか二村を合して黒駒村を置く。

シモクロセ　下黒瀬村　廣島縣安藝國賀茂郡の西部。呉市の東北凡そ八粁。北は熊野跡村に、東は中黒瀬村に、南は郷原村に、西は安藝郡熊野町に界す。北部に小田山（七二九米）聳え村内標高數百米の山地より成り東南に向つて低下す。東部山地の西麓に中央部より東南に向つ

[illegible]

シモコー　下郡（しもごう）

【下郡村】 [illegible]

[illegible]

シモケ　下毛郡　大分縣（豊後國）十二郡の一。郡の西北部。山國川流域の地々は古より、東部は豊前方へ延びて周防灘に注ぎ、西は中津平野に接し、北は筑上郡に西北は筑紫郡に西部は東川郡に接し、南部は耶馬渓日田郡及び玖珠郡に接す。面積四七七・九八方粁。西隅に英彦山（一一〇〇米）あり、東南方及び東北方を境界として西部の南北に亘る山脈は中津平野より起る一面の丘陵地帯にして、其東面は耶馬渓に接し、北は筑紫郡に接す。山脈の西は中津平野に接し、南は筑紫郡に接す。山脈の西は中津平野に接し、南は筑紫郡に接す。山脈の西は中津平野に接し、南

見ぜたり。

シモコシキ　下甑　〔下甑村〕鹿兒島縣薩摩國薩摩郡の村。甑島諸島の南島に位する下甑島の地を占む。東北より西南に延び長さ約二二粁、北部は狹窄して吹切の地峡をつくるも、南部は次第に廣く最廣部にて約六粁、周圍約八〇粁に達し、面積六七・三三方粁あり。北は薩牟田瀬戸によりて、中甑島（平良島）に離る。島の中部を分水山嶺連亘し小田山（四二七米）・尾長（六〇四米）・青瀬岳（六一〇米）・勝山（三八九米）等の峯を起し、東西海岸に傾斜し殆ど平地を見ず。たゞ南端に突出する東の手打崎と西の釣瓶崎との間にある手打灣の北岸に手打の小平地あり。農産に米・麥・甘藷あり、百合を特産す。村民の多くは漁業に從事し、水産は村の總生産額の首位を占む。南岸の手打は好漁港たり。村内にはヘゴ自生し、いまヘゴ自生北限地帶として指定天然記念物たり。（新田神社）大字手打に傳座。郷社。祭神、瓊々杵尊・天照大神。社記に創立を永平六年二月と記す。例祭、十月十九日。

〔下甑島〕→下甑村

シモサイゴー　下西郷　福岡縣宗像郡にありし村。明治四十三年廢止し、町と改稱す。

シモサカ　下坂　近江國（滋賀縣）の古地名。和名抄に坂田郡下坂郷あり、之無佐加と訓ず。中世は下坂荘と號す。地は今の坂田郡長濱町・六荘村・法性寺村・西黒田村の邊に當る。

シモサガ　下嵯峨　京都府葛野郡にありし村。明治三十六年嵯峨村に合併。嵯峨村は次で嵯峨町となり、昭和六年京都市右京區に入る。

シモサカイ　下境　福岡縣鞍手郡にありし村。大正十五年本村外一町三村を廢して直方町を置き、直方町は昭和六年市制を布く。

シモサカモト　下阪本村　滋賀縣近江國滋賀郡の南端。坂本村の東に接し、南は大津市、北は唐崎村に隣す。村の北端附近に滋賀丘陵一部が現はるゝのみにして大部は一〇〇米以下の平地にして細長く湖岸に沿ひ、大宮川・四谷川・際川等の河口には小三角洲を作り砂濱の岬となる。産業としては農業・水産業を主とし、また鐵筋の工場ありて綿絲・絹絲を生産す。縣道西近江路が湖岸に沿ひなほ唐崎より滋賀里方面に至るもの、下阪本より坂本に至るもの等あり。社線江若鐵道は仰木に至るもの等あり。社線江若鐵道は大津市より來りて本村に入り叡山驛（大正十年設置）を設く。本村は坂本村・堅田村と共に昔の大友郷の地にして世々坂本村の港市として榮え、古くは三津或は戸津と稱せられ。比叡山延暦寺の勢力の盛なりし時は殷賑を極め、旅客貨物の出入繁く船舶常に輻湊し後に大津の勃興するまで湖上交通の中樞たり。坂本城址は松林の濱に在り。元龜二年織田信長延暦寺を燒討したる後、山門と北國勢とに備へんが爲に築城し明智光秀に賜ひ之に居らしむ。既にして光秀、豐臣秀吉に敗れ光春よく之を守りしも遂に落城し、一時秀吉の臣丹羽長秀の居城となりしが、長秀の北國移封と共に廢城となり大津に更築す。來迎寺は比叡辻の北に在り、天台宗延暦寺に屬す。延暦九年傳教大師の草創に係り、のち長保年間惠心僧都の再興す、更に天正十七年京都北白川の元應國清寺を鼓に合して、その本尊法具等を移す。寶永年間の造營に係る方丈造の客殿を始め寺寶の本尊釋迦如來坐像の外十界圖・十二天像・十六羅漢圖・阿彌陀二十五菩薩圖・釋迦三尊像・兩界曼荼羅・楊柳觀音像の絹本・十一面觀音立像・藥師如來立像・堆朱香盆等何れも國寶に列す。境内に元亀元年淺井朝倉の北國勢と奮戰して戰死を遂げたる織田信長の部將森可成の墓あり。眞光寺は梵音堂町に在り、天台宗、俗にあやめ地蔵と稱し、本尊の木造地蔵菩薩半跏像は鎌倉時代の作にて國寶に指定さる。唐崎の松は大字下阪本唐崎の砂濱なる唐崎神社境内に在り、黒松の巨大となり特異の發育を遂げたるものにして主幹の高さ九米餘、所謂唐崎の夜雨は近江八景の一なるが其の主幹は先年枯死せり。新唐崎の松は比叡の辻の湖岸に在り幹の高さ約一一米にして唐崎老松の實生と傳ふ。また維新の勤王家淡海槐堂（贈正五位）は此地の人なり。農家の出なるも夙に尊王の志篤く諸國の志士と來往す。一時望まれ獄に下りしも、のち侍講院判官となる。明治十二年年五十八にて歿す。

シモサト　下里　〔下里村〕兵庫縣播磨國加西郡の南端。姫路市の西方約一二粁。西南部には古生層より成る山地連亘し笠松山（二四四米）善防山（二四〇米）聳立し、其他は第三紀層より成る低地なり。中部を西北より東南へと對角線に下里川流れ、加古川に入る。その流域及び北部第三紀層の臺地には廣く水田分布し、殊に北部飯盛野には溜池多く、その大なるものは大池・六藏池・善防池等とす。產物は米・麥・大豆等にて工産物には清酒・煙草・瓦・素麺・石材等あり。交通は社線播丹鐵道下里川に沿ひて北條町へと走り、本村には法華口驛（大正四年設置）・播磨王子驛（大正六年設置）を置く。播磨風土記の下鴨里は賀茂村及び本村を指し、和名抄に賀茂郡三重郷とあるは恐らく此地ならん。中世は野上郷・笠原郷・下里郷と呼びし地なるべし。善防山の山頂には、善防城址あり。この城は應永年間の築城にて、城主は赤松刑部介則繁とす。應永中に赤穂白旗城より移り、嘉吉元年の戰に茂雅と共に但馬國に出で山名軍と戰ひて敗れ、茂雅と共に徘西郡城ノ山に退き籠城せり。

善防城はこの時山名軍に攻略さる。また則繁は城ノ山城に滿祐以下一族と籠城せしも山名・細川軍には抗し難く滿祐等が自殺せし時、則繁は揖西郡水田の城主則親と共に赤松家の再興を豐び筑紫に落ち延び朝鮮へ渡り、また筑紫に歸り再興を計るも事露はれて誅せらるゝと。牛居には牛居構居址あり。これ赤松則繁の家臣・中村牛居助吉早の構へし地にして、牛居助は則繁と共に嘉吉元年城ノ山城に籠りしも、則繁が脱走後は多可郡野間に隱れ鮫子小市郎はこの構居に殘り、のち播磨が山名氏の領となるに及び民間に下り前田と改姓す。また大字大村の山林中より四五十貫もある切石を發見し更に同樣の石が次々と發掘され、その下部より管玉及び土器を出土す、郷土研究上重要なる資料と云ふべし。〔王子神社〕大字王子に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神。古來近郷十餘村の氏神なり。例祭九月九日。〔一乘寺〕大字坂本にあり。天台宗。法華山と號し西國三十三靈場第二十六番札所たり。白雄二年、法道仙人の開創に係る。孝德天皇勅願を下し賜ひ、聖武・孝謙・仁明諸天皇勅願所となし給ふ。留來朝野の崇信厚く寺運隆盛たりき。慶安元年德川家光百二十石の朱印狀を寄す。現に塔頭寺院五を有し、諸堂宇整備す。妙見堂・鎮天堂・護法堂・三重塔等は國寶たり。寺寶中國寶に指定せられしものに銅造聖觀音立像二軀・絹本着色聖德太子及び高僧像十幅等あり。御詠歌「春は花夏はたちばな秋は菊いつもたへなるのりの花山」

〔下里町〕和歌山縣紀伊國東牟婁郡の南部。太田川の河口を占め熊野灘に臨む。太地町の西南に接し北は下太田村に隣り西は田原村に界す。西北隅に二五〇米の八郎山ありて全村山地起伏し、中央に東北より西南隅近くまで約四粁の長さに切込める彎入あり。其南を限る牛鳥の東端を耳ノ鼻と言ひ其西北に續く海岸を玉ノ浦といふ。耳ノ鼻の西南岸に續く牛鳥の南岸に富久良門崎あり、北岸東部に太田川東南流して海に入る。小島嶼周圍に多く散在す。川に沿へる地には耕地もあれど、山多きため薪炭を多く產し水產盛なり。熊野街道は灣の北岸に沿ひて東西に延びて東北方勝山町・新宮町方面と西南方古座町方面とを結ぶ。途中太田川の南岸に沿ひて西北方へ延びるものあり。また太田川北岸より東隣太地町に通ずる一道あり。省線紀勢中線は太田川の河口に近く下里驛（昭和十年設置）を置く。下里とは、太田郷の下里の意なるべしと。大字下里・鮑白・浦神は吉野熊野國立公園の内なり。玉浦は、萬葉に歌はれたる名所。萬葉・九「吾が夢ふる妹に逢はずや玉の浦に衣かたしき一人かも寢む」

シモサノ　下佐濃村　京都府丹後國熊野郡中部の東邊。上佐濃村の北、田村の南に接し、西は久美濱町と海部村な隔て、東は中郡五箇村・竹野郡郷村と界す。熊野郡の東部な南北に流れる佐濃谷川流域の中部に當り、東北境には女布權現山（三四八米）、東南境に菱山峠あり、東半は高さ三〇〇米内外の山地多く、西境にも高さ二〇〇米程度の丘陵南北につゞきて、西の川上谷との分水界をなす。中部の佐濃谷川の兩岸の低地と、東部山地の谷間に田畑拓け、米・繭・麥等の農產あり。また製絲業行はれ生絲を出す。縣道西部を南北に通じ交通不便ならず。古へは上佐濃村と共に佐濃郷と稱す。

シモサンジ　下山路村　和歌山縣紀伊國日高郡の中部。日高川中流に跨り、北は寒川村、東は上山路村、南は中山路村及び清川村、西は眞妻村及び川上村に界す。三里半西方より來り西南境より北に繞りて西境に約六〇〇米の高さに走り、東境にも約六〇〇米の山地ありて兩山地中央に起伏なしつゝ傾斜し、其谷底には日高川屈曲しつゝ北へ流れ約一粁先にて西へ方向を轉ず。域内山地多きため耕地面積乏しく山地は良材を產し、東部は弓本國有林、西境に川又國有林あり。南部に道路東西に走り北部にも東西に通ずる道路あり。兩者を結ぶ道路中央の谷に沿ひて南北に達る。上山路村・中山路村と共に中世に山路庄と呼べり。

シモジ　下地　〔下地村〕愛知縣寶飯郡にありし村。明治二十四年に町制を布き、昭和七年豐橋市に編入す。

〔下地島〕沖縄縣宮古郡の村。宮古諸島の主島たる宮古島の西南端部を占め、北は平良町、東は城辺村に隣り、南と西は海に面し、西南岸に近く來間島の屬島あり。面積四八・六八平方粁。隆起珊瑚礁より成り、東半部は概ね丘陵にて原野・山林をなし、西半部は低平なるも水流に乏しく多くは畑地をなす。甘藷・甘蔗を主農產物とし、その他麥・米・粟・豆類を出し、また黑糖の製造行はれ產額少からず。支廳所在の平良町西里へ道路通じ陸上の交通は不便ならず。もと下地間切と稱せしも、明治四十一年の島嶼町村制の實施に依り新たに下地村と稱す。

〔下地島〕→下地村

シモジ　下知　高知縣土佐郡にありし村。大正五年町制を布き同十五年高知市に編入す。

シモシイ　下志比村　福井縣越前國吉田郡の東部。九頭龍川の左岸。松岡町の東方約三粁。勝山街道に沿ふ。北は九頭龍川を距てて淨法寺村に、東は上志比村に、西より南へかけて志比谷村に界す。大佛寺山（八〇六米）一帶の丘陵の北山麓を占め、南境に城山（四七四米）あり。北部は谷沿ひに平地開け、米作行はる。山麓に沿ひて、社線京都電燈越前電氣線通じ、志比堺（大正三年設置）・光明寺（大正九年設置）・轟（貨物驛、大正三年設置）の四驛あ

り、社線永平寺鐵道に永平寺口驛に連絡す。中世は志比谷村・上志比村と共に志比庄と稱せらる。寛元元年縫倉殿の家人にして永平寺を建てたる波多野出雲守義重といふは、蓋し志比庄の下司地頭なるべく、その宅地はいま村内にあり。

シモシオダニ　下鹽谷村　新潟縣越後國古志郡の東北部。刈谷田川上流に沿ひ、栃尾町の東北に接す。北は南蒲原郡に、東は鹽谷村に、西は上北谷村に界す。西部を刈谷田川、北部かその支流漁流し、西北隅にて合流す。中央及び河沿に神積平野あり、他は丘陵起伏す。耕地山地ほゞ相半し米・繭を主産とす。中央の谷を南北に貫通する縣道及び北部谷沿ひに東西に通ずる縣道ある外、社線栃尾鐵道西南部を掠め、楡原驛（大正五年設置）を置く。〔明圓寺〕新義眞言宗豐山派。寛弘年中惠心僧都の開基にして北越天台十二道場の一たりき。康治年中尊光法印これを眞言宗に改め、のち亦現宗に改む。本尊の釋迦牟尼佛は行基菩薩の作なり。

シモシギ　下鴫　岡山縣後月郡にありし村。明治三十三年本村外二村を廢し、その地域を以て共和村を置く。

シモシゲハラ　下重原　愛知縣碧海郡にありし村。明治二十四年本村を廢し、大字牛城主・高須を以て牛高村を建て、大字下重原は重原村となす。重原村は明治三十九年刈谷町に編入す。

シモシズ　下志津原　千葉縣西北部にある原野。習志野原の東に連續し千葉市の北部より千葉郡船橋村及び印旛郡西南部の旭村・千代田村・志津村に亘る。標高約二〇數米の洪積臺地にして臺地上には低平なる原形面を殘し、小溪に沿ふ谷底には水田あるも臺地上は松・杉・櫟等林をなし、其間に野草・陸稻の耕地と桐の林が混交す。なほ此地は陸軍演習地として知られ、千葉市の北部には陸軍氣球隊・歩兵學校・鐵道聯隊・陸軍病院等あり。千代田村にも野戰重砲兵第四聯隊及び陸軍獣行學校あり。本村大字四街道はこれ等軍事關係地として發展せる集落なり。

シモシツカ　下拾個　愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年本村及び上拾個村・九之坪村を廢し、その地域を以て西春村を置く。

シモシナノ　下品野　愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年本村及び上品野村・掛川立村を廢し、その地域を以て品野村を建つ。品野村は大正十三年町制を布く。

シモジュージョー　下十條　東京市玉子隔の町。東北本線の下十條驛（昭和六年設置）あり。

シモジュク　下宿　新潟縣刈羽郡にありし村。大正十三年柏崎町に編入す。

シモショー　下庄村　福井縣越前國大野郡の中央。東は眞名川を隔てて富田村、西は乾側村、南は大野町・上庄村、北は北部山脈の支脈によつて、瀧羽村・鹿谷村に各々接す。大野盆地の西北部を占め、山地は僅に北部に連なるにすぎず。低地は地味肥え農耕に適し煙草を筆頭として米・青芋・馬鈴薯・茄子等の外工業として織物を產し、牧畜業も亦盛んなり。社線京都電燈越前電氣線は村内に新在家（貨物驛大正九年設置）・横枕（大正十年設置）大野口（貨物驛大正三年設置）の三驛を置く。和名抄に大野郡資母郷あり、資母轉じて下庄になれるものにや。大視弊座神社（俗稱弊座神社）は產火火瓊瓊杵尊外二神を祭祀、風速神社は住吉三神を祀り俗に住吉明神と稱す。二社共に式内の古社にて、村社に列す。例祭日は前者は八月十二日、後者は九月十日。

シモショー　下莊村　大阪府和泉國泉南郡の西部。和泉山脈西部の北斜面に位し北は大阪灣に臨む。西は淡輪村と接し、東は東鳥取村及び其北隣なる西鳥取村に界し。南境中央部の組石山頂により和歌山縣海草郡直川村に接す。組石山の北面は北に傾斜し、幾多の谷を造り海岸には狹長なる低地あり。大部分山林なるも北岸低地と谷地には田畑拓け米・玉葱等を產し、山地よりは木材・松茸等を產す。近年工業も發達し綿布・自轉車・チエーン等を產し、鑛產に石材を出す。孝子越街道北部を東西に走り、其北に社線南海鐵道通じて箱作驛（明治三十一年開業）あり。古くは和名抄、日根郡鳥取郷の內なり。古來石匠多く、和泉の石作と云ひて名高く、和泉石はこの附近より產す。海岸を箱浦といひ歌の名所にて、土佐日記にも「玉くしげはこの浦波たゝぬ日は海みかゝみとたれか見ざらん」とあり。

シモ・ジョー　下條村　長野縣信濃國下伊那郡の中部。天龍川の右岸。飯田市の南約一三粁。北は三穗村に、南は富草村、東は天龍川を境に泰阜村に隣す。龜澤山（一三五九米）・練樂峠（一二四七米）の東北斜面を占め、北境を阿知川東流し、東北隅にて天龍川に合す。中部のなだらかなる裾野には田地・桑園拓け、米繭を產す。遠州街道は中腹の蹇地上を曲折して南北に通じ、之より分岐せる一條の山道は練樂峠を經て隣村浪合村に至り三州街道に合し、他は五和村に至る。村の北部に阿知原溫泉湧出す。本村は和名抄、伊那郡伴野郷の地なるべく、近世は所謂伊奈道山の內。いま餘澤・陽阜を以て下條村となす。（富山城）一に吉岡城ともいふ。下條吉岡城主は小笠原長經の四男、修理亮長能を祖とす。武田信玄の伊奈侍を征服するや、一族信氏をして下條の名を繼がしめ伊豆守と稱す。天正十年秋、下條兵庫助（牛千代）は徳川家の軍に歸し舊領を復せしもの故ありて家臣を沒收せられて亡ぶ。蓋し伊奈侍とは往時聞えたる武士にして殊に此地の武士

最も有勢なりしといふ。甲陽軍鑑に信州先方衆・下條百五十騎とあり。〔大山田神社〕大字陽阜に鎭座。郷社。祭神大國主命・應神天皇・佩西八郎爲朝。延喜式內の古社。本殿及び祖殿何れも一間社流造にて、三社相並び同一覆堂內にあり。三社共に永正年間下條義氏によりて再建せられしものにて、その形式構造等に何等見るべきものなきも、祖殿は兩社とも大部分永正四年再建當時の樣式手法を存し現に國寶に指定せらる。殊に應神天皇社は宮殿の內部に、精美なる極彩色を施し、外部に於ては基殿・木鼻及び勾欄の彫蓮等の彫刻頗る優秀なり。例祭八月十五日。〔入登山神社〕大字陽阜に鎭座。郷社。祭神、大山祇命・伊弉諾尊・健御名方命。應永元年下條伊豆守頼氏甲斐國より奉遷し、爾來代々同家の新願社として崇敬せらる。江戸時代を通じ、美濃高須藩主松平氏歷代の崇敬を受く。古來地方民の崇敬亦篤し。〔龍嶽寺〕大字陽阜にあり。臨濟宗妙心寺派。萬松山と號し應永二年の創建。開基は地頭下條伊豆頼氏にて開山を靜山玄壽和尙とし、中興開山は東溪興春和尙なり。慶安二年德川家光寺田五石の朱印を寄す。

シモショコツ　下渚滑　〔下渚滑村〕北海道北見國紋別郡の中部。網走支廳管下。オホーツク海に面し紋別町の西に隣接す。南は渚滑村、西南は濱上村、西北は興部村に接す。面積九四・一平方粁。北見山脈東北斜面に位し全村概ね山地より成る。西南最も高く四〇〇—五〇〇米の高度を有すれど海岸に向ひて傾く。渚滑川は村心を北流し蛇行して流域低地を廣げ海に注ぐ。河口にデルタを作り耕地をひらく。海岸は堆積平野展開して平滑、河口に一條の砂嘴海岸線と並行にのぶ。省線名寄本線は海岸近くを東西に走り、渚滑驛（大正十年設置）に近く、また渚滑線此處より分岐して南に通じ下渚滑驛（大正十二年設置）にも近し。米・大豆・燕麥・鮭・鱈・角材・薄荷を產す。昭和七年六月渚滑村より分村し、二級町村制を布く。

〔下渚滑〕省線渚滑線の一驛（大正十二年設置）。北海道北見國紋別郡渚滑村にあり。

シモシラタキ　下白瀧　省線石北線の一驛（昭和四年設置）。北海道北見國紋別郡遠軽町にあり。

シモシンジョー　下新城村　秋田縣羽後國南秋田郡の西南部。秋田市の西北約四粁。南は土崎港町との間に飯島村を挾み、西は日本海に臨む。東北境に館山（一九三米）聳え、東部には一〇〇米以內の出羽丘陵の末端延び來り、海岸一帶にも幅廣く高さ三〇—五〇米の砂丘連る。東部山地と砂丘との間には沖積地發達し、東隣上新城村の大瀧山より發し西流し來る新城川は東南丘陵の麓を繞うて西南に流れ、北部にも男潟・女潟に注ぐ小流あり中部低地を潤し水田よく拓く。農家戶數五六〇に及ぶも自作農はその十分の一に過ぎず。凡そ七割は純然たる小作農とす。その農業經營を見るに、本業の外各種の副業を加味せる多角的農業經營を行ひ、その收入の殆大なる國つつあり。蔬菜花卉の栽培も盛にしてこれを土崎港町・秋田市方面に出荷す。果實は日本梨・葡萄の栽培盛にして殊に梨は道分梨といはれ縣內の需要大なり。近來また西洋梨の栽培漸次盛となる。奥羽本線は砂丘の內側を南北に通じ、船川線を分岐する追分驛（北隣命足村）に近く、國道羽州街道これに沿うて通じ、殊に能代路と男鹿路の分岐點として古來交通上重要の地を占む。此地もとは上新城村と共に新城澤と呼ばれし所、其後分離し新城川の下流なるを以て現村名を生ずるに至りしものなるべし。本村は明治二十二年町村制施行の際、笠岡・岩城・小友・青崎・長岡・中野（いま何れも大字）の六部落を合して置く。中野は正保三年に開かれし笠岡の支郷にして山伏桂昌院秀慶により開發せられしと云ふ。岩城は古城跡にて新庄半治の居地なりと。なほ小友澤に第二・第三貯水池あり、中野濱・中野梨園等散策地として秋田市方面よりの遊覽者多し。

シモスガヤ　下菅谷　省線水郡線の一驛（明治三十年設置）。茨城縣那珂郡菅谷村菅谷にあり。

シモスケ　下野　→下野國

〔下野〕〔下野豐原〕東北本線の一驛（明治二十年設置）。栃木縣那須郡那須村大字豐原にあり。

〔下野大澤〕省線日光線の一驛（昭和四年設置）。栃木縣上都賀郡今市町大字土澤にあり。

〔下野花岡〕省線烏山線の一驛（昭和九年設置）。栃木縣鹽谷郡北高根澤村大字花岡にあり。

シモスワ　下諏訪町　長野縣信濃國諏訪郡の町。諏訪盆地の北端に位し諏訪湖の北岸を占む。東は上諏訪町に接し、西は長地村を距てゝ岡谷市に隣り、北は和田峠を以て小縣郡和田村に境す。町の西南部砥川の沖積地は米を產するも大部分は山地をなし桑園少からず。主要集落は山地と平地との緣邊に沿ひ街村式に發達す。舊中山道和田峠を越えて本町に入り、更に鹽尻峠を越えて松本平に出で、甲州街道は本町より分岐して上諏訪方面に至り、三州街道は西に岡谷市を經て伊那谷に向ふ。省線中央本線甲州街道に沿ひて來り、平坦部に下諏訪驛（明治三十八年設置）を置き、初は三州街道に沿ひて伊那谷に至り北に折れて鹽尻驛に至る。省營バス和田峠線は下諏訪驛前に起り、和田峠を越えて、小縣郡丸子町に至り、社線丸子鐵道に接續し、同諏訪本線は上諏訪町と本町と岡谷市を結び、鹽尻

線は下諏訪岡谷の中間より分れて鹽尻驛に至り頗る交通の便に惠まる。本町は往時は中山道の下の諏訪驛にして宿場として榮えしも今は工業都邑となり、岡谷市に次ぐ本郡に於ける生絲生産地にして年額六、八四七、七一一圓(昭和十一年)を出し、殊に國用生絲を以て著はる。町は北に山を負ひ、南に傾斜せる地を占め温泉諸所に涌出し、風に棠落を形成せしものなるべく、從つて先史時代の遺物遺蹟に富み、石實の古墳所々に點在す。殊に青塚と稱する古墳の如きは前方後圓制の觀を呈し、貴人の墳墓たるを想はしむ。或はこれを以て國造本紀に見ゆる科野國造に關係あるものならんといひ、或は青塚は卽ち大塚にして太古、國讓りの際大國主命の次子健御方命の出雲より逃れてこの地に來れる記・紀の古傳說により命に關係あるものならんともいふ。健御名方命及びその前神八坂刀賣命を祀れる官幣大社諏訪神社下社の塚の附近に鎭座するを見ても首肯するを得べきか。下社は春宮と社宮とに分れ、前者は北方山麓の下原に位し、後者は見晴好き湯町の高地を占む。毎年二月に遷座祭行はれ祭神は秋宮より春宮に移御、八月には御蛙祭の神事ありて、祭神春宮より秋宮へ渡御せらる。この時は往昔諏訪湖の今日に比して遙かに廣かりし時、舟行によられし名殘を存し、青柴を以て船形をしつらへ翁媼二人の人形を乘せて祭神に擬し、春宮を發し遠く迂回して秋宮に達す。この地古は和名抄、諏訪郡土武郷の内なるべく、明治七年下原・湯町・友町・久保・武居・富部・高木の七部落を統一して下諏訪村と稱し、明治十八年には隣村長地村と組合を組織せしも、明治二十二年町村制施行の際に分離し同二十六年町制を布く。

いま前記諸部落の外山地の穗積・萩倉・砥川尻の四王・赤砂等を主要部落とし、これを五區に大別す。町には前記神社の外慈雲寺・來迎寺・尾掛松・青塚・諏城址・高木城址・水月岡・臨水岡・穗橋古戰場等あり。また町立圖書館、實科高等女學校等あり。里見八犬傳・八ノ三「信濃の岡田に宿投りし夜、伴當們に囁示しつゝ、次の日は常にもあらぬ、曉かけて旅舍を出て、頼りに路を急ぎつつ、徒歩をのみ走りしかば、這日は午過る比、はや六七里の路次を經て、下の諏訪に達り來にけり……霧時湖水の頭にて汗か納るるもよかめれと、うち凝ひつつゆく程に、果して湖水に向ひたる、堤隄の頭に出茶屋ありけり」(下諏訪温泉)諏訪湖の北邊山地の麓邊を略南北に走る斷層線上に湧出すれども、近時は鑿井によりて温泉を得たるものあり、原湯は十數箇所に湧出し、温度一〇〇度—一五〇度にわたる。泉質は單純泉に屬する且過湯・富ヶ丘温泉、食鹽含有石膏性苦味泉の總湯系統の湯、弱食鹽泉に屬する高濱温泉あり。これ等の温泉地帶は海拔約八百米の高燥なる健康地にして頗る避暑に適す。特に湖に凸出せる富ヶ丘附近は別莊・保養地として將來頗る有望なり。温泉場はいづれも諏訪神社秋宮神苑に近く、上諏訪と同じく霧ヶ峰・鷲ヶ峰スキー場の基地として賑ひ、また諏訪湖には高濱スケート場あり。(諏訪神社)(南方刀美神社)官幣大社。祭神、健御名方命(上社)・健御名方命および前神八坂刀賣命(下社)。當社は上下二社に別れ、上社は中洲村に下社は卽ち當町に鎭座す。創建年代は上古と傳へらる。持統天皇五年八月須波神を祭りて神樂の儀あり。永和九年五月南方刀美神に、同年十月八坂刀賣命(南方刀美神の妃)に各々從五位下を授けられ、天慶三年には健御名方命を、永保元年には八坂刀賣命を共に正一位に敍す。延暦年間坂上田村麿東夷征伐の時、當社に祈願し依つて凱旋の後、その事天聽に達し、當郡の田畑山野各千町及び毎年稻八萬四千束を祭料に充てらる。鎭來源義家・武田信義を初め武人の崇崇最も篤し、平氏の盛なる頃、當社の神領は池大納言頼盛の領たりしが、のち八條院の領となる。降りて德川幕府の時、上社に千石、下社に五百石の社領を寄附す。なほ祭神健御名方命に就き、天照天照大神は葦原中國を平定せんとし給ひ、まづ健御雷命を出雲國大國主命の許に遣はして其領地を獻ぜしめ給ふに、大國主命およびその其長子の事代主命は直に命を奉じたれど、獨り其次子なる健御名方命は服せず、されど遂に敵せず敗走して信濃國諏訪に到り健御雷命の軍門に降り、此地に永住を誓ふ。これ卽ち此地に同命を祀る所以なりと。社寶中太刀二口は國寶に指定せらる。例祭四月十五日(上社)・八月一日(下社)。(御柱祭)式年御柱祭神事の意義に就きては諸說ありて一定せざれども、神殿造營の神事に起因すると見るを妥當とす。祭事は遠き昔より七年目卽ち寅・申歲の五月寅・申の日と定まり、此年に當れば信濃國司・目代は國中に關所を設けて稅を徵し以て神用を分擔し、國中は家屋の建築等を差控へ、冠婚の禮なども止めて御柱祭に奉仕せしが、今これ等は諏訪一郡のみの奉仕となる。祭事は春秋兩宮神殿の四隅に神木(檜の丸太)を樹立することにしてこの神木を御柱と稱す。卽ち一の御柱は長さ五丈五尺、二の御柱は五丈、三の御柱は四丈五尺、四の御柱は四丈なり。これ等八本の御柱は允許を得て本町東俣御料林より伐採し、附近一町一町三箇村民分擔してこれを曳出すものなり。先づ祭年の前年御料林神の澤に登山してこれを伐り御柱歲の四月これ等を萩倉區を經て中山道の七五三掛まで曳出す。これを山出祭といひ。次いで五月七五三掛よりこれを春秋兩宮に曳付け建立す。これを里曳祭といふ。當日は關係市町村の青年等揃ひの法被姿にて木遣の聲も勇ましく御柱を曳く。この穗騎馬行列・長持

練等あり雄壯なる祭事として全國に類稀なり。昭和十三年は恰も寅年に當り、時は支那事變下なるにも係らず、「日本第一大軍神」を祀れる當社の事とて祭事は盛に擧行さる。(霞城址)久保にあり、一に手塚城といふ。もと諏訪下社大祝金刺氏の居館の地。治承年中手塚別當盛澄の弟手塚太郎光盛の居城なりきといふ。いま秋宮外苑となり忠魂碑・片倉翁銅像等あり。(水月岡・臨水岡)共に遊園にして前者は慈雲寺の東の丘上諏訪盆地を一眸の下に收むる所にあり、附近には櫻樹數千株ありて陽春の交來遊者多く彼杏「すゝ。後者は砥川兩岸には櫻樹あり赤砂部落の果樹園と相俟つて風致多く、且つ此地に諏訪飛行場の設けあり。前者は山の遊園といふべく、後者は水の遊園なり。(穗橋古戰場)慕末元治元年水戸の浪士武田耕雲齋等の一行八百餘人落を脫して京都に至り訴ふる所あらんとして中山道を上る。高島・松本諸藩の兵これを和田峠の中腹穗橋に防ぐ。耕雲齋等これを擊破し伊那谷を經て美濃に入る。同所に當時戰歿せる浪士の葬る浪士塚あり。(和田峠)鷲ヶ峰(一七九八米)の北方の鞍部にして海拔約一五〇〇米。中山道中の最高點なり。頂上より東北の方和田、西南の方下諏訪まで各約一二粁。有賀バス通ず。往時鎌道の未だ諏訪地方に開通せざりし頃には、信濃本線の大屋驛より駄馬や荷馬車を以てこの峠を越えて他地方より、殊に遠くは安那地方よりも鹽を諏訪地方に輸送せしことありき。峠の頂上はいま鷲道を設けまたスノーセットを作り交通を便にす。東面に東餅屋、西面に西餅屋の小部落あり。西餅屋の附近に石英粗面岩の柱狀節理露出す。之を乘木岩と稱す。附近には柘榴石や黑耀岩を產す。(千尋池址)秋宮の西にありきといふ深き池。往昔この池中より銅印を得たり、その文には「賣神祝印」とありきといふ。池はいま大社前通の人家の裏手に僅に小池を存し、池畔に千尋神社といふ諏訪神社下社の一末社あり。(慈雲寺)下原にあり。臨濟宗妙心寺派。白華山と號し、乾元二年、諏訪下社の大祝金刺豐久の開創に係り、鎌倉にありし元の歸化僧一山一寧を請じて開山となす。北條貞時寺領二百五十石を寄す。のち荒廢せしが細詔これを中興し、建長寺末を改めて妙心寺派となす。天文年中炎上、元龜年中玄長(武田信玄叔父)信玄の援助を得て之を再建、寺領を舊に復し、且つ塔頭五院を創建してより寺運次第に隆盛に向ふ。よりて玄長を中興開山となし信玄を中興開基となす。その後金刺・武田兩家廢亡してより寺領二十六石餘に減ぜられ寺運振はず。寺內に高島城を築きし日根野高吉の墓あり。(來迎寺)塚町にあり。温泉の鎭守の佛寺。應永中加納上人の開基。境內の念佛地藏尊は傳敎大師の作、最明寺時賴の裝佛なりといふ。毎年四月二十四日の緣日には人出多し。

シモセキ　下關　富山縣射水郡にありし村。大正十四年、高岡市に編入す。

シモセタカ　下瀨高　福岡縣山門郡にありし町。明治三十三年上瀨高町を合併して瀨高町を置く。

シモソーケー　下雙溪　六關庄(塞瀨)

シモリガ　下曾我村　神奈川縣相模國足柄下郡の東北部。南は國府津町との間に田島村を挾み、東は下中村、西は上府中村、北は足柄上郡中井村・曾我村と隣す。面積四・二四平方粁の小村なり。村の大部分は酒匂川以東の丘陵の一部にて北境に三二八米、東南境に二四六米の山あり。西境附近は酒匂川流域平野の一部にて水田あり。國府津町より縣道來りて西部を西北に走り、省線御殿場線又これに沿ひ、村內西部に下曾我驛(大正十一年設置)あり。この地は和名抄、足上郡餘戸郷の地なるべく、近世は曾我里と稱せられし地なり。江戶時代、大久保加賀守忠眞の領せし地、大字曾我谷津には曾我兄弟の養女たる曾我太郎祐信の居りし屋敷址あり。祐信の子孫逗留として當所に住せしも民部大輔信正に至り、時の武將の命に背き、永祿二年此處にて自盡し家滅ぶ。村內の城前寺に十郎・五郎兄弟及び虎女虎の木像を安置す。(宗我神社)大字曾我谷津に鎭座。鄕社。祭神、宗我都比古命・宗我都比女命。後一條天皇長元元年大和國高市郡曾我村(今は眞菅村の大字)鎭座宗我都比古神社の神主宗我保慶此地に來り、官に請ひて祖神比古・比女二神を勸請し、當所の鎭守となせるに創まるといふ。永萬元年再興。その後領主北條氏の崇敬あり。もと小澤明神と稱せしが、明治二年宗我神社と改稱す。例祭、九月二十九日。

シモゾネ　下曾根村　山梨縣中巢國東八代郡の西部。笛吹川の南岸。甲府市の南方約六粁にあり。北は笛吹川を隔てて西山梨・中巨摩兩郡に、南は右左口村に界す。面積一・一八方粁の小村。御坂山脈の北麓と河岸との間の細き沖積地を占め、水田多し。農業を主とし、養蠶業を副とす。山麓及び河沿ひに二條の細き道路あり、これより對岸に至る道路は北走して甲府市に通ず。この地は和名抄、八代郡白井鄕の內なるべく、近世は小石和筋に屬す。中世淸和源氏、武田氏の族此地に下曾我氏を稱す。いま上曾根村・白井河原村と組合村をなし役場を上曾根村に置く。(銚子塚古墳)舟丸山塚古墳)指定史蹟。丘の麓に築かれ前方後圓墳、ほゞ東面し、主軸長約一六七米、後圓部直徑約八五米、高約一六米、前方部幅約六四米、高約七・五米あり、上部は圓墳にして菊菊・桑樹を植ゆ。墳輪圓筒の破片を發見す。周圍に環隍の跡あり。後圓部は昭和三年發掘され、長方形の竪穴式

石槨發見さる。內部より漢式鏡・勾玉・管玉・刀劍・鐵斧頭・車輪石・石釧・石杵・貝輪等を出せり。丸山塚は鐵子塚の東北約八二米の所に位し、圓塚にして封土の直徑約六七米、高約九・一米、環隍の跡あり漢式鏡及び石製品を出土す。〔圓明寺〕日蓮宗。光景山と號す。文祿二年了弘阿闍梨の開基にして眞言宗に屬し、般若寺と號せしが、中世に至りて廢絶す。寛文六年領主小菅伊右衛門尉正武、京都立法寺日芳上人を請じて開山となし、寺域を寄附し、父母の法名に因みて現寺號を附し、立本寺の末寺となす。

シモダ　下田

〔下田村〕青森縣陸奥國上北郡の東南部。八戸市の西北約八・五粁。東は百石村を距てて太平洋に對し、南は三戸郡に隣接す。北部の大半は古の本崎野の一部にして五〇米以內の起伏緩やかなる洪積層の臺地連り、小溪は此臺地を開析し若き地貌を呈し、奥入瀨川は南部に氾濫原をつくりて東に流れ沖積層發達す。南部の沖積地及び各谷底には水田開け、臺地の畑地より馬鈴薯・大豆・粟等を產しまた名馬を出す。東北本線は東南より西北に貫通し下田驛（明治二十四年設置）・向山驛（昭和十一年設置）を置き、下田驛よりは三本木町・五戸町（三戸郡）に至る二縣道を分岐し交通不便ならず。南部藩祖光行公の臣、下田將監直垣、寛永年間今の本村に居城を築く。明治元年七戸藩となり、同七年第七大區に編入され、明治十年區制を廢し上北郡となり、其の管轄內に編入せられたり。其の後百石村と聯合せしが遂に分離し、明治十六年制度改正と共に再び百石村と併せしが二十一年また分立して今日に至る。〔氣比神社〕大字下田に鎮座。郷社。祭神、足仲彥尊。社傳によれば後土御門天皇文明九年の創立なりといふ。例祭七月一日。〔聖福寺〕曹洞宗。青嶺山と號す。明應四年下田將監秀範の開基に係り、開山を瑞龍寺四世應明守和尙となす。もと天台宗に屬せしが、智丈大巖之を現宗に改む。乃ち中興の祖とす。舊寺領五十石を有したり。

〔下田町〕靜岡縣伊豆國賀茂郡の東南隅。北は稻生澤村、東は濱崎村、西は朝日村に各隣接し、東南は下田灣に臨む。伊豆半島の南端に位し岬端性に惠まれ、稻生澤川の吐口に浴ふ。四周百米內外の山地に圍繞され北方に下田富士（一〇八米）聳え、東に武山の山脚海に迫り僅に武ヶ濱を作り、また西部山地の山脚東に延びて半島狀突出となり獅崎（ししざき）との間に鍋田の小灣を抱き、灣頭の鍋田と都心はトンネルにて連絡す。これ等山地は第三紀噴出になる火山岩が第三紀の基盤に互層し或はこれを貫き、安山岩・集塊岩の波浪に洗はれし所は奇觀を呈しその海岸風景は夙に人口に膾炙す。稻生澤川は南流し西北山地より東南流し來る當滑川を河口附近にて容れ下田灣の西北隅に注ぎ河口に下田港あり。本町は下田港を中心として發達せし所にて農耕地は稻生澤川の流域及び鍋田附近に僅に存し米・蔬菜・繭を產するにすぎず。當町及び稻生澤村邊より伊豆みかげと稱する凝灰岩を產す。當町產のものは黑灰色及び灰白色交互して膨脹、風化し易し。石垣・倉庫建造用材として東京・横濱方面に販路を有す。此地は東京市に近く且つ南方に突出せる伊豆半島の岬端性と天然の良港に惠まれ、伊豆七島の漁場また遠洋漁業の根據地として重きをなし、曾て江戸・上方を結ぶ海上交通に於ける避難港・風待港として名高く、いまは物資の集散及び東京灣汽船・定期航空の起點地として南伊豆に於ける中心をなす。縣道は灣頭に沿うて濱崎・朝日兩村に通じ北方は稻生澤川の谷に沿うて走り天城越にて三島町（田方郡）に達しバスを通ず。其他バスは東海岸は伊東・熱海に、西海岸は松崎・土肥を經て修善寺に通じ交通の便よし。海上は本町より大島經由東京間の定期航路は毎日正午に出帆し、伊豆七島行は毎月七の日の午後十時三十分に出航し新島・神津・三宅を經て九の日に歸航し、西海岸航路は毎日午前五時三十分と午後七時三十分の二回あり松崎町・土肥町（田方郡）に寄港し沼津市に至る。更に稻生澤川の對岸武ヶ濱は東京下田間の定期航空機の發着地にて航空機は夏期毎週月水金の三回往復し午後一時五十五分にこの地を發す。市街は稻生澤川の右岸に沿うて發達し區劃整然と碁盤形に整ひ東西約五百米、南北約千二百米のほぼ長方形をなしこれを十九箇町內に分つ。また當滑川兩岸の岡心町・彌治川町・七軒町の一帶は「伊豆の下田に長居はおよし編の財布がかるくなる」と古來稱される花柳街をなし、この町特有の情熱濃艷なる街を形成しその間に遊戲場・娯樂場等多く、歡樂郷をなす。なほ氣候溫和にして山水の風光に富み武ヶ濱・大浦の海水浴場あり、加ふるに幕末維新の史蹟多く、近年河內溫泉（稻生澤村）より武ヶ濱に至る四軒の間引湯をなしここに下田溫泉を建設しまた都心に溫泉公衆浴場が設置され、河內・蓮臺寺の溫泉場と共に觀光地として益々世に知られ、且つ南豆の中心地としていま警察署・稅務署・區裁判所・縣立高等女學校・東京文理科大學臨海水族實驗所等あり。此地は和名抄、賀茂郡大社郷に屬せしものの。中世は河津庄に入り稻生澤郷と稱せらる。當時當町は本郷村（いま稻生澤村の大字名）に屬したり。そのの、獨立して下田郷と稱す。蓋し下田は低田の義なり。北條早雲のとき本郡の人朝比奈知明なるもの八丈島を發見し、功を以て下田を領せしが、氏康の時また清水氏を封じて八百餘貫を食ましむ。關東の德川氏に歸するや家康は戶田忠次を此地（五千石）に封す。子孫次の時參州田原に移され爾後三島代官支配となる。下田港は

伊豆第一の良港にして灣口は南に開け、南風以外には安全なる良錨地たり。古來江戶・上方間の船舶の寄港地として著名にして「伊豆の下田か朝山まけば晩にや志州の鳥羽の浦」の唄も以ても交通の狀況は窺はる。慶長年間大久保長安既に水關を設く。元和元年大阪の役に際し德川秀忠は今村正長をして、海口を守衛せしめ、同二年遂に下田奉行を置き、改船番所を設け往來の船舶を檢せしむ。是より海運漸く開くるに從ひ諸國の廻船出入するもの多く、帆檣常に港內に林立し歎乃の聲日夜絶えざる盛況を現ぜり。寛政五年老中松平定信親ら巡視して下田を海防の要地と認め、文化五年幕府砲臺を港口二所に築きしが嘉永四年英艦闖入せし時は毫も防禦の備なく、韮山代官江川英龍の應接により辛うじて退去せしむるを得たり。安政元年米國水師提督ペリの再び渡來するや幕府は下田を開きて附帶條約を町內了仙寺に議定す。彼の吉田松陰の米艦に投ぜんとして失敗せしはこの時なり。同年十月露艦もまた來りて通商和親を請ひ折衝中、十一月四日激震海嘯あり下田は殆ど全滅せしも百方斡旋、二十一日長樂寺に於て條約十三條を議定せり。翌三年米國總領事ハリス來り假館を東隣濱崎村大字柿崎玉泉寺（濱崎村參照）に置き、五年六月江戶にて日米通商條約に調印し、横濱・長崎・函館の三港を開かしめ之を以て翌萬延元年下田奉行所同缺乏所は閉鎖せられ、文久三年末若軍德川家茂の來泊を最後として一度下田の名は忘れられんとせしが、大正八年七月今上天皇陛下未だ東宮におはしましし時海路より行啓あり、城山にて親しく開港當時の實情を見學あらせられしを以て、再び永く史上に蘇生するに至れり。嘗てハリスが玉泉寺に假泊せし當時此地の船大工市兵衛の二女吉その妾として侍りし悲話は唐人お吉として遍く人口に膾炙せらる。里見八犬傳・九ノ廿二「折から追風なりしかば、船は隨即舊帆颺て、この日相模灘十餘里を、いと安らかに走りつつ伊豆の下田に歇りけり……然程に犬江親兵衛們が乘たる巨船は、下田の港口に一夕歇りて又兩三日の程に、遠江灘をうち過て」（鵜島城）字鵜島に其址あり。城山ともいふ。清水氏累代の居城にして、基氏傳帖に本郷氏鳥城主志水長門守と見ゆれば、この頃既に築造せられたるものなるべし。のち北條氏の時朝比奈知明これを領せしが、のち嗣絶えしかば氏康清水氏をして復歸せしむ。天正十八年豐臣氏の水軍九鬼・長曾我部等これを攻む。城主清水上野守正令よく防ぎしも、のち長曾我部に誘かれて開城し、却て其急襲を受けむとせしを以て逃亡し、これより廢城となる。いま天主臺・馬場・池隍の址なほ存す。明治三十四年其一部を開きて公園とす。〔城山公園〕下田港に臨み老松繁り、風景よし。鵜島城址を公園とせるもの。中腹に下岡蓮杖記念碑あり。蓮杖は下田の人、安政三年ハリスが下田に來るやその通譯ヒュースケンに就いて寫眞術を學び、我國寫眞界の鼻祖となる。〔大浦海水浴場〕下田港の西灣に位し、海水清澄。慶長年間大久保長安ここに水關を設けて江戶往來の船舶を檢べし事あり。〔唐人お吉墓〕寶福寺境內にあり。近年の改修にかかる。お吉は本名を齋藤きちと云ひ、天保十二年十一月、下田に生る。船大工市兵衛の二女たり。七歲にして人手に育てられ十四歲の時藝妓となる。十七歲の時幕吏の謀ひにより、情人鶴松との仲も割かれてハリスの侍妾となる。爾來よく仕へてその溺愛を受けしが世人の嘲笑甚だしく、亂酒によりてその鬱を晴らし、自らもまた狂ほしく世と人を罵る。明治元年の頃、鶴松と舊情を溫めて下田に同居せしが酒亂のため別居、のち貸座敷等を營みしも、同じく朝夕の亂酔のため家計整はず、病苦と貧困のうちに晩年を送り、明治二十三年稻生澤の渠濱に投身自殺せりと傳ふ。年五十。その墓を後人呼んでお吉ヶ淵と稱す。〔長樂寺〕七軒町にあり。眞言宗高野派。弘治三年領有法印の開創に係る。本尊藥師如來は文明七年鍋田の海中より出現せるものなりといふ。寺寶として北條氏の文書數通を藏す。安政元年十二月、米使アダムス少佐と幕吏井上對馬守・下田奉行伊澤美作守一行とが日米修好條約の批准交換をなし、また日露條約の調印をなせし處。〔稻田寺〕新町にあり。淨土宗。鋪根山と號し、文明元年本譽上人の開山に係り、阿彌陀如來を本尊とす。安政元年下田奉行所を本寺に置く。〔了仙寺〕七軒町にあり。日蓮宗。法脈山と號し、寛永十二年今村傳四郎正長の創建に係り日朝上人を開山とす。安政元年五月、米國水師提督ペリと幕府の林大學頭一行とが、有名なる下田條約十三ヶ條を締結せるは實に本寺の本堂なり。境內には全國に類例なき性研究倶樂部あり。また傍の武山閣には開港當時の記念品や參考品・佛像・石器その他の寶物少なからず。

〔下田村〕滋賀縣近江國甲賀郡の北西部。南東は伴谷村、南西は岩根村、北東は蒲生郡苗村、北西は同郡鏡山村に接す。全村舊洪積世の粘土層・砂礫層より成る古琵琶層の丘陵地にして二〇〇米內外の高度を保ち、中央部に盆地を形成し鼓に棄村式の集落を集中す。川は縁めて小流にして、祖父川と雷古川との上流が村內を流れ、前者は蒲生郡に入りて日野川と合し、後者は南流して横田川と合す。產業は耕地狹きを以て農よりも寧ろ商工を主とす。米・繭を主產し下田燒・籠笠・金箔等の特產あり。縣道水口下田線は伴谷村を經て東より本村に入り、また下田三雲線は南方三雲に通じ、下田八幡線は北邊して苗村經由八幡に至り、更に下田江頭線は北西に向ひ野洲郡北里村江頭に達

す。定期バスは高松・下田・下田北口間を通ず。應永二年岩根村の谷口藤兵衛此地に移住して開拓し善水寺領となり後に甲賀武士岩根氏の領邑となる。天正中より中村一氏・増田長盛・長東正家の支配を經て江戸時代には初め代官領たりしが後に水口藩に屬し明治五年區制施行せられて本郡の第二區に入り廿二年町村制實施と共に獨立して一大字の一村となる。

【下田村】奈良縣大和國北葛城郡の中部。奈良市の西南約一六粁。北は志都美村・上牧村に、東は馬見村に、南は五位堂村に、西は二上村に隣る。地形的には東部馬見丘陵部、西部生駒山麓地域及び葛下川流域平地の三に區分せらる。馬見丘陵は洪積層より成り、また西部山麓も洪積層地たり。その間に葛下川が北流し沖積層を堆積す。馬見丘陵上には無數の小溜池あり、また西部山麓にも溜池灌漑見らる。葛下川流域は河水が灌漑に利用され溜池少し。主として米・麥・蔬菜・西瓜を產す。省線和歌山線西方より生駒山脈を越えて來り下田驛（明治二十四年設置）を置き、生駒越の要地なる。往昔逢坂・北今市は賀美郷に屬し後片岡莊となり、北今市は上里莊に、狐井は岡莊に屬す。逢坂城址は逢坂の西南字城垣門にありて逢坂氏ここに據るともまた島山氏こゝに居るとも云ふ。下田の東方には下田城址あり。下田氏の居城たり。狐井の南字城山には狐井城址あり。四周に池を繞らし往昔岡周防守の居城なり。北今市の飯丘・弊杯丘南陵は顯宗天皇の御陵にして、片岡石上陵、または片岡弊笠岡上陵とも云ふ。天皇の御宇三年四月八釣宮に扈御し給ひ仁賢天皇元年十月此の陵に葬り給へり。大字狐井の福應寺は浮土宗にて奥ノ院末寺なり。源信像を安置す。當寺は源信に關係あるならんも詳ならず。

【下田町】高知縣土佐國幡多郡の東海岸。北は田ノ口村に、西北は東山村を隔てて中村町に對し、西及び南は四万十川を隔てて八東村と界し、東は海に臨む。四万十川左岸の沖積地とその北に續く高距約五〇—一〇〇米の丘陵地とより成り各丘陵の間には平地ありて良好なる耕地なす。溫暖なる氣候に惠まれ農產多く米を出す。また漁業も行はれ鰹・鰯・鯖等の漁獲物多し。下田町は四万十川口左岸にありて小舘地ななし、中村町に縣道通じ對岸の名鹿に渡船の便あり。此地もとは下田・井澤・竹島・鍋島の四箇村（いま何れも大字となる）なりしも明治二十二年合して下田村を置き、昭和二年町制を布く。郷社貴船神社あり。大字下田の光明寺境内に公孫樹あり、地上一・三米の周圍六・四米、樹高一九米、推定樹齡四五〇年といふ。又大字竹島の松も地上一・三米の周圍七米、樹高二〇米、推定樹齡四五〇年。（貴船神社）大字下田に熊座。郷社。祭神、高龗神・別雷神。後醍醐天皇元德元年、北條高時暴逆を逞しうして皇子尊良親王を雲都入野郷へ配流し奉れり。親王、船中の守護神として鞍馬山鎭座貴布禰の御神を勸請し給ひ、無事御着船の後、同二年に宇木船谷に一宇を創建せられ給ふ。これ本社の起源なり。のち現地に遷座す。例祭、七月二十一日・十月十八日。

【下田村】熊本縣肥後國天草郡の西海岸。北は都呂呂村、東北は福連木村、南は高濱村に隣接し、西は天草灘に臨む。東南境に鬚ノ水山（四一六米）あり、村内概ね四百米内外の山地にして山嶺ほぼ東西に連り、從つて河川もこの方向に從ひ下津深江川は西に流れ、流域に僅に低地あり耕地拓く。半農半漁の形態を示し農產物は米・麥・甘藷等なる產し、南部の丘陵性山地には牧場あり。漁獲も亦少からず。街道は海岸沿ひ及び下津深江川に沿うて通じ海上また汽船の便あるも交通便ならず。下津深江川の下流左岸に白鷺溫泉あり。昭和十一年小田床村と下津深江村とを合併して下田村と稱す。本村海岸は指定天然記念物たる妙見浦の一部を占め、風光絕佳を以て知らる。→妙見浦

シモタカイ　下高井郡　長野縣信濃國十六郡の一。縣の東北部。千曲川右岸に沿ふ。東は越後國中魚沼・南魚沼兩郡に、東南は三國山脈を境に上野國吾妻郡に、南は上高井郡に、西より北へかけては千曲川を境に下水内郡に接す。面積七七一・七六方粁。東北境に二〇〇〇米を越ゆる三國山脈の諸峰連り、岩菅山（二二九五米）・烏甲山（二〇三八米）一帶の支脈郡の略中央に延び、東部を北流する中津川と千曲川本流の水を分つ。土地高燥にして山地多く、平地は西部に夜間瀬川・須賀川二支流の開く扇狀地に之を見るのみ。聚落は概ね千曲川本支流の河岸に沿ひ、平地には水田・桑園多し。また附近傾斜地は牧場をなし馬を產す。中野町はその中心地なり。郡内所々に溫泉多く、殊に西南部夜間瀬川上流に沿ふ湯田中・渋・地獄谷・熊ノ湯の諸溫泉は附近の清湖溪谷の美を以て知られ、西北部の野澤溫泉は社線飯山鐵道の開通により頓に世に著はれ、冬季スキー客にて賑ふ。郡内中野町外十九村。社線飯山鐵道は千曲川の左岸に沿ひて隣郡下水内郡を貫通し、省線信越本線の屋代驛より郡内木島迄は社線長野電鐵の便あり。南方須坂町より來る谷街道は中野町を經て木島に至り對岸下水内郡飯山町に出で更に北走して越後に通ず。また中野町より夜間瀬川の谷に沿ひ、草津峠を越えて上州に至る前橋街道通ず。本郡は明治十三年高井郡を上高井・下高井の二郡に分ちて置きしもの。※高井（郡）

シモタカオカ　下高岡村　香川縣讃岐國木田郡の中央。北及び西は平井町に、南は水上村に、東は井戸村に接す。南北に細長き地域を占む。北部は丘陵連亙し、白山（二〇三・二米）は圓錐形

なし丘陵地の南端に屹立し、南部は新川上流を境に水上村に續き一帶の平地を呈す。北部の丘陵は花崗岩質より成り、白山の頂上には讃岐式安山岩を載き、南部は一帶沖積平地にして村境附近に於て僅に洪積地を見る。生業は農業を主とし米・麥・繭・柿等を作り、女糞の特產あり。國道長尾坂出線、村の中央を東西に貫通す。古來の驛路に當り、今は高松長尾間定期自動車の往來道をなす。高松電氣軌道も國道に沿ひて長尾町迄建設され白山停留所の設置あり交通不便ならず。此地古くは和名抄三木郡高岡郷に屬し、近世之を上下に分割、上高岡は後に水上村に屬することとなる。北部は丘陵性をなすと雖も南部は低平、新川の上流村境近くを流れ、その支流たる古川の細流低地の中央を流れこれを灌漑するを以て早く開け、多く丘陵地には石器時代の遺蹟も、白山の如きは其一つなり。また銅剣併用時代の遺蹟としてその銅鐸の發見ありたり。古墳時代の遺蹟も多く、從つて神社にも由緒あるものあり。郷社鶏河神社を始め、白山麓には妙理權現祠あり。鶏河神社は豐田別命外一神を奉祀、延喜七年四月の勅請と傳へ、井戸村の鶏河神社と共に延喜式讃岐二十四社の一といふ。田圃も早く開かれ、白山の如きは條里制定の時其起點となりし處、條里の跡は今猶保存利用せられて美田をなし、立派なる農業地なり。名蹟としては願勝寺あり、塚脇山櫛乘寺と稱し、眞宗東本願寺末、元久年間佐々木高綱入道蓮塚の脇に一宇を建て之が菩提を弔ひ、後に願勝寺と名付けたりと傳へ、また白山の西には細川清氏の墓あり、貞治元年七月高屋城に討死、寒川郡寶藏院明範法印引導ここに葬ると云ふ。高岡城・唐人塚（朝鮮人墓）・小添大添墓なども知られ、遺蹟は存せざれど壓一國師は白山下の人なりと傳ふ。

シモタカセ　下高瀬村　香川縣讃岐國三豐郡の東北隅。北は大見村・詫間村に、西は吉津村、南は比地二村・上高瀬村の一部に、東は上高瀬村に接す。土地東部は丘陵連亙、南に葛山（九二米）孤立せるのみにて、西部は高瀬川南北に貫流し一帶に低平、元祿二年には高瀬川堀海岸堤防を築き、新田を開拓せしため、今は香川縣内に珍しき人家の散在を見る水田地を呈す。村民は農耕を主とし、近時は丘陵地を開き、果樹・煙草の栽培發達しつつあり、副業としては叺の產多し。省線琴讃本線村の西部を通過すれども驛の設置なく、縣道村の東部を南北に貫通するのみなれど、詫間村にある省線詫間驛に近きを以て交通必ずしも不便ならず。もと高瀬郷と稱し、六村の一なりしが、約三百四十餘年前分離、上高瀬・新居・下高瀬三村となり、萬治年間京極家の領となり、明治二十三年二月獨立一村となる。石器時代並に古墳時代の遺蹟の發見を聞かず。社寺にも著しきもの少し。村社八幡神社・法華寺（日蓮宗）あるのみ。法華寺は高永山久遠院と號し俗に高瀬大坊といふ。日蓮宗別格本山富士本門寺末、正應二年沙門日仙の開基、甲斐人秋山土佐守奉忠當國各所に知行を帶び創立せしものにして、屬坊の中之坊・奥之坊・西之坊・法華坊・泉要坊は村内に存す。

シモタカノヤマ　下高野山村　廣島縣備後國比婆郡の北端。雙三郡三次町北方二五粁。北は上高野山村に、南は比和町・日北村・雙三郡君田村に、西は島根縣飯石郡來島村に接す。中國山地の中に位し、割合廣き平坦面を有す。主として石英岩上より成り、南部には花崗岩認めらる。南部船山（九三九米）あり。高野山川は北境を嵌入曲流をなして西流し、西部にて南折す。產業としては高野山川流域にのみ耕地あり、米作行はれ他は林業に依存す。聚落は山村形態にて交通も纔れ不便にして南三次驛に出づるを便とす。明治卅五年、高野山村を上高野・下高野の二村に分ちて置けるもの。

シモタキ　下瀧　兵庫縣永上郡上久下村の大字。省線福知山線の下瀧驛（明治三十二年設置）を置く。

シモタケ　下岳村　熊本縣肥後國八代郡の北部。九州山脈西南部の北麓を占め八代町の東北約一七粁。東は補道村、東南は栗本村に接し、南は河俣村に、西南は種山村に隣り、西北部・北部及び東北部は下益城郡海東村・中山村及び年嶋村にそれぞれ界し東北より西南に稍長方形をなす。東及び東南境に七〇〇—八〇〇米の山地ありて西北方へ傾き北境及び西北境には四〇〇—五〇〇米程度の山地あり。兩山地間に東北より西南へ向ふ谷ありて東北部より入り來る氷川西北流し此谷の北部に出でて之に沿ひ西南へ流れ西南隣村北種山村方面へ向ふ、全村山地なれば耕地面積乏しく木材を多く產す。生業は木材運搬業最も多く製茶業之に次ぐ。特產物なく村勢年々衰ふるのみ。中央谷に沿ひ村道走り、途中之より岐れ周圍隣村へ通ずるもの數條あれど交通振はず。此地或は和名抄、八代郡肥伊郷に屬せしものか。中世は附近諸村と共に種山郷と稱せらる。

シモタケショー　下竹莊村　熊本縣肥後國山鹿郡の東南部。村の形は南北・東西共に約六粁の長さを有する菱形をなす。開拓からうけ起伏緩慢なる三〇〇—五〇〇米の山地より成り、南北兩山地間に東西に亙る幾々平なる谷地あり、また東北より東南部に村境に沿うて一條の谷あり、兩谷の出會ふ附近より宇甘川發して東流し旭川に注ぐ。低地は耕作よく行はれ米・麥を產す。山地は牧場をなし牛を飼ふ。西南高瀬町と東南御津郡金川町、東北方久米郡福渡町を連絡する村道は村の低地を東西に通り上田土・田土・湯山・仁熊の街村をひらく。湯山村落より一は東南方の吉川村に、一は西南方に

往く村道あり。上竹莊村と共に古へは和名抄、賀夜郡冬氣郷の地なり。大村寺〕大字黒上にあり。天台宗。功德山と號し天平年中聖武天皇の勅を奉じ行基菩薩之を開創す。爾來寺門隆盛にして、法相宗を奉ぜしが、中古衰頽せしを、實印法印再興して現宗に改む。本尊藥師如來は行基の作といふ。〔勸學院〕大字湯山にあり。天台宗。龍角山と號す。仁安三年の創建。開基は平清盛と稱す。のち衰頽せしを正和五年領主某、應永十八年安藝守沙彌掃部助等修營し、天文十三年佛前國小倉城主伊賀氏更に之を再興す。其後領主木下淡路守命じて之を再建せしむ。

シモタケダ　下竹田

〔下竹田村〕廣島縣備後國深安郡の中部。北は八尋村に、東は上竹田村に、南は春日村に、西は神辺町に界す。面積五・九四方粁の小村。村形は南北にやや長き矩形をなす。北の小田—鄙層と南の鴨方鄙層によりて生ぜる遙照山地彙の西部を占め、北西隅より東境中央に向つて一條の低地ある外は村内略ど高距一〇〇—二〇〇米の山地より成り、西部に櫂現山（二三二米）あり。北部低地を東南—西北に細流ありて流域に肥沃なる耕地を拓く。米・麥・菌草の産あり蠶茧を産す。交通路は僅に西北隅より南部中央に向けて村道通るのみ。此地は和名抄、安那郡大坂郷の内なり。中世は坪生庄に屬し平賀氏下司たり。江戸時代には神辺及び福山の藩下たり。いま八尋村・上竹田村と組合村なし、本村に役場を置く。

〔下竹田村〕大分縣豐後國直入郡の東北隅。大分川支流芹川の左岸に沿ひ九重山群の東麓を占め大分市の西南約二〇粁。西は阿蘇野村に接し、西南部は長湯村に隣まれ、東は大野郡今市村に隣り、北は大分郡東庄内村・南庄内村に界す。西南方黒嶽の山脚東北方へ延び村の中央山地を造り北境に七六一米の冠山（烏帽子嶽）を起し之より北方へ支第に下りて大分川の谷に至る。東境及び西境へ山地傾斜し大分川支流芹川東北流して東境を限り約七粁東北方にて本流に合す。全村山地を占むる爲耕地面積乏しく農産頗少きも、栗・甘藷を産し山地は木材・薪炭を出す。一道東部を東北より西南へ走り之より分れる小路北方・西方・東方へ通じ隣町村を結べど交通概して不便なり。豐後國風土記に見ゆる球覃郷（一に朽網郷にも作る）の大村。大友氏の族に田北氏あり。蓋し大字田北に居して名を負へるもの。

シモタサキ　下田崎　省線古江西線の驛（大正九年設置）。鹿兒島縣肝屬郡鹿屋町にあり。

シモタチウリ　下立賣　京都市上京區の横の通りの一。上立賣・中立賣に對する名稱。御苑の西なる烏丸通に起り府廳前を東西に通ず。北に出水通南に樋本通と隣接す。長町女服切・上「下立賣を堀河へ、引き廻したる角屋敷、刀屋石見何某とて、諸役御免の受領職」大經師昔屏・上「知りやる通りの御身代、下立賣の居屋敷な、町衆の加判で、一昨年三十貫目の家賃に入れたげな」

シモダテ　下館町　茨城縣常陸國眞壁郡の北部。東は委蘆村、北は竹島村、西は伊讃村、南は大田村と隣す。面積僅に一・六七平方粁。全部平地にて略ど街をなし、周圍に畑地少しあり。南部は沼地をなす。機業盛なり。省線水戸線は町を横斷して西走し町内南部に下館驛（明治二十二年設置）あり。同驛はまた省線眞岡線の分岐點にて同線はこれより北走し、他に南方より來る社線常總鐵道ありてその終點をなす。縣道またこれ等の線に沿ふ。此地古くは和名抄新治郡伊讃郷の内とす。中世伊佐氏の據有せる所にして中館（いま中村の大字、下館は對稱なり）（上館は中村の大字稲田なり）といふ。伊佐氏衰へ、結城氏の屬封となり水谷氏に分知せしむ。文祿中には水谷伊勢守勝俊これに居し爾來一方の儀城として近世に至る。當町は明治四十年明治天皇結城行幸の際その行在所となりし地にして、いま明治天皇下館行在所として指定史蹟たり。〔下館城〕町の北部にその址あり。東に五行川を帶び北方は平田遠く開け要害の地たり。天慶年中藤原秀郷の平將門を討ちし時伊佐莊に三館を設けしが、その一館即ちこれなりと傳ふ。鎌倉時代の初め、伊達氏の祖常陸介朝宗入道念西の所領なりしも、文治五年源頼朝の陸奥を征するや、朝宗その子爲宗等と共に從軍し功ありしを以て、朝宗陸奥伊達郡に封ぜられ伊達氏と稱し、伊佐莊は爲宗承繼ぎ、伊佐氏となり、子孫代々この地に住す。文明十年に至り結城氏の家臣水谷勝氏當城に入り、子孫相承け慶長五年勝俊の時三萬石を加封せられ、その子勝隆寛永十六年備中松山に移り、水戸城主德川頼房の子頼重の領となる。その後寛文三年常山正俊、元祿十五年井上正岑、同十六年黒田直邦等交々これを治し、ついで享保十七年石川總茂の有となるに及び子孫傳承して明治維新に至り、以來廢城となる。なほ下館藩は明治四年下館縣となりしが久しからずして茨城縣に入る。本町の今日あるに至りしは石川氏に聘せられし二宮尊德の功績に大なるものあり。〔羽黒神社〕大字上野に鎮座。郷社。祭神大己貴命。天文年中邑主水谷氏出羽の羽黒神を崇信し爲に同神の祠を邑内七所に創立し七羽神社と稱し、本社は其第一なり、別當を清龍寺といへり。後に石川氏領主となるや本社を以て下館の總鎮守と爲す。〔極樂寺〕金井にあり。天台宗。無量壽山往生院と號す。七百年來の古刹なりと稱すれどもその年代を詳にせず。境内に筒井淨妙の墓あるを以て知らる。本堂に智證大師作聖德太子像を安置す。〔妙西寺〕大町下にあり。曹洞宗。結城町安穆寺末。天平十四年城主水谷出羽守

正村入道橋龍齋、詳雲院蓮室妙西追福の爲に開基し天秀眞惠和尚を開山とす。往昔は七堂伽藍完備せし五刹たりしも、寛永年間大禮越水谷伊勢守勝隆、松山城へ轉封の後衰微す。明和五年炎上。のち漸次復興し、明治三十三年漸く舊觀に復すといふ。〔藏福寺〕西町にあり。時宗。八十山光雲院と號す。江州番場蓮華寺末とす。末寺二僧院を有したり。

シモタド　下多度村　岐阜縣美濃國養老郡の南端。北は上多度村、東は笠郷村及び池邊村、南部は海津郡城山村、西部は三重縣員辨郡十社村に接す。養老山脈の東斜面に位し、山麓は大鄙層屋なし三角末端面は並列す。その分岐山脚の間よりは川が流れ小扇狀地集り複合扇狀地なし、水は鄙層屋より伏流となり砂川なし。かく鄙層運動が起りし爲め濃尾平野の地は低下しここに湖水狀なせしものにて、下池は其遺蹟なるべし。池は近年は相當埋立工事進み耕地となる。津屋川は鄙層屋下を流れる川にて下池の水を合す。平野は全に低く五米以下の地にして古來水害多きため、ここに輪中形成せられ有尾輪中と云ふ。平野部の低濕地は水田となり、扇狀地には桑畑と松林が交叉し下池には家鴨を飼ふ。楽落は大體扇面にありて集村なし、交通線にては社線伊勢電鐵養老線南北に走り、美濃津屋驛（大正八年設置）あり。此地は和名抄、多藝郡佐伯郷の地に屬せしか。大字津屋は郡村記に津也とあり、八幡神社及び慈眼寺あり、八幡神社は郷社にて、應神天皇・神功皇后・比咩神を祀り、例祭十月五日。慈眼寺は淨土宗にして寺領二石あり。多藝七坊の中の一寺なり。大字志津の美敦寺は志津山と號し、淨土宗西山派なり。廢寺の古蹟に元祿三年大垣城主の建立ありて戸田肥後守氏西の菩提香華の地となる。此地の刀工兼氏は初名を包氏と云ひ大和國千手院にて刀匠となり世に之を大和志津と稱し珍重す。元和三年正宗の門なるたたき研讃する事數年、奥義を極め、元應年中此の村の志津に移住し、志津三郎と稱し名を兼氏と改名す。居を鍛冶屋谷に定め刀鍔を鍛ふ毎に背後の大岩に祈念し齋戒休浴し鎚槌を揮ふと云ひ、世に鎚掛岩と稱す。

シモタナカミ　下田上村　滋賀縣近江國栗太郡の南部。大石村の北に接し東は甲賀郡長野町、北は上田上村と瀬田町、西は瀬田川を隔てて大津市に境す。村の南東部は甲賀高原に屬する山地にして太神山（五九九米）・矢筈嶽（五六一米）・笹間ヶ岳・堂山（三八四米）等あり、何れも田上山脈に屬し地質は古生層が基盤をなし花崗岩これを貫き、表面よく浸蝕を受け鋭峰處々に屹立し不規則なる地貌を呈す。堂山・笹間ヶ岳の線より西は漸次低下して二〇〇米より一〇〇米までの丘陵地となり、其の迷續は大戸川の西岸より瀬田町の境上に現はれ舊洪積世の古琵琶湖層に屬する粘土・砂礫層より成る。大戸川本流は鄙層谷にて沿岸に著しく開析せられ長さ約三粁、幅約一・五粁の長方形の盆地を形成し、上田上村に續き本村の主要聚落と耕地を發達せしむ。大戸川は上流を田上川と稱し伊賀國土岐嶽より發し甲賀郡信樂町より上田上村を貫流して本村に入り大字今村より西部を横斷して大字黒津にて瀬田川に合流す。村内の流程三粁餘、水量多く灌漑に便す。天神川は太神山の西斜面より發し山地を西流し茨川・二本木谷川を合し大字新田場より平野に出で大字里にて大戸川に併さる、全長約七粁。雨期には氾濫するも平時流水少し。産業は農業を主とし米・麥・茶を產し、瀬田川の氷魚は古來名高し。縣道は瀬田町より本村の稻津に來り、更に關津を經て大石村方面へ向ふ。本村は上古上田上村大石村と共に田上谷と稱せられ老上郷の一部をなし谷上または手上にも作る。中世には田原莊の名あり。田上山・田上不動・黒津の里等が屋々散枕となる。江戸時代には大字羽栗地方が茨野藩土方領なりし外、大部は膳所藩に屬し、明治十八年に東村外八箇村と羽栗村外十一箇村の各戸長役場に分轄せられしが二十二年に現制の如くなる。大字關津は瀬田川の左岸にあり、この地は文德天皇の朝、瀬田川に沿うて山城字治に出づる街道を拓するを以て大石關の設けられし所といふ。關は始め、近江國には相坂（逢坂）關のみなりしが、文德實錄によれば天安元年四月、外に大石・龍鄙の二關を置くと。また大戸川の瀬田川に會する所の大字黒津はいま大津市内となりし鹿賀郡石山村大字南郷に至る瀬田川の徒渉點に當り石山の心見瀬ともいふ。古へこの瀬にて獲りし氷魚を朝廷に貢げりと。〔新茂智神社〕大字關津にあり。村社。稻依別王命、大己貴命を祀る。社傳によれば天平寶字五年創祀といふ。〔安樂寺〕大字核にあり。淨土宗。不退山と號す。寺傳に弘仁五年、最澄の開創に係るといふ。藥師堂安置の藥師如來坐像（木造）一軀は藤原期の作にて國寶たり。〔不動寺〕大字森にあり。天台宗寺門派。太神山と號す。寺傳に貞觀元年圓珍の開創に係るといふ。建久年間本堂を建立。寛文年間當麓當寺を重構するや堂宇を修復し大いに寺觀を革む。堂宇中本堂は國寶たり。〔正法寺〕大字黒津にあり。臨濟宗妙心寺派。大日寺と俗稱す。草創年代不詳。もと天台宗なり所謂三千坊の一たり。元龜年間、織田氏の兵火に罹り伽藍烏有に歸せしが、正德年間大林再興して現宗に改め今日に及ぶ。本堂安置の帝釋天立像（木造）一軀は鎌倉期の作にして國寶。

シモタニ　下谷村　福島縣岩代國河沼郡の西南部。東は睦合村・柳津村、南は柳津村・大沼郡沼澤村、西は野澤町に隣接す。西南に越後山脈に屬する高陽山（九〇四米）・黒男山（九八〇米）、東南に

日向倉山(六〇五米)、東に飯谷山(七八三米)西に赤羽根山(六七一米)聳え、長谷川は西南の山地に出でて峡谷を穿ちつつ村の中央を東流し、東部に於て流路を北方に變じ、野澤町に入りて阿賀川に合す。全村略ど山地にして森林多く耕地少し。從つて林業を主生業として材木・木炭の産多し。赤羽根鑛山には金を、山口鑛山には亞鉛を出す。道路は長谷川に沿ひて南北に通じ、北方野澤町に至る。いま尾野本村・登世島村・蒲合村と組合町村をなし役場を尾野本に置く。大字出原は往時伊豆原紙を産せしことあり。

シモタンスイ　下淡水溪　臺灣高雄州にある川。臺灣第二の大河にして、名稱は臺北州下を流るる淡水河に對して名付けしもの。其源は二あり、一は新高山下に發する補梓仙溪にして他は新高山の東方なる秀姑巒山に發源する荖濃溪なり。此兩溪は何れも南に流れ屏東平野に入り、合流して下淡水溪となる。其何れを本流となすべきかに就きては種々論あるも、其地貌・流路の形成等よりする時は補梓仙溪を本流となすべきなり。即ち荖濃溪が山間を縫ひ、屏東平野に入りて不規則なる網目狀の細流に分れ、それ等が某個の山地より流下する小溪流と共に次第に下淡水溪に合するものなり。其主なる小溪流は武洛溪・喬子寮溪等とす。東港郡東港街にて海に注ぎ、其流程は延長約一五五粁、旗山・屏東・鳳山・東港の四郡を流貫す。下流の幅員は三粁に達し、河口より五〇餘粁の上流まで舟楫の便あり。本川は往時より一度臺雨到れば忽ち氾濫し作物を害する事大なりしが、近時治水工事の進捗と共に其被害漸次減少せり。本溪に架する總督府鐵道潮州線の下淡水溪鐵橋は本邦第一の長橋にして延長一五二六米、明治四四年起工、大正二年末竣工す。附近は風光絶佳、古來鳳山八景の一として人口に膾炙す。

シモチカ　下近　↓上近(肥前國)

シモチクイ　下竹圍　朴子街(臺灣臺南州東石郡)

シモツ　下津町　和歌山縣紀伊國海草郡の西南部。南は有田郡に界し、西北は下津港に臨む。南境には長峰山脈の西端東西に連りて明神山(三五六米)を起し、山脚は西北に延びて西境を限りて其末端海に盡くる所にて、北方大崎村との間に下津港を擁す。町は概れ山地にして東境の塵坂より發し下津港に注ぐ小流沿ひに低地あり、水田拓き僅かなるも畑地卓越す。生業は半農半漁を常とす。農産物は米・麥・薯あり。柑橘の産多く又その集散地たり。漁場は下津港の好錨地ありて沿岸に漁業行はる。なほ綿織物・鮫取網・香等の工産に大なるものあり。下津港(內務省指定港)は礦油(約四七萬圓)・木材(約四二萬圓)・蜜柑(約一九萬圓)・鑛石(約一二萬圓)を移出し、礦油(約四七萬圓)・木材(約四二萬圓)・綿絲(約一四萬圓)・鑛石(約一二萬圓)・內地米(約七萬圓)等を主として移入す。省線紀勢西線は下津港頭に沿うて通じ下津驛(大正十三年設置)を置き、日方町より南方の有田郡箕島町に達する鐵道は鐵道沿ひに走り、各バスも通ず。此地もと濱中村と云ひしが、昭和十三年六月一日町制を布き下津町と改む。

シモツヤキ　下秋　美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄大野郡に下秋郷あり、刊本は下秋を下枝或は下秋に作るも本郡に上秋あるより推して下秋とすべし。その地今の揖斐郡大野町の邊か。

シモツイ　下津井【下津井町】　岡山縣備前國兒島郡の西南端。東・南・西は海に臨み、北は赤崎町に界す。面積僅に六・三二方粁。西部を南北に東部は西北より東南にと迷互する高さ約一〇〇米餘の丘陵あり兩山地の間に一條の低地あり、よき交通路をなす。南岸崖下に市街展け岡山市より南下し東岸より市街北方を廻り西端に至る社線下津井鐵道の終點驛下津井(大正三年設置)あり、また四國街道の終點をなす。字野港連絡船間通以前は四國へ渡る要港として榮えしが、今日はただ丸亀港との連絡あるのみ。町の東南部、瀬戸內海に突出せる半島狀の地形をなす所を鷲羽山と呼び瀬戸內隨一の展望臺として知られ指定の名勝たり。海岸は海の公園と云はるる瀬戸內海中にても稀に見る絶景をなし、瀬戸內海國立公園の代表的風光の一に數へらる。名所の一なる象岩は指定天然記念物にて六口島の西南岸にあり、形狀巨象の水邊に道遙するに似たり。また鷲羽山驛の北、神道山の中腹に有名なる下津井無線電信局あり。燈籠堂は燈籠岬の山上にありて萬治三年船舶交通の安全を計る爲池田公の築ける燈臺なり。鳥留守城址は古くより海賊の根據地となり、足利尊氏筑紫より都へ攻め上る途中此處に駐軍しまた小早川氏もこの城に據り慶長十一年以後池田長政の居城となり、今これを城山公園と呼ぶ。釜島城址は藤原純友天慶の亂の古戰場にして其の附近の鳴瀬は海賊跋梁の遺跡にて、島の東部畑中に彌生式土器の窯跡ありて釜島の名之より起ると云ひ傳ふ。町は明治二十九年町制施行、四十年下津井町・長濱村を廢しその地域を以て新に下津井町を置く。

【下津井鐵道】　私設鐵道。岡山縣兒島郡にあり。省線宇野線の茶屋町驛(茶屋町)より起り海岸の下津井驛(下津井町大字下津井)に至る。全長二一粁。大正二年十一月に營業開始。赤崎村の儘前赤崎驛より下津井驛間は翌三年三月に全通す。

シモツイズミ　下泉　和泉國(大阪府)の古地名。和名抄に和泉郡下泉郷あり。地は泉北郡大津町の大字穴師・上條・下條大津の邊に當る。

シモツウナカミ　下海上　↓海上(千葉縣)

シモツオヌノハリハラ　下小野榛原　大和國(奈良縣)の古地名。神武天皇の四年、天皇靈時々鳥見山に立て、皇祖天神を祀り給ひ名づけて上小野榛原・下小野榛原といふ。その地いま磯城郡鳥村大字外山(ふかやま)の地なるべしといふ。

シモツガ　下都賀郡　栃木縣下野國八郡の一。縣の南部。北は上都賀郡、西は安蘇郡、東は河內郡・芳賀郡・茨城縣猿島郡・埼玉縣埼玉郡・群馬縣邑樂郡と界す。面積六〇七・二五平方粁。西北部は足尾山塊の一支脈の東南端を占め、西北境に矢倉山(五九九米)・三峯山(六〇五米)等あり。東部より南部にかけての郡の大部分は關東平野の一部をなし、東部を思川南流し、また足尾山塊より出づる永野川は西部を南流し、その他にも兩川の支流多し。郡の南端は渡良瀬川・思川の合流點にて附近は沼地をなす。思川・永野川の中間部は水田多く、思川以東には畑地多し。農産物多く米・麥・大麻・千瓢等を產し、また養蠶盛にて繭の產多し。東部を陸羽街道東北に走り、省線東北本線これに沿ひ、また小山町にて省線水戸線・兩毛線と連絡し水戸線は東走して茨城縣に入り、兩毛線は西走して、安蘇郡に通ず。社線東武鐵道日光線は西方山麓を北走して日光方面に通じ、栃木市より東武鐵道宇都宮線を分ち、同線は東北本線と平行して東北方宇都宮市に通ず。明治十三年都賀郡を上都賀・下都賀の二郡に分つ。同二十二年下都賀郡は寒川郡を合せ以て今日に至る。※都賀(郡)

シモツグ　下津具村　愛知縣三河國北設樂郡の北部。豐橋市の東北約四六粁。北は上津具村に、東は豐根村に、南は振草村に、西は名倉村に接す。木曾山脈の古生層花崗岩より成る山地迷互し、中部には白鳥山(九六二米)、南境には大峠(九五三米)あり。大入川はこの山地を開析して東南方へ流れ、流域は水田地域となり、上津具村に跨る津具鑛山よりは金銀鑛を產す。伊奈街道は西南より九十九折に曲り通過す。聚落は、凡そ山村形態をなし、林業にも依存する事多し。本村は明治二十三年津具村の大字を分割し獨立せしものとす。

シモツクラ　下倉　大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に廣瀨郡下倉郷あり。調を缺くも、之母都久良と調むべきならん。或は下倉は下穴倉を修せるものなれば之母都奈久良と調むべしともいふ。姑く前者に從ふ。その地いまの北葛城郡河合村の邊に當る。大字穴閼は穴倉の轉なるを以てなり。

シモツクラ　下座(郡)　筑前國(福岡縣)の古郡名。古の朝倉宮の地を後分ちて上(朝倉)・下(朝倉)二郡としこれを修略して上座・下座とす。下座は延喜式古本ゾモツクラと調するも和名抄は下都安久良と註し把伎・壬生・廣瀨・甘田・長淵・何東・三島の七郷を置く。江戸時代にはゲザとも調む。明治二十九年上座郡及び夜須郡と合併し朝倉郡を建つ。

シモツケ　下野【下野國】　關東平野の北部に位し東山道十三國の一。北は岩代國及び陸奥國に接し、東より東南へかけて常陸國に隣り、西より西南は上野國に境す。この國もと上野國と共に毛野國といひしが、のち上下二國に分れ、東を下毛野國、西を上毛野國といへり。奈良時代の初め地名は必ず二字とし且つ美名を附けしむ。この時毛の字を省きて下野とせしが、呼稱は依然シモツケヌと唱へしものゝ如し。いま國內を宇都宮市・栃木市・足利市及び河內・芳賀・塩谷・那須・安蘇・足利・上都賀・下都賀の三市八郡とし栃木縣の管下に屬す。國造本紀に那須國造を置きしこと見ゆるも、のちこれを下野國と合せり。國郡制定の後、國府を都賀郡高家郷に置く、其地今の下都賀郡國府村大字國府なり。和銅年間多治比廣成下野國司に任ぜらるゝ。また僧道鑑流謫の意味を以て造下野藥師寺別當に補せられし事あり。其後、天慶の亂の時、下野國司藤原秀郷平將門を討伐して功あり國守となり、爾後、子孫相承け押領使(國司・郡司にて追捕使を兼ねたるもの)となり、都賀郡の小山に居りて小山氏を稱す。この外、國內に那須に那須氏、宇都宮に宇都宮氏等の豪族あり、また奥羽の戰爭に功ありし源義家の孫義康足利に居りて足利氏を稱せり。義康八世の孫高氏西上して後醍醐天皇のために勤王の旗を擧げ大いに功あり き。建武中興の時宇都宮公綱この國の守護職となる。のち足利氏叛き吉野朝廷の時代となるに及び、前記の諸氏下總の結城氏と共に官軍兩軍に分れて相爭ひ、爾後常に中央の勢力に相應して分合し國內の統一を缺く。豐臣氏小田原を征するや那須氏の地を沒收して福原に移し、黑羽に大關氏を、大田原に大田原氏を、宇都宮に宇都宮氏を置きしが、慶長の始め秀書の旨に悖り宇都宮は蒲生秀行に與へらる。德川氏の代となりて國內に封を受くるもの多かりしが、幕末まで殘存せしものに茂木(細川氏一萬六千三百石)・大田原(大田原氏一萬千四百餘石)・黑羽(大關氏一萬八千石)・烏山(大久保氏三萬石)・宇都宮(戸田氏七萬七千八百五十石)・足利(戸田氏一萬千石)・佐野(堀田氏一萬六千石)・吹上(有馬氏二萬石)・壬生(鳥居氏三萬石)・喜連川(足利氏五千石、十萬石待遇)・高徳(戸田氏一萬千百餘石)の十一藩ありき。然し高徳の戸田氏は明治三年三月下總に移り、同年七月喜連川藩は版籍を奉還せしため喜連川の地を日光縣の管轄とせり。日光縣はこれより先、明治二年舊幕府日光の領地に置かれしものなり。明治四年一般の廢藩置縣の際に前記の諸藩何れも縣となり、十一月に壬生・吹上・佐野・足利の諸縣は日光縣と

共に栃木縣となり、足利・梁田・寒川・安蘇・都賀の五郡を管し、宇都宮・烏山・黒羽・大田原・茂木の五縣合して宇都宮縣となり、芳賀・塩谷・那須・河内四郡を管す。明治六年六月に至りて栃木縣は宇都宮縣を合併す。玆に於て下野國一圓栃木縣管下に入る。なほ都賀郡は明治十三年五月に上下二郡に分ち、二十三年三月に寒川郡を廢して之を下都賀郡に合併し、更に二十九年四月梁田郡を足利郡に合併し、以て今日の如く八郡となる。

【下野電氣鐵道】私設鐵道。栃木縣北部にあり。幹線は鹽谷郡矢板町なる東北本線の矢板驛より起り、藤原町の新高徳驛を過ぎ河内郡を掠め上都賀郡今市町の下今市驛に至る。支線はこの新高徳驛より分れ鬼怒川温泉をすぎ藤原町大字藤原の新藤原驛に至る。全長は幹線三〇・六粁、支線九・一粁。沿線に鬼怒川に沿ふ鬼怒川温泉あり。下今市驛にて社線東武鐵道と接續し、東京市淺草區の雷門驛より鬼怒川温泉驛まで連絡直通運轉をなす。

シモツケヌ　下毛野　陸奥國（陸中・岩手縣）膽澤郡の古地名。下毛野國の移民の居りし處なるを以てかく名づく。續日本後紀承和八年三月に陸奥國江刺郡領上毛野膽澤公毛人の名見ゆ。上毛野・下毛野二氏は同祖にして共に此地に居りしものなり。その地今明らかならざるも、或は小山村の邊ならんか。小山は下野國都賀郡の郷名にして移民は蓋しこの地方より來れるものにして、その郷名を傳へしものの今に遺るものならんか。→下野國

シモツケヌ　下野

シモツコマ　下狛　山城國（京都府）の古地名。和名抄に相樂郡下狛郷あり。地は今の川西村の邊に當る。大字下狛はその遺稱なり。

シモツヌマ　下沼　尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄に丹羽郡下沼郷あり。その地今詳かならざるも丹羽郡犬山町の邊に當るか。

シモツハタ　下秦　武藏國（埼玉縣）の古地名。和名抄に埼羅郡下秦郷あり、其地今の大里郡内ならんも詳かならず。一に下秦は下奈の誤にて奈良村の大字下奈良・上奈良の邊なるべしともいふ。

シモツハヤシ　下林　山城國（京都府）葛野郡の古地名。和名抄に下林郷見ゆ。もと林郷なりしを戸數繁殖せしため上下二郷となりしものならん。その地は葛野郡舊川岡村の地に當り、大字下津林は、その遺名なり。いま京都市右京區に入る。

シモツヒラ　下枚　伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に飯高郡下枚郷あり。地は飯南郡伊勢寺村・松江村の邊に當る。

シモツフカエ　下津深江　熊本縣天草郡にありし村。昭和十一年本村及び小田床村を廢し下田村を設く。

シモツフサ　下總國　→下總國

シモツマ　下妻　【下妻町】茨城縣常陸國筑波郡の南端。東より北は大寶村、西は上妻村、南は結城郡總上村と隣す。面積三・九七平方粁。全部平地にて西端に砂沼あり。畑地多く東の一部は水田をなす。生業は商業三九〇戸、農業三〇三戸、工業二六〇戸にて主産物は農産に米・麥・生絲・工産に桐材・農具あり。縣道は町を縦横に通じ聚落はその交叉點に發達す。社線常總鐵道は町の中央を北走して下館町に通じ町内に下妻驛（大正二年設置）を設く。當町は大寶村と共に和名抄、新治郡下眞郷の地なるべく町名は蓋し其遺稱とす。中世下妻庄と稱し此地名を負ひし下妻氏に三流あり。一は秀郷流小山氏族、一は桓武平氏大掾氏族、一は下間氏（始め下妻氏）と稱し清和源氏頼政の一流なり。康正中多賀谷氏下妻城を築くといひ、爾來城主の變遷はありしも、落て明治維新に至る。（下妻城）その創めは詳かならざるも、もと常陸大掾氏の治所たりき。源頼朝これを小山朝長に與へ、その子孫に至りて下妻氏を稱し、遠孫政泰の時、延元三年北畠親房を同國關城に迎へて賊軍と戰ひ、城陷りて死し廢城となる。のち康正中結城氏の臣、多賀谷氏新たに城を構ふ。この後重經の時、天正十八年豐臣秀吉に小田原にて謁し、本領を安堵せられ子虎千代を石田三成の烏帽子子となし三經と名づく。慶長五年關原の役起るや、三經、三成に黨して所領を收められ、佐竹氏に從ひて出羽に移り、城遂に廢す。ついで同十一年家康この地を子頼房に賜ひ、十四年頼房水戸城に移るに及び、一時城主を缺き、正德二年井上遠江守來りて治するに及び城郭を修め、爾後子孫相承して明治に至る。

【下妻（郡）】筑後國（福岡縣）の舊郡名。上古の八女縣を國郡制定の時郡となし、後これを上陽咩・下陽咩の二郡とせしものと思はる。和銅以後これを上妻・下妻と改む。和名抄は上妻（加牟豆万）の側に準じて志毛豆万と訓み新居・廬持・郡郡の三郷を設く。明治二十九年上妻郡及び生葉郡の一部と合併して八女郡を建つ。太宰管内志・筑後・七「下妻郡。方位は東北すべて上妻郡、南方は山門郡、西方は山門・三潴兩郡に隣りて、郡中に山なく田地廣し」

【下妻】福岡縣八女郡にありし村。明治四十一年本村外二村を廢し、水田村を設く。

シモツマガリ　下勾　大和國（奈良縣）の古地名。和名抄に廣瀬郡下勾郷あり、北葛城郡百濟村に當る。

シモツミケ　下毛郡　→下毛郡

シモツミチ　下道（郡）　備中國（岡山縣）の古郡名。もと下道國といひ國造を置く。類聚國史天長十年の條に下道郡見ゆ。和名抄は之毛豆美知と訓じ、穂北・八田・蓮勝・曾能・奈原・水内・眞代・近似・成羽・爺屋・穴田・鴨野・河邊・星妹・田上の十五郷を置く。中世、郡の西北を割いて川上郡を置く。明治三十三年東北の賀陽郡と合して吉備郡の稱を建つ。而して往古の下道國は本郡と小田・後口二郡の地をも含めるものなり。

シモツミワ　下神　伯耆國（鳥取縣）の古地名。和名抄に久米郡下神郷あり。地は東伯郡下北條村・中北條村に當り、下北條村の大字に下神あり。

シモツラ　下津浦村　熊本縣肥後國天草郡天草上島の西部。島原海灣に臨み北部・東部は上津浦に、南は栖本村に、西は島子村に界す。西北部境域迫りて狹くなり、面積八・八五方粁。南境に四三一米の中岳ありて西北方へ傾斜し、西北隅に僅に海岸低地開く。海岸線は稍屈曲あれど長さ約〇・五粁なり。村民は農業を營み米・麥・粟・甘藷を産し副業として養蠶を營み山林より薪炭を出す。北部を東西に通ずる一路あり。また之より分れて南方へ走り南端栖本村にて東西に通ずる街道に連絡すれど交通緩にして振はず。此地古くは和名抄、天草郡志記郷の内に屬せしものの如きも、其後の沿革は詳かならず。

シモテラマチ　下寺町　大阪市南區内の町名。東區の上寺町に對する名稱。高津五番町の東に隣接し、南北に通ずる町。曾根崎心中「また立ち出づる雲の脚、時雨の松の下寺町に、信心深き心光寺、怖らぬ身さへ大悲寺」生玉心中「下寺町の後夜の鐘きも身にしみ〴〵と、今ぞ二人が一生の、夢の裏覺を松殿町」

シモトーゴー　下東郷村　鹿兒島縣薩摩國薩摩郡の西北部。川内川下流近くに跨り、全體に稍東方へ彎曲し南北に細長く幅二粁餘。長さ一五粁餘。東北方紫尾山（一〇六七米）より西方へ延びる山嶺の一部北境に達りて南方へ傾き次第に低夷して中部・南部は一〇〇米程の臺地をなし山間處々に盆地開け、南端は川内平野の一部を占め土地平坦なり。東方より來る川内川東南部に入り、東境を南流する田海川を合せ南方へ向ひて南端にて東南境に沿ひて更に南へ流れ、約〇・五粁南方にて西に折れ、西方約一二粁にて東支郡海に注ぐ。山間盆地及び南部平野には耕地面積廣く米・麥・粟・甘藷等を産しまた桑の栽培も行はれて蚕繭盛なり。西南隣東水引村には鹿兒島街道西北より東南方へ通じ之より分れる街道は南部より北へ走り川内川の低地に沿ひて東に折れ東方に向ふ。ここより分れる一路北方へのびて横座峠をこえて北方へ向ふ。省線宮之城線は東南部を掠め薩摩白瀧驛（昭和十一年設置）を設く。古くは和名抄、高域郡託萬郷の内にして、近世上東郷村と共に單に東郷と稱せられる。薩摩國建久圖田帳に「東郷別府五十三町二反内云々、下司在惣道友」または郡司名主在惣道友とあり、道友は大前氏にて當時世襲の郡司なりしを、寶治二年藤谷太郎光重、鎌倉より此地に來り大前氏を滅してこれを領すといふ。

シモトージョー　下東條村　兵庫縣播磨國加東郡の東南部。姫路市の西方約二〇粁。北は社町に、東は中東條村に、西は美囊郡細川村・市場村に、西は福田村に各々隣る。凡そ丹波高原の南西播磨平野に浸する所に當り、第三紀層より成り一七〇米以下の高度を示す低丘陵が起伏す。南部には勝寺川が、中部には東條川が東流し、低地には水田卓越し山麓線に沿うて灌漑用水池の列を見る。道路はこの低地の兩側山麓線に沿うて東西に通ず。この地は和名抄、賀茂郡住吉郷の地にして、播磨風土記の論鹿里は此神近一帯の地ならん。中世は東條庄と稱し太平記には「延元二年、宮軍金谷治部大輔經氏、播磨の東條より打出で吉河高田が勢を附けて丹生の山陰に城郭を構へ、山陰道の中道を差塞ぐ」と見ゆ。大字管田には式内社管田神社あり、大字小田には式内社堀田神社（いま縣社、祭神表筒男命・中筒男命・底筒男命・神功皇后例祭、十月九日）ありて相當古くより開けし地なる事を證す。赤松氏の領有時代にはその一族伊豫守が小田に居りて、此邊を治むと。

シモトガリ　下戸狩　省線御殿場線の一驛。明治三十一年設置。静岡縣駿東郡長泉村下土狩にあり。

シモトキダ　下外城田村　三重縣伊勢國度會郡の東北部。宮川の左岸に位し東北部は宇治山田市の西北部との間に約一粁を隔つ。北は城田村及び田丸町に隣り、西は東外城田村に接し、南は内城田村に界し、東は宮本村に續く。西南部は一〇〇米乃至一五〇米程度の低き山地をなし、北部より東北部及び東部にかけては一體に低き臺地をなすも伊勢平野東南部の平坦地を占む。宮川は西南方より東北方に向つて流れて東境を限る。米・麥・甘藷等を産しまた木炭を出す。北隣城田村及び田丸町には省線參宮線東西に走り西北約一粁に田丸驛あり。此地は和名抄に城田郷とある地に屬す。中世に外城田・内城田の二郷あり。大字岩出は大中臣祭主家の田莊なりき。大中臣祭主家は施永以後京都に住して藤波氏を稱す。岩出城址は即ち祭主の故館なり。天正三年田丸中務具直築城し同十八年豐臣氏より牧村兵部利貞に與へ、利貞の後その妻弟稲葉通直繼ぐ。明治維新和歌山藩田丸領勝田縣に屬したり。奈良淺見神社は皇大神宮攝社にして、祭神は那良原比女命にして式内社とす。二月及び十一月の十二日に例祭を行ふ。

シモトップ　下德富　省線札沼線の一驛（昭和六年設置）。北海道石狩國樺戸郡新十津川村にあり。

シモトバ　下鳥羽　京都府紀伊郡に

ありし村。昭和六年京都市伏見區に入る。

シモトマリ　下留　飛騨國（岐阜縣）の古郡名。續紀光仁天皇の寶龜七年十月の條に美濃國菅田郡と飛騨國大野郡伴有郡と相距ること七十四里、巖谷險澁にして行程殊に遠し、その中間に景りて一郡を置き名づけて下留といふとあり。延喜式にも郡名見え駅馬五疋とあり。地はいま益田郡（貞觀十二年大野郡より分離す）の飛騨川の左岸の下呂町なり。下留は後雲讃してゲルとなり轉じて現名となりしもの。下呂は溫泉を以て名あり。

シモトヨトミ　下豐富　京都府天田郡にありし村。昭和十一年福知山町に編入さる。福知山町は昭和十二年市制を布く。

シモトヨマツ　下豐松　廣島縣神石郡にありし村。明治三十年本村外四箇村を合併し豐松村を建つ。

シモトリ　下鳥　常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に鹿島郡下鳥郷あり、その地今の鹿島郡内ならんも詳かならず。一に大岡村の邊に當るともいふ。

シモトンベツ　下頓別　北海道北見國枝幸郡頓別村の大字。省線北見線の下頓別驛（大正七年設置）を置く。

シモナカ　下中村　神奈川縣相模國足柄下郡の東北隅。國府津町の東北隣にあり。西は田島村・下曽我村、南は前羽村、北は足柄上郡中井村、東は中郡二宮町と隣す。面積七・六〇平方粁。酒匂川以東の丘陵地の一部を占め、西端に二四六米の山あり。東部には丘陵間に細き低地ありて、縣道南走し、前羽村にて東海道に合す。國府津町にある省線東海道本線國府津驛に近し。この地は和名抄、餘綾郡礪長郷・中村郷の地なるべく、近世足柄下郡成田庄（今の大字羽根尾・中村原・小船・上町・沼代・小竹は此庄に屬す）及び海老郡二ノ宮庄（大字山西この庄に屬す）の内とす。

シモナガサキ　下長崎　長崎縣西彼杵郡にありし村。明治三十一年長崎市に編入す。

シモナカシマ　下中島　【下中島村】岐阜縣美濃國羽島郡の南部。北に上中島村、東は愛知縣中島郡朝日村、南に桑原村、西は桑原村を距て海津郡に接す。濃尾平野の中央竹ヶ鼻町の南約二粁にあり。村域は海拔五米以下の低地にして東は木曽川に、西は長良川に面し昔より水害多く此地方特有の輪中なる水害豫防組合を組織し、桑原輪中といふ。輪中内は水田となり、堤外地は桑園となる。戸數三九六戸中九〇%は農家にしてその内六〇%は養蠶を副業とす。その外養鶏三六〇戸、養豚三〇戸、促成栽培一五戸あり。社線竹ヶ鼻駅設置は北の竹ヶ鼻町より南し、本村を經て桑原村大須に至り、村に市之枝・美濃石田・昭和四年設置）の二驛を置く。此地、往古は尾張國（愛知縣）中島郡に屬せしもの、木曽川流路の一定せざる當時その中洲たりしものなるべし。鎌倉時代市之枝は櫟江庄と呼ばれ室町時代には石田は石田郷、城屋敷は桑原庄と云ふ。また市之枝は長岡庄大須郷とも一書に見ゆ。稲荷大明神は境内廣く古松の大樹あり。尾張國神名帳に中島郡從三位櫟江天神と記せる社ならん。石田も亦長岡庄大須郷の中にて、延喜神名式に尾張國中島郡石刀神社と見え、尾張國神名帳に從三位石刀大神と記せるは此地の社ならん。城屋敷とはもと加賀野井彌八郎の城址あるため此名あり。太閤記に天正十二年長久手の戰終り羽柴秀吉は五月美濃に入りこの加賀野井城を攻め終に攻略すると見え、城屋敷の東南には西加賀野井あり、中世に中庄と呼ばれし地なり。西加賀野井は木曽川の對岸愛知縣中島郡朝日村大字東加賀野井に對する稀なり。加賀野井彌八郎秀望は此地の人なり。先祖は南朝の御連枝仁壽法親王に奉仕し、親王大須の眞言寺に在しきす時坊官として仕ふ。宮が柔去の後は此地を自領として治む。秀望は織田信雄に從ひ八千石を領す（一説には一萬石とも云ふ）。天正十二年秀吉に攻められ沒落し、のち石田三成と謀らひ家康を殺さんとして果さず、後亂兵の爲に殺され斷絶す。

【下中島】兵庫縣飾磨郡にありし村。明治二十七年高濱村の大字下中島を分離獨立して設けるもの。大正八年飾磨町に編入す。

シモナカジマ　下中島村　富山縣婦中國下新川郡の西部。魚津町の南約二粁。北より西は下野方村、北より東は上野方村、南は松倉村・上中島村に隣す。面積四・五五方粁。村の東半は百米臺の丘陵の山裾をなし、ほぼ中央を北流する角川の開析による平野西北に開けて水田をなす。農業を主生業とし米・西瓜の產あり。南北に貫通する二條の縣道あり、何れも魚津町に至る。往古のことは以て徵すべきものなし。

シモナカズマ　下中妻村　茨城縣常陸國東茨城郡の西部。東は中妻村に、南は鯉淵村に、西より北は西茨城郡大原村・大池田村に隣りす。村の西北半は八溝山脈一支脈の東端にて、約百米の山地をなす。東南半は平地にて畑地多く所々林を交ふ。縣道は村の中央を橫斷して東方水戸市（約八粁）に通じ、省線常磐線また之に沿ひて東走し、村内に内原驛（明治二十二年設置）を置く。中世は中妻村・上中妻村と共に中妻郷と稱せらる。

シモナガタ　下長田　省線藝備線の一驛（昭和五年設置）。廣島縣高田郡向原村長田にあり。

シモナガナワシロ　下長苗代村　青森縣陸奥國三戸郡の東北端。八戸市の北に接し、東は太平洋に面し、東南は馬淵川を隔てて館村に對し、西は上長苗代村に各隣接す。東西四・二粁、南北四粁。西北に五〇米以内の洪積層の臺地を負ひ、南境を馬淵川東流しその下流一帶は沖積平地にして水田よく拓く。海岸には砂堆發達しその内側に小湖群を湛ふ。馬淵川の流域一帶は略ど水田として利用せられ、米の產額多く且つ良質を以て知られ、其他に蓆・俵・馬の產あり。それ等の產物は八戸市に出さる。東北本線は西部を、省線八戸線また西南部を掠めその尻内驛（上長苗代村・八戸驛（八戸市）に近く、八戸市に通ずる八戸街道、上長苗代村に通ずる主道路の外、馬淵川を渡り上長苗代村尻内に至る道路發達す。本村大字高館は地形自然の館を成し、戰國時代に高館播十郎ここに住し、天正年間九戸政實に寫して落に南部藩に滅さる。以後八戸藩に屬す。明治十六年上長苗代村と共に單に長苗代村と稱せしが、同二十二年町村制實施と共に、上・下長苗代村となる。村内に公孫樹の老木あり、周約四・五米。さ約一八米、樹齡五百年以上といふ。

シモナカヤマ　下中山村　鳥取縣伯耆國東伯郡の西北端。大山北麓端を占めて海に臨む。南は上中山村に東は安田村に西は西伯郡逢坂村に界す。面積六・三九方粁。西南部は南方に聳える大山火山北麓の一部を占め其他は極めて平坦なる沖積地をなす。米產地にして養蠶も行はれ生絲を產す。北部を山陰道東西に通じ其南に省線山陰本線走りて西方約〇・五粁に下市驛（逢坂村）あり。上中山村と共に和名抄、汗入郡東福郷の地なり。

シモナタ　下灘　【下灘村】愛媛縣伊豫國北宇和郡の西南端。宇和ノ海に臨む。北は北灘村及び海に臨み東は畑地村に南は南宇和郡内海村に接し西は由良神に至る。宇和山地の西端の海に臨む所と、宇和ノ海に向つて東西に樹枝狀に延び其末端が南方に向ひ由良神に至る狹長なる半島の北半とより成る。地域は一〇〇米以下の低平なる地より成り海岸は出入の烈しきリヤス式をなす。麥・芋等の畑作の外は漁業行はる。南宇和郡の城邊町と北の宇和島市を繋ぐ街道の道路に當り、南の鳥越隧道を經て北上する道路は海岸に沿ひつゝ東部を通り中央より東北方に通過す。宇鳳は街村にて漁港をなす。人口稀薄なる漁村にして一方粁二八人にすぎず

【下灘村】愛媛縣伊豫國伊豫郡の西南端。伊豫灘に臨む所、北は上灘町に、東は中山町に界し、南は喜多郡滿穂・神澤・白滝・喜多灘の四村に隣す。四國山脈の西端、海に臨む所。村内は高距約五—六〇〇米の山地より成り平地は海岸に沿ふ地より外になし。農產に乏しく山地より木炭を出すのみ。豫讃本線の下灘驛（昭和十年設置）あり。此地は明治二十二年町村制施行に際し大久保・串・石鼎の三村を合して本村を置き、同四十一年石墨を喜多郡滿穂村に分離す。

シモナヨロ　下名寄　北海道上川支廳中川郡にありし村。大正十二年一級町村制を布き美深町と改稱す。

シモニーカワ　下新川郡　富山縣越中國の東北部。富山縣八郡の一。東は飛騨山脈の主脈を境に新潟縣西頸城郡・長野縣北安曇郡に、南は上新川郡に西は中新川郡に界し、北及び西北は海に面す。面積九三一・五九方粁。東境の鹿島鉢岳（二八九〇米）・鉢ヶ岳（二九〇三米）・杓子岳・白馬嶽（二九三三米）等を始め北アルプスの諸峯いづれも峻々たる壯年期の山容を示して、郡の東部に起伏し、西部には猫又山（二三七八米）・毛勝山（二四一四米）一帶の支脈南北に連亘し、この兩山脈の花崗岩地帶を穿ちて黑部川北流し、俗謂「一跨ぎ三里」の峽谷地形をなす　而して下流は愛本を軸に見事なる沖積錐を海に向つて半圓に噴み出し、西北に富山灣を抱く。この平地は片貝川・早月川の沖積地を經て西方富山平野に連る。灌漑便にして水田拓け、遠中米を產する外、黑部西瓜の產多し。骨董の峽谷は發電地帶。崩地は漁港をなし、魚津町・生地町はその中心地。中線地の三日市町・入善町・泊町は農業の中心をなす。郡内泊・入善・生地・三日市・魚津・舟見の六町外三十七箇村。省線北陸本線及び北國街道は郡の北部を貫通し、三日市町より黑部峡谷の谷口宇奈月溫泉まで社線黑部鐵道を通じ、更に上流鐘釣溫泉へは日本電力專用鐵道の便あり。また富山市より西方三日市町（社線富山電鐵を通ず。鐵道は山麓諸村を結ぶもの、西部諸川の谷に沿ふもの、海岸漁村を連絡するもの等あり交通便なり。本郡は明治十三年新川郡を分ち上新川・下新川の二郡とせしもの、※新川（郡）

シモニタ　下仁田町　群馬縣上野國北甘樂郡の中南部。北は小坂村、東北は吉田村、東は秋畑村・頼部村に、西は青倉村に、南は多野郡に各隣接す。南境に關東山地に屬する稻含山（一三七〇米）聳え山麓は北方に傾き、北方は遙に妙義山を望み、北部にて鏑川の上源西牧川と南牧川は合し更に稻含山の北斜面に發する小流なも寄れて東流し、流域に僅に低地ありて耕地拓く。農業・養蠶を主生業とし附近に產する葱は下仁田葱として知らる。高崎市より長野縣に至る縣道は鏑川に沿うて來り、此地にて二道に分れ一は西牧川、一は南牧川沿ひに走り、社線上信電氣鐵道線また鏑川に沿うて來り移點下仁田驛（明治三十年設置）を置く。集落は西牧・南牧兩川の合流點に發口集落的に發達し附近農村の買物町をなし、外に稻含山より發する溪流沿ひに高倉・栗山等の山村的集落あり。此地域は和名抄、甘樂郡酒甘郷の内に屬せしものか。信濃「別路」に當り和見濱道・餘地濱道の分岐點に當る。戰國時代には鷲巣城ありて小幡三河守これに據りしも武田信玄の侵略するところとなる。近世に至り武田耕雲齋

の筑波山に敗れて西に走るや遂永この地を過ぎ高崎の藩兵と戰ひたり。〔水戸烈士弔魂碑〕元治元年水戸浪士武田耕雲齋正生等の一黨九百餘人、寛を京師に訴へんとし下仁田に向ふ過ぎし時、高崎の藩兵之を阻止せんとし兵火を交ふ。浪士精悍にして策戰宜しきを得て死者僅かに三人を出せるのみ。碑は明治三十三年有志者に依り、烈士雪辱の地に建てられしもの。義烈千秋の筆頭は有栖川彰仁親王の御筆。地は星樹木鬱蒼たる中にあり。

シモニューズ　下入津村　大分縣豐後國南海部郡の東端に位す。北・東・南三面は日向灘に臨み、西は上入津村・蒲江町に隣る。此地は古生層より成り場照山地の一部にて、所謂日本の外帶と内帶の境をなす山地なり。村の大部は沈降海岸をなし半島狀をなす。其先端を井崎と云ひ、東部に井崎山（四一二米）峙ち、また南方へ突出せる半島には元猿山（二七〇米）あり、その先に三ッ子島あり。此半島は略ど山地重疊するを以て耕地なく薪炭の產あるも漁業に依存し、西野浦・竹野浦河内は何れも漁船の根據地たり。交通は不便にして日豐線佐伯驛（佐伯町）に出づ。もとは上入津村と共に單に入津と稱せられしも、明治二十二年町村制施行の際に上・下二村に分る。〔早吸日女神社〕大字西野浦に鎮座　郷社。祭神、上筒男命・中筒男命・底筒男命・加遇突智命・事代主命。近衛天皇久安元年の創立と傳ふ。江戸時代には佐伯藩主毛利氏の尊崇を受く。尙ほ海上守護の神として地方民崇き範圍の信仰を集む。社殿は正德五年・寶暦八年・文化三年等に改造せり。

シモヌマ　下沼　宗谷本線の一驛（大正十五年設置）。北海道天塵國天塵郡鶴延村にあり。

シモノ　下野　〔下野村〕三重縣伊勢國三重郡の北部。朝明川に跨り四日市市の西北約八粁。東は八郷村に南は三重村・縣村に西は保々村に接し北は員弁郡大長村及び其東の久米村に界す。面積七・九一方粁。北部及び東南部に五〇米程度の低き臺地ある外は伊勢平野の平坦地を占め中央に朝明川東流し東方約一〇粁にて伊勢海に注ぐ。農業を主生業とし米・麥・菜種・繭の產多くまた藺織工の特產物あり。縣道西北方の阿下喜町方面より來り北部を西北より東南に走り東南方四日市市の北にて舊東海道に連絡す。また一道路は朝明川の南岸に沿ひて東西に延び、社線三岐鐵道其南に之と並行して走る。この地は和名抄、朝明郡大金郷の内に屬す。大字山城に城址あり、見永氏の築く所なり。見永藤七郎秀宗足利氏に屬して功あり此處に封を受けて歷代居城せり。永祿十一年織田信長の爲に滅ぼさるゝ降つて德川氏の頃は松平氏の領なりき。

〔下野村〕廣島縣安藝國賀茂郡の東部。北は東野・莊野二村に、南は竹原町及び西南隅に於て僅に瀬戸内海に臨む。西は豐田郡吉名村に、東は同じく南方村に隣す。西半は朝日山（四五四米）を中心として三〇〇—四〇〇米の山地蟠りて東及び南に傾斜す。東半も凡そ二〇〇—三〇〇米の山地ありて中央及び南に向つて傾斜し兩山地の間に南北に細長き谷あり。溪流そこを南下して流域に三角形の沖積地を開き竹原町を經て内海に注ぐ。平地は農業行はれ米麥及び果物の產あり。南方竹原町より出で北部を東西に通ず、山陽道に續く縣道はこの平地を川に沿ひて廻る。字中道は南部平地に於ける街村にて主邑をなす。本村の地は中世の叙田莊の内。戰國の頃は小早川隆景の領地にして近世は淺野藩の下に竹原下ノ村と稱す。明治二十二年町村制施行に當り竹原町と分立す。

シモノアイ　下野合　茨城縣東茨城郡にありし村。明治二十四年白河村と改稱す。

シモノイ　下井　肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄に託麻郡下井郷あり。その地今詳かならざるも熊本市貴國町及び飽託郡御幸村の邊なるべし。

シモノイッシキ　下之一色　愛知縣愛知郡にありし村。大正七年町制を布き昭和十二年名古屋市に編入。

シモノガタ　下野方村　富山縣越中國下新川郡の西部。魚津町の東南に接す。北は加積村、南は上野方村・下中島村、西は魚津町及び一部は富山灣に臨む。面積三・五六方粁。富山平野の東北部を占め、西南境を早月川、中央を角川、北部を片貝川の分流流れ、水田よく拓く。農業を主生業とし、越中米・越中西瓜の產あり。省線北陸本線は村の西部を通り、魚津驛に近し。その他鐵條の縣道通じ交通便なり。沿革の證すべきものなし。

シモノカワ　下之川村　三重縣伊勢國一志郡の中央南偏。高見山脈の北斜面に位し雲出川支流に跨る。北は竹原村に接し東北は波瀾村に隣り東は宇氣郷村に西南は多氣村に界し、西は僅に八知村と接す。南方國見山脈より北方へ延びる山脚約七〇〇米の高さに東境及び西境を東北より西南の方向に延びて東西兩境を限り、東境にのびるものは東北隅に矢頭山（七二三米）を起しそれより西北に山肢延びて東北境を界し、南方より源流する雲出川支流は中央の褶合谷を流れて北隅より竹原村に出で西北約四粁にて本流に合す。聚落は中央の谷に散在す。主生業は農業・養蠶業にして米八二千石）・繭（六千五百貫）を產し外に茶一千七百貫）・葛粉（千圓）・蒟蒻（三萬貫）の特產物あり。林業も行はれ、木材（五萬圓）・木炭（八萬貫）を產す。中央谷に沿ひて道路通じ、これより分れて山地を越え東方及び東南に延びて東隣宇氣郷村に至るものまた西隣八知村に達するもの等あり。古く豪志郡宮野郷の内に屬す。

シモノクニ　下ノ國　→上ノ國

シモノゴー　下之郷　愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年落合村と合併し春日村を設く。

シモノショー　下庄　三重縣鈴鹿郡靈生村の大字。省線參宮線の下庄驛（明治二十四年設置）を置く。

シモノセキ　下關　〔下關市〕山口縣（長門國）六市の一。縣の西南端に位し、東南西の三面は海を繞らし、東北は王司村・豊山村に、北は内日村・吉見村に界し、南は下關海峽を距てて福岡縣の門司市・小倉市に相對し三市恰も鼎立の狀をなす。面積七〇・六九方粁。南部には小丘陵起伏し平地は西北部海岸にあり。丘陵は大字長府町より壇之浦を經て日和山に至るまで海岸に沿うて連り、市街地にも丘阜あり。南部丘陵地帶の市街地と西北部平地の農村とに區分さる。なほ西南海上に彦島、その西北方に六連島あり。市内は平地少く丘陵到る處に起伏するを以て用地の不足を補ふため、之を切崩し沿岸埋立をなし、更に近郊町村を合併す。なほ下關港は彦島との間に設けられ漁港と商港を分ちて設計し其施設の完備を誇る。氣候溫和にして平均氣溫も一四・四度、最高は八月十二日の三二・三度、最低は零下八度を示し年降水量は一五四九・五粍なり。昭和十一年。產業は近年急速なる發展を遂げ生產總額約四千萬圓に垂んとす。產額は工產最も多く約二千九百萬圓を生產し次いで水產約一千萬圓、農產四十五萬圓等あり。然し水產業、特にトロール漁業その他の遠洋漁業の根據地として、且つ位置が西日本漁場の中央を占むる爲に水產物の集散は全國第一たり。水產業者について見れば漁撈關係者は、業主本業四九九人、副業三六七人、被傭者本業四五四九人、副業二〇人、製造關係者は業主本業七六人、副業二九人、被傭者本業二五四人、副業四五〇人、養殖業主九二人なり。漁船は動力を有せざるもの四二五、蒸氣機關を有するもの一八、發動機を有するもの八二六にて發動機船その大部分を占めまた百噸以上のもの一七を算ふ。生產總額は約千百萬圓にて其うち沿岸漁獲高は約二三萬圓、遠洋漁獲高は約九百萬圓水產製造高は約百十萬圓にして八〇%は遠洋漁獲高なり。漁獲物は主として石首魚・鰯・鮃・鰹・鯵・鯖・鮪・太刀魚・河豚等にして水產製造物には蒲鉾・竹輪・鹽藏物・鹽乾・雲丹・素乾等あり。然して漁獲物は全國に送られ漁船にて直接需要地に出され、或はまた鐵道にて輸送せられるものも多く、輸送主要驛を擧ぐれば次表の如し。なほ水產業發展のためにはよりよき漁港の施設とは不可分の關係にありて、近時彦島に好漁港を設けしを以てその將來性はますます大となる。これに伴ひ漁網製造業と製氷業にまた本市の主要工產物となり、製氷の九二%までは漁業用となり一般需要の夏季も十乃至十一月の漁期の需要に及ばず。工業は我國四大工業地域の一なる北九州とは僅に狹水道を距てるのみなるを以て其隣接刺戟により漸次工業地域化しつつあり、特に最も近き彦島は近代的工業地區を形成す。五人以上使用する工場は中央地區（舊市内）にて一一六、彦島地區四四、長府地區一〇なるもその生產額の百分比は中央地區三二%・彦島地區六〇%・長府地區八%となり生產額にては彦島地區は約千五百萬圓にて多し。生產種別は機械器具工業（一九%）・化學工業（一九%）・食料品工業（一五%）・金屬工業（一〇%）・瓦斯及び電氣業（六%）等を主とし、主要工產物は漁網及び製網（約六百萬圓）・製造肥料（約四百萬圓）・工業用藥品（約二百萬圓）・造船（約二百萬圓）・鑄物鐵工業（約二百萬圓）・瓦斯及び電氣（約百十七萬圓）等あり。農業は農家及び耕地の漸減に伴ひ、生產額は多大ならざるも近代的經營により蔬菜・花卉・メロン等の名は夙に知られ、溫室經營も次第に增加しつつあり。然し最近西北部の川中村・安岡町の農村を合併せしが以て來季その他食用農產物の生產を增加す。地理的位置の良好及び各種產業の發達と相俟ち商業取引活潑に行はれ、早くより馬關の名を以て世に知られしは商取引の盛なりしによる。然し下關港は潮流の關係上繫船に困難を來す時ありて對岸の門司にその繁榮を奪はれしも、商港の改修により回春を示しつつあり。内地商業乃至地方商業は盛にして商業人口は職業別人口中最大を占め、下關營業倉庫・米取引所ありて穀物・水產物等の取引大なり。沿岸貿易は移出約三億圓、移入約二億九千萬圓外國貿易は輸出約二千萬圓、輸入約二千萬圓を示し輸移入出とも累年增加しつつあり。外國貿易品のうち輸出のおなるものは鐵物及び同製品（約四百二十萬圓）・油脂類及び同製品（約三百萬圓）・飲食物及び煙草（約二百八十萬圓）・金屬（約二百萬圓）布帛及び同製品（約百七十萬圓）・藥劑化學藥（約百六十萬圓）・穀物穀粉及び種子（約四六萬圓）、輸入は布

着驛	車數	總數	着驛	車數	總數
大阪市場	2854	27563	沼津田港	51	294
汐留	1274	11942	梅戸江場	34	350
丹波市	1369	12523	神戸市	3	30
熱田	1244	11779	松京市	43	368
神戸市	1144	10815	東古屋	517	4770
靜岡	706	6509	幾名東	46	406
福岡市	616	5779	名本	70	614
富山	564	5038	長田	281	2804
濱松	483	4261	熊牟	341	3177
会津	113	1022	大郡	156	1353
小倉田	138	1233	鹿兒	187	1731
福山内	88	791	宮	167	1424
山口	196	1821	鹿	274	2389
山口	89	751	其	29	256
山口	120	1072	他	42	387
山口	65	569	計	845	8140
山口	130	1174		14259	133182

日、市名を下關市と改称し、同三十八年
九月關東廳の定める國幣社となる。祭神は
神功皇后・應神天皇・比賣大神の三柱。其の後社殿の
造営すること數度、大正十年二月十日最後の遷
座を行ひ、大正十年二月十日最後の遷
座を行ひ、大正十年二月十日最後の遷
座を行ひ